６．生　　物

6.生物

6.1評価の進め方

6.1.1評価方針

(1) 評価の方針

「6.生物」では、ダム湖及びその周辺における生物調査結果をもとに、生物の生息・生育状況の変化を把握し、ダムによる影響の検証を行う。さらにその検証結果について、評価の視点を定めて評価を行い、今後の方針を整理する。

(2) 評価期間

天ヶ瀬ダム及びその周辺における河川水辺の国勢調査は平成2年(1990年)度から開始され、3巡目までの調査が完了し、平成18年(2006年)度より4巡目に入っている。また、その他の生物調査として、天ヶ瀬ダム湖生物調査（底生動物、動植物プランクトン、付着生物）が昭和50年(1975年)度から、天ヶ瀬ダムカワヒバリガイ調査が平成7年(1995年)度に、魚類遡上・降下影響調査が平成16～17年(2004～2005年)度に実施されている。

したがって、生物における評価期間は生物データの存在状況を勘案し、昭和50年(1975年)度から平成21年(2009年)度の傾向を踏まえた上で、平成18年(2006年)度から平成21年(2009年)度を対象とする。

(3) 評価範囲

生物の評価範囲は、貯水池流入地点(本川:鹿跳橋)からダム直下流(白虹橋付近)及びダム湖周辺約500mの範囲とする。一部、魚類についてはさらに下流の隠元橋付近までを対象とする。

6.1.2評価手順

生物に関する評価を以下の手順で検討するものとする。

(1) 資料の収集・整理

天ヶ瀬ダムで実施された河川水辺の国勢調査等の既存の生物調査報告書、評価に必要な生物調査以外の資料(流況、水質等)を収集し、整理する。

(2) ダム湖及びその周辺の環境の把握

(1)で収集した資料から、淀川水系の自然環境の特徴並びにダム湖及びその周辺で確認された生物の特徴を整理する。

(3) 生物の生息・生育状況の変化の検証

天ヶ瀬ダムによる影響を受けると考えられる場所(ダム湖内、流入河川、下流河川、ダム湖周辺)及び連続性の観点から環境の状況と生物の生息・生育状況を経年的に比較し、変化の状況を把握する。

比較の結果、生物の生息・生育状況に変化がみられた場合には、それがダムによる環境変化なのか、あるいはその他の環境変化によるものなのかの観点から変化要因の検討を行い、ダムとの関連を検証する。

また、重要種の生息・生育状況の変化についても整理し、生息・生育状況に変化がみられた場合は、ダムによる影響について検証する。

(4) 生物の生息・生育状況の変化の評価

(3)における検証結果について、評価の視点を定めて評価を行い、今後の方針を検討する。

(5) まとめ

これまでの検討結果より、天ヶ瀬ダム湖及びその周辺の環境について、今後の方針をとりまとめる。

(6) 文献リストの作成

使用した文献等のリストを作成する。

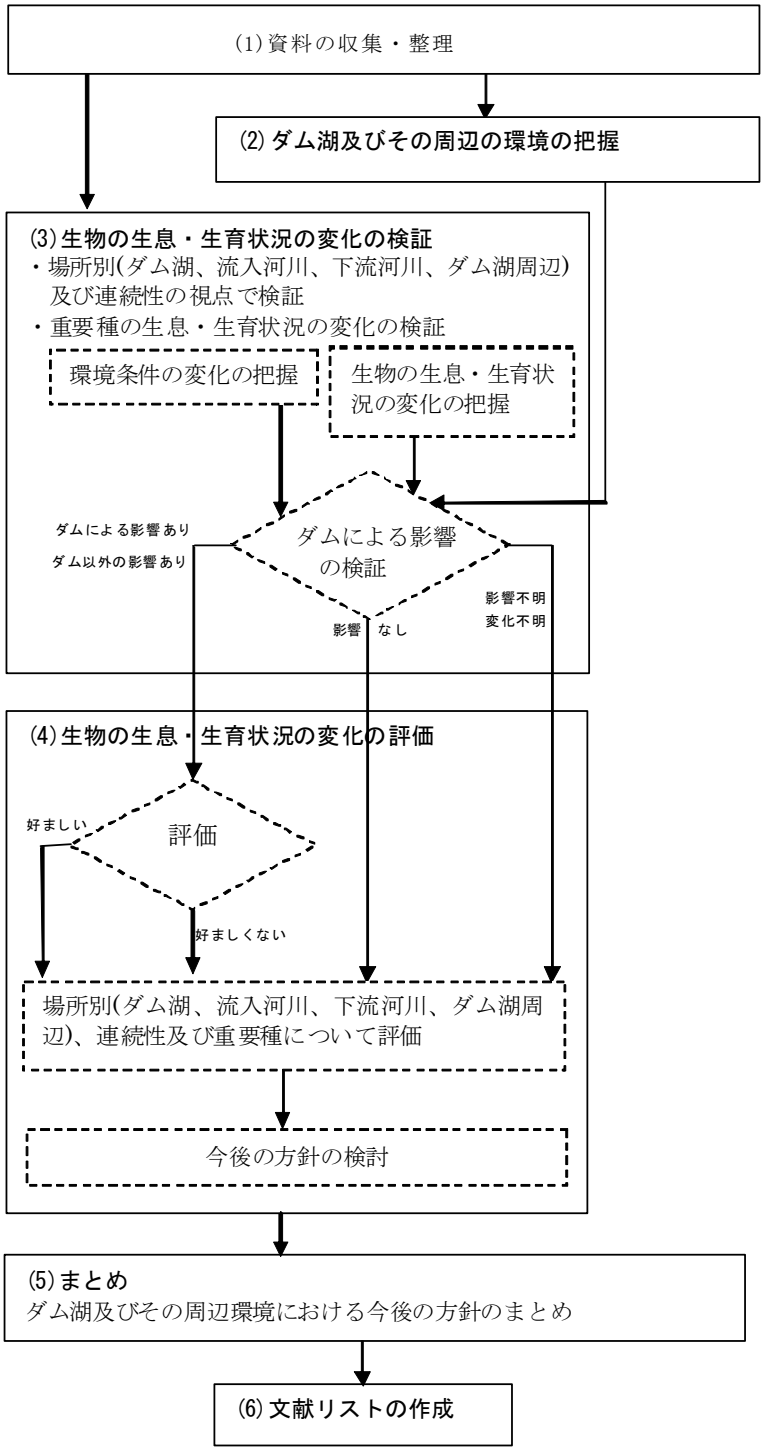


図 6.1-1　天ヶ瀬ダムの生物に関する定期報告の検討手順

6.1.3生物にかかわる天ヶ瀬ダムの特徴

天ケ瀬ダムは淀川の本川である宇治川に位置する多目的ダムであり、その生物にかかる特徴は以下のとおりである。

■ 上流に琵琶湖が位置しているダム

天ヶ瀬ダムは、その上流に日本最大の淡水湖である琵琶湖を抱えていることが特徴として挙げられる。琵琶湖は、約 400 万年前にできたといわれる世界でも有数の古代湖であり、ビワコオオナマズ、ビワマス、セタシジミ等の 50 種を超える固有種をはじめ、1,000 種以上の生物が生息・生育・繁殖している。特に沿岸帯は生物相が豊かであり、水際にはヨシ等の抽水性植物の群落形成が見られ、コイ、フナ類をはじめ、多くの魚類の生息や産卵・成育の場となっている。そのため、天ヶ瀬ダムの上下流には琵琶湖・淀川水系に固有な生物が多く生息している。

また、淀川水系では、上流に琵琶湖が存在することから国内の他の河川と比較して年間を通じて流況が安定しており、大規模な渇水、洪水が生じにくいことが挙げられる。このような自然的特徴も淀川水系固有の自然環境の形成の大きな要因になっていると考えられる。



図 6.1-2　天ヶ瀬ダム流域図

■ 外来種が侵入しやすい環境

上流琵琶湖からの流下、貯水池や湖岸に沿った道路ができたことによる林縁部の出現や林内の明るさの変化、人の利用の増加など、外来種が入りやすい条件にあり、現状で多くの外来種が定着している。

■ 河川環境の分断

天ヶ瀬ダム完成前からあった大峰堰堤には魚道が設置されていたが、天ヶ瀬ダム完成後は魚類の遡上・降下が阻害されている。遡上・降下が阻害されるようになってすでに 50 年近く経過し、現状では、外来種や病原体の問題などその後の上下流の状況変化があり、遡上・降下ができるようになった場合には新たな問題が発生する懸念もある。

■ 周辺はアカマツ、コナラ等の二次林、スギ・ヒノキ植林が主体

天ヶ瀬ダム周辺は、琵琶湖国定公園内に位置しており、照葉樹林帯に属している。天ヶ瀬ダム湖(鳳凰湖)に面する山地斜面は急峻で、ダム湖に注ぐ小さい支渓を多く伴っている。ダム湖に面する斜面の植生は、アカマツ、コナラ等の二次林、スギやヒノキの植林が主体となっている。天ヶ瀬ダム湖へは、田原川、曽束川、信楽川等の支川が流入している。滋賀県大津市大石曽束と大石淀付近は地形的に開け、水辺にはヤナギ林や湿性草地がみられる。大石淀には水田等の耕作地や住宅地などがみられる。

6.2資料の収集・整理

6.2.1生物調査実施状況の整理

天ヶ瀬ダムにおける河川水辺の国勢調査は平成 2 年度から開始され、3 巡目までの調査が完了し、平成 18 年度より 4 巡目に入っている。 また、その他の生物調査として、天ヶ瀬ダム湖生物調査（底 生動物、動植物プランクトン、付着生物）が昭和 50 年度から、カワヒバリガイ調査が平成 7 年度に、ナカセコカワニナ調査が平成 16 年度に、魚類遡上・降下影響調査が平成 16～17 年度に実施されている。

なお、平成 18 年(2006 年)度には、調査マニュアルが改訂された。調査マニュアルの改訂では、水系全体を通じた各生物の生息・生育状況の把握・評価や、魚類と底生動物、植物と陸上昆虫類等といった生態学的な関連性を踏まえた調査時期を設定することが必要であるため、調査項目、頻度、方法等の見直しが行われた。

表 6.2-1 河川水辺の国勢調査［ダム湖版］の改訂内容(平成 18 年度)

生物項目	改訂前（平成17年度以前）		改訂後（平成18年度以降）		
魚類	年2～3回以上	5年に1回	2回以上(春から秋)		5年に1回
底生動物	3回以上(早春、夏、冬を含む)	5年に1回	2回以上(冬～早春、初夏～夏)		5年に1回
動植物ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ	4回(四季)	5年に1回	2回以上(春、夏)		5年に1回
植 物 (基図作成調査含む)	2回以上(春季と秋季を含む)	5年に1回	2回以上(春季と秋季を含む)	基図(植生図、群落組成、植生断面)	5年に1回
				植物相	10年に1回
鳥 類	年5回(春の渡り、繁殖期(前・後期)、秋の渡り、越冬期)	5年に1回	2回以上(繁殖期、越冬期)		10年に1回
両生類・爬虫類・哺乳類	両生類・爬虫類 3回程度(春から秋) 哺乳類 4回程度(四季)	5年に1回	両生類 3回以上(早春から秋) 爬虫類・哺乳類 3回以上(春から秋)		10年に1回
陸上昆虫類等	3回以上(春、夏、秋を含む)	5年に1回	3回以上(春、夏、秋を含む)		10年に1回

※主な変更点を赤字で示す。

また、平成 18 年度から水系ごとに全体調査計画を作成し、それに基づき調査が実施されている。淀川水系全体調査計画における調査スケジュールを表 6.2-2に示す。

表 6.2-2 淀川水系全体調査計画(天ヶ瀬ダム関連)

水系名	河川名・ダム名	担当事務所	管理区間(km)	調査年スケジュール 4巡目									
				H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
淀川	宇治川	淀川河川事務所	37.0～53.0km	鳥類	魚類	底生	植物	基図	両爬哺	魚類	底生	昆虫	基図
	天ヶ瀬ダム	淀川ダム統合管理事務所		鳥類ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ	魚類	底生	植物	基図	両爬哺	魚類	底生	昆虫ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ	基図
	瀬田川	琵琶湖河川事務所	67.0～75.0km	鳥類	魚類	底生	植物	基図	両生	魚類	底生	昆虫	基図

※平成 21 年度の植物調査は、植物相調査のみであるため、平成 22 年度に実施されたダム湖環境基図作成調査結果(植生図作成、群落組成調査等)もあわせて整理した。

ここでは、天ヶ瀬ダムで実施された河川水辺の国勢調査の他に、天ヶ瀬ダム周辺を含めた調査報告書について整理した(表 6.2-3)。なお、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2010 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類及び陸上昆虫類の調査は実施していない。

表 6.2-3(1)　生物調査実施状況（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査件名	調査区分	調査目的	魚類	底生動物	動植物プランクトン	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類	その他（付着生物）
昭和50年度～平成5年度(1975年度～1993年度)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成2年度(1990年度)	1	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	国勢調査	生息実態の把握	○							
平成3年度(1991年度)	1’	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	国勢調査	生息実態の把握	○							
平成6年度(1994年度)	2	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	国勢調査	生息実態の把握	○							
	3	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成7年度(1995年度)	4	河川水辺の国勢調査による植物調査	国勢調査	生育実態の把握				○				
	5	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	国勢調査	生息実態の把握					○			
	6	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	国勢調査	生息実態の把握						○		
	7	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫調査	国勢調査	生息実態の把握							○	
	8	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成8年度(1996年度)	9	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	国勢調査	生息状況の把握	○							
	10	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成9年度(1997年度)	11	河川水辺の国勢調査による植物調査	国勢調査	生育状況の把握				○				
	12	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成10年度(1998年度)	13	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	国勢調査	生息状況の把握					○			
	14	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○

表 6.2-3 (2) 生物調査実施状況（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査件名	調査区分	調査目的	魚類	底生動物	動植物プランクトン	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	その他（付着生物）
平成11年度(1999年度)	15	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫調査	国勢調査	生息実態の把握							○	
	16	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成12年度(2000年度)	17	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	国勢調査	生息実態の把握						○		
	18	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成13年度(2001年度)	19	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	国勢調査	生息状況の把握	○							
	20	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成14年度(2002年度)	21	河川水辺の国勢調査による植物調査	国勢調査	生育状況の把握				○				
	22	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成15年度(2003年度)	23	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	国勢調査	生息状況の把握					○			
	24	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成16年度(2004年度)	25	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫類等調査	国勢調査	生息状況の把握							○	
	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成17年度(2005年度)	27	河川水辺の国勢調査による哺乳類他調査	国勢調査	生息状況の把握						○		
	28	天ヶ瀬ダム湖生物調査	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料		○	○					○
平成18年度(2006年度)	29	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	国勢調査	生息状況の把握					○			
	30	天ヶ瀬ダム湖生物調査業務	その他の調査	水質管理・富栄養化防止対策の基礎資料			○					○
平成19年度(2007年度)	31	河川水辺の国勢調査による魚類調査	国勢調査	生息状況の把握	○							
	32	天ヶ瀬ダム湖生物調査業務	その他の調査	生息・生育状況の把握			○					○
平成20年度(2008年度)	33	河川水辺の国勢調査による底生動物調査	国勢調査	生息状況の把握		○						
	34	天ヶ瀬ダム富栄養化調査検討業務	その他の調査	水質管理・富栄養化対策の基礎資料・水質管理のあり方の検討			※					○

※平成 20 年(2008 年)度は植物プランクトンのみ調査を実施

表 6.2-3 (3) 生物調査実施状況（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査件名	調査区分	調査目的	魚類	底生動物	動植物プランクトン	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	その他（付着生物）
平成21年度(2009年度)	35	河川水辺の国勢調査による植物調査	国勢調査	生育実態の把握				○				
	36	天ヶ瀬ダム上下流河床状況調査	その他の調査	天ケ瀬ダム上下流における河川測量、河床材料、底生生物調査		○						
	37	水質調査	その他の調査	ダム湖内における水質調査			※1					
平成22年度(2010年度)	38	河川水辺の国勢調査によるダム湖環境基図作成調査	国勢調査	植生、河川環境、構造物等の実態の把握				※2				

※1：平成 21 年(2009 年)度は植物プランクトンのみ調査を実施

※2：平成 21 年度の植物調査は、相調査のみであるため、平成 22 年度に実施されたダム湖環境基図作成調査(植生図作成調査、群落組成調査、植生断面調査等)もあわせて整理した。

表 6.2-3 (4) 生物調査実施状況(下流河川：隠元橋)

年度	調査番号	調査件名	調査区分	調査目的
平成2年度(1990年)	A	平成2年度淀川魚介類調査業務報告書	その他の調査	生息実態の把握
平成6～7年度(1994～5年)	B	平成7年度 淀川水系(淀川・桂川・木津川)魚介類調査 報告書	国勢調査	生息実態の把握
平成11年度(1999年)	C	平成11年度 淀川水系(淀川・宇治川・桂川・木津川)魚介類調査 報告書	国勢調査	生息実態の把握
平成16年度(2004年)	D	平成16年度 淀川河川水辺の国勢調査等(魚類・底生生物)業務 報告書	国勢調査	生息実態の把握
平成19年度(2007年)	E	平成19年度 淀川河川水辺の国勢調査(魚類)業務 報告書	国勢調査	生息実態及び遡上実態等の把握
平成20年度(2008年)	F	平成20年度 淀川河川水辺の国勢調査(底生動物)業務 報告書	国勢調査	生息実態の把握

6.2.2各生物の調査実施状況

表 6.2-3に示す資料を用いて、各生物について調査実施状況の整理を行った。

(1)魚類調査

魚類調査の調査内容を表 6.2-4に、調査努力量を表 6.2-6に、調査位置を図 6.2-1に示す。

平成 2 年(1990 年)度は秋季にダム湖内、流入河川、ダム直下流で、平成 6 年(1994 年)度、平成 8 年(1996 年)度及び平成 13 年(2001 年)度は春季及び秋季に、ダム湖内 3 地点及び流入河川 3 地点において、平成 19 年(2007 年)度は春季及び秋季に、ダム湖内 5 地点及び流入河川 4 地点、下流河川 1 地点において、刺網、投網、タモ網、はえなわ等を用いた調査を実施した。

なお、調査地点の設定については、ダム湖及び流入河川の多様な環境を反映できるように配慮して行った。魚類調査の調査地点設定根拠を表 6.2-5に示す。

また、天ヶ瀬ダムから約 5km 下流の隠元橋においては、平成 2 年(1990 年)度、平成 6～7 年(1994～1995 年)度、平成 11 年(1999 年)度、平成 16 年(2004 年)度及び平成 19 年(2007 年)度に、刺網、投網、タモ網等を用いた調査が実施されている。

表 6.2-4(1)　魚類調査実施状況（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
平成2年度(1990年)	1	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	湖内	st.2			10月		st.1,2,3:刺網・投網・タモ網・潜水調査・その他
			流入河川	st.3					
			ダム直下流	st.1					
平成6年度(1994年)	2	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	湖内	st.1,2	6月		9月		st.1,2：刺網・投網・タモ網・はえなわ・その他 st.3：刺網・はえなわ・その他 st.4,5,6：投網・タモ網・潜水観察・その他
			流入部	st.3,4					
			流入河川	st.5,6					
平成8年度(1996年)	9	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	湖内	st.1,2	6・7月		9月		st.1,2,3：刺網・投網・タモ網・はえなわ・その他 st.4,5,6：投網・タモ網・潜水観察・その他
			流入部	st.3,4					
			流入河川	st.5,6					
平成13年度(2001年)	19	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	湖内	st.1,2	5月		10月		st.1,2,3：刺網・投網・タモ網・はえなわ・潜水観察・その他(底層) st.4,5,6：投網・タモ網・潜水観察・その他
			流入部	st.3,4					
			流入河川	st.5,6					
平成19年度(2007年)	31	河川水辺の国勢調査による魚類調査	下流河川	淀天淀1	6月		10月		淀天淀1,7,8,9,10：投網、タモ網、どう、カゴ網、潜水観察 淀天淀2,3,4,5,6：投網、タモ網、刺網、はえなわ、どう、カゴ網、潜水観察
			ダム湖	淀天淀2,3,4,5,6					
			流入河川	淀天淀7,8,9,10					

表 6.2-4(2)　魚類調査実施状況(下流河川：隠元橋)

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
平成2年度(1990年)	A	淀川魚介類調査業務	下流河川	隠元橋				12月	刺網・投網・タモ網・その他
平成6～7年度(1994～5年)	B	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	下流河川	隠元橋	6月		9月		刺網・投網・タモ網
平成11年度(1999年)	C	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	下流河川	隠元橋	6月		10月		刺網・投網・タモ網
平成16年度(2004年)	D	河川水辺の国勢調査による魚介類調査	下流河川	隠元橋	6月		11月		刺網・投網・タモ網
平成19年度(2007年)	E	河川水辺の国勢調査による魚類調査	下流河川	隠元橋	5月		10月		刺網・投網・タモ網・その他

※下流河川の調査結果については、天ヶ瀬ダム直近の隠元橋の結果を利用した。

表 6.2-5(1)　魚類調査地点設定根拠（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査地点		調査地点設定根拠
平成2年度(1990年)	1	湖内	st.2	宵待橋地点。左岸側から田原川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		流入河川	st.3	大石地点。調査地点の左岸側からは大石川が合流し、その上流には信楽川が合流しており、魚類の種類が多いと考えられる。
		ダム直下流	st.1	志津川地点(白虹橋付近)。天ヶ瀬ダム直下流に位置しており、ダム運用による下流側への影響が顕著と考えられる。
平成6年度(1994年)	2	湖内	st.1	田原川合流点。左岸側から田原川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		曽束川合流点湖岸	st.2	曽束川合流点。左岸側から曽束川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		湖内 ダム湖流入部	st.3	主要流入河川である瀬田川の流入部である。
		流入河川 ダム湖流入部	st.4	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 大石川	st.5	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 信楽川	st.6	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
平成8年度(1996年)	9	湖内	st.1	田原川合流点。左岸側から田原川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		曽束川合流点湖岸	st.2	曽束川合流点。左岸側から曽束川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		湖内 ダム湖流入部	st.3	主要流入河川である瀬田川の流入部である。
		流入河川 ダム湖流入部	st.4	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 大石川	st.5	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 信楽川	st.6	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。

表 6.2-5(2)　魚類調査地点設定根拠（天ヶ瀬ダム）

年度	調査番号	調査地点		調査地点設定根拠
平成13年度(2001年)	19	湖内	st.1	田原川合流点。左岸側から田原川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		曽束川合流点湖岸	st.2	曽束川合流点。左岸側から曽束川が合流し、魚類の種類が多いと考えられる。
		湖内 ダム湖流入部	st.3	主要流入河川である瀬田川の流入部である。
		流入河川 ダム湖流入部	st.4	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 大石川	st.5	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
		流入河川 信楽川	st.6	天ヶ瀬ダム湖の主要流入河川である。
平成19年度(2007年)	31	下流河川 白虹橋	淀天淀1	濁りの拡散、流況変化による環境の変化等ダム運用による下流側への影響を監視するため。
		ダム湖 大峰橋上流湖岸	淀天淀2	既往調査地点のSt.2を継続設定した。また、天ヶ瀬ダムは上下流に長いため大峰橋上流にも調査地区を設定することが望ましい。
		ダム湖 曽束大橋上流湖岸	淀天淀3 (st.2)	
		ダム湖 田原川流入部	淀天淀4 (st.1)	既往調査地点St.1、St.3を継続設定し、曽束川流入部を新たに調査地区とした。主要流入河川は瀬田川であるが、水生生物の多様な生息環境を考慮すると、曽束川流入部にも調査地区を設定することが望ましい。
		ダム湖 曽束川流入部	淀天淀5	
		ダム湖 瀬田川流入部	淀天淀6 (st.3)	
		流入河川 田原川	淀天淀7	既往調査地点のSt.4、St.5、St.6を継続設定し、流入河川田原川を新たに調査地区とした。
		流入河川 大石川	淀天淀8 (st.5)	
		流入河川 信楽川	淀天淀9 (st.6)	
		流入河川 瀬田川	淀天淀10 (st.4)	

表 6.2-5(3)　魚類調査地点設定根拠（下流河川：隠元橋）

年度	調査地点	調査地点設定根拠
平成2年度(1990年)	下流河 隠元橋	淀川河川水辺の国勢調査における調査地点のうち、最も天ヶ瀬ダムに近いものを用いた。
平成6～7年度(1994～5年)		
平成11年度(1999年)		
平成16年度(2004年)		
平成19年度(2007年)		

表 6.2-6(1)　魚類調査における調査努力量（天ヶ瀬ダム）

調査方法	st.1 湖内 田原川合流点							淀天淀4 田原川流入部	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	―	210m	300m	210m	300m	210m	300m	―	60m
刺網(目合50mm)	60m※1	250m	200m	250m	200m	250m	200m	―	30m
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	150m	60m
投網(目合12mm)	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10
投網(目合18mm)	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:10
タモ網(目合2mm)	詳細不明	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	45分×3人	40分×2人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	30分×1人	30分×1人
潜水観察	詳細不明	―	―	―	―	30分×1人	30分×1人	60分×1人	30分×2人
はえなわ	―	50針	50針	50針	50針	50針	50針	25針	25針
その他調査	セルビン	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	カニ篭	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	しば漬け	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

調査方法	st.2 湖内 曽束川合流点							淀天淀3 曽束大橋上流湖岸	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	―	270m	240m	270m、150m	240m、90m	300m	270m	―	60m
刺網(目合50mm)	―	190m	210m	190m、0.9m	210m	200m	190m	―	30m
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	150m	60m
投網(目合12mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10
投網(目合18mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:10
タモ網(目合2mm)	―	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	40分×2人	30分×3人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	40分×1人	30分×1人
潜水観察	―	―	―	―	―	30分×1人	30分×1人	60分×1人	30分×2人
はえなわ	―	50針	50針	50針	50針	50針	50針	25針	25針
その他調査	―	―	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	―	―	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	―	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

調査方法	st.3 湖内 ダム湖流入部							淀天淀6 瀬田川流入部	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	―	150m	210m	150m	210m	150m	210m	―	30m
刺網(目合50mm)	―	150m	90m	150m	90m	150m	90m	―	30m
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	150m	90m
投網(目合12mm)	―	―	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10
投網(目合18mm)	―	―	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:10
タモ網(目合2mm)	―	―	―	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×2人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	40分×1人	30分×1人
潜水観察	―	―	―	―	―	30分×1人	40分×1人	60分×1人	30分×2人
はえなわ	―	50針	50針	50針	50針	50針	50針	25針	25針
その他調査	―	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	―	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	―	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

調査方法	st.4 流入河川 ダム湖流入部							淀天淀10 瀬田川	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	―	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合50mm)	―	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	―	―
投網(目合12mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:19	打数:11
投網(目合18mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:11
タモ網(目合2mm)	―	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	40分×3人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	10分×2人 40分×1人 15分×2人	30分×1人 20分×4人
潜水観察	―	―	―	20分×1人	20分×1人	30分×1人	30分×1人	60分×1人	30分×2人
はえなわ	―	―	―	―	―	―	―	―	―
その他調査	―	―	―	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	―	―	―	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	―	―	―	―	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	―	―	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

※1　平成2年度調査の刺網の目合は12mmを15mmの欄、60mmを50mmの欄に示した。
※2　三枚網(内網18mm、外網300mm)の刺網である。(その他は、一枚網)

表 6.2-6(2)　魚類調査における調査努力量（天ヶ瀬ダム）

調査方法	st.5 流入河川 大石川							淀天淀8 大石川	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	21.5m※1	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合50mm)	60m※1	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	―	―
投網(目合12mm)	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:18	打数:11
投網(目合18mm)	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:10
タモ網(目合2mm)	詳細不明	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×2人	40分×2人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	30分×2人 20分×2人	30分×3人
潜水観察	詳細不明	20分×1人	20分×1人	20分×1人	20分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	20分×1人 30分×1人 10分×1人
はえなわ	―	―	―	―	―	―	―	―	―
その他調査	セルビン	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	カニ篭	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	しば漬け	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

調査方法	st.6 流入河川 信楽川							淀天淀9 信楽川	
	平成2年	平成6年		平成8年		平成13年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	―	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合50mm)	―	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網(目合18mm、300mm)※2	―	―	―	―	―	―	―	―	―
投網(目合12mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:20	打数:18
投網(目合18mm)	―	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	―	打数:2
タモ網(目合2mm)	―	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×3人	30分×2人	40分×2人	―	―
タモ網(目合1mm)	―	―	―	―	―	―	―	10分×3人 20分×3人	30分×1人 20分×3人
潜水観察	―	20分×1人	20分×1人	20分×1人	20分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	20分×3人
はえなわ	―	―	―	―	―	―	―	―	―
その他調査	―	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	魚カゴ(小)	どう	どう
	―	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	魚カゴ(大)	カゴ網	カゴ網
	―	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	カニカゴ	―	―
	―	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	うなぎつつ	―	―

調査方法	淀天淀1 下流河川 白虹橋			淀天淀2 ダム湖 大峰橋上流湖岸		淀天淀5 ダム湖 曽束川流入部		淀天淀7 流入河川 田原川	
	平成2年	平成19年		平成19年		平成19年		平成19年	
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
刺網(目合15mm)	21.5m※1	―	―	―	30m	―	30m	―	―
刺網(目合50mm)	30m※1	―	―	―	30m	―	30m	―	―
刺網(目合18mm、300mm)※2		―	―	150m	90m	150m	90m	―	―
投網(目合12mm)	打数:10	打数:20	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:10	打数:2	打数:10
投網(目合18mm)	打数:10	―	打数:10	―	打数:10	―	打数:10	打数:20	打数:10
タモ網(目合2mm)	詳細不明	―	―	―	―	―	―	―	―
タモ網(目合1mm)	詳細不明	20分×4人	20分×6人	30分×1人	30分×1人	30分×2人	30分×1人	50分×2人	30分×1人 15分×2人
潜水観察	詳細不明	30分×2人	30分×2人	60分×1人	30分×2人	60分×1人	30分×2人	30分×1人	30分×2人
はえなわ	―	25針	―	25針	25針	25針	25針	―	―
その他調査	セルビン	どう	どう	どう	どう	どう	どう	どう	どう
	カニ篭	カゴ網	カゴ網	カゴ網	カゴ網	カゴ網	カゴ網	カゴ網	カゴ網
	しば漬け	―	―	―	―	―	―	―	―
	―	―	―	―	―	―	―	―	―

※1　平成2年度調査の刺網の目合は12mmを15mmの欄、60mmを50mmの欄に示した。
※2　三枚網(内網18mm、外網300mm)の刺網である。(その他は、一枚網)

表 6.2-6(3)　魚類調査における調査努力量（下流河川：隠元橋）

平成2年	
隠元橋	
冬	
調査箇所	方法
詳細不明	刺網(詳細不明) 投網(詳細不明) タモ網(詳細不明) その他(詳細不明)

平成6年		平成7年	
隠元橋			
秋		春	
調査箇所	調査方法	調査箇所	調査方法
詳細不明	投網 目合18mm 10回	詳細不明	投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合18mm 10回		投網 目合18mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	投網 目合12mm 10回		投網 目合12mm 10回
	網径30cm30分×2人		網径30cm20分×3人
			刺網 目合50･16

平成11年			
隠元橋			
春		秋	
調査箇所	調査方法	調査箇所	調査方法
M型	刺網 長さ20m 4張り	瀬不明	投網 目合18mm 5回
瀬不明	投網 目合18mm 10回		投網 目合12mm 5回
	投網 目合12mm 10回		タモ網 網径35cm30分×2人
	タモ網 網径35cm60分×2人	M型	刺網 長さ20m 2張り
			投網 目合18mm 2回
			投網 目合12mm 2回
			タモ網 網径35cm30分×2人
		瀬不明	刺網 長さ20m 2張り
			投網 目合18mm 3回
			投網 目合12mm 3回
			タモ網 網径35cm30分×2人

表 6.2-6(4)　魚類調査における調査努力量（下流河川：隠元橋）

平成16年			
隠元橋			
春		秋	
調査箇所	調査方法	調査箇所	調査方法
砂、ワンド	投網(12mm) 2回	礫、M型	投網(18mm) 16回
	タモ網 10分×3人		投網(12mm) 15回
礫、早瀬	投網(18mm) 2回		タモ網 45分×2人
	投網(12mm) 5回	砂、M型	刺網 1張り
	タモ網 15分×3人		投網(18mm) 14回
砂、平瀬	投網(18mm) 6回		投網(12mm) 16回
	投網(12mm) 6回		タモ網 30分×2人
	タモ網 20分×3人	礫、平瀬	投網(18mm) 8回
砂、M型	投網(18mm) 10回		投網(12mm) 9回
	投網(12mm) 6回		タモ網 25分×3人
	タモ網 20分×2人		
	刺網 1張り		
砂、平瀬	投網(18mm) 8回		
	投網(12mm) 5回		
	タモ網 25分×3人		

平成19年			
隠元橋			
春		秋	
調査箇所	調査方法	調査箇所	調査方法
ワンド・たまり	投網(12mm)10回	ワンド・たまり	投網(12mm)10回
	投網(18mm)10回		投網(18mm)10回
	タモ網		セルびん 2個×2時間
	刺網 長さ15m×1張り 2時間		刺網 長さ15m×1張り 16時間
	刺網 長さ30m×1張り 2時間		刺網 長さ30m×1張り 16時間
	セルびん 2個×2時間	平瀬	投網(12mm)10回
平瀬	投網(12mm)15回		投網(18mm)10回
	投網(18mm)10回		タモ網 2時間
	タモ網 2時間	淵	投網(12mm)10回
	カゴ網 1個×3時間		投網(18mm)10回
淵	投網(12mm)10回		タモ網
	投網(18mm)10回		定置網 16時間
	タモ網 2時間		はえなわ 16時間
	定置網 16.5時間		セルびん 2個×2時間
	はえなわ 針10本×16.5時間		カゴ網 1個×2時間
	セルびん 2個×3時間	早瀬	投網(12mm)10回
早瀬	投網(12mm)15回		投網(18mm)10回
	投網(18mm)15回		タモ網 2時間
	タモ網 2時間		
	サデ網 1時間		

出典：6-1～6-5、6-21～6-25

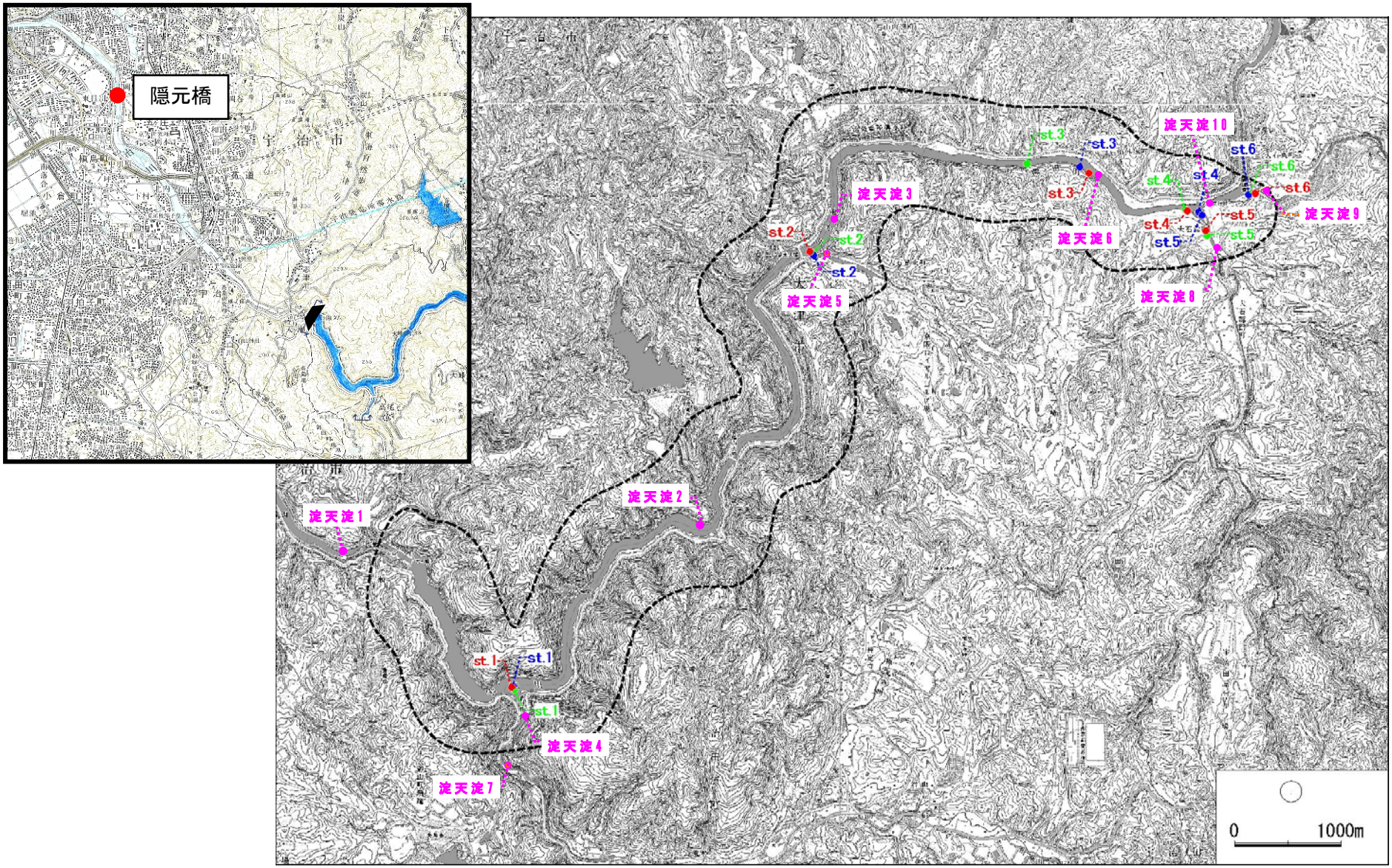


図 6.2-1　魚類調査地点（天ヶ瀬ダム）

出典：6-2～6-5

(2)底生動物

底生動物調査の調査内容を表 6.2-7に、調査位置を図 6.2-2に示す。

昭和 57 年(1982 年)度～平成 17 年(2005 年)度の 24 年間、春、夏、秋、冬季の 4 季に下流河川 1 地点、ダム湖内 2 地点、流入河川 1 地点において、平成 20 年(2008 年)度は夏、冬季の 2 季に下流河川 1 地点、ダム湖内 7 地点、流入河川 4 地点において、平方枠、エクマン・バージ式採泥器及びタモ網を用いた調査を実施した。

なお、調査地点の設定については、ダム湖、流入河川及び下流河川の多様な環境を反映できるように配慮して行った。底生動物調査の調査地点設定根拠を表 6.2-8に示す。

また、平成 21 年(2009 年)度には、天ヶ瀬ダムの上下流河川において、河床状況と併せてコドラート付きサーバネットによる定量採集を実施した。

表 6.2-7(1)　底生動物調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
昭和57年(1982年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6月	9・10月	12・2月	平方枠(50cm×50cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(50cm×50cm)
昭和58年(1983年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(50cm×50cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(50cm×50cm)
昭和59年(1984年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(50cm×50cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(50cm×50cm)
昭和60年(1985年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
昭和61年(1986年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
昭和62年(1987年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
昭和63年(1988年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)

表 6.2-7(2)　底生動物調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
平成元年(1989年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成2年(1990年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成3年(1991年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3・5月	7月	9・11月	1月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成4年(1992年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成5年(1993年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	9・10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成6年(1994年)	3	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成7年(1995年)	8	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成8年(1996年)	10	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成9年(1997年)	12	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成10年(1998年)	14	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠(25cm×25cm)
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠(25cm×25cm)
平成11年(1999年)	16	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成12年(2000年)	18	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					(採泥面積15cm×15cm)
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠

表 6.2-7(3)　底生動物調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
平成13年(2001年)	20	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成14年(2002年)	22	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成15年(2003年)	24	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成16年(2004年)	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成17年(2005年)	28	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	平方枠
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					エクマン・バージ式採泥器(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					平方枠
平成20年(2008年)	33	河川水辺の国勢調査による底生動物調査	下流河川(ダムサイト直下)	淀天淀1(旧No.100)	－	8月	－	2月	定量採集:平方枠(25cm×25cm)、定性採集:タモ網(0.5mm目)
			ダム湖(大峰橋上流湖岸)	淀天淀2					定性採集:タモ網(0.5mm目)
			ダム湖(曽束大橋上流湖岸)	淀天淀3					
			ダム湖(田原川流入部)	淀天淀4					
			ダム湖(曽束川流入部)	淀天淀5					
			ダム湖(瀬田川流入部)	淀天淀6					
			ダム湖(ダムサイト直上流)	淀天淀7(旧No.200)					定点採集:エクマン・バージ式採泥(採泥面積15cm×15cm)
			ダム湖(大峰橋)	淀天淀8(旧No.201)					
			流入河川(田原川)	淀天淀9					定性採集:タモ網(0.5mm目)
			流入河川(大石川)	淀天淀10					
			流入河川(信楽川)	淀天淀11					
			流入河川(瀬田川)	淀天淀12(旧No.300)					定量採集:平方枠(25cm×25cm)、定性採集:タモ網(0.5mm)
平成21年(2009年)	34	天ヶ瀬ダム上下流河床状況調査による底生動物調査	宇治川(48K～53.2K間を約400mピッチで)	－	－	－	－	1月	定量採集:50cm×50cm コドラート付きサーバーネット (0.5mm目)
			瀬田川(67.6K～69.2K間を400mピッチで)	－					

表 6.2-8　底生動物調査地点設定根拠

年度	調査地点		調査地点設定根拠
昭和57年度 (1982年) ～ 平成17年 (2005年)	下流本川(白虹橋)	No.100	ダム運用による下流への影響を監視できる。
	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	ダム湖湖心および最深地点。ダム湖内の底生動物相を代表していると考えられる。
	ダム湖内(大峰橋)	No.201	水質基準点である。
	流入本川(鹿跳橋)	No.300	流入本川。
平成20年度 (2008年)	下流河川（ダムサイト直下）	淀天淀1	濁りの拡散、流況変化による環境の変化等、ダム運用による下流側への環境を監視するため、ダムサイト近隣に位置する当該地区は適切であると判断した。
	ダム湖（大峰橋上流湖岸）	淀天淀2	ダム湖は上下流に長いため、大峰橋上流にも調査地区を設定した。
	ダム湖（曽束大橋上流湖岸）	淀天淀3	
	ダム湖（田原川流入部）	淀天淀4	主要流入河川は瀬田川であるが、水生生物の多様な生息環境等を考慮すると、田原川流入部、曽束川流入部にも調査地区を設定した。
	ダム湖（曽束川流入部）	淀天淀5	
	ダム湖（瀬田川流入部）	淀天淀6	
	ダム湖（ダムサイト直上流）	淀天淀7	水質調査が実施されている地点で、既往調査資料からダム湖内の底生動物相を代表していると判断し、調査地区として適切であると判断した。
	ダム湖（大峰橋）	淀天淀8	
	流入河川（田原川）	淀天淀9	流入河川の田原川、大石川、信楽川、瀬田川を調査地区として設定した。既往調査データから流入河川を代表していると判断し、この4地区に代表させて問題ないと考えた。
	流入河川（大石川）	淀天淀10	
	流入河川（信楽川）	淀天淀11	
	流入河川（瀬田川）	淀天淀12	
平成21年度 (2009年)	下流河川(宇治川)	－	48K～53.2K間に約400mピッチで設定した。
	流入河川（瀬田川）	－	67.6K～69.2K間に約400mピッチで設定した。

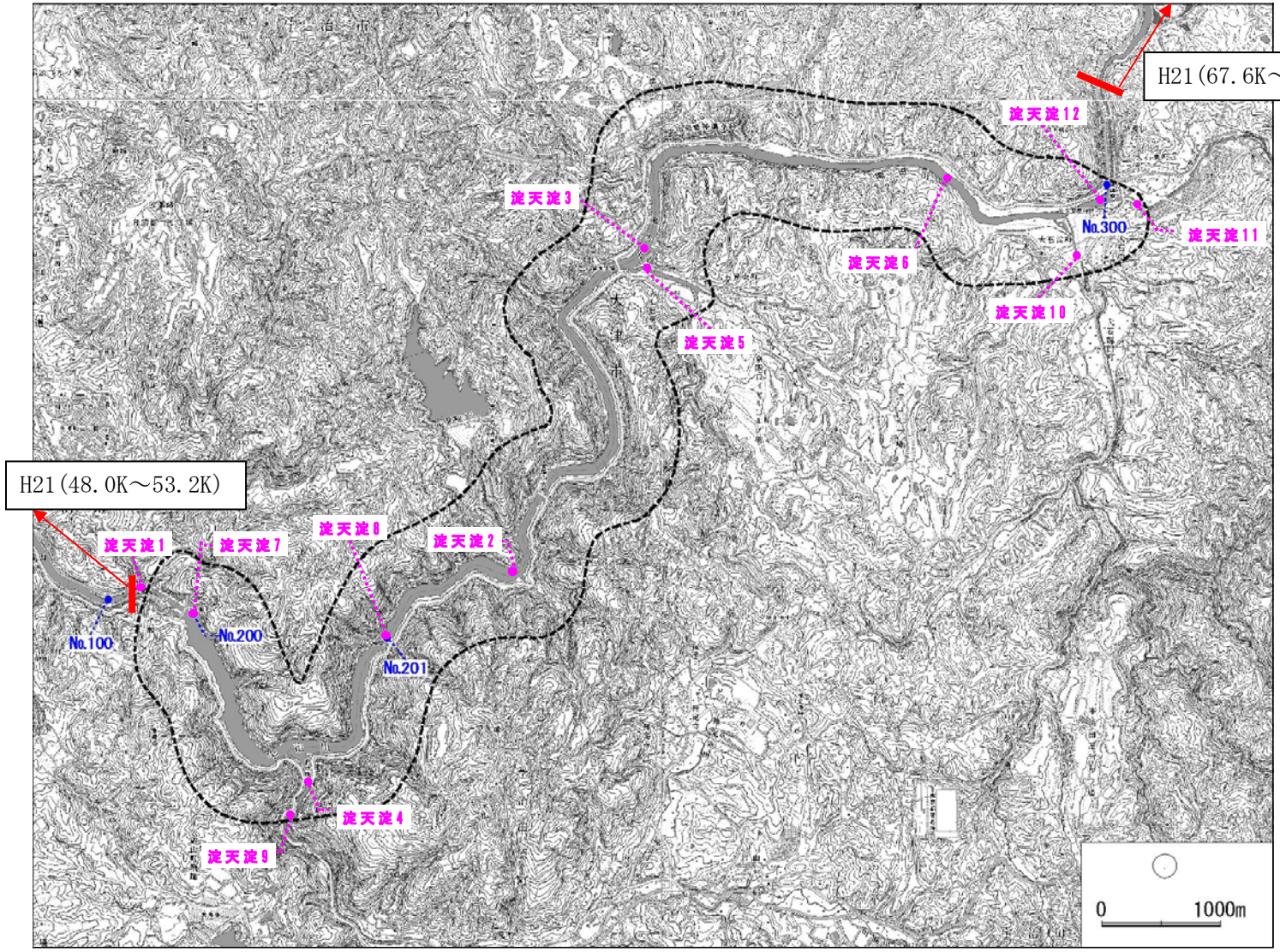


図 6.2-2　底生動物調査地点

出典：6-6、6-30

(3)動植物プランクトン

動植物プランクトン調査の調査内容を表 6.2-9に、調査位置を図 6.2-3に示す。

昭和 50 年(1975 年)度から平成 17 年(2005 年)度までは、春、夏、秋、冬季の 4 季に、ダム湖内 2 地点、流入河川 1 地点及び下流河川 1 地点において、平成 18 年(2006 年)度から平成 20 年(2008 年)度はダム湖内 2 地点において、採水法及びネット法を用いて調査を実施した（平成 20 年度は動物プランクトン調査を行っていない)。また、平成 21 年(2009 年)度は、ダムサイト表層、中層の 2 層で年間 12 回の調査を実施している。植物プランクトン調査における採水量及び採水深度を表 6.2-11､動物プランクトン調査に用いたプランクトンネット及び層曳き距離を表 6.2-12に示す。

なお、調査地点については、ダム湖最深部であるダムサイト、比較的水深が浅く、ＤＯも高い大峰橋、主な流入河川である瀬田川の鹿跳橋、ダム直下流である白虹橋に設定した（表 6.2-10)。

表 6.2-9(1)　動植物プランクトン調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	調査時期 夏	調査時期 秋	調査時期 冬	調査方法
昭和50年(1975年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	－	－	9･11月	2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和51年(1976年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	5月	7月	－	－	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和54年(1979年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	－	8月	10月	2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和55年(1980年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	－	8月	－	2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和56年(1981年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6･8月	10月	12･2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和57年(1982年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6月	9･10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和58年(1983年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和59年(1984年)	－	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					

表 6.2-9(2)　動植物プランクトン調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期				調査方法
					春	夏	秋	冬	
昭和60年(1985年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和61年(1986年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和62年(1987年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
昭和63年(1988年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成元年(1989年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成2年(1990年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成3年(1991年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	3･5月	7月	9･11月	1月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成4年(1992年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成5年(1993年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6月	9･10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成6年(1994年)	3	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成7年(1995年)	8	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成8年(1996年)	10	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					

表 6.2-9(3)　動植物プランクトン調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期 春	夏	秋	冬	調査方法
平成9年(1997年)	12	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成10年(1998年)	14	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成11年(1999年)	16	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成12年(2000年)	18	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成13年(2001年)	20	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成14年(2002年)	22	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成15年(2003年)	24	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成16年(2004年)	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成17年(2005年)	28	天ヶ瀬ダム湖生物調査	下流本川(白虹橋)	No.100	4月	6・8月	10月	12・2月	植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法
			ダム湖内(ダムサイト)	No.200					
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			流入本川(鹿跳橋)	No.300					
平成18年(2006年)	30	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	植物プランクトン：毎月(4～3月の12回) 動物プランクトン：5,8,11,2月				植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：ネット法、採水法
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
			田原川流入点(参考地点)	－					
			田原川(参考地点)	－					
平成19年(2007年)	32	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	植物プランクトン：毎月(6～3月の10回) 動物プランクトン：毎月(6～12月の7回)				植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：採水法
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
平成20年(2008年)	34	天ヶ瀬ダム富栄養化調査検討	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	植物プランクトン：10,11,12,1,2月 動物プランクトン：調査実施なし				植物プランクトン：採水法 動物プランクトン：実施なし
			ダム湖内(大峰橋)	No.201					
平成21年(2010年)	35	水質調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	植物プランクトン：毎月				採水法

表 6.2-10　動植物プランクトン調査地点設定根拠

年度	調査地点		調査地点設定根拠
昭和50 (1975年) ～ 平成20年 (2008年)	下流河川(白虹橋)	No.100	ダム運用による下流への影響を監視できる。
	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	ダム湖湖心及び最深地点。ダム湖内のプランクトン相を代表していると考えられる。
	ダム湖内(大峰橋)	No.201	水質基準点である。
	流入河川(鹿跳橋)	No.300	流入本川。
平成21年 (2009年)	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	ダム湖湖心及び最深地点。ダム湖内のプランクトン相を代表していると考えられる。
平成18年 (2006年)	田原川流入点、田原川	(参考地点)	－

表 6.2-11(1)　植物プランクトン調査における採水量及び採水深度

調査年月	採水方法等	採水深度(m)																								
		下流河川白虹橋			ダムサイト												大峰橋								流入河川鹿跳橋		
		表層水	0.1	0.5	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	40.0	底上1.0	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	底上1.0	表層水	0.1	0.5
昭和50年9月	採水量不明	－	○	－	○	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－
昭和50年11月		－	○	－	○	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
昭和51年2月		－	○	－	○	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○	－	○	－
昭和51年5月	採水量不明	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○	－	○	－	○	○	○	－	－	－	○	○	○	○	－	－	－
昭和51年7月		－	○	－	○	－	○	○	－	○	○	○	○	－	－	○	○	－	○	○	－	○	○	－	－	○	－
昭和54年8月	採水量不明	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	－	○	○	－	－	－	○	－	－	－	○	○	－	－	－	○
昭和54年10月		－	－	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
昭和55年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	－	○	○	○	－	－	○	－	－	－	○	－	○	－	－	○
昭和55年8月	採水量不明	－	－	－	－	○	－	－	－	○	○	－	○	○	－	○	－	○	－	－	－	○	－	○	－	－	－
昭和56年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	－	○
昭和56年4月	採水量不明	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	－	○
昭和56年6月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
昭和56年8月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
昭和56年10月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
昭和56年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	－	○
昭和57年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	－	○
昭和57年4月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和57年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和57年9月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和57年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和57年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○		－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和58年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和58年4月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和58年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和58年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和58年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和58年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和52年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和59年4月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和59年6月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和59年8月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和59年10月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和59年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和60年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和60年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和60年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和60年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和60年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和61年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和61年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－

表 6.2-11(2)　植物プランクトン調査における採水量及び採水深度

調査年月	採水方法等	採水深度(m)																										
		下流河川白虹橋			ダムサイト												大峰橋								流入河川鹿跳橋		
		表層水	0.1	0.5	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	40.0	底上1.0	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	底上1.0	表層水	0.1	0.5
昭和61年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和61年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和61年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和61年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和62年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和62年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
昭和62年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○		－	○	－	－	○	○	○	－	○	－	－
昭和62年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和62年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和62年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
昭和63年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成元年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成元年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成元年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成元年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成元年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	－	○	－	－
平成元年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成2年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年5月	1L採水。河川部では表層水のみ採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年7月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年9月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成3年11月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年1月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年3月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年6月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年8月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成4年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成5年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－

表 6.2-11(3)　植物プランクトン調査における採水量及び採水深度

調査年月	採水方法等	採水深度(m)																									
		下流河川白虹橋			ダムサイト												大峰橋								流入河川鹿跳橋		
		表層水	0.1	0.5	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	40.0	底上1.0	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	底上1.0	表層水	0.1	0.5
平成5年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成5年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成5年9月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成5年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成5年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成6年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成7年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成8年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成9年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成9年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
平成9年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成9年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	－	○	－	－
平成9年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	－	○	－	－
平成9年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	－
平成10年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	15.0	－	25.0	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
平成10年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成10年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	○	－	－
平成10年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－		－	○	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	－
平成10年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成10年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成11年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成11年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成11年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成11年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	－
平成11年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	－	－	－	○	○	－	－
平成11年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成12年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－

表 6.2-11(4)　植物プランクトン調査における採水量及び採水深度

調査年月	採水方法等	採水深度(m)																									
		下流河川白虹橋			ダムサイト												大峰橋								流入河川鹿跳橋		
		表層水	0.1	0.5	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	40.0	底上1.0	0.1	0.5	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	底上1.0	表層水	0.1	0.5
平成12年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成12年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	○	－	○	－	－
平成12年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成12年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成12年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年8月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成13年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成14年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成14年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成14年6月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成14年8月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成14年10月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成14年12月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成15年2月		－	－	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－		－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	－	－	○
平成15年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成15年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成15年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成15年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成15年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成16年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成17年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成17年4月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成17年6月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成17年8月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	－
平成17年10月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成17年12月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－
平成18年2月		○	－	－	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	－	○	○	－	○	○	－	－

表 6.2-11(5)　植物プランクトン調査における採水量及び採水深度

調査年月	採水方法等	採水深度(m)					
		田原川	田原川流入部	ダムサイト		大峰橋	
		表層水	表層水	表層	中層	表層	中層
平成18年4月～平成20年3月	バンドーン採水器を用いて採水。河川部は表層水を1L採水	○	○	○	○	○	○
平成19年6月～平成21年3月	バンドーン採水器を用いて採水。	－	－	○	○	○	○
平成20年10月～平成21年2月	採水業者より植物プランクトンサンプルを現地にて引き取る。	－	－	○	○	○	○
平成21年4月～平成22年3月	バンドーン採水器を用いて採水。	－	－	○	○	－	－

表 6.2-12(1)　動物プランクトン調査に用いたプランクトンネット及び層曳き距離

調査年月	ネット種類及び層曳き距離		採水深度(m)										
			下流河川(白虹橋)		ダムサイト					大峰橋		流入河川(鹿跳橋)	
			0.5	表層	0-10	10-20	20-30	30-40	40-50	0-10	10-20	表層	0.5
昭和50年9月	調査器具、採水量不明	5mピッチ	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－
昭和50年11月			－	－	○	○	○	○	－	0-1	－	－	－
昭和51年2月			－	－	○	○	○	○	－	0-5	－	－	－
昭和51年5月	調査器具、採水量不明	5mピッチ	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○	－
昭和51年7月			－	－	○	○	○	○	－	○	－	－	－
昭和54年8月	詳細不明	5mピッチ	－	－	○	○	○	30-35	－	○	－	－	－
昭和54年10月			－	－	○	○	○	30-35	－	－	－	－	－
昭和55年2月			－	○	○	○	○	30-35	－	○	－	○	－
昭和55年8月	詳細不明	5mピッチ	－	－	○	10-13 15-20	20-25	30-35	－	○	－	－	－
昭和56年2月		5-10mピッチ	－	○	○	○	○	○	－	○	10-15	○	－
昭和56年4月	詳細不明	5-10mピッチ	－	－	○	○	○	○	－	－	－	－	－
昭和56年6月		5-10mピッチ	－	○	○	○	○	30-36	－	0-5 5-8	－	○	－
昭和56年8月		10mピッチ	－	○	○	○	○	30-37	－	0-8.5	－	○	－
昭和56年10月		5-10mピッチ	－	○	○	○	○	30-38	－	0-5 5-8	－	○	－
昭和57年2月		5-10mピッチ	－	○	○	○	○	○	－	○	10-13.8	○	－
昭和57年4月	開閉式プランクトン・ネット(口径、メッシュ不明)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	○	40-44	○	10-14	○	－
昭和57年6月			－	○	○	○	○	○	－	0-7	－	○	－
昭和57年9月			－	○	○	○	○	30-35	－	○(深度不明)	－	○	－
昭和57年10月			－	○	○	○	○	30-33	－	○(深度不明)	－	○	－
昭和57年12月			－	○	○	○	○	○	－	○	10-13.5	○	－
昭和58年2月			－	○	○	○	○	○	－	○	10-14	○	－
昭和58年4月	開閉式プランクトン・ネット(口径、メッシュ不明)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	○	40-41	○	10-13	○	－
昭和58年6月			－	○	○	○	○	30-36	－	0-8	－	○	－
昭和58年8月			－	○	○	○	○	30-35	－	0-7	－	○	－
昭和58年10月			－	○	○	○	○	30-35	－	0-7	－	○	－
昭和58年12月			○	－	○	○	○	○	40-41.5	○	10-13	○	－
昭和52年2月			○	－	○	○	○	○	40-42	○	10-13.5	○	－
昭和59年4月	開閉式プランクトン・ネット(口径、メッシュ不明)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	○	○(深度不明)	○	○(深度不明)	○	－
昭和59年6月			○	－	○	○	○	○(深度不明)	－	○(深度不明)	－	○	－
昭和59年8月			○	－	○	○	○	○(深度不明)	－	○	－	○	－
昭和59年10月			○	－	○	○	○	○(深度不明)	－	○(深度不明)	－	○	－
昭和59年12月			0-10	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
昭和60年2月			○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
昭和60年5月	開閉式プランクトン・ネット(口径、メッシュ不明)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-39	－	0-9	－	○	－
昭和60年7月			○	－	○	○	○	30-37	－	0-6	－	○	－
昭和60年9月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-8	－	○	－
昭和60年11月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-7	－	○	－
昭和61年1月			○	－	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
昭和61年3月			○	－	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
昭和61年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
昭和61年7月			○	－	○	○	○	30-33	－	0-5	－	○	－
昭和61年9月			○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
昭和61年11月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-7.5	－	○	－
昭和62年1月			○	－	○	○	○	30-39	－	○	10-12	○	－
昭和62年3月			○	－	○	○	○	30-38	－	○	10-12	○	－
昭和62年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	○	－	○	10-14	○	－
昭和62年7月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
昭和62年9月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
昭和62年11月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
昭和63年1月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
昭和63年3月			○	－	○	○	○	30-36	－	0-8	－	○	－
昭和63年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-39	－	○	－	○	－
昭和63年7月			○	－	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－
昭和63年9月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
昭和63年11月			○	－	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
平成元年1月			○	－	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
平成元年3月			○	－	○	○	○	30-39	－	0-11	－	○	－
平成元年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
平成元年7月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
平成元年9月			○	－	○	○	○	30-34	－	○	－	○	－
平成元年11月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
平成2年1月			○	－	○	○	○	30-37	－	○	－	○	－
平成2年3月			○	－	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－

※NXX25 メッシュ＝0.063mm

表 6.2-12(2)　動物プランクトン調査に用いたプランクトンネット及び層曳き距離

調査年月	ネット種類及び層曳き距離		採水深度(m)										
			下流河川(白虹橋)		ダムサイト					大峰橋		流入河川(鹿跳橋)	
			0.5	表層	0-10	10-20	20-30	30-40	40-50	0-10	10-20	表層	0.5
平成2年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－
平成2年7月			○	－	○	○	○	30-33	－	0-7	－	○	－
平成2年9月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
平成2年11月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
平成3年1月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-7.5	－	○	－
平成3年3月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-7	－	○	－
平成3年5月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-35	－	0-6	－	○	－
平成3年7月			○	－	○	○	○	30-33	－	0-7	－	○	－
平成3年9月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-6	－	○	－
平成3年11月			○	－	○	○	○	30-32	－	0-5	－	○	－
平成4年1月			○	－	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－
平成4年3月			○	－	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－
平成4年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
平成4年6月			○	－	○	○	○	30-39	－	0-5 5-10 0-10	－	○	－
平成4年8月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-6	－	○	－
平成4年10月			○	－	○	○	○	30-33	－	0-6	－	○	－
平成4年12月			○	－	○	○	○	30-35	－	0-7	－	○	－
平成5年2月			○	－	○	○	○	○	－	0-5 0-10	－	○	－
平成5年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	－
平成5年6月			○	－	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
平成5年9月			－	○	○	○	○	－	－	0-7	－	○	－
平成5年10月			－	○	○	○	○	－	－	0-8	－	○	－
平成5年12月			－	○	○	○	○	30-33	－	0-8	－	○	－
平成6年2月			－	○	○	○	○	30-37	－	○	－	○	－
平成6年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
平成6年6月			－	○	○	○	○	30-36	－	○	－	○	－
平成6年8月			－	○	○	○	○	30-33	－	0-8	－	○	－
平成6年10月			－	○	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
平成6年12月			－	○	○	○	○	30-34	－	0-8	－	○	－
平成7年2月			－	○	○	○	○	30-38	－	0-12	－	○	－
平成7年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	○	－	0-16	－	○	－
平成7年6月			－	○	○	○	○	30-33	－	○	－	○	－
平成7年8月			－	○	○	○	○	30-36	－	0-8	－	○	－
平成7年10月			－	○	○	○	○	30-34	－	0-6	－	○	－
平成7年12月			－	○	○	○	○	30-37	－	○	－	○	－
平成8年2月			－	○	○	○	○	○	－	○	－	○	－
平成8年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-35	－	0-5	－	○	－
平成8年6月			－	○	○	○	○	30-36	－	0-9	－	○	－
平成8年8月			－	○	○	○	○	○	－	0-5	－	○	－
平成8年10月			－	○	○	○	20-34	－	－	0-8	－	○	－
平成8年12月			－	○	○	○	○	30-33	－	0-8	－	○	－
平成9年2月			－	○	○	○	20-43	－	－	0-5 5-10	○	○	－
平成9年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	0-5 5-10	○	○	○	－	0-5 5-10	10-13	○	－
平成9年6月			－	○	○	○	○	30-39	－	0-13.5	－	○	－
平成9年8月			－	○	○	○	○	30-33	－	0-5	－	○	－
平成9年10月			－	○	○	○	○	30-34	－	0-5	－	○	－
平成9年12月			－	○	0-5 5-10	○	○	－	－	0-5	－	○	－
平成10年2月			－	○	0-5 5-10	○	○	－	－	0-5 5-10	10-14	○	－
平成10年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-38	－	○	10-16	○	－
平成10年6月			－	○	○	○	○	30-34	－	0-5	－	○	－
平成10年8月			－	○	○	○	○	30-32	－	0-3	－	○	－
平成10年10月			－	○	○	○	○	30-33	－	○	－	○	－
平成10年12月			－	○	○	○	○	30-33	－	○	－	○	－
平成11年2月			－	○	○	○	○	○	－	○	－	○	－
平成11年4月	丸川式中層プランクトン・ネット(定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ)河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	○	－	○	10-13	○	－
平成11年6月			－	○	○	○	○	○	－	○	10-13	○	－
平成11年8月			－	○	○	○	○	－	－	0-4	－	○	－
平成11年10月			－	○	○	○	○	－	－	0-3	－	○	－
平成11年12月			－	○	○	○	○	30-32	－	0-7.5	－	○	－
平成12年2月			－	○	○	○	○	30-37	－	0-9	－	○	－

※NXX25 メッシュ＝0.063mm

表 6.2-12(3)　動物プランクトン調査に用いたプランクトンネット及び層曳き距離

調査年月	ネット種類及び層曳き距離		採水深度(m)										
			下流河川(白虹橋)		ダムサイト					大峰橋		流入河川(鹿跳橋)	
			0.5	表層	0-10	10-20	20-30	30-40	40-50	0-10	10-20	表層	0.5
平成12年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-38	－	○	－	○	－
平成12年6月			－	○	○	○	○	30-35	－	0-9	－	○	－
平成12年8月			－	○	○	○	○	30-33	－	0-9	－	○	－
平成12年10月			－	○	○	○	○	30-32	－	0-8	－	○	－
平成12年12月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-9	9-底上	○	－
平成13年2月			－	○	○	○	20-33	－	－	0-9	－	○	－
平成13年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成13年6月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成13年8月			－	○	○	○	20-底上	－	－	0-底上	－	○	－
平成13年10月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成13年12月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成14年2月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成14年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成14年6月			○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成14年8月			○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成14年10月			○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成14年12月			○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成15年2月			○	－	○	○	○	30-底上	－	○	－	－	○
平成15年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成15年6月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成15年8月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成15年10月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成15年12月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成16年2月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-底上	－	○	－
平成16年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成16年6月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成16年8月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成16年10月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-5	－	○	－
平成16年12月			－	○	○	○	○	○	40-底上	○	－	○	－
平成17年2月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成17年4月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	垂直方向に10mピッチの層曳き	－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成17年6月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－
平成17年8月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-4.5	－	○	－
平成17年10月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-5	－	○	－
平成17年12月			－	○	○	○	○	30-底上	－	0-8	－	○	－
平成18年2月			－	○	○	○	○	30-底上	－	○	－	○	－

※NXX25 メッシュ＝0.063㎜

表 6.2-12(4)　動物プランクトン調査に用いたプランクトンネット及び層曳き距離

調査年月	ネット種類及び層曳き距離		採水深度(m)										
			田原川	田原川流入部		ダムサイト			大峰橋				
			表層	0～5.0m	全層	全層	表層	中層	0～5.0m	5.0～10.0m	全層	表層	中層
平成18年5月	丸川式中層プランクトン・ネット（定量用開閉式、口径30cm、NXX25メッシュ）河川部では表層水100Lを採集	底上1mから表層まで鉛直方向に全層曳き	○	－	○	○	－	－	－	－	○	－	－
平成18年8月			○	－	○	○	－	－	－	－	○	－	－
平成18年11月			○	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－
平成19年2月			○	－	○	○	－	－	－	－	○	－	－

※NXX25 メッシュ＝0.063㎜

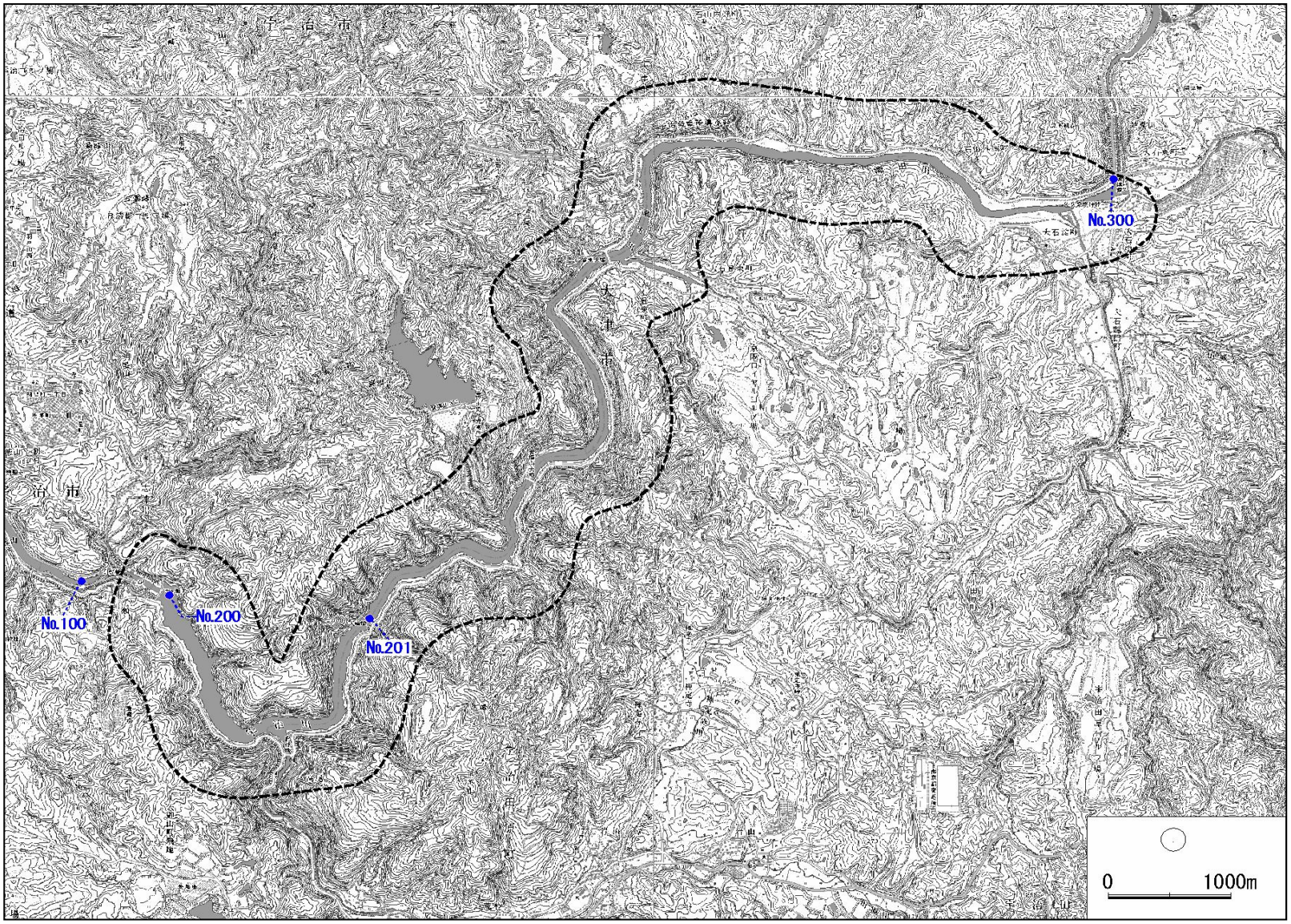


図 6.2-3　動植物プランクトン調査地点

出典：6-30～6-31

(4)付着生物

付着生物調査の調査内容を表 6.2-13及び表 6.2-14に、調査位置を図 6.2-4に示す。

昭和 50 年(1975 年)度～平成 19 年(2005 年)度までは、春、夏、秋、冬季の年 4 季、平成 20 年度は秋季と冬季の 2 回、ダム湖内(ダムサイト地点：ダム湖湖心及び最深地点であり、ダム湖内の付着生物相を代表していると考えられる)において付着板を用いて調査を実施した。

表 6.2-13(1)　付着生物調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期※				調査方法
					春	夏	秋	冬	
昭和50年(1975年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	－	－	11月	1･2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和51年(1976年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	－	7月	－	－	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和55年(1980年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	－	8月	－	2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和57年(1982年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	5月	6月	9･10月	12･2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和58年(1983年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	4月	6･8月	10月	12･2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和59年(1984年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	5月	6･8月	10月	12･2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和60年(1985年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3月	8月	9･10･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和61年(1986年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3月	6･7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和62年(1987年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
昭和63年(1988年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成元年(1989年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成2年(1990年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成3年(1991年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3月	6･7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成4年(1992年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成5年(1993年)	—	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集

※付着板を設置し、約 30 日間水中に放置後、付着板を回収したので、その回収した月を調査時期とした。

表 6.2-13(2)　付着生物調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点		調査時期※				調査方法
					春	夏	秋	冬	
平成6年(1994年)	3	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成7年(1995年)	8	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成8年(1996年)	10	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成9年(1997年)	12	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成10年(1998年)	14	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成11年(1999年)	16	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成12年(2000年)	18	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成13年(2001年)	20	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成14年(2002年)	22	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成15年(2003年)	24	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成16年(2004年)	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成16年(2004年)	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2 枚)の設置による採集
平成17年(2005年)	26	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3･5月	7月	9･11月	1月	付着板(5cm×10cm 2 枚)の設置による採集
平成18年(2006年)	30	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	5月	8月	11月	2月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成19年(2007年)	32	天ヶ瀬ダム湖生物調査	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	3月	7･9月	11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集
平成20年(2008年)	34	天ヶ瀬ダム富栄養化調査検討業務	ダム湖内(ダムサイト)	No.200	－	－	11月	1月	付着板(5cm×10cm 2枚)の設置による採集

※付着板を設置し、約 30 日間水中に放置後、付着板を回収したので、その回収した月を調査時期とした。

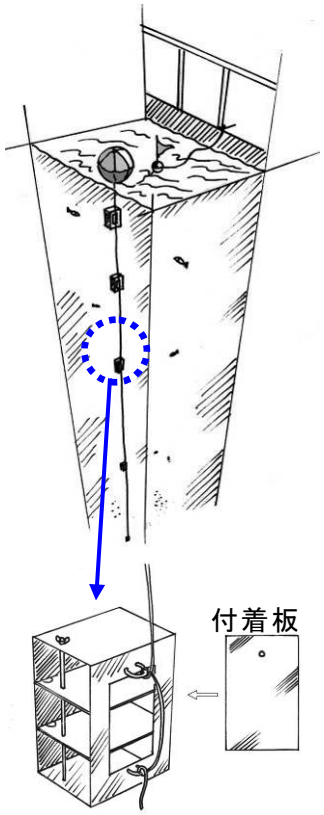
表 6.2-14　付着生物調査地点設定根拠

年度	調査地点	調査地点設定根拠
昭和50年度（1975年） ～ 平成20年度（2008年）	ダム湖内（ダムサイト） No.200	ダム湖湖心及び最深地点。ダム湖内の付着生物相を代表していると考えられる。

表 6.2-15　付着板種類及び設置期間

年度	付着板の種類及び設置期間	付着板設置深度(m)							
		0.1	0.5	1.0	2.5	5.0	10.0	20.0	25.0
昭和50年度	種類、設置期間不明	○			○	○	○		○
昭和51年度	種類、設置期間不明		○		○				
昭和55年度	種類、設置期間不明		○	○	○	○	○		
昭和57年度	約30日間水中に置いた付着板(10×5cm²、2枚)		○		○	○	○		○
昭和58年度	約30日間水中に置いた付着板(5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
昭和59年度	約30日間水中に置いた付着板(5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
昭和60年度	約30日間水中に置いた付着板(5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
昭和61年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
昭和62年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
昭和63年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成元年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成2年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成3年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成4年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成5年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成6年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成7年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成8年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成9年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成10年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成11年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成12年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成13年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成14年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成15年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成16年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成17年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成18年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成19年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○
平成20年度	約30日間水中に置いた人工付着板(塩化ビニール製、5cm×10cm、2枚)		○		○	○	○		○

【付着板設置イメージ】



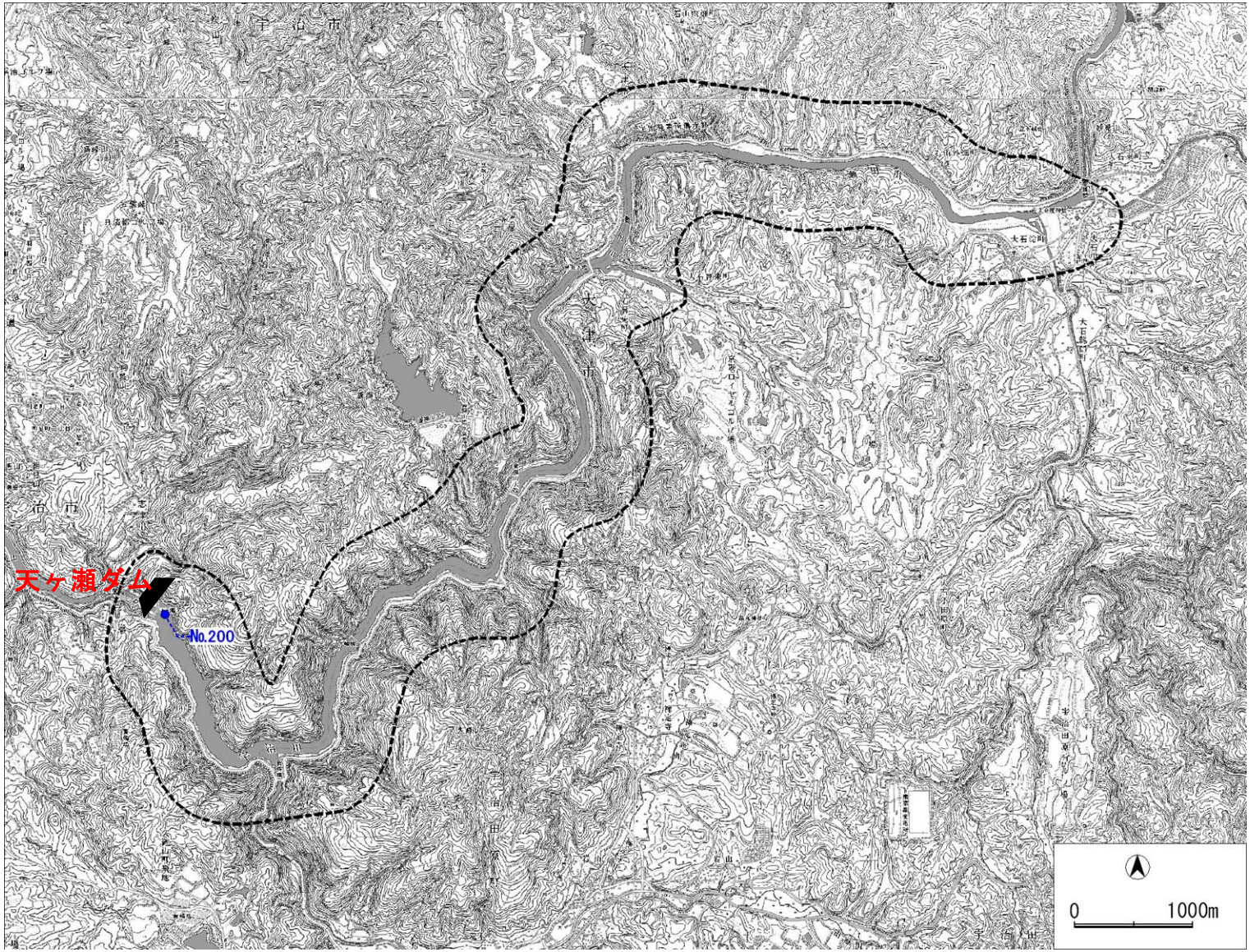


図 6.2-4　付着生物調査地点

出典：6-30～6-31

(5)植物

植物調査の調査内容を表 6.2-16に、調査努力量を表 6.2-18に、調査位置を図 6.2-5に示す。

平成 7 年(1995 年)度及び平成 14 年(2002 年)度は春季・夏季・秋季・冬季の四季に、平成 9 年(1997 年)度は夏季・秋季・冬季に、平成 21 年(2009 年)度～平成 22 年(2010 年)度は夏季・秋季・冬季に、ダム湖周辺において、群落調査、植物相調査、植生分布調査を実施した。

なお、調査地点の設定については、ダム湖周辺の地形、概略植生区分図、重要種の分布状況、その他の既往調査結果等を反映できるように配慮して行った。植物調査の調査地点設定根拠を**表 6.2-17**に示す。

表 6.2-16　植物調査実施状況

年度	調査番号	調査内容	調査時期				調査区域及び地点
			春	夏	秋	冬	
平成7年度（1995年）	4	群落調査 植物相調査	5月	6・7・8月	9・10・11月		群落組成地点：142地点
		植生分布調査				11・12月	対象地域全域
平成9年度（1997年）	11	群落調査 植物相調査		7・8月	9・10・11月		群落組成調査：133地点
		植生分布調査				11・12月	対象地域全域
平成14年度（2002年）	21	植物相調査	5月	7・8月	9・10月	2月	15区域
		群落調査		7・8月	9・10月		夏季106地点 秋季24地点
		植生図作成調査		7・8月	9月		対象地域全域
平成21年度（2009年）	35	植物相調査		6月	9月		12調査地区
平成22年度（2010年）	38	植生図作成調査			10・11月		対象地域全域
		群落組成調査			10・11月		95地点
		植生断面調査			10月		3測線

表 6.2-17　植物調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点		調査地点設定根拠	
平成7年度 (1995年)	群落調査	群落組成地点：142地点		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮するとともに、調査範囲内に点在することを原則とした。	
	植物相調査	10区域		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮し、概略植生区分図における植生区分の全種類を網羅した。	
	植生分布調査	対象地域全域		―	
平成9年度 (1997年)	群落調査	群落組成地点：133地点		ダム湖及びその周辺の環境と対照範囲全体のバランスを考慮するとともに、調査範囲内に点在することを原則とした。	
	植物相調査	5区域		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮し、概略植生区分図における植生区分の全種類を網羅した。	
	植生分布調査	対象地域全域		―	
平成14年度 (2002年)	群落調査	群落組成調査 夏季：106地点 秋季：24地点		調査地点は調査範囲内に点在することを原則とした。重要な植生が発達する地域においては重点的に調査地点を設定した。	
	植物相調査	アベマキ－コナラ群集1		国土交通省河川局事務連絡（平成13年）に従って、12箇所設定し、その他行政区分3区域を加えた。過年度調査の未踏査エリアを調査するよう努めた。	植生面積第1位の群落
		アベマキ－コナラ群集2			植生面積第1位の群落
		スギ・ヒノキ植林1			植生面積第2位の群落
		スギ・ヒノキ植林2			植生面積第2位の群落
		アカマツ－モチツツジ群集			植生面積第3位の群落
		ジャヤナギ－アカメヤナギ群集			天ヶ瀬ダムに特徴的な群落
		ヤナギタデ－オオオナモミ群落			天ヶ瀬ダムに特徴的な群落
		湿原			天ヶ瀬ダムに特徴的な群落
		林縁部1	ダムサイト下流道路沿い		車道沿い。明るい林縁環境
		林縁部2	喜撰山		車道沿い。明るい林縁環境
		河畔1	ダムサイト直下		ダム下流における環境の把握
		河畔2	信楽川		主な流入河川の一つ
		宇治市域、宇治田原町域、大津市域			異なる行政区分
	植生図作成調査	対象地域全域		―	
平成21年度 (2009年)	植物相調査	ダムサイト直下		「平成18年度河川水辺の国勢調査マニュアル」に基づき、ダム湖環境エリア区分ごとに調査地区を設定した。	下流河川
		曽束川の湿性草原			ダム湖
		南大津大橋上流			
		大石の湿性草原			
		曽束大橋下流			ダム湖周辺
		アベマキ－コナラ群集			
		アカマツ－モチツツジ群集			
		スギ－ヒノキ植林			
		流入河川田原川			流入河川
		流入河川大石川			
		流入河川信楽川			
		流入河川瀬田川			
平成22年度 (2010年)	植生図作成調査	対象地域全域		―	
	群落組成調査	95地点		新しい群落、現地で同定困難な群落、典型的な群落	
	植生断面調査	瀬田川（大石川合流部下流）		流入本川であり、ジャヤナギ－アカメガシワ群落、オギ群落などの湿地の群落がみられる	
		曽束川下流部		ダム湖周辺で最大の湿地が形成されている	
		宇治川（ダムより700m下流）		ダム運用による流量変動が河川植生に与える影響を把握できる	

表 6.2-18　植物調査(植物相調査)における調査努力量

平成7年度					
環境	調査回	調査年月日			延べ人数
－	1	1995/5/12	～	1995/5/14	6
－	2	1995/5/30	～	1995/5/31	4
－	3	1995/6/30	～	1995/7/2	4
－	4	1995/8/6	～	1995/8/8	4
－	5	1995/8/23	～	1995/8/29	8
－	6	1995/9/26			2
－	7	1995/10/10	～	1995/10/17	6
－	8	1995/10/27	～	1995/11/1	8
－	9	1995/11/6	～	1995/11/8	4
－	10	1995/11/17	～	1995/11/19	4
				合計	50

平成9年度					
環境	調査回	調査年月日			延べ人数
－	1	1997/7/5	～	1997/7/17	8
－	2	1997/8/21	～	1997/8/23	4
－	3	1997/9/6	～	1997/9/13	8
－	4	1997/10/7	～	1997/10/24	10
－	5	1997/11/1	～	1997/11/6	4
				合計	34

平成14年度					
環境	調査回	調査年月日			延べ人数
アベマキ－コナラ群集1	1	2002/5/21	～	2002/5/21	1
	2	2002/9/30	～	2002/9/30	1
	3	2003/2/26	～	2003/2/26	1
アベマキ－コナラ群集2	1	2002/5/23	～	2002/5/23	1
	2	2002/10/4	～	2002/10/4	1
	3	2003/2/27	～	2003/2/27	1
スギ･ヒノキ植林1	1	2002/5/22	～	2002/5/22	1
	2	2002/10/2	～	2002/10/2	1
	3	2003/2/27	～	2003/2/27	1
スギ･ヒノキ植林2	1	2002/5/23	～	2002/5/23	1
	2	2002/10/3	～	2002/10/3	1
	3	2003/2/28	～	2003/2/28	1
アカマツ－モチツツジ群集	1	2002/5/22	～	2002/5/22	1
	2	2002/10/4	～	2002/10/4	1
	3	2003/2/27	～	2003/2/27	1
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	1	2002/5/24	～	2002/5/24	1
	2	2002/9/30	～	2002/9/30	1
	3	2003/2/28	～	2003/2/28	1
ヤナギタデ－オオオナモミ群落	1	2002/5/23	～	2002/5/23	1
	2	2002/10/2	～	2002/10/2	1
	3	2003/2/27	～	2003/2/27	1
湿原	1	2002/5/24			1
	2	2002/10/3	～	2002/10/3	1
	3	2003/2/28	～	2003/2/28	1
林縁部1	1	2002/5/21			1
	2	2002/9/30	～	2002/9/30	1
	3	2003/2/26	～	2003/2/26	1
林縁部2	1	2002/5/22			1
	2	2002/10/2	～	2002/10/2	1
	3	2003/2/27	～	2003/2/27	1
河畔1	1	2002/5/21			1
	2	2002/9/30	～	2002/9/30	1
	3	2002/2/26	～	2002/2/26	1
河畔2	1	2002/5/24			1
	2	2002/10/3	～	2002/10/3	1
	3	2003/2/28	～	2003/2/28	1
宇治市域	1	2002/5/21	～	2002/5/22	3
	2	2002/9/30	～	2002/10/4	4
	3	2003/2/26	～	2003/2/28	4
宇治田原町域	1	2002/5/22	～	2002/5/23	3
	2	2002/9/30	～	2002/10/4	4
	3	2003/2/27	～	2003/2/28	3
大津市域	1	2002/5/23	～	2002/5/24	3
	2	2002/9/30	～	2002/10/4	4
	3	2003/2/27	～	2003/2/28	3
				合計	67

平成21年度					
環境	調査回	調査年月日			延べ人数
ダムサイト直下	1	2009/6/9	～	2009/6/9	2
	2	2009/9/16	～	2009/9/16	2
曽束川の湿性草原	1	2009/6/10	～	2009/6/10	2
	2	2009/9/15	～	2009/9/15	2
南大津大橋上流	1	2009/6/11	～	2009/6/11	2
	2	2009/9/15	～	2009/9/15	2
大石の湿性草原	1	2009/6/9	～	2009/6/9	2
	2	2009/9/14	～	2009/9/14	2
曽束大橋下流	1	2009/6/9	～	2009/6/9	2
	2	2009/9/15	～	2009/9/15	2
アベマキ－コナラ群集	1	2009/6/11	～	2009/6/11	2
	2	2009/9/16	～	2009/9/16	2
アカマツ－モチツツジ群集	1	2009/6/11	～	2009/6/11	2
	2	2009/9/16	～	2009/9/16	2
スギ－ヒノキ植林	1	2009/6/12	～	2009/6/12	2
	2	2009/9/15	～	2009/9/15	2
流入河川田原川	1	2009/6/9	～	2009/6/9	2
	2	2009/9/16	～	2009/9/16	2
流入河川大石川	1	2009/6/10	～	2009/6/10	2
	2	2009/9/14	～	2009/9/14	2
流入河川信楽川	1	2009/6/10	～	2009/6/10	2
	2	2009/9/14	～	2009/9/14	2
流入河川瀬田川	1	2009/6/9	～	2009/6/9	2
	2	2009/9/14	～	2009/9/14	2
				合計	48

出典：6-7～6-10

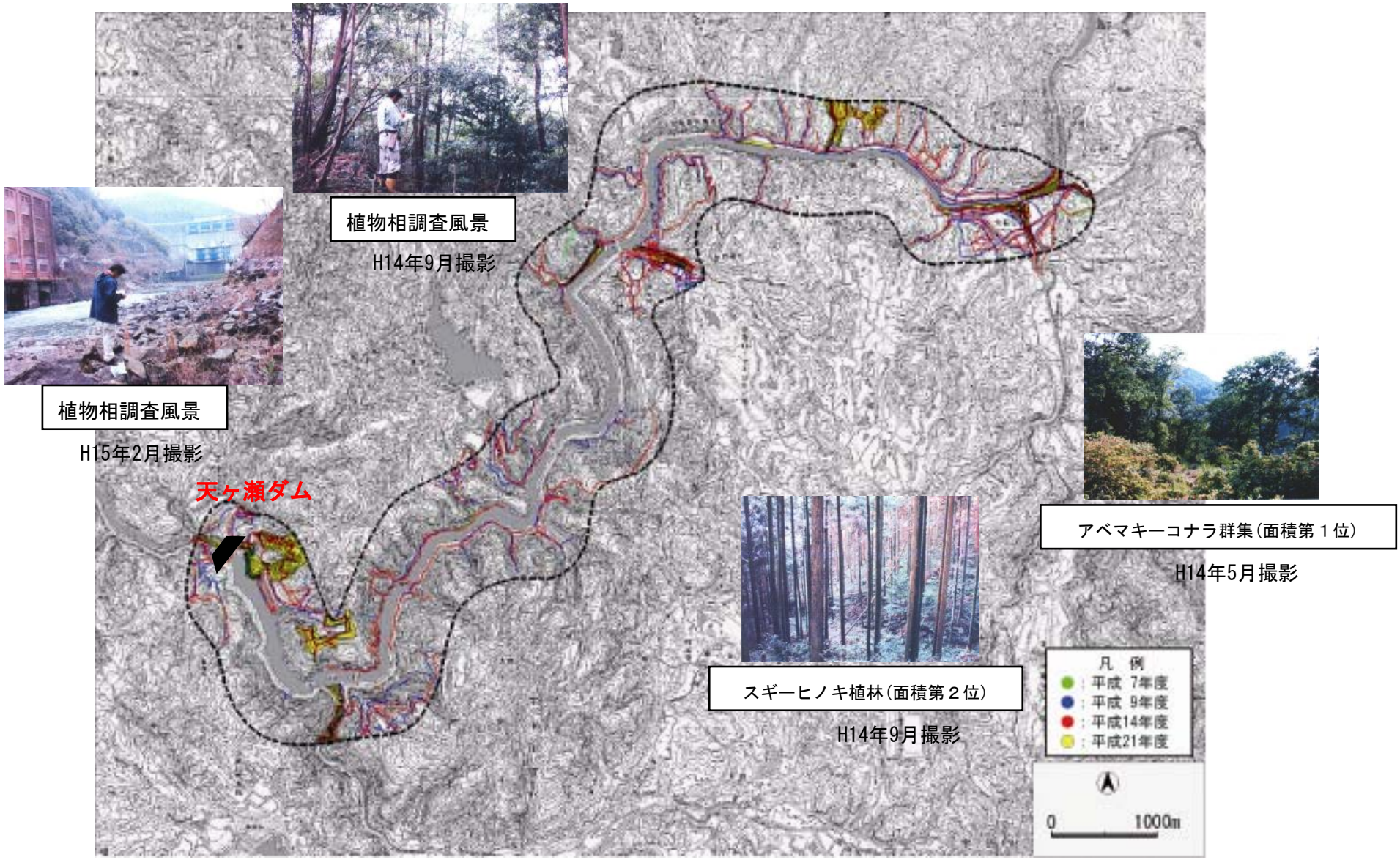


図 6.2-5(1)　植物調査地点(植物相調査、植生分布調査・植生図作成調査)

出典：6-7～6-10

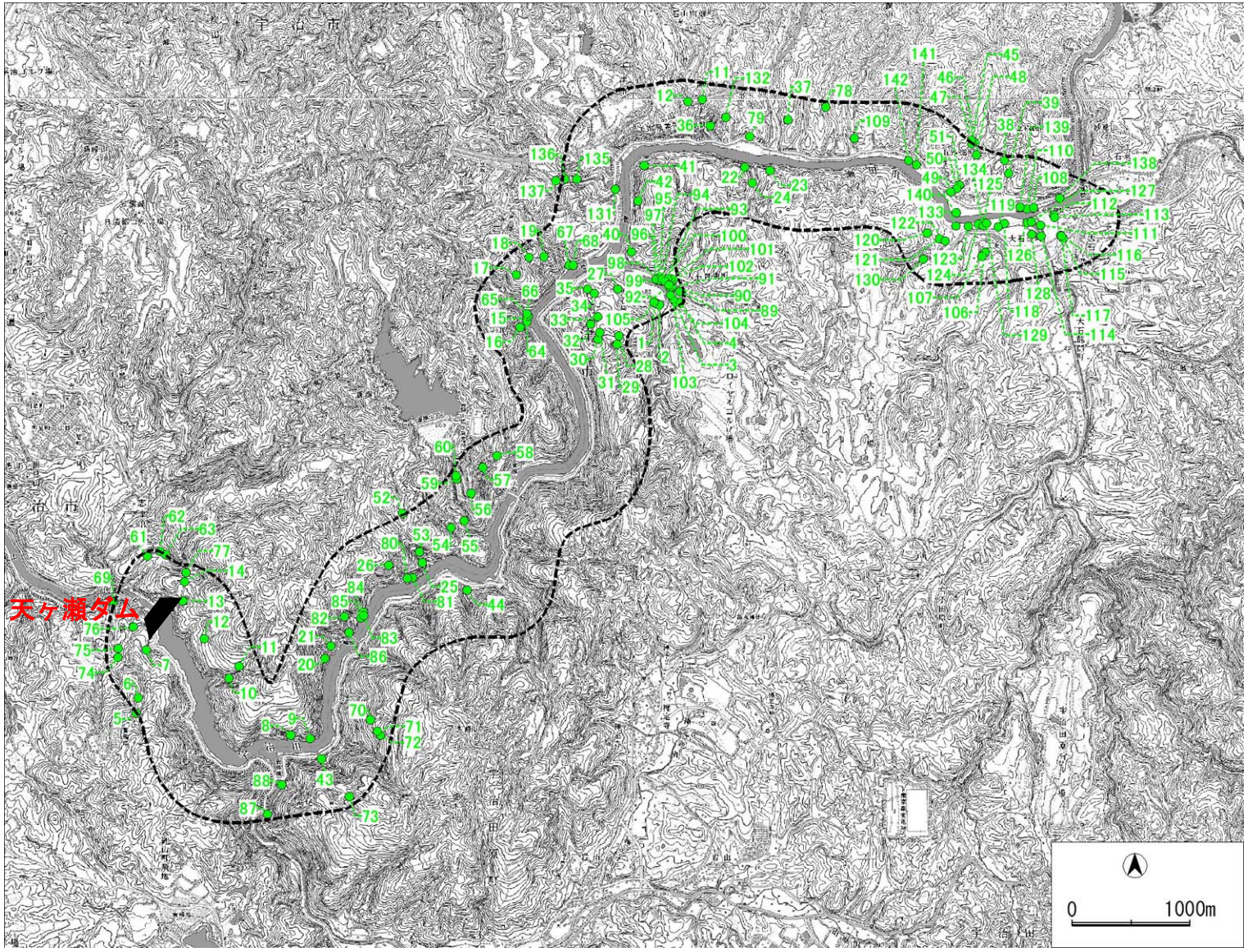


図 6.2-5 (2)　植物調査地点(平成 7 年度群落調査)

出典：6-7

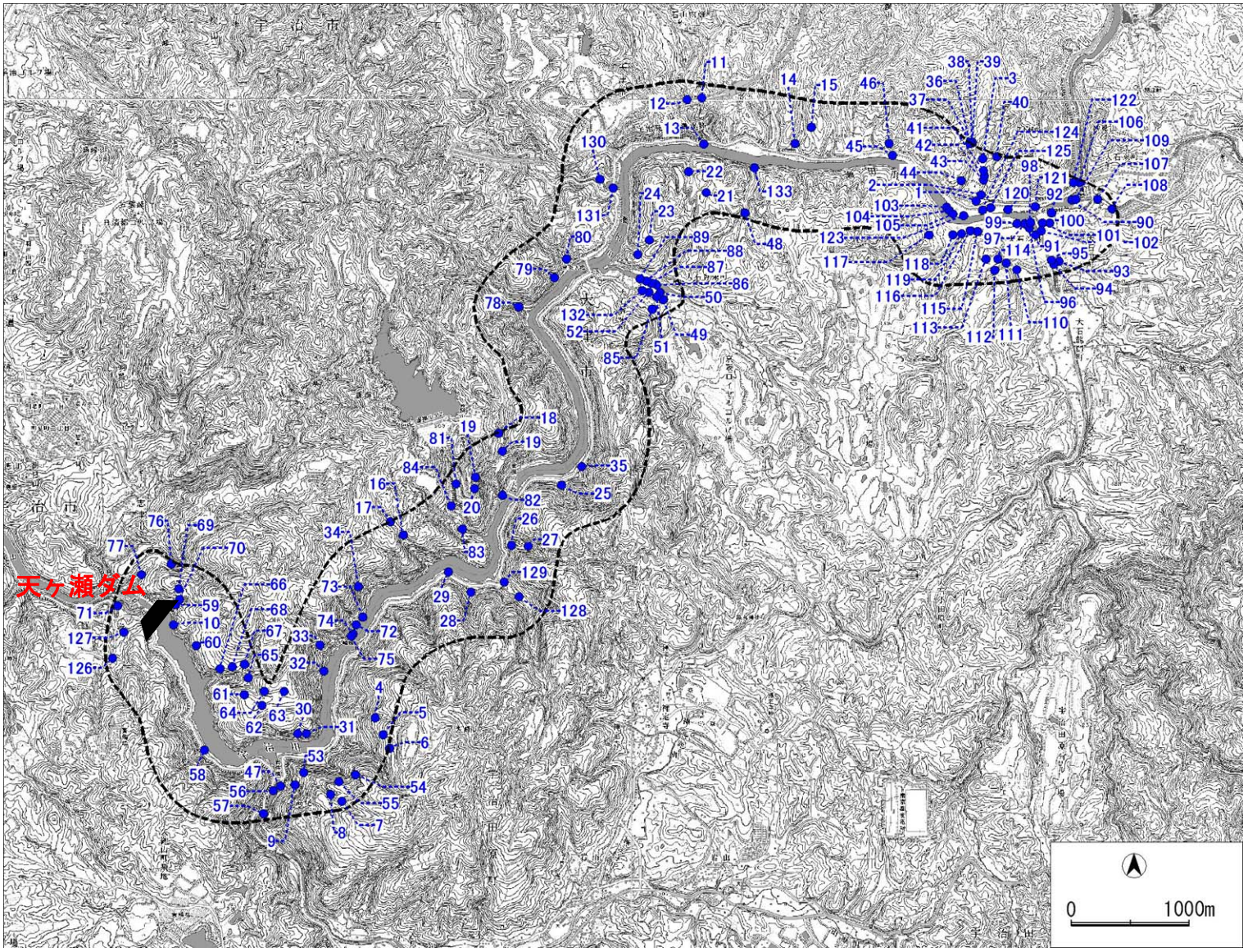


図 6.2-5 (3)　植物調査地点(平成 9 年度群落調査)

出典：6-8

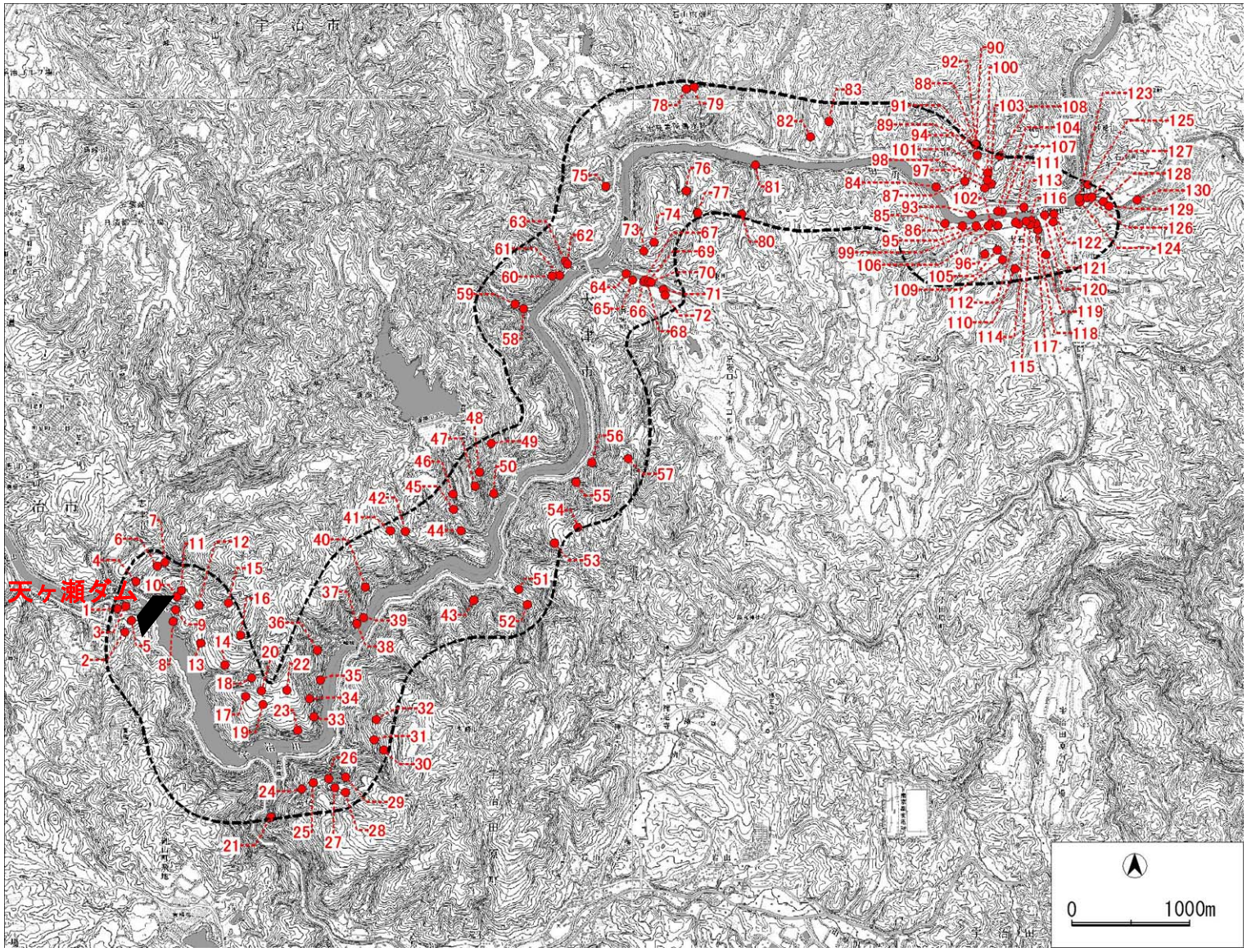


図 6.2-5 (4)　植物調査地点(平成 14 年度群落調査)

出典：6-9

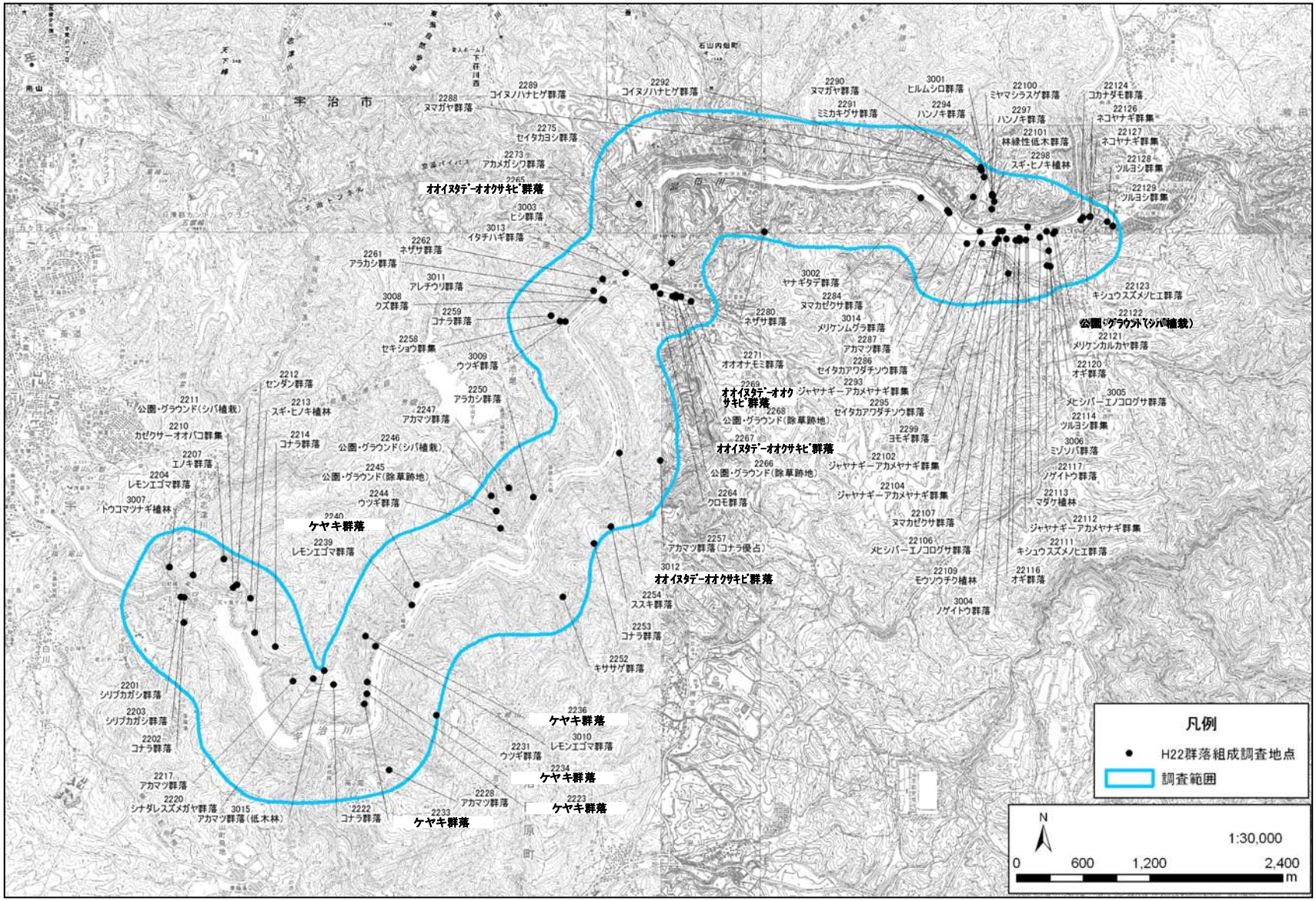


図 6.2-5 (5) 植物調査地点(平成 22 年度群落調査)

出典：6-10

(6)鳥類

鳥類調査の調査内容を表 6.2-19に、調査努力量を表 6.2-21に、調査位置を図 6.2-6に示す。

平成 7 年(1995 年)度、平成 10 年(1998 年)度、平成 15 年(2003 年)度は、春渡期、繁殖期、秋渡期、越冬期の 4 回、ダム湖周辺において、ラインセンサス法、定位記録法、夜間補足調査を実施した。また、平成 18 年(2006 年)度は、繁殖期、越冬期の 2 回、ダム湖周辺において、船上センサス法、定点センサス法、定位記録法、スポットセンサス法、ラインセンサス法、夜間調査、集団分布地調査を実施した。

なお、調査ルート・地点の設定については、ダム湖面、周辺の代表的な群落、河畔等の多様な環境を反映できるように配慮して行った。鳥類調査の調査地点設定根拠を表 6.2-20に示す。

表 6.2-19　鳥類調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点	調査時期				調査方法
				春渡期	繁殖期	秋渡期	越冬期	
平成7年(1995年)	5	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	ダム湖周辺	4月	6月	11月	1月	ラインセンサス法 定位記録法 夜間補足調査
平成10年(1998年)	13	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	ダム湖周辺	4・5月	6月	11月	1月	ラインセンサス法 定位記録法 夜間補足調査
平成15年(2003年)	23	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	ダム湖周辺	5月	6月	11月	1月	ラインセンサス法 定位記録法 夜間補足調査
平成18年(2006年)	29	河川水辺の国勢調査による鳥類調査	ダム湖周辺 流入河川	―	6月	―	1月	船上センサス法 定点センサス法 定位記録法 スポットセンサス法 ラインセンサス法 夜間調査 集団分布地調査

表 6.2-20　鳥類調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点		調査地点設定根拠	
平成7年度(1995年)	ラインセンサス法	9ルート（R1～R9）		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
	定位記録法	12地点		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
	夜間補足調査	対象地域全域			
平成10年度(1998年)	ラインセンサス法	9ルート（R1～R9）		ダム湖及びその周辺の環境と調査対照範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
	定位記録法	12地点		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
	夜間補足調査	対象地域全域			
平成15年度(2003年)	ラインセンサス法	アベマキ－コナラ群集1	R2A	平成14年度天ヶ瀬ダム国調（植物）で設定された調査対象環境毎に1箇所以上の調査対象区域を設定し、調査対象区域外の4ルートと開放水面を加えた。ただし、湿原と下流河川の河畔は面積が小さいため、定位記録法によるものとした。	植生面積第1位の群落
		アベマキ－コナラ群集2	R7A		〃
		スギ－ヒノキ植林1	R4		植生面積第2位の群落
		スギ－ヒノキ植林2	R9		〃
		アカマツ他群集	R3		植生面積第3位の群落
		ジャヤナギ他群集	R10A		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落
		ヤナギタデ群集	R8		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落
		林縁1	R1		車道沿いの明るい林縁環境
		林縁2	R6		喜撰山ダム管理用道路
		河畔2	R10B		主な流入河川である信楽川沿い
		その他1	R2B		アベマキ－コナラ群集
		その他2	R5		管理用道路と湖岸道路沿い
		その他3	R7B		湖岸道路沿い
		その他4	R10C		主な流入河川である大石川
	定位記録法	河畔1	PK1	貯水面全体がほぼ見渡せるように、前回調査の調査地点に2地点を追加して14地点とし、湿原と下流河川の河畔の2地点を加えた。	
		湿原1	PS1		
		開放水面1～14	P1～P14		
	夜間補足調査	対象地域全域		植物群落6地点、林縁部1地点、開放水面4地点に、前回調査でアオバズク、ヨタカが出現した調査対象区域外の1地点を加えた。	
平成18年度(2006年)	船上センサス法	湖面	B1L～B13L	ダム湖面全域を調査地区として設定した。	
		水位変動域	B1S～B13S	平常時最高貯留水位以下で水位変動により水没や干出を繰り返す区間全域を対象として調査地区に設定した。	
	定点センサス法	水位変動域(曽束川流入部)	P11	平常時最高貯留水位以下で、水位変動により水没や干出を繰り返す区間の内、船による進入が困難な地域。	
		水位変動域(最上流部)	P15	平常時最高貯留水位以下で、水位変動により水没や干出を繰り返す区間の内、船による進入が困難な地域。	
		エコトーン(曽束大橋下流)	P10A～P10C	比較的急傾斜だが、水際から林縁部まで連続している。	
	定位記録法	湖面	P1～P10 P12～P14	平成15年度と同一の地点	
	スポットセンサス法	流入河川田原川	ST1、ST2	代表的な流入河川	
		流入河川大石川	S01、S02	代表的な流入河川	
		流入河川信楽川	SSi1、SSi2	代表的な流入河川	
		流入河川瀬田川	SSe1～SSe8	代表的な流入河川	
	ラインセンサス法	アベマキ－コナラ群集	R1	植生面積第1位の群落	
		アカマツ－モチツツジ群集	R2	植生面積第3位の群落	
		スギ－ヒノキ植林	R3	植生面積第2位の群落	
		アベマキ－コナラ群集	R4	植生面積第1位の群落	
		スギ－ヒノキ植林	R6	植生面積第2位の群落	
	夜間調査	夜間補足調査地点	N1～N12	平成15年度と同一の地点	
	集団分布地調査	対象地域全域	－	－	

表 6.2-21(1)　鳥類調査における調査努力量

平成7年度								
調査方法	調査対象環境	調査ルート及び地点番号	調査距離又は調査面積	備考	調査時間			
					春の渡り期	繁殖期	秋の渡り期	越冬期
ラインセンサス法	ー	R1	2.0km		2:10	1:53	1:51	1:20
	ー	R2	2.0km		2:25	2:03	2:09	1:51
	ー	R3	2.0km		2:17	2:48	2:34	2:40
	ー	R4	2.0km		2:06	1:58	1:36	1:55
	ー	R5	2.0km		5:22	2:09	2:04	2:14
	ー	R6	2.0km		2:25	2:20	4:13	2:18
	ー	R7	2.0km		2:16	2:16	1:55	2:18
	ー	R8	2.0km		1:25	1:40	2:17	1:45
	ー	R9	2.0km		3:13	2:42	1:42	2:29
定位記録法	ー	P1	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P2	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P3	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P4	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P5	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P6	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P7	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P8	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P9	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P10	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P11	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P12	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
夜間補足調査	H7/4/28に実施							
	H7/5/10に実施							
	H7/6/16に実施							
	H7/6/21に実施							

平成10年度								
調査方法	調査対象環境	調査ルート及び地点番号	調査距離又は調査面積	備考	調査時間			
					春の渡り期	繁殖期	秋の渡り期	越冬期
ラインセンサス法	ー	R1	2.0km		2:11	2:15	2:30	1:50
	ー	R2	2.0km		2:01	2:06	2:16	2:08
	ー	R3	2.0km		2:50	2:44	3:16	2:57
	ー	R4	2.0km		1:39	2:00	1:15	1:46
	ー	R5	2.0km		2:05	2:08	5:27	2:09
	ー	R6	2.0km		2:10	1:57	2:29	1:56
	ー	R7	2.0km		1:45	1:54	1:55	1:43
	ー	R8	2.0km		3:10	2:03	2:19	2:08
	ー	R9	2.0km		2:28	2:50	2:05	2:29
定位記録法	ー	P1	10ha		0:34	0:20	0:30	0:30
	ー	P2	10ha		1:09	0:30	0:30	0:30
	ー	P3	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P4	10ha		0:32	0:25	0:30	0:30
	ー	P5	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P6	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P7	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P8	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P9	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P10	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P11	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	ー	P12	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
夜間補足調査	H10/5/13及びH10/5/19に実施							
	H10/6/12及びH10/6/16に実施							

表 6.2-21(2)　鳥類調査における調査努力量

平成15年度								
調査方法	調査対象環境	調査ルート及び地点番号	調査距離又は調査面積	備考	調査時間			
					春の渡り期	繁殖期	秋の渡り期	越冬期
ラインセンサス法	アベマキ・コナラ群集1	R2A	0.8km		0:35	1:10	1:31	1:16
	アベマキ・コナラ群集2	R7A	0.2km		0:15	0:08	0:12	0:14
	スギ・ヒノキ植林1	R4	0.7km		0:53	0:41	0:26	0:54
	スギ・ヒノキ植林2	R9	0.4km		0:25	0:30	0:32	0:35
	アカマツ他群集1	R3	0.5km		0:59	0:35	9:18	0:40
	ジャヤナギ他群集1	R10A	0.6km		1:03	1:31	0:26	0:47
	ヤナギタデ群集1	R8	0.8km		0:50	0:54	0:34	1:15
	林縁1	R1	2.0km		2:13	1:41	1:52	1:43
	林縁2	R6	2.0km		2:30	2:46	2:13	2:18
	河畔2	R10B	0.3km		0:11	0:20	0:11	0:21
	その他1	R2B	1.2km		1:42	1:26	2:08	2:00
	その他2	R5	2.0km		2:12	3:12	2:43	2:40
	その他3	R7B	1.8km		3:03	3:33	2:36	3:08
	その他4	R10C	1.1km		2:24	2:48	1:59	0:34
定位記録法	河畔1	PK1	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	湿原1	PS1	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面1	P1	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面2	P2	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面3	P3	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面4	P4	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面5	P5	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面6	P6	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面7	P7	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面8	P8	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面9	P9	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面10	P10	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面11	P11	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面12	P12	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面13	P13	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
	開放水面14	P14	10ha		0:30	0:30	0:30	0:30
夜間補足調査	アベマキ・コナラ群集1	N2	10ha	R2A	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	アベマキ・コナラ群集2	N6	10ha	R7A	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	スギ・ヒノキ植林1	N3	10ha	R4	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	スギ・ヒノキ植林2	N10	10ha	R9	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	ジャヤナギ他群集1	N12	10ha	R10A	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	ヤナギタデ群集1	N7	10ha	R8	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	林縁1	N1	10ha	R10A	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	その他5(神社)	N8	10ha	夜間のみ	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	開放水面4	N4	10ha	P4	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	開放水面6	N5	10ha	P6	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	開放水面12	N9	10ha	P12	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―
	開放水面13	N11	10ha	P13	実施 詳細不明	実施 詳細不明	―	―

表 6.2-21(3)　鳥類調査における調査努力量

平成18年度								
調査方法	調査対象環境	調査ルート及び地点番号	調査距離又は調査面積	備考	調査時間			
					春の渡り期	繁殖期	秋の渡り期	越冬期
船上センサス法	湖面及び水位変動域	B1L、B1S			―	0:16	―	0:28
		B2L、B2S			―	0:08	―	0:20
		B3L、B3S			―	0:15	―	0:58
		B4L、B4S			―	0:15	―	0:28
		B5L、B5S			―	0:30	―	0:17
		B6L、B6S			―	0:13	―	0:17
		B7L、B7S			―	0:07	―	0:17
		B8L、B8S			―	0:20	―	0:23
		B9L、B9S			―	0:14	―	0:24
		B10L、B10S			―	0:22	―	0:25
		B11L、B11S			―	0:16	―	0:18
		B12L、B12S			―	0:23	―	0:30
		B13L、B13S			―	0:16	―	0:24
定点センサス法	水位変動域(曽束川流入部)	P11	半径50m		―	0:30	―	0:30
	水位変動域(最上流部)	P15	半径50m		―	0:30	―	0:30
	エコトーン(曽束大橋下流)	P10A	半径50m		―	0:30	―	0:30
		P10B	半径50m		―	0:30	―	0:30
		P10C	半径50m		―	0:30	―	0:30
定位記録法	湖面	P1	10ha	船上センサス法との比較を行うため、従来の方法で実施	―	0:30	―	0:30
		P2	10ha		―	0:30	―	0:30
		P3	10ha		―	0:30	―	0:31
		P4	10ha		―	0:30	―	0:30
		P5	10ha		―	0:30	―	0:30
		P6	10ha		―	0:30	―	0:30
		P7	10ha		―	0:30	―	0:30
		P8	10ha		―	0:30	―	0:30
		P9	10ha		―	0:30	―	0:30
		P10	10ha		―	0:30	―	0:30
		P12	10ha		―	0:30	―	0:30
		P13	10ha		―	0:30	―	0:30
		P14	10ha		―	0:30	―	0:30
スポットセンサス法	流入河川田原川	ST1	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		ST2	半径約100m		―	0:10	―	0:10
	流入河川大石川	SO1	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SO2	半径約100m		―	0:10	―	0:10
	流入河川信楽川	SSi1	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSi2	半径約100m		―	0:10	―	0:10
	流入河川瀬田川	SSe1	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe2	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe3	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe4	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe5	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe6	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe7	半径約100m		―	0:10	―	0:10
		SSe8	半径約100m		―	0:10	―	0:10
ラインセンサス法	アベマキ－コナラ群集	R1	左右各25m		―	0:57	―	1:10
	アカマツ－モチツツジ群集	R2	左右各25m		―	1:10	―	0:58
	スギ－ヒノキ植林	R3	左右各25m		―	0:57	―	0:50
	アベマキ－コナラ群集	R4	左右各25m		―	0:40	―	0:42
	スギ－ヒノキ植林	R6	左右各25m		―	1:00	―	0:57
夜間調査	夜間補足調査地点	N1	10ha		－	0:30	―	―
		N2	10ha		－	0:30	―	―
		N3	10ha		－	0:30	―	―
		N4	10ha		－	0:20	―	―
		N5	10ha		－	0:35	―	―
		N6	10ha		－	0:50	―	―
		N7	10ha		－	1:05	―	―
		N8	10ha		－	1:05	―	―
		N9	10ha		－	0:30	―	―
		N10	10ha		－	0:30	―	―
		N11	10ha		－	0:39	―	―
		N12	10ha		－	0:22	―	―
集団分布地調査	コシアカツバメ集団営巣地1				―	0:20	―	―
	コシアカツバメ集団営巣地2				―	0:25	―	―
	サギ類・カワウ集団営巣地				―	0:30	―	―
	カワウ集団ねぐら1				―	0:30	―	1:00
	カワウ集団ねぐら2				―	―	―	0:30
	オシドリ集団越冬地				―	―	―	3:00

出典：6-11～6-14

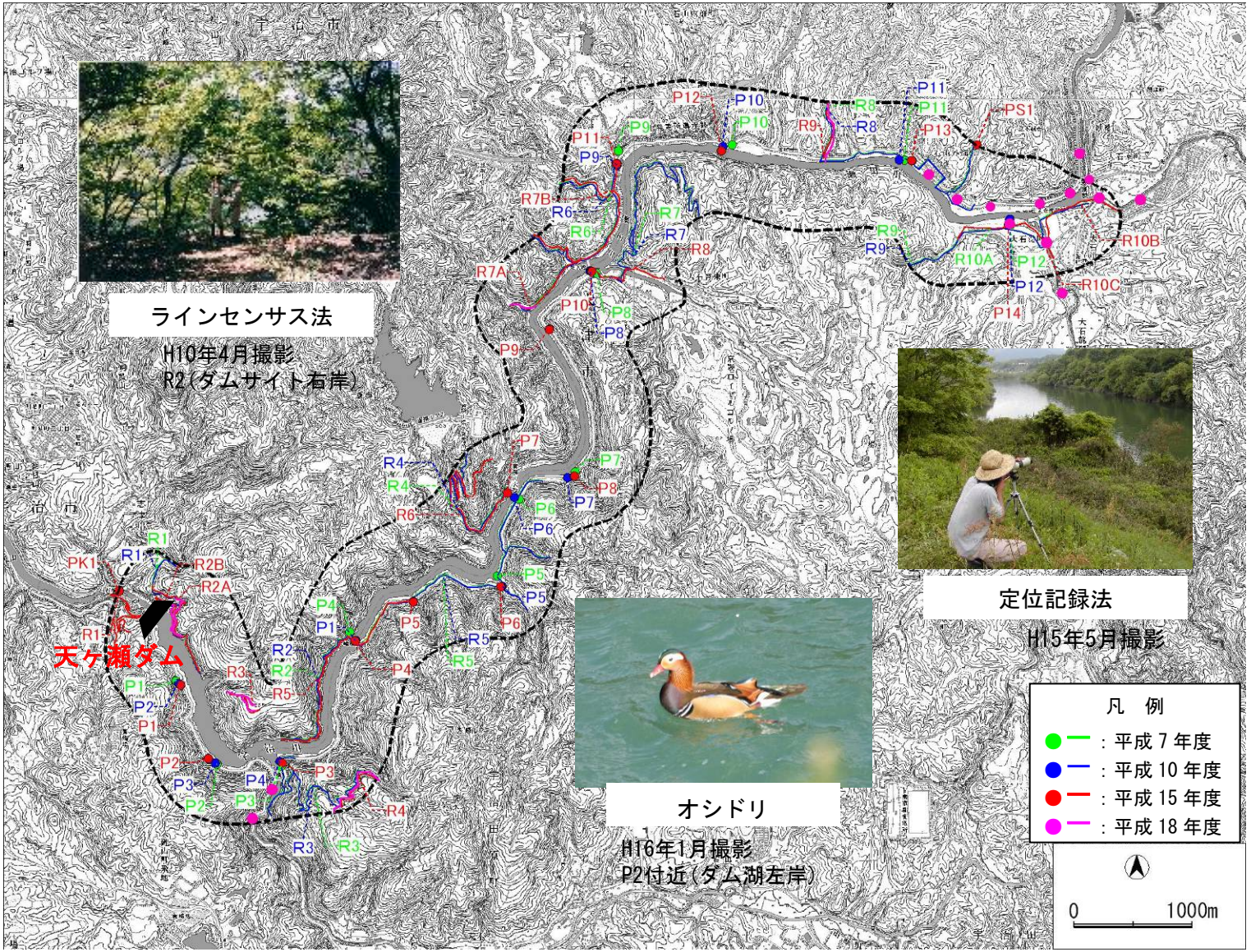


図 6.2-6　鳥類調査地点

出典：6-11～6-14

(7)両生類・爬虫類・哺乳類(参考)

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査実施状況を以下に示す。

両生類・爬虫類・哺乳類の調査内容を表 6.2-22に、調査位置を図 6.2-7に示す。

平成 7 年(1995 年)度、平成 12 年(2000 年)度、平成 17 年(2005 年)度の、両生類・爬虫類については春、夏、秋季の年 3 季に、哺乳類については春、夏、秋、冬季の年 4 季に、ダム湖周辺において調査を実施した。調査方法は、両生類・爬虫類が捕獲、目撃、鳴き声等で、哺乳類が目撃法、フィールドサイン法、トラップ法である。

なお、調査地点の設定については、ダム湖面、周辺の代表的な群落、河畔等の多様な環境を反映できるように配慮して行った。両生類・爬虫類・哺乳類調査の調査地点設定根拠を表 6.2-23に示す。

表 6.2-22(1)　両生類・爬虫類調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点	調査時期				調査方法
				春	夏	秋	冬	
平成 7 年度(1995年)	6	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	4月	7月	9月		捕獲確認・目撃法・鳴き声による確認等
平成12年度(2000年)	17	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	4月	7月	9月		捕獲確認・目撃法・鳴き声による確認等
平成17年度(2005年)	27	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	4月	7月	9月		捕獲確認・目撃法・鳴き声による確認等

表 6.2-22(2)　哺乳類調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査地点	調査時期				調査方法
				春	夏	秋	冬	
平成 7 年度(1995年)	6	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	5月	7月	11月	1月	目撃法・フィールドサイン法・トラップ法
平成12年度(2000年)	17	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	5・6月	7月	11月	1月	目撃法・フィールドサイン法・トラップ法・コウモリ調査
平成17年度(2005年)	27	河川水辺の国勢調査による両生類・爬虫類・哺乳類調査	ダム湖周辺	5月	7月	11月	1月	目撃法・フィールドサイン法・トラップ法・コウモリ調査

表 6.2-23(1)　両生類・爬虫類・哺乳類調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点	調査地点設定根拠	
平成7年度 (1995年)	ルート探索法 目撃法 フィールドサイン法	10ルート（R1～R10）	ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
平成12年度 (1998年)		10ルート（R1～R10）	ダム湖及びその周辺の環境と調査対照範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
平成17年度 (2003年)		アベマキーコナラ群集1	平成14年度天ヶ瀬ダム国調（植物）で設定された調査対象環境毎に1箇所以上の調査対象区域を設定し、調査対象区域外の箇所における調査ルートを併せて設定し、17ルート（ルート探索法）を設定した。	植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。
		アベマキーコナラ群集2		植生面積第1位群落。急峻な谷地形で薄暗い。水量豊富な沢がある。
		スギ・ヒノキ植林1		植生面積第2位群落。林床には落葉や倒木が多い。水量が少なく水枯れする。
		スギ・ヒノキ植林2		植生面積第2位群落。樹冠に覆われ薄暗い。水量豊富な沢がある。
		アカマツーモチツツジ群集		植生面積第3位の群落。尾根にあり、日当たりは良く、水域は存在しない。
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。ヤナギ林と湿性草原がまとまる場。
		ヤナギタデーオオオナモミ群集		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。干出時にヤナギタデーオオオナモミ群落、ウキヤガラ群落が広がる。
		湿原		イネ科植物が密生し細流や水たまりが見られる
		林縁1		車道沿いの明るい林縁環境。車道脇は草地環境はごく一部で見られる程度。
		林縁2		喜撰山ダム管理用道路。低茎草地が見られ、小さな沢、側溝や湿地がある。
		河畔1		ダムサイト下流約250m。ダム下流河川における河川環境を把握。
		河畔2		主な流入河川である信楽川沿い。
		その他1		日当たりが良好で林縁環境が豊富。
		その他2		急峻な谷地形で周囲はスギーヒノキ植林。水量が豊富な沢が存在。
		その他3		比較的急斜面だが、エコトーンが形成されている。
		その他4		スギーヒノキ植林、アカマツ林。日当たりが良く、林縁環境は豊富である。
		その他5		主な流入河川である大石川沿い。河原は砂礫、草地、提内地は水田など。

表 6.2-23(2)　両生類・爬虫類・哺乳類調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点		調査地点設定根拠	
平成7年度 (1995年)	トラップ法	ダムサイト北側樹林		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	アカマツ・コナラ林
		新宵待橋北東側樹林			コナラ・クヌギ林
		喜撰山南東側樹林			スギ林
		曽東大橋西側草地			草地
		石山外畑町内樹林			アラカシ・コナラ林
		新宵待橋北東側林道			ヒノキ新植林
平成12年度 (1998年)		ダムサイト北側樹林		ダム湖及びその周辺の環境と調査対照範囲全体のバランスを考慮して設定した。	アカマツ・コナラ林
		新宵待橋東側樹林			コナラ・クヌギ林
		喜撰山大橋南側樹林			スギ林
		曽東大橋西側草地			草地
		大石スポーツ村北東側草地			草地
		石山外畑町内樹林			アラカシ・コナラ林
		新宵待橋南東側林道			ヒノキ林
平成17年度 (2003年)		アベマキーコナラ群集1	ST-1	平成14年度天ヶ瀬ダム国調（植物）で設定された調査対象環境毎に1箇所以上の調査地点を設定した。	植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。
		スギ・ヒノキ植林2	ST-4 KT-2		植生面積第2位群落。樹冠に覆われ薄暗い。水量豊富な沢がある。
		アカマツーモチツツジ群集	ST-2		植生面積第3位の群落。尾根にあり、日当たりは良く、水域は存在しない。
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集	ST-6		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。ヤナギ林と湿性草原がまとまる場。
		湿原	ST-5		イネ科植物が密生し細流や水たまりが見られる
		河畔2	ST-7		主な流入河川である信楽川沿い。
		その他2	ST-3 KT-1		急峻な谷地形で周囲はスギーヒノキ植林。水量が豊富な沢が存在。

表 6.2-23(3)　両生類・爬虫類・哺乳類調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点	調査地点設定根拠
平成7年度 (1995年)	コウモリ類調査(夜間調査)	詳細不明	詳細不明
平成12年度 (1998年)		湖岸道路沿い及び集落周辺	ダム湖や集落周辺一帯が見渡せる場所
平成17年度 (2003年)		コウモリ調査地点 P1（その他の調査区域6）	天ヶ瀬ダム提体上に位置する。天ヶ瀬ダム湖とダム提体下流川が見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P2（その他の調査区域7）	田原川合流部に位置する。天ヶ瀬ダム湖と田原川の合流部付近一帯を見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P3（その他の調査区域8）	大峰橋上に位置する。大峰橋の周囲一帯が見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P4（その他の調査区域9）	喜撰山大橋下流川に位置する。左岸川より天ヶ瀬ダム湖を見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P5（その他の調査区域10）	喜撰山大橋上に位置する。喜撰山大橋の周囲一帯が見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P6（その他の調査区域11）	曽束大橋付近に位置する。曽束川の合流部付近一帯を見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P7（その他の調査区域12）	宇治発電所導水路東側に位置する。南大津大橋の周囲一帯を広く見渡せる地点。
		コウモリ調査地点 P8（その他の調査区域13）	瀬田川鹿跳橋下流川に位置する。信楽川の合流部付近一帯を見渡せる地点。周囲には集落が存在する。

表 6.2-24(1)　両生類・爬虫類・哺乳類調査における調査努力量

平成7年度 （哺乳類調査は平成7年秋季から平成8年夏季にかけて調査を行っている）							
調査ルート	両生類・爬虫類			哺乳類			
	春季	夏季	秋季	秋季	冬季	春季	夏季
R1	2人	2人	2人	4人	2人	2人	2人
R2	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R3	2人	4人	2人	6人	2人	4人	2人
R4	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R5	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R6	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R7	2人	2人	2人	2人	2人	4人	2人
R8	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R9	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
R10	2人	4人	2人	2人	2人	2人	2人

平成12年度							
調査ルート	両生類・爬虫類			哺乳類			
	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	冬季
R1	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R2	－	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R3	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R4	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R5	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R6	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R7	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R8	8人	8人	－	8人	8人	8人	8人
R9	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
R10	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
ダムサイト周辺～曽束大橋、大石曽束町～大石龍門町	－	－	－	8人（バットディテクターを用いた）	8人（バットディテクターを用いた）	8人（バットディテクターを用いた）	－

平成17年度							
環境	両生類・爬虫類			哺乳類			
	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	冬季
アカマツ－モチツツジ群集	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
アベマキ－コナラ群集1	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
アベマキ－コナラ群集2	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
スギ・ヒノキ植林1	3人・日	3人・日	3人・日（+3人・日（※1））	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
スギ・ヒノキ植林2	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他1	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他2	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他3	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他4	3人・日	3人・日	3人・日（+3人・日（※1））	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他5	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
その他6（コウモリ調査地点P1）	5人・日	6人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	－
その他7（コウモリ調査地点P2）	－	－	－	3人・日	3人・日	3人・日	－
その他8（コウモリ調査地点P3）	－	－	－	2人・日	3人・日	3人・日	－
その他9（コウモリ調査地点P4）	－	－	－	2人・日	3人・日	3人・日	－
その他10（コウモリ調査地点P5）	－	－	－	3人・日	3人・日	3人・日	－
その他11（コウモリ調査地点P6）	－	－	－	3人・日	3人・日	3人・日	－
その他12（コウモリ調査地点P7）	－	－	－	2人・日	3人・日	3人・日	－
その他13（コウモリ調査地点P8）	－	－	－	2人・日	3人・日	3人・日	－
その他99	－	－	－	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
ヤナギタデ－オオオナモミ群落	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
河畔1	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
河畔2	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
湿原	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
林縁部1	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
林縁部2	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日	3人・日
備考	※1　両生類のみの調査			－	－	－	－
	※2　爬虫類のみの調査			－	－	－	－

表 6.2-24(2)　両生類・爬虫類・哺乳類調査における調査努力量

（哺乳類トラップ調査）

平成7年度					
地点区分	環境	調査時期	トラップの種類	個数	調査日数
ダムサイト北側樹林	アカマツ・コナラ林	春季	ヴィクター	30	2晩
ダムサイト北側樹林	アカマツ・コナラ林	秋季	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋北東側樹林	コナラ・クヌギ林	春季	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋北東側樹林	コナラ・クヌギ林	秋季	ヴィクター	30	2晩
喜撰山南東側樹林	スギ林	春季	ヴィクター	30	2晩
喜撰山南東側樹林	スギ林	秋季	ヴィクター	30	2晩
曽束大橋西側草地	草地	春季	ヴィクター	30	2晩
曽束大橋西側草地	草地	秋季	ヴィクター	30	2晩
石山外畑町内樹林	アラカシ･コナラ林	春季	ヴィクター	30	2晩
石山外畑町内樹林	アラカシ･コナラ林	秋季	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋北東側林道	ヒノキ新植林	春季	モグラトラップ	4	2晩
新宵待橋北東側林道	ヒノキ新植林	秋季	モグラトラップ	4	2晩

平成12年度					
地点区分	環境	調査時期	トラップの種類	個数	調査日数
ダムサイト北側樹林	アカマツ・コナラ林	春	ヴィクター	30	2晩
ダムサイト北側樹林	アカマツ・コナラ林	秋	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋東側樹林	コナラ･クヌギ林	春	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋東側樹林	コナラ･クヌギ林	秋	ヴィクター	30	2晩
喜撰山大橋南側樹林	スギ林	春	ヴィクター	30	2晩
喜撰山大橋南側樹林	スギ林	秋	ヴィクター	30	2晩
曽束大橋西側草地	草地	春	ヴィクター	30	2晩
曽束大橋西側草地	草地	秋	ヴィクター	30	2晩
大石スポーツ村北東側草地	草地	春	モグラトラップ	4	2晩
石山外畑町内樹林	アラカシ･コナラ林	春	ヴィクター	30	2晩
石山外畑町内樹林	アラカシ･コナラ林	秋	ヴィクター	30	2晩
新宵待橋南東側林道	ヒノキ林	秋	モグラトラップ	4	2晩

平成17年度					
地点区分	環境	調査時期	トラップの種類	個数	調査日数
－	アベマキ－コナラ群集	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	アベマキ－コナラ群集	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	アカマツ－モチツツジ群集	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	アカマツ－モチツツジ群集	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	スギ・ヒノキ植林	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	スギ・ヒノキ植林	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	スギ・ヒノキ植林	春季	カゴワナ	10	2晩
－	スギ・ヒノキ植林	秋季	カゴワナ	10	2晩
－	ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	湿原	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	湿原	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	河畔	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	河畔	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	その他	春季	シャーマントラップ	20	2晩
－	その他	秋季	シャーマントラップ	20	2晩
－	その他	春季	カゴワナ	10	2晩
－	その他	秋季	カゴワナ	10	2晩

出典：6-15～6-17

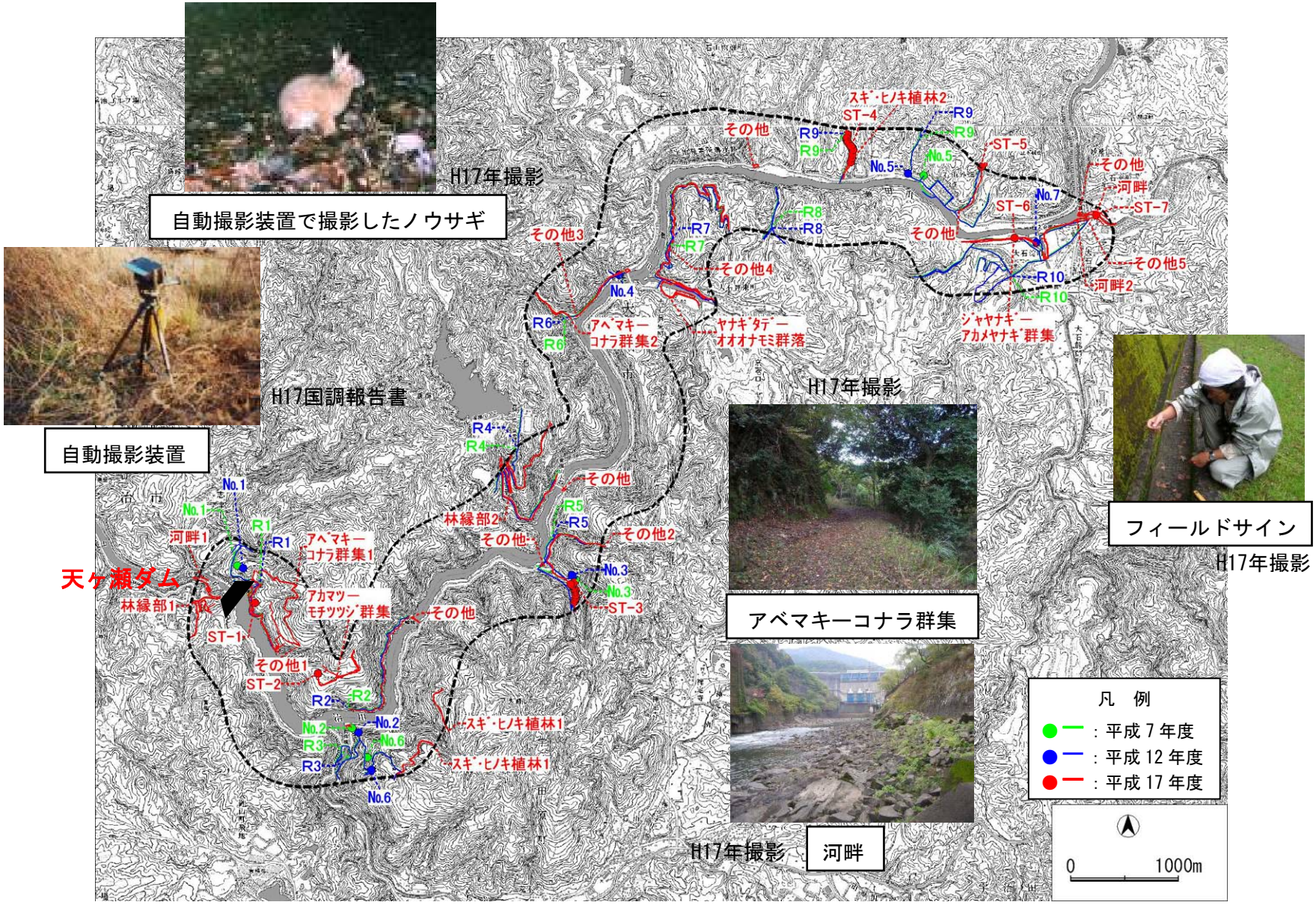


図 6.2-7　両生類・爬虫類・哺乳類調査地点

出典：6-15～17

(8)陸上昆虫類等(参考)

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査実施状況を以下に示す。

陸上昆虫類等調査の調査内容を表 6.2-25に、調査努力量を表 6.2-27に、調査位置を図 6.2-8に示す。

平成 7 年(1995 年)度、平成 11 年(1999 年)度、平成 16 年(2004 年)度の、春、夏、秋、冬季の年 4 季に、ダム湖周辺において、任意採集法、目撃法、ライトトラップ法、ピットフォールトラップ法を用いて調査を実施した。

なお、調査地点の設定については、ダム周辺の代表的な群落、河畔等の多様な環境を反映できるように配慮して行った。鳥類調査の調査地点設定根拠を表 6.2-26に示す。

表 6.2-25　陸上昆虫類等調査実施状況

年度	調査番号	調査件名	調査時期				調査方法
			春	夏	秋	冬	
平成 7 年度 (1995年)	7	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫類等調査	4･5月	6･7月	10月	1月	任意採集法・目撃法 ライトトラップ法 ピットフォールトラップ法
平成11年度 (1999年)	17	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫類等調査	4･5月	6･7月	10月	12月	任意採集法・目撃法 ライトトラップ法 ピットフォールトラップ法
平成16年度 (2004年)	25	河川水辺の国勢調査による陸上昆虫類等調査	4･5月	6･7月	10月	12月	任意採集法 ライトトラップ法 ピットフォールトラップ法

表 6.2-26(1)　陸上昆虫類等調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点		調査地点設定根拠	
平成7年度 (1995年)	任意採集法	10ルート（R1～R10）		ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
平成11年度 (1999年)		10ルート（R1～R10）		ダム湖及びその周辺の環境と調査対照範囲全体のバランスを考慮して設定した。	
平成16年度 (2004年)		アベマキーコナラ群集1	R1	平成14年度天ヶ瀬ダム国調（植物）で設定された調査対象環境毎に1箇所以上の調査対象区域を設定し、調査対象区域外の箇所における調査ルートを併せて設定し、17ルート（ルート探索法）を設定した。	植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。
		アベマキーコナラ群集2	R2		植生面積第1位群落。急峻な谷地形で薄暗い。水量豊富な沢が存在する。
		スギ・ヒノキ植林1	R3		植生面積第2位群落。林床には落葉や倒木が多い。水量が少なく水枯れする。
		スギ・ヒノキ植林2	R4		植生面積第2位群落。樹冠に覆われ薄暗い。水量豊富な沢がある。
		アカマツーモチツツジ群集	R5		植生面積第3位の群落。尾根にあり、日当たりは良く、水域は存在しない。
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集	R6		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。ヤナギ林と湿性草原がまとまる場。
		ヤナギタデーオオオナモミ群集	R7		天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。干出時にヤナギタデーオオオナモミ群落、ウキヤガラ群落が広がる。
		湿原	R8		スギーヒノキ植林に囲まれ、細流や湿原が存在する。
		林縁1	R9		車道沿いの明るい林縁環境。周囲はアベマキーコナラ群集。
		林縁2	R10		喜撰山ダム管理用道路。周囲はアベマキーコナラ群集、アカマツーモチツツジ群集。
		河畔1	R11		ダムサイト下流約250m。ダム下流河川における河川環境を把握できる。
		河畔2	R12		主な流入河川である信楽川沿い。河原は砂礫、草地、提内地は宅地、畑地、竹林である、
		その他1	R13		植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。。
		その他2	R14		急峻な谷地形で周囲はスギーヒノキ植林。水量が豊富な沢が存在。
		その他3	R15		比較的急斜面だが、エコトーンが形成されている。
		その他4	R16		湖岸道路で、アベマキーコナラ群集やアカマツーモチツツジ群集と接する。
		その他5	R17		主な流入河川である大石川沿い。河原は砂礫、草地、提内地は水田など。

表 6.2-26(2)　陸上昆虫類等調査地点設定根拠

年度	調査内容	調査地点		調査地点設定根拠
平成7年度 (1995年)	ライトトラップ法	大峰橋（右岸）	L1	ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。
		喜撰山大橋（左岸）	L2	
		曽束大橋（右岸）	L3	
		鹿跳橋（左岸）	L4	
	ピットフォールトラップ法	ダムサイト（右岸）	P1	
		宵待橋（左岸）	P2	
		喜撰山大橋（左岸）	P3	
		曽束大橋（右岸）	P4	
		鹿跳橋（右岸）	P5	
平成11年度 (1999年)	ライトトラップ法	大峰橋（右岸）	L1	ダム湖及びその周辺の環境と調査対象範囲全体のバランスを考慮して設定した。
		喜撰山大橋（左岸）	L2	
		曽束大橋（右岸）	L3	
		鹿跳橋（左岸）	L4	
	ピットフォールトラップ法	ダムサイト（右岸）	P1	
		宵待橋（左岸）	P2	
		喜撰山大橋（左岸）	P3	
		曽束大橋（右岸）	P4	
		鹿跳橋（右岸）	P5	
平成16年度 (2004年)	ライトトラップ法	アベマキーコナラ群集1	L1	植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。
		アカマツーモチツツジ群集	L2	植生面積第3位の群落。尾根にあり、日当たりは良く、水域は存在しない。
		スギ・ヒノキ植林2	L3	植生面積第2位群落。樹冠に覆われ薄暗い。水量豊富な沢がある。
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集	L4	天ヶ瀬ダム周辺に特徴的な群落。干出時にヤナギタデーオオオナモミ群落、ウキヤガラ群落が広がる。
	ピットフォールトラップ法	アベマキーコナラ群集1	P1	植生面積第1位群落。日当たりが良好で落葉の堆積は少ない。
		アカマツーモチツツジ群集	P2	植生面積第3位の群落。尾根にあり、日当たりは良く、水域は存在しない。
		アベマキーコナラ群集2	P3	植生面積第1位群落。急峻な谷地形で薄暗い。水量豊富な沢が存在する。
		スギ・ヒノキ植林2	P4	植生面積第2位群落。樹冠に覆われ薄暗い。水量豊富な沢がある。
		河畔2	P5	主な流入河川である信楽川沿い。河原は砂礫、草地、提内地は宅地、畑地、竹林である、

表 6.2-27(1)　陸上昆虫類等調査における調査努力量

	春季		夏季		秋季	
ルートNo	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数
R-1	1860	2	1860	2	1860	2
R-2	1320	2	1320	2	1320	2
R-3	1180	2	1180	2	1180	2
R-4	1040	2	1040	2	1040	2
R-5	1010	2	1010	2	1010	2
R-6	1740	2	1740	2	1740	2
R-7	2480	2	2480	2	2480	2
R-8	400	2	400	2	400	2
R-9	1800	2	1800	2	1800	2
R-10	2200	2	2200	2	2200	2

平成11年度						
	春季		夏季		秋季	
ルートNo	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数
R-1	1860	2	1860	3	1860	2
R-2	1320	2	1320	3	1320	2
R-3	1180	2	1180	3	1180	2
R-4	1040	2	1040	3	1040	2
R-5	1010	2	1010	3	1010	2
R-6	1740	2	1740	3	1740	2
R-7	2480	2	2480	3	2480	2
R-8	400	2	400	3	400	2
R-9	1800	2	1800	3	1800	2
R-10	2200	2	2200	3	2200	2

平成16年度						
	春季		夏季		秋季	
ルートNo	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数	踏査距離(m)	延べ人数
アベマキ-コナラ群集1	470	3	470	2	470	3
アベマキ-コナラ群集2	340	2	340	2	340	3
スギ・ヒノキ植林1	680	2	680	2	680	3
スギ・ヒノキ植林2	460	2	460	2	460	3
アカマツ－モチツツジ	420	2	420	2	420	2
ジャヤナギ	630	2	630	2	630	3
ヤナギタデ	690	2	690	2	690	3
湿原	100	2	100	2	100	2
林縁1	1260	2	1260	2	1260	3
林縁2	2740	2	2740	2	2740	3
河畔1	330	2	330	2	330	2
河畔2	270	2	270	2	270	3
その他1	890	3	890	2	890	3
その他2	990	2	990	2	990	3
その他3	1270	2	1270	2	1270	2
その他4	1390	2	1390	2	1390	3
その他5	1270	2	1270	2	1270	3
その他全域	2220	4	2220	4	2220	4

表 6.2-27(2)　陸上昆虫類等調査における調査努力量

平成7年度									
環境	調査地点	調査地点No	調査回	採集方法	昼光色蛍光灯w	紫外線灯w	実施時間	設定方向	備考
－	大峰橋(右岸)	L1	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	春季	ボックス法	6	6	13:10		カーテン法終了時点灯
－	大峰橋(右岸)	L1	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	大峰橋(右岸)	L1	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	秋季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	春季	ボックス法	6	6	13:40		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	秋季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	春季	ボックス法	6	6	13:30		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	秋季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	春季	ボックス法	6	6	13:40		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	秋季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯

平成11年度									
環境	調査地点	調査地点No	調査回	採集方法	昼光色蛍光灯w	紫外線灯w	実施時間	設定方向	備考
－	大峰橋(右岸)	L1	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	春季	ボックス法	6	6	12:10		カーテン法終了時点灯
－	大峰橋(右岸)	L1	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	夏季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
－	大峰橋(右岸)	L1	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	大峰橋(右岸)	L1	秋季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	春季	ボックス法	6	6	12:50		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	夏季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	喜撰山大橋(左岸)	L2	秋季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	春季	ボックス法	6	6	12:10		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	曽束大橋(右岸)	L3	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	曽束大橋(右岸)	L3	秋季	ボックス法	6	6	12:45		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	春季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	春季	ボックス法	6	6	12:20		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	夏季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	夏季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
－	鹿跳橋(左岸)	L4	秋季	カーテン法	6	12	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
－	鹿跳橋(左岸)	L4	秋季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯

平成16年度									
環境	調査地点	調査地点No	調査回	採集方法	昼光色蛍光灯w	紫外線灯w	実施時間	設定方向	備考
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	春季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	春季	ボックス法	6	6	12:00		カーテン法終了時点灯
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	夏季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	夏季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	秋季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アベマキ－コナラ群集1	－	L1	秋季	ボックス法	6	6	13:10		カーテン法終了時点灯
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	春季	カーテン法	18	20	2:00	植林の方向	開始より2時間実施
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	春季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	夏季	カーテン法	18	20	2:00	植林の方向	開始より2時間実施
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	夏季	ボックス法	6	6	10:30		カーテン法終了時点灯
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	秋季	カーテン法	18	20	2:00	植林の方向	開始より2時間実施
スギ・ヒノキ植林2	－	L2	秋季	ボックス法	6	6	13:00		カーテン法終了時点灯
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	春季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	春季	ボックス法	6	6	11:30		カーテン法終了時点灯
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	夏季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	夏季	ボックス法	6	6	10:00		カーテン法終了時点灯
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	秋季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
アカマツ－モチツツジ群集	－	L3	秋季	ボックス法	6	6	19:40		カーテン法終了時点灯
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	春季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	春季	ボックス法	6	6	10:30		カーテン法終了時点灯
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	夏季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	夏季	ボックス法	6	6	12:20		カーテン法終了時点灯
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	秋季	カーテン法	18	20	2:00	湖岸の方向	開始より2時間実施
ジャヤナギ－アカメヤナギ群集	－	L4	秋季	ボックス法	6	6	13:20		カーテン法終了時点灯

表 6.2-27(3)　陸上昆虫類等調査における調査努力量

平成7年度						
地点番号	調査法	地点区分	地点の特徴	春	夏	秋
P1	ピットフォールトラップ法	ダムサイト(右岸)	(右岸)広葉樹林の林床	47時間30分	72時間00分	43時間50分
P2	ピットフォールトラップ法	宵待橋(左岸)	(左岸)広葉樹林の林縁部	44時間40分	76時間30分	45時間30分
P3	ピットフォールトラップ法	喜撰山大橋(左岸)	(左岸)スギヒノキ植林の林縁部	42時間40分	81時間00分	48時間10分
P4	ピットフォールトラップ法	曽束大橋(右岸)	(右岸)草原・湿原	47時間20分	69時間00分	50時間40分
P5	ピットフォールトラップ法	鹿跳橋(右岸)	(右岸)スギヒノキ植林の林床	46時間55分	68時間20分	52時間40分

平成11年度						
地点番号	調査法	地点区分	地点の特徴	春	夏	秋
P1	ピットフォールトラップ法	ダムサイト(右岸)	(右岸)広葉樹林の林床	49時間30分「	48時間00分	48時間50分
P2	ピットフォールトラップ法	宵待橋(左岸)	(左岸)広葉樹林の林縁部・河岸草原	49時間05分	48時間10分	47時間30分
P3	ピットフォールトラップ法	喜撰山大橋(左岸)	(左岸)スギ・ヒノキ植林の林縁部	48時間30分	47時間55分	46時間40分
P4	ピットフォールトラップ法	曽束大橋(右岸)	(右岸)草原・湿原・広葉樹林の林縁部	47時間55分	45時間50分	50時間10分
P5	ピットフォールトラップ法	鹿跳橋(右岸)	(右岸)スギ・ヒノキ植林の林床	47時間30分	44時間50分	49時間10分

平成16年度						
地点番号	調査法	地点区分	地点の特徴	春	夏	秋
P1	ピットフォールトラップ法	アベマキ－コナラ群集1	明るいコナラ林	44時間05分	46時間00分	53時間55分
P2	ピットフォールトラップ法	アカマツ－モチツツジ群集	尾根付近のアカマツ林	48時間20分	48時間30分	47時間00分
P3	ピットフォールトラップ法	アベマキ－コナラ群集2	渓流のある混交林	47時間25分	48時間15分	46時間00分
P4	ピットフォールトラップ法	スギ・ヒノキ植林2	暗いスギ－ヒノキの植林、付近に沢がある	43時間20分	42時間00分	51時間30分
P5	ピットフォールトラップ法	河畔2	ツルヨシの多い砂利の川原	48時間50分	47時間10分	45時間50分

出典：6-18～20

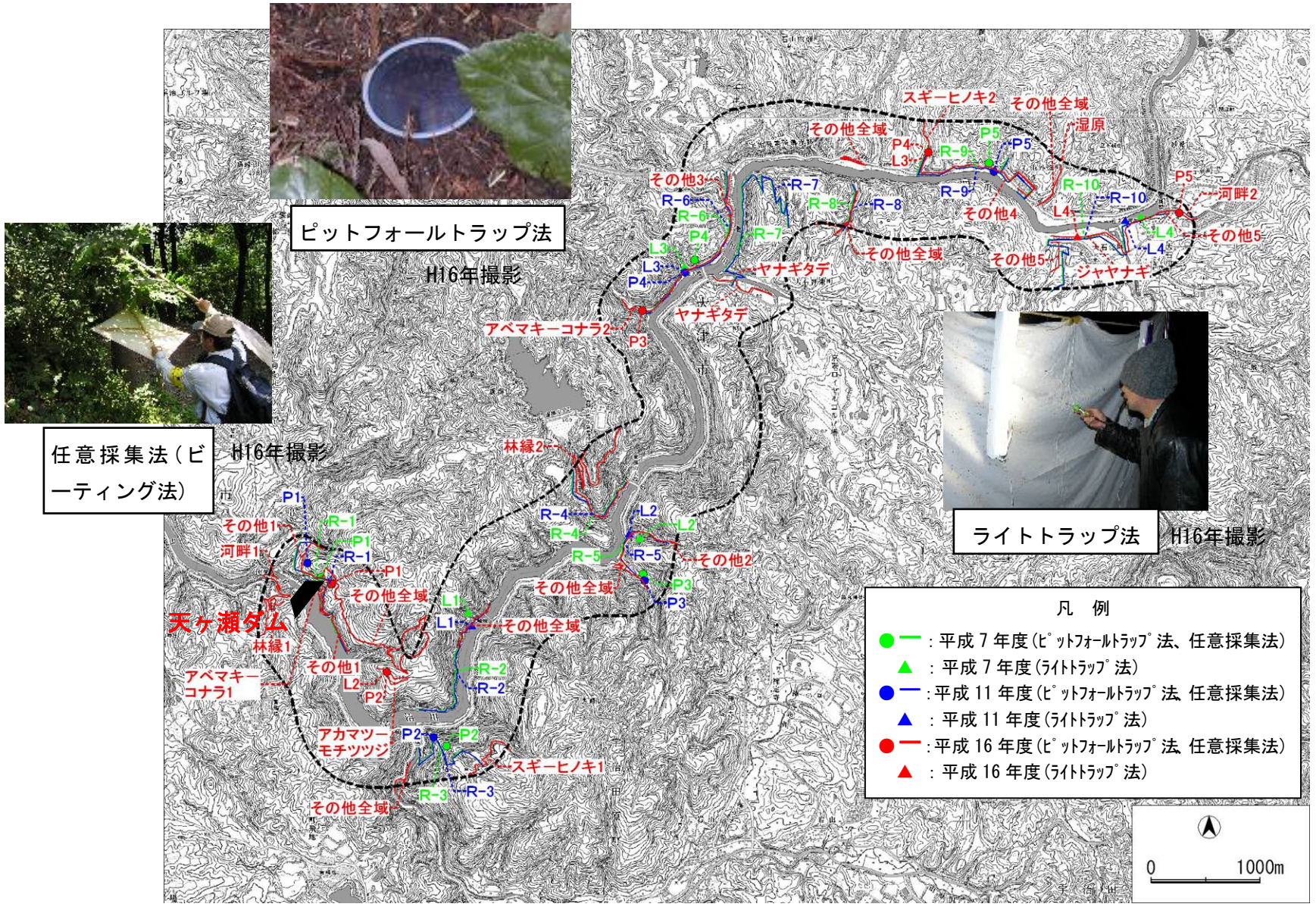


図 6.2-8　陸上昆虫類等調査地点

出典：6-18～20

6.3ダム湖及びその周辺の環境の把握

6.3.1淀川水系の自然環境の特徴

近畿圏の中心を貫いている淀川水系は、下流部に大阪市、中流部に京都市やその他数多くの衛星都市をかかえ、関西地方の社会、経済、文化の基盤をなしており、古くから我が国の政治経済の中心として栄え、人々の生活・文化を育んできた。また、琵琶湖国定公園をはじめとする 6 国定公園と 10 府県立自然公園があり、豊富で優れた自然環境を有している。

淀川水系を大別すると、①本川上流の琵琶湖とその流入河川、②瀬田川を経て宇治川まで、③左支川木津川、④右支川桂川、⑤三川合流後の淀川、⑥猪名川・神崎川の 6 つに分けることができる。

琵琶湖は、湖面積 674km^2、容積 275 億 m^3 という日本最大の淡水湖で、姉川、安曇川等直接流入している河川だけでも 118 本を数える。その流域面積は 3,848km^2(琵琶湖含む)で淀川流域の約 47%を占める。琵琶湖は、約 400 万年前にできたといわれる世界でも有数の古代湖であり、ビワコオオナマズ、ビワマス、セタシジミ等の 50 種を超える固有種をはじめ、1,000 種以上の生物が生息・生育・繁殖している。特に沿岸帯は生物相が豊かであり、水際にはヨシ等の抽水性植物の群落形成が見られ、コイ、フナ類をはじめ、多くの魚類の生息や産卵・成育の場となっている。また琵琶湖は平成 5 年 6 月に「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)」の登録湿地に指定されている。一方、近年琵琶湖固有種の減少や外来種の増加、湖辺のヨシ群落等の生物の生息・生育・繁殖環境の減少が見られている。

瀬田川は、琵琶湖からの唯一の流出河川であり、琵琶湖の南端から瀬田川洗堰を経て流下し、京都府域からは宇治川と名を変え山城盆地を貫流する。瀬田川洗堰より下流では、オイカワやシマトビケラ類等の流水域を好むものが数多く見られる。また、鹿跳渓谷、天ヶ瀬ダムが存在し、ヤマセミ等に代表される渓流環境を好む種も見られる。

京都府域に入り、さらに下流の向島付近では広大なヨシ原が形成され、オオヨシキリの繁殖地、ツバメのねぐら等野鳥の生息地となっており、冬季にはカモ類が多く飛来し、採餌、休息、繁殖場となっている。また宇治橋付近では、河床材料が礫質であって流量の安定した流水域を好むとされる絶滅危惧種のナカセコカワニナが確認されている。

三川合流点から枚方大橋までの区間では、河岸に発達した寄り洲が見られ、オイカワ、モツゴ、カマツカ等が見られる。また、オオヨシキリをはじめとする多数の野鳥が生息し、トビ、チュウヒ等の猛禽類も見られる。また、鵜殿を代表とするヨシ原が広がっている。

淀川大堰湛水区間では、城北や庭窪のワンド群、豊里のたまり群等があり、イシガイ、ドブガイをはじめとして、琵琶湖・淀川水系の固有種で、かつての巨椋池に生息した絶滅危惧種のオグラヌマガイ、レンズヒラマキガイや、イタセンパラをはじめとするタナゴ類などの魚介類が見られる。また、ワンド、たまり周辺のヨシ群落ではオオヨシキリが見られるほか、水鳥の休息場やツバメのねぐらになっている。

淀川大堰から河口までの区間は、汽水域となっており、十三から西中島にかけてスナガニ等の底生動物が生息し、これらをシギ・チドリ類が採餌し、休息地として利用している干潟がある。また、水際部ではシオクグ、ウラギクといった塩性植物が見られる。

「淀川水系河川整備計画　平成 21 年 3 月 31 日　近畿地方整備局」より抜粋

6.3.2ダム湖及びその周辺で確認された生物の特徴

(1)魚類

1)魚類相の概況

天ヶ瀬ダム周辺で確認された魚類は、「天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査」によると、平成2年(1990年)度～3年(1991年)度調査において3目6科22種、平成6年(1994年)度調査において5目9科36種、平成8年(1996年)度調査において5目10科34種、平成13年(2001年)度調査において6目11科35種、平成19年(2007年)度調査において5目10科33種の合計8目16科52種であった。

天ヶ瀬ダム下流河川の隠元橋地点については「淀川河川水辺の国勢調査」結果から整理した。その結果、確認種数は、平成2年(1990年)度が3目4科9種、平成6年(1994年)度～7年(1995年)度が2目4科13種、平成11年(1999年)度が3目6科16種、平成16年(2004年)度が3目5科18種、平成19年(2007年)度が5目8科20種の合計6目10科30種であった（表 6.3-1)。

表 6.3-1　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の確認状況

No.	目名	科名	種名	【隠元橋】					【天ヶ瀬ダム河川水辺国勢調査】				
				H2	H6･7	H11	H16	H19	H2･3	H6	H8	H13	H19
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ									●	●
2	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ								●		
3	コイ目	コイ科	コイ					●	●	●	●	●	●
4			ゲンゴロウブナ						●	●			
5			ギンブナ		●		●	●	●	●	●	●	●
6			ニゴロブナ						●				
－			フナ属		○	●							●
7			カネヒラ			●	●	●		●	●	●	●
8			シロヒレタビラ							●			
9			タイリクバラタナゴ		●		●				●	●	
－			タナゴ亜科										○
10			ハクレン							●	●	●	
11			ワタカ						●				
12			ハス	●	●	●	●	●	●	●	●		
13			オイカワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14			カワムツ						●	●	●	●	●
15			ヌマムツ							●	●	●	
－			オイカワ属										●
16			アブラハヤ							●	●		
17			タカハヤ										●
－			ヒメハヤ属										●
18			モツゴ	●		●	●	●	●	●	●	●	
19			カワヒガイ		●								
20			ビワヒガイ		●					●	●	●	●
－			ヒガイ属						●				○
21			ムギツク							●	●	●	●
22			ホンモロコ						●	●			
23			ゼゼラ						●	●	●	●	
24			カマツカ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25			コウライニゴイ					●		●	●	●	●
26			ニゴイ	●	●	●		●	●				
－			ニゴイ属				●	●					●
27			デメモロコ							●			
28			スゴモロコ						●				
29			コウライモロコ	●	●	●	●	●		●	●	●	●
－			スゴモロコ属										○
30		ドジョウ科	ドジョウ							●	●	●	●
31			アジメドジョウ								●	●	●
32			シマドジョウ							●	●	●	●
33			スジシマドジョウ中型種			●	●						
34			スジシマドジョウ大型種							●	●	●	●
－			スジシマドジョウ類		●				●				
35	ナマズ目	ギギ科	ギギ			●			●	●	●	●	●
36		ナマズ科	イワトコナマズ							●		●	
37			ビワコオオナマズ						●	●	●	●	●
38			ナマズ			●	●	●		●		●	○
－			ナマズ属										○
39		アカザ科	アカザ							●		●	
40	サケ目	アユ科	アユ					●		●	●	●	●
41		サケ科	アマゴ								●	●	
42	ダツ目	メダカ科	メダカ	●								●	
43	カサゴ目	カジカ科	ウツセミカジカ					●		●			
44	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ										●
45		サンフィッシュ科	ブルーギル			●	●	●	●	●	●	●	●
46			オオクチバス(ブラックバス)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
47		ボラ科	ボラ					●					●
48		ハゼ科	ドンコ				●			●	●	●	●
49			ウキゴリ				●			●	●	●	●
50			トウヨシノボリ(型不明)		●	●	●			●	●	●	●
51			カワヨシノボリ			●	●	●	●		●	●	●
－			ヨシノボリ属										●
52			ヌマチチブ	●	●	●	●	●		●	●	●	●
53			チチブ						●				
54		タイワンドジョウ科	カムルチー								●		
種類数合計				9	13	16	18	20	22	36	34	35	33
				30					52				

○:目視確認のみの種

出典：6-1～6-5、6-21～6-25

2)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における魚類の重要種の確認状況を表 6.3-2に示す。

天ヶ瀬ダム湖周辺においては、「天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査」において、平成 2 年(1990 年)度～3 年(1991 年)度調査で 3 目 5 科 14 種、平成 6 年(1994 年)度に 5 目 8 科 26 種、平成 8 年(1996 年)度に 5 目 8 科 22 種、平成 13 年(2001 年)度に 6 目 10 科 24 種、平成 19 年(2007 年)度に 5 目 8 科 19 種の合計 8 目 13 科 37 種の重要種が確認された。環境省のレッドリストに指定されているものでは、絶滅危惧ⅠA 類に指定されているホンモロコ、絶滅危惧ⅠB類に指定されているゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、シロヒレタビラ、ワタカ、スジシマドジョウ大型種、ウツセミカジカが確認されているが、スジシマドジョウ大型種以外は、平成 6 年度調査以来確認されていない。

また、下流河川の隠元橋では、「淀川河川水辺の国勢調査」において平成 2 年(1990 年)度に 2 目 2 科 3 種、平成 6 年(1994 年)度～7 年(1995 年)度に 1 目 1 科 4 種、平成 11 年(1999 年)度に 3 目 5 科 7 種、平成 16 年(2004 年)度に 3 目 4 科 8 種、平成 19 年(2007 年)度に 5 目 6 科 11 種の合計 6 目 8 科 16 種が確認された。環境省のレッドリストに指定されているものでは、絶滅危惧ⅠB類に指定されているウツセミカジカが平成 19 年度調査で初めて確認された。また、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているハスは毎回確認されたが、メダカは平成 2 年度調査以来確認されていない。

3)外来種

天ヶ瀬ダム周辺における魚類の外来種の確認状況を表 6.3-3に示す。

国内外来種の 3 種(アマゴ、オヤニラミ、ヌマチチブ)を含む、3 目 6 科 8 種が確認された。このうち、ブルーギルとオオクチバス(ブラックバス)の 2 種は、「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物として指定されている。

また、タイリクバラタナゴは『在来生態系に対する被害に関わる一定の知見があり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物』として、カムルチーは『被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物』として要注意外来生物に指定されている。

表 6.3-2　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の重要種の確認状況

No.	目名	科名	種名	【隠元橋】					【天ヶ瀬ダム河川水辺国勢調査】					選定規準				
				H2	H6･7	H11	H16	H19	H2･3	H6	H8	H13	H19	天然記念物	種の保存法	環境省RL	滋賀県RDB	京都府RDB
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ									●	●			VU	増大	危惧
2	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ								●					DD		
3	コイ目	コイ科	コイ					●	●	●	●	●	●			LP	希少	
4			ゲンゴロウブナ						●	●						EN	希少	
5			ギンブナ		●		●	●	●	●	●	●	●				要注目	
6			ニゴロブナ						●							EN	希少	要注目
7			カネヒラ			●	●	●		●	●	●	●				増大	危惧
8			シロヒレタビラ							●						EN	危惧	危惧
9			ワタカ						●							EN	危惧	要注目
10			ハス	●	●	●	●	●	●	●	●					VU	希少	要注目
11			ヌマムツ							●	●	●					分布	準危惧
12			アブラハヤ							●	●						要注目	寸前
13			タカハヤ										●				要注目	
14			モツゴ	●		●	●	●	●	●	●	●					希少	
15			カワヒガイ		●											NT		危惧
16			ビワヒガイ		●					●	●	●	●				希少	
17			ムギツク							●	●	●	●				希少	
18			ホンモロコ						●	●						CR	増大	要注目
19			ゼゼラ						●	●	●	●					希少	危惧
20			コウライニゴイ					●		●	●	●	●				要注目	
21			デメモロコ							●						VU	要注目	要注目
22			スゴモロコ						●							NT	要注目	
23		ドジョウ科	ドジョウ							●	●	●	●				要注目	
24			アジメドジョウ								●	●	●			VU	希少	寸前
25			シマドジョウ							●	●	●	●				要注目	
26			スジシマドジョウ中型種			●	●									VU		寸前
27			スジシマドジョウ大型種							●	●	●	●			EN	危惧	
28	ナマズ目	ギギ科	ギギ			●		●	●	●	●	●	●				増大	
29		ナマズ科	イワトコナマズ							●		●				NT	増大	
30			ビワコオオナマズ						●	●	●	●	●				希少	要注目
31			ナマズ			●	●	●		●		●	○				要注目	
32		アカザ科	アカザ							●		●				VU	希少	危惧
33	サケ目	アユ科	アユ					●		●	●	●	●				分布	
34		サケ科	アマゴ								●	●				NT	要注目	
35	ダツ目	メダカ科	メダカ	●								●				VU	増大	危惧
36	カサゴ目	カジカ科	ウツセミカジカ					●		●						EN	分布	寸前
37	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ										●			VU		危惧
38		ハゼ科	ドンコ				●			●	●	●	●				その他重要	
39			カワヨシノボリ			●	●	●	●		●	●	●				要注目	
種類数合計				3	4	7	8	11	13	26	22	24	19					
				16					37									

重要種の選定基準は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「日本の絶滅のおそれのある野生生物　－レッドリスト(第2次見直し)－　汽水魚類・淡水魚類(環境省　平成19年8月公表)」に記載されている種

CR+EN：絶滅危惧I類(絶滅の危機に瀕している種)

CR：絶滅危惧IA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

EN：絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

VU：絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)

NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

LP：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

d：「滋賀県で大切にすべき野生生物　平成17年版(滋賀県生きもの総合調査委員会編,平成18年3月)」に記載されている種

絶滅：絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ))

危惧：絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕している種)

増大：絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増大している種)

希少：希少種(県内において存続基盤が脆弱な種)

要注目：要注目種(県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種)

分布：分布上重要種(県内において分布上重要な種)

その他重要：その他重要種(全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)

保全：保全すべき群集・群落、個体群(県内において保全することが必要な群集・群落、個体群)

郷土：郷土種(上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの)

e：京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種

絶滅：絶滅種(京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種)

寸前：絶滅寸前種(京都府内において絶滅の危機に瀕している種)

危惧：絶滅危惧種(京都府内において絶滅の危機が増大している種)

準絶：準絶滅危惧種(京都府内において存続基盤が脆弱な種)

要注目：要注目種(京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種)

出典：6-1～6-5、6-21～6-25

表 6.3-3　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の外来種の確認状況

No.	目名	科名	種名	【隠元橋】					【天ヶ瀬ダム河川水辺国勢調査】					選定根拠		
				H2	H6	H11	H16	H19	H2	H6	H8	H13	H19	外来生物法	滋賀県野生動植物条例	京都RDB
1	コイ目	コイ科	タイリクバラタナゴ		●		●				●	●		要注意	外来	要注目（外）
2			ハクレン							●	●	●				要注目（外）
3	サケ目	サケ科	アマゴ								●	●				要注目（内）
4	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ										●		外来（国内）	
5		サンフィッシュ科	ブルーギル			●	●	●	●	●	●	●	●	特定		要注目（外）
6			オオクチバス（ブラックバス）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	特定		要注目（外）
7		ハゼ科	ヌマチチブ	●	●	●	●	●		●	●	●	●			要注目（内）
8		タイワンドジョウ科	カムルチー								●			要注意		要注目（外）
種類数合計				2	3	3	4	3	2	4	7	6	4			
				4					8							

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定：特定外来生物
　要注意：要注意外来生物

「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例(滋賀県琵琶湖環境部自然保護課,平成18年8月)」に記載されている種
　外来：指定外来種
　外来（国内）：指定外来種（国内外来種）

京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種
　要注目(外)：要注目種－外来種（国外外来魚）
　要注目(内)：要注目種－外来種（国内外来魚）

出典：6-1～6-5、6-21～6-25

(2)底生動物

1)底生動物相の概況

天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の調査は、昭和 57 年(1982 年)度から平成 17 年(2005 年)度まで天ヶ瀬ダム湖生物調査、平成 20 年(2008 年)度は天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査として、天ヶ瀬ダム湖、流入河川及び下流河川において行われている。それらの調査において確認された底生動物の確認種数を表 6.3-4に示す。

昭和 57 年度～平成 17 年度の調査で合計 27 目 285 種の底生動物が確認された。

昭和 57 年度～平成 17 年度調査と平成 20 年度調査では、調査回数や調査地区等に違いがあるため、一概には比較できないものの、各調査とも昆虫綱の確認種数が最も多く、なかでもカゲロウ目 54 種、トビケラ目 42 種、ハエ目 67 種と確認種数が多くなっている。

2)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の重要種の確認状況を**表 6.3-5**に示す。

重要種に該当する種は、絶滅危惧Ⅰ類のナカセコカワニナや、絶滅危惧Ⅱ類のマルドブガイ、セタシジミ、ヨコミゾドロムシなどの合計 14 目 19 科 30 種であった。また、滋賀県レッドデータブックにおいて、瀬田川・宇治川の水生昆虫群集(カワゲラ類、カワムラナベブタムシ等)が保全すべき群集・群落、個体群に指定されている。

ナカセコカワニナは平成 11、16 年度調査、マルドブガイは平成 4 年度調査でのみ確認され、セタシジミは平成 11 年からは継続して確認されていたが、平成 20 年度調査では確認されなかった。また、ヨコミゾドロムシは平成 20 年度調査で初めて確認された。

3)外来種

天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の外来種の確認状況を表 6.3-6に示す。

国外外来種(日本国外から持ち込まれた種)として、アメリカナミウズムシ、サカマキガイ、カワヒバリガイ及びアメリカザリガニの 4 目 4 科 4 種が確認された。

このうち、カワヒバリガイは「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物として指定されており、送水管等に密生して通水阻害を引き起こすとともに、カワヒバリガイを中間宿主とする寄生虫が原因で魚病が発生する(平成 12 年に宇治川でオイカワやコウライモロコの大量衰弱が報告されている)など、様々な影響が懸念されている。また、アメリカザリガニは『被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物』として要注意外来生物に指定されている。

表 6.3-4　天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の確認状況

門和名	綱和名	目和名	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20	合計
扁形動物門	渦虫綱	順列目		1	1			1	1	1		1	1				1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	3
軟体動物門	腹足綱	原始紐舌目	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		1					1	1
		盤足目						1	1	2	2	1	1	1	1	1		2	1	3		2	2	2	3	2	3	6
		ミズシタダミ目																1										1
		基眼目	2						1	2					2	1	2		1	1	1	1	1	1		1	2	3
	二枚貝綱	イガイ目													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		イシガイ目					1	2			2		2	1		1		1	1	1		1	1	1	1		2	4
		マルスダレガイ目	1	1		1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	1	1	3	2	2	2	2	2	2	1	3
環形動物門	ミミズ綱	ナガミミズ目																									1	1
		オヨギミミズ目			1													1									1	1
		イトミミズ目	3	2	2	4	3	2	3	3	3	3	3	5	4	5	7	6	6	6	4	5	4	4	3	3	4	10
		ツリミミズ目																									1	1
	ヒル綱	吻蛭目	3	2	1	1		1	1	3			1		2		1	1	1	3	1	2	1	2	1	2	3	7
		無吻蛭目	1	3	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	1		2	2	1	1	1	1	2	1	1	2	2	3
節足動物門	軟甲綱	ヨコエビ目	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	2	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	1	3	3
		ワラジムシ目	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
		エビ目	2	1				3	2	2	2	1	2	2	1	1	2		1	1		2		2		4	6	7
	昆虫綱	カゲロウ目	4	5	2	4	2	8	17	12	15	10	9	16	18	12	21	17	6	11	12	13	8	11	5	23	41	54
		トンボ目		1	1	1		1	4	3		1	5		7	6		4	2	3	2	6	1	2	1	10	16	24
		カワゲラ目						1	3	3	2	1		5	4	1	4	3		2	5	4	2	4	6	6	10	15
		カメムシ目							1				1		1											5	3	9
		ヘビトンボ目			1						1	1	1	1	1												1	1
		アミメカゲロウ目																									1	1
		トビケラ目	11	10	8	5	4	9	13	9	13	10	11	15	17	9	12	10	10	8	8	8	8	9	8	17	28	42
		チョウ目																									1	1
		ハエ目	7	2	11	3	6	5	8	7	6	6	8	10	17	8	2	19	9	15	18	21	6	21	20	24	29	67
		コウチュウ目				1		1					1			1		1				1		1		1	11	14
合計			38	32	31	24	23	40	61	53	53	41	54	63	83	52	60	75	44	63	58	75	42	68	54	107	174	285

出典：6-6、6-30

表 6.3-5　天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の重要種の確認状況

No.	門	綱	目	科	和名	学名	確認状況																							選定基準				
							S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20	a	b	c	d	e
1	軟体動物門	腹足綱	盤足目	カワニナ科	タテヒダカワニナ	*Biwamelania decipiens*								●	●																	NT	分布	
2					ハベカワニナ	*Biwamelania habei*																	●											分布	
3					イボカワニナ	*Biwamelania multigranosa*																●									●			NT	希少	
4					ナカセコカワニナ	*Biwamelania nakasekoae*																		●					●					CR+EN	増大	危惧
5			ミズシタダミ目	ミズシタダミ科	ビワコミズシタダミ	*Biwakovalvata biwaensis*																●											NT	分布	
6			基眼目	モノアラガイ科	モノアラガイ	*Radix auricularia japonica*	●							●					●	●	●		●	●										NT		
7		二枚貝綱	イシガイ目	イシガイ科	マルドブガイ	*Anodonta calipygos*											●																VU	希少	
8					トンガリササノハガイ	*Lanceolaria grayana*						●			●			●													●			NT		
9					タテボシガイ	*Unio douglasiae biwae*																		●		●		●	●						分布	
10			マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	*Corbicula leana*				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				NT	希少	
11					セタシジミ	*Corbicula sandai*	●	●			●						●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●					VU	希少	危惧
12	環形動物門	ヒル綱	吻蛭目	グロシフォニ科	ミドリビル	*Glossiphonia paludosa*		●						●																●			DD		
13					イボビル	*Hemiclepsis japonica*			●										●					●			●		●					DD		
14					スクナビル	*Torix orientalis*															●													DD		
15	節足動物門	軟甲綱	ヨコエビ目	キタヨコエビ科	アンナンデールヨコエビ	*Jesogammarus annandalei*	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					NT	希少	
16			エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	*Neocaridina denticulata*																			●				●	●				危惧	
17					ヌマエビ	*Paratya compressa compressa*						●																						希少	準絶
18				サワガニ科	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*																								●	●			要注目	要注目
19		昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	マダラカゲロウ科	チノマダラカゲロウ	*Uracanthella chinoi*																					●							要注目
20			トンボ目（蜻蛉目）	サナエトンボ科	キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*														●										●					準絶
21					メガネサナエ	*Stylurus oculatus*																							●				NT	増大	
					メガネサナエ属の1種	*Stylurus* sp.																									●			NT		
22				エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	*Macromia daimoji*																									●			NT	増大	危惧
23			カワゲラ目（セキ翅目）	アミメカワゲラ科	フライソンアミメカワゲラ	*Perlodes frisonanus*												●	●						●								NT	要注目	
24			トビケラ目（毛翅目）	ヤマトビケラ科	イノブスヤマトビケラ	*Glossosoma ussuricum*																								●					要注目
25				ナガレトビケラ科	カワムラナガレトビケラ	*Rhyacophila kawamurae*																									●					要注目
26					トランスクィラナガレトビケラ	*Rhyacophila transquilla*																									●					要注目
27				カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	*Lepidostoma japonicum*																					●			●					要注目
28			ハエ目（双翅目）	ナガレアブ科	ハマダラナガレアブ	*Atherix ibis*							●			●		●																	準絶
29			コウチュウ目（鞘翅目）	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	*Leptelmis gracilis*																									●		VU		
30				ホタル科	ゲンジボタル	*Luciola cruciata*											●														●				郷土	要注目
					瀬田川・宇治川の水生昆虫群集																														保全	
					種類数合計		3	3	2	2	3	4	3	5	4	2	5	5	6	5	5	4	4	6	5	5	4	6	5	7	12					

重要種の選定基準は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「日本の絶滅のおそれのある野生生物　－レッドリスト（第2次見直し）－　昆虫類、甲殻類等、陸産貝類・淡水産貝類、クモ形類・多足類等(その他無脊椎動物含む)（環境省　平成18年12月、平成19年8月公表）」に記載されている種

CR+EN：絶滅危惧I類(絶滅の危機に瀕している種)

CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）

EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）

VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）

NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）

DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種）

LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：「滋賀県で大切にすべき野生生物　平成17年版(滋賀県生きもの総合調査委員会編,平成18年3月)」に記載されている種

絶滅：絶滅種（県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ)）

危惧：絶滅危惧種（県内において絶滅の危機に瀕している種）

増大：絶滅危機増大種（県内において絶滅の危機が増大している種）

希少：希少種（県内において存続基盤が脆弱な種）

要注目：要注目種（県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種）

分布：分布上重要種（県内において分布上重要な種）

その他重要：その他重要種（全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種）

保全：保全すべき群集・群落、個体群（県内において保全することが必要な群集・群落、個体群）　　保全すべき群集・群落・個体群：瀬田川・宇治川の水生昆虫群集

郷土：郷土種（上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの）

保全：保全すべき群集・群落・個体群

e：京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種

絶滅：絶滅種（京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種）

寸前：絶滅寸前種（京都府内において絶滅の危機に瀕している種）

危惧：絶滅危惧種（京都府内において絶滅の危機が増大している種）

準絶：準絶滅危惧種（京都府内において存続基盤が脆弱な種）

要注目：要注目種（京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種）

出典：6-6、6-30

表 6.3-6　天ヶ瀬ダム周辺における底生動物の外来種の確認状況

No.	門	綱	目	科	和名	学名	確認状況																							選定根拠		
							S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20	a	b	c
1	扁形動物門	渦虫綱	順列目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカナミウズムシ	*Girardia tigrina*																							●				
2	軟体動物門	腹足綱	基眼目	サカマキガイ科	サカマキガイ	*Physa acuta*	●						●	●					●		●				●	●	●	●		●	●			
3		二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	カワヒバリガイ	*Limnoperna fortunei*													●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	特定		要注目
4	節足動物門	軟甲綱	エビ目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	*Procambarus clarkii*																								●	要注意		要注目

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

a.「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定：特定外来生物
　要注意：要注意外来生物

b.「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例(滋賀県琵琶湖環境部自然保護課,平成18年8月)」に記載されている種
　外来：指定外来種
　外来（国内）：指定外来種（国内外来種）

c. 京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種
　要注目：要注目種－外来種（国外外来種）

注)上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

出典：6-6、6-30

(3)動植物プランクトン

天ヶ瀬ダム周辺における動植物プランクトンの調査は、天ヶ瀬ダム湖生物調査等によって、昭和 50 年(1975 年)度から平成 18 年(2006 年)度までは、天ヶ瀬ダム湖内、流入河川及び下流河川において、平成 19 年(2007 年)及び平成 20 年(2008 年)度は天ヶ瀬ダム湖内において行われている。ただし、平成 20 年(2008 年)度は、動物プランクトン調査は行われていない。

ここでは、それらの調査のうち、最近 5 か年(植物プランクトン：平成 16 年度～平成 20 年度、動物プランクトン：平成 15 年度～平成 19 年度)に確認された確認種数を表 6.3-7、表 6.3-8に示す。

植物プランクトンでは、珪藻綱の種類数が多く、次いで緑藻鋼となっている。動物プランクトンでは、輪形動物門単生殖巣綱の種類数が多い。

表 6.3-7　天ヶ瀬ダム周辺における植物プランクトンの確認状況

綱名	H16	H17	H18	H19	H20
藍藻綱	12	12	10	12	7
珪藻綱	37	36	32	30	22
黄色鞭毛藻綱	5	6	6	6	3
渦鞭毛藻綱	3	4	4	3	1
クリプト藻綱	2	2	3	3	2
緑藻鋼	30	28	30	24	15
合計	89	88	85	78	50

出典：6-30～31

表 6.3-8　天ヶ瀬ダム周辺における動物プランクトンの確認状況

門名	綱名	H15	H16	H17	H18	H19
肉質鞭毛虫門	葉状根足虫綱	3	3	2	1	
	真正太陽虫鋼			1		1
繊毛虫門	キネトフラグミノフォーラ綱			1		1
	少膜綱	2	2		1	
	多膜鋼	3	4	2	3	2
輪形動物門	単生殖巣綱	23	31	23	22	12
	ヒルガタワムシ綱	1	2	2	0	1
節足動物門	顎脚綱	5	5	5	5	2
	葉脚綱	11	9	6	8	1
合計		48	56	42	40	20

出典：6-30

(4)付着生物

天ヶ瀬ダム周辺における付着生物の調査は、天ヶ瀬ダム湖生物調査によって、昭和 50 年(1975年)度から平成 20 年(2008 年)度までダムサイト地点において行われている。

ここでは、それらの調査のうち、最近 5 か年(平成 16 年度～平成 20 年度)に天ヶ瀬ダム周辺において確認された付着生物の確認種数を表 6.3-9に示す。付着生物では、珪藻綱の種類数が最も多い。

表 6.3-9　天ヶ瀬ダム周辺における付着生物の確認状況

門名	綱名	H16	H17	H18	H19	H20
細菌類	-				1	
藍色植物門	藍藻綱	3	4	1	4	4
不等毛植物門	珪藻綱	33	21	20	38	23
クリプト植物門	クリプト藻綱		2	2		
緑色植物門	緑藻綱	3	11	5	12	3
肉質鞭毛虫門	葉状根足虫綱		1			
繊毛虫門	多膜綱	1	2		2	1
	少膜綱	1	1	2	2	2
海綿動物門	普通海綿綱			1		
輪形動物門	単生殖巣綱	2	6	2	5	3
	ヒルガタワムシ綱					1
軟体動物門	二枚貝綱	1				
節足動物門	顎脚綱				1	
	葉脚綱		2	1		
合計		44	48	33	65	37

出典：6-30～6-31

1)重要種

重要種に該当するものは確認されていない。

2)外来種

外来種(国外外来種)として、特定外来生物に指定されているカワヒバリガイ属が確認された。

(5)植物

1)ダム湖周辺の植生の概況

調査範囲は、主に、二次林であるアベマキーコナラ群集、アカマツーモチツツジ群集やスギ・ヒノキ植林で占められている。平成 22 年(2010 年)度調査における天ヶ瀬ダム周辺の植生図を図 6.3-1に示すとともに、天ヶ瀬ダム周辺の植生分布の概況を以下に示す。

a. 天ヶ瀬ダム堤体付近・天ヶ瀬森林公園

ダム関連施設が多くあり、その周辺に広葉樹等植栽地がまとまる。人が近づくことができない急傾斜地にはアラカシ群落が成立している。特徴的なのはシリブカガシ群落であり 2 箇所にみられる。また、仙郷谷川の奥にはエノキ群落がみられる。

天ヶ瀬森林公園域は、アベマキーコナラ群集、アカマツーモチツツジ群集、スギ・ヒノキ植林で占められ、一部の支渓にセンダン植林がみられる。

b. 天ヶ瀬ダム堤体－南大津大橋付近間

ダム堤体から南大津大橋(平成 14 年(2002 年)10 月開通)付近までは、湖面に急勾配の山地斜面がせまり、喜撰山大橋から田原川合流点付近の区間の小支渓沿い等にイロハモミジーケヤキ群集が成立している。特に南向き斜面にあたる左岸側に多くみられる。

水位変動域も急勾配で、地盤は礫混じりの粘土質で崩れやすく、植生基盤としては劣悪となっている。立ち枯れ木が散見でき、こうした急勾配の水位変動域には森林群落はみられない。水際にみられる植生は、イタチハギ群落やヤナギタデーオオオナモミ群落などである。その他、道路沿いではウツギ群落等の陽性低木群落、セイタカアワダチソウ群落等の二次草本群落が散見でき、湖面に接する枝尾根等にはアラカシ群落が成立している。

c. 曽束川、西笠取川合流部

ダム湖に流入する曽束川と西笠取川の下流端付近には緩傾斜～ほぼ平坦の沖積低地がある。貯水位の高い春季(4～5 月)、冬季(11～1 月)にはほぼ冠水し、夏季を中心とした低水位時には陸化する。こうした低湿地にヤナギタデーオオオナモミ群落、ウキヤガラ群落、セイタカヨシ群落、ジャヤナギーアカメヤナギ群集が分布している。

d. 南大津大橋付近－大津市大石間

瀬田川右岸側には緩傾斜の河岸がみられ、ジャヤナギーアカメヤナギ群集が連なり、水際の砂質地にヌマカゼクサ群落がみられる。左岸側の大石淀などには宅地、公園、水田が広がり、河岸にはジャヤナギーアカメヤナギ群集がまとまっている。さらに上流側の信楽川の河川敷はほぼツルヨシ群集で被われ、またネコヤナギ群集もみられ、水位変動の影響のない河川環境下にあると言える。

花崗岩地帯にかかる大津市石山外畑町では、白洲林道沿いと白洲不動尊の奥の谷筋に、イヌノハナヒゲ群落等の貧栄養地植物群落、ハンノキーヌマガヤ群落、ニシゴリ群落などが分布している。

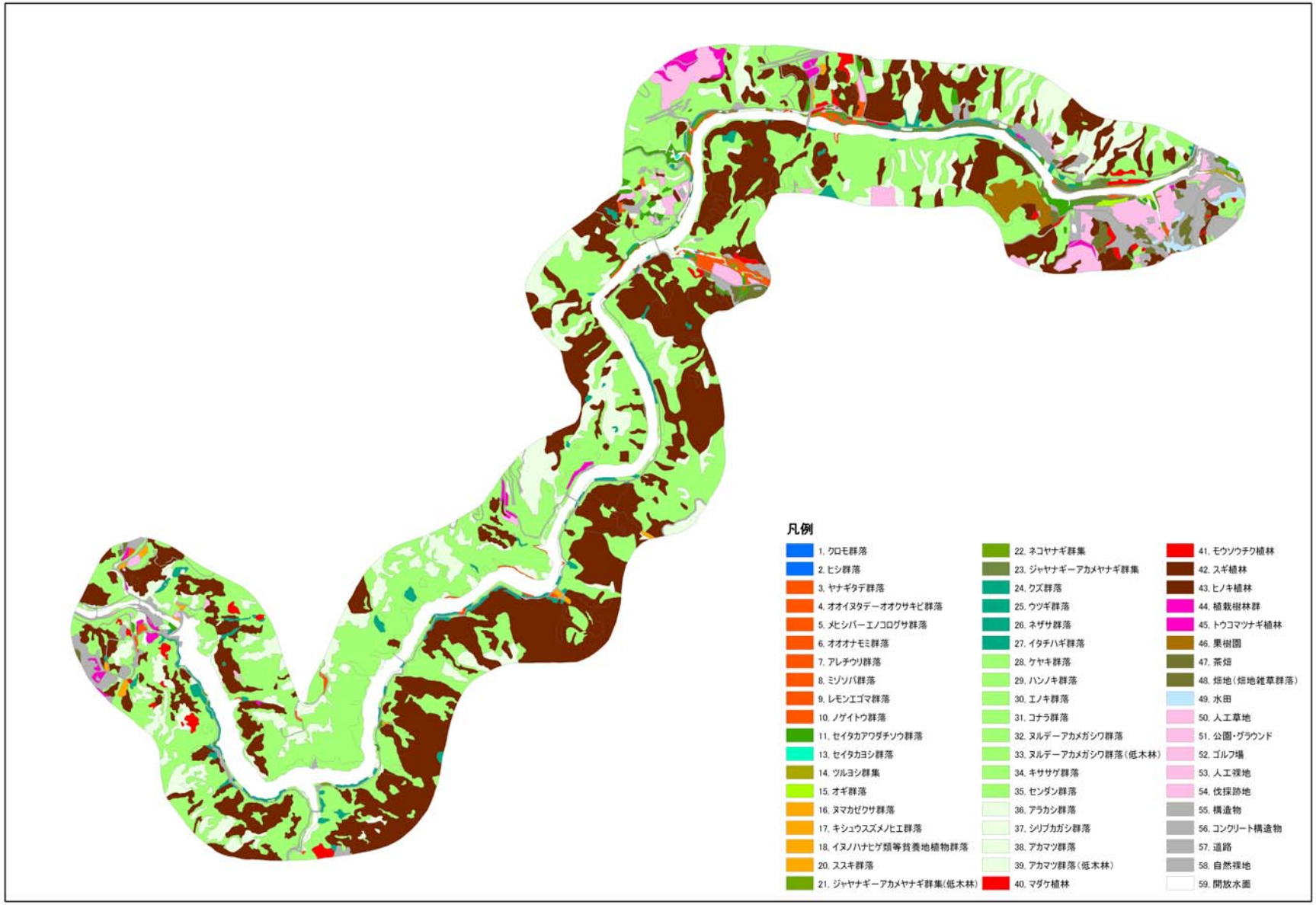


図 6.3-1　天ヶ瀬ダム周辺植生図(平成 22 年度)

出典：6-10

2)植物相の概況

過去 4 回の植物相調査及び群落組成調査等の現地調査の結果、天ヶ瀬ダム周辺においては、157 科 1,170 種の維管束植物(シダ植物以上の高等植物)が確認された。確認種の分類群別の内訳を表 6.3-10に示す。平成 7 年(1995 年)度調査では 140 科 786 種、平成 9 年(1997 年)度調査では 145 科 826 種が、平成 14 年(2002 年)度調査では 151 科 1,020 種が、平成 21～22 年(2009～2010 年)度調査では 139 科 843 種が確認された。

天ヶ瀬ダム周辺における植物の確認状況の詳細は「6.8 種リスト」に示す。

表 6.3-10　天ヶ瀬ダム周辺における植物の確認状況

調査年度				平成 7 年度		平成 9 年度		平成 14 年度		平成 21～22 年度		合計	
分類群				科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物				21	91	20	89	21	122	21	93	21	131
種子植物	裸子植物			5	7	7	10	7	11	5	9	7	12
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	68	310	69	327	73	394	67	343	78	449
			合弁花類	30	193	30	204	31	244	28	195	31	283
		単子葉植物		16	185	19	196	19	249	18	203	20	295
計				140	786	145	826	151	1,020	139	843	157	1,170

出典：6-7～6-10

3)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における植物の重要種の確認状況を表 6.3-11に示す。

天ヶ瀬ダム周辺で確認された種のうち、重要種に該当する植物は 49 科 101 種である。

また、重要種の中でも絶滅のおそれがある等として貴重性が高く評価されている種として、環境省のレッドリスト(平成 19 年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」が 5 種、滋賀県レッドデータブック(平成 17 年)の「絶滅危惧種」が 5 種、京都府レッドデータブック(平成 14 年)の「絶滅種」が 2 種確認された。また、種の保存法(平成 5 年)における国内希少野生動植物、文化財保護法(昭和 51 年)における国、県の天然記念物該当種は確認されなかった。

表 6.3-11(1)　天ヶ瀬ダム周辺における植物の重要種の確認状況

上位分類群	科　名	種　名	確認状況				選定基準					
			平成7年度	平成9年度	平成14年度	平成21～22年度※1	a	b	c	d	e	f
シダ植物	ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ			○	○					希少	危惧
		コハナヤスリ	○	○						C		危惧
	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	○	○	○	○						要注目
	ミズワラビ	ハコネシダ		○	○	○					希少	危惧
		ミズワラビ			○	○				準		要注目
	シシラン	シシラン	○	○	○	◎					その他重要	
	イノモトソウ	アマクサシダ	○	○								危惧
	チャセンシダ	カミガモシダ	○	○	○	○				B	その他重要	準絶
		イヌチャセンシダ	○	○	○	○						要注目
		イワトラノオ			○	△					希少	
		アオガネシダ			○							寸前
	オシダ	コバノカナワラビ	○	○	○	○						要注目
		ヒロハヤブソテツ			○	◎					希少	危惧
		カタイノデ				○					その他重要	
	ウラボシ	クリハラン		○	○						その他重要	
		ヤノネシダ			○	○					その他重要	準絶
		アオネカズラ			○	○				C	危惧	寸前
		ビロウドシダ	○		○	○						危惧
離弁花類	カバノキ	カワラハンノキ	○	○	○	△					その他重要	
	ニレ	コバノチョウセンエノキ				○				C	希少	
	クワ	イヌビワ		○	○						分布上重要	
	ナデシコ	タチハコベ				○			VU	C	増大	
	モクレン	コブシ	○	○	○	○				C		準絶
	マツブサ	マツブサ			○	○						準絶
	メギ	ヘビノボラズ	○	○	○	◎				C		危惧
	アケビ	ムベ	○	○	○	○						準絶
	ボタン	ヤマシャクヤク			○				NT	C	希少	
	モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ		○						C		寸前
	ユキノシタ	オオチャルメルソウ	○	○	○	○						危惧
		タコノアシ	○	○	○	○			NT	C	その他重要	寸前
	バラ	ユキヤナギ※1				○				準		要注目
	ミカン	フユザンショウ	○	○	○	◎						要注目
	ミソハギ	ヒメミソハギ			○	○				C	その他重要	準絶
		ミズマツバ			○				VU	C		危惧
	アカバナ	ミズユキノシタ		○		△						準絶
	セリ	ドクゼリ			○	○				C	その他重要	準絶

表 6.3-11(2)　天ヶ瀬ダム周辺における植物の重要種の確認状況

合弁花類	ハイノキ	クロミノニシゴリ	○	○	○	○				A		寸前
	イチヤクソウ	イチヤクソウ	○	○								準絶
	リンドウ	リンドウ	○	○								要注目
		センブリ		○								要注目
	キョウチクトウ	チョウジソウ			○	○			NT	C	危惧	絶滅
	ガガイモ	コイケマ		○							要注目	
		シタキソウ			○	○				準		絶滅
		コカモメヅル		○		◎					希少	
	アカネ	カギカズラ			○	○						危惧
	クマツヅラ	コムラサキ	○	○	○	○				C	その他重要	
		カリガネソウ	○	○	○							準絶
		クマツヅラ	○	○		○					希少	準絶
	シソ	イガタツナミソウ				○				準	要注目	
	ナス	オオマルバノホロシ	○	○						C	その他重要	
	ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ			○	○			VU	C	希少	寸前
		サワトウガラシ			○	○						危惧
		コシオガマ			○						希少	準絶
		オオヒキヨモギ	○	○		○			VU	準	希少	準絶
		カワヂシャ				○			NT	準		
	キツネノマゴ	オギノツメ				◎					増大	
	タヌキモ	ホザキノミミカキグサ	○	○	○	◎						準絶
		ムラサキミミカキグサ	○	○	○	○			NT	C	その他重要	寸前
	マツムシソウ	ナベナ	○	○	○	○					その他重要	準絶
	キク	ヌマダイコン		○							要注目	
		アワコガネギク	○		○	○			NT			
		ノニガナ	○			○					希少	寸前
単子葉植物	トチカガミ	ネジレモ		○	○	○					分布上重要	
		コウガイモ	○	○						C	その他重要	危惧
	ヒルムシロ	ヒルムシロ		○		△					その他重要	
	イバラモ	イトトリゲモ			○				NT	A	危惧	寸前
	ユリ	ニラ	○							A		
		コヤブラン	○		○	◎						要注目
	アヤメ	ヒオウギ			○						その他重要	準絶
	イグサ	ハナビゼキショウ	○			○						準絶
	ホシクサ	ホシクサ			○					C	希少	要注目
	イネ	ヒメコヌカグサ	○		○	○			NT	C	その他重要	
		ヌマカゼクサ	○	○	○	◎				C	危惧	寸前
		コゴメカゼクサ			○	○				A	増大	
		オオニワホコリ	○									準絶
		ウシノシッペイ	○	○	○	○						準絶
		ハイチゴザサ	○	○	○	◎						準絶
		エゾノサヤヌカグサ	○	○							希少	危惧
		トウササクサ	○	○							その他重要	
		ヌマガヤ	○	○	○	◎						寸前
	サトイモ	オオハンゲ		○	○	○					その他重要	準絶
	カヤツリグサ	エナシヒゴクサ			○	○						寸前
		ヤマアゼスゲ			○							準絶
		ヤガミスゲ	○	○	○	○				C	希少	準絶
		ミコシガヤ	○	○	○	○				C	危惧	準絶
		ヤチカワズスゲ	○	○	○	○						寸前
		タカネマスクサ		○		○					その他重要	
		アオガヤツリ	○									準絶
		ヒメガヤツリ		○								危惧
		シカクイ			○	◎						準絶
		イヌノハナヒゲ	○	○	○	○						準絶
		イトイヌノハナヒゲ	○	○	○	○						寸前
		コイヌノハナヒゲ	○			△						寸前
		コマツカサススキ	○	○								危惧
		ウキヤガラ	○	○	○	○						準絶
	ラン	シラン※2				○			NT	C	要注目	寸前
		エビネ		○	○				NT		その他重要	準絶
		ナツエビネ			○	○※3			VU	A	希少	危惧
		コクラン	○	○	○	◎						準絶
		トキソウ	○						NT	C	増大	
		カラヤン				◎					希少	
合計	49科	101種	51	55	65	71	0	0	16	37	53	74

※1：平成21年度(植物相調査)と平成22年度調査(基図作成調査)において、◎両調査で確認、○H21調査でのみ確認、△H22調査でのみ確認したことを示す。
※2：逸出種の可能性がある。
※3：前回確認地点の近傍でエビネ属の1種を確認した。葉のみの確認で同定には至らなかったが、ナツエビネの可能性が高いと考えられる。
重要種の選定基準は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種
b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種
c：「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて(環境省2007年8月)」に記載されている種
VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)
d：「改訂・近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿2001－(レッドデータブック近畿研究会2001年8月)」に記載されている種
A：絶滅危惧種A(近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種類)
B：絶滅危惧種B(近い将来における絶滅の危険性が高い種類)
C：絶滅危惧種C(絶滅の危険性が高くなりつつある種類)
準：準絶滅危惧種(生育条件の変化によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種類)
e：滋賀県生きもの総合調査委員会(2006)「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック2005年版－」に記載されている種。
絶滅：絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ))
危惧：絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕している種)
増大：絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増大している種)
希少：希少種(県内において存続基盤が脆弱な種)
要注目：要注目種(県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種)
分布上重要：分布上重要種(県内において分布上重要な種)
その他重要：その他重要種(全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)
保全：保全すべき群集・群落、個体群(県内において保全することが必要な群集・群落、個体群)
郷土：郷土種(上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの)
f：「京都府レッドデータブック 動物・植物編(京都府HPより2002)」に記載されている種
絶滅：京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅寸前：京都府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧：京都府内において絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧：京都府内において存続基盤が脆弱な種
要注目：京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種

出典：6-7～6-10

4)外来種

天ヶ瀬ダム周辺における外来種の確認状況を表 6.3-12に示す。

平成 7 年(1995 年)度調査では 102 種、平成 9 年(1997 年)度調査では 115 種、平成 14 年(2002 年)度調査では 155 種、平成 21～22 年(2009～2010 年)度調査では 119 種の合計 178 種の外来種が確認された。

このうち、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ及びオオキンケイギクは「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物として指定され、ハリエンジュ、ブタクサ、アメリカセンダングサ、ブタナ、セイタカアワダチソウ、オオオナモミ、カモガヤなど 31 種は要注意外来生物に指定されている。

表 6.3-12(1)　植物外来種の確認状況

No.	上位分類群	科　名	種　名	確認状況				選定根拠	
				H7	H9	H14	H21-22	外来生物法	京都RDB
1	シダ植物	イワヒバ	コンテリクラマゴケ			●			
2		ミズワラビ	ホウライシダ				●		
3	裸子植物	イチョウ	イチョウ		●	●			
4		スギ	メタセコイヤ			●	●		
5	離弁花類	イラクサ	ナンバンカラムシ			●			
6		タデ	ヒメツルソバ				●		
7			ハイミチヤナギ			●			
8			ヒメスイバ	●	●	●			
9			アレチギシギシ	●	●	●	●		
10			ナガバギシギシ			●	●		
11			エゾノギシギシ	●	●	●	●	要注意	
12		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	●	●	●	●		
13			ヤマゴボウ			●			
14			オシロイバナ	●	●	●			
15		ザクロソウ	クルマバザクロソウ	●	●		●		
16		ナデシコ	オランダミミナグサ	●	●	●	●		
17			ムシトリナデシコ	●	●	●	●		
18			ホザキマンテマ			●			
19			シロバナマンテマ				●		
20			コハコベ	●	●	●	●		
21		アカザ	アリタソウ	●		●			
22			ケアリタソウ	●	●	●	●		
23			コアカザ			●			
24		ヒユ	ホソバツルノゲイトウ	●	●	●	●		
25			ツルノゲイトウ			●	●		
26			ホソアオゲイトウ	●	●		●		
27			アオゲイトウ			●			
28			アオビユ	●	●	●			
29			ノゲイトウ	●	●	●	●		
30			ケイトウ	●	●		●		
31		ケシ	ナガミヒナゲシ		●	●			
32		アブラナ	セイヨウカラシナ	●	●	●	●		
33			マメグンバイナズナ	●	●	●	●		
34			オランダガラシ		●	●	●	要注意	
35			グンバイナズナ			●			
36		ベンケイソウ	メキシコマンネングサ			●			
37			ツルマンネングサ			●			
38		マメ	イタチハギ	●	●	●	●		
39			ゲンゲ	●	●	●			
40			アレチヌスビトハギ	●	●	●	●		
41			コメツブウマゴヤシ			●			
42			ハリエンジュ		●	●	●	要注意	
43			コメツブツメクサ	●	●	●	●		
44			タチオランダゲンゲ	●	●				
45			ムラサキツメクサ	●	●	●	●		
46			シロツメクサ	●	●	●	●		
47		カタバミ	イモカタバミ			●	●		
48			ムラサキカタバミ	●	●	●	●		
49			オッタチカタバミ	●	●	●	●		
50		フウロソウ	アメリカフウロ	●	●	●	●		
51		アマ	キバナノマツバニンジン			●			
52		トウダイグサ	アブラギリ		●		●		
53			ハイニシキソウ				●		
54			オオニシキソウ	●	●	●	●		
55			コニシキソウ	●	●	●	●		
56			ナンキンハゼ	●	●	●	●		
57		ニガキ	シンジュ			●			
58		カエデ	トウカエデ			●			
59		アオイ	イチビ				●		
60		アオイ	シュウカイドウ			●			
61		ウリ	アレチウリ	●	●	●	●	特定外来	
62		ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	●	●	●			
63		アカバナ	アメリカミズキンバイ	●	●	●	●		
64			メマツヨイグサ	●	●	●	●	要注意	
65			オオマツヨイグサ			●			
66			ユウゲショウ				●		
67			ヒルザキツキミソウ			●			
68		アリノトウグサ	オオフサモ	●	●	●	●	特定外来	

表 6.3-12 (2)　植物外来種の確認状況

No.	上位分類群	科　名	種　名	確認状況				選定根拠	
				H7	H9	H14	H21-22	外来生物法	京都RDB
69	合弁花類	モクセイ	トウネズミモチ		●	●			
70			キョウチクトウ		●				
71			ツルニチニチソウ	●	●	●	●		
72		アカネ	オオフタバムグラ			●	●	要注意	
73			メリケンムグラ			●	●		
74		ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	●	●	●	●		
75			マルバルコウ	●	●	●	●		
76			アメリカアサガオ			●	●		
77			マメアサガオ	●	●	●	●		
78			アサガオ			●			
79			ホシアサガオ		●		●		
80			ノハラムラサキ	●		●			
81		クマツヅラ	ヤナギハナガサ			●	●		
82			アレチハナガサ		●	●	●		
83		シソ	ヒメオドリコソウ	●	●	●			
84			ヨウシュハッカ				●		
85			ハナトラノオ		●		●		
86		ナス	ヒロハフウリンホオズキ			●	●		
87			アメリカイヌホオズキ	●		●	●		
88			ワルナスビ		●	●	●		
89			タマサンゴ			●			
90		ゴマノハグサ	マツバウンラン	●	●	●	●		
91			ヒメアメリカアゼナ	●	●	●			
92			タケトアゼナ			●			
93			アメリカアゼナ	●	●	●	●		
94			オオカワヂシャ	●	●		●	特定外来	
95			タチイヌノフグリ	●	●	●	●		
96			オオイヌノフグリ	●	●	●	●		
97		ノウゼンカズラ	キササゲ	●	●	●	●		
98		オオバコ	ヘラオオバコ		●	●		要注意	
99			タチオオバコ			●	●		
100		オミナエシ	ノヂシャ	●	●	●	●		
101		キキョウ	キキョウソウ	●	●	●	●		
102		キク	セイヨウノコギリソウ		●				
103			ブタクサ	●	●	●	●	要注意	
104			クソニンジン				●		
105			ヒロハホウキギク	●	●	●	●		
106			ホウキギク		●	●	●		
107			コバノセンダングサ	●	●	●			
108			アメリカセンダングサ	●	●	●	●	要注意	
109			コセンダングサ	●	●	●	●	要注意	
110			アメリカオニアザミ			●		要注意	
111			アレチノギク	●		●			
112			オオアレチノギク	●	●	●	●	要注意	
113			オオキンケイギク		●	●		特定外来	
114			コスモス			●	●		
115			ベニバナボロギク	●	●	●	●		
116			アメリカタカサブロウ			●	●		
117			ダンドボロギク	●	●	●	●		
118			ヒメムカシヨモギ	●	●	●	●	要注意	
119			ハルジオン	●	●	●	●	要注意	
120			ハキダメギク	●	●	●			
121			タチチチコグサ	●	●	●			
122			チチコグサモドキ	●	●	●	●		
123			ウスベニチチコグサ	●	●	●			
124			ウラジロチチコグサ			●	●		
125			キクイモ		●	●	●	要注意	
126			ブタナ	●		●	●	要注意	
127			トゲチシャ			●	●		
128			ノボロギク	●	●	●			
129			セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	要注意	要注目
130			オオアワダチソウ			●		要注意	
131			オニノゲシ	●	●	●	●		
132			ヒメジョオン	●	●	●	●	要注意	
133			アカミタンポポ	●	●	●		要注意	
134			セイヨウタンポポ	●	●	●	●	要注意	
135			オオオナモミ	●	●	●	●	要注意	

表 6.3-12 (3)　植物外来種の確認状況

No.	上位分類群	科　名	種　名	確認状況				選定根拠	
				H7	H9	H14	H21-22	外来生物法	京都RDB
136	単子葉植物	トチカガミ	オオカナダモ	●	●	●	●	要注意	
137			コカナダモ	●	●	●	●	要注意	
138		ヒガンバナ	タマスダレ	●	●				
139		ミズアオイ	ホテイアオイ				●		
140		アヤメ	キショウブ	●	●	●	●	要注意	
141			ニワゼキショウ	●	●	●	●		
142			オオニワゼキショウ			●			
143			ヒメヒオウギズイセン		●	●	●		
144		イグサ	コゴメイ				●		
145		ツユクサ	ノハカタカラクサ			●	●	要注意	
146			ムラサキツユクサ			●			
147		イネ	コヌカグサ	●	●	●	●		
148			ヌカススキ			●			
149			ハナヌカススキ	●	●	●	●		
150			メリケンカルカヤ	●	●	●	●	要注意	
151			カラスムギ	●	●	●			
152			コバンソウ	●	●	●	●		
153			ヒメコバンソウ	●	●	●	●		
154			ヤクナガイヌムギ			●			
155			イヌムギ	●	●	●	●		
156			ジュズダマ	●	●	●	●		
157			カモガヤ	●	●	●	●	要注意	
158			ニコゲヌカキビ		●				
159			シナダレスズメガヤ	●	●	●	●		
160			オオニワホコリ	●					
161			オニウシノケグサ	●	●	●	●		
162			ヒロハノウシノケグサ			●	●		
163			ネズミムギ			●	●	要注意	
164			ホソムギ			●		要注意	
165			ドクムギ			●			
166			ネズミホソムギ	●	●	●			
167			オオクサキビ	●	●	●	●		
168			シマスズメノヒエ	●	●	●	●		
169			キシュウスズメノヒエ	●	●	●	●	要注意	
170			チクゴスズメノヒエ		●	●	●		
171			アメリカスズメノヒエ	●	●	●			
172			タチスズメノヒエ		●	●	●		
173			モウソウチク	●	●	●	●		
174			ナガハグサ			●	●		
175			オオスズメノカタビラ	●	●	●	●		
176			ナギナタガヤ	●	●	●	●		
177			ムラサキナギナタガヤ	●		●			
178		カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	●	●	●	●	要注意	
種数				102	115	155	119	35	1

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

a.「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定外来：特定外来生物
　要注意：要注意外来生物

b. 京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種
　要注目：要注目種－外来種（国外外来種）

注）上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

出典：6-7～6-10

(6)鳥類

1)鳥類相の概況

天ヶ瀬ダム周辺では、平成 7 年(1995 年)度、平成 10 年(1998 年)度、平成 15 年(2003 年)度、平成 18 年(2006 年)度の 4 回の天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査の合計で、カワウ、オシドリ、メジロ、ホオジロなど 18 目 41 科 113 種の鳥類が確認された。なお、平成 18 年(2006 年)度の調査では 84 種が確認されており、過去 3 回の調査と同程度の結果であった。

表 6.3-13(1)　天ヶ瀬ダム周辺における鳥類の確認状況

No.	目 名	科 名	種 名	学 名	平成7年度	平成10年度	平成15年度	平成18年度
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	Tachybaptus ruficollis	○	○	○	○
2			カンムリカイツブリ	Podiceps cristatus		○		
3	ペリカン	ウ	カワウ	Phalacrocorax carbo	○	○	○	○
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	Nycticorax nycticorax	○	○	○	○
5			ササゴイ	Butorides striatus		○		
6			ダイサギ	Egretta alba	○	○	○	○
7			コサギ	Egretta garzetta	○	○	○	○
8			アオサギ	Ardea cinerea	○	○	○	○
9	カモ	カモ	オシドリ	Aix galericulata	○	○	○	○
10			マガモ	Anas platyrhynchos	○	○	○	○
11			カルガモ	Anas poecilorhyncha	○	○	○	○
12			コガモ	Anas crecca	○	○	○	○
13			トモエガモ	Anas formosa	○	○		
14			ヨシガモ	Anas falcata		○	○	○
15			オカヨシガモ	Anas strepera	○	○	○	○
16			ヒドリガモ	Anas penelope	○	○	○	○
17			オナガガモ	Anas acuta	○	○		○
18			ハシビロガモ	Anas clypeata	○	○		
19			ホシハジロ	Aythya ferina			○	○
20			キンクロハジロ	Aythya fuligula	○	○	○	○
21			ホオジロガモ	Bucephala clangula	○			
22	タカ	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	○	○	○	○
23			ハチクマ	Pernis apivorus		○	○	○
24			トビ	Milvus migrans	○	○	○	○
25			オオタカ	Accipiter gentilis	○	○	○	○
26			ツミ	Accipiter gularis	○			
27			ハイタカ	Accipiter nisus	○	○	○	○
28			ノスリ	Buteo buteo	○	○	○	○
29			サシバ	Butastur indicus	○	○	○	○
30		ハヤブサ	ハヤブサ	Falco peregrinus	○	○		
31	キジ	キジ	キジ	Phasianus colchicus	○	○	○	○
32			ヤマドリ	Syrmaticus soemmerringii	○			
33	チドリ	チドリ	イカルチドリ	Charadrius placidus	○	○	○	○
34			ケリ	Vanellus cinereus		○		
35		シギ	イソシギ	Actitis hypoleucos	○	○	○	○
36			タシギ	Gallinago gallinago		○		
37		カモメ	ユリカモメ	Larus ridibundus	○	○	○	○
38	ハト	ハト	キジバト	Streptopelia orientalis	○	○	○	○
39			アオバト	Sphenurus sieboldii	○	○	○	○
40	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	Cuculus saturatus		○	○	
41			ホトトギス	Cuculus poliocephalus	○	○	○	○
42	フクロウ	フクロウ	アオバズク	Ninox scutulata	○	○	○	○
43			フクロウ	Strix uralensis	○	○	○	○
44	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	Caprimulgus indicus	○	○	○	
45	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	Apus affinis				○
46	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	Ceryle lugubris	○	○	○	○
47			カワセミ	Alcedo atthis	○	○	○	○
48	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	Picus awokera	○	○	○	○
49			アカゲラ	Dendrocopos major	○	○	○	○
50			オオアカゲラ	Dendrocopos leucotos		○		○
51			コゲラ	Dendrocopos kizuki	○	○	○	○

表 6.3-13(2)　天ヶ瀬ダム周辺における鳥類の確認状況

No.	目 名	科 名	種 名	学　名	平成7年度	平成10年度	平成15年度	平成18年度
52	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	Alauda arvensis	○	○		
53		ツバメ	ツバメ	Hirundo rustica	○	○	○	○
54			コシアカツバメ	Hirundo daurica	○	○	○	○
55			イワツバメ	Delichon urbica	○		○	○
56		セキレイ	キセキレイ	Motacilla cinerea	○	○	○	○
57			ハクセキレイ	Motacilla alba	○	○	○	○
58			セグロセキレイ	Motacilla grandis	○	○	○	○
59			ビンズイ	Anthus hodgsoni	○	○	○	○
60			タヒバリ	Anthus spinoletta	○	○		
61		サンショウクイ	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	○	○	○	○
62		ヒヨドリ	ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	○	○	○	○
63		モズ	モズ	Lanius bucephalus	○	○	○	○
64		カワガラス	カワガラス	Cinclus pallasii		○		○
65		ミソサザイ	ミソサザイ	Troglodytes troglodytes	○	○	○	○
66		イワヒバリ	カヤクグリ	Prunella rubida		○	○	○
67		ツグミ	ルリビタキ	Tarsiger cyanurus	○	○	○	○
68			ジョウビタキ	Phoenicurus auroreus	○	○	○	○
69			トラツグミ	Zoothera dauma				○
70			クロツグミ	Turdus cardis			○	
71			アカハラ	Turdus chrysolaus	○			
72			シロハラ	Turdus pallidus	○	○	○	○
73			マミチャジナイ	Turdus obscurus	○			
74			ツグミ	Turdus naumanni	○	○	○	○
75		ウグイス	ヤブサメ	Urosphena squameiceps	○	○	○	○
76			ウグイス	Cettia diphone	○	○	○	○
77			コヨシキリ	Acrocephalus bistrigiceps			○	
78			オオヨシキリ	Acrocephalus arundinaceus			○	
79			センダイムシクイ	Phylloscopus coronatus	○	○	○	○
80		ヒタキ	キビタキ	Ficedula narcissina	○	○	○	○
81			オオルリ	Cyanoptila cyanomelana	○	○	○	○
82			コサメビタキ	Muscicapa dauurica			○	
83		カササギヒタキ	サンコウチョウ	Terpsiphone atrocaudata	○	○	○	○
84		エナガ	エナガ	Aegithalos caudatus	○	○	○	○
85		シジュウカラ	コガラ	Parus montanus				○
86			ヒガラ	Parus ater	○	○	○	○
87			ヤマガラ	Parus varius	○	○	○	○
88			シジュウカラ	Parus major	○	○	○	○
89		メジロ	メジロ	Zosterops japonicus	○	○	○	○
90		ホオジロ	ホオジロ	Emberiza cioides	○	○	○	○
91			ホオアカ	Emberiza fucata			○	
92			カシラダカ	Emberiza rustica	○	○	○	
93			ミヤマホオジロ	Emberiza elegans	○			
94			アオジ	Emberiza spodocephala	○	○	○	○
95			クロジ	Emberiza variabilis	○	○	○	○
96		アトリ	アトリ	Fringilla montifringilla		○	○	○
97			カワラヒワ	Carduelis sinica	○	○	○	○
98			マヒワ	Carduelis spinus	○		○	
99			ベニマシコ	Uragus sibiricus	○	○	○	○
100			ウソ	Pyrrhula pyrrhula	○			○
101			イカル	Eophona personata	○	○	○	○
102			シメ	Coccothraustes coccothraustes	○		○	
103		ハタオリドリ	スズメ	Passer montanus	○	○	○	○
104		ムクドリ	コムクドリ	Sturnus philippensis	○			
105			ムクドリ	Sturnus cineraceus	○	○	○	○
106		カラス	カケス	Garrulus glandarius	○	○	○	○
107			ハシボソガラス	Corvus corone	○	○	○	○
108			ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos	○	○	○	○
109	カモ	カモ	ガチョウ※	Anser anser var.domesticus	○			
110			バリケン※	Cairina moschata	○			
111			アヒル※	Anas platyrhynchos var.domesticus	○	○	○	
112	キジ	キジ	コジュケイ※	Bambusicola thoracica	○	○	○	○
113	ハト	ハト	ドバト※	Columba livia var.domesticus	○	○	○	○
合計		18目41科113種			93	91	88	84

※ 野生化した飼育種

出典：6-11～6-14

2)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における鳥類重要種の確認状況を表 6.3-15（次ページ）に示す。重要種としては、サシバ、サンショウクイ（ともに絶滅危惧Ⅱ類）、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ（準絶滅危惧種）等、合計で 29 科 61 種が確認された。平成 18 年(2006 年)度の調査では 42 種の重要種が確認されており、過去 3 回の調査と同程度の結果であった。

3)外来種

外来種（野生化した飼育種を含む）として、ガチョウ、バリケン、アヒル、コジュケイ、ドバトの 5 種が確認された。平成 18 年(2006 年)度はコジュケイ、ドバトの 2 種が確認されており、平成 15 年(2003 年)度の調査まで確認されていたアヒルは確認されなかった。

表 6.3-14　天ヶ瀬ダム周辺における鳥類の外来種の確認状況

No.	目 名	科 目	種 名	確認状況				選定根拠
				H7	H10	H15	H18	外来生物法
1	カモ	カモ	ガチョウ	○				
2			バリケン	○				
3			アヒル	○	○	○		
4	キジ	キジ	コジュケイ	○	○	○	○	
5	ハト	ハト	ドバト	○	○	○	○	

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種

特定：特定外来生物

要注意：要注意外来生物

※上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

また、野生化した飼育種も含む。

「滋賀県で大切にすべき野生生物　平成12年版(滋賀県琵琶湖環境部自然保護課,平成12年8月)」に記載されている種

影響：生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種

京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種

要注目：要注目種－外来種（国外外来種）

出典：6-11～6-14

表 6.3-15　天ヶ瀬ダム周辺における鳥類の重要種の確認状況

No.	科名	種名	確認状況				選定基準				
			H7	H10	H15	H18	a	b	c	d	e
1	カイツブリ	カイツブリ	●	●	●	●				希少	準絶
2		カンムリカイツブリ		●					準絶(繁殖)	希少	
3	サギ	ササゴイ		●					準絶(繁殖)	希少	準絶
4	カモ	オシドリ	●	●	●	●		情報不足	準絶(繁殖)	希少	危惧
5		マガモ	●	●	●	●			準絶(繁殖)		
6		トモエガモ	●	●				II類	準絶(越冬)	希少	準絶
7		ヨシガモ		●	●	●			準絶(越冬)	希少	
8		ホオジロガモ	●						準絶(越冬)	希少	
9	タカ	ミサゴ	●	●	●	●		準絶	危惧(繁殖)	増大	危惧
10		ハチクマ		●	●	●		準絶	危惧(繁殖)	増大	危惧
11		オオタカ	●	●	●	●	国内	準絶	準絶(繁殖)	増大	危惧
12		ツミ	●						準絶(繁殖)	希少	危惧
13		ハイタカ	●	●	●	●		準絶	要注目(繁殖)	希少	準絶
14		ノスリ	●	●	●	●			準絶(越冬)	希少	準絶
15		サシバ	●	●	●	●		II類	危惧(繁殖)	希少	危惧
16	ハヤブサ	ハヤブサ	●	●			国内	II類	準絶(繁殖)	増大	危惧
17	キジ	ヤマドリ	●							その他重要	準絶
18		コジュケイ	●	●	●	●				その他重要	
19	チドリ	イカルチドリ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	準絶
20	シギ	イソシギ	●	●	●	●			危惧(繁殖)	希少	準絶
21		タシギ		●					準絶(越冬)	希少	
22	ハト	アオバト	●	●	●	●				希少	危惧
23	カッコウ	ツツドリ		●	●				準絶(繁殖)	希少	準絶
24		ホトトギス	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
25	フクロウ	アオバズク	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	準絶
26		フクロウ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	準絶
27	ヨタカ	ヨタカ	●	●	●			II類	危惧(繁殖)	増大	危惧
28	アマツバメ	ヒメアマツバメ				●					危惧
29	カワセミ	ヤマセミ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	増大	危惧
30		カワセミ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
31	キツツキ	アオゲラ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
32		アカゲラ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	準絶
33		オオアカゲラ		●		●			準絶(繁殖)	希少	危惧
34	ツバメ	コシアカツバメ	●	●	●	●				その他重要	
35		イワツバメ	●		●	●					準絶
36	セキレイ	ビンズイ	●	●	●	●			要注目(繁殖)	希少	
37		タヒバリ	●	●						希少	
38	サンショウクイ	サンショウクイ	●	●	●	●		II類	準絶(繁殖)	希少	危惧
39	カワガラス	カワガラス		●		●			準絶(繁殖)	希少	
40	ミソサザイ	ミソサザイ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
41	イソヒバリ	カヤクグリ		●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
42	ツグミ	ルリビタキ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
43		トラツグミ				●			危惧(繁殖)	希少	準絶
44		クロツグミ			●				準絶(繁殖)	希少	準絶
45	ウグイス	ヤブサメ	●	●	●	●				希少	
46		コヨシキリ			●				準絶(繁殖)	希少	
47		オオヨシキリ			●				準絶(繁殖)	希少	
48		センダイムシクイ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
49	ヒタキ	キビタキ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
50		オオルリ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	
51		コサメビタキ			●					希少	危惧
52	カササギヒタキ	サンコウチョウ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	準絶
53	シジュウカラ	コガラ				●				希少	
54	ホオジロ	ホオアカ			●				準絶(繁殖)	希少	
55		ミヤマホオジロ	●						準絶(越冬)	希少	
56		アオジ	●	●	●	●			準絶(繁殖)		
57		クロジ	●	●	●	●			準絶(繁殖)	希少	危惧
58	アトリ	ベニマシコ	●	●	●	●				希少	
59		ウソ	●			●				希少	
60		シメ	●		●					希少	
61	ムクドリ	コムクドリ	●						準絶(通過)	希少	危惧

重要種の選定基準は以下のとおりである。

a:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

国際:国際希少野生動植物種(国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種)

国内:国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する、絶滅のおそれのある野生動植物の種)

b: 環境省(2006)「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に記載されている種

Ⅰ類:絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)

IA類:絶滅危惧IA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

IB類:絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

Ⅱ類:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

準絶:準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

情報不足:評価するだけの情報が不足している種

地域個体群:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

c: 京都大学学術出版会(2002)「近畿地区・鳥類レッドデータブック」掲載種

危機絶滅:危機的絶滅危惧種(絶滅する可能性がきわめて大きい)

危惧:絶滅危惧種(絶滅する可能性が大きい)

準絶:準絶滅危惧種(絶滅する可能性がある)

(繁殖)、(越冬)、(通過)はそれぞれ近畿地方における希少性ランクを判定する際に対象となった繁殖個体群・越冬個体群・通過個体群を示す。

要注目:要注目種(特に危険なしと判定された種のうち、何らかの攪乱により一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険があるとみなされているもの)

d: 滋賀県生きもの総合調査委員会(2006)「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック2005年版－」に記載されている種。

絶滅:絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ))

危惧:絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕している種)

増大 :絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増大している種)

希少:希少種(県内において存続基盤が脆弱な種)

要注目 :要注目種(県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種)

分布上重要:分布上重要種(県内において分布上重要な種)

その他重要:その他重要種(全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)

保全:保全すべき群集・群落、個体群(県内において保全することが必要な群集・群落、個体群)

郷土:郷土種(上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの)

e: 京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック 動物・植物編」に記載されている種

絶滅:絶滅種(京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種)

寸前:絶滅寸前種(京都府内において絶滅の危機に瀕している種)

危惧:絶滅危惧種(京都府内において絶滅の危機が増大している種)

準絶:準絶滅危惧種(京都府内において存続基盤が脆弱な種)

要注目:要注目種(京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種)

出典 : 6-11～6-14

(7)両生類、爬虫類、哺乳類(参考)

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

1)両生類、爬虫類、哺乳類相の概況

a. 両生類

平成 7 年(1995 年)度調査では 2 目 5 科 8 種、平成 12 年(2000 年)度調査では 2 目 5 科 11 種、平成 17 年(2005 年)度調査では 2 目 6 科 10 種が確認されており、3 回の調査結果を合わせると、天ヶ瀬ダム及びその周辺では、2 目 6 科 12 種の生息が確認された(表 6.3-16)。

表 6.3-16　天ヶ瀬ダム周辺における両生類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	サンショウウオ	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	○	○	○
2		イモリ	アカハライモリ	○	○	○
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			○
4		アマガエル	ニホンアマガエル	○	○	○
5		アカガエル	タゴガエル	○	○	○
6			ニホンアカガエル		○	
7			トノサマガエル	○	○	○
8			ナゴヤダルマガエル		○	
9			ウシガエル	○	○	○
10			ツチガエル		○	○
11		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○	○
12			モリアオガエル	○	○	○
合計	2目6科12種			8種	11種	10種

出典：6-15～6-17

b. 爬虫類

平成 7 年(1995 年)度調査では 2 目 7 科 13 種、平成 12 年(2000 年)度調査では 2 目 6 科 12 種、、平成 17 年(2005 年)度調査では 2 目 7 科 13 種が確認されており、3 回の調査結果を合わせると、天ヶ瀬ダム及びその周辺では、2 目 7 科 15 種の生息が確認された(表 6.3-17)。

表 6.3-17　天ヶ瀬ダム周辺における爬虫類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	カメ	イシガメ	クサガメ	○	○	○
2			ミシシッピアカミミガメ	○	○	○
3			ニホンイシガメ	○	○	○
4		スッポン	ニホンスッポン	○		○
5	トカゲ	ヤモリ	ニホンヤモリ	○	○	○
6		トカゲ	ニホントカゲ	○	○	○
7		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○
8		ヘビ	タカチホヘビ		○	○
9			シマヘビ	○	○	○
10			ジムグリ	○		○
11			アオダイショウ	○		○
12			シロマダラ	○	○	
13			ヒバカリ		○	
14			ヤマカガシ	○	○	○
15		クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○	○
合計	2目7科15種			13種	12種	13種

出典：6-15～6-17

c. **哺乳類**

平成 7 年(1995 年)度調査では 6 目 10 科 16 種、平成 12 年(2000 年)度調査では 6 目 9 科 15 種、平成 17 年(2005 年)度調査では哺乳類 7 目 11 科 16 種が確認されており、3 回の調査結果を合わせると、天ヶ瀬ダム及びその周辺では、7 目 12 科 19 種の生息が確認された(表 6.3-18)。

表 6.3-18　天ヶ瀬ダム周辺における哺乳類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	○		
2		モグラ	ヒミズ	○	○	
3			コウベモグラ	○	○	○
－			Mogera属の一種	○	○	○
4	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ		○	○
－		－	コウモリ目(翼手目)の一種			○
5	サル	オナガザル	ニホンザル	○		○
6	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○	○
7	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○	○
8			ムササビ		○	○
9		ネズミ	スミスネズミ	○		
10			アカネズミ	○	○	○
11			ヒメネズミ	○	○	○
12			カヤネズミ	○	○	○
13		ヌートリア	ヌートリア			○
14	ネコ	イヌ	タヌキ	○	○	○
15			キツネ	○	○	○
16		イタチ	テン	○	○	○
17			チョウセンイタチ			○
－			Mustela属の一種	○	○	○
18	ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○	○
19		シカ	ホンドジカ	○	○	○
合計	7目12科19種			16種	15種	16種

出典：6-15～6-17

2)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の重要種の確認状況を表 6.3-19に示す。

重要種としては、両生類はヒダサンショウウオ、アカハライモリ等の 10 種が、爬虫類はニホンスッポン、ジムグリ等の 12 種が、哺乳類はムササビ、カヤネズミ等の 6 種が確認された。環境省のレッドリストに指定されているものでは、絶滅危惧ⅠB 類に指定されているナゴヤダルマガエル、情報不足に指定されているニホンスッポンとニホンイシガメが確認された。

表 6.3-19　天ヶ瀬ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の重要種の確認状況

No.	綱名	目名	科名	種名	確認状況			選定基準				
					H7	H12	H17	a	b	c	d	e
1	両生綱	サンショウウオ	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	●	●	●			準絶	希少	準絶
2			イモリ	アカハライモリ	●	●	●			準絶	要注目	要注目
3		カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			●				希少	準絶
4			アカガエル	タゴガエル	●	●	●				要注目	
5				ニホンアカガエル		●					要注目	要注目
6				トノサマガエル	●	●	●				要注目	要注目
7				ナゴヤダルマガエル		●				IB類	増大	寸前
8				ツチガエル		●	●				要注目	要注目
9			アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●	●	●				要注目	要注目
10				モリアオガエル	●	●	●				要注目	
11	爬虫綱	カメ	イシガメ	クサガメ	●	●	●					要注目
12				ニホンイシガメ	●	●	●			情報不足		
13			スッポン	ニホンスッポン	●		●			情報不足	要注目	要注目
14		トカゲ	トカゲ	ニホントカゲ	●	●	●				要注目	要注目
15			ヘビ	タカチホヘビ		●	●				要注目	要注目
16				シマヘビ	●	●	●					要注目
17				ジムグリ	●		●				要注目	要注目
18				アオダイショウ	●		●					要注目
19				シロマダラ	●	●					要注目	要注目
20				ヒバカリ		●					要注目	要注目
21				ヤマカガシ	●	●	●				要注目	要注目
22			クサリヘビ	ニホンマムシ	●	●	●				要注目	要注目
23	哺乳綱	サル	オナガザル	ニホンザル	●		●				要注目	要注目
24		ネズミ	リス	ムササビ		●	●				希少	準絶
25			ネズミ	スミスネズミ	●						その他重要	準絶
26				カヤネズミ	●	●	●				希少	準絶
27		ネコ	イヌ	タヌキ	●	●	●				郷土	
28				キツネ	●	●	●				郷土	

重要種の選定基準は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：環境省(2006)「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に記載されている種

環境省(2007)「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」に記載されている種

Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)

ⅠA類：絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

ⅠB類：絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

準絶：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

d：滋賀県生きもの総合調査委員会編(2005)「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック2005年版－」に記載されている種

絶滅：絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ))

危惧：絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕している種)

増大：絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増大している種)

希少：希少種(県内において存続基盤が脆弱な種)

要注目：要注目種(県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種)

分布上重要：分布上重要種(県内において分布上重要な種)

その他重要：その他重要種(全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)

保全：保全すべき群集・群落、個体群(県内において保全することが必要な群集・群落、個体群)

郷土：郷土種(上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの)

e：京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種

絶滅：絶滅種(京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種)

寸前：絶滅寸前種(京都府内において絶滅の危機に瀕している種)

危惧：絶滅危惧種(京都府内において絶滅の危機が増大している種)

準絶：準絶滅危惧種(京都府内において存続基盤が脆弱な種)

要注目：要注目種(京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種)

出典：6-15～6-17

3)外来種

天ヶ瀬ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の外来種の確認状況を表 6.3-20に示す。

国外外来種(日本国外から持ち込まれた種)として、両生類ではウシガエル 1 種、爬虫類ではミシシッピアカミミガメ 1 種、哺乳類ではヌートリア及びチョウセンイタチの 2 種、合計 4 目 4 科 4 種が確認された。このうち、ウシガエル及びヌートリアは、「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物として指定されている。

また、ミシシッピアカミミガメは『在来生態系に対する被害に関わる一定の知見があり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物』として要注意外来生物に指定されている。

表 6.3-20　天ヶ瀬ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の外来種の確認状況

No.	綱名	目名	科名	種名	確認状況			選定根拠	
					H7	H12	H17	外来生物法	京都RDB
1	両生綱	カエル	アカガエル	ウシガエル	○	○	○	特定	要注目
2	爬虫綱	カメ	イシガメ	ミシシッピアカミミガメ	○	○	○	要注意	要注目
3	哺乳綱	ネズミ	ヌートリア	ヌートリア			○	特定	要注目
4		ネコ	イタチ	チョウセンイタチ			○		要注目

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種

特定:特定外来生物

要注意:要注意外来生物

京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック 動物・植物編」に記載されている種

要注目:要注目種－外来種(国外外来種)

出典：6-15～6-17

(8)陸上昆虫類等(参考)

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

1)陸上昆虫類等相の概況

天ヶ瀬ダム周辺における、陸上昆虫類等の確認状況を表 6.3-21に示す。各調査年度とも 2,000 種程度の種数が確認されている。3 ヶ年度分の調査をあわせると、天ヶ瀬ダム周辺では、昆虫綱が 24 目 402 科 3,793 種(コウチュウ目が 1,291 種、チョウ目が 1,044 種など)、クモ綱が 1 目 31 科 298 種の、合計 25 目 433 科 4,091 種の生息が確認された。

また、天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の確認状況の詳細は「6.8 種リスト」に示す。

表 6.3-21　天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の確認状況

綱名	平成 7 年度	平成 11 年度	平成 16 年度	合計
クモ綱	1 目 23 科 179 種	1 目 27 科 183 種	1 目 26 科 199 種	1 目 31 科 298 種
昆虫綱	22 目 307 科 2,105 種	22 目 313 科 1,888 種	22 目 316 科 2,024 種	24 目 402 科 3,793 種
合計	23 目 330 科 2,284 種	23 目 340 科 2,071 種	23 目 342 科 2,223 種	25 目 433 科 4,091 種

出典：6-18～6-20

2)重要種

天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況を表 6.3-22に示す。

平成 7 年(1995 年)度に 36 種、平成 11 年(1999 年)度に 38 種、平成 16 年(2004 年)度に 56 種の合計 12 目 54 科 83 種の重要種が確認された。環境省のレッドリストに指定されているものでは、絶滅危惧Ⅰ類に指定されているアオヘリアオゴミムシ、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているオグマサナエ、クロヒカゲモドキなど 11 種が確認された。

表 6.3-22(1)　天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	確認状況			選定基準				
						H7年度	H11年度	H16年度	a	b	c	d	e
1	クモ	クモ	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	Antrodiaetus roretzi		●				準絶	増大	危惧
2			コガネグモ	ゲホウグモ	Poltys illepidus	●	●					希少	
3	昆虫	トンボ	アオイトトンボ	オツネントンボ	Sympecma paedisca			●					準絶
4			ヤンマ	ルリボシヤンマ	Aeshna juncea			●					準絶
5				カトリヤンマ	Gynacantha japonica			●				要注目	
6			サナエトンボ	オグマサナエ	Trigomphus ogumai			●			Ⅱ類	希少	
7			トンボ	コノシメトンボ	Sympetrum baccha matutinum			●				希少	
8				ミヤマアカネ	Sympetrum pedemontanum elatum	●	●	●				要注目	準絶
9		ゴキブリ	チャバネゴキブリ	ツチゴキブリ	Margattea kumamotonis kumamotonis			●					要注目
10		カマキリ	ヒメカマキリ	ヒメカマキリ	Acromantis japonica	●	●	●					準絶
11			カマキリ	ヒナカマキリ	Amantis nawai		●						要注目
12				チョウセンカマキリ	Tenodera angustipennis	●		●					要注目
13		バッタ	キリギリス	コバネササキリ	Conocephalus japonicus			●				希少	
14				ハタケノウマオイ	Hexacentrus japonicus	●	●					要注目	
15			ケラ	ケラ	Gryllotalpa orientalis	●	●	●					要注目
16			コオロギ	マツムシモドキ	Aphonoides japonicus	●	●	●					要注目
17				カヤコオロギ	Euscyrtus japonicus			●				希少	
18			バッタ	クルマバッタ	Gastrimargus marmoratus	●	●						要注目
19				ショウリョウバッタモドキ	Gonista bicolor			●					要注目
20				ミカドフキバッタ	Parapodisma mikado	●						分布状重要	
21				キンキフキバッタ	Parapodisma sabastris		●	●				分布状重要	
22				ヤマトフキバッタ	Parapodisma setouchiensis	●		●				分布状重要	
23				Parapodisma属の一種	Parapodisma sp.		●	●				分布状重要	
24				セグロイナゴ	Shirakiacris shirakii	●							危惧
25		カメムシ	セミ	ハルゼミ	Terpnosia vacua		●	●				その他重要	
26			ヨコバイ	フクロクヨコバイ	Glossocratus fukuroki		●				準絶	要注目	
27				ナカハラヨコバイ	Nakaharanus nakaharae	●		●			情報不足		
28				スナヨコバイ	Psammotettix maritimus	●					準絶		
29			アメンボ	ヤスマツアメンボ	Macrogerris insularis	●		●				その他重要	
30			ミズムシ	ナガミズムシ	Hesperocorixa mandshurica			●			準絶	要注目	
31			コオイムシ	オオコオイムシ	Appasus major			●				その他重要	
32		アミメカゲロウ	センブリ	ヤマトセンブリ	Sialis japonica			●			情報不足		
33			ウスバカゲロウ	マダラウスバカゲロウ	Dendroleon pupillaris		●	●					準絶
34		トビケラ	ヤマトビケラ	イノプスヤマトビケラ	Glossosoma ussuricum	●	●						要注目
35			カクツツトビケラ	コカクツツトビケラ	Lepidostoma japonicum	●		●					要注目
36			ヒゲナガトビケラ	ヒメセトトビケラ	Trichosetodes japonicus			●					要注目
37			クロツツトビケラ	クロツツトビケラ	Uenoa tokunagai	●	●						要注目
38			シマトビケラ	コガタシマトビケラ	Cheumatopsyche brevilineata	●	●	●					要注目
39				キブネミヤマシマトビケラ	Diplectrona kibuneana			●					要注目
40		チョウ	ミノガ	オオミノガ	Eumeta variegata			●				要注目	
41			イラガ	アオイラガ	Parasa consocia	●		●				要注目	
42			シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	Japonica saepestriata saepestriata	●	●					増大	準絶
43			ジャノメチョウ	クロヒカゲモドキ	Lethe marginalis			●			Ⅱ類	分布上重要	準絶
44				オオヒカゲ	Ninguta schrenckii	●		●				分布上重要	準絶
45			ヤママユガ	ウスタビガ	Rhodinia fugax fugax			●				その他重要	
46			ヤガ	アミメキシタバ	Catocala hyperconnexa		●					増大	
47				コガタキシタバ	Catocala praegnax esther		●					要注目	

表 6.3-22(2)　天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	確認状況			選定基準				
						H7年度	H11年度	H16年度	a	b	c	d	e
48		ハエ	ガガンボ	ミカドガガンボ	Ctenacroscelis mikado	●		●					要注目
49			カ	トワダオオカ	Toxorhynchites towadensis			●					要注目
50			ムシヒキアブ	アオメアブ	Cophinopoda chinensis		●	●					要注目
51				オオイシアブ	Laphria mitsukurii			●					要注目
52				ツリアブ	クロバネツリアブ	Ligyra tantalus			●					要注目
53				ハナアブ	ルリハナアブ	Pseudoeristalinus viridis		●						準絶
54					ハチモドキハナアブ	Monoceromyia pleuralis			●					準絶
55					コマバムツホシヒラタアブ	Scaeva komabensis		●						要注目
56		コウチュウ	ホソクビゴミムシ	アオバネホソクビゴミムシ	Brachinus aeneicostis			●					要注目
57			オサムシ	オグラヒラタゴミムシ	Agonum ogurae			●					要注目
58				ヒメセボシヒラタゴミムシ	Agonum suavissimum		●	●					要注目
59				アオヘリアオゴミムシ	Chlaenius praefectus	●					Ⅰ類		絶滅
60				スナハラゴミムシ	Diplocheila elongata	●		●			準絶		
61				ダイゴメクラチビゴミムシ	Trechiama rotundipennis			●					寸前
62			ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ	Platambus fimbriatus	●						希少	
63			ミズスマシ	ミズスマシ	Gyrinus japonicus	●	●	●					要注目
64				ツマキレオナガミズスマシ	Orectochilus agilis		●				準絶		
65			ガムシ	ガムシ	Hydrophilus acuminatus			●					要注目
66			センチコガネ	オオセンチコガネ	Phelotrupes auratus auratus	●	●	●				分布上重要	
67			タマムシ	ヤマトタマムシ	Chrysochroa fulgidissima		●	●				要注目	
68			コメツキムシ	ホソマメコメツキ	Yukoana terukoe		●						危惧
69			ホタル	ゲンジボタル	Luciola cruciata	●	●	●				郷土	要注目
70				ヘイケボタル	Luciola lateralis	●	●	●				郷土	要注目
71			カッコウムシ	ヨツモンチビカッコウムシ	Isoclerus pictus		●						危惧
72			テントウムシ	クロスジチャイロテントウ	Micraspis kiotoensis			●					要注目
73			ゴミムシダマシ	マルツヤニジゴミムシダマシ	Tetraphyllus scatebrae	●							要注目
74				コメノゴミムシダマシ	Tenebrio obscurus		●						要注目
75			カミキリムシ	クスベニカミキリ	Pyrestes nipponicus		●					要注目	
76		ハチ	スズメバチ	ヒメホソアシナガバチ	Parapolybia varia	●	●	●				希少	
77				モンスズメバチ	Vespa crabro			●				その他重要	
78				オオスズメバチ	Vespa mandarinia	●	●	●				その他重要	
79			アナバチ	ニッポンツヤアナバチ	Alysson cameroni	●							準絶
80			ミツバチ	トラマルハナバチ	Bombus diversus diversus	●	●	●					準絶
81				クロマルハナバチ	Bombus ignitus	●	●					増大	危惧
82			コハナバチ	アオスジハナバチ	Nomia punctulata	●							準絶
83			ハキリバチ	トモンハナバチ	Anthidium septemspinosum			●					準絶
					瀬田川・宇治川の水生昆虫群集							保全	
種類数合計						36	38	56			11	37	50

※キイフキバッタについては、ミヤマフキバッタ種群として重要種に該当するが、図鑑と滋賀RDBの情報では滋賀県には分布しないことになっているため、重要種として選定しなかった。
また、同じくダイリフキバッタについても、ミヤマフキバッタ属からダイリフキバッタ属に変更になったため、重要種から外した。

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a:「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種
b:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種
c:環境省(2006)「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に記載されている種
環境省(2007)「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」に記載されている種
Ⅰ類:絶滅危惧I類(絶滅の危機に瀕している種)
Ⅱ類:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)
準絶:準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)
情報不足:評価するだけの情報が不足している種
地域個体群:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
d:滋賀県生きもの総合調査委員会(2006)「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック2005年版－」に記載されている種。
絶滅:絶滅種(県内において野生で絶滅したと判断される種(亜種・変種を含む。以下、同じ))
危惧:絶滅危惧種(県内において絶滅の危機に瀕している種)
増大 :絶滅危機増大種(県内において絶滅の危機が増大している種)
希少:希少種(県内において存続基盤が脆弱な種)
要注目 :要注目種(県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種)
分布上重要:分布上重要種(県内において分布上重要な種)
その他重要:その他重要種(全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)
保全:保全すべき群集・群落、個体群(県内において保全することが必要な群集・群落、個体群)
郷土:郷土種(上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの)
e:京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック 動物・植物編」に記載されている種
絶滅:絶滅種(京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種)
寸前:絶滅寸前種(京都府内において絶滅の危機に瀕している種)
危惧:絶滅危惧種(京都府内において絶滅の危機が増大している種)
準絶:準絶滅危惧種(京都府内において存続基盤が脆弱な種)
要注目:要注目種(京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種)

出典：6-18～6-20

3)外来種

天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の外来種の確認状況を表 6.3-23に示す。

国外外来種(日本国外から持ち込まれた種)として、平成 7 年(1995 年)度調査では 25 種、平成 11 年(1999 年)度調査では 17 種、平成 16 年(2004 年)度調査では 28 種の合計 7 目 35 科 50 種の外来種が確認された。このうち、ホソオチョウ、コルリアトキリゴミムシ及びブタクサハムシの 3 種は「京都府レッドデータブック」において、要注目種(外来種)に指定されている。

表 6.3-23　天ヶ瀬ダム周辺における陸上昆虫類等の外来種の確認状況

No.	目名	科名	種名	学名	確認状況			選定根拠	
					H7	H11	H16	外来生物法	京都RDB
1	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ	Periplaneta fuliginosa			●		
2	バッタ	コオロギ	カンタン	Oecanthus longicauda	●	●	●		
3			アオマツムシ	Truljalia hibinonis	●	●	●		
4	カメムシ	サシガメ	ヨコヅナサシガメ	Agriosphodrus dohrni		●	●		
5		グンバイムシ	アワダチソウグンバイ	Corythucha marmorata			●		
6			ヘクソカズラグンバイ	Dulinius conchatus			●		
7	チョウ	ミノガ	オオミノガ	Eumeta variegata			●		
8		ヒロズコガ	コクガ	Nemapogon granellus	●				
9			イガ	Tinea translucens	●				
10			コイガ	Tineola bisselliella	●				
11		キバガ	ジャガイモキバガ	Phthorimaea operculella	●	●			
12			バクガ	Sitotroga cerealella	●	●			
13		ハマキガ	ナシヒメシンクイ	Grapholita molesta	●				
14		アゲハチョウ	ホソオチョウ	Sericinus montela		●			要注目
15		シロチョウ	モンシロチョウ	Pieris rapae crucivora	●	●	●		
16		ツトガ	シバツトガ	Parapediasia teterrella	●	●	●		
17		メイガ	コメシマメイガ	Aglossa dimidiata		●			
18			チャマダラメイガ	Ephestia elutella	●				
19			スジコナマダラメイガ	Ephestia kuehniella		●			
20			ツヅリガ	Paralipsa gularis	●				
21	ハエ	ミズアブ	アメリカミズアブ	Hermetia illucens	●				
22		ハナアブ	スイセンハナアブ	Merodon equestris			●		
23		ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ	Drosophila melanogaster	●	●			
24		ヒメイエバエ	ヒメイエバエ	Fannia canicularis	●	●			
25	コウチュウ	オサムシ	コルリアトキリゴミムシ	Lebia viridis			●		要注目
26		エンマムシ	クロチビエンマムシ	Carcinops pumilio	●				
27		コガネムシ	シロテンハナムグリ	Protaetia orientalis submarmorea	●	●	●		
28		カツオブシムシ	カドマルカツオブシムシ	Dermestes haemorrhoidalis			●		
29		シバンムシ	タバコシバンムシ	Lasioderma sericorne			●		
30		テントウムシダマシ	ホソツヤヒメマキムシ	Holoparamecus depressus		●			
31		ケシキスイ	クリイロデオキスイ	Carpophilus marginellus			●		
32		ネスイムシ	トビイロデオネスイ	Monotoma picipes			●		
33		ホソヒラタムシ	フタトゲホソヒラタムシ	Silvanus bidentatus			●		
34			ヒメフタトゲホソヒラタムシ	Silvanus lewisi			●		
35		コキノコムシ	チャイロコキノコムシ	Typhaea stercorea	●				
36		ゴミムシダマシ	ガイマイゴミムシダマシ	Alphitobius diaperinus	●		●		
37			ヒメゴミムシダマシ	Alphitobius laevigatus	●				
38			コメノゴミムシダマシ	Tenebrio obscurus		●			
39			ヒラタコクヌストモドキ	Tribolium confusum	●				
40		カミキリムシ	ラミーカミキリ	Paraglenea fortunei	●	●	●		
41			キボシカミキリ	Psacothea hilaris hilaris			●		
42		ハムシ	ブタクサハムシ	Ophraella communa			●		要注目
43		ゾウムシ	アルファルファタコゾウムシ	Hypera postica			●		
44			イネミズゾウムシ	Lissorhoptrus oryzophilus	●		●		
45			ヤサイゾウムシ	Listroderes costirostris			●		
46		オサゾウムシ	シバオサゾウムシ	Sphenophorus venatus vestitus			●		
47	ハチ	ツヤコバチ	ワタムシヤドリコバチ	Aphelinus mali	●				
48		トビコバチ	ルビーアカヤドリトビコバチ	Anicetus beneficus	●				
49		アナバチ	アメリカジガバチ	Sceliphron caementarium			●		
50		ミツバチ	セイヨウミツバチ	Apis mellifera		●	●		

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定:特定外来生物
　要注意:要注意外来生物
「滋賀県で大切にすべき野生生物　平成12年版(滋賀県琵琶湖環境部自然保護課,平成12年8月)」に記載されている種
　影響:生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種
京都府HP(2002)「京都府レッドデータブック 動物・植物編」に記載されている種
　要注目:要注目種－外来種(国外外来種)

※ 上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

出典：6-18～6-20

(9)その他調査等

1)魚道に関する検討

天ヶ瀬ダムが魚類の遡上・降下に及ぼす影響を評価し、必要な対策について検討するために、平成 16～18 年度に、「天ヶ瀬ダム魚類等遡上・降下影響評価委員会」（以下、「検討委員会」という。）が設置され、検討が行われている。

これまでの検討委員会での検討結果を整理し、さらに全魚種、限定魚種それぞれの遡上種の動向予測・影響評価結果から、魚道整備に向けての課題の抽出を行った。

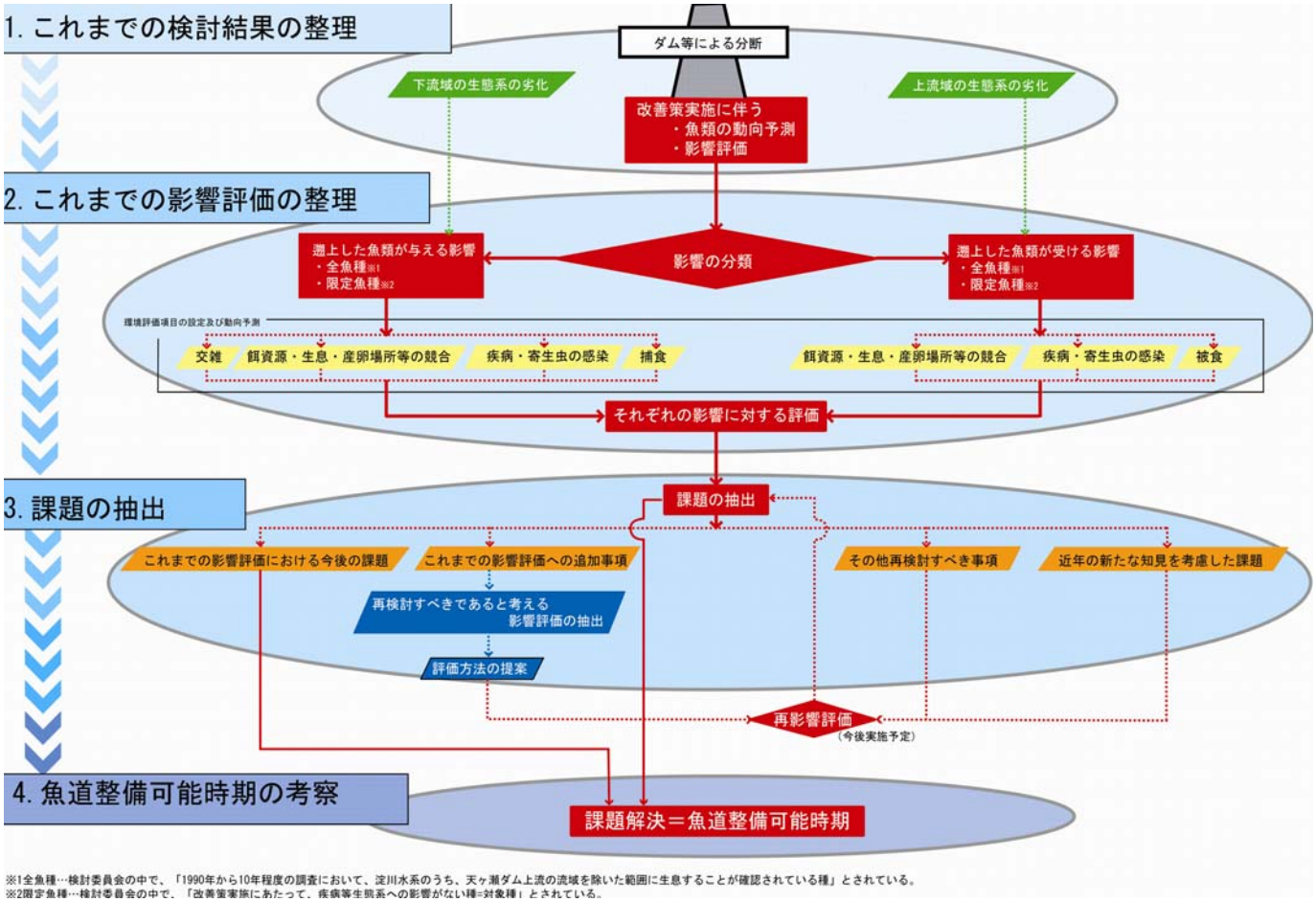


図 6.3-2　天ヶ瀬ダム魚道整備可能時期の検討フロー

a. **これまでの検討結果及び影響評価結果の整理**

天ヶ瀬ダムにより分断されている下流域及び上流域別に、これまの検討結果(上下流それぞれにおける劣化の状況)及び影響評価結果(遡上した魚類与える・受ける影響)について、図 6.3-3に示す。

これまでの検討結果

下流域の主な劣化

- 横断構造物の設置…淀川大堰、天ヶ瀬ダム、(瀬田川洗堰)
- 河川改修…明治時代の河口域の大改修、昭和初期の巨椋池の干拓
- 漁獲量の減少…平成 4 年以降の漁獲量の減少
- 魚病の発生…ウオビル、腹口類、冷水病、コイヘルペス

遡上した魚類が与える影響評価

項目	区分 ※1	影響があると評価された主な種	影響内容	評価記号	今後予測される動向
交雑	全	－	上流に生息する種の近縁種が遡上することによって、在来種と交雑する可能性がある。	－	－
	限	－			
餌資源・生息・産卵場所等の競合	全	－	天ヶ瀬ダム下流でのみ生息が確認されている種が遡上することによって、在来種の餌資源・生息・産卵場所を奪う可能性がある	－	－
	限	－			
疾病・寄生虫の感染	全	フナ類、コイ科魚類 ヨシノボリ類 等	フナ類の冷水病・ウオビル 腹口類 ：琵琶湖においては確認されていない。これらの疾病等を蔓延させる可能性がある。	×	ウオビルや冷水病 琵琶湖のフナ類に蔓延した場合には、これらの個体群が縮小し、地域個体群の絶滅の機会の増大につながる。 腹口類： 委員会による影響評価が行われた段階では、琵琶湖内においては確認されていなかった腹口類が、2007年以降、ダムより上流の瀬田川および琵琶湖南湖で確認された。(「琵琶湖・淀川水系における腹口吸虫の分布拡大予測と魚病防止に関する研究」,2010 年,馬場孝他) 同文献によると、本種の琵琶湖南湖および宇治川の水中における密度を推定し、魚病引き起こす密度と比較したところ、魚病が発生する可能性は低いと考えられている。
	限	－	－	－	－
捕食	全	－	天ヶ瀬ダム下流でのみ生息が確認されている種が遡上することによって、在来種を捕食する可能性がある。	－	－
	限	－			

※1…全＝全魚種　限＝限定魚種

評価記号　△：影響が一部あると考えられる　×：影響が大きいと考えられる　＊：影響の程度が判断できない

－：影響のある種はいない

図 6.3-3(1)　天ヶ瀬ダム下流域における検討結果及び影響評価結果

これまでの検討結果

上流域の主な劣化

・特定外来種であるオオクチバス・ブルーギルの侵入と激増
…捕食による在来種へ直接的な影響
…生息場所や餌資源をめぐる在来種との競合
…捕食により雑魚が減少したことで、被食圧が減少した動物プランクトンの増殖

・内湖干拓及び水位操作に伴うヨシ帯及び水辺移行帯の減少
…産卵場・稚仔魚の育成場の減少
…卵・幼生・仔稚魚の干出
…移動経路の分断

遡上した魚類が受ける影響評価

項目	区分 ※1	影響があると評価された主な種	影響内容	評価記号	今後予測される動向
餌資源・生息・産卵場所等の競合	全	－	現在の状態の上流域に遡上しても、餌資源・生息・産卵場所等を獲得できない可能性がある。	－	－
	限	－			
疾病・寄生虫の感染	全	アユ	湖産アユから冷水病等が伝染する可能性があり、影響が一部あると予測される。	×	遡上してきたアユに冷水病が伝染し、放流アユを含む遡上個体群が縮小し、死滅につながる可能性がある。これにより、放流が水産資源の増加につながらなくなる可能性がある。さらに、水産資源としての琵琶湖アユの価値を低下させる可能性がある。
	限	－	－	－	－
被食	全	アユ	近年、オオクチバスが増加しており、これらの被食の影響を受ける可能性がある。近年、モクズガニの主な生息域であると考えられる琵琶湖の水辺移行帯も減少しており、それにともない被食の影響を受けやすくなっており、影響が一部あると予測される。	△	遡上してきたアユ・モクズガニに対するオオクチバスの捕食圧の増加により、これらの個体群が琵琶湖へ定着できない可能性がある。
	限	モクズガニ			

※1…全＝全魚種　限＝限定魚種

評価記号　△：影響が一部あると考えられる　×：影響が大きいと考えられる　＊：影響の程度が判断できない
－：影響のある種はいない

図 6.3-3(2)　天ヶ瀬ダム上流域における検討結果及び影響評価結果

b. **課題の抽出**

魚道整備に向けて、検討委員会の影響評価において今後検討すべきであると考えられる課題を整理した上で、近年の新たな知見に関する内容も含めて、追加検討を行うことが望ましいのではないかと考えられる課題も抽出・整理した。

表 6.3-24　課題の抽出結果

<table>
<tr><th>これまでの影響評価における今後の課題</th><th>これまでの影響評価への追加事項の評価方法例</th><th>その他検討すべき事項</th><th>近年の新たな知見を考慮した課題</th></tr>
<tr><td>全魚種</td><td rowspan="3">遡上した魚類が与える影響

交雑
：カワヒガイ
スジシマドジョウ中型種等
遺伝子攪乱の影響の程度を、これまでの影響評価中でアユに対して行われているように、それぞれの遡上数の規模を推定し、産卵数や生存率、琵琶湖の現況の生息数などをパラメータとした数理モデルによるシミュレーションにより予測評価する。その際、パラメータとなるデータの収集も必要であると考える。

：アユ
検討委員会の中で行われているシミュレーションのパラメータの一つの環境収容力（=湖産アユの推定個体数）の変化についてモニタリングし、継続的なシミュレーションを行う。</td><td>下流域の劣化
・下流域の目指すべき姿を明確にするための定量的な環境変化の把握
上流域に与える影響
・改善策実施が上流域に与える影響を、琵琶湖のみではなく琵琶湖への流入河川を含めて評価</td><td>琵琶湖の外来魚
・全国における最新の駆除対策の知見を収集し、琵琶湖における外来魚の駆除
・外来魚に関する問題意識の普及と啓蒙活動の継続的な実施
腹口類
・生息動向の継続的なモニタリング</td></tr>
<tr><td>・劣化した上流域の環境収容力の増大
・下流域および上流域双方における健全な生態系の復元
・突発的な環境変化に対して耐久力のある生態系の復元
・オオクチバスの駆除とそれに関する啓蒙活動の継続的な実施</td><td>遡上する魚類が与える影響
・遡上する魚類が与える影響を、上流に生息していない種においてのみではなく、遡上する可能性のある全ての種において評価</td></tr>
<tr><td>限定魚種</td><td>遡上する魚類が受ける影響
・遡上する魚類が受ける影響を、上流に生息していない種においてのみではなく、遡上する可能性のある全ての種において評価</td></tr>
<tr><td>・水辺移行帯の復元
・オオクチバスの駆除とそれに関する啓蒙活動の継続的な実施</td><td>遡上した魚類が与える影響
5
競合
：トウヨシノボリ
これまでの委員会で予測された遡上数の根拠の確認を行う。
被食
：アユ
相対評価ではなく、これまでの影響評価において他種で行われているような海産アユ自体の影響評価を行う。</td><td>水産資源としての評価
・アユやウナギ等、水産有用種が遡上することによって新たに産まれる経済価値に着目</td><td></td></tr>
</table>

c. **魚道整備可能時期の考察**

以上を踏まえ、課題解決時期の検討にあたっては、検討グループ（全魚種、限定魚種という生態系に与える影響の程度を踏まえたグループ分け）の再整理や再影響評価も必要と考えられ、今後改めて有識者等の判断を仰ぐべきと考えられる。

一方、事業実施時期については、関連事業の動向や生態系等の環境変化の今後の状況の推移の把握、今後の新たな知見の収集等も行いながら、社会的要請の高まりなども判断指標の一つとして、事業手法の再検討も含めて決定していく必要もあると考える。したがって、魚道整備の実施時期は、それぞれの課題の解決時期を見極め、その時点で考えられる整備手法が効果的な対策となるかを判断しながら決定して行くべきであると考える。

魚道整備可能時期の考え方を図 6.3-4に、これまでの経緯及び事業休止から今後の展開を図 6.3-5に示す。

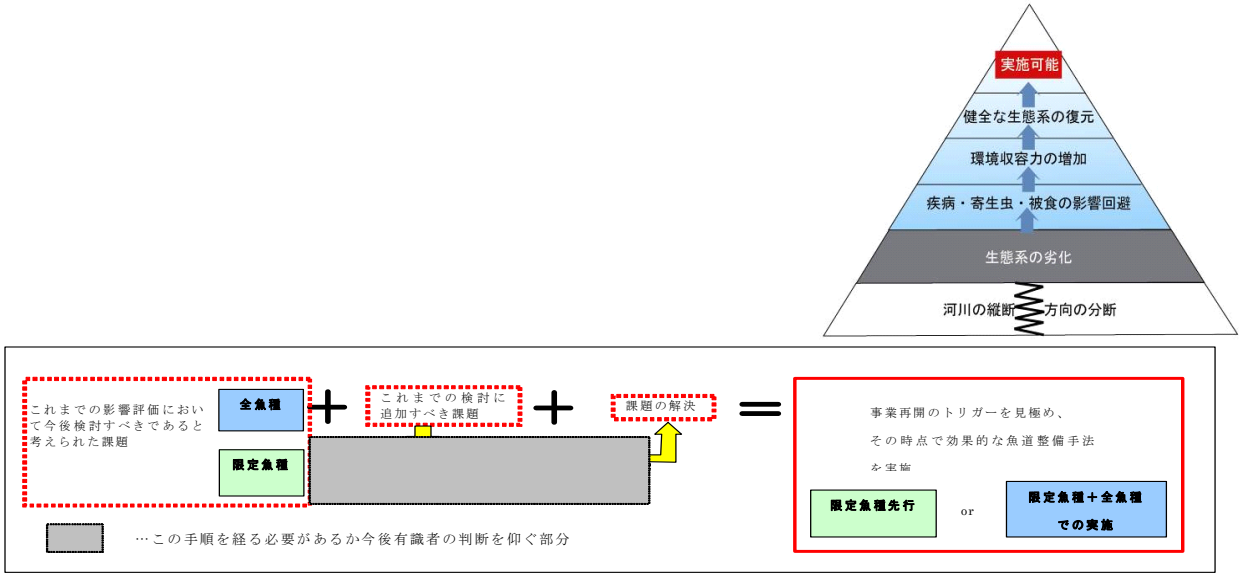


図 6.3-4　魚道整備可能時期の考え方

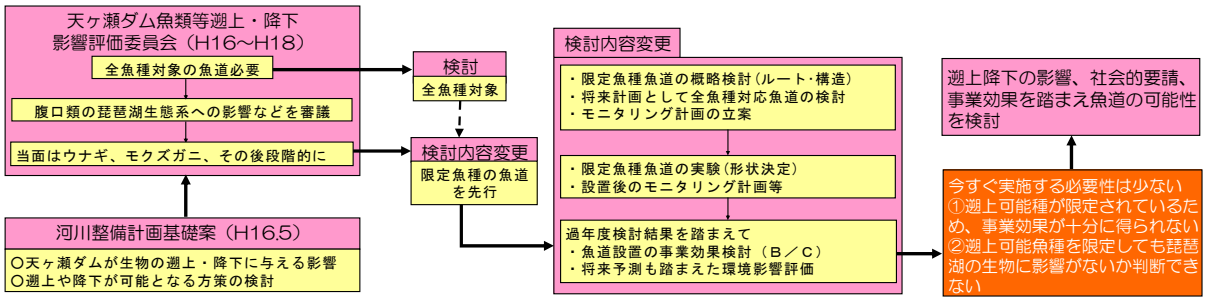


図 6.3-5　これまでの経緯及び今後の展開

2)外来種対策に関する検討

近年、天ヶ瀬ダム湖周辺では外来種（オオクチバス、ブルーギル、カワヒバリガイ等の魚介類）の増殖が確認されている。現在のところ、ダム運用に際しての問題点、下流河川の生態系、漁業等への影響は確認されてないが、外来種の繁殖による影響を未然に防止し、在来種の生息環境を保全していく必要があると考える。また、関係機関や住民・住民団体と連携しながら駆除等の対策を推進していくことが「淀川水系河川整備計画」でも示されている。

このような背景の下、「天ヶ瀬ダム外来種対策調査業務　報告書」（平成 21 年 3 月）において、天ヶ瀬ダムにおける外来種の資源抑制対策について検討を行った。

検討の結果、下記に示すような駆除手法が効果的であると考えられた。

●施設の設置による流下防止対策
・流下防止ネットの設置

●捕獲を目的とした駆除対策
・刺網による捕獲
・産卵期親魚捕獲用刺網による捕獲
・電撃捕漁器による捕獲
・捕獲カゴによる捕獲

●繁殖抑制を目的とした駆除対策
・人工産卵床の設置

●カワヒバリガイの駆除対策
・人力による駆除

●啓発・普及活動による駆除対策
・体験型駆除対策の実施

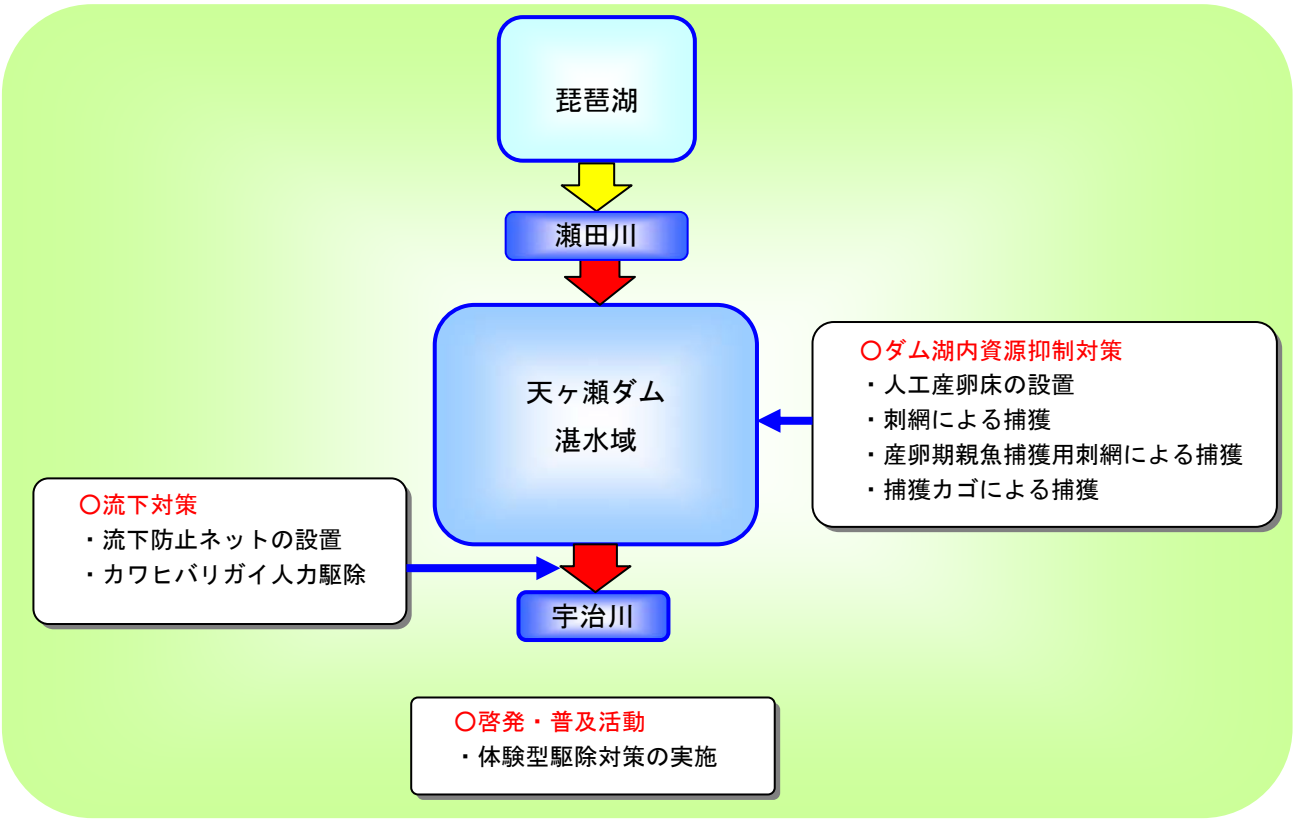


図 6.3-6　天ヶ瀬ダムにおける外来種駆除対策模式図

出典：6-37

a. **オオクチバス・ブルーギル**

以上の検討を踏まえ、平成 21 年度よりオオクチバス、ブルーギルの捕獲実験を実施した。

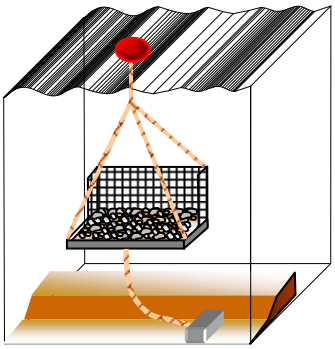
平成 21 年度　捕獲設備による駆除実験

(実験内容)

○人工産卵床による駆除実験（オオクチバス、ブルーギルの卵から駆除)

プラスチック製の苗用コンテナにこぶし大程度の礫を詰め、外来魚の産卵適地と考えられる田原川流入部、大峰橋上流湖岸に設置し、１～２週間後に回収した。





○刺し網による捕獲駆除実験(産卵床を保護するオオクチバス、ブルーギルの親魚の駆除)

コンパクトディスクを敵と間違えて、突進するところを刺網で絡めて捕獲することを目的として、コンパクトディスクを取り付けた小型刺網を人工産卵床周辺に設置した。





○捕獲カゴによる捕獲駆除実験(オオクチバス、ブルーギルの捕獲駆除)

誘因餌をいれた捕獲カゴを設置した。



(実験結果)

・人工産卵床については、ダム放流時に流出してしまった。

・刺し網については、取扱が難しく捕獲できなかった。

・捕獲カゴについては、稚魚が捕獲駆除でき、有効な方法であることが、確認できた。

平成 22 年度　捕獲設備による駆除実験

平成 21 年度の結果を受け、捕獲カゴを主にした捕獲実験を継続した。

○捕獲カゴによる駆除実験

6 月 3 日実施



潜水橋付近

○人工産卵床による駆除実験

6 月 3 日実施



下出橋上流

また、平成 21 年度に天ヶ瀬ダム堤体の手すりに外来種増加に関するパネルシートを設置し、ダム訪問者に対して、外来種に関する啓発を行った。今後も引き続き、看板の設置等により啓発活動に努める。

b. **カワヒバリガイ**

カワヒバリガイは、琵琶湖では平成 4 年(1992 年)に初めて確認され、天ヶ瀬ダム周辺では平成 6 年(1994 年)に多数の生息が確認された。その後は減少したが、継続的に確認されており、平成 20 年度にも確認されている（図 6.3-7)。

淀川水系に生息する外来種カワヒバリガイの生息状況を確認するため、国土交通省(当時、建設省)、滋賀県及び水資源機構(当時、水資源開発公団)が一体となって平成 7 年(1995 年)度に現地調査を実施した。その結果、天ヶ瀬ダム下流に位置する天ヶ瀬吊橋周辺で最も多く確認された(図 6.3-8)。

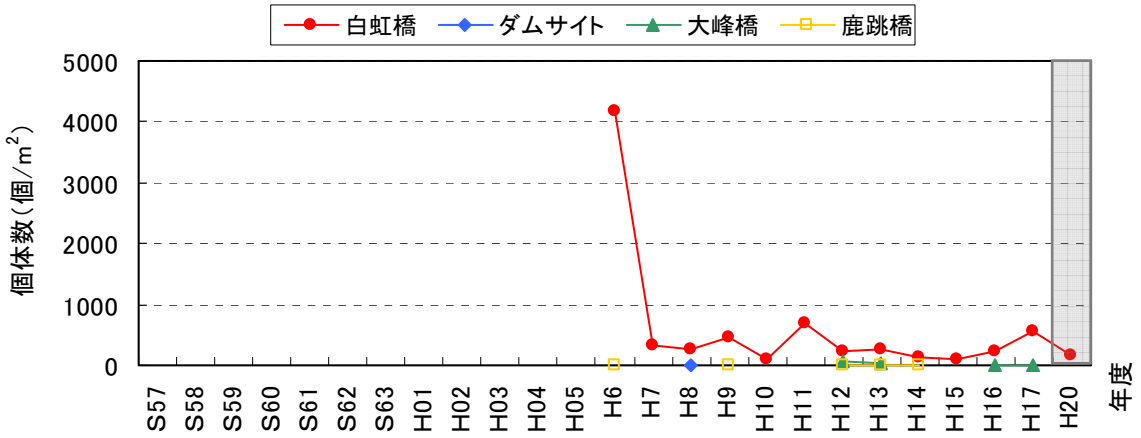


図 6.3-7　カワヒバリガイの出現状況

出典：6-6、6-30

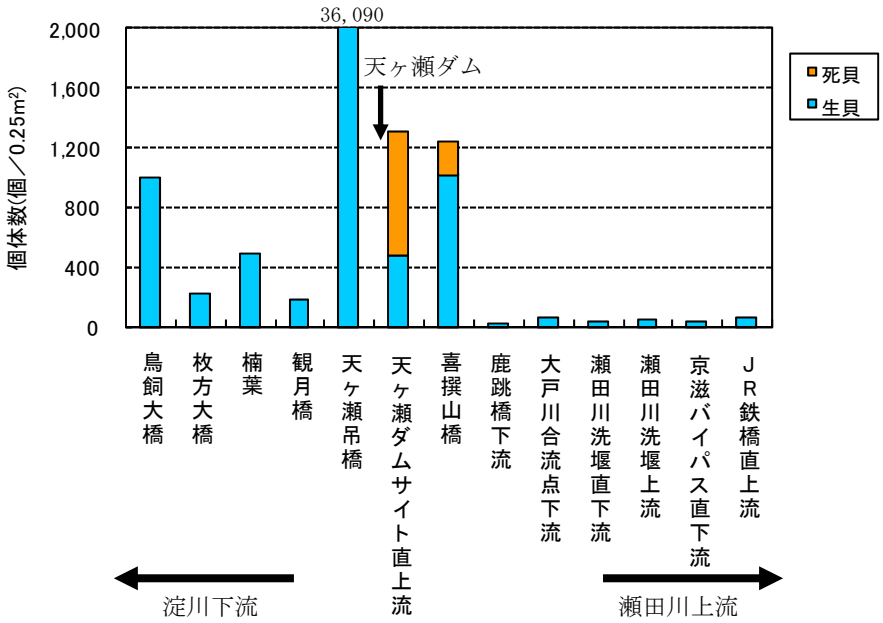


図 6.3-8　カワヒバリガイの分布状況(H7)

出典：6-33

3)湖岸緑化に関する検討

平成 19 年度、天ヶ瀬ダム湖岸における裸地景観の緩和を目的として、天ヶ瀬ダム湖岸における緑化対象地・緑化植物の選定、緑化工法等を用いた試験施工の詳細設計が実施された。

この検討をもとに、平成 20 年度に湖岸緑化対策（丸太柵工，柳枝工、養生マット工）試験施工を実施した。緑化対策試験施工実施状況を図 6.3-9に示す。

今後は、以下に示すモニタリング調査を実施する予定である。

(1)　調査期間

モニタリング期間は、施工後 2～3 年間とする。

(2)　調査項目

調査項目は、植物の生育状況、植被状況、緑化工の損傷状況とする。

(3)　調査時期

調査時期は、秋季（9 月下旬～10 月上旬）とする。

(4)　調査内容

モニタリング調査及び植生回復状況の評価は、以下の順序にしたがって実施する。

①施工前（本調査)、施工直前、施工直後の試験区の状況を写真にて記録する。

②施工後、モニタリング調査を試験区毎に実施する。また、施工前と同様に試験区の写真を撮影する。

③施工箇所に隣接する裸地部分に対照区を設定し、優占する主な種の植被率、植生高を記録し、写真を撮影する。

④施工箇所周辺で、裸地となっていない目標となる植生が成立している湖岸箇所に参照区を設定し、優占する主な種の植被率、植生高を記録し、写真を撮影する。

⑤景観による評価も行うため、視点場からの写真も撮影する。

⑥調査結果より、試験区と施工前及び対照区、参照区の植生状況との比較により回復状況を把握し、評価を行う。

⑦良好な場合は、引き続きモニタリング調査を継続する。植物生育状況あるいは緑化工の損傷状況等も加味し、必要に応じて再播種、補植、修繕等を検討し、実施する。

出典：6-36

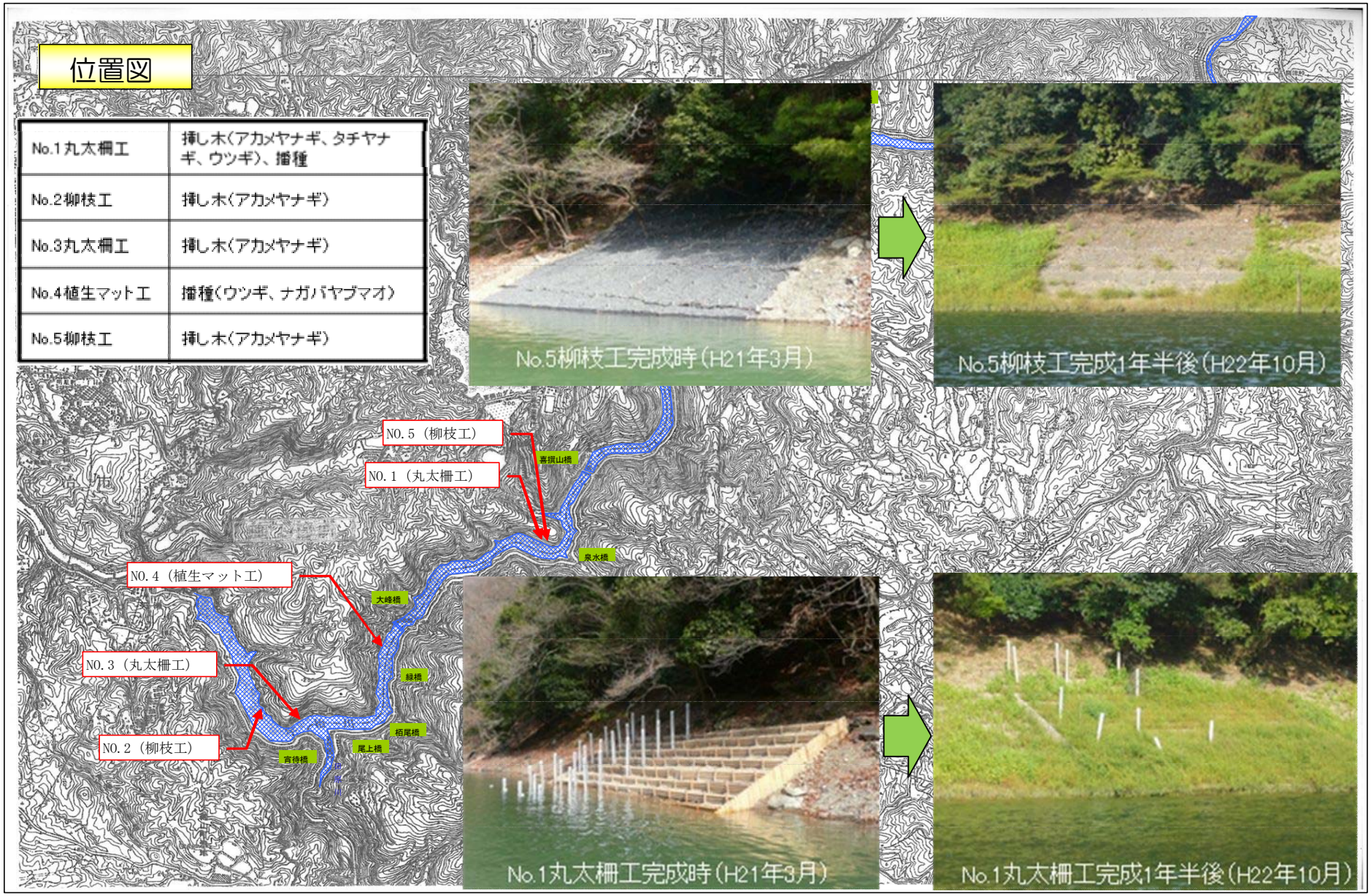


図 6.3-9　緑化対策試験施工実施状況

6.4　生物の生息・生育状況の変化の検証

天ヶ瀬ダムにより影響を受けると考えられる場所別(ダム湖内、流入河川、下流河川、ダム湖周辺)及び連続性の視点から環境の状況と生物の生息・生育状況の変化を把握し、ダムによる影響の検証を行った。

また、重要種の生息・生育状況の変化についても整理し、生息・生育状況に変化がみられた場合は、ダムによる影響について検証した。

天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化の検証の視点及び検証の対象を表 6.4-1及び図 6.4-1に示す。

表 6.4-1　天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化の検証の視点

視点		検証の対象
場所別	ダム湖内	ダム湖内(平常時最高貯留水位より内側の貯水池）における生物の生息・生育状況の変化。
	流入河川	ダム湖平常時最高貯留水位より上流の本川(鹿跳橋付近)、大石川及び信楽川における生物の生息・生育状況の変化。
	下流河川	天ヶ瀬ダム堤体直下より約 300m 下流の白虹橋付近、または「河川水辺の国勢調査〔河川版〕」の最上流調査地点である隠元橋付近における生物の生息・生育状況の変化。
	ダム湖周辺	河川水辺の国勢調査(植物)の対象範囲となるダム湖の湛水面から概ね 500m の範囲内(ダム湖内を除く）における生物の生息・生育状況の変化。
連続性		流入河川～ダム湖～下流河川における生物の生息・生育状況の変化。
重要種		重要種の生息・生育状況の変化。

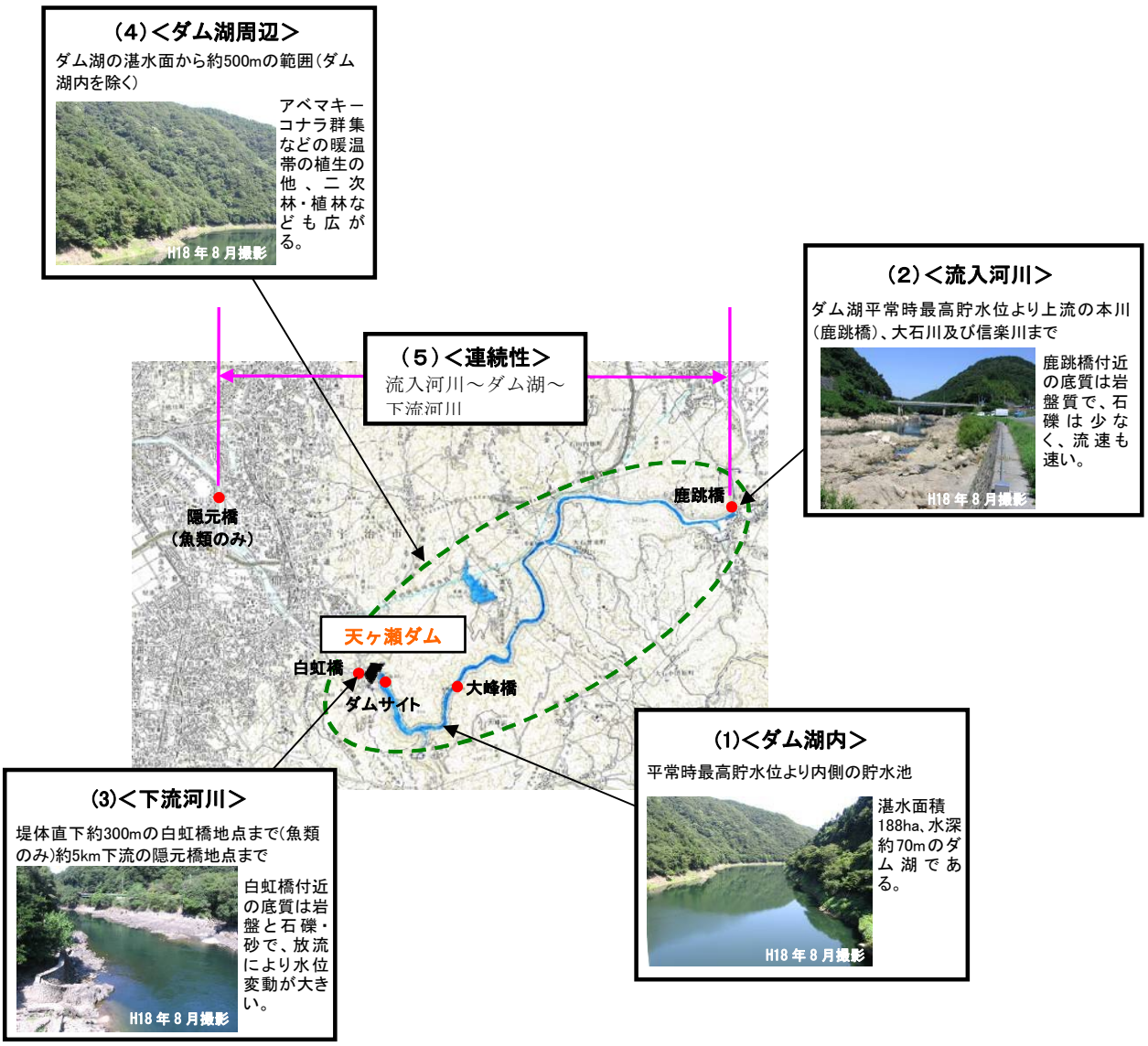


図 6.4-1　天ヶ瀬ダムにおける生物の生息・生育状況の変化の検証の場所

6.4.1ダム湖内における変化の検証

ダム湖内において環境条件の変化が起こり、ダム湖内を利用する様々な生物の生息・生育状況に変化を引き起こす可能性がある。

そのためここでは、天ヶ瀬ダム湖内における環境条件の変化及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.4-2のように想定し、ダム湖内の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

・止水環境の存在
・貯水池の水位変動状況(年間変動)
・ダム湖流入部における堆砂状況
・貯水池の水温・水質
・貯水池の底質
・魚類の漁獲・放流実績
・人によるダム湖の利用状況

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

・止水域～緩流域を好む魚類の生息状況の変化
・外来種の生息状況の変化(魚類)
・底生動物の主要構成種の変化
・植物プランクトン相の変化
・付着生物相の変化
・水位変動域の植物生育状況・植生の変化
・外来種の生育状況の変化(植物)
・湖面及び水辺を利用する鳥類の生息状況の変化
・水辺を利用する爬虫類・哺乳類の生息状況の変化(爬虫類及び哺乳類については平成 18～21年度は調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した内容を参考として示す。)

(3) ダムによる影響の検証

天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化やダム以外の要因等と照らし合わせて検討し、ダムによる影響を検証した。

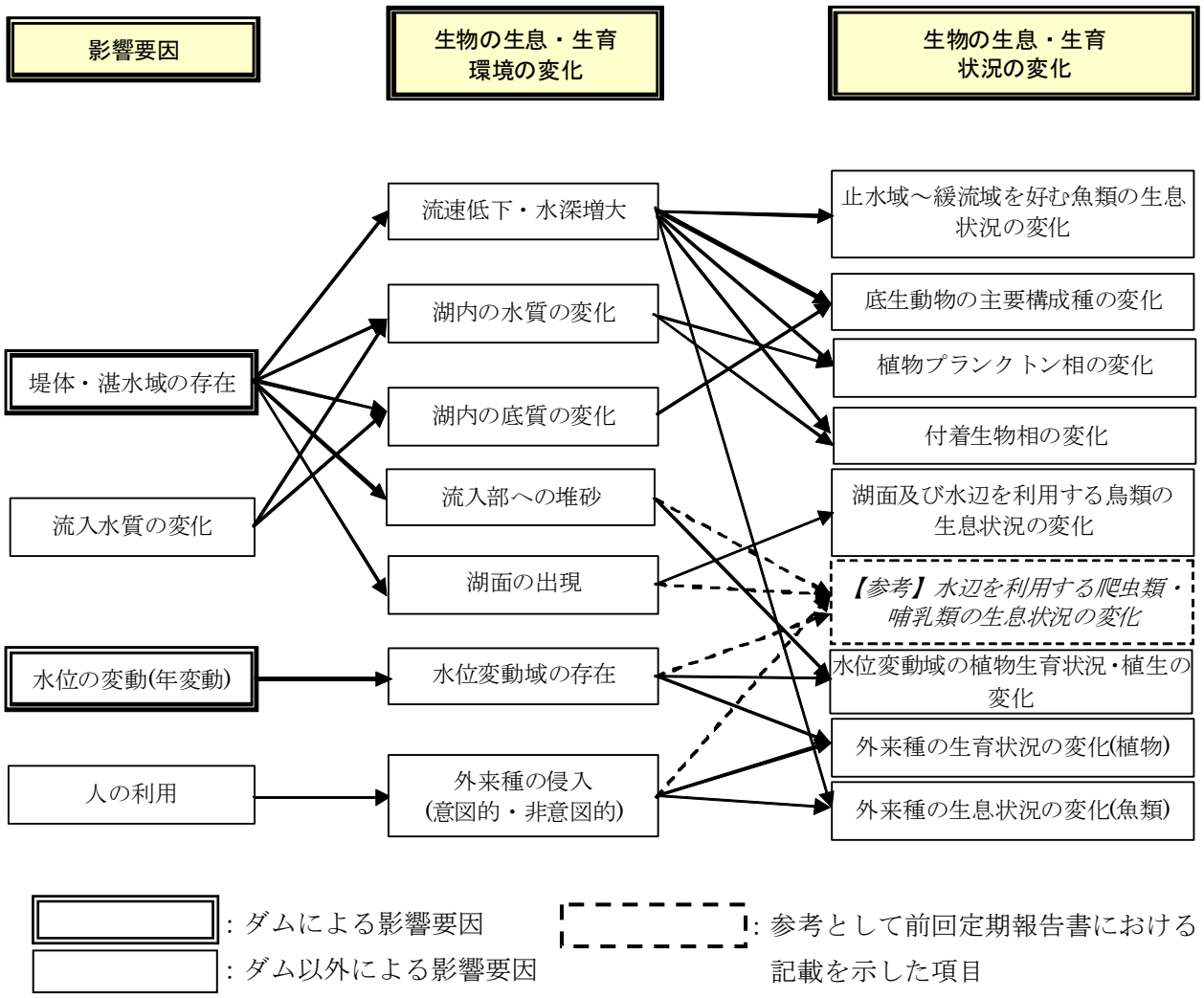


図 6.4-2　天ヶ瀬ダム湖内で想定される環境への影響要因と生物に与える影響

※爬虫類及び哺乳類については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

(1)環境条件の変化の把握

1)止水環境の存在

天ヶ瀬ダム貯水容量の平均 1,743 万 m^3(昭和 40 年(1965 年)～平成 21 年(2009 年)平均)に対して、年間流入量の平均が約 305,036 万億 m^3/年(昭和 40 年(1965 年)～平成 21 年(2009 年)平均)であり、回転率が約 175 回/年の流れダムとなっている。これは他のダム湖に比べ高い回転率であり、水交換が促進されやすいダムであると言える。ただし、ただし、5 月から 9 月頃にかけて水温躍層が形成される傾向にあり、水深が大きいダムサイト付近では底層部に貧酸素領域が形成される（「5.水質」参照)。

2)貯水池の水位変動状況(年間変動)

天ヶ瀬ダムの平常時最高貯留水位及び洪水時最高水位は EL.78.5m、洪水期貯留準備水位は EL.72.0m である。管理開始以降 15 回の洪水調節が行われており、全て 5 月から 9 月で、主に台風及び梅雨前線の影響によるものであった。

昭和 40 年～平成 21 年の天ヶ瀬ダムの流入量及び貯水位の変動を図 6.4-3に示す。夏季の 6 月～9 月に洪水期貯留準備水位 EL.72m 以下の EL.70m 前後、夏季以外の 10 月～5 月は年によって変動しているが、EL.75m 前後であった。平成 19 年以降は 10 月～5 月の水位がやや低い傾向がみられる。

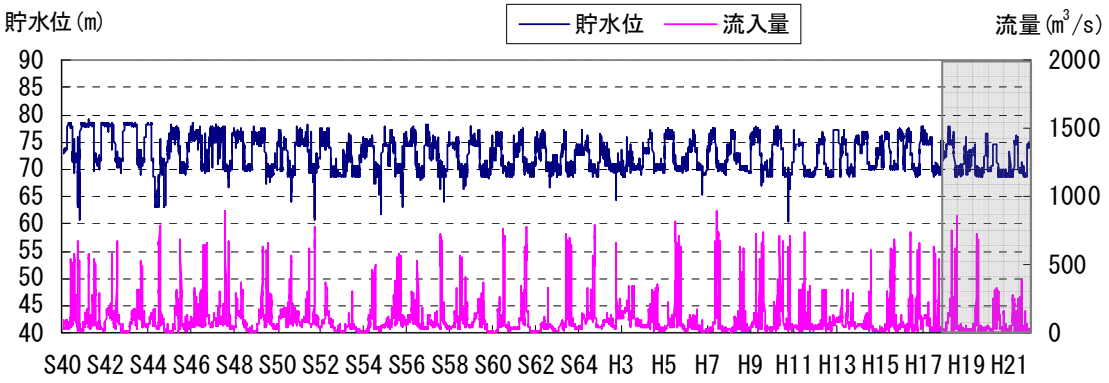


図 6.4-3　天ヶ瀬ダム流入量及び貯水位の変動状況

出典：6-39

3)揚水発電による水位変動(参考)

揚水発電による水位の変動に伴う流速の変化については、前回定期報告書に示したとおり、平成 16 年 8 月(2004 年 8 月)に調査が実施されている。

揚水発電による水位の変動は、日変動 3.0m 以下が 90%を占めるものの、最大 5.0m に及ぶこともある。天ヶ瀬ダム湖内においては、平成 16 年 8 月に図 6.4-4に示す調査地点において超音波ドップラー流速計を用いた曳航観測が行われている(図 6.4-5)。

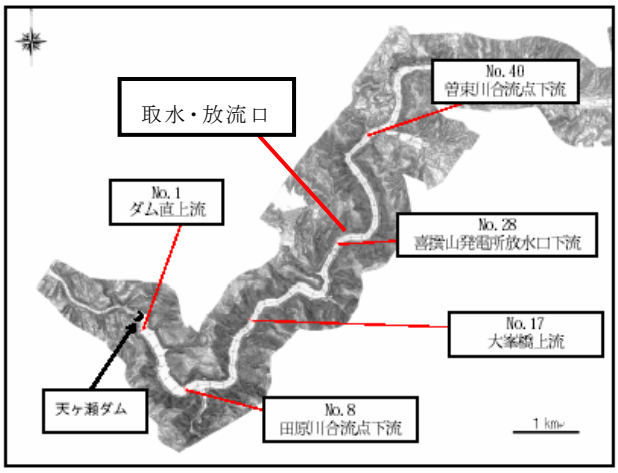


図 6.4-4　流速調査地点

ドップラー流速計(ADCP : Acoustic Doppler Current Profiler)は、超音波のドップラー効果を応用して河道内の 3 次元の流速分布を測定する機器である。この測定機を船等に搭載し、河川や湖沼を運航しながら測定することによって、運行断面内の流速を短時間で観測することができる。

ドップラー流速計の原理は、以下の通りである。

超音波を水中に向けて放射した場合、水中の浮遊物質などの散乱体によって反射される。この時散乱体が移動していれば、ドップラー効果によって反射波の周波数が変化する。この周波数の変化量を解析することによって、河道断面の鉛直方向の散乱体の移動速度の分布を求めることができる。ドップラー流速計は、超音波の送受波器を通常 4 基使用し、各送受波器から得られる流速成分を合成することによって 3 次元流速分布（流速プロファイル）を求めるものである。さらに、この流速プロファイルをもとに、河川の横断面に垂直な流下方向流速成分を積分することによって、流量を計算することができる。

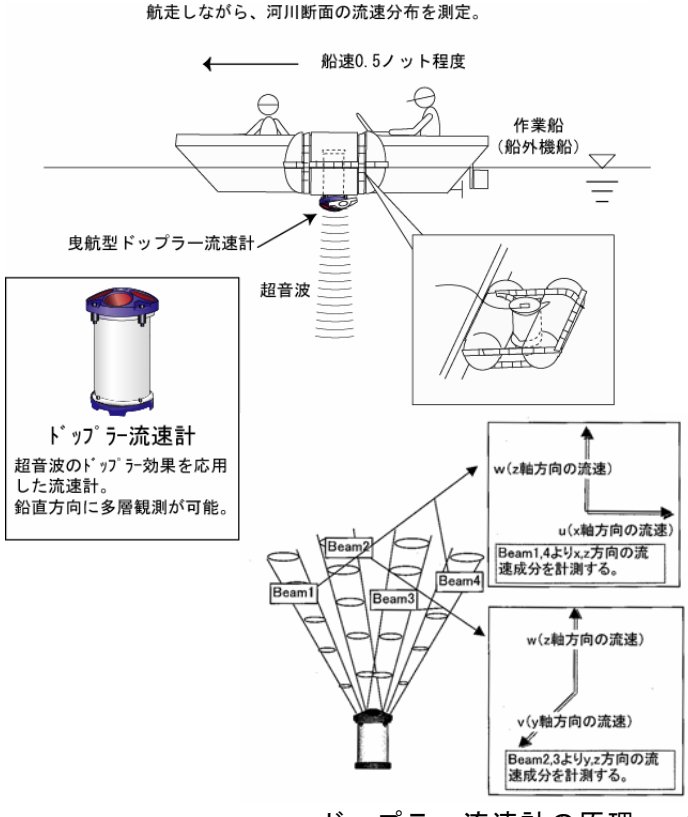


図 6.4-5　曳航観測概念図

出典：6-35

観測時の貯水位及び流量を図 6.4-6に、各地点の流速分布状況を表 6.4-2に示す。これより、以下に示すことが分かった。

① 揚水発電所の運転状況により貯水池内の流速分布状況が大きく変わる。
② 揚水発電所停止時には上流から下流へ流れている(順流)。全体的には流速 5～10cm/s である。
③ 揚水発電所運転時には上流から下流へ流れている(順流)。放流口下流では最大で1m/s 程度であるが、放流口上流では 10cm/s 程度と遅くなっている。
④ 揚水発電所揚水時には、放流口から大峰橋付近(No17)にかけて流速 20cm/s 程度で逆流が生じている。一方、放流口上流では順流であるが、50cm/s 程度であり、停止時や運転時と比べて早くなっている。

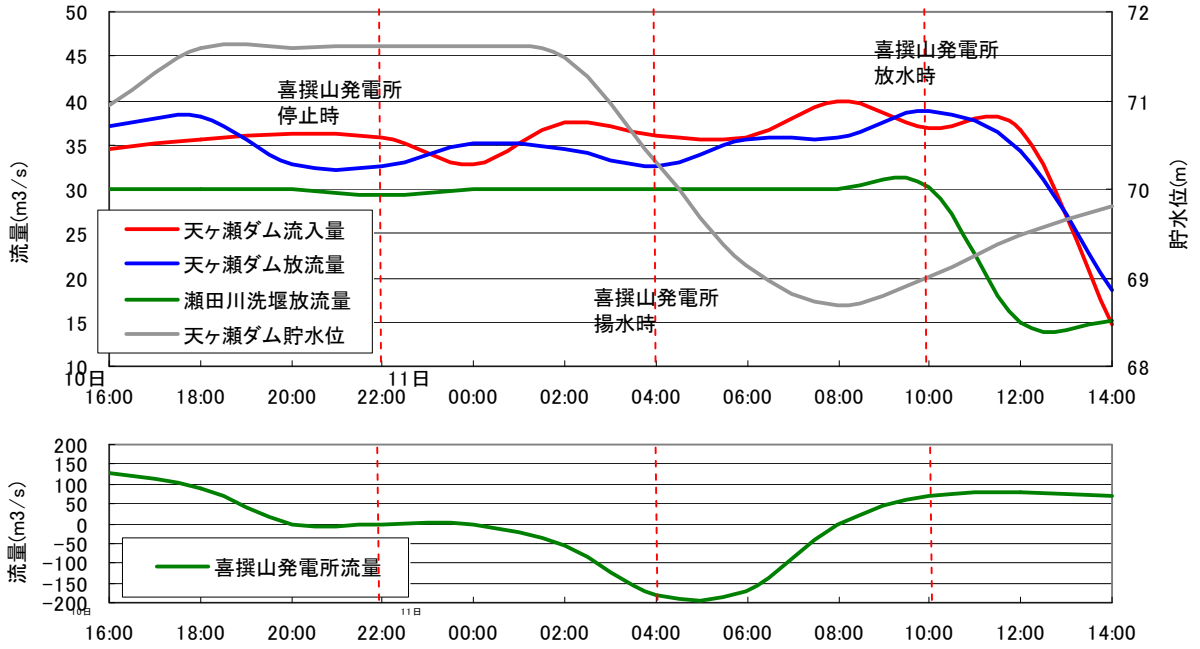
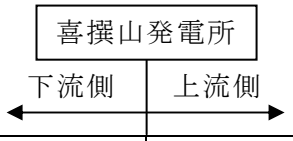
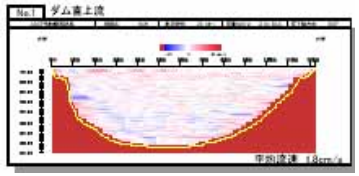
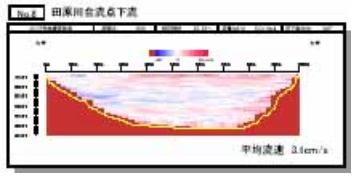
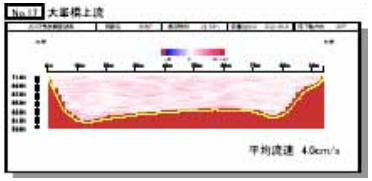
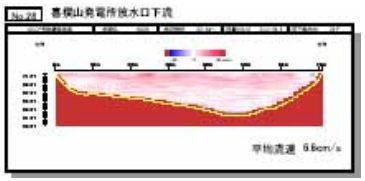
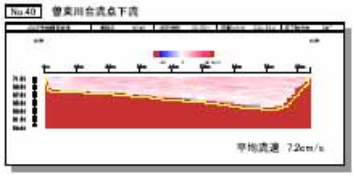
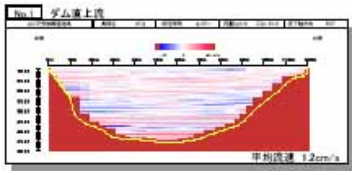
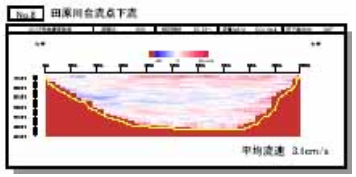
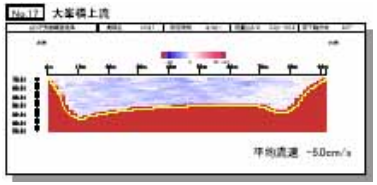
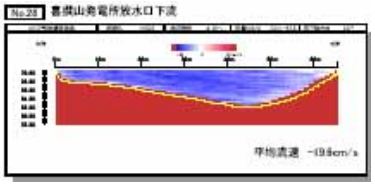
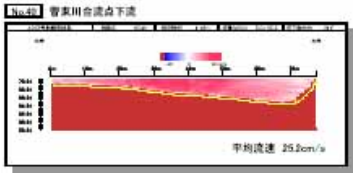
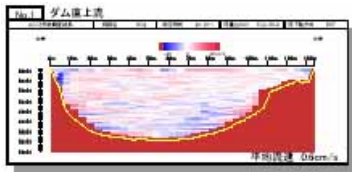
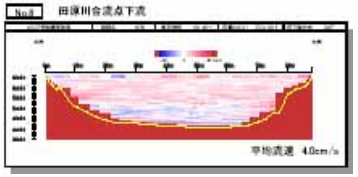
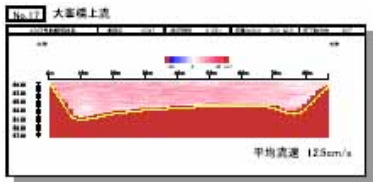
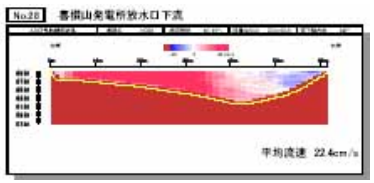
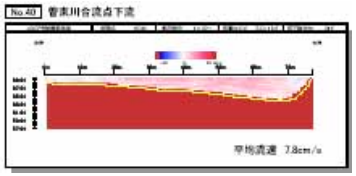


図 6.4-6　観測時の水位・流量の時刻変化

出典：6-35

表 6.4-2　天ヶ瀬ダム湖内における流速分布



	ダム直上流	田原川合流点下流	大峯橋上流	喜撰山発電所放流口下流	曽束川合流点下流
揚水発電停止時					
揚水発電揚水時					
揚水発電発電時					

【調査日時】

揚水発電停止時：平成 16 年 8 月 10 日 20:00

揚水発電揚水時：平成 16 年 8 月 11 日 04:00

揚水発電発電時：平成 16 年 8 月 11 日 10:00



出典：6-35

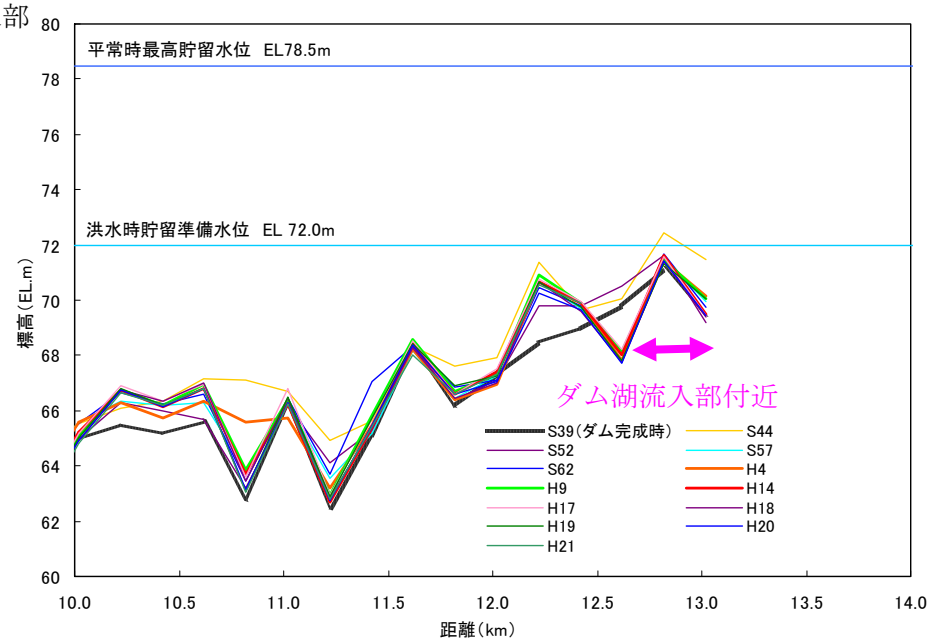
4)ダム湖流入部における堆砂状況

天ヶ瀬ダム湖の流入部付近における堆砂縦断図を図 6.4-7に示す。

本川流入部付近においては、昭和 39 年のダム完成時以降、昭和 52 年頃までは堆砂傾向にあったが、その後ほとんど変化はみられない。

また、大石川流入部においては、平成 14 年まで河床が低下する傾向にあったが、その後ほとんど変化はみられない。

■本川流入部



■大石川流入部

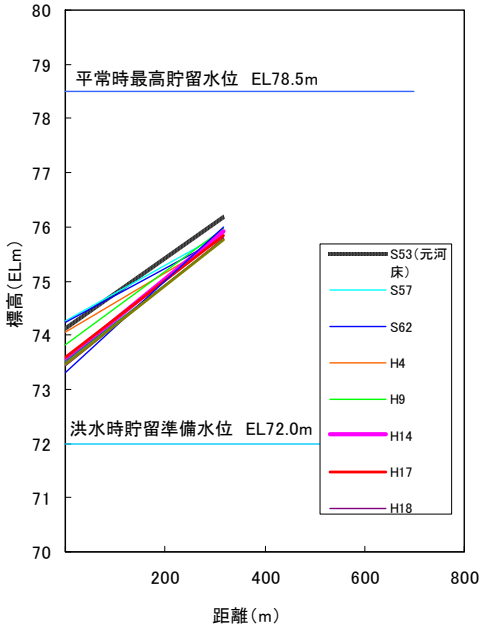


図 6.4-7 堆砂縦断図

出典：6-41

5)貯水池の水温・水質

天ヶ瀬ダムのダムサイト地点における水温・水質の経月変化を図 6.4-8に、富栄養化関連項目である窒素、リンの形態別濃度平均値の経年変化を図 6.4-9に示す。

夏季に底層において DO の低下がみられる。全窒素については昭和 61 年以降横ばいである一方で、無機態の割合が上昇傾向にある。リンについても同様に全リンの濃度が平成 6 年以降横ばいである一方で、オルトリン酸態リンの割合が高くなっている。

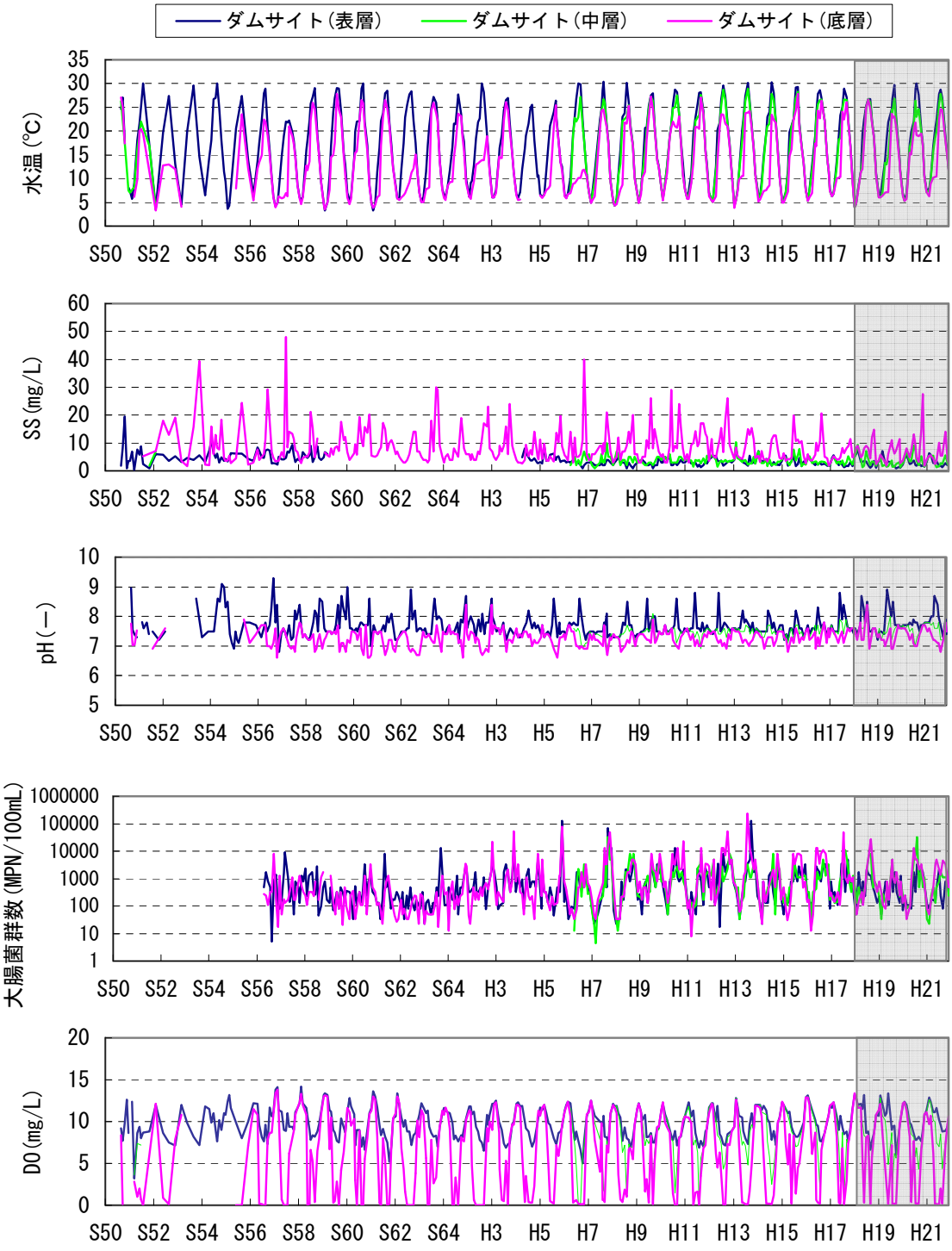


図 6.4-8(1)　天ヶ瀬ダムダムサイト地点における水質経月変化

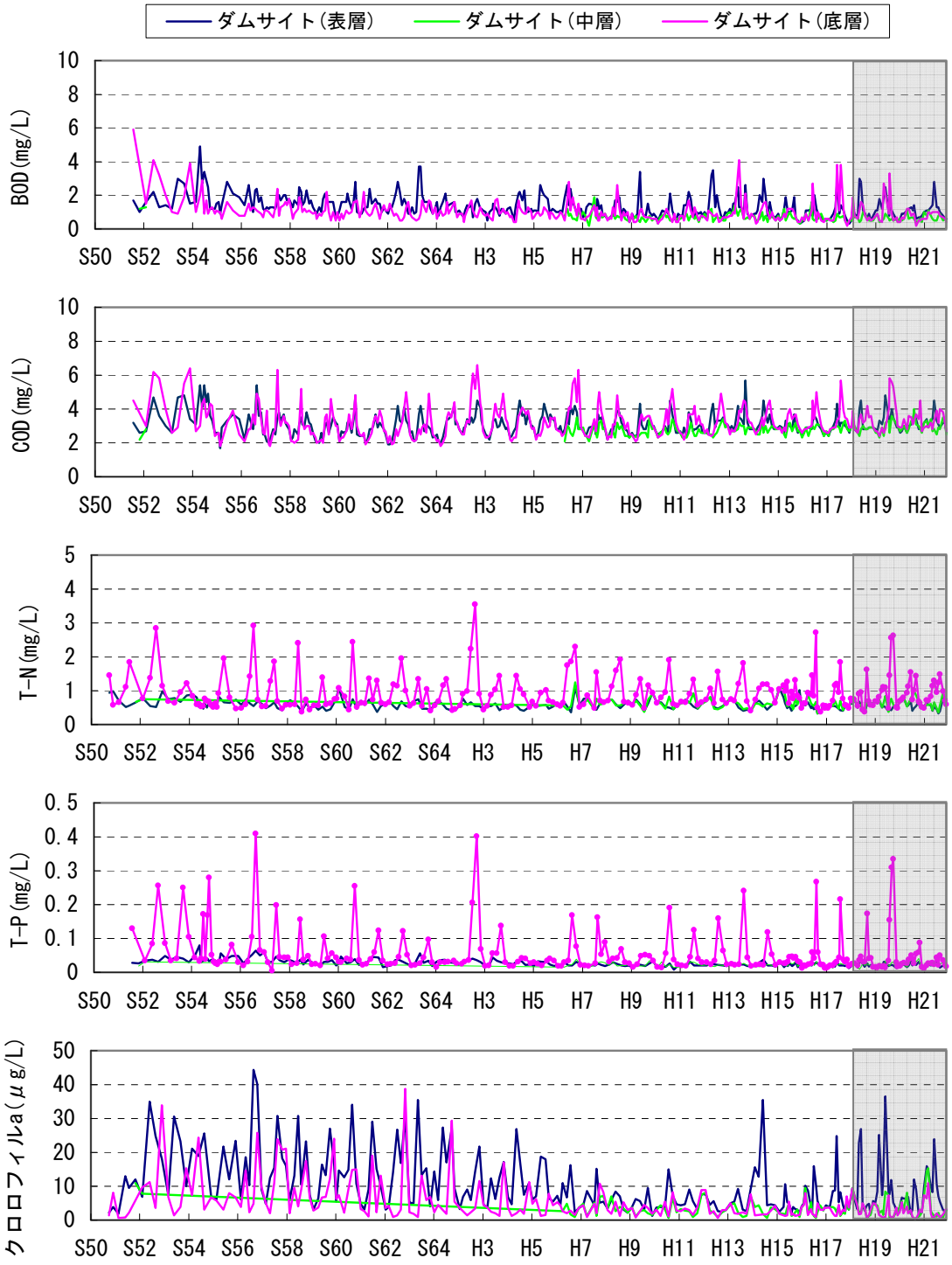


図 6.4-8(2)　天ヶ瀬ダムダムサイト地点における水質経月変化

出典：6-40

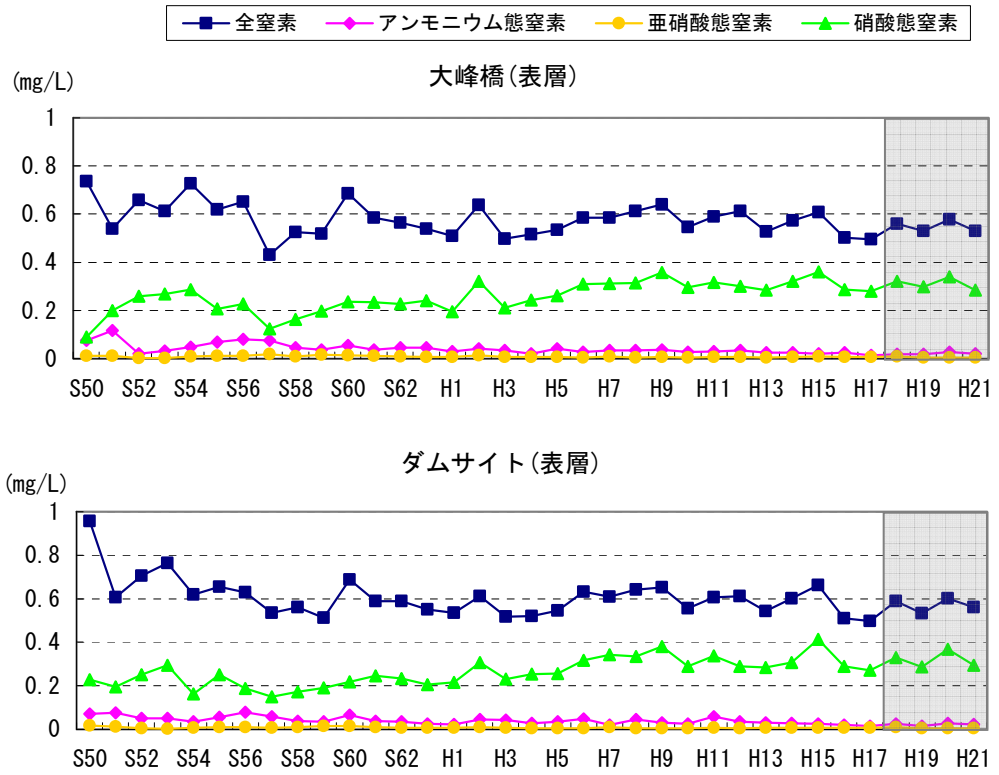


図 6.4-9(1) ダム湖内における窒素の形態別年平均値の変化

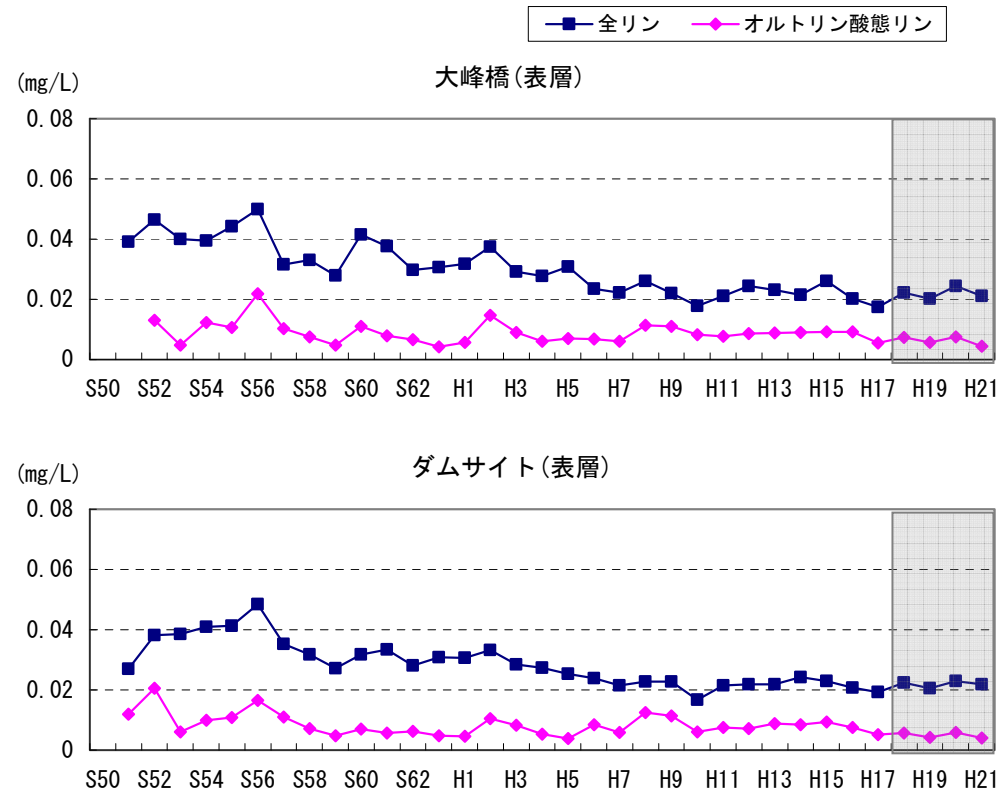


図 6.4-9(2) ダム湖内におけるリンの形態別年平均値の変化

出典：6-40

6)貯水池の底質

天ヶ瀬ダムのダムサイト地点及び大峰橋地点における強熱減量の推移を図 6.4-10に、底質の写真を図 6.4-11に示す。

ダムサイトの底質が泥であるのに対し、大峰橋の底質は砂である。

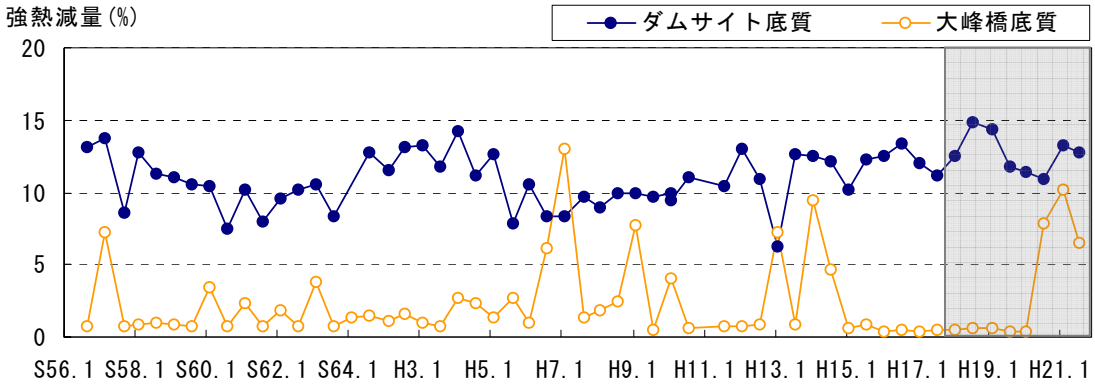
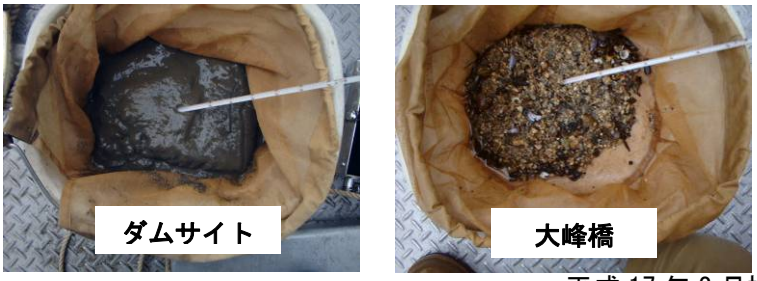


図 6.4-10 底質の強熱減量の推移

出典：6-40



平成 17 年 2 月撮影

図 6.4-11 ダムサイト及び大峰橋地点における底質写真

出典：6-30

7)魚類の漁獲・放流実績

天ヶ瀬ダム周辺における魚類放流実績を表 6.4-3に示す。近年、ダム下流域ではアユ、フナ類、ウナギ、アマゴなど、ダム上流域ではアユ、ウナギ、アマゴ、ヤマトイワナ、ニジマスの放流が行われている。

天ヶ瀬ダム周辺での魚類の漁獲・放流実績を表 6.4-4に示す。アユの放流は淀川流域の広い範囲で経年的に行われており、天ヶ瀬ダム上流域でも勢多川漁業協同組合によって年間 400kg 程度の放流がなされている。なお、各漁協における漁獲量には遊漁の他、鵜飼いによる漁獲も含まれている。

表 6.4-3　天ヶ瀬ダム周辺における魚類放流実績

漁協名	種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
		S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
宇治川漁業協同組合（ダム下流）	アユ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	コイ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	フナ類			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	オイカワ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	ウナギ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	アマゴ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
勢多川漁業協同組合（ダム上流）	アユ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●
	コイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●												
	フナ類	●	●	●	●	●	●	●	●	●												
	ウナギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●												●
	アマゴ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●
	ウグイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●												
	ヤマトイワナ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●
	ニジマス			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●

※●：放流実績あり　　網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

出典：6-2～6-5、6-21～6-25

表 6.4-4(1)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績（アユ）

種名	年度	宇治川漁業協同組合（ダム下流）							勢多川漁業協同組合（ダム上流）						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵（千粒/年）	千尾/年	kg/年					卵（千粒/年）	千尾/年	kg/年			
アユ	S62								1.3						
	S63								1.2						
	H元	4							1.8						
	H2	4		396	1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		4.7			251	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H3	4		396	1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		2.9			274			
	H4	4		396	1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		1			270	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H5	3.8		180	1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		1			370	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H6	4.1			1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		1			450	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H7	4.1			1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		1			405	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H8	6.2			1800	宇治川本・支流	琵琶湖産		6.2			380	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H9	6.2			1800	宇治川本・支流	琵琶湖産				15	300	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H10	6.2			1980	宇治川本・支流	琵琶湖産				15	300	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H11	6.2			1500	宇治川本・支流	琵琶湖産				20	400	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H12	5.6			1800	宇治川本・支流	琵琶湖産				20	400	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H13	5.3			1600	宇治川本・支流	琵琶湖産				20	400	大石川、信楽川	琵琶湖産	
	H14	5.4			1600										
	H15	5.4			1300										
	H16	5.2			1300										
	H17				900										
	H18				900										
	H19						琵琶湖産	4月末～6月初				390	大石川、信楽川		

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(2)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(コイ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
コイ	S62								5						
	S63								4.5						
	H元	5							5						
	H2	5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		12.1						
	H3	5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		10.9						
	H4	5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		3.6						
	H5	4.5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		3.3						
	H6	4.5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		2						
	H7	4.5		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		3						
	H8	5.3		20		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H9	5.3			400	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H10	5.3			400	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H11	5.3			400	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H12	5.3			600	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H13	4.8			600	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H14				400										
	H15														
	H16														
	H17														
	H18														
	H19														

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(3)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(フナ類)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
フナ類	S62								10.6						
	S63								9.6						
	H元	2							10.1						
	H2	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		13.8						
	H3	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		7.9						
	H4	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		2.6						
	H5	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		2.4						
	H6	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		1.2						
	H7	2		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者		2						
	H8	2.5		5		宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H9	2.5			100	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H10	2.5			100	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H11	2.5			100	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H12	2.5			100	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H13	2.5			100	宇治川本・支流	奈良県郡山市業者								
	H14				100										
	H15				200										
	H16				100										
	H17				100										
	H18				100										
	H19														

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(4)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(オイカワ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
オイカワ	S62														
	S63														
	H元	10													
	H2	10			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H3	10			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H4	10			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H5	9.7			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H6	9.7			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H7	9.7			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H8	10			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H9	1			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H10	1			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H11	1			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H12	1			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H13	6			120	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H14				120										
	H15				120										
	H16				120										
	H17				120										
	H18														
	H19														

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(5)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(ウナギ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
ウナギ	S62								1.8						
	S63								1.7						
	H元	0.2							1.9						
	H2	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		1.9						
	H3	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		2.4						
	H4	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		1						
	H5	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		1						
	H6	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		1						
	H7	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連		1						
	H8	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H9	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H10	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H11	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H12	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H13	0.2			20	宇治川本・支流	琵琶湖、漁連								
	H14				20										
	H15				20										
	H16				20										
	H17				20										
	H18				20										
	H19											9	大石川、信楽川		

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(6)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(アマゴ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
アマゴ	S62														
	S63														
	H元	0.1							0.4						
	H2	0.1		2		宇治川支流		放流はアマゴ	2		6		信楽川	醒井養殖場産	
	H3	0.1		2	140	宇治川支流		放流はアマゴ	1		7		信楽川	醒井養殖場産	
	H4	0.1		2	140	宇治川支流		放流はアマゴ	0.5		8.5		信楽川	醒井養殖場産	
	H5	0.1			140	宇治川支流		放流はアマゴ	0.3		9.5		信楽川	醒井養殖場産	
	H6	0.1		2	140	宇治川支流		放流はアマゴ	0.3		2.7		信楽川	醒井養殖場産	
	H7	0.1			140	宇治川支流		放流はアマゴ	0.4		14		信楽川	醒井養殖場産	
	H8	0.1			140	宇治川支流		放流はアマゴ			14		信楽川	醒井養殖場産	
	H9	0.1			140	宇治川支流					20	400			
	H10	0.1			120	宇治川支流					20	400			
	H11	0.1			100	宇治川支流					20	400			
	H12	0.1			120	宇治川支流					30	600			
	H13	0.1			100	宇治川支流					30	600			
	H14				100										
	H15				200										
	H16				100										
	H17				100										
	H18				70										
	H19										18		大石川、信楽川		

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(7)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(ウグイ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
ウグイ	S62								0.7						
	S63								0.6						
	H元								1.3						
	H2								3.2						
	H3								1.8						
	H4								1						
	H5								1						
	H6								1						
	H7								1						
	H8														
	H9														
	H10														
	H11														
	H12														
	H13														
	H14														
	H15														
	H16														
	H17														
	H18														
	H19														

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(8)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(ヤマトイワナ)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
ヤマトイワナ	S62														
	S63														
	H元								0.2						
	H2								1		4		信楽川	醒井養殖場産	
	H3								0.6		4		信楽川	醒井養殖場産	
	H4								0.2		5.2		信楽川	醒井養殖場産	
	H5								0.2		7.2		信楽川	醒井養殖場産	
	H6								0.3		2.7		信楽川	醒井養殖場産	
	H7								0.3		8.5		信楽川	醒井養殖場産	
	H8										8.5		信楽川	醒井養殖場産	
	H9										20	400			
	H10										20	400			
	H11										20	400			
	H12										30	600			
	H13										30	600			
	H14														
	H15														
	H16														
	H17														
	H18														
	H19										12		大石川、信楽川		

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

表 6.4-4(9)　天ヶ瀬ダム周辺における魚類の漁獲・放流実績(ニジマス)

種名	年度	宇治川漁業協同組合(ダム下流)							勢多川漁業協同組合(ダム上流)						
		漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考	漁獲量 t/年	稚魚成魚放流量			放流場所	購入先	備考
			卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年					卵(千粒/年)	千尾/年	kg/年			
ニジマス	S62														
	S63														
	H元								0.7						
	H2								1.5		4		信楽川	醒井養殖場産	
	H3								0.7		3		信楽川	醒井養殖場産	
	H4								0.3		3.9		信楽川	醒井養殖場産	
	H5								0.3		4		信楽川	醒井養殖場産	
	H6								0.3		5.7		信楽川	醒井養殖場産	
	H7								0.4		6		信楽川	醒井養殖場産	
	H8										6		信楽川	醒井養殖場産	
	H9										10	200			
	H10										10	200			
	H11										10	200			
	H12										10	200			
	H13										10	200			
	H14														
	H15														
	H16														
	H17														
	H18														
	H19										9		大石川、信楽川		

※網掛け：報告書に記載がないため、実態不明

出典：6-2～6-5、6-21～6-25

8)人によるダム湖の利用状況

平成 6 年(1994 年)度、平成 9 年(1997 年)度、平成 12 年(2000 年)度、平成 15 年(2003 年)度、平成 18 年（2006 年）度、平成 21 年(2009 年)度におけるダム湖及び周辺の利用状況を以下に示した。

平成 6 年(1994 年)度、平成 9 年(1997 年)度の調査では、ダム湖周辺の散策等による利用が最も多かったが、平成 12 年(2000 年)度以降の調査においては、スポーツの利用が最も多くなっている。

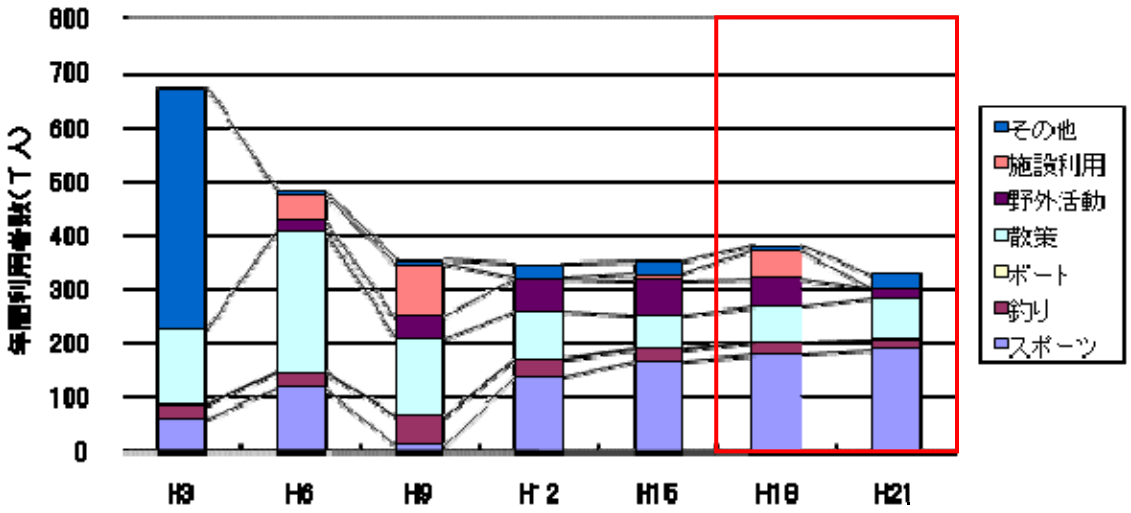


図 6.4-12　天ヶ瀬ダムの利用状況

出典：6-48

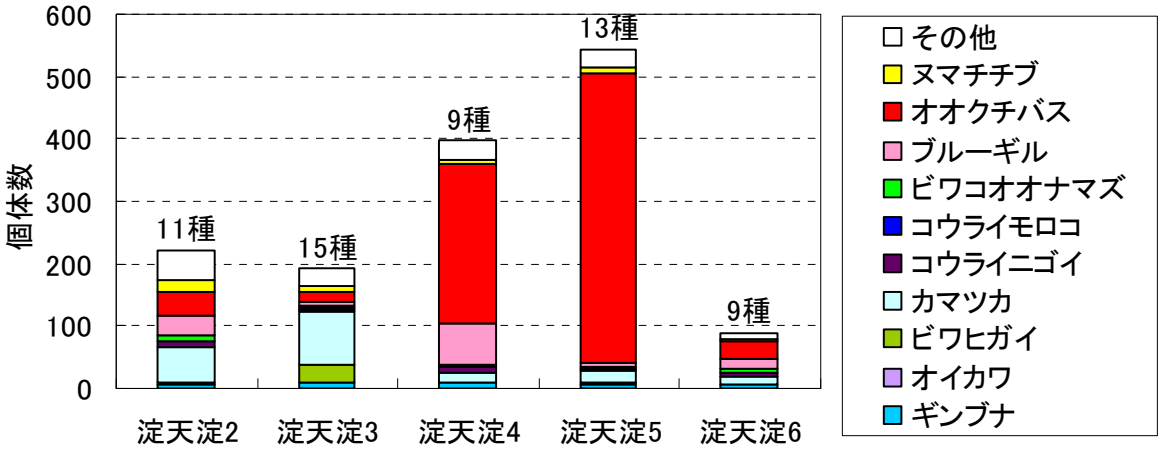
(2)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)ダム湖内の魚類相

a. ダム湖内における魚類の生息状況

止水的な環境であるダム湖内にどのような魚類が生息しているのかを把握するため、ダム湖内において確認された魚類の状況を整理した結果を図 6.4-13に示す。

平成 19 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査結果を、ダム湖内の地点間で比較すると、確認種数では淀天淀 3(曽束大橋上流湖岸)が 15 種と最も多く、次いで淀天淀 5(曽束川流入部)の 13 種、淀天淀 2(大峰橋上流湖岸)の 11 種である(図 6.4-13)。このうち、ダム湖内のような止水域～緩流域を好む魚類はギンブナ、ビワヒガイ、コウライモロコ、ビワコオオナマズ、ブルーギル、オオクチバス等である。確認個体数に関しては、淀天淀 5(曽束川流入部)が最も多く、次いで淀天淀 4（田原川流入部）が多く、2 地点とも外来種のオオクチバスの占める割合が高い。



※ 各地点の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。種類数は、採捕された魚種の確認種類数である(各地点の目視調査の結果は含まない)。

図 6.4-13 ダム湖内各地点における魚種別確認個体数(H19 年度)

出典：6-5

b. **止水域～緩流域を好む魚類の生息状況の変化**

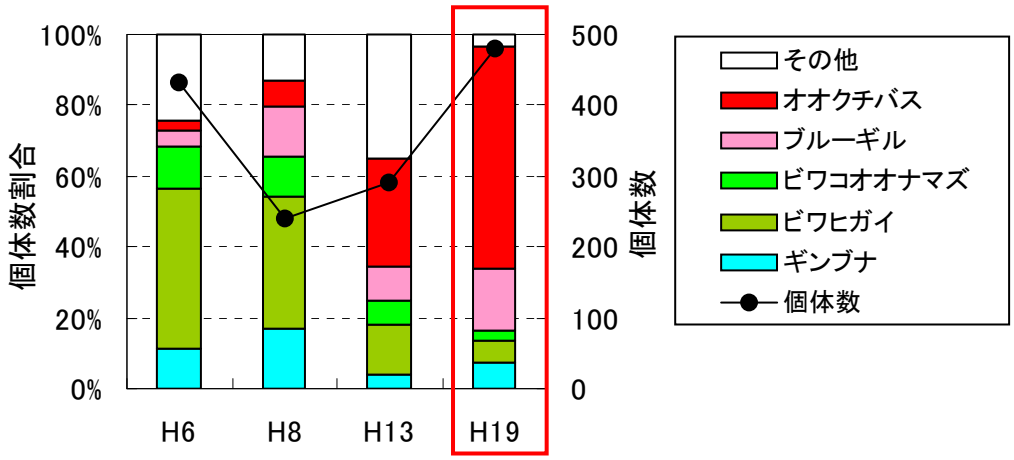
ダム湖内において確認された魚類のうち、止水域～緩流域を好む魚類の生息状況の変化を整理した。

ダム湖内では、ギンブナ、ビワヒガイ、ビワコオオナマズ、ブルーギル、オオクチバス等の止水域～緩流域を好む魚類が確認されている。このうち、特定外来生物であるオオクチバス及びブルーギルの確認個体数が年々増加しており、平成 19 年(2007 年)度の調査においては、確認された止水域～緩流域を好む魚類の 8 割近くを占めている。一方、在来種であるビワヒガイ及びビワコオオナマズの確認個体数が年々減少する傾向がみられる(図 6.4-14)。

調査地点別にみると、ダムサイトに近い田原川流入部においては、平成 19 年(2008 年)度にオオクチバス及びブルーギルの確認個体数割合が大きく増加し、他の魚類はほとんど確認されなくなっている。曽束川大橋上流湖岸においては、平成 13 年(2001 年)度及び平成 19 年(2008 年)度にオオクチバスの確認個体数割合が増加している。ダム湖上流端の瀬田川流入部においても、曽束大橋上流湖岸と同様に、平成 13 年(2001 年)度及び平成 19 年(2008 年)度にオオクチバスの確認個体数割合が大きく増加し、ビワヒガイの確認個体数割合が大きく減少している(図 6.4-15)。

前回の定期報告書に示したとおり、平成 13 年(2001 年)度調査における在来種(ギンブナ、ビワヒガイ、ビワコオオナマズ)の体長分布をみると、比較的大型の個体しか確認されていないことから(図 6.4-16)、これらの在来種はダム湖内で繁殖しておらず、今後さらに個体数が減少する可能性が示唆された。

以上のことから、天ヶ瀬ダム湖内においては、魚食性の外来種であるブルーギル及びオオクチバスの増加により、在来種は大きく減少したと考えられる。



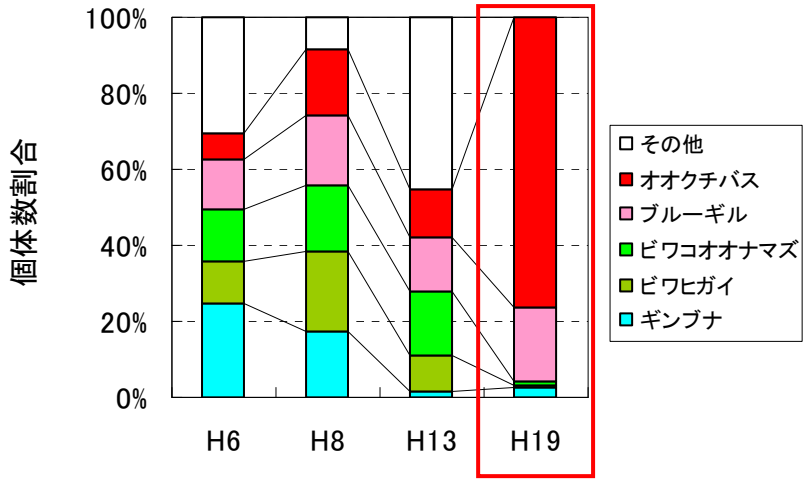
※ 各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

※ H6、H8、H13 年度調査は 3 地点（St.1,2,3）の合計、H19 年度調査は 3 地点（淀天淀 3,4,6）の合計個体数である。

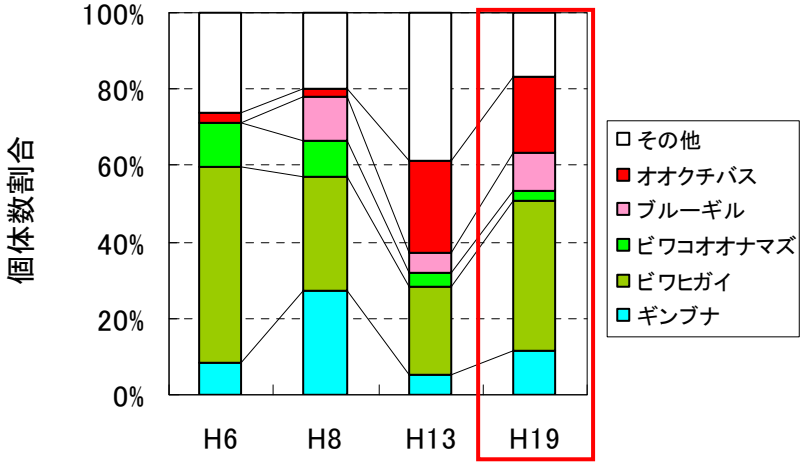
図 6.4-14 ダム湖内における止水域～緩流域を好む魚類の確認状況

出典：6-2～6-5

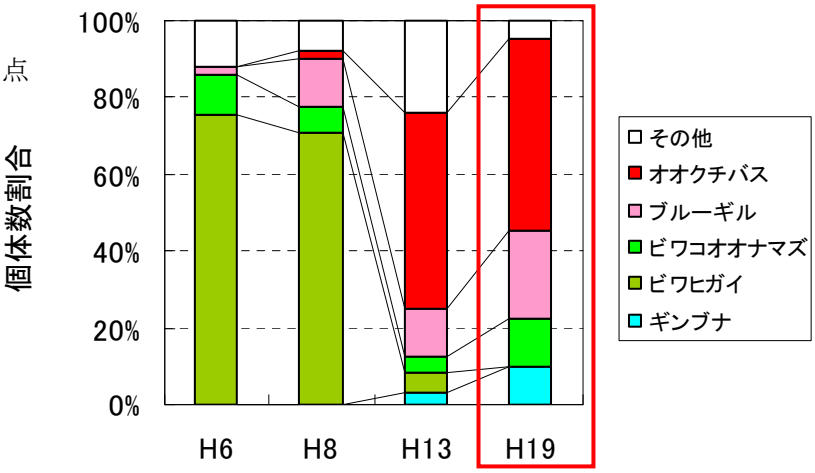
淀天淀 4(St. 1)
田原川流入部



淀天淀 3(St. 2)
曽束川大橋上流湖岸



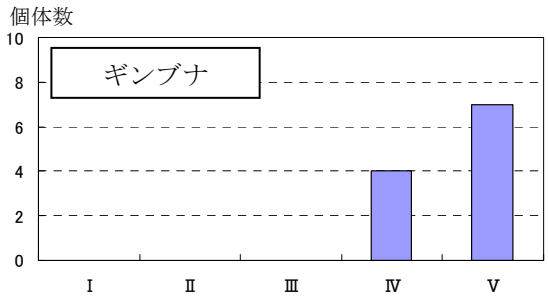
淀天淀 6 (St. 3)
瀬田川流入部(湖内)点

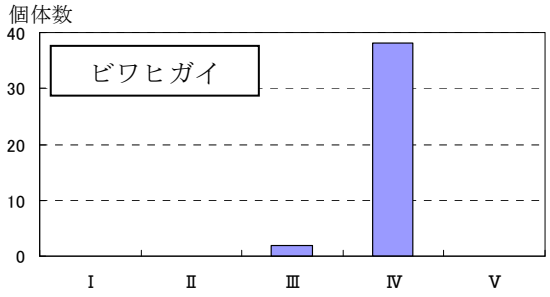


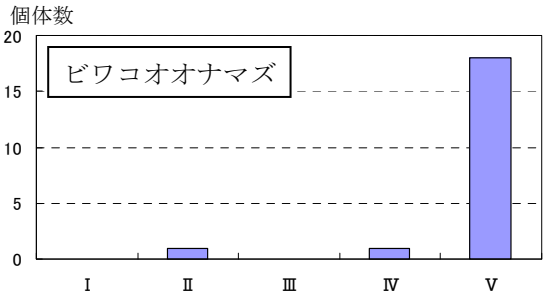
※ 各地点、各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

図 6.4-15 ダム湖内各地点における止水域～緩流域を好む魚類の確認状況

出典：6-2～6-5







体長区分	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
体長	～3cm	3～5cm	5～10cm	10～20cm	20cm～

図 6.4-16　湖内で確認されたギンブナ、ビワヒガイ、ビワコオオナマズの体長分布

（平成 13 年度調査：前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。）

出典：6-4

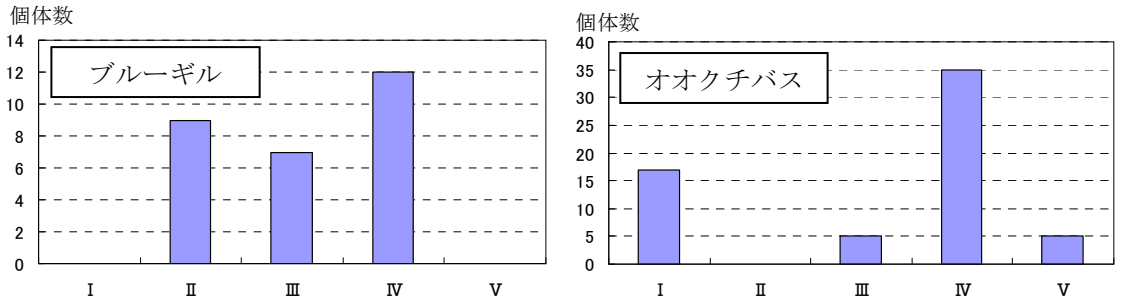
c. **外来種の生息状況の変化**

ダム湖内で確認された魚類のうち、国外外来種はタイリクバラタナゴ、ハクレン、ブルーギル、オオクチバスの 4 種である。平成 19 年(2007 年)度の調査においては、ブルーギルとオオクチバスの 2 種が確認されている。

タイリクバラタナゴは、平成 8 年(1996 年)度に初めて 3 個体が確認され、平成 13 年(2001 年)度に 49 個体と増加していたことから、近年になってダム湖内に移入したと考えられる。

ハクレンは、平成 6 年(1994 年)度、平成 8 年 (1996 年) 度及び平成 13 年度(2001 年)度に、それぞれ 1 個体、田原川流入部で確認された。

ブルーギル及びオオクチバスは平成 2 年(1990 年)度調査から確認されており、確認数の増加がみられる。また、前回定期報告書で示されているように、平成 13 年(2001 年)度調査では、比較的小型の個体から大型の個体までが確認されていることから(図 6.4-17)、湖内で繁殖、定着した可能性が考えられる。なお、平成 19 年度(2007 年)調査ではブルーギル及びオオクチバスが確認個体の多数を占めている(図 6.4-14)。また、これら 2 種を除いた確認個体数は減少傾向にあることから、ダム湖内に生息する在来種への影響が懸念されるが、ダム湖内への違法放流や琵琶湖からの流下も想定されることから、これらの面も含めて注意していく必要がある。



体長区分	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
体長	～3cm	3～5cm	5～10cm	10～20cm	20cm～

図 6.4-17　湖内で確認されたブルーギル、オオクチバスの体長分布
(平成 13 年度調査：前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。)

出典：6-4

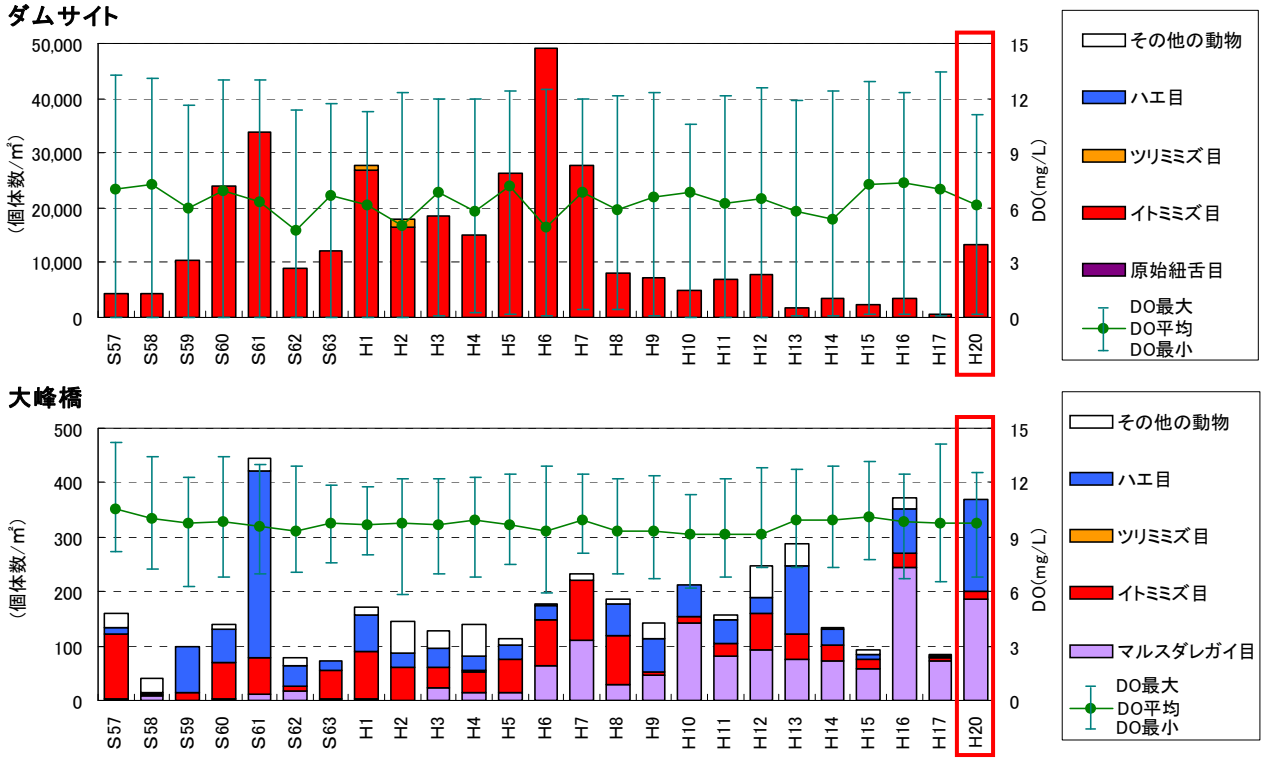
2)底生動物

a. **ダム湖内の主要構成種の変化**

ダム湖内にどのような底生動物が生息しているのかを把握するため、ダム湖内において確認された底生動物の個体数密度の推移を整理した。

ダム湖内の調査地点(ダムサイト、大峰橋)別における底生動物の確認種についての目別個体数の推移及び各地点の底層 DO を図 6.4-18に示す。平成 20 年(2008 年)度は、ダムサイトでイトミミズ目が、大峰橋でマルスダレガイ目が優占していた。

経年的な変化をみると、ダムサイトでは、個体数密度の増減はあるものの、掘潜型の生活型で貧酸素状態に強いイトミミズ目の種が優占している。これは、ダムサイトでは、夏季に下層の DO が 0mg/L に低下するためと考えられる。また、大峰橋では、平成 5 年度まではイトミミズ目が優占していたが、平成 6 年度以降は貧酸素に弱いシジミ類（マルスダレガイ目）が優占するようになった。その原因は不明であるが、台湾、中国、朝鮮などから輸入されたシジミ類が野生化したためである可能性が考えられる。外来種ハンドブックには、『大陸系のシジミ類は 1980 年代半ば以降、全国各地で野生化し始め、1990 年代末には琵琶湖や瀬田川にも侵入した』と記載されている。



※ 各地点、各年度の調査は、採泥面積 15cm×15cm のエクマン・バージ式採泥器で調査を行ったもので、S57（1982）～H17（2005）までは年 6 回、H20（2008）は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-18 湖内で確認された底生動物の個体数及び底層 DO の推移

出典：6-6、6-30、6-40

3)動植物プランクトン

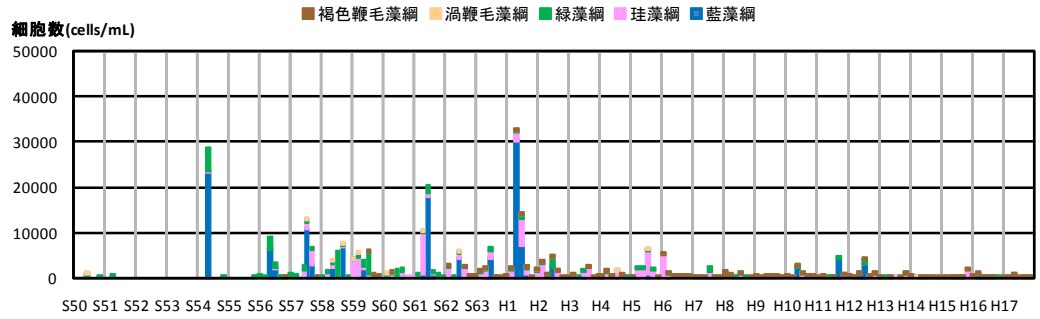
a. 植物プランクトン相の変化

ダム湖内にどのような植物プランクトンが生息しているかどうかを把握するため、ダム湖内の調査地点(ダムサイト表層及び大峰橋表層)における植物プランクトン(褐色鞭毛藻綱、渦鞭毛藻綱、緑藻綱、珪藻綱及び藍藻綱)の細胞数推移を整理した結果を図 6.4-19に示す。また、流入河川(鹿跳橋)における細胞数の推移も併せて整理した。

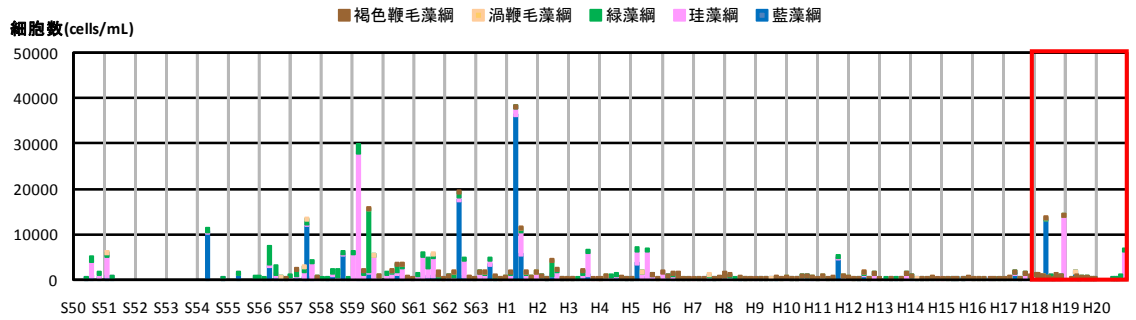
天ヶ瀬ダム湖内における植物プランクトンの優占種は珪藻綱及び藍藻綱である(各地点における優占種一覧は「5.3.6 植物プランクトン生息状況変化」参照)。昭和 50 年(1975 年)度から平成元年(1989 年)度頃までは珪藻綱及び藍藻綱の細胞数が増加することが多かったが、平成 2 年(1990 年)度から平成 17 年(2005 年)度までは顕著な増加は見られなかった。しかし、平成 18 年(2006 年)から平成 21 年(2009 年)においては、一時的に珪藻綱及び藍藻綱が増加することがあった。

天ヶ瀬ダム湖内(ダムサイト及び大峰橋)で植物プランクトン細胞数が増加する時期と流入河川(鹿跳橋)で細胞数の増加する時期とが類似していることから、天ヶ瀬ダム湖内の植物プランクトンの変化は琵琶湖から流出してきた植物プランクトンの影響を受けていると考えられる。

■流入(鹿跳橋) 昭和50年(1975年)度～平成17年(2005年)度



■大峰橋 昭和50年(1975年)度～平成20年(2008年)度



■ダムサイト 昭和50年(1975年)度～平成21年(2009年)度

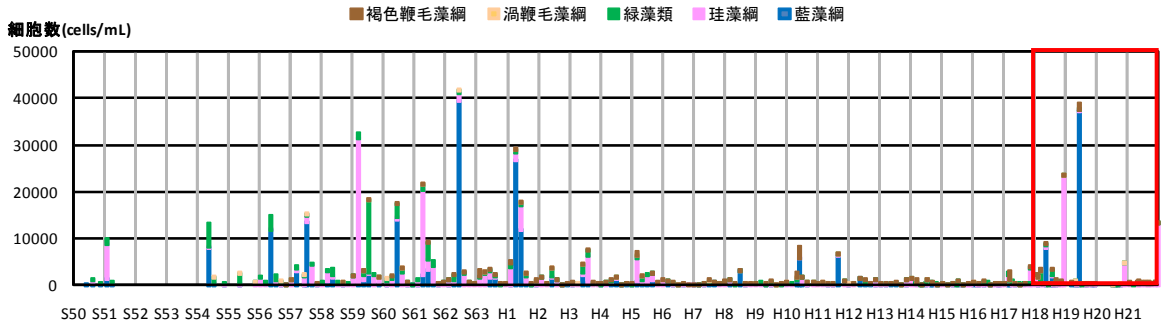


図 6.4-19 流入河川・ダム湖内(ダムサイト・大峰橋)における植物プランクトンの推移

出典：6-30～6-31、6-40

4)付着生物

a. 付着生物相の変化

ダム湖内にどのような付着生物が生息しているのかを把握するため、水深別の付着生物の細胞数及びバイオマスの経時変化を整理した（図 6.4-20、図 6.4-21)。

平成 18 年(2006 年)から平成 21 年(2009 年)においては、水深 0.5m 及び 2.5m において一時的に珪藻類等が確認されたが、細胞数、頻度とも大きくなかった。

細胞数でみると、水深 0.5m では藍藻綱及び珪藻綱が多くを占め、平成 5 年(1993 年)、平成 7 年(1995 年)及び平成 10 年(1998 年)には藍藻綱が、平成 14 年(2002 年)には珪藻綱が特に多かった。水深 2.5m 以深では主に珪藻綱が優占している。

バイオマスでみると、平成 9 年(1997 年)～平成 12 年(2000 年)にコケムシが水深 0.5～2.5m で特に多く、平成 12 年(2000 年)に水深 10m でその他の分類群(主にカワヒバリガイ)が、平成 14 年(2002 年)に水深 2.5m で珪藻綱が多かったが、これを除くと特に経年的に目立った変化はみられなかった。

したがって、ダム湖内の付着生物の生息・生育状況の変化は不明である。

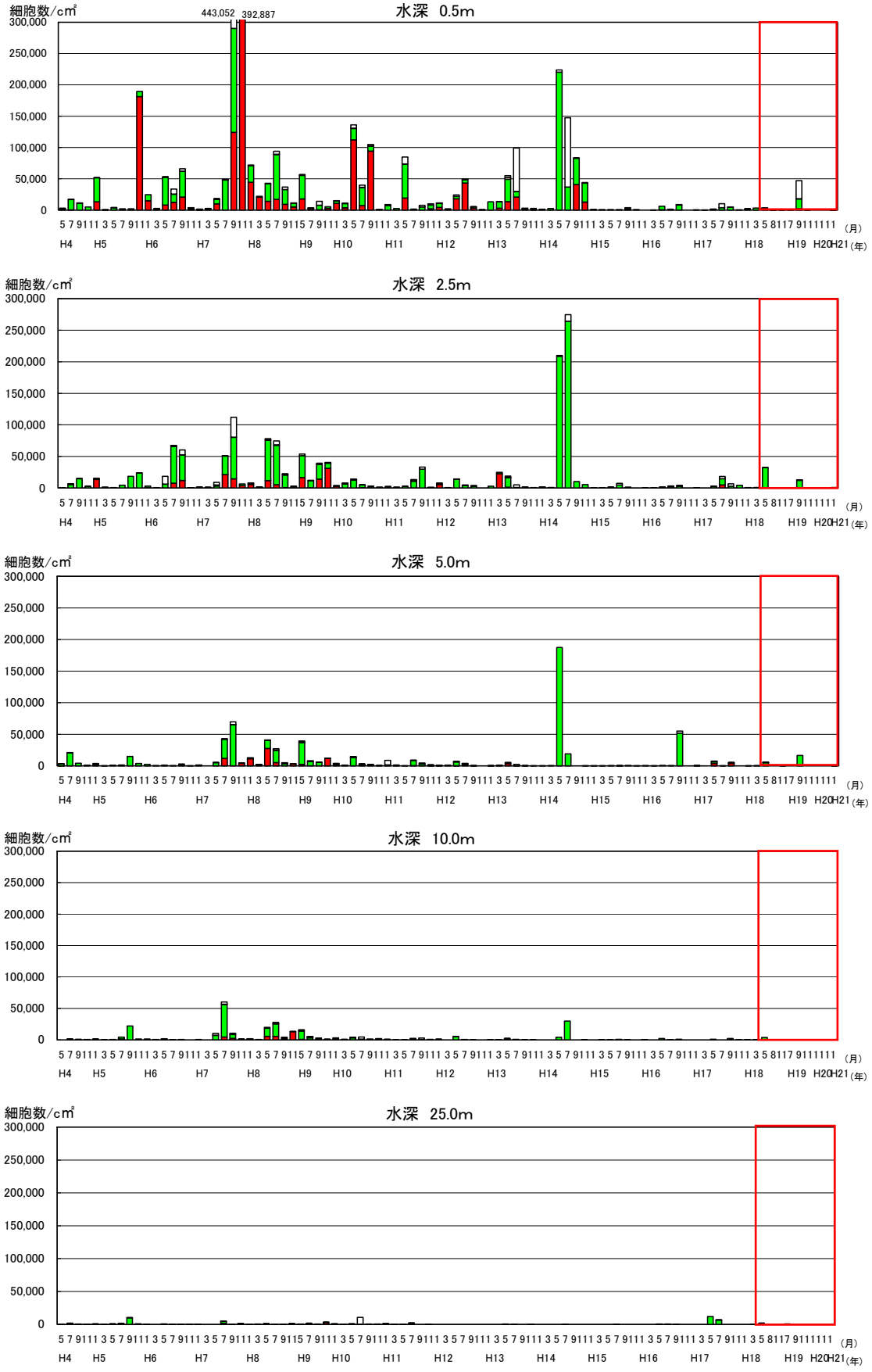


図 6.4-20　付着生物　水深別細胞数の推移

出典：6-30～6-31

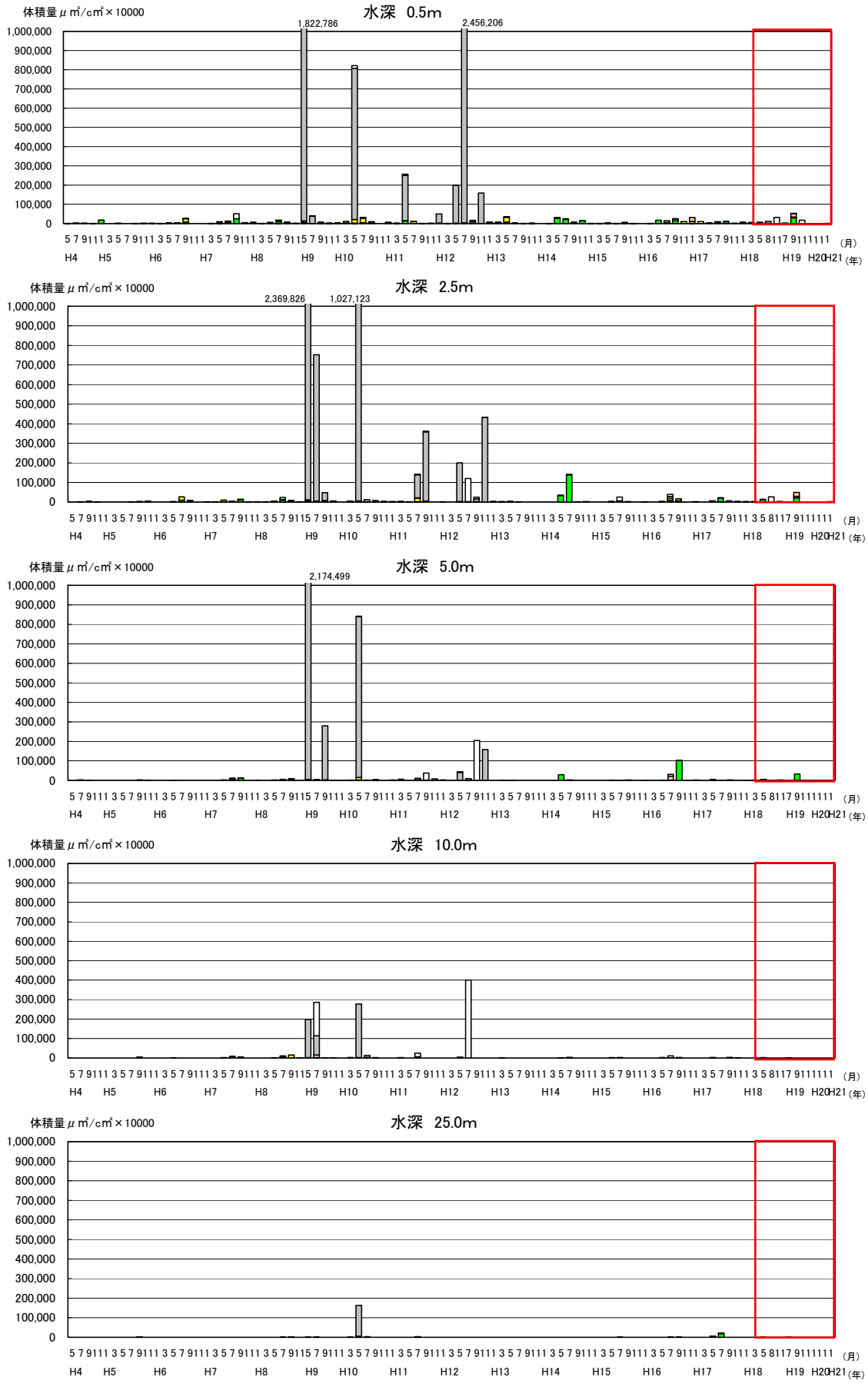


図 6.4-21　付着生物　水深別バイオマスの推移

出典：6-30～6-31

5)植物

a. 水位変動域における植物生育状況の変化

ダム湖水位変動域は、冠水と干出が繰り返される厳しい立地環境である。そのような場所にどのような植物が生育しているのかを把握するため、ダム湖の水位変動を受ける調査地区であり、平成 14 年度と平成 21 年度に調査を実施した淀天淀 2(曽束川湿性草原)と淀天淀 4(大石湿性草原)における調査結果を整理した。各調査地区の範囲を図 6.4-22に示す。

天淀 2(曽束川湿性草原)



淀天淀 4(大石湿性草原)

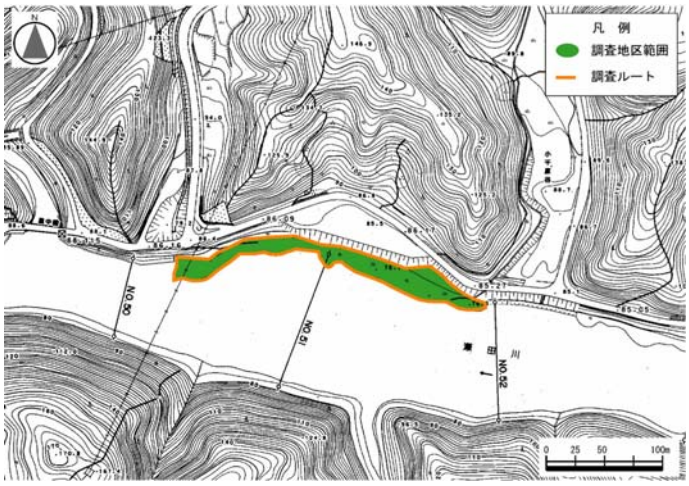


図 6.4-22 水位変動域における調査地区の範囲(平成 21 年度)

淀天淀 2(曽束川湿性草原)では、平成 14 年度に比べ、平成 21 年度には確認種数が約 70 種増加し、ヤマグワ、ヒサカキ、ネムノキなどの木本類をはじめ、カニクサ、ヤブマオ、イタドリといった林縁や路傍の種、ミゾソバ、チョウジタデ、コウガイゼキショウ、ヒデリコなど湿地環境に普通にみられる種などが確認された。出現種の生活形別種数をみると、特に木本類が 10 種から 28 種と 3 倍近く増加している。

また、淀天淀 4(大石湿性草原)では、平成 14 年度に比べ、平成 21 年度には確認種数が約 170 種増加し、エノキ、ヤマグワ、アカメガシワなどの木本類や、マダケやケネザサなどのタケ・

ササ類などが多く確認された。出現種の生活形別種数をみると、特に木本類が 9 種から 38 種と 4 倍以上に増えている。

両調査地区の標高と貯水位との関係をみると(図 6.4-24)、平成 19 年度以降、冠水頻度が低下していることから、多くの植物が冠水の影響をあまり受けずに生育したと考えられる。

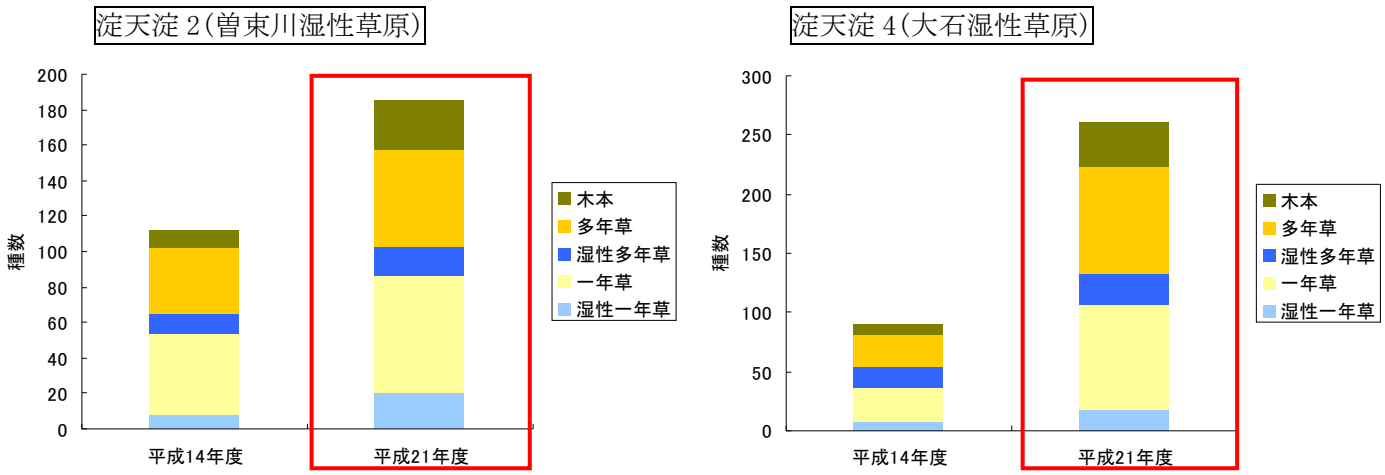


図 6.4-23　水位変動域における確認種数の変遷

出典：6-9～6-10

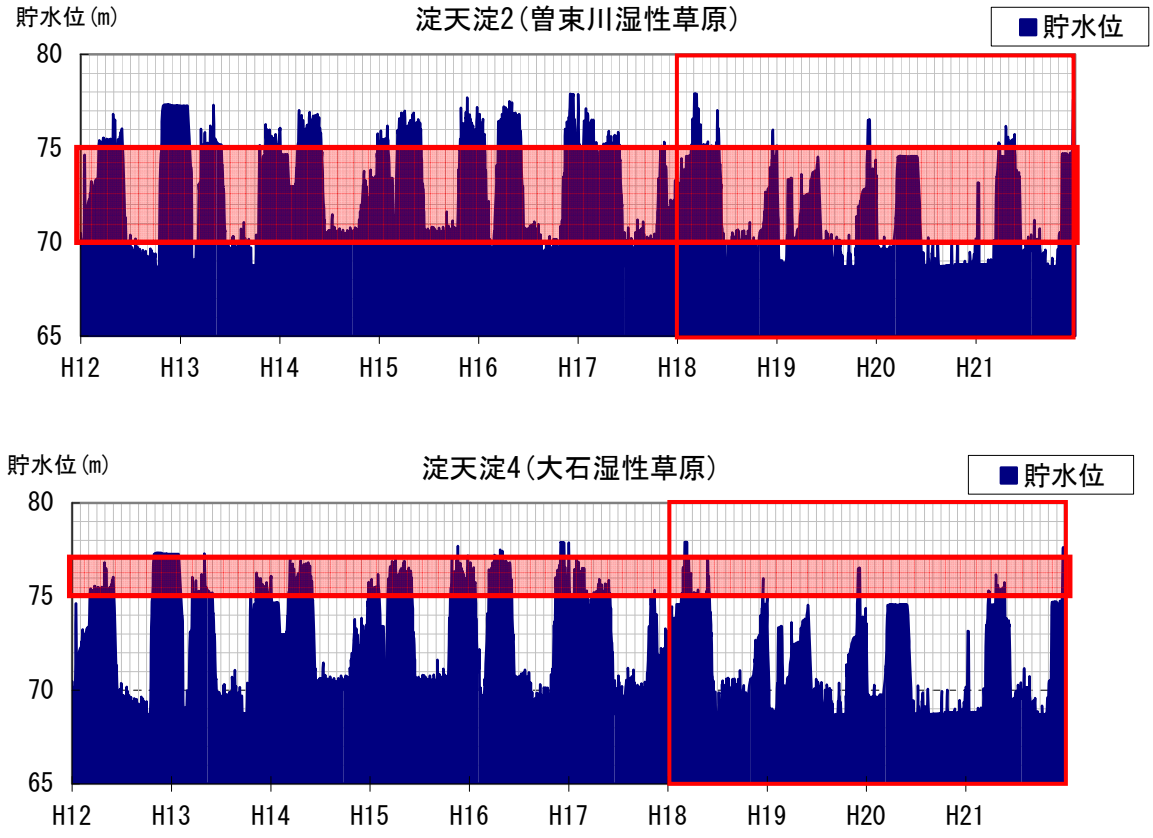


図 6.4-24　調査地区の標高と貯水位の関係

出典：6-39

また、水位変動域における平成 22 年度の植生分布調査の結果を整理した。湖岸の植生では、外来種であるオオオナモミ群落が最も分布距離が長く、ダム湖下流部右岸側を除くほぼ全域でみられている。次いでレモンエゴマ群落の分布距離が長く、主にダム湖中流部から下流部の右岸側にみられている。イタチハギ群落は、ダム湖下流部左岸側で多くみられているが、ダム湖中上流部では、局所的に分布している。ヤナギタデ群落は、主にダム湖上流部の左岸側に分布しており、ダム湖下流部ではほとんど見られていない。

水位変動域全体の約 50%が外来植物群落で占められている。水位変動域は、冠水と干出が繰り返されるため裸地化し、外来種が侵入しやすい環境となり、外来種が優占するようになったと考えられる。

表 6.4-5　水位変動域の主要植物群落の分布距離(平成 22 年度調査)

群落名	分布距離(km)
オオオナモミ群落	9.88
レモンエゴマ群落	7.73
イタチハギ群落	1.93
ヤナギタデ群落	1.82
ヒメシダの群生箇所	1.46

※黄色網掛け：外来群落

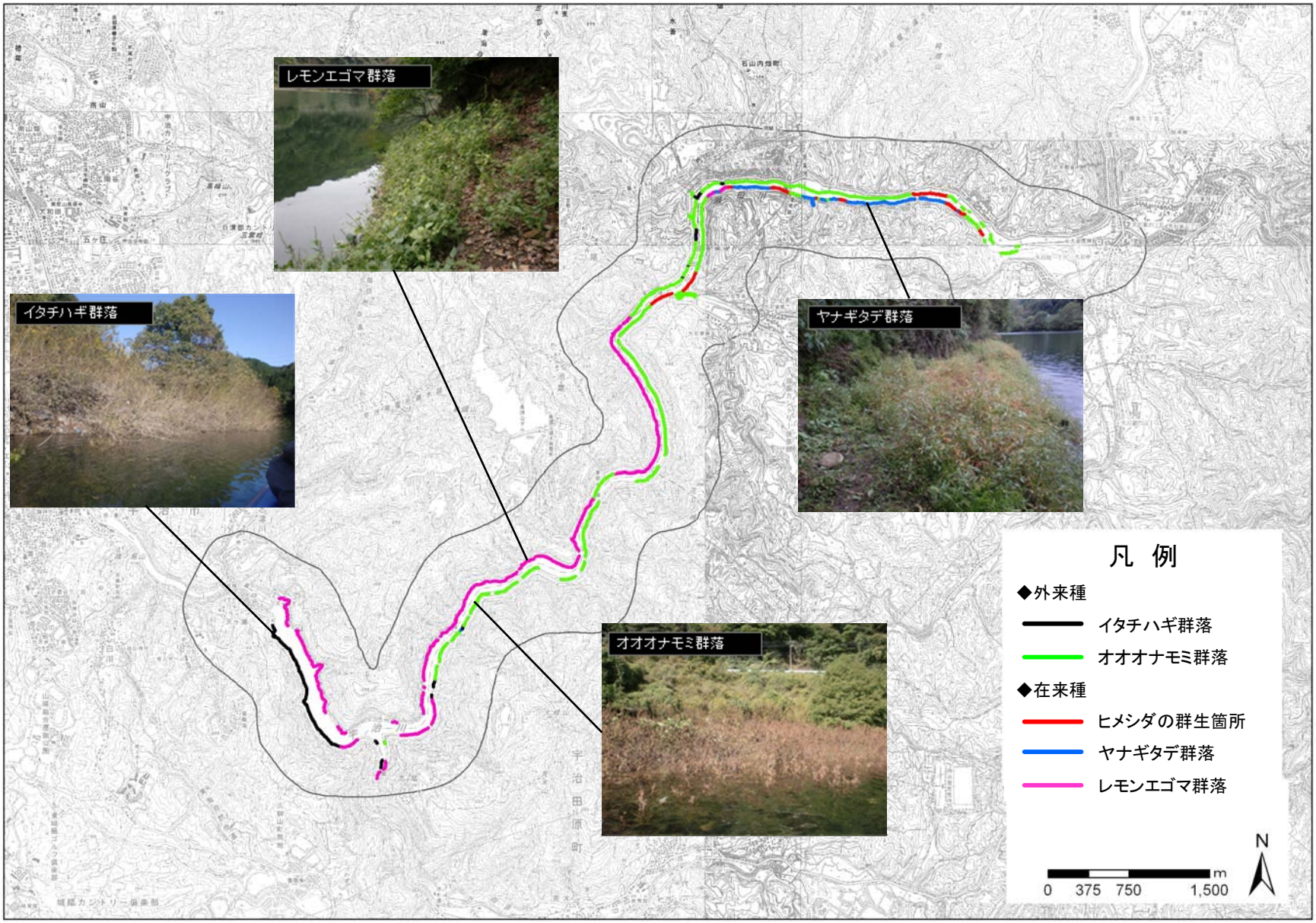


図 6.4-25　水位変動域の植生分布図(平成 22 年度調査)

出典：6-10

b. **外来種の生育状況の変化**

ダム湖の水位変動域である曽束川の湿性草原及び大石の湿性草原の両調査地区及び平成 21 年度のみ調査を実施した南大津大橋上流で確認された種のうち、外来種を抽出した結果を表 6.4-6に示す。

平成 14 年度調査時には、曽束川湿性草原で 27 種、大石湿性草原で 18 種の外来種が確認されている。一方、平成 21 年度調査では、曽束川湿性草原で 41 種、南大津大橋上流で 42 種、大石湿性草原で 62 種の外来種が確認されている。曽束川湿性草原でも大石湿性草原でも、確認された外来種数は増加しているが、植物の確認種数自体も増加しており、調査範囲が異なることにより確認種数が変化したものである可能性も考えられる。

今回新たに確認された外来種は 53 種で、アレチウリ、メマツヨイグサなどの一年草が多く確認されている。また、ジュズダマなどの多年草、オランダガラシなど湿性植物、ナンキンハゼなどの木本も確認されている。特定外来生物としては、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャが平成 21 年度に初めて確認されている。

ダム湖水位変動域は、冠水と干出が繰り返されるため、裸地化し、外来種が侵入しやすい環境となり、それらの外来種が優占するようになったと考えられる。

表 6.4-6　水位変動域において確認された外来種

No.	上位分類群	科　名	種　名	確認状況					選定根拠	
				淀天淀2（曽束川湿性草原）		淀天淀3（南大津大橋上流）	淀天淀4（大石湿性草原）		外来生物法	京都RDB
				H14	H21	H21	H14	H21		
1	離弁花類	イラクサ	ナンバンカラムシ	●						
2		タデ	アレチギシギシ		●	●	●	●		
3			ナガバギシギシ	●			●			
4			エゾノギシギシ	●			●	●	要注意	
5		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ		●	●		●		
6		ナデシコ	オランダミミナグサ					●		
7			ムシトリナデシコ	●						
8			コハコベ					●		
9		アカザ	アリタソウ	●			●			
10			ケアリタソウ		●	●		●		
11		ヒユ	ホソバツルノゲイトウ	●	●	●	●	●		
12			ツルノゲイトウ		●	●				
13			ホソアオゲイトウ					●		
14			ノゲイトウ	●	●	●		●		
15		アブラナ	セイヨウカラシナ		●	●		●		
16			マメグンバイナズナ				●			
17			オランダガラシ					●	要注意	
18		マメ	イタチハギ		●	●		●		
19			アレチヌスビトハギ	●	●	●		●		
20			ハリエンジュ				●	●	要注意	
21			コメツブツメクサ			●		●		
22			ムラサキツメクサ					●		
23			シロツメクサ	●				●		
24		カタバミ	ムラサキカタバミ		●					
25			オッタチカタバミ	●			●	●		
26		フウロソウ	アメリカフウロ			●		●		
27		トウダイグサ	アブラギリ		●					
28			ハイニシキソウ			●				
29			オオニシキソウ	●	●	●		●		
30			コニシキソウ		●			●		
31			ナンキンハゼ					●		
32		ウリ	アレチウリ		●	●		●	特定外来	
33		アカバナ	アメリカミズキンバイ	●	●	●		●		
34			メマツヨイグサ			●			要注意	
35		アリノトウグサ	オオフサモ					●	特定外来	
36	合弁花類	モクセイ	ツルニチニチソウ			●				
37		アカネ	メリケンムグラ			●				
38		ヒルガオ	アメリカネナシカズラ		●	●		●		
39			マルバルコウ		●	●				
40			アメリカアサガオ	●			●			
41			マメアサガオ		●	●		●		
42			ホシアサガオ					●		
43		クマツヅラ	ヤナギハナガサ			●		●		
44			アレチハナガサ	●	●	●				
45		シソ	ハナトラノオ			●				
46		ナス	ヒロハフウリンホオズキ		●					
47		ゴマノハグサ	ヒメアメリカアゼナ		●		●	●		
48			オオカワヂシャ					●	特定外来	
49			タチイヌノフグリ	●				●		
50			オオイヌノフグリ			●		●		
51		キキョウ	キキョウソウ		●			●		
52		キク	ブタクサ	●	●	●		●	要注意	
53			クソニンジン					●		
54			ヒロハホウキギク		●		●			
55			ホウキギク		●	●		●		
56			アメリカセンダングサ	●	●	●	●	●	要注意	
57			コセンダングサ			●			要注意	
58			オオアレチノギク					●	要注意	
59			コスモス					●		
60			アメリカタカサブロウ		●	●		●		
61			ダンドボロギク		●		●	●		
62			ヒメムカシヨモギ	●		●			要注意	
63			ハルジオン					●	要注意	
64			ウラジロチチコグサ					●		
65			セイタカアワダチソウ	●	●	●		●	要注意	要注目
66			オニノゲシ		●					
67			ヒメジョオン	●	●	●		●	要注意	
68			セイヨウタンポポ			●			要注意	
69			オオオナモミ	●	●	●	●	●	要注意	
70	単子葉植物	トチカガミ	オオカナダモ		●			●	要注意	
71			コカナダモ					●	要注意	
72		アヤメ	キショウブ	●	●	●	●	●	要注意	
73			ニワゼキショウ		●			●		
74		イグサ	コゴメイ		●					
75		イネ	ハナヌカススキ					●		
76			ヒメコバンソウ	●		●		●		
77			ジュズダマ		●			●		
78			ネズミムギ	●				●	要注意	
79			ホソムギ				●		要注意	
80			ネズミホソムギ				●			
81			オオクサキビ	●	●	●	●	●		
82			シマスズメノヒエ	●	●			●		
83			キシュウスズメノヒエ	●	●	●		●	要注意	
84			タチスズメノヒエ			●				
85			ナガハグサ					●		
86			オオスズメノカタビラ			●		●		
87			ナギナタガヤ					●		
88		カヤツリグサ	メリケンガヤツリ		●	●		●	要注意	
種数				27	41	42	18	62	24	1

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

a.「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定外来：特定外来生物
　要注意：要注意外来生物

b. 京都府HP（2002）「京都府レッドデータブック　動物・植物編」に記載されている種
　要注目：要注目種－外来種（国外外来種）

※ 上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

出典：6-9～6-10

6)鳥類

a. ダム湖面及びその周辺の水辺を利用する鳥類の生息状況

ダム湖面及びその周辺の水辺をどのような鳥類が利用しているのかを把握するため、ダム湖及びその周辺の水辺において確認された鳥類の状況を整理した。

平成 7 年(1995 年)度、平成 10 年(1998 年)度、平成 15 年(2003 年)度及び平成 18 年(2006 年)度の天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査結果をもとに、既往知見(文献番号：6-74)における内陸水地帯※の鳥の確認個体数を集計したものを表 6.4-7に示す。

過去 4 回の調査全てにおいて、オシドリ、カワウが多く飛来しており(図 6.4-26)、越冬期にオシドリが多く確認されている(表 6.4-7)。オシドリは平地の池や湖、河川にはあまり出現せず、シイ類などドングリを産出する樹林に接した山中の池などで越冬するカモ類であることから、天ヶ瀬ダム湖はオシドリの越冬地として利用されていると考えられる。なお、天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査では、天ヶ瀬ダム湖全体がオシドリの集団越冬地として記録されており、特に田原川合流点付近や曽束川合流点付近で多く確認されている(図 6.4-27)。

また、カワウについては平成 18 年(2006 年)度に大幅に個体数が増加した。カワウは近年全国的に増加しており、エサである魚類を大量に捕食するなど、水産被害が増加しているほか、大規模なねぐらやコロニーでは糞による樹木の枯死など、林業被害も報告されている。天ヶ瀬ダム湖周辺においても大石川合流部付近の瀬田川右岸のヤナギ林で集団営巣地を、大石淀町瀬田川左岸及び大峰大橋下流側右岸で集団ねぐらを確認しており、今後もカワウの営巣状況等に注意する必要があると考えられる。

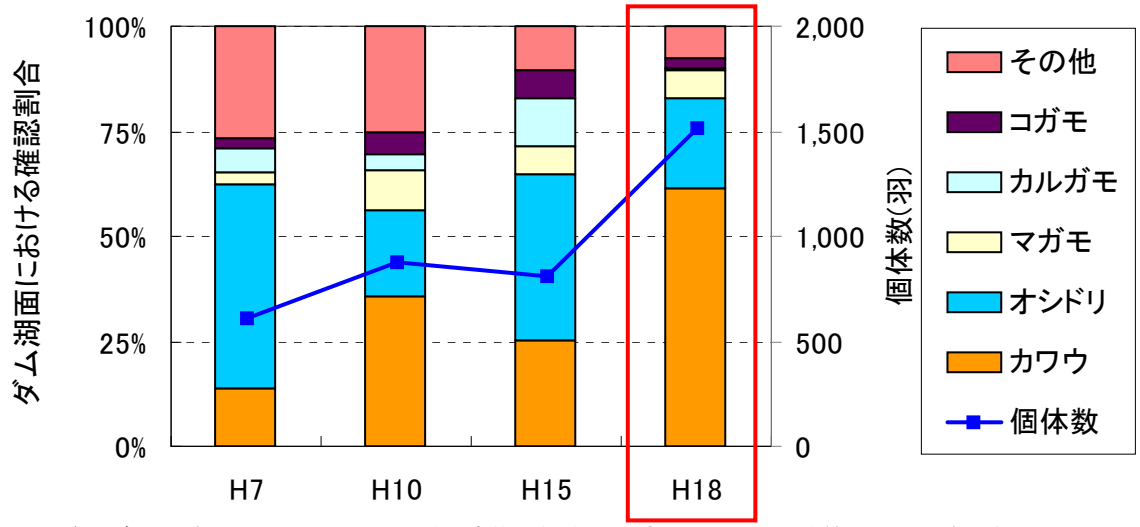
※内陸水地帯：河川流水、湖沼静止水面等、水鳥が生息する水域のうち、内陸の水系

表 6.4-7　天ヶ瀬ダム湖及びその周辺における内陸水地帯の鳥の確認状況(繁殖期・越冬期)

目名	科名	種名	H7		H10		H15		H18	
			繁殖期	越冬期	繁殖期	越冬期	繁殖期	越冬期	繁殖期	越冬期
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	0	2	0	3	0	3	0	1
		カンムリカイツブリ	0	0	0	1	0	0	0	0
ペリカン	ウ	カワウ	4	81	19	293	37	166	290	636
コウノトリ	サギ	コサギ	5	3	11	10	9	0	3	0
		アオサギ	47	6	120	0	43	3	72	4
カモ	カモ	オシドリ	3	292	0	180	0	322	2	322
		マガモ	0	17	0	81	0	53	2	102
		カルガモ	0	35	1	34	0	94	1	6
		コガモ	0	14	0	46	0	52	0	33
		トモエガモ	0	19	0	29	0	0	0	0
		ヨシガモ	0	0	0	4	0	2	0	11
		オカヨシガモ	0	0	0	12	0	10	0	16
		ヒドリガモ	0	59	0	9	0	2	0	1
		オナガガモ	0	7	0	16	0	0	0	1
		ハシビロガモ	0	0	0	1	0	0	0	0
		ホシハジロ	0	0	0	0	0	6	0	4
		キンクロハジロ	0	0	0	1	0	2	0	1
チドリ	チドリ	イカルチドリ	2	0	0	0	1	2	0	1
		ケリ	0	0	0	2	0	0	0	0
	シギ	イソシギ	0	0	0	0	0	1	0	2
		タシギ	0	0	0	2	0	0	0	0
	カモメ	ユリカモメ	0	13	0	0	0	1	0	0

※各年度の調査は、ラインセンサス法、定位記録法、スポットセンサス法等による調査を行ったもので、調査方法は調査年度ごとに異なる(調査努力量の詳細については、表 6.2-19 参照)。

出典：6-11～6-14

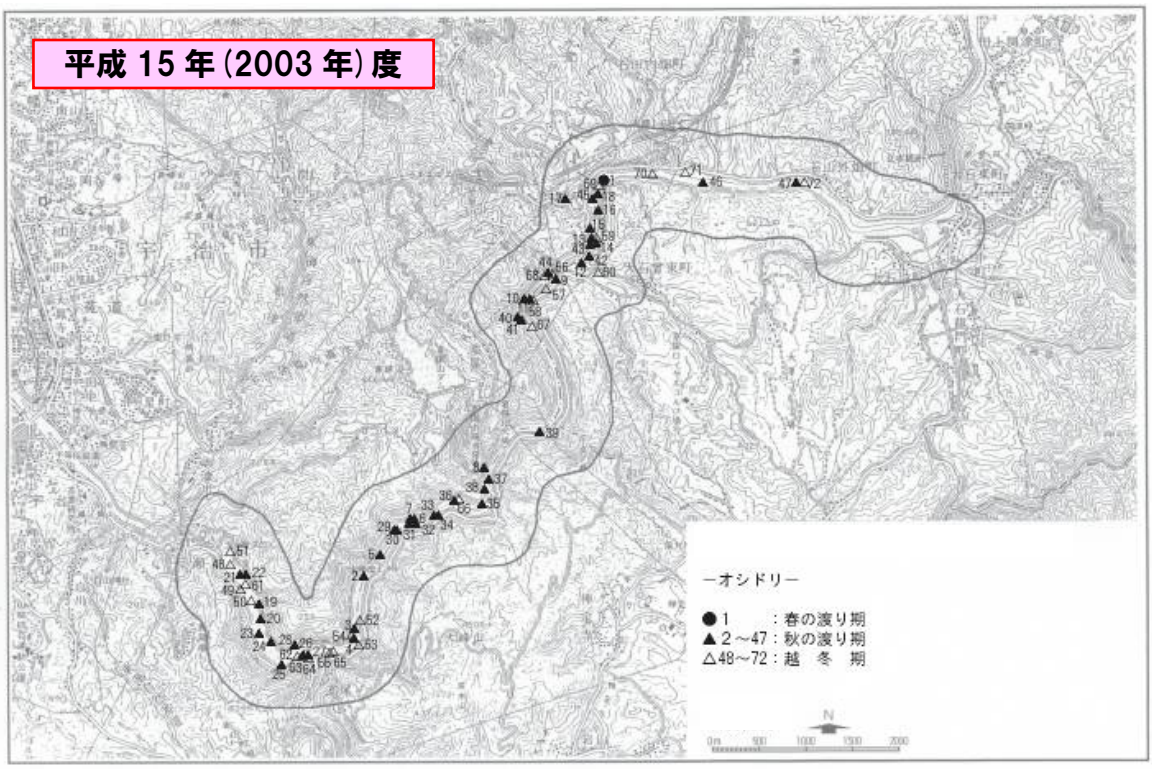


※各年度の調査は、ラインセンサス法、定位記録法、スポットセンサス法等による調査を行ったもので、調査方法は調査年度ごとに異なる(調査努力量の詳細については、表 6.2-19 参照)。

※　個体数には、内陸水地帯の鳥以外の個体数も含む。

図 6.4-26　ダム湖及びその周辺における内陸水地帯の鳥の確認個体数(繁殖期・越冬期合計)

出典：6-11～6-14



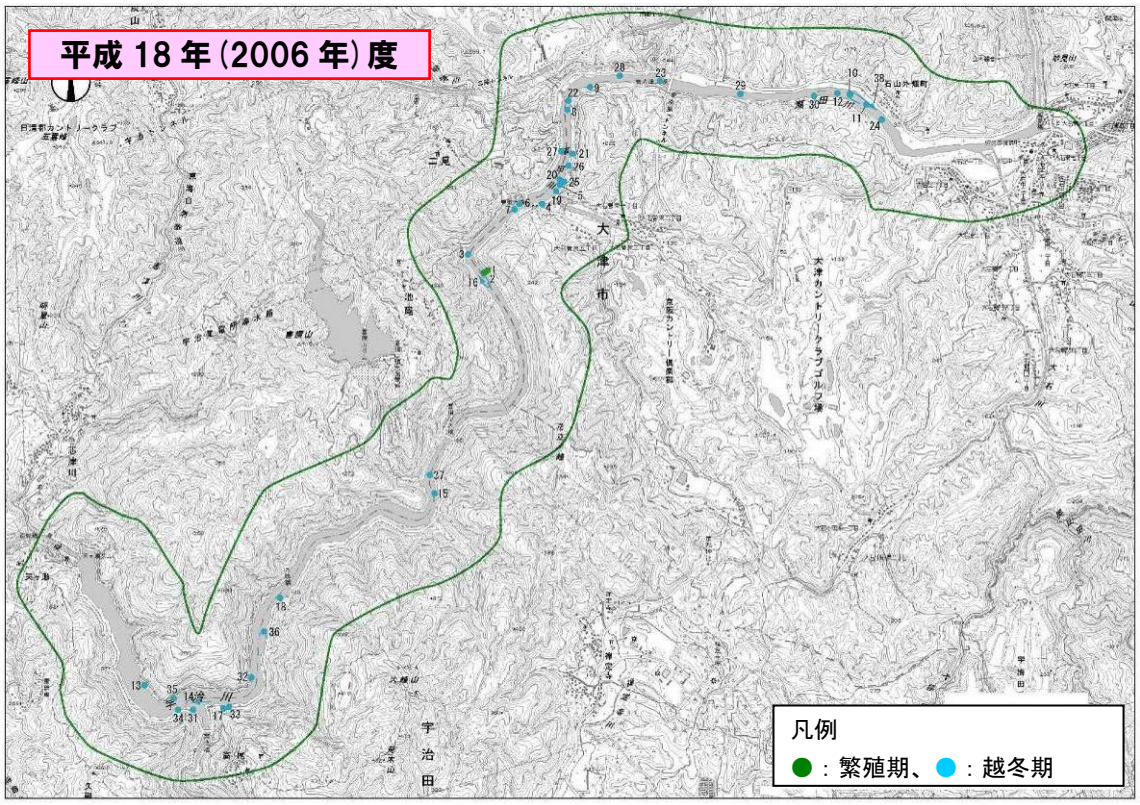


図 6.4-27　天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査におけるオシドリの確認状況
（上段：平成 15 年(2003 年)度、下段：平成 18 年(2006 年)度）

出典：6-13～6-14

7)爬虫類・哺乳類

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

a. ダム湖及びその周辺の水辺を利用する爬虫類の生息状況

その結果、平成 17 年(2005 年)度の調査において、ミシシッピアカミミガメがダム湖内の 1 地点で確認されている。

ダム湖内にミシシッピアカミミガメが生息している理由として、①ダム湖内に放流された、②琵琶湖または流入河川に放流された個体が移動してきた等の可能性が考えられる。ダム湖内では平成 17 年(2005 年)度の調査において 1 地点で確認されただけであり、流入河川においては平成 7、12、17 年の 3 回の調査全てで確認されていることから、この個体は流入河川から移動してきた可能性が高いと考えられる。

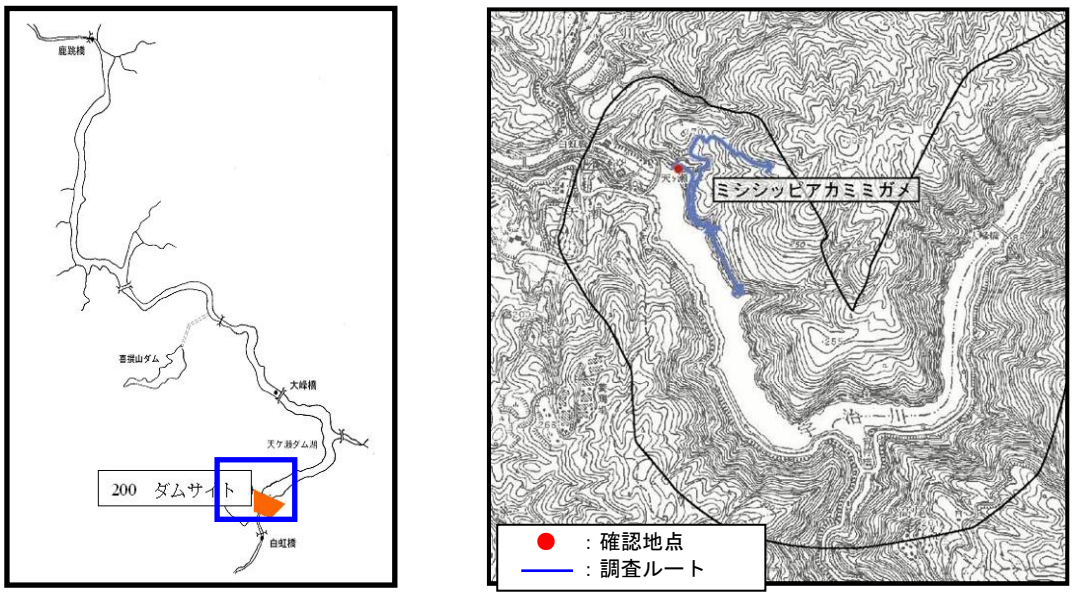


図 6.4-28　ダム湖におけるミシシッピアカミミガメの確認地点

出典：6-17

b. **ダム湖及びその周辺の水辺を利用する哺乳類の生息状況**

ダム湖岸の水際の大部分は傾斜が急であり、水位変動の影響で裸地となっているため、多くの森林性の哺乳類にとって利用しにくい環境であるが、大石曽束町、大石外畑町及び大石淀町付近の水際は、傾斜が比較的緩やかで、草地もみられることから、タヌキ、ノウサギ等が採餌場所として利用していると考えられる。

また、カヤネズミの巣が平成 7、12、17 年の 3 回の調査全てで確認されていることから、カヤネズミが生息できる水辺環境が維持されているものと考えられる。



図 6.4-29　カヤネズミの巣

出典：6-16

(3)ダムによる影響の検証

ダム湖内の生物の変化に対するダムによる影響の検証結果を表 6.4-8、図 6.4-30に示す。

なお、爬虫類・哺乳類に関する検証結果は、参考として示している。

表 6.4-8　ダム湖内の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息・生育状況の変化	魚類相（止水域～緩流域を好む魚類）	止水域～緩流域を好むビワヒガイ、ビワコオオナマズ、オオクチバス等が確認されている。	流速低下・水深増大	人の利用が増加し、釣り人等が放流琵琶湖からの流下	止水域～緩流域を好む魚種が生息している。	● ○
		外来種であるオオクチバス及びブルーギルが増加し、在来種が減少する傾向がみられる。	－	人の利用が増加し、釣り人等が放流琵琶湖からの流下	オオクチバスの増加に伴い、ギンブナ等の在来種が減少している。	○
	魚類相（外来種）	ブルーギル、オオクチバスは経年的に確認されており、比較的小型の個体も確認されていることから、湖内で繁殖し定着しているものと考えられる。	流速低下・水深増大	人の利用が増加し、釣り人等が放流琵琶湖からの流下	ダム湖周辺における人の利用により、釣り人等の放流や、琵琶湖等上流から流下したものが、ダム湖内に定着したものと考えられる。	● ○
	底生動物相	ダムサイトでは、イトミミズ目のように掘潜型の生活型を持つ種類が優占している。	流速低下・水深増大及びそれに伴う底質の変化	－	流速低下・水深増大により、貧酸素状態にも強いイトミミズ目が優占的に生息することとなったものと考えられる。	●
		大峰橋付近で、平成6年度以降、シジミ類(外来種の可能性あり)が優占している。	流速低下・水深増大及びそれに伴う底質の変化	外来のシジミ類が琵琶湖・瀬田川から流下	イトミミズ目からシジミ類に優占種が変化した理由は不明である。	△
	動植物プランクトン相	植物プランクトンでは、珪藻綱、藍藻綱が優占し、動物プランクトンでは単生殖巣綱が優占して出現している。	流速低下、水質変化	琵琶湖からの流下	ダムができたことによってプランクトン相、現存量の変化が生じているとともに、琵琶湖のプランクトンの影響を受けていると考えられる。	● ○
	付着生物相	細胞数では藍藻綱・珪藻綱が優占して出現しており、バイオマスでは H9～H12 にコケムシが多くを占めている。	流速低下、水質変化	琵琶湖からの流下	一定の変化傾向がみられず、付着生物の生息・生育状況の変化は不明である。	？
	水位変動域の植物（植物相）	H14に比べてH21は木本類の種数が増加している。	水位の変動	出水	冠水の影響をあまり受けず、木本類が生育したと考えられる。	○
	水位変動域の植物（植生）	水位変動域の約50%は、外来種であるオオオナモミ群落やイタチハギ群落が占めている。	水位の変動	外来種の侵入	ダム湖水位変動域は、冠水と干出が繰り返されるため、裸地化し、外来種が侵入しやすい環境となり、それらの外来種が優占するようになったと考えられる。	● ○
	水位変動域の植物（外来種）	外来種が増加する傾向にあり、平成21年度に特定外来生物であるアレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャが初めて確認されている。	水位の変動	外来種の侵入	ダム湖水位変動域は、冠水と干出が繰り返されるため、外来種が侵入しやすい環境となっていると考えられるが、外来種の侵入経路は不明である。	● ○
	鳥類（湖面の利用）	4回の調査全てにおいて、オシドリ、カワウが多く飛来しており、特にオシドリはダム湖を越冬地として利用している。	湖面の存在	－	広大な湖面がこれら水鳥の利用を可能にしているものと考えられる。	●

※1 検証結果
- ●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
- ○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、参考として、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息・生育状況の変化	爬虫類（外来種）（参考）	ミシシッピアカミミガメがダム湖内で確認されている。	湖面の存在	外来種の侵入	流入河川から移動した個体の可能性がある。	○
	哺乳類（湖岸の利用）（参考）	大石曽束町、大石外畑町及び大石淀町付近の水際は、傾斜が比較的緩やかで、タヌキ、ノウサギ等が生息し、カヤネズミの巣が平成 7、12、17 年の 3 回の調査全てで確認されている。	湖面の存在、水位の変動	―	哺乳類の生息状況に大きな変化は見られなかった。	―

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

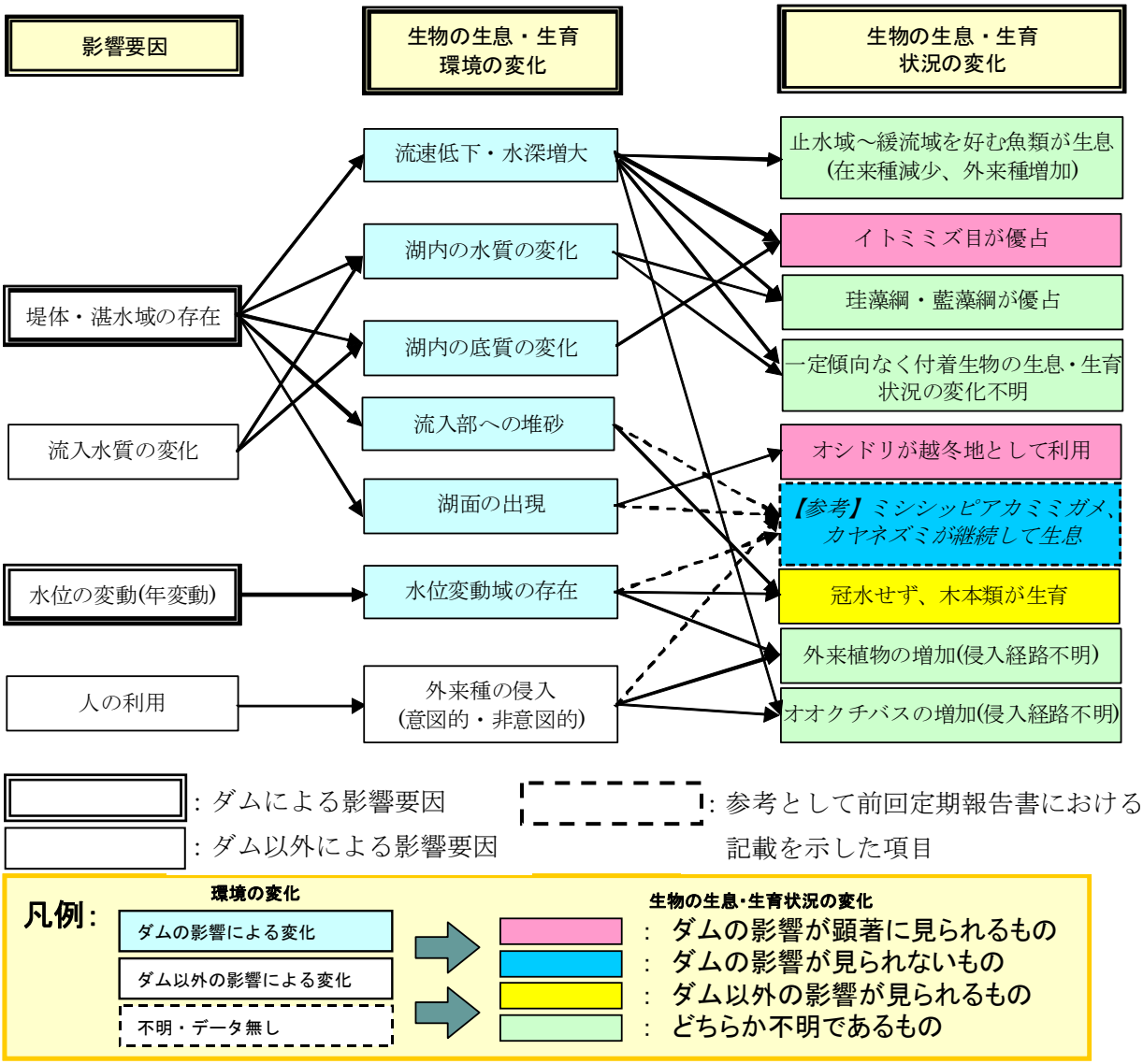


図 6.4-30　ダム湖内の生物の変化に対する影響の検証結果

※爬虫類及び哺乳類については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

6.4.2流入河川における変化の検証

天ヶ瀬ダムの流入河川において環境条件の変化が起こり、流入河川を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こす可能性がある。

そのためここでは、天ヶ瀬ダム流入河川における環境条件の変化及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.4-31のように想定し、天ヶ瀬ダムにより流入河川の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1)　環境条件の変化の把握

・河川流入量の変化

・水温・水質の変化

(2)　生物の生息・生育状況の変化の把握

・魚類の生息状況(流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類、外来種)の変化

・底生動物の生息状況(主要構成種、摂食機能別、やや汚れた水域に生息する種)の変化

・爬虫類(外来種)の生息状況の変化(爬虫類については平成 18～21 年度は調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した内容を参考として示す。)

(3)　ダムによる影響の検証

天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化やダム以外の要因等と照らし合わせて検討し、ダムによる影響を検証した。

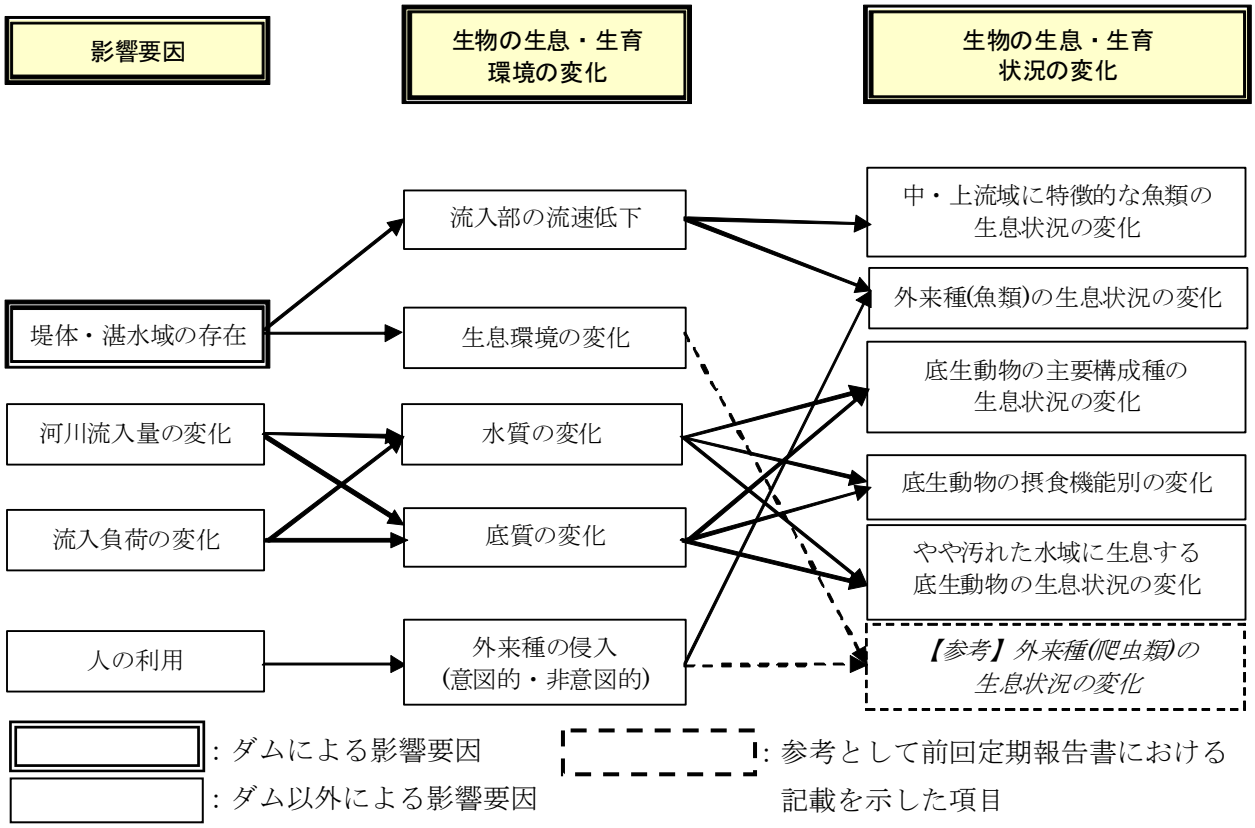


図 6.4-31　天ヶ瀬ダム流入河川で想定される環境への影響要因と生物に与える影響

※爬虫類については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

(1)環境条件の変化の把握

1)河川流入量の変化

昭和 40 年(1965 年)～平成 21 年(2009 年)の流入河川(天ヶ瀬ダム流入量)の流況を表 6.4-9及び図 6.4-32に示す。

平成 18～21 年には、平水流量、低水流量、渇水流量が昭和 40 年～平成 21 年の平均値を下回っている。

表 6.4-9　流入河川(天ヶ瀬ダム流入量)の流況

	最大流量 (m^3/s)	豊水流量 (m^3/s)	平水流量 (m^3/s)	低水流量 (m^3/s)	渇水流量 (m^3/s)	最小流量 (m^3/s)	年平均流量 (m^3/s)	年総流出量 ($\times 10^6 m^3$)
昭和40年	672.91	98.30	63.26	30.74	12.30	8.12	127.14	4,009
昭和41年	576.01	141.10	58.30	42.78	12.58	11.37	112.71	3,554
昭和42年	673.71	147.61	76.50	8.88	2.42	1.68	100.69	3,175
昭和43年	532.20	129.11	68.90	43.35	7.44	2.86	97.10	3,071
昭和44年	796.81	100.21	59.88	26.70	5.37	4.30	96.51	3,044
昭和45年	682.70	144.80	52.30	31.70	5.10	3.28	107.98	3,405
昭和46年	653.00	174.00	78.00	54.00	40.00	35.00	142.82	4,504
昭和47年	900.00	109.00	70.00	53.00	32.00	30.00	132.11	4,178
昭和48年	364.00	135.00	53.00	10.00	5.00	4.00	82.04	2,587
昭和49年	657.19	150.99	81.40	42.27	18.05	15.21	131.79	4,156
昭和50年	567.11	141.18	115.47	72.27	41.85	20.35	123.49	3,894
昭和51年	775.43	118.90	90.47	61.18	40.29	32.59	130.27	4,120
昭和52年	368.11	90.49	50.36	15.83	7.88	5.72	70.60	2,226
昭和53年	303.91	44.95	24.73	6.88	2.71	1.95	35.75	1,127
昭和54年	504.45	51.59	36.37	18.67	3.94	3.30	61.45	1,938
昭和55年	584.10	153.26	85.97	70.08	36.22	26.74	135.56	4,287
昭和56年	530.14	123.60	77.96	38.88	31.51	27.55	101.66	3,206
昭和57年	729.62	94.04	65.74	44.74	26.57	20.43	102.00	3,217
昭和58年	562.27	114.26	65.33	43.41	29.87	23.54	100.74	3,177
昭和59年	365.33	127.74	54.96	26.29	3.22	1.99	80.35	2,541
昭和60年	759.69	95.53	35.99	16.86	2.94	2.21	101.12	3,189
昭和61年	778.18	98.88	35.97	10.68	5.65	5.10	98.35	3,102
昭和62年	333.97	46.85	33.77	18.01	7.14	5.91	40.31	1,271
昭和63年	728.30	91.20	58.54	34.35	13.95	11.93	114.39	3,617
平成元年	784.90	122.95	96.35	44.54	30.87	26.63	123.99	3,910
平成2年	662.01	109.39	78.85	54.43	33.06	28.97	98.01	3,091
平成3年	347.54	159.41	104.02	57.36	44.99	40.95	123.62	3,899
平成4年	356.68	93.37	45.82	26.93	20.01	14.11	78.57	2,485
平成5年	820.75	116.76	55.55	29.95	19.16	14.09	138.29	4,361
平成6年	168.50	64.36	37.31	20.88	6.37	5.07	48.13	1,518
平成7年	899.53	68.69	30.38	20.20	11.31	7.01	108.13	3,410
平成8年	631.53	66.76	31.44	20.60	12.58	6.13	63.09	1,995
平成9年	742.13	105.53	52.00	33.29	18.02	15.87	110.21	3,476
平成10年	715.46	166.57	60.02	35.21	21.06	14.40	129.50	4,084
平成11年	733.30	77.92	47.08	35.11	19.58	18.18	96.48	3,043
平成12年	320.15	91.21	53.77	41.06	21.57	16.21	75.09	2,375
平成13年	321.05	105.77	62.47	53.35	42.83	21.96	91.52	2,886
平成14年	605.81	54.10	40.50	14.88	8.41	6.80	49.16	1,550
平成15年	690.96	110.10	40.23	21.48	9.51	6.84	104.17	3,285
平成16年	731.82	110.41	50.73	32.75	18.79	17.26	104.97	3,319
平成17年	626.54	103.16	28.39	20.97	14.69	14.69	67.47	2,069
平成18年	853.41	134.74	36.16	22.62	17.73	16.12	111.74	3,524
平成19年	719.79	34.82	22.61	19.50	15.54	14.78	63.44	2,001
平成20年	330.09	102.62	29.94	21.39	17.13	15.50	74.43	2,354
平成21年	400.74	74.80	28.59	20.01	14.48	13.11	64.60	2,037
平均値	596.93	106.58	56.12	32.62	18.04	14.22	96.70	3,050

出典：6-39

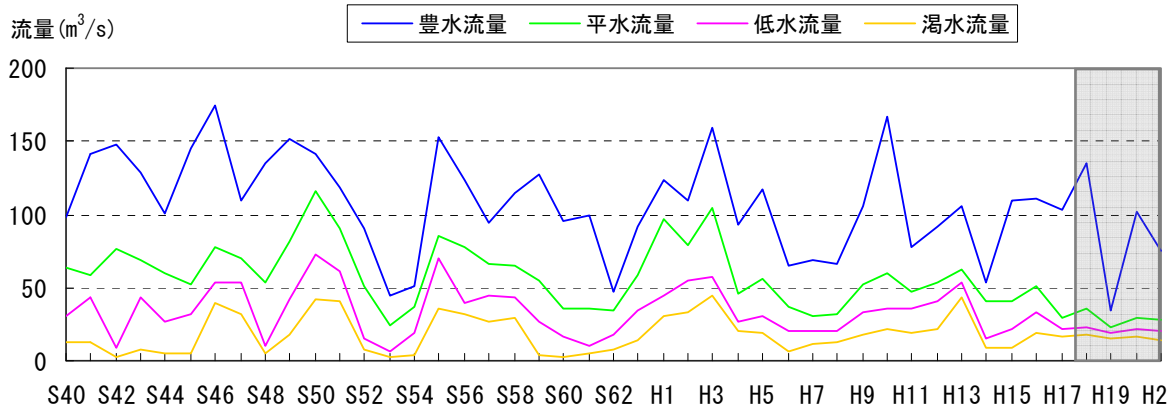


図 6.4-32　流入河川(天ヶ瀬ダム流入量)の流況

出典：6-39

2)水質の変化

天ヶ瀬ダム流入河川の水質の変化を図 6.4-33に、富栄養化関連項目である窒素、リンの形態別濃度平均値の経年変化を図 6.4-34に示す。

流入河川(本川)におけるＢＯＤ、リン及びクロロフィルａは、平成６年以降ほぼ横ばいである。全窒素についても、ほぼ横ばいであるが、硝酸態窒素が年々増加している。

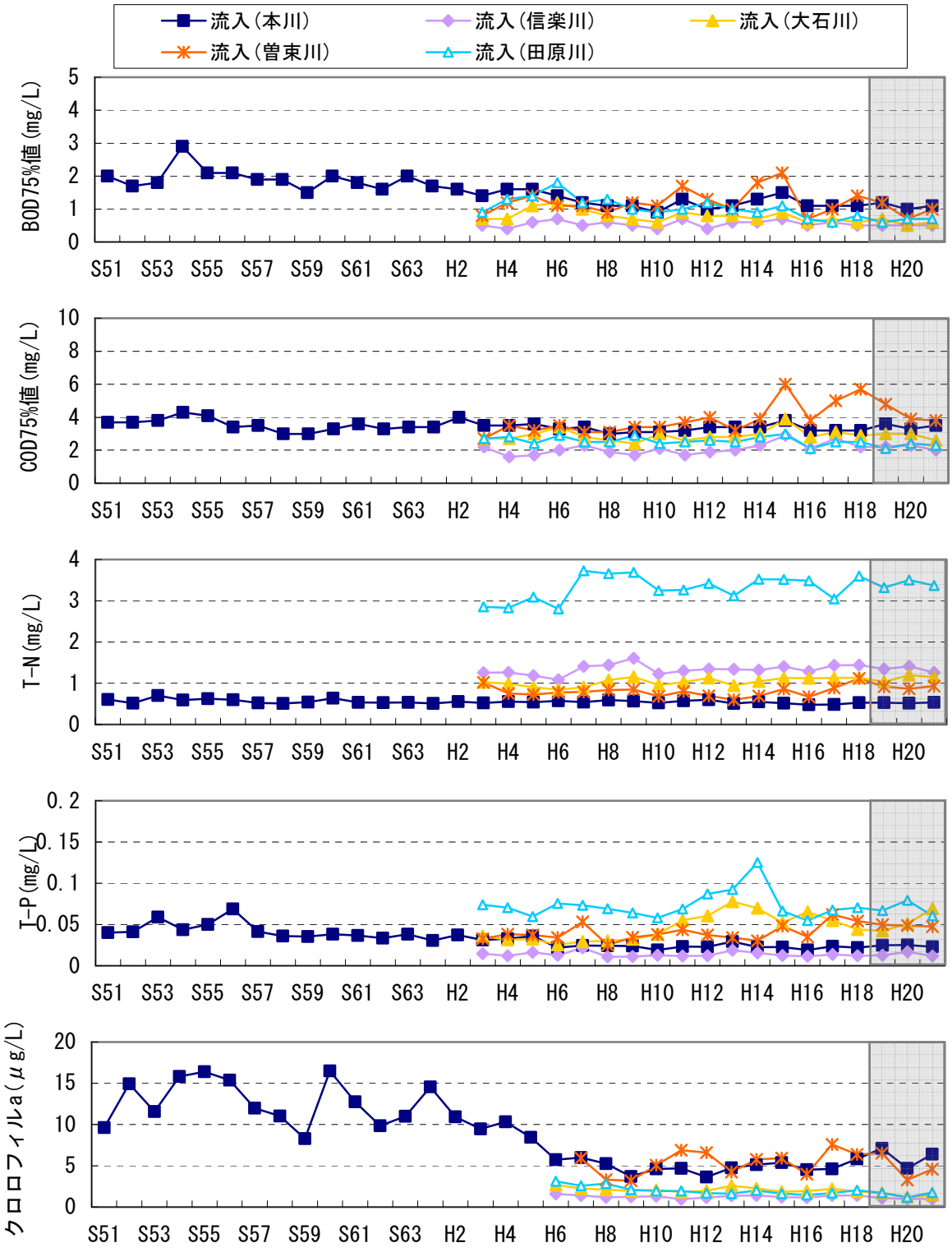


図 6.4-33　天ヶ瀬ダム流入河川におけるの水質経年変化

出典：6-40

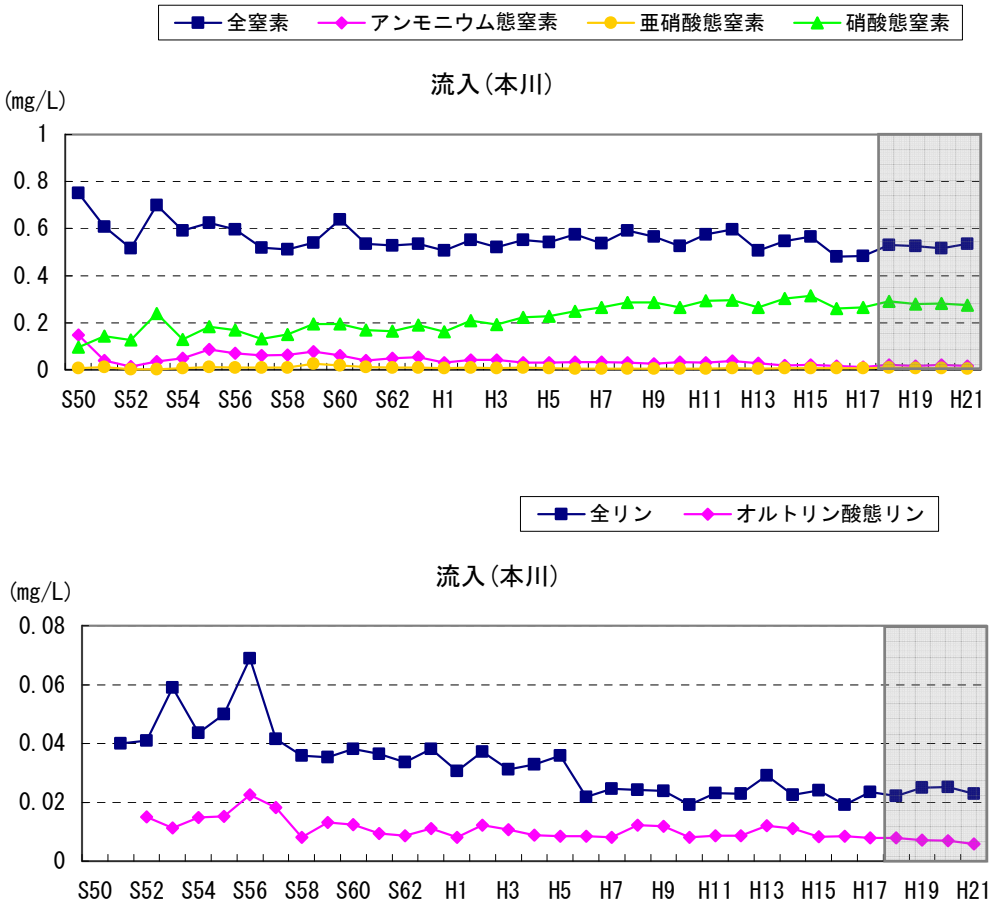


図 6.4-34　流入河川における窒素・リンの形態別年平均値の経年変化

出典：6-40

(2)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)流入河川の魚類相

a. 淵のある流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類の生息状況の変化

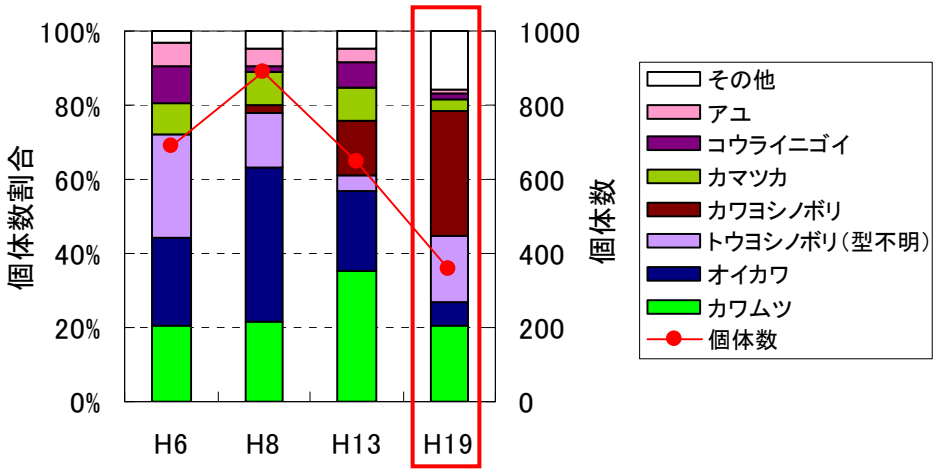
流入河川において確認された魚類のうち、淵のある流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類の生息状況の変化を整理した。流入河川の 3 地点の合計を図 6.4-35に、調査地点別の結果を図 6.4-36に示す。

流入河川では、カワムツ、オイカワ、トウヨシノボリ(型不明)、カワヨシノボリ、カマツカ、コウライニゴイ、アユ等の淵のある流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類が多く確認されている。平成 19 年(2007 年)度は、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ(型不明)の割合が増えており、オイカワ、カマツカの割合が減少している。

オイカワの割合が減少し、カワヨシノボリの割合が増加する傾向は、平成 8 年(1996 年)度から平成 13 年(2001 年)度の傾向と同様である。

また、流入河川別にみると、平成 19 年(2007 年)度に大石川ではカワムツが、信楽川ではカワヨシノボリが、本川である瀬田川はカワムツ及びトウヨシノボリ(型不明)の割合が増加している一方、どの河川においてもオイカワの割合が減少している。

ただし、流入河川におけるオイカワの放流実態が不明であることから、オイカワが減少した理由は不明である。



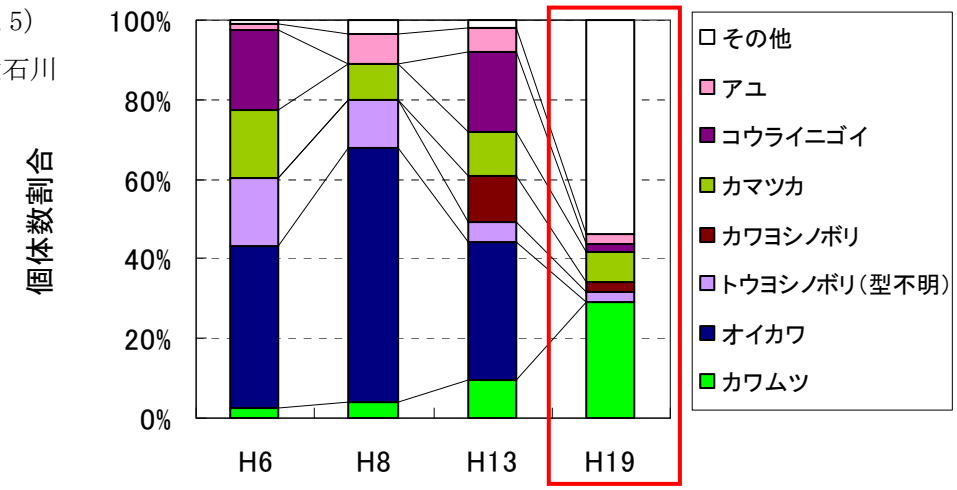
※ 各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

※ H6、H8、H13 年度調査は 3 地点 (St.4,5,6) の合計、H19 年度調査は 3 地点 (淀天淀 8,9,10) の合計個体数である。

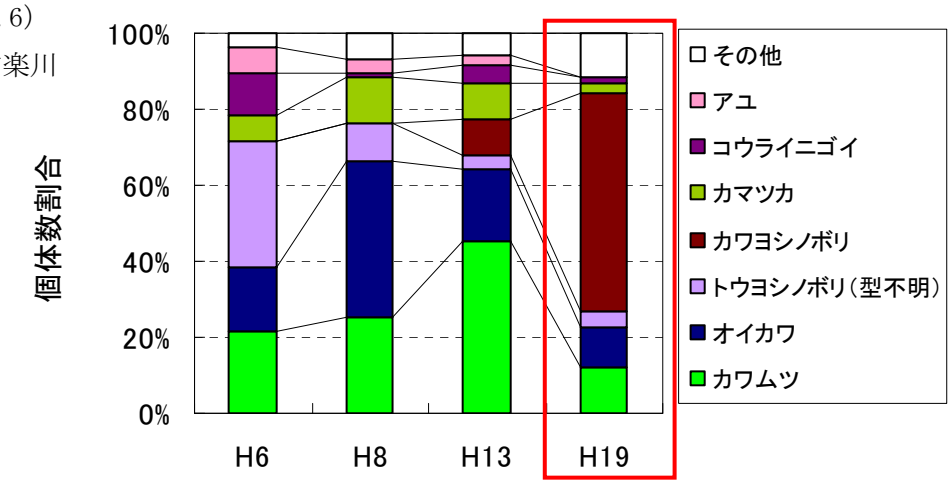
図 6.4-35 流入河川における魚類の確認状況(3 地点合計)

出典：6-2～6-5

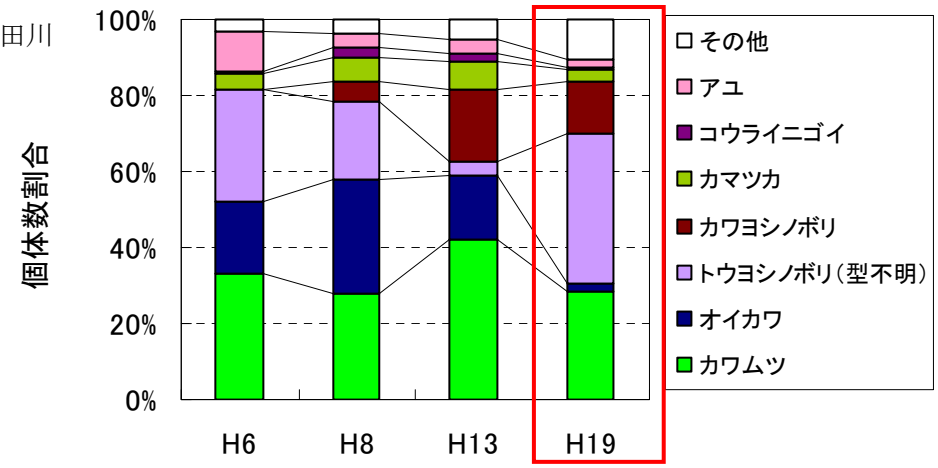
淀天淀 8（St.5）
流入河川　大石川



淀天淀 9（St.6）
流入河川　信楽川



淀天淀 10（St.4）
流入河川　瀬田川



※　各地点、各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している（調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照）。

図 6.4-36　流入河川における魚類の確認状況

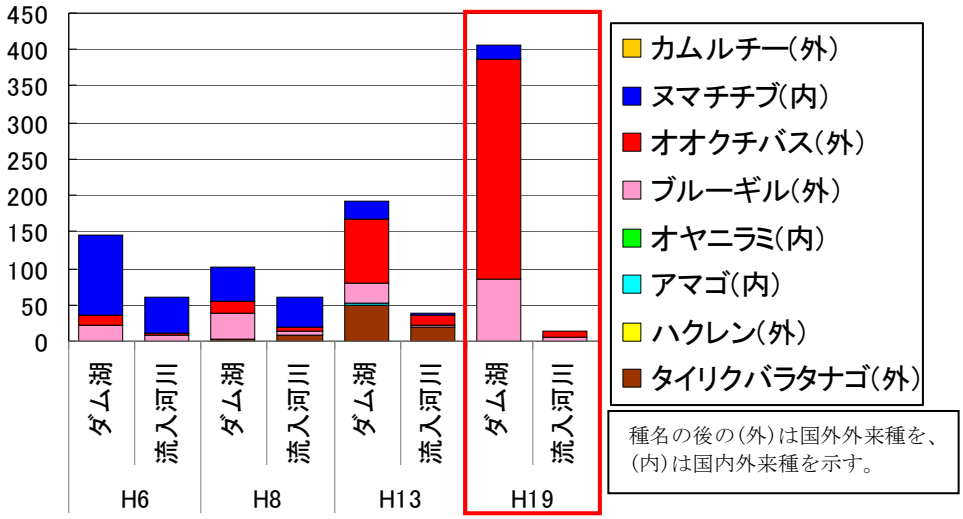
出典：6-2～6-5

b. **外来種の生息状況**

ダム湖内で多く確認されたオオクチバス、ブルーギル等の外来種が流入河川にも生息しているか確認するため、ダム湖内及び流入河川で確認された魚類の個体数の推移を図 6.4-37に整理した。

流入河川 3 地点における確認個体数は、平成 19 年度でオオクチバスが合計 8 個体、ブルーギルが合計 4 個体と、ダム湖内と比較して非常に少ない。

これらの外来種は、ダム湖内に生息する個体が移動したか、あるいは琵琶湖から流下したものと考えられる。



※ ダム湖は 3 地点（淀天淀 3, 4, 6）、流入河川は 3 地点（淀天淀 8, 9, 10）の合計個体数である（調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照）。

図 6.4-37 ダム湖内・流入河川における外来種（魚類）確認個体数の推移

出典：6-5

2)底生動物

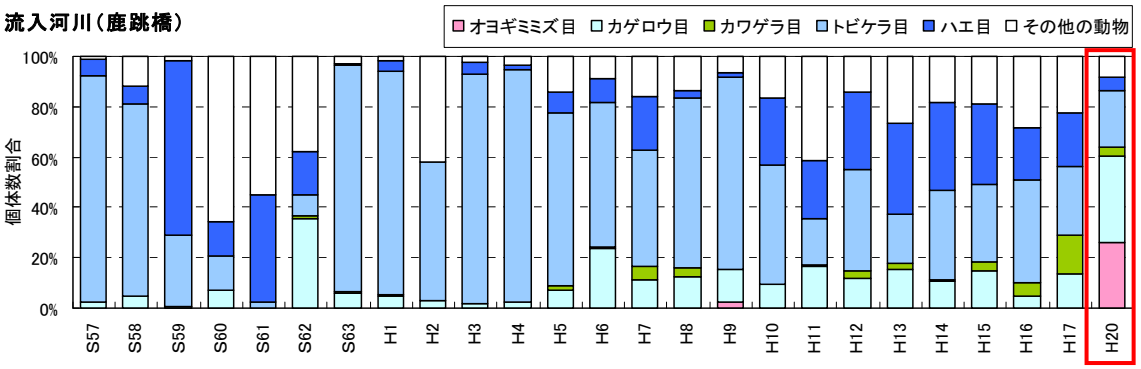
a. 流入河川の主要構成種の変化

流入河川における底生動物の生息状況に変化があったかどうかについて把握するため、流入河川において確認された底生動物の状況を整理した。

流入河川(鹿跳橋)における確認種について、目別個体数割合の推移を図 6.4-38に整理した。

流入河川(鹿跳橋)では、河川中上流域に普通に生息するトビケラ目の個体数が多い他、ユスリカ科(ハエ目)が多かったが、平成 20 年度にオヨギミミズ目が増加している。

オヨギミミズ目のような泥質に生息する種が増える傾向がみられているが、このように変化した影響要因は不明である。



※ 各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57 (1982) ～H17 (2005) までは年 6 回、H20 (2008) は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-38 流入河川における底生動物の個体数割合の推移

出典：6-6、6-30

b. **摂食機能群別の底生動物**

流入河川における底質の変化が底生動物の生息状況の変化に影響を及ぼしているかを把握するため、底生動物の餌の種類や採餌方法(摂食機能群)に着目し、鹿跳橋地点において確認された底生動物を既往知見(文献番号:6-57～60)に従って表 6.4-10に示す摂食機能群ごとに分類し、摂食機能群別割合の推移を整理した(図 6.4-39)。

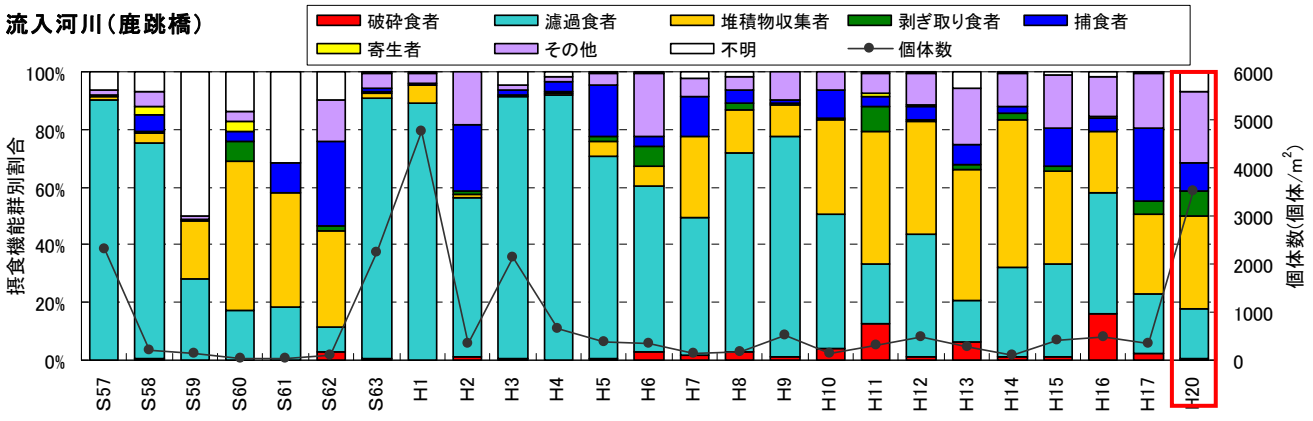
鹿跳橋地点における底生動物は昭和 63 年(1988 年)以降、平成 9 年(1997 年)までは濾過食者がほとんどを占めているのに対して、平成 10 年 (1998 年)からは濾過食者の割合が減少し堆積物収集者の割合が増加している。なお、平成 20 年(2008 年)度は、個体数は大きく増加したが、その構成割合に変化はみられていない。

鹿跳橋地点において、底質に有機物が堆積して堆積物収集者の割合が増加した可能性が考えられるが、影響要因は不明である。

表 6.4-10 底生動物の摂食機能群

摂食機能群	概　　要
破砕食者	落葉等を細かくかみ砕いて摂食するもの
濾過食者	網を張ったり、口器や前肢に生える長毛により有機物を集めて摂食するもの
堆積物収集者	堆積物を集めて摂食するもの
剥ぎ取り食者	基質上の藻類等を剥ぎ取る様に摂食するもの
捕食者	動物(死体も含む)を捕食するもの
寄生者	宿主に寄生、または自由生活しつつ宿主の血液や体液を吸うもの

出典：6-57～6-60



※ 各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57 (1982) ～ H17 (2005) までは年 6 回、H20 (2008) は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-39 流入河川における底生動物の摂食機能群別割合の推移

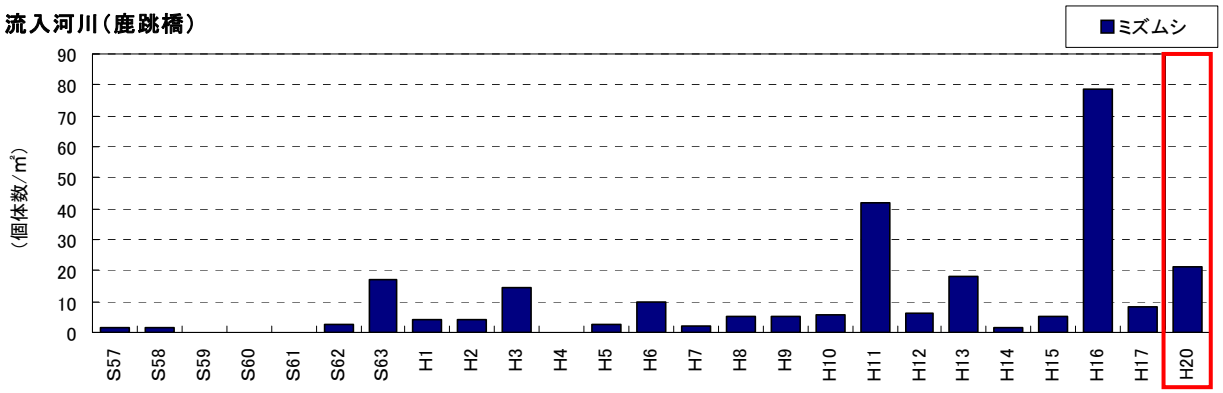
出典：6-6、6-30

c. **やや汚れた水域に生息する底生動物**

流入河川においては、流域の状況が変化することにより、水質や底質の状況等が変化し、そこに生息する底生動物の状況が変化している可能性もあることから、やや汚れた水域に生息するミズムシ(ワラジムシ目)の個体数の推移を図 6.4-40に整理した。

平成 11 年(1999 年)度及び平成 16 年(2004 年)度にミズムシ(ワラジムシ目)が増加している。平成 20 年(2008 年)度は前回調査の平成 17 年(2005 年)度よりやや確認個体数が増加している。

図 6.4-33に示すように流入河川の水質(BOD)には改善傾向がみられることから、ミズムシの増加は水質の変化によるものではないと考えられる。一時的に落葉等が堆積し、これらの落葉等を細かくかみ砕いて摂食するミズムシの個体数が増加した可能性も考えられるが、原因は不明である。



※ 各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57 (1982) ～H17 (2005) までは年 6 回、H20 (2008) は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-40 流入河川で確認されたミズムシ(ワラジムシ目)個体数の推移

出典：6-6、6-30

3)両生類・爬虫類・哺乳類

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

a. 爬虫類の確認外来種

ダム湖への流入河川(曽束川)で、外来種のミシシッピアカミミガメが確認された(図 6.4-41)。流入河川において、ミシシッピアカミミガメは平成 7、12、17 年の 3 回の調査全てで確認されている。

流入河川にミシシッピアカミミガメが生息している理由として、①ダム湖内に放流された個体が移動、②琵琶湖から天ヶ瀬ダム湖まで流下した個体が移動、③流入河川に放流等の可能性が考えられるが、ダム湖内では平成 17 年(2005 年)度の調査において 1 地点で確認されただけであるため、このミシシッピアカミミガメはダム湖から移動してきたものではなく、琵琶湖から流下した個体が移動したか、流入河川(曽束川)に放流された個体が定着したものと考えられる。



図 6.4-41 流入河川におけるミシシッピアカミミガメの確認地点(平成 17 年度調査)

出典：6-17

(3)ダムによる影響の検証

流入河川の生物の変化に対するダムによる影響の検証結果を表 6.4-11、図 6.4-42に示す。
なお、爬虫類に関する検証結果は、参考として示している。

表 6.4-11　流入河川の生物の変化に対する影響の検証結果

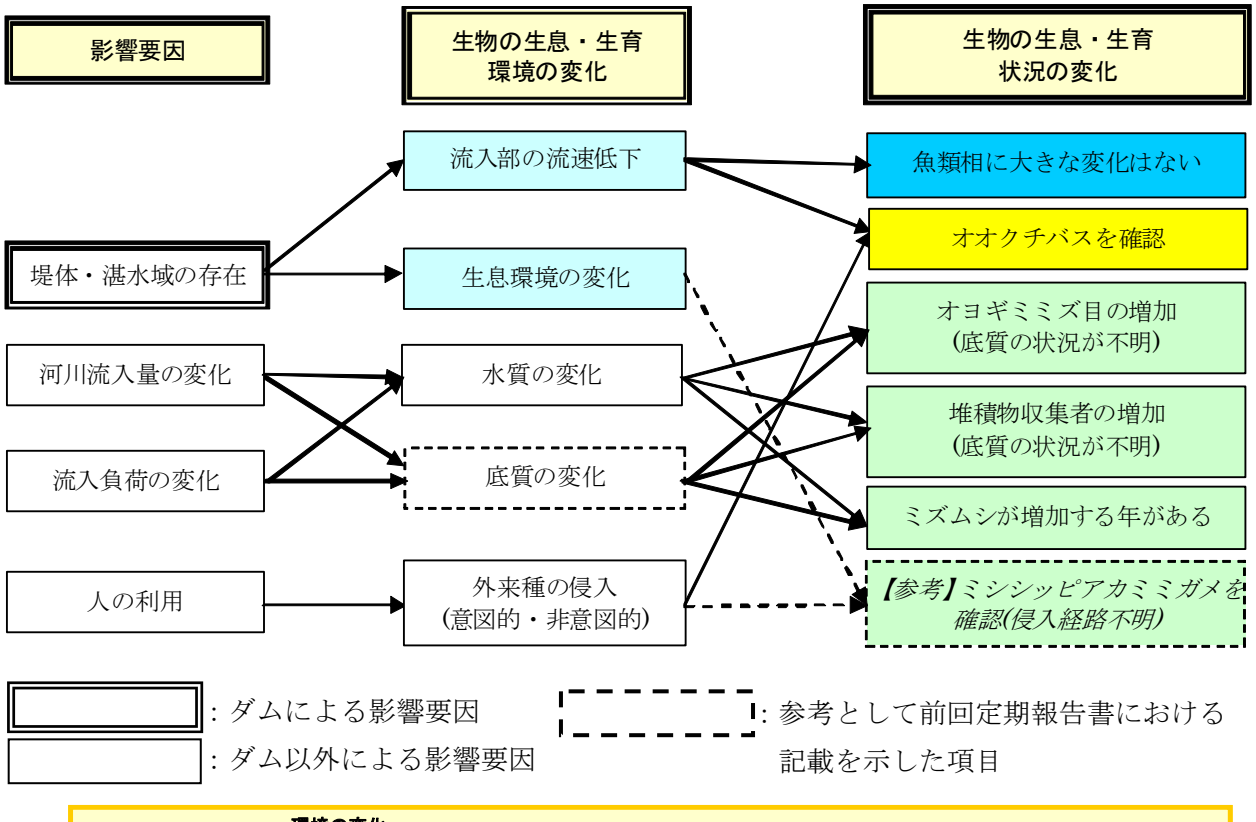
検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	魚類相	流入河川(ダム湖流入部、大石川、信楽川)における主要な種は、カワムツ、ヨシノボリ類などであり、淵のある流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類が多く生息している。	－	－	カワムツ、ヨシノボリ類等、主要な魚種の構成は変わっておらず、流入河川の魚類相に大きな変化はないと考えられる。	－
	外来種(魚類)	ダム湖内においてオオクチバスが増加しているが、流入河川では非常に少ない。	ダム湖からの生息環境の拡大	外来種の侵入	ダム湖から移動してきた個体は少ないと考えられる。	○
	底生動物相	流入河川(鹿跳橋)では、河川中上流域に普通に生息するトビケラ目の割合が高い傾向がみられる。 近年、トビケラ目が減少し、H20 にはオヨギミミズ目が増加している。	－	水質・底質の変化	オヨギミミズ目のような泥質に生息する種が増加したが、流入河川(鹿跳橋)における水質(BOD)は改善傾向にあることや底質の経年変化が不明であることから、このように変化した影響要因は不明である。	△
	摂食機能群別の底生動物	H9 までは濾過摂食者がほとんどを占めていたが、H10 以降は堆積物収集者の割合が増加している。	－	水質・底質の変化	BODの減少により濾過食者の割合が減少した可能性や、底質に有機物が堆積して堆積物収集者の割合が増加した可能性が考えられるが、影響要因は不明である。	△
	やや汚れた水域に生息する底生動物	H11 及び H16 にミズムシ(ワラジムシ目)が増加している。	－	水質・底質の変化	一時的に落葉等が堆積し、それらを摂食するワラジムシが増加した可能性も考えられるが、原因は不明である。	△

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、参考として、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	外来種(爬虫類) (参考)	ダム湖への流入河川(曽束川)で、外来種のミシシッピアカミミガメが平成 7、12、17 年の 3 回の調査全てで確認されている。	ダム湖からの生息環境の拡大	外来種の侵入	ダム湖周辺における人の利用により、外来種が生息するようになったものと考えられる。	● ○

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



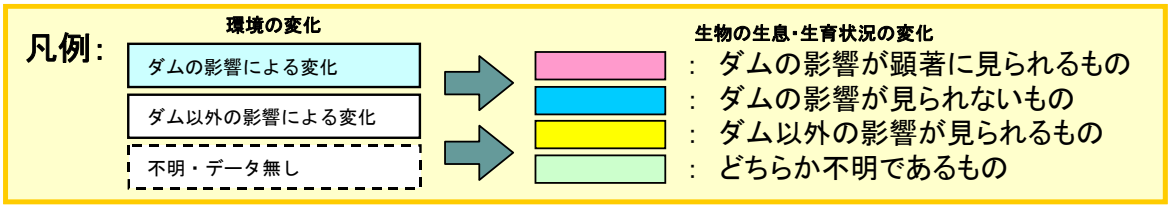


図 6.4-42　流入河川の生物の変化に対する影響の検証結果

※爬虫類については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

6.4.3下流河川における変化の検証

天ヶ瀬ダムの下流河川において環境条件の変化が起こり、下流河川を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こす可能性がある。

そのためここでは、天ヶ瀬ダム下流河川における環境条件の変化及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.4-43のように想定し、天ヶ瀬ダムの下流河川の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1)　環境条件の変化の把握

・下流河川の流況の変化
・下流河川の水温、水質の変化
・下流河川への土砂供給量の変化(ダムの堆砂状況、河床構成材料、河床高)

(2)　生物の生息・生育状況の変化の把握

・魚類の生息状況(砂礫底を好む魚類、外来種)の変化
・底生動物の生息状況(主要構成種、生活型・摂食機能別、石礫に関わる種、やや汚れた水域に生息する種)の変化
・植物(外来種)の生育状況

(3)　ダムによる影響の検証

天ヶ瀬ダム下流河川の生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化やダム以外の要因等と照らし合わせて検討し、ダムによる影響を検証した。

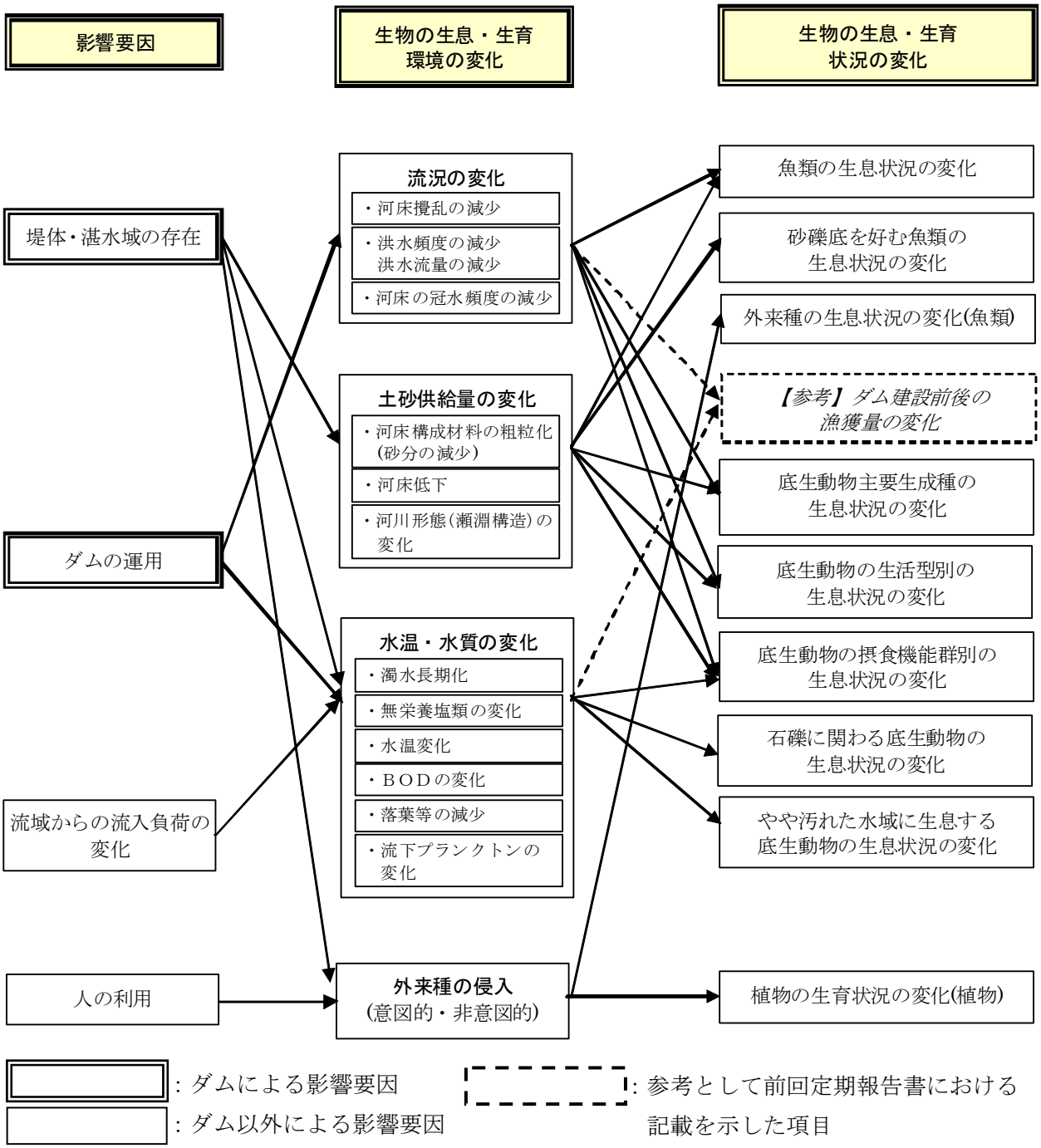


図 6.4-43　天ヶ瀬ダム下流河川で想定される環境への影響要因と生物に与える影響

※ダム建設前後の漁獲量の変化については、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

(1)環境条件の変化の把握

1)流量の変化

昭和 40 年(1965 年)～平成 21 年(2009 年)の下流河川(天ヶ瀬ダム放流量)の流況を表 6.4-12及び図 6.4-44に示す。天ヶ瀬ダムの流入量と放流量を図 6.4-45に示す。

天ヶ瀬ダムにおいては、流入量と放流量はほぼ同程度となっている。

表 6.4-12　下流河川(天ヶ瀬ダム放流量)の流況

年	最大流量 (m^3/s)	豊水流量 (m^3/s)	平水流量 (m^3/s)	低水流量 (m^3/s)	渇水流量 (m^3/s)	最小流量 (m^3/s)	年平均流量 (m^3/s)	年総流出量 ($\times 10^6 m^3$)
昭和40年	681.16	99.57	61.65	30.30	8.25	4.34	126.75	3,997
昭和41年	590.09	140.56	59.65	37.96	12.39	10.99	112.44	3,546
昭和42年	695.14	147.91	76.49	8.97	2.05	0.61	101.00	3,185
昭和43年	530.21	129.15	69.64	43.63	7.65	2.64	97.06	3,069
昭和44年	758.94	100.79	61.14	26.23	4.23	1.09	96.60	3,046
昭和45年	686.25	141.87	50.59	31.70	4.23	4.18	105.95	3,341
昭和46年	676.19	178.60	76.30	54.50	40.30	36.30	145.17	4,578
昭和47年	840.30	110.30	70.30	53.30	30.30	28.30	131.99	4,174
昭和48年	367.30	135.30	52.30	10.30	5.30	3.30	82.46	2,600
昭和49年	653.12	150.40	88.34	45.05	16.30	15.30	131.95	4,161
昭和50年	595.34	143.05	114.97	72.05	43.30	19.93	123.78	3,904
昭和51年	756.80	116.09	90.84	61.34	38.18	32.55	130.26	4,119
昭和52年	394.51	91.18	50.59	15.72	6.47	4.76	70.79	2,233
昭和53年	300.96	44.97	25.47	6.80	2.30	1.10	35.59	1,122
昭和54年	502.80	53.63	34.97	18.34	3.30	3.01	61.11	1,927
昭和55年	587.42	152.80	87.05	69.97	35.34	27.34	135.49	4,284
昭和56年	538.51	123.18	78.98	38.51	30.05	26.26	101.53	3,202
昭和57年	776.31	94.65	67.06	44.43	26.24	20.14	102.06	3,219
昭和58年	562.62	114.51	65.60	43.41	29.87	24.81	100.30	3,163
昭和59年	363.61	128.33	55.00	23.01	3.29	2.97	80.54	2,547
昭和60年	761.96	90.24	35.76	16.13	3.53	2.95	101.05	3,187
昭和61年	758.70	99.88	35.53	12.33	4.24	4.11	97.84	3,086
昭和62年	335.58	47.34	33.67	17.45	5.45	5.42	39.89	1,258
昭和63年	739.68	91.93	57.32	33.69	13.22	11.29	113.66	3,594
平成元年	785.64	123.06	94.54	43.81	30.41	26.11	123.64	3,899
平成2年	668.12	109.00	78.45	54.06	33.03	28.69	97.64	3,079
平成3年	360.65	158.54	104.82	57.08	42.17	39.59	123.00	3,879
平成4年	359.54	93.18	45.46	26.20	19.28	15.04	78.03	2,468
平成5年	832.12	116.68	55.91	27.77	17.28	15.24	137.81	4,346
平成6年	173.24	62.26	36.83	20.72	5.10	4.99	47.62	1,502
平成7年	886.68	67.71	30.58	19.88	9.64	5.34	108.37	3,417
平成8年	638.83	67.05	30.82	20.75	10.56	5.46	63.47	2,007
平成9年	741.27	107.23	53.96	32.33	18.35	15.80	111.03	3,501
平成10年	720.77	167.57	60.59	34.94	20.27	17.33	129.50	4,084
平成11年	731.97	80.95	46.78	35.03	19.25	17.90	96.63	3,047
平成12年	326.95	91.02	53.54	40.27	21.48	17.08	74.94	2,370
平成13年	361.00	105.35	61.70	53.12	42.58	6.79	91.49	2,885
平成14年	604.23	54.69	40.63	14.27	6.78	5.05	49.25	1,553
平成15年	717.43	113.12	39.56	21.44	9.26	0.55	104.11	3,283
平成16年	750.83	107.49	52.40	31.95	18.76	0.78	104.97	3,319
平成17年	651.01	103.44	30.38	22.24	16.34	0.86	67.35	2,124
平成18年	840.43	135.00	37.98	22.55	16.55	0.80	111.74	3,524
平成19年	791.35	34.85	22.23	18.67	15.62	11.52	63.47	2,002
平成20年	360.42	102.99	29.97	21.10	16.61	9.13	74.53	2,357
平成21年	360.42	75.00	27.87	19.68	15.77	8.66	64.37	2,030
平均値	576.41	92.30	39.63	26.53	17.98	6.12	80.62	2,545

出典：6-39

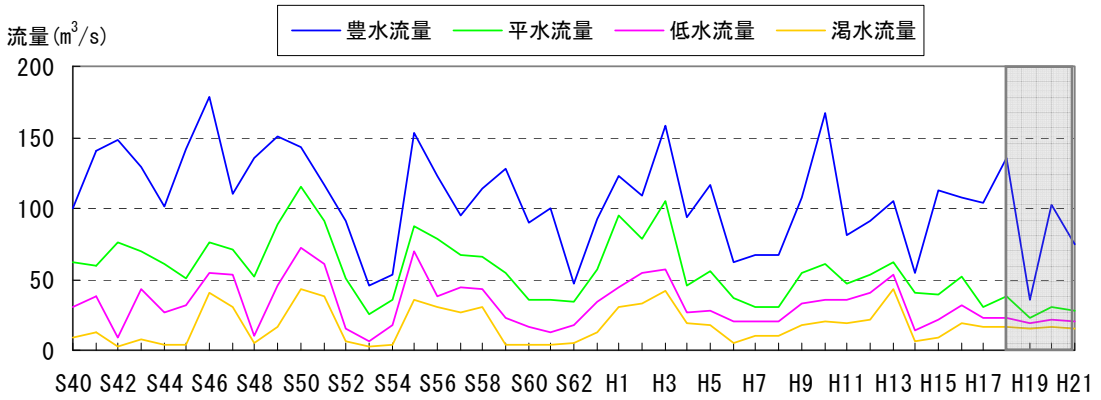


図 6.4-44　下流河川(天ヶ瀬ダム放流量)の流況

出典：6-39

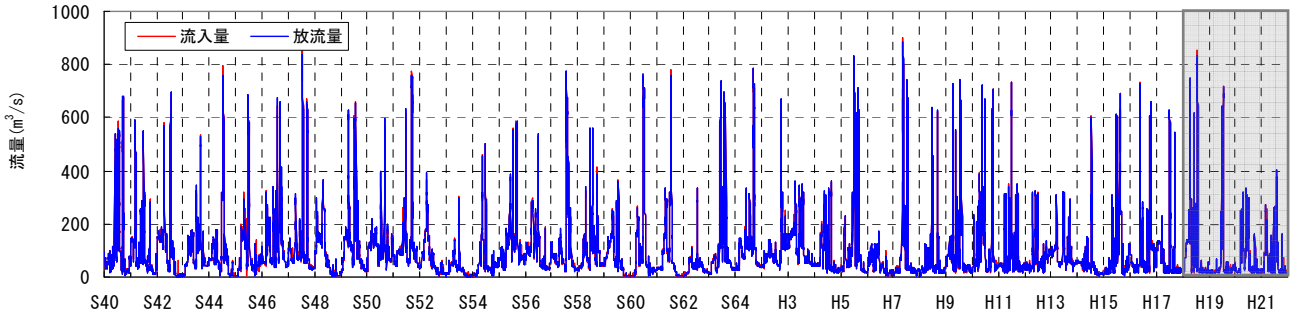


図 6.4-45　天ヶ瀬ダム流入量と放流量(日平均値)

出典：6-39

2)水温・水質の変化

平成 12 年(2000 年)～平成 21 年(2009 年)の天ヶ瀬ダム下流河川の水質の変化を図 6.4-33に示す。

ＢＯＤ及びクロロフィルａは減少傾向にあったが、平成 6 年以降は横ばいとなっており、他の項目についても、ほぼ横ばいとなっている。

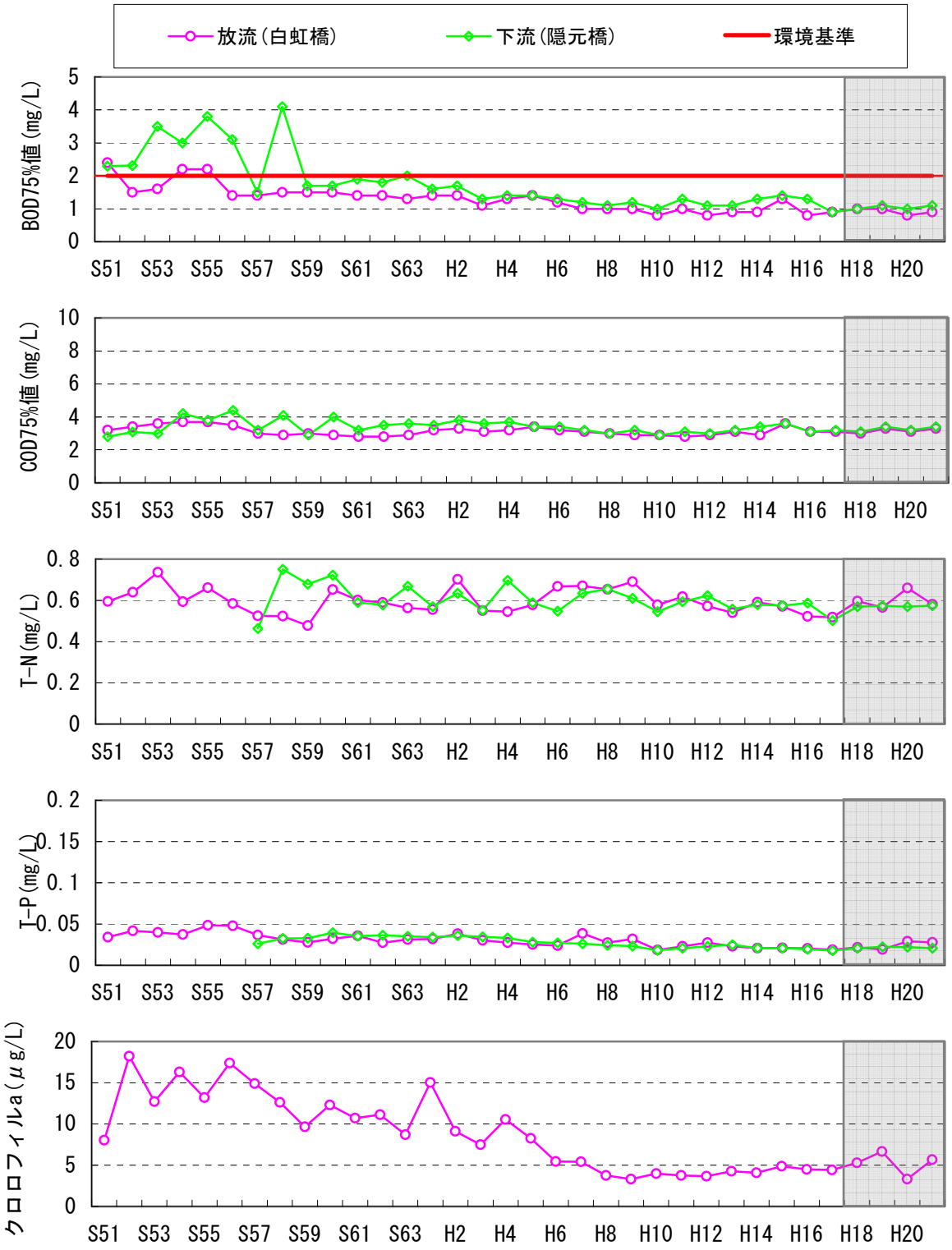
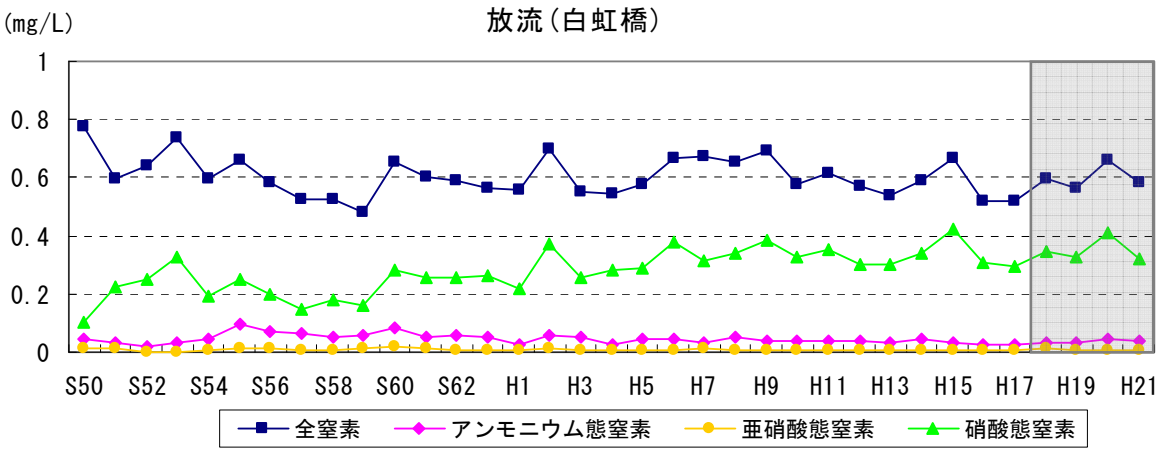


図 6.4-46(1)　天ヶ瀬ダム下流河川の水質経年変化



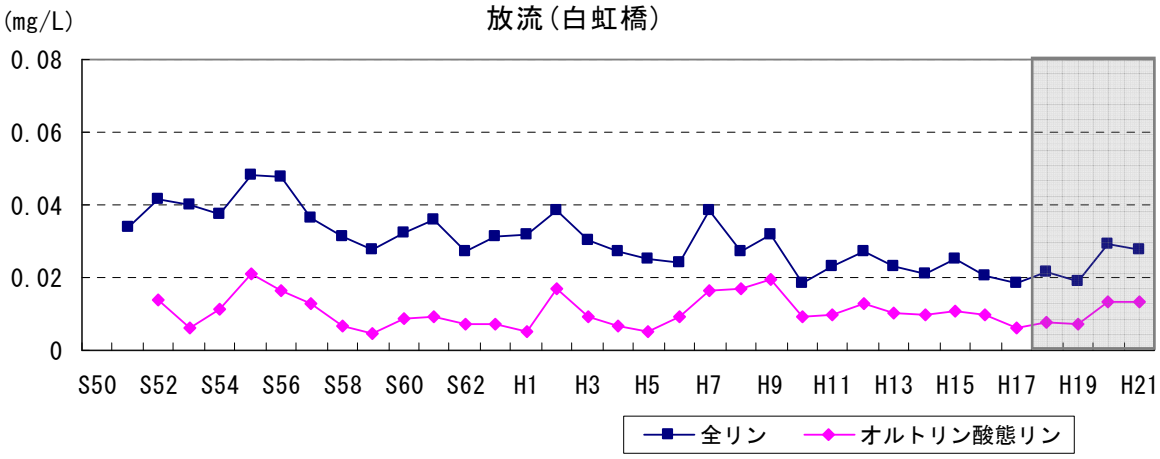


図 6.4-46(2)　下流河川における窒素・リンの形態別年平均値の経年変化

出典：6-40

天ヶ瀬ダム貯水池における水温の変化の状況を把握するために、下流河川の隠元橋における定期採水時の水温データを用いて、鹿跳橋(流入水温)及び白虹橋(放流水温)と水温を比較した。その結果、流入水温(鹿跳橋)と放流水温(白虹橋)を比較すると、5～8 月に放流水温が低い傾向がみられる。この原因としては、水温躍層の形成により、貯水池内(発電取水口(敷高 EL55m)付近)の水温が低いことが原因と考えられる。しかし、宇治発電所放流量が加わった後の下流河川(隠元橋)では、流入河川(鹿跳橋)とほぼ同程度以上の水温となっており、放流水温の影響は小さいと考えられる(図 6.4-47)。

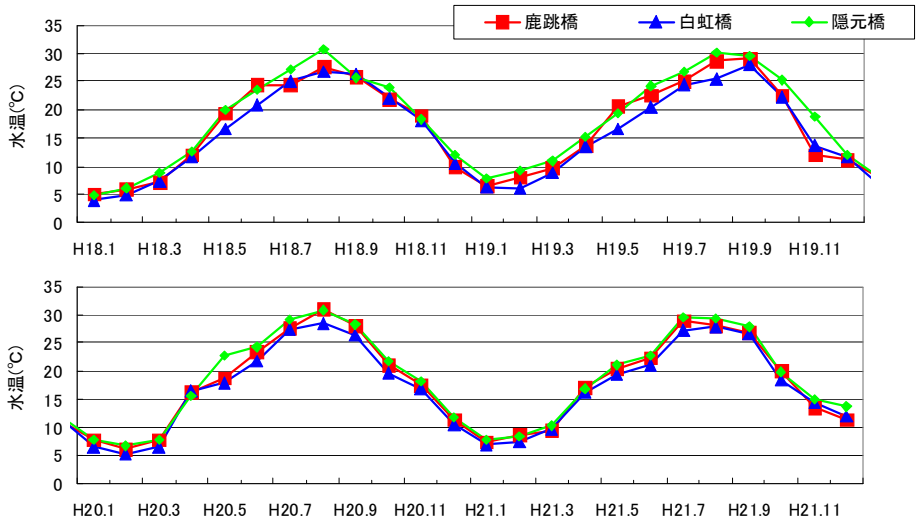


図6.4-47　流入水温と放流水温の経月変化(H18～H21)

出典：6-40

3)土砂供給量の減少

昭和 50 年代前半までは、各年の堆砂量に大きな変動があったが、昭和 50 年代後半からは大きな変動は見られなくなった(図 6.4-48)。特に、平成元年当たりから各年の堆砂量が少なくなっている。これは、山腹工や砂防堰堤の設置などの瀬田川水系砂防事業の進捗により、流出土砂が減少している効果が影響していると考えられる。

ダム建設から約 45 年経過した平成 21 年度の総堆砂量は 419 万 m³ で、45 年間の年平均堆砂量は約 92 千 m³、最近 10 ヶ年の年平均堆砂量は 6 千 m³ となっている。貯水池にこれだけの土砂が堆積することで、下流河川への土砂供給量が減少しているものと考えられ、下流河川における河床低下、粒径分布の変化などの影響を与えている可能性がある。なお、『淀川水系総合土砂管理検討委員会』において、「下流河川環境への影響を調査した上で下流への土砂供給を実施するなど、その障害を軽減するための方策」について検討がなされている。

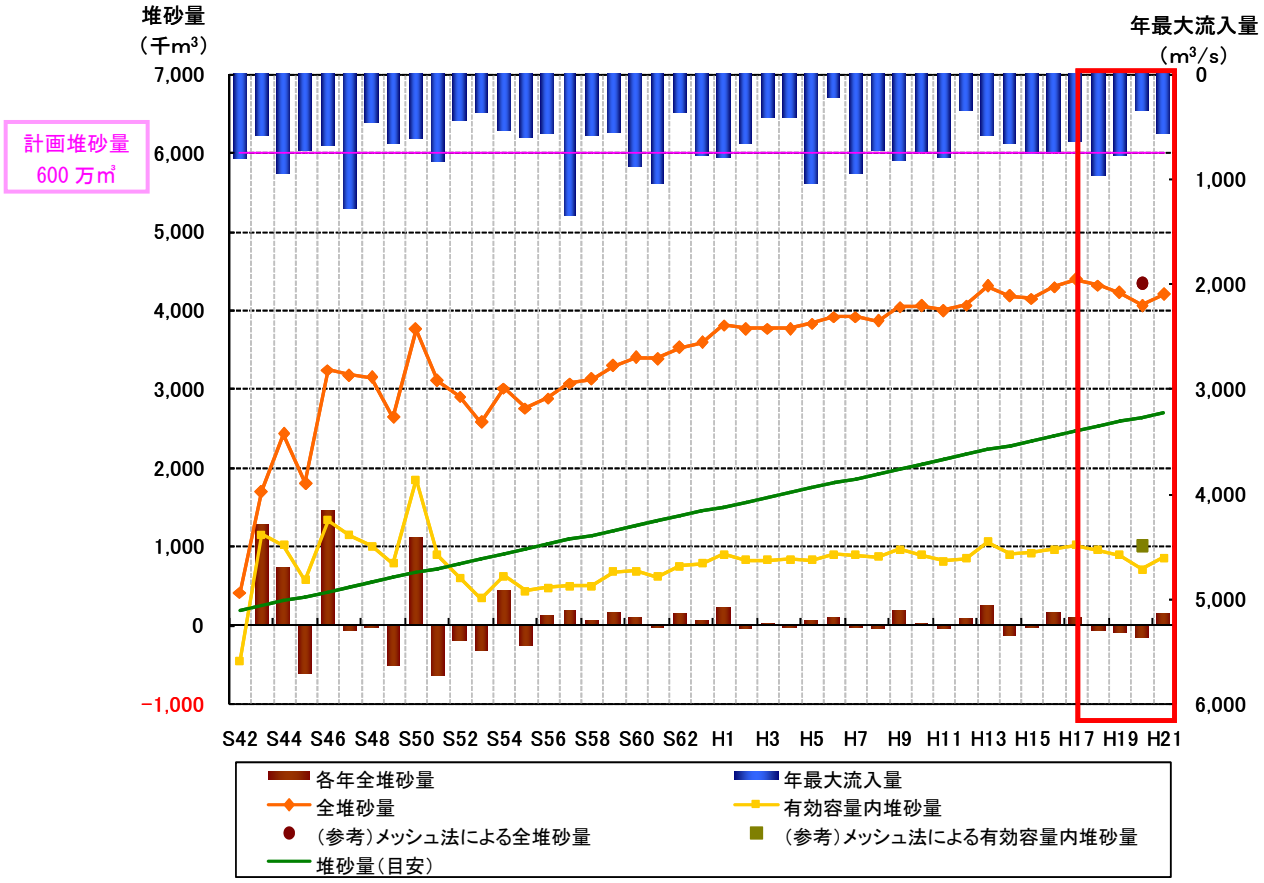


図 6.4-48　天ヶ瀬ダム堆砂量の推移

出典：6-41

下流河川における河床構成材料に関して、隠元橋に近い距離標 48.0km 地点中央の河床構成材料について、昭和 39 年及び 40 年の粒径加積曲線を図 6.4-49に、平成 15 年の粒径加積曲線を図 6.4-50(図中紫線＊)に示す。

天ヶ瀬ダムの完成が昭和 39 年度であるため、昭和 39 年及び 40 年の河床構成材料は、平成 15 年に比べ、天ヶ瀬ダムによる土砂供給の減少の影響は強く受けていないものと考えられる。

ダムによって下流河川への土砂の供給が減少した場合、下流河川における土砂の細粒分が減少すると考えられる。粒径 10mm の通過質量百分率をみると、昭和 39 年に約 70%、昭和 40 年に約 65%であったものが、平成 15 年には約 40%となっている。

このように 10mm 以下の土砂の割合がダム完成当時より減少していることから、ダム下流において粗粒化が生じている可能性がある。

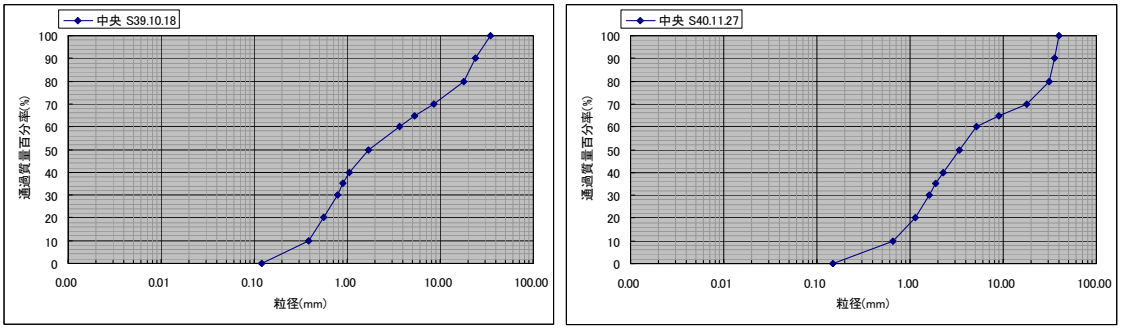


図 6.4-49　河床材料の粒度分析結果宇治川 48km 地点中央(左 S39、右 S40)

※前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

出典：6-44～6-45

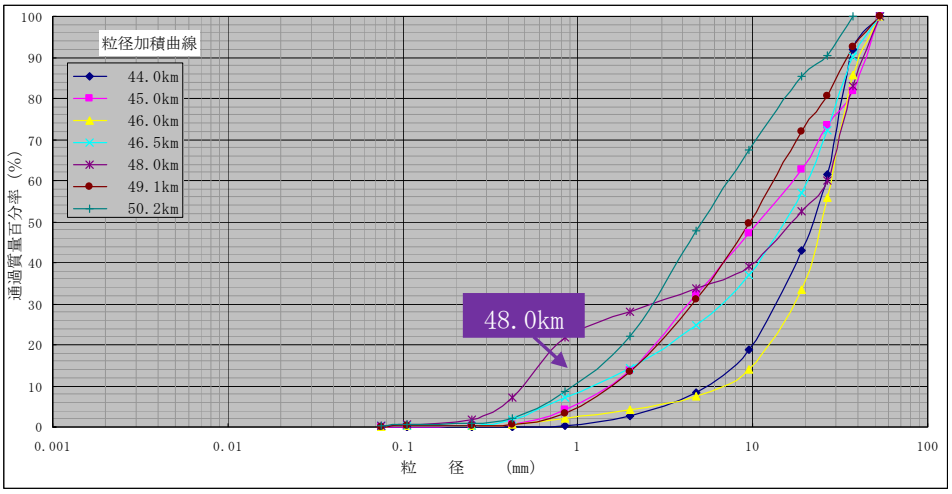


図 6.4-50　河床材料の粒度分析結果(H15：宇治川 44.0～50.2km)

※前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

出典：6-46

平成 21 年(2009 年)度に天ヶ瀬ダムの流入河川及び下流河川において、河床材料調査(面積格子法)が実施された。このうち早瀬における河床材の平均粒径を図 6.4-51に示す。

下流河川では、天ヶ瀬ダムに近いほど、平均粒径が大きい。一方、中州が見られる 50.0K 付近より下流側では粒径が小さく、ダム直下に比べて小さな粒径の土砂が堆積している。ダム直下で平均粒径が大きい原因として、ダムによる土砂供給の遮断、出水時における流量の変化(ピーク流量の低減)等の影響が考えられる。

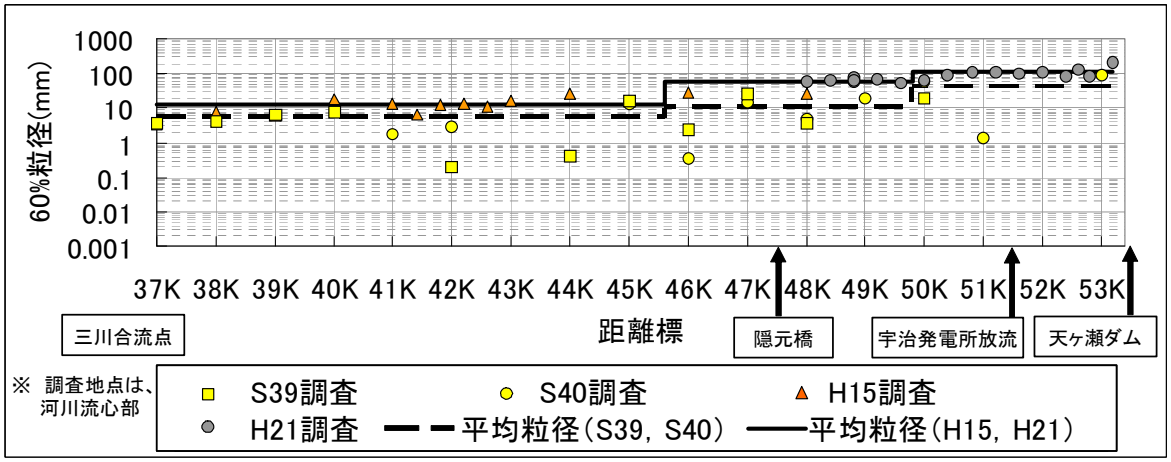


図 6.4-51　代表粒径（60%粒径）の縦断図

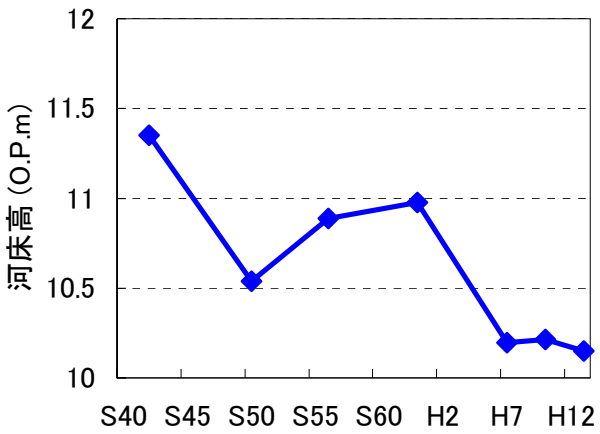
出典：6-44、6-45、6-46、6-49

隠元橋及び白虹橋における概略の河床高変動を図 6.4-52に示す。

隠元橋における河床は、昭和 42 年(1967 年)から昭和 50 年(1975 年)の間に約 0.8m 低下し、その後上昇したが、平成元年(1989 年)から平成 7 年(1995 年)の間に再び約 0.8m 低下し、その後、大きな変化はみられていない。

また、白虹橋における河床は、昭和 50 年(1975 年)から平成元年(1989 年)にかけては大きな変化はみられなかったが、平成元年(1989 年)から平成 7 年(1995 年)の間に約 0.2m 低下した。

＜隠元橋＞



＜白虹橋＞

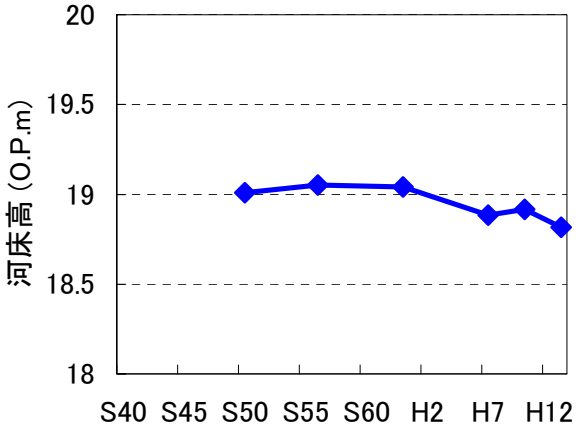


図 6.4-52　隠元橋及び白虹橋における河床高経年変化

※前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

出典：6-47

(2)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)魚類の生息状況の変化

天ヶ瀬ダムにおける河川水辺の国勢調査においては、下流河川における魚類調査が継続的に実施されていないため、淀川における河川水辺の国勢調査の隠元橋(ダムサイトから約 5km 下流の地点)での調査結果を主に整理し、平成 19 年度調査より天ヶ瀬ダムにおける河川水辺の国勢調査にて実施されている調査点（ダムサイト下流約 700m地点）の結果もあわせて整理した。

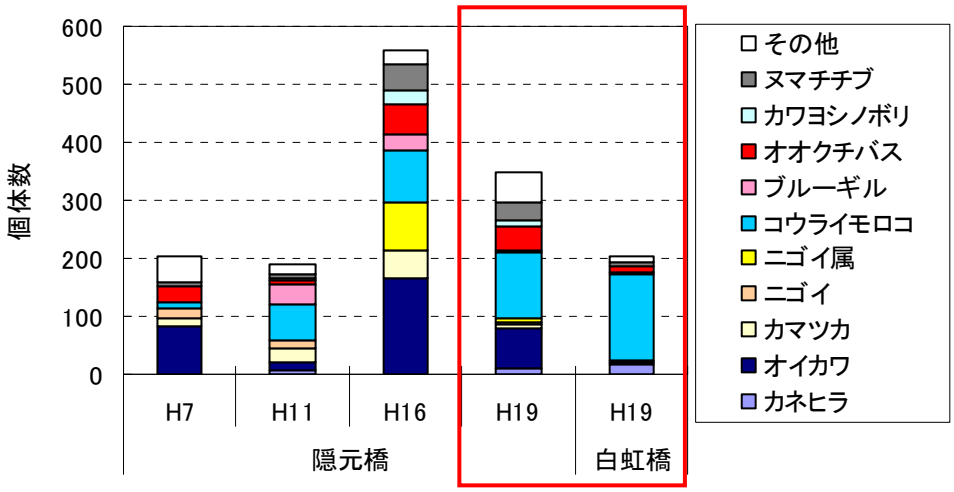
a. ダム下流河川における魚類の生息状況

ダムの建設・運用により流況や水質、土砂供給量等が変化し、そこに生息する魚類の状況が変化している可能性もあることから、ダムより約 5km 下流の隠元橋とダム直下における魚類の確認個体数の変化を整理した結果を図 6.4-53に示す。

隠元橋では、オイカワ、カマツカ、コウライモロコ、ヌマチチブ等の砂礫もしくは礫を好む魚類が多く確認されている。また、平成 16 年度以降、オオクチバスが増加する傾向にある。

ダム直下では平成 19 年度しか調査が実施されていないため、変化の状況は不明であるが、平成 19 年度はコウライモロコが多く確認されている。

以上のことから、天ヶ瀬ダム下流河川においては、砂礫環境が維持され、外来種のオオクチバス等がダム湖から流下あるいは放流された可能性がある。



※ 各地点、各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

図 6.4-53 天ヶ瀬ダム下流河川における魚類の確認個体数の推移

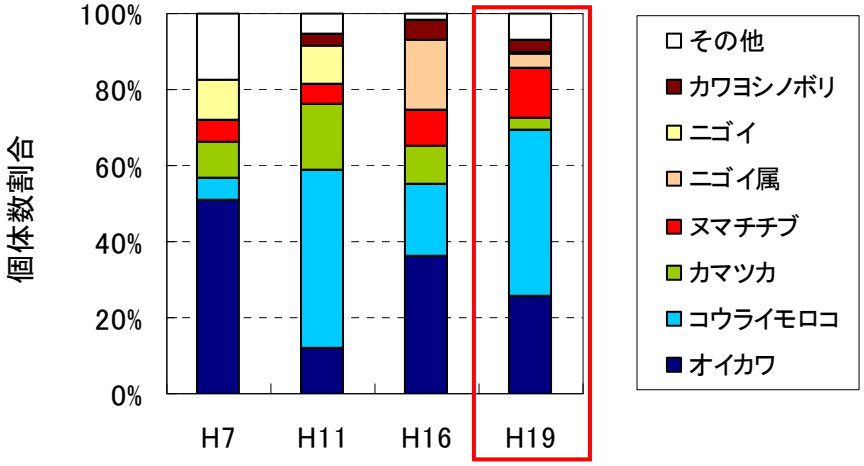
出典：6-2～6-5、6-21～6-25

b. **砂礫もしくは礫を好む魚類の生息状況の変化**

流況や土砂供給量が変化することにより、河床の砂礫環境が変化し、そこに生息する魚類の状況が変化している可能性もあることから、砂礫環境を好んで生息する魚類に注目して検討した。ダム下流の隠元橋付近の平成 7、11、16、19 年度調査結果を整理し、図 6.4-54に示す。

砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、コウライモロコ、カマツカ、ニゴイ等が確認されており、特にオイカワ及びコウライモロコは、毎回多くの個体が確認されている。

隠元橋における河床は平成元年(1989 年)から平成 7 年(1995 年)の間に約 0.8m 低下するとともに(図 6.4-52)、ダム建設当時と比較すると粗粒化していると考えられるが(図 6.4-51)、砂礫底を好む魚類の生息状況に大きな変化はないと考えられる。



※　各年度の調査は、春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

図 6.4-54　下流河川(隠元橋付近)で確認された砂礫もしくは礫を好む魚類の確認状況

出典：6-21～6-25

c. **外来種の生息状況の変化**

ダム下流においては、ダム湖に生息する外来種が流下する可能性もあることから、下流河川の隠元橋及びダム直下(平成 19 年度のみ)における外来魚の生息状況について整理した(図 6.4-55)。

その結果、隠元橋でタイリクバラタナゴは平成 7 年度に 4 個体、平成 16 年度に 5 個体確認、オオクチバスは 4 回の調査全てで確認され、特に平成 16 年度は 52 個体、平成 19 年度は 41 個体と多く確認されている。また、ブルーギルも平成 11 年度に 36 個体、平成 16 年度に 28 個体と比較的多くの個体が確認されている。ダム直下では平成 19 年度にオオクチバスが 11 個体、ブルーギルが 2 個体確認されている。

前回定期報告書で示されているように、オオクチバス及びブルーギルとも過去の体長組成調査結果(図 6.4-56)において、比較的小さな個体から大きな個体まで確認されていることから、隠元橋付近に定着し、繁殖している可能性もある。ただし、本来、止水域～緩流域を好む魚類であり、特にオオクチバスとブルーギルはダム湖内で多くの個体が確認されていることから(図 6.4-14)、ダム湖から流下してきたものであることも考えられる。

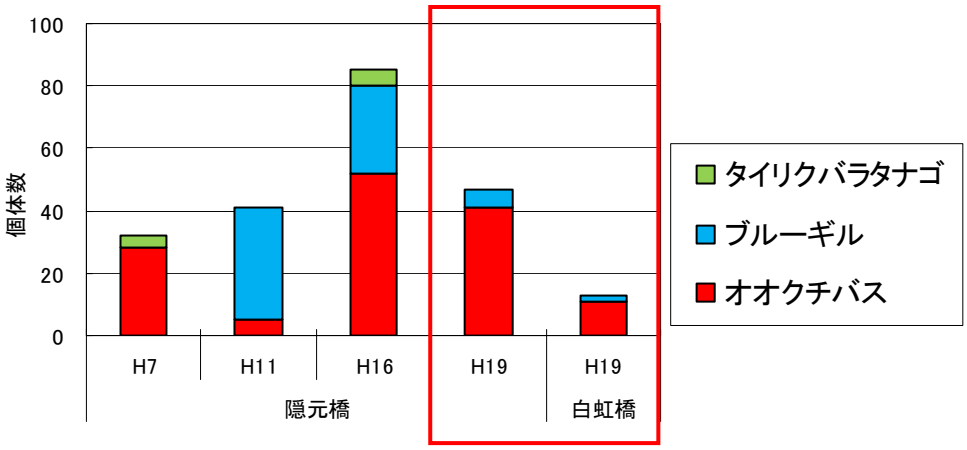
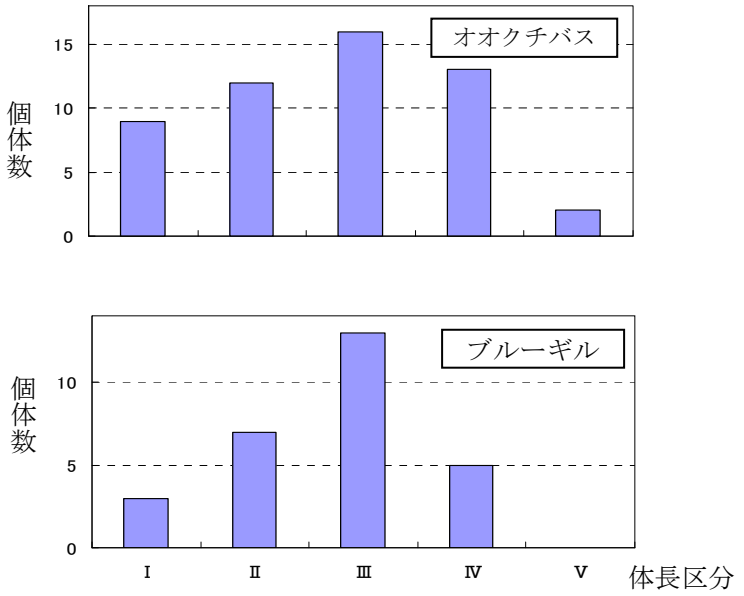


図 6.4-55　天ヶ瀬ダム下流河川における外来種の確認個体数の推移

※　各地点、各年度の調査は、それぞれ春、秋の調査結果の合計を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-4 参照)。

出典：6-5、6-22～6-25



体長区分	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
体長	～3cm	3～5cm	5～10cm	10～20cm	20cm～

図 6.4-56　オオクチバス及びブルーギルの体長組成(隠元橋)
(平成 16 年度調査：前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。)

出典：6-24

d. **天ヶ瀬ダム建設前後における漁獲量**

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、漁獲量の推定は実施していないため、前回定期報告書に記載した内容を以下に示す。

天ヶ瀬ダムの下流河川について、天ヶ瀬ダム建設前後におけるアユ、オイカワ、フナ類、コイの漁獲量を表 6.4-13に示す。天ヶ瀬ダム建設前の漁獲量は文献の記述から天ヶ瀬ダム建設前の昭和 32 年(1957 年)の値を用いた。アユについては、推定生息数、漁獲率等から漁獲量を推定し、その他の魚種については、文献内の推定漁獲量をそのまま使用した。また、天ヶ瀬ダム建設後の漁獲量は近年の漁獲量データを用いた。

アユについては、宇治川漁協、京淀川漁協ともに建設前後で漁獲量に大きな違いはみられていない。また、その他の魚類については、宇治川漁協においては推定漁獲量よりも近年の実際の漁獲量が多くなった。また、京淀川漁協における近年の実際の漁獲量はオイカワ及びコイで推定漁獲量よりも少なく、フナ類では推定漁獲量よりも多くなった。

したがって、天ヶ瀬ダム下流河川において、昭和 32 年頃の放流状況は不明であるが、天ヶ瀬ダム建設によるアユ等の生息状況への影響はほとんどないと考えられる。

表 6.4-13(1)　天ヶ瀬ダム建設前後における推定漁獲量(アユ)

	単位	宇治川漁協	京淀川漁協
		宇治川(ダムサイト･隠元橋間)	宇治川(隠元橋から下)
昭和32年推定生息総数	尾	330,000	10,000
昭和32年推定漁獲量※1	t	5.4	0.2
平成16年漁獲量	t	5.2	0.2

※1：推定漁獲量は、推定生息総数に推定漁獲率(文献より、宇治川(ダムサイト下流)20%と設定)及び重量(6月解禁日当時と9月差しかえし時の平均値82.5g/尾と設定)を乗じて算出

出典：6-32、6-34

表 6.4-13(2)　天ヶ瀬ダム建設前後における推定漁獲量(オイカワ)

	単位	宇治川漁協	京淀川漁協
		宇治川(ダムサイト･隠元橋間)	宇治川(隠元橋から下)
昭和32年推定生息総数	尾	200,000	4,000,000
昭和32年推定漁獲量	t	0.3	6.0
近年漁獲量※1	t	6.0	3.6

※1：宇治川漁協は平成13年度、京淀川漁協は平成16年度の漁獲量

出典：6-32、6-34

表 6.4-13(3)　天ヶ瀬ダム建設前後における推定漁獲量(フナ類)

	単位	宇治川漁協	京淀川漁協
		宇治川(ダムサイト・隠元橋間)	宇治川(隠元橋から下)
昭和32年推定生息総数	尾	50,000	8,000,000
昭和32年推定漁獲量	t	0.7	10.0
近年漁獲量※1	t	2.5	23.0

※1：宇治川漁協は平成13年度、京淀川漁協は平成16年度の漁獲量

出典：6-32、6-34

表 6.4-13(4)　天ヶ瀬ダム建設前後における推定漁獲量(コイ)

	単位	宇治川漁協	京淀川漁協
		宇治川(ダムサイト・隠元橋間)	宇治川(隠元橋から下)
昭和32年推定生息総数	尾	40,000	2,000,000
昭和32年推定漁獲量	t	0.7	1400.0
近年漁獲量※1	t	4.8	30.0

※1：宇治川漁協は平成13年度、京淀川漁協は平成16年度の漁獲量

出典：6-32、6-34

2)底生動物の生息状況の変化

a. 主要構成種の流入河川との比較

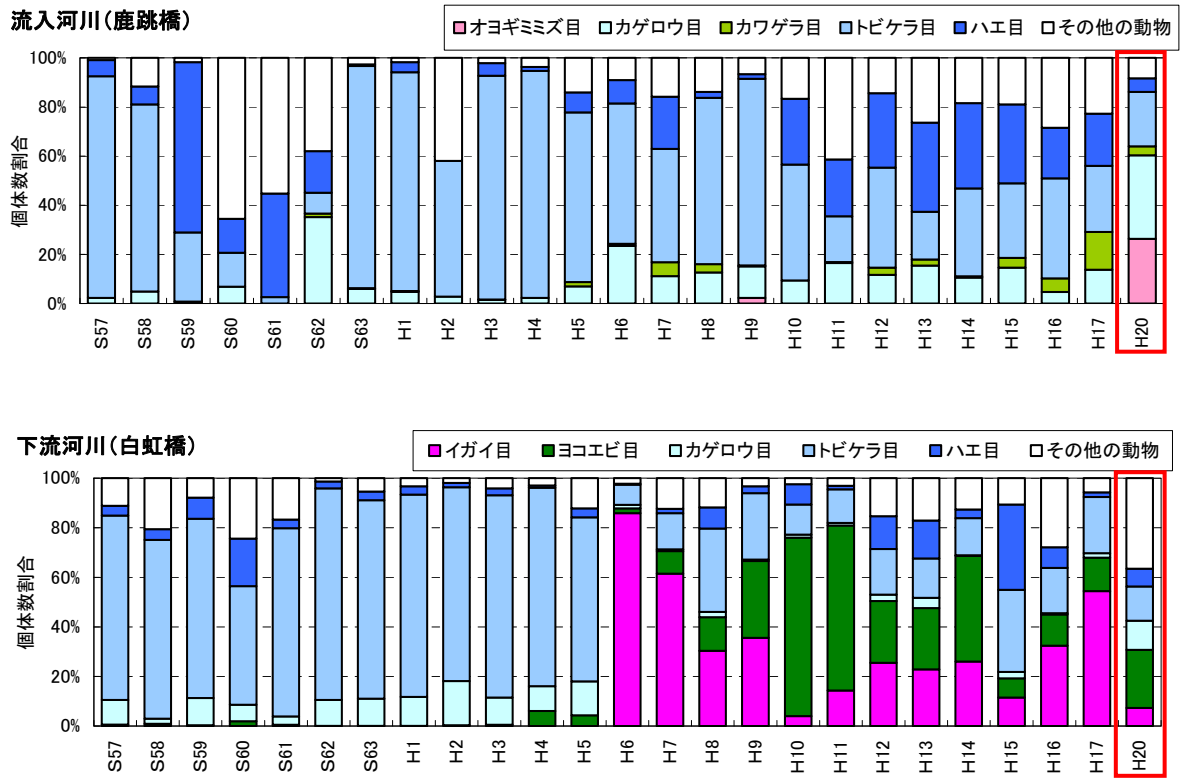
ダム下流においては、土砂供給量の減少やダム運用に伴う流況の変化(流量の平滑化、出水頻度・ピーク流量の減少等)により河床の状況が変化したり、ダム湖に貯留された水が放流されることにより水質が変化したりする可能性があることから、そこに生息する底生動物の状況も変化している可能性がある。そこで、下流河川(白虹橋)における底生動物の目別の確認個体数を比較・整理し、流入河川(鹿跳橋)と比較した(図 6.4-57)。

平成 20 年(2008 年)度には、平成 17 年(2005 年)度と比較して、カワヒバリガイの確認割合が減少し、ヨコエビ目やその他の動物(オヨギミミズ目等)の確認割合が増加している。

経年的にみると、流入河川においては平成 17 年(2005 年)度までトビケラ目が多く確認されていた。下流河川では平成 5 年(1993 年)度までは流入河川と同様にトビケラ目が多く確認されているが、平成 6 年(1994 年)度以降はイガイ目(カワヒバリガイ)が、平成 10 年(1998 年)度以降はヨコエビ目が多く確認されるようになっており、生息環境の変化の可能性が考えられる。

平成 7 年(1995 年)度に行われたカワヒバリガイ調査の結果によれば、長径約 5cm 以下の礫にはほとんど付着せず、5cm 以上になると礫サイズに比例し付着数が増加している。ダムの影響等で河床が粗粒化した状態であった(粗粒化の状況は図 6.4-51参照。ただし、粗粒化自体はいつ頃から生じたか不明である)ところに、平成 6 年度頃カワヒバリガイが侵入し、大繁殖したものと考えられる。また、平成 10 年度頃からのヨコエビ目の増加の原因としては、カワヒバリガイの生息に伴い河床の礫が安定化し、ヨコエビ目の生息に適した環境となった可能性が考えられる。

以上のことから、ダムの影響により下流河川の河床材料の変化(粗粒化傾向)が生じ、そこに外来種のカワヒバリガイが侵入し、底生動物の生息状況が変化したことが考えられる。



※　各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57（1982）～H17（2005）までは年 6 回、H20（2008）は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-57　流入河川及び下流河川で確認された底生動物の推移

出典：6-6、6-30

また、平成 21 年(2009 年)度に、天ヶ瀬ダムの流入河川及び下流河川において、河床材料調査及び底生生物調査が実施された。その調査の結果から、流程別に整理した分類群別確認種数及び分類群別確認個体数を図 6.4-58及び図 6.4-59に示す。

流程別にみた分類群別の確認種数では、ダム上流では、カゲロウ目、カワゲラ目等の昆虫綱の種数が多く、甲殻綱、ヒル綱、マキガイ綱など昆虫綱以外の種が少ないという傾向がみられる。

一方、流程別にみた分類群別の確認個体数では、ダム上下流で大きく異なっており、特にダム直下から 50.8K 付近の区間ではニマイガイ綱(カワヒバリガイ)が多くみられる。

ダム直下から 50.8K 付近の区間は、それより下流に比べて粒径が大きく(図 6.4-60参照)、カワヒバリガイが付着しやすい環境となっているためと考えられる。

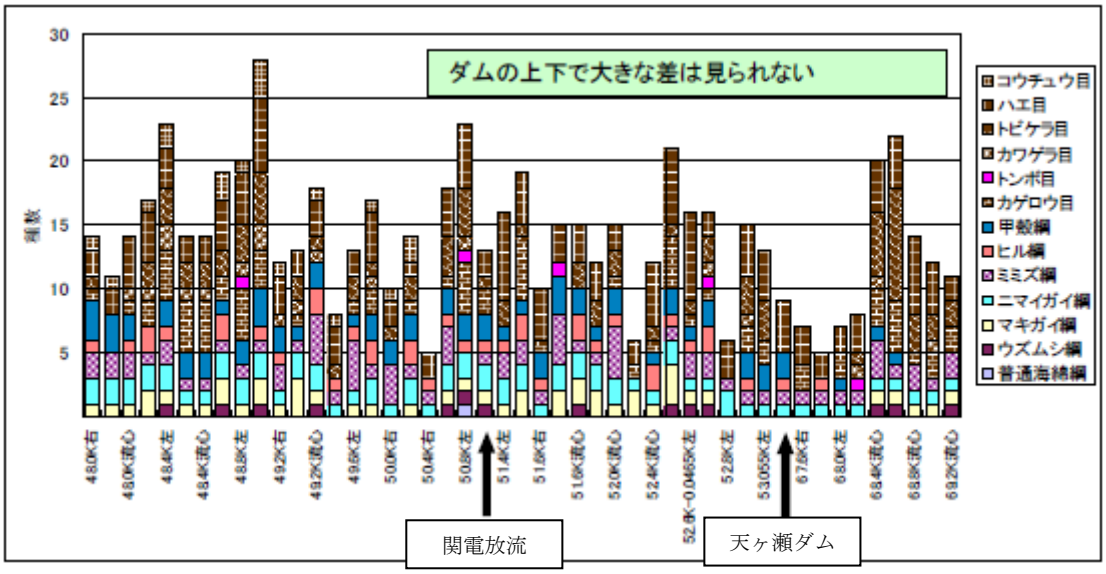


図 6.4-58　底生動物の流程別・分類群別確認種数

出典：6-38

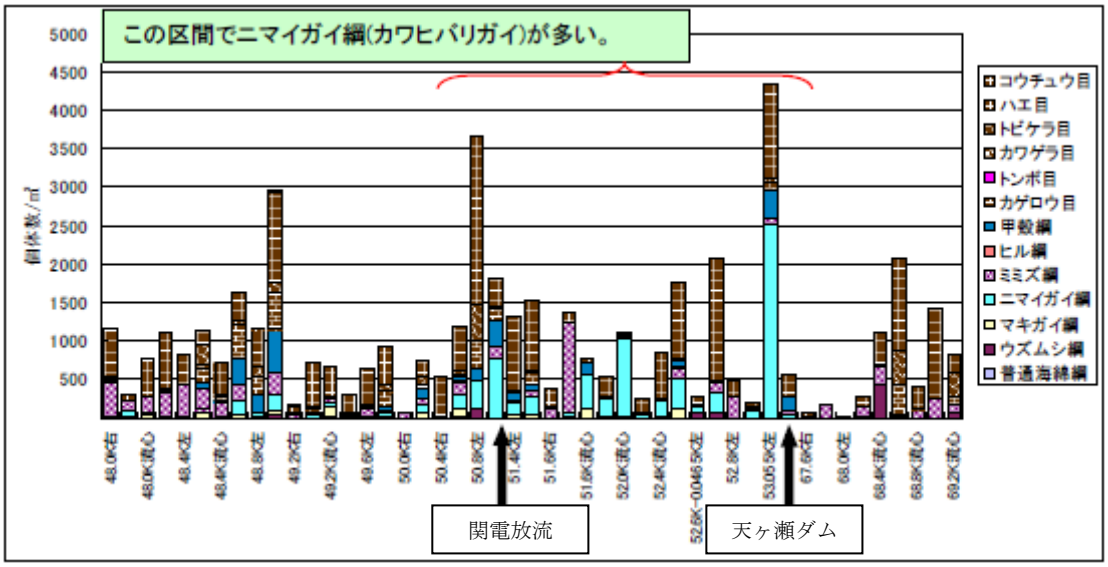


図 6.4-59　底生動物の流程別・分類群別確認個体数

出典：6-38

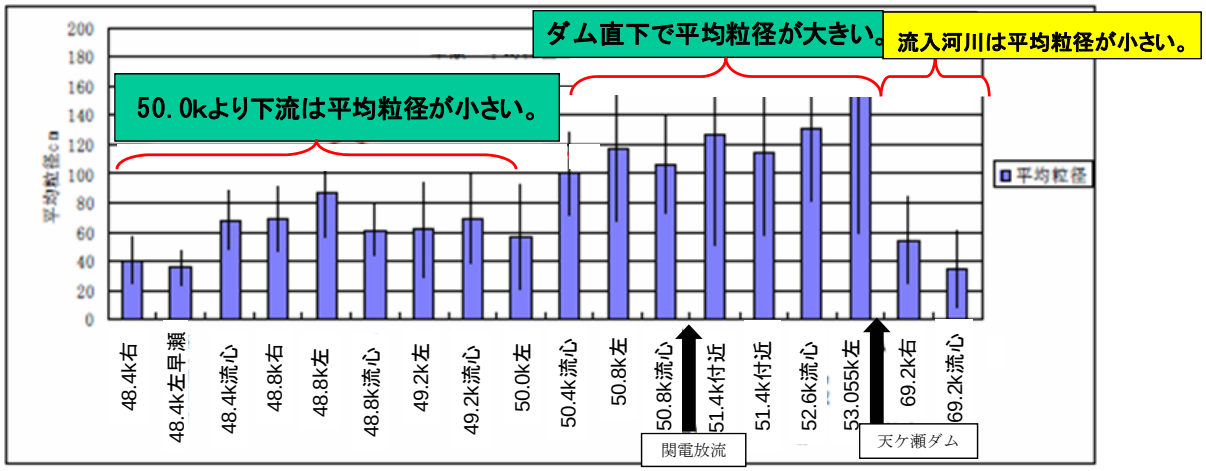


図 6.4-60　河床材の平均粒径(早瀬)

出典：6-38

b. **生活型・摂食機能群別の底生動物**

底生動物の生活型や採餌方法(摂食機能群)に着目し、白虹橋地点において確認された底生動物を既往知見(文献番号：6-57～60)に従って表 6.4-14に示す生活型、表 6.4-10に示す摂食機能群ごとに分類し、それぞれ図 6.4-61及び図 6.4-62に個体数割合の推移を示した。

平成 20 年(2008 年)度の調査では、蘚苔の個体数がやや増加しており、匍匐型の堆積物収集者の確認割合が高くなっている。

生活型についてみると、平成 5 年(1993 年)度までは、造網型の種が大きな割合を占めていたが、平成 6 年(1994 年)度にカワヒバリガイが増加し、固着型の割合が多くなった。平成 6 年度以降も固着型の種が確認されている。また、平成 10 年(1998 年)度以降は、ヨコエビ目が増加し、匍匐型の種の割合が増えている。

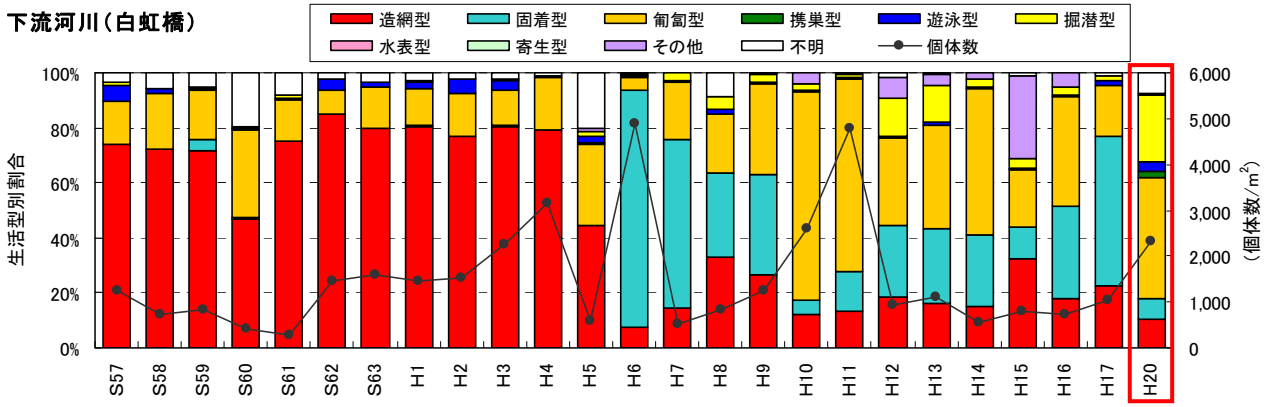
また、摂食機能群についてみると、経年的に濾過食者の割合が大きいが、平成 10 年(1998 年)度以降は堆積物収集者の割合が増加している。

経年的にみると、下流河川(白虹橋)においては、造網型の濾過食者が継続して多くの割合を占めていたが、平成 6 年度に固着型で濾過食者のカワヒバリガイが侵入、定着し、平成 10 年度以降は、匍匐型で石礫の間隙等で堆積物を摂食するヨコエビ目が増加している。

表 6.4-14　底生動物の生活型

生　活　型	概　　要
造　網　型	分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
固　着　型	強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着するもの
匍匐(ほふく)型	匍匐するもの
携　巣　型	筒巣をもつ多くのトビケラ目の幼虫
遊　泳　型	移動の際は主として遊泳するもの
掘　潜　型	砂または泥の中に潜っていることが多いもの
水　表　型	水表上で生活するもの
寄　生　型	主に寄生生活をするもの

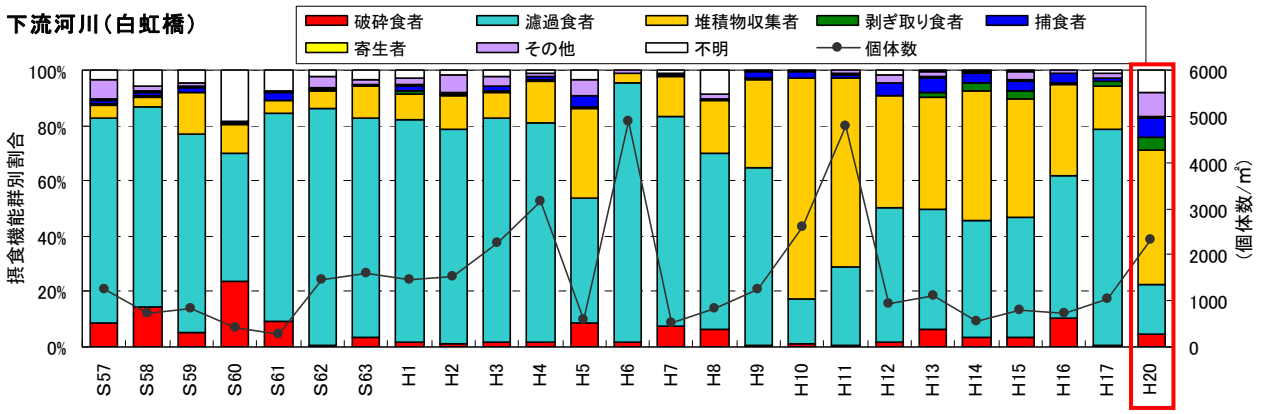
出典：6-57～6-60



※　各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57（1982）～H17（2005）までは年 6 回、H20（2008）は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-61生活型ごと個体数割合の推移

出典：6-6、6-30



※　各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57（1982）～H17（2005）までは年 6 回、H20（2008）は年 2 回の調査結果の平均を示している。

図 6.4-62摂食機能群ごと個体数割合の推移

出典：6-6、6-30

c. **石礫に関わる底生動物**

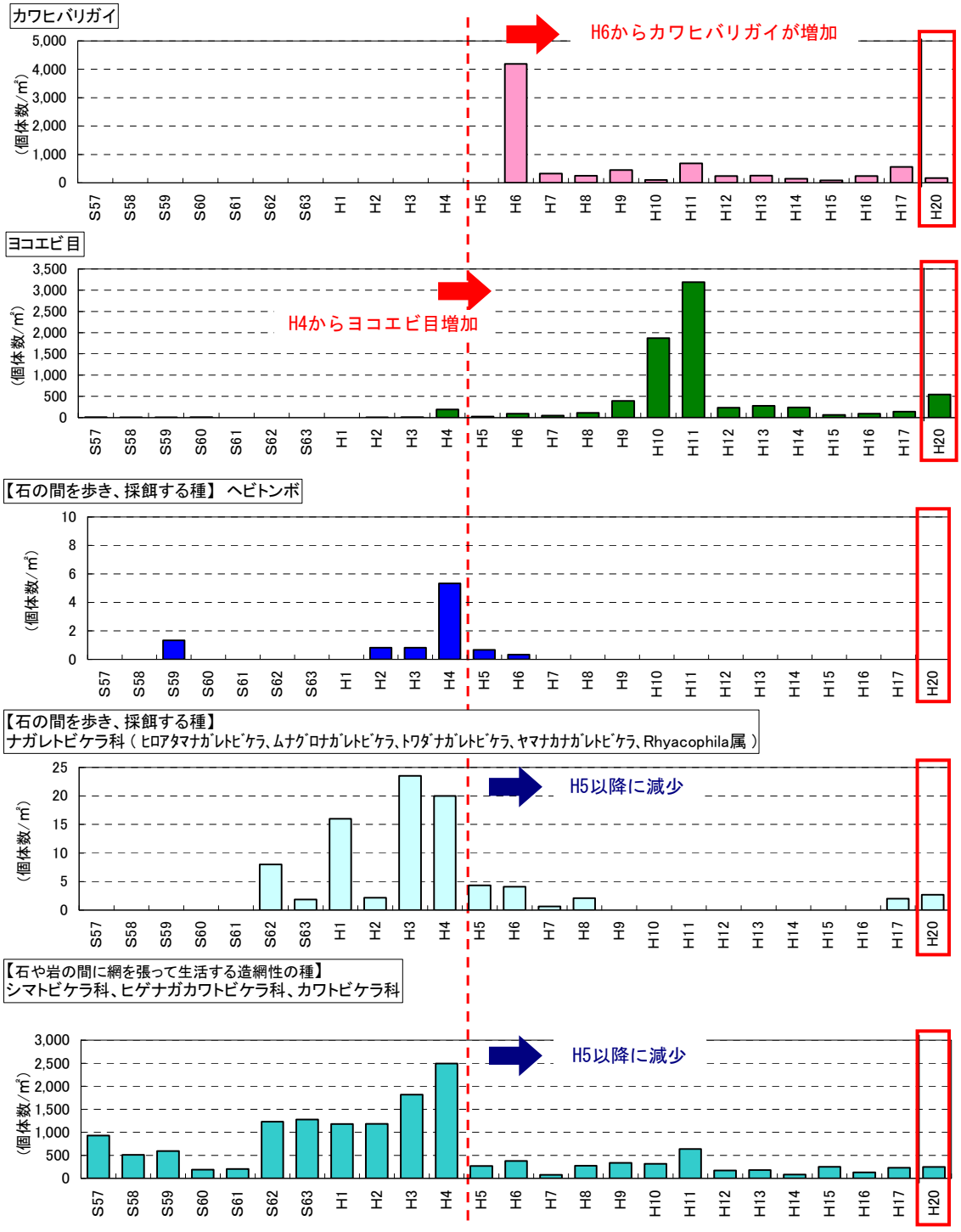
ダム下流においては、流況や土砂供給量が変化することにより、河床環境が変化し、そこに生息する底生動物の状況が変化している可能性もあることから、石礫に関わる底生動物として、「石の間を歩き、採餌する種」であるヘビトンボ及びナガレトビケラ科、「石や岩の間に網を張って生活する造網性の種」であるシマトビケラ科、ヒゲナガカワトビケラ科及びカワトビケラ科について整理を行った。また、河床間隙や石表面に付着・生息するカワヒバリガイやヨコエビ目の確認状況についても併せて整理を行った。下流河川(白虹橋)における石礫に関わる底生動物確認個体数の推移を図 6.4-63に示す。

平成 20 年(2008 年)度の調査においては、平成 17 年度と比較してヨコエビ目がの個体数がやや多くなっている。

経年的にみると、平成 4 年(1992 年)度までは、石や岩の間に網を張って生活するシマトビケラ科等の個体数が多く、石の間を歩き採餌するナガレトビケラ科やヘビトンボも生息していたが、平成 5 年(1994 年)度以降、個体数は減少している。また、平成 10 年(1998 年)度以降、ヨコエビ目が増加している。

以上のことから、下流河川(白虹橋)においては、河床材料が変化（粗粒化）し、カワヒバリガイの生息に適した環境になっていたところに、カワヒバリガイが侵入、定着し、それに伴い、石や岩の間に網を張って生活するシマトビケラ科等や、石の間を歩き採餌するナガレトビケラ科やヘビトンボの個体数が減少した可能性が考えられる。

また、カワヒバリガイの定着により、河床の石礫が安定したことにより、ヨコエビ目の生息に適した環境となった可能性が考えられる。



※　各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57（1982）～H17（2005）までは年 6 回、H20（2008）は年 2 回の調査結果の平均を示している。

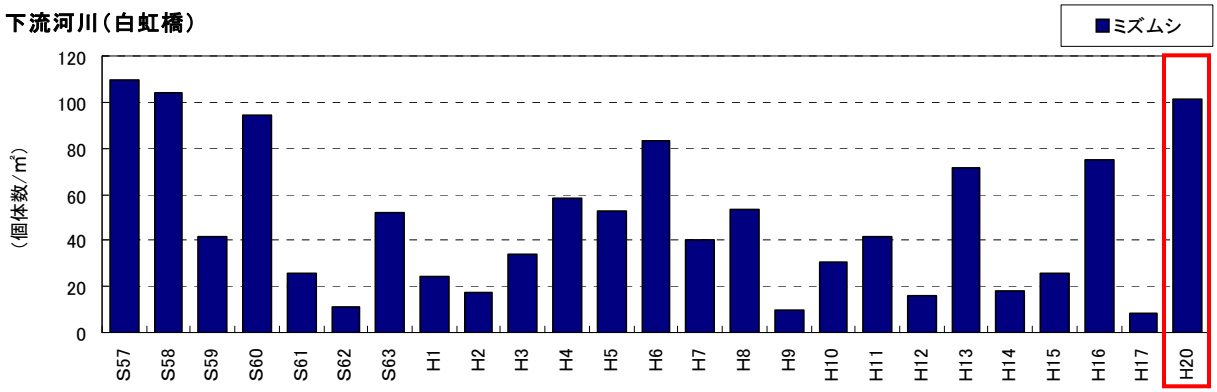
図 6.4-63　下流河川における石礫に関わる底生動物確認個体数の推移

出典：6-6、6-30

d. **やや汚れた水域に生息する底生動物**

ダム下流においては、流域やダム湖内の状況が変化することにより、水質や底質の状況等が変化し、そこに生息する底生動物の状況が変化している可能性もあることから、やや汚れた水域に生息するミズムシ(ワラジムシ目)の個体数の推移を図 6.4-64に整理した。図 6.4-46に示すように下流河川の水質(BOD)には改善傾向がみられているが、ミズムシの確認個体数は増減を繰り返しており一定の変化の傾向は認められない。平成 20 年(2008 年)度の調査では前回調査よりも多くのミズムシが確認されている。

したがって、やや汚れた水域に生息する底生動物(ミズムシ)がこのように変化した影響要因は不明である。



※ 各年度の調査は、平方枠(25cm 又は 50cm 四方)を用いて行ったもので、S57 (1982) ～H17 (2005)までは年 6 回、H20 (2008) は年 2 回の調査結果の平均を示している(調査努力量の詳細については、表 6.2-5 参照)。

図 6.4-64 下流河川(白虹橋)で確認されたミズムシ個体数の推移

出典：6-6、6-30

3)植物

前回定期報告書においては、下流河川で確認されている外来種である中国産のコマツナギが、ダム湖周辺の法面緑化に用いられた当該種に起因する可能性があることが示されており、平成21年度の調査においても、ダム直下でコマツナギ群落（トウコマツナギ植林）が確認されている。ただし、平成18年度以降は、ダム法面等の緑化にはコマツナギを使用しておらず、確認されたコマツナギ群落は、道路法面の緑化に使用されたものと考えられる。

前回定期報告書に示されているように、過去、ダム湖周辺の法面で実施した施工のほとんどは、コンクリートのみの施工となっているが、平成16年(2004年)と平成17年(2005年)の2か年については、コマツナギを含む混合配合の種子吹き付けが実施されている。使用されたコマツナギが在来のものかどうかの区別はされていないが、第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(植物)において、「コマツナギは中国産のものが同じコマツナギとして利用されているが、形態が大型で侵略的であるので、在来種と同種だが海外から持ち込まれるものが問題である」とされており、天ヶ瀬ダム下流においても同様な問題が生じている可能性がある。

ダム湖周辺の法面の工事で緑化に使用された種子

H16：ヨモギ、ススキ、メドハギ、イタドリ、ヤマハギ、**コマツナギ**

H17：トールフェスク、バミューダーグラス、メドハギ、ヤマハギ、**コマツナギ**

出典：6-43

(3)ダムによる影響の検証

下流河川の生物の変化に対するダムによる影響の検証結果を表 6.4-15、図 6.4-65に示す。

なお、ダム建設前後の漁獲量に関する検証結果は、参考として示している。

表 6.4-15(1)　下流河川の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	魚類相	オイカワ、コウライモロコ等の砂礫環境を好む種が継続して確認されている。 外来種であるオオクチバスが増加する傾向にある。	流況の変化 水質の変化 土砂供給量の変化 ダム湖からの流下	放流	ダム下流における魚類生息環境は大きく変化していないと考えられるが、外来種がダム湖から流下あるいは放流された可能性がある。	● ○
	魚類相(砂礫底を好む魚類)	隠元橋においては、オイカワ、コウライモロコ、カマツカ、ニゴイ等の砂礫や礫底に産卵する魚類の確認個体数が増加している。	土砂供給量の減少	放流	隠元橋においては河床低下・粗粒化が生じているが、砂礫底を好む魚類の生息状況に大きな変化はないと考えられる。	－
	魚類相(外来種)	オオクチバスやブルーギルが確認されている。	ダム湖からの流下	放流	隠元橋付近に定着またはダム湖から流下した可能性がある。	● ○
	底生動物相	下流河川(白虹橋)では、平成6年度から特定外来生物であるカワヒバリガイが確認されている。それに伴い、トビケラ目等の確認割合が減少している。また、平成 10 年度以降は、ヨコエビ目の確認割合が大きい。	土砂供給量の減少	外来種の侵入	ダムの影響で粗粒化した河床に、カワヒバリガイが侵入・定着した可能性がある。さらに、カワヒバリガイの生息により、底生動物の生息環境が変化した可能性がある。	● ○

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

表 6.4-15(2)　下流河川の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息・生育状況の変化	底生動物相(生活型・摂食機能群別)	生活型に着目すると、平成 5 年度までは造網型、平成 6 年度以降は固着型が多く、平成 10 年度以降には匍匐型も増えている。 摂食機能に着目すると、濾過食者が多く見られたが、平成 10 年以降には堆積物収集者が増加している。	土砂供給量の減少	外来種の侵入	ダムの影響により河床材料が粗粒化していたところに、固着型で濾過食者のカワヒバリガイが侵入、定着した。平成 10 年度以降の匍匐型で堆積物収集者のヨコエビ目の増加は、カワヒバリガイの生息による河床の安定化が原因である可能性がある。	● ○
	底生動物相(石礫に関わる種)	平成 6 年度にカワヒバリガイが出現して以来、ナガレトビケラやシマトビケラ科などの個体数が減少している。平成 10 年度以降はヨコエビ目が増加している。	土砂供給量の減少	外来種の侵入	「石や岩の間に網を張って生活する造網性の種」や「石礫の間隙を歩き採餌する種」の減少は、カワヒバリガイの侵入・定着によるものである可能性がある。	● ○
	底生動物相(やや汚れた水域に生息する種)	ミズムシの増減に一定の傾向はみられない。	水質の変化	－	ミズムシの個体数が増減した影響要因は不明である。	△
	植物相(外来種)	平成 18 年度以降は、ダム法面等の緑化には、コマツナギは使用されていない。平成 21 年度には、ダム直下において、外来種の中国産コマツナギが確認されている.	ダム湖周辺の法面で緑化に使用	ダム湖周辺以外の緑化に使用	平成 18 年度以降は、ダム法面等の緑化には、コマツナギは使用されていないため、今後はダムによる影響はないものと考えられる。 H16・17 年度には、天ヶ瀬ダム湖周辺の緑化工事でコマツナギが用いられているため、その影響が考えられる。ただし、ダム以外の緑化においても使用されており、平成 21 年度に確認された中国産のコマツナギは道路法面の緑化に使用されたものと考えられる。	● ○

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、漁獲量の推定は実施していないため、参考として、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	ダム建設前後の漁獲量(参考)	ダム下流河川におけるダム建設前後の漁獲量を比較すると、大きな変化はみられない。	流況の変化 水質の変化 土砂供給量の変化	放流	ダム建設によって、下流河川におけるアユ等の漁獲量には影響はほとんどないと考えられる。	－

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

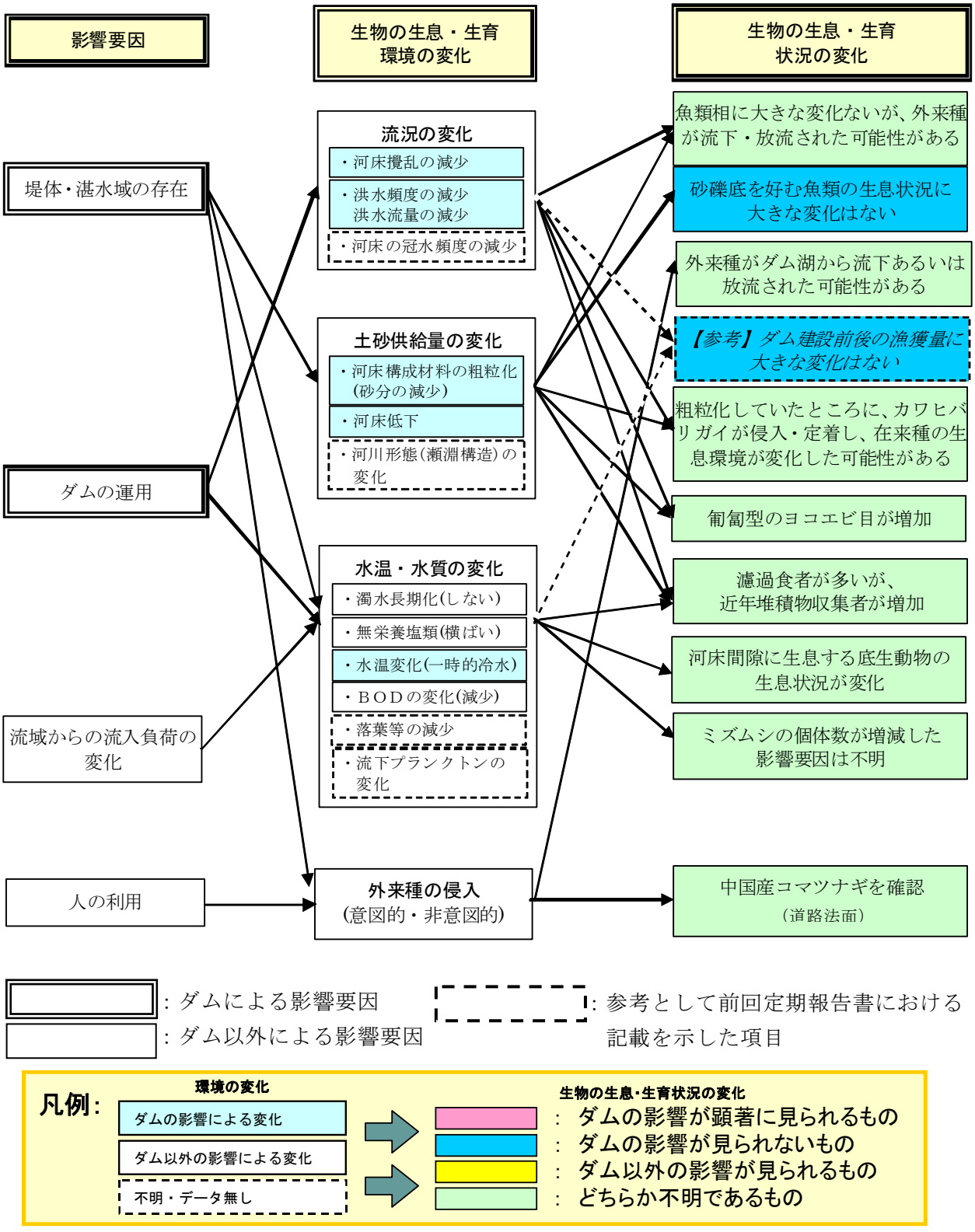


図 6.4-65　下流河川の生物の変化に対する影響の検証結果

※ダム建設前後の漁獲量については、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

6.4.4ダム湖周辺における変化の検証

ダム湖周辺において環境条件の変化が起こり、ダム湖周辺を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こす可能性がある。

そのためここでは、天ヶ瀬ダム湖周辺における環境条件の変化及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.4-66のように想定し、天ヶ瀬ダム湖周辺の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1)　環境条件の変化の把握

・(ダム堤体、付替道路、橋等の人工構造物の出現)
・(ダム湖及び水位変動域の出現)
・(ダム湖周辺における人の利用)

(2)　生物の生息・生育状況の変化の把握

・植物の生育状況(植生、草本層、外来種)の変化
・鳥類(鳥類相、猛禽類)の生息状況の変化
・両生類・爬虫類・哺乳類(両生類・爬虫類・哺乳類相、渓流で繁殖する両生類、外来種、ネズミ類)の生息状況の変化(両生類・爬虫類・哺乳類については平成 18～21 年度は調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した内容を参考として示す。)
・陸上昆虫類相(チョウ類、外来種)の変化(陸上昆虫類については平成 18～21 年度は調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した内容を参考として示す。)

(3)　ダムによる影響の検証

天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化やダム以外の要因等と照らし合わせて検討し、ダムによる影響を検証した。

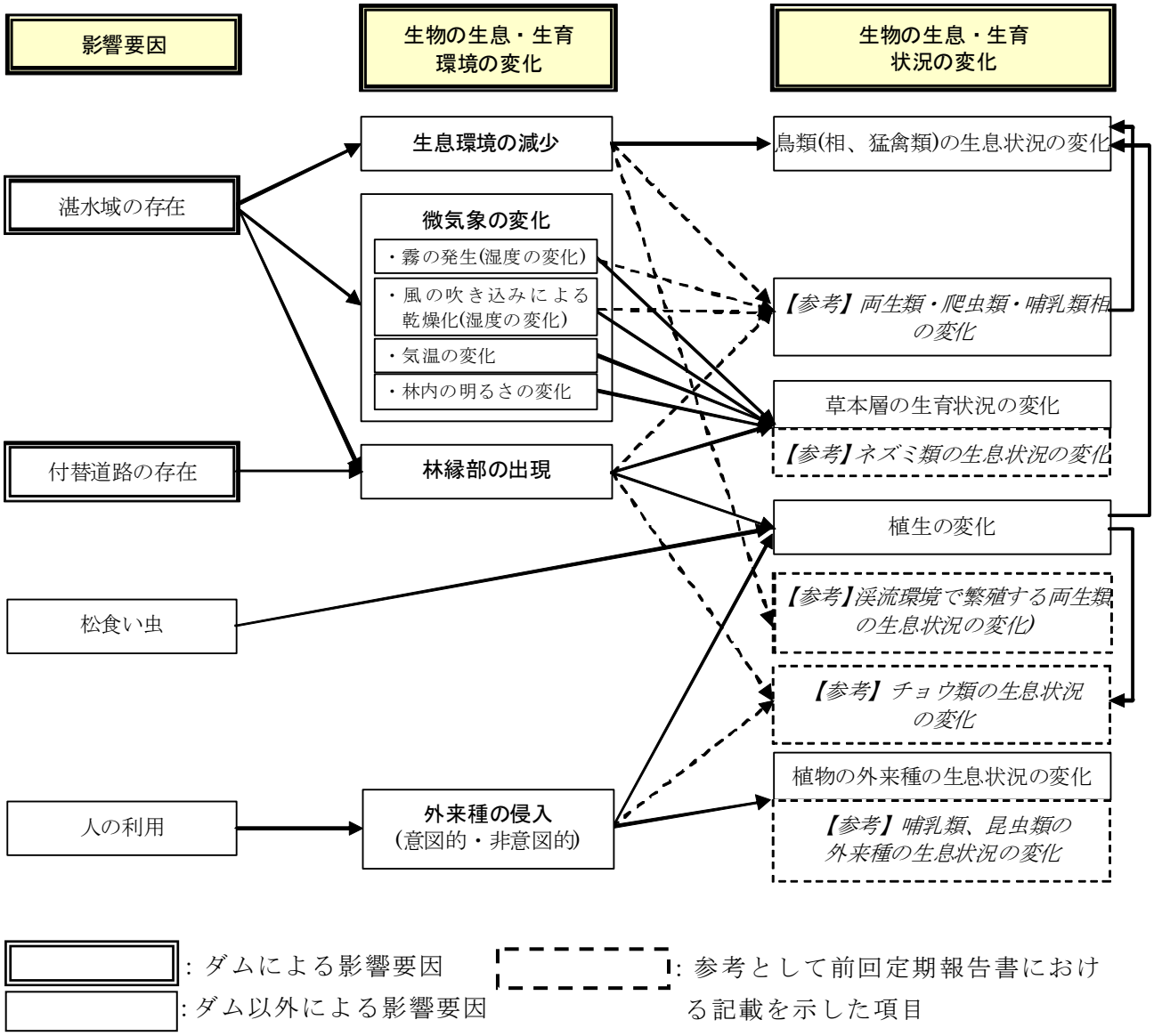


図 6.4-66　天ヶ瀬ダム湖周辺で想定される環境への影響要因と生物に与える影響

※両生類、爬虫類、哺乳類及び陸上昆虫類等については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

1)植物

a. 植生

ダムの周辺の森林環境であった場所が開けた環境となり、微気象の変化や林縁部の出現により、ダム湖周辺の植生(木本群落)が変化する可能性がある。そこで、ダム湖周辺における主な植生面積の推移を図 6.4-67に整理した。

平成 7 年度から平成 14 年度にかけて、アベマキーコナラ群集、スギ・ヒノキ植林はやや増加傾向にあるが、アカマツーモチツツジ群集は減少傾向にある。アカマツーモチツツジ群集が減少している原因としては、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半に猛威をふるった松食い虫よる松枯れの影響が考えられる。平成 22 年(2010 年)度の調査でも平成 14 年(2002 年)度と比較してアカマツーモチツツジ群集の面積割合がやや減少している。

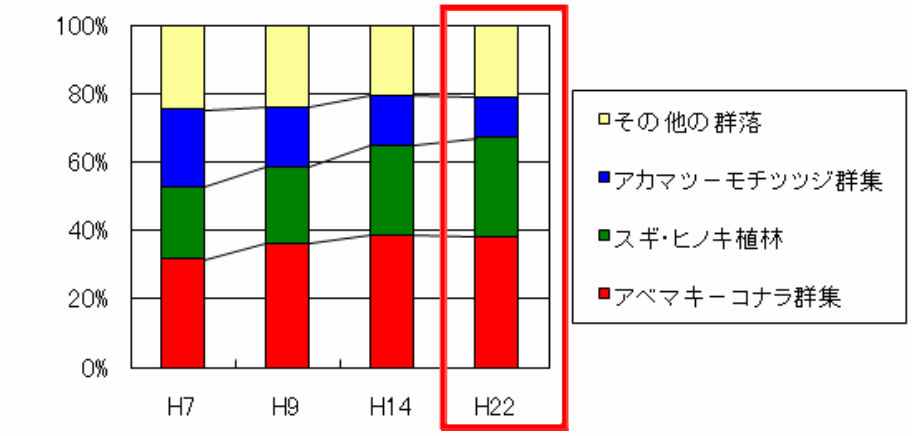


図 6.4-67 天ヶ瀬ダム周辺における植生面積の推移

出典：6-7～6-9







図 6.4-68 各群落の概観

また、天ヶ瀬ダム周辺の植林、市街地等の状況を図 6.4-69、図 6.4-70に示す。植林は、そのほとんどがスギ植林である。

また、人工的な土地利用についてみると、田・畑の面積は小さく、市街地・人工裸地・構造物が大半を占めている。平成 22 年度に芝地の面積の割合が増加した。

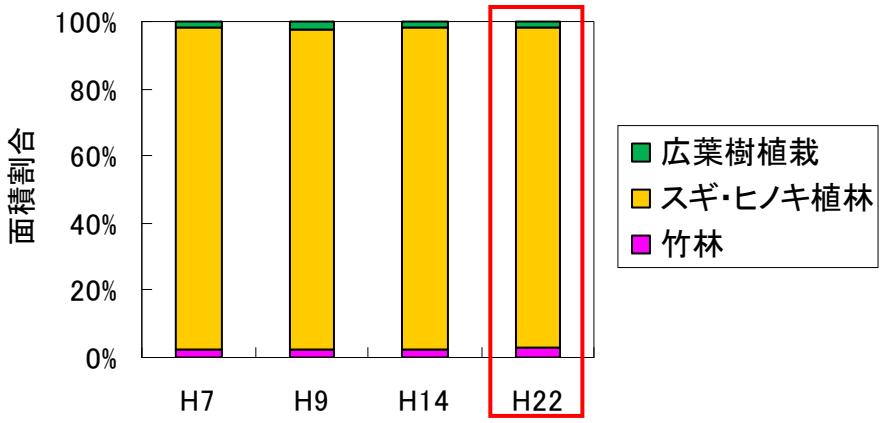


図 6.4-69　天ヶ瀬ダム湖周辺における植林地の内訳

出典：6-7～6-10

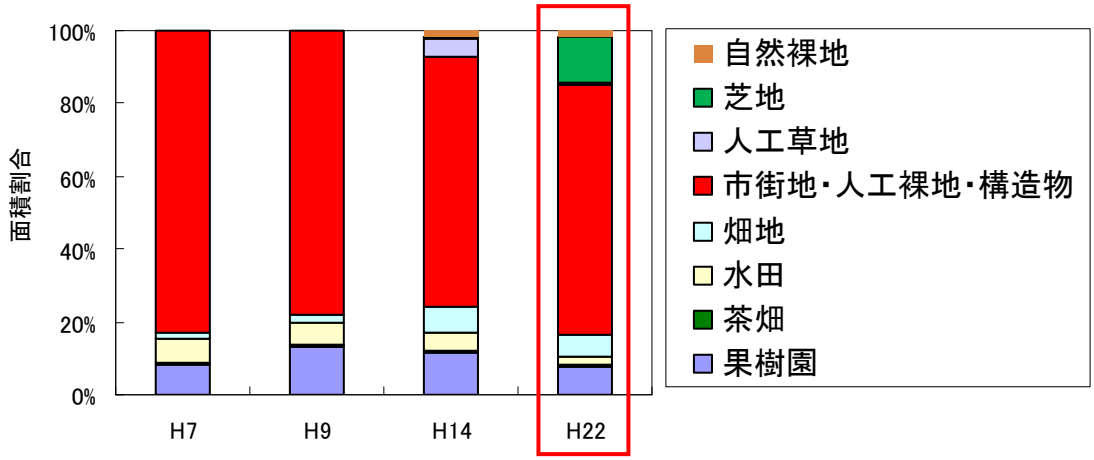


図 6.4-70　天ヶ瀬ダム湖周辺における市街地等の内訳

出典：6-7～6-10

b. ダム湖周辺の草本層の生育状況

ダム湖周辺の森林環境であった場所が開けた環境となり、微気象の変化や林縁部の出現により、ダム湖周辺の植生(草本群落)が変化する可能性がある。そこで、天ヶ瀬ダム周辺の主な3群集(アベマキーコナラ群集、スギーヒノキ植林、アカマツーモチツツジ群集)について草本層(最下層)の植生を整理した。整理は、河川水辺の国勢調査で記録された被度から、各コドラート面積に対する植物種の占める割合を算出し、それらを群集毎に平均することで行った。各群集の草本層における植物種の占める割合を図 6.4-71に示す。

どの群落においても草本層の植生には年度による変動が大きかった。平成22年度には、アカマツーモチツツジ群集では、コシダ、ウラジロが優占している。スギーヒノキ植林では、特に優占している植物は見られていない。アベマキーコナラ群落では、フユイチゴやヒサカキが優占している。

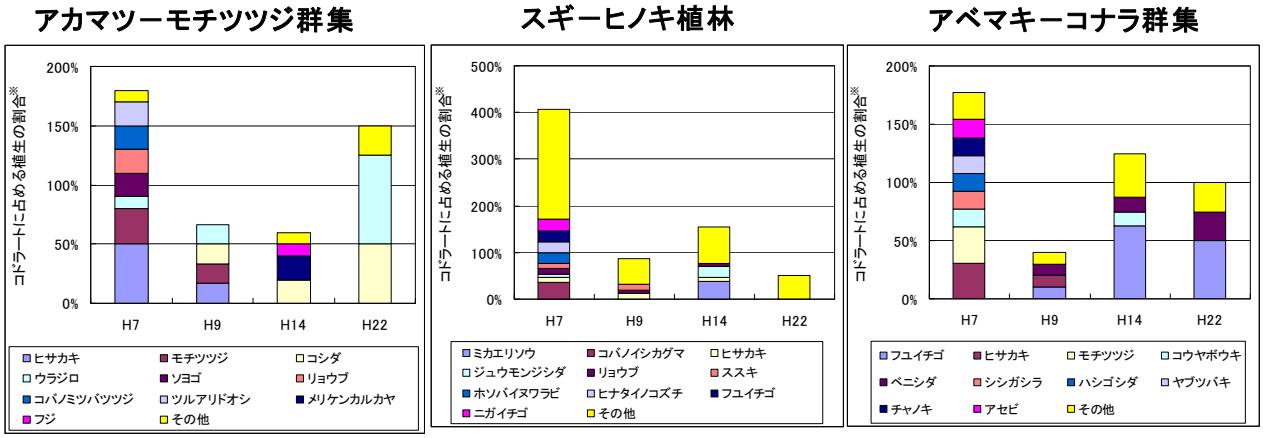


図 6.4-71　草本層(最下層)における植物種の占める割合

出典：6-7～6-9

※グラフ中の縦軸は、各植生群落の全コドラートにおいて、下層(草本層)で確認された種の被度を、被度5→100%、4→75%、3→50%、2→25%と　面積の割合と合うように換算し、平均値を求めたものである。なお、1、+については面積が小さいため検討対象から除外した。

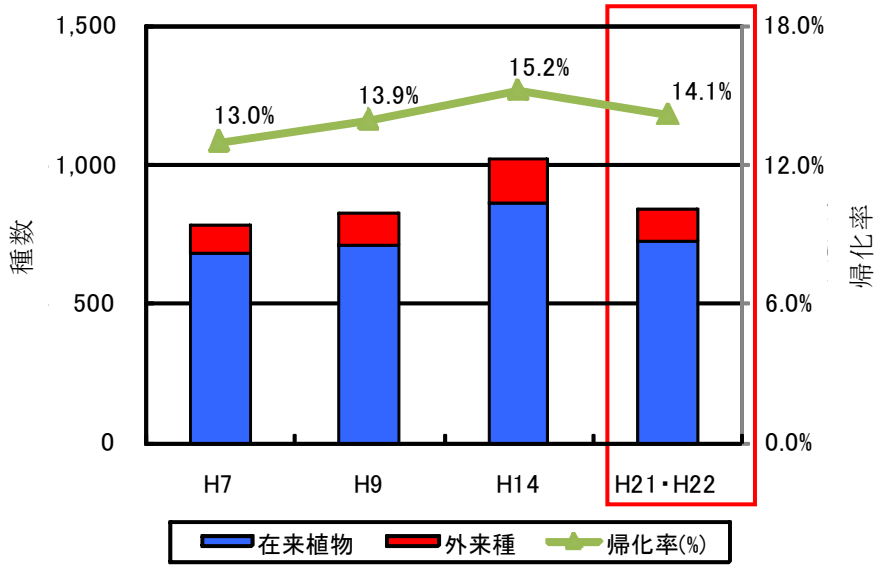
被度階級	被度階級の定義	面積割合
5	被度がコドラート面積の3/4以上を占めているもの	100%
4	被度がコドラート面積の1/2～3/4を占めているもの	75%
3	被度がコドラート面積の1/4～1/2を占めているもの	50%
2	個体数が極めて多いか、又は少なくとも被度が1/10～1/4を占めているもの	25%
1	個体数は多いが1/20以下、又は被度が1/10以下で個体数の少ないもの	－
+	個体数も少なく被度も少ないもの	－

c. **外来種の確認状況**

ダム湖周辺の森林環境であった場所が開けた環境となり、林縁部の出現や人の利用等の増加による外来種の侵入などが考えられることから、ダム湖周辺における外来種の生育状況に変化がみられる可能性がある。そこで、ダム湖周辺における植物の確認種数に対する外来種の割合を図 6.4-72に整理した。

その結果、アレチウリ(平成 7 年度以降、毎回確認)、元々観用植物だったオオキンケイギク(平成 9 年度及び平成 14 年度に確認)等の特定外来生物等が確認されている。全確認種に対して外来種の確認種数の占める割合(帰化率)は 13～15%と概ね横ばいとなっている。ダム建設に伴い、湖岸に道路が設置されたり、人の利用が増加したりすることにより、外来種が侵入しやすくなっている可能性が考えられる。

なお、平成 21、22 年度は平成 14 年度の調査に比べて外来種数、帰化率ともに減少傾向となっているが、在来種数も同様に減少している。調査時期や調査地点の違いによる影響もあると考えられるが、自然環境の変化を反映している可能性もあることから、今後も継続的に植生変動に留意する必要がある。



※　帰化率＝(外来種の確認種数)／(全確認種数)

図 6.4-72　植物の外来種確認種数の変遷(グラフ中数字は帰化率)

出典：6-7～6-10

2)鳥類

a. **ダム湖周辺の鳥類の生息状況**

ダム湖周辺の森林環境であった場所が開けた環境となり、微気象の変化や林縁部の出現により、ダム湖周辺に生息する鳥類の生息環境が変化する可能性がある。そこで、確認された鳥類を既往知見(表 6.4-16)に従って、生息環境ごとに分類した上で、陸鳥に区分される鳥類について繁殖期・越冬期別に確認個体数の割合を整理した(図 6.4-73)。

繁殖期については、4 回の調査で確認個体数の割合に大きな変化はない。越冬期については、平成 15・18 年度には、平成 7・10 年度と比較して、アトリやイカルなどの冷温帯樹林帯（針葉樹林）の鳥の割合が高く、ホオジロやスズメなどの平地の人家周辺地帯の鳥の割合が低い。

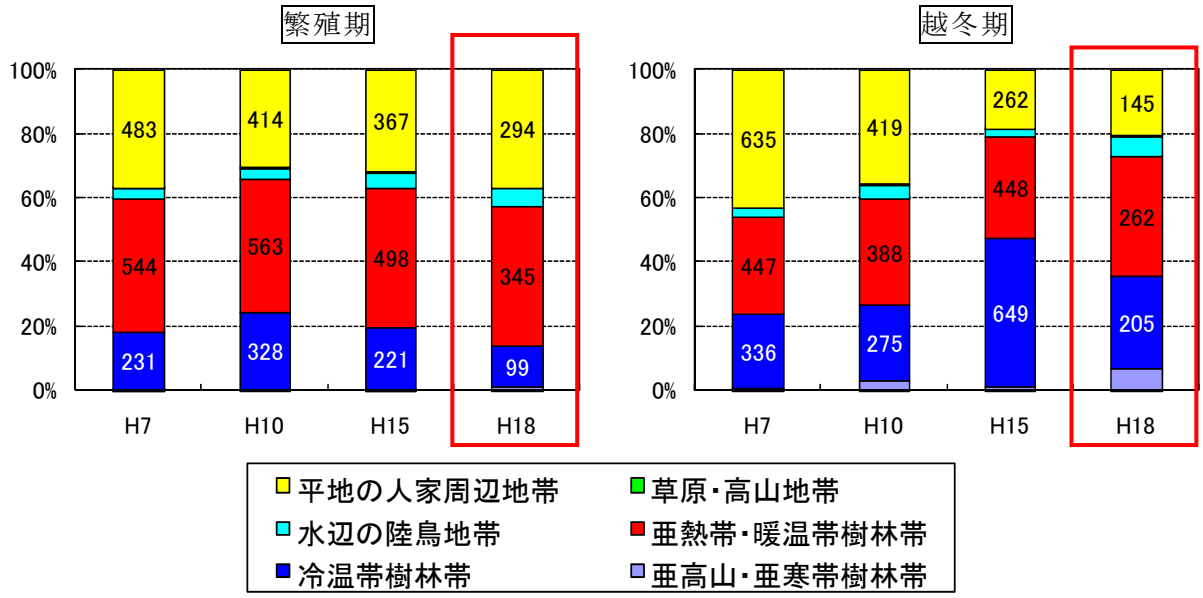
特にアトリは数千～数万羽の群れを作って採食し、また渡来数は年によって違いが大きいことが知られている(出典：6-65)。イカルに関しても非繁殖期には数羽～数十羽の群れを作ることから(出典：6-65)、それらの群れを確認したことで確認割合数が変化した可能性がある。

繁殖期の確認個体数の割合に大きな変化がみられないことなどから、ダム湖周辺に陸鳥の生息環境が維持されていると考えられる。

表 6.4-16　鳥類の生息環境の概要

区分	生息環境	概　　要
水鳥	海岸線地帯	岩礁地、砂浜地、海岸湿地等、水圏と陸圏の接点
	内陸水地帯	河川流水、湖沼静止水面等、水鳥が生息する水域のうち、内陸の水系
陸鳥	亜高山・亜寒帯樹林帯	山岳地帯に広がる亜高山針葉樹林
	冷温帯樹林帯	ブナ林、ミズナラ林など、冬の間は葉が無く枝だけになる落葉広葉樹林
	亜熱帯・暖温帯樹林帯	四季を通じて緑葉を持つ樹種で構成され、内部が薄暗い林である常緑広葉樹林
	水辺の陸鳥地帯	河川や湖沼、海岸の水辺等、陸上に生息する鳥類が利用する水辺
	草原・高山地帯	草原状の地域や、ハイマツ林等の高山帯の植生
	平地の人家周辺地帯	市街地、住宅地、田園集落、農耕地等、人の生活に密着した場所

出典：6-65、6-66



※平成 7、10 年度と平成 15 年度、さらに平成 18 年度で調査ルート等が異なるため、確認個体数の割合での比較を行った(調査努力量の詳細については、表 6.2-16 参照)。

図 6.4-73　生息環境別の鳥類確認個体数の割合の推移

出典：6-11～6-14

b. **猛禽類の生息状況**

ダム湖周辺の森林環境であった場所が開けた環境となり、微気象の変化や林縁部の出現により、ダム湖周辺に生息する猛禽類の生息環境が変化する可能性がある。そこで、天ヶ瀬ダム周辺における猛禽類の確認状況を表 6.4-17に整理した。

平成 18 年(2006 年)度の調査においては、ミサゴ、ノスリが多く確認されたが、全体的には過去の調査と同様の結果であった。

ツミ以外の猛禽類については継続的に確認されていることから、ダム湖周辺に猛禽類の生息環境が維持されていると考えられる。

ミサゴ　：留鳥として年中、京都府内に生息する(京都 RDB)。平成 18 年(2006 年)度は繁殖期に 2 回確認されたが、繁殖を示唆する行動は見られず、付近での繁殖の有無は不明である。平成 15 年(2003 年)度以前は、春の渡り期や繁殖期の確認はなく、平成 10 年(1998 年)度の越冬期にダム湖の下流寄りの地域で多く確認された。したがって、ダム湖周辺を越冬地として利用していると考えられる。

ハチクマ：夏鳥として京都府内に生息して繁殖する(京都 RDB)。平成 15 年(2003 年)度は春の渡り期に空中を飛行している 1 羽を確認されただけであったが、平成 18 年(2008 年)度は繁殖期に 2 箇所で飛翔が確認された。したがって、ダム湖周辺において繁殖している可能性があると考えられる。

オオタカ：留鳥として年中京都府内に生息する(京都 RDB)。平成 15 年(2003 年)度は、

春の渡り期に空中で飛行している1羽が確認されただけであったが、平成18年(2008年)度は繁殖期、越冬期に各1個体が確認された。確認位置は比較的近接しており、この地域に留鳥として周年生息している個体がいると考えられる。

ハイタカ：冬鳥として京都府内で越冬する(京都RDB)。平成15年(2003年)度は秋の渡り期と越冬期に落葉広葉樹林上や空中を飛行したり、落葉広葉樹で休息したりしている個体が観察された。平成18年(2008年)度は越冬期に2箇所で確認された。いずれも林縁付近で確認されていることから、ダム湖周辺の樹林を越冬場所として利用していると考えられる。

ノスリ　：冬鳥として京都府内で越冬する(京都RDB)。平成15年(2003年)度は秋の渡り期と越冬期に落葉広葉樹林上や空中を飛行したり、落葉広葉樹で休息したりしている個体が観察された。平成18年(2008年)度は越冬期に9箇所で確認された。猛禽類の中では確認回数が比較的多く、またダム湖周辺で広く観察された。繁殖期には確認されなかったことから、越冬地として本地域を利用していると考えられる。

サシバ　：夏鳥として京都府内に生息して繁殖する(京都RDB)。平成15年(2003年)度は春の渡り期に空中で飛行中の個体が観察された。平成18年(2008年)度は繁殖期に2個体が同時に飛翔する姿が確認された。本種の繁殖に適した草地、水田と山が接したような地形が見受けられないため、天ヶ瀬ダム湖周辺では繁殖していないものと考えられるが、稜線を越えた池尾の集落で繁殖の可能性が考えられる。

表 6.4-17　天ヶ瀬ダム周辺における猛禽類の確認個体数

種名	H7	H10	H15	H18
ミサゴ	2	6	4	10
ハチクマ		1	1	2
オオタカ	1	3	1	2
ツミ	1			
ハイタカ	3	1	5	2
ノスリ	3	4	9	9
サシバ	6	3	2	2

出典：6-11～6-14

3)両生類・爬虫類・哺乳類

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類・爬虫類・哺乳類の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

a. 両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況

平成 17 年(2005 年)度の調査では、両生類 2 目 6 科 10 種、爬虫類 2 目 7 科 13 種、哺乳類 7 目 11 科 16 種が確認された。平成 12 年(2000 年)度調査では、両生類 2 目 5 科 11 種、爬虫類 2 目 6 科 12 種、哺乳類 6 目 9 科 15 種、平成 7 年(1995 年)度調査では、両生類 2 目 5 科 8 種、爬虫類 2 目 7 科 13 種、哺乳類 6 目 10 科 16 種が確認されており、3 回の調査結果を合わせると、天ヶ瀬ダム及びその周辺では、両生類 2 目 6 科 12 種、爬虫類 2 目 7 科 15 種、哺乳類 7 目 12 科 19 種の生息が確認されている。

調査年によって確認できていない種もあるが、確認種数は同程度で推移しており、ダム湖周辺にこれら両生類・爬虫類・哺乳類の生息環境が維持されていると考えられる。

表 6.4-18 天ヶ瀬ダム周辺における両生類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	サンショウウオ	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	○	○	○
2		イモリ	アカハライモリ	○	○	○
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			○
4		アマガエル	ニホンアマガエル	○	○	○
5		アカガエル	タゴガエル	○	○	○
6			ニホンアカガエル		○	
7			トノサマガエル	○	○	○
8			ナゴヤダルマガエル		○	
9			ウシガエル	○	○	○
10			ツチガエル		○	○
11		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○	○
12			モリアオガエル	○	○	○
合計	2目6科12種			8種	11種	10種

出典：6-15～6-17

表 6.4-19 天ヶ瀬ダム周辺における爬虫類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	カメ	イシガメ	クサガメ	○	○	○
2			ミシシッピアカミミガメ	○	○	○
3			ニホンイシガメ	○	○	○
4		スッポン	ニホンスッポン	○		○
5	トカゲ	ヤモリ	ニホンヤモリ	○	○	○
6		トカゲ	ニホントカゲ	○	○	○
7		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○
8		ヘビ	タカチホヘビ		○	○
9			シマヘビ	○	○	○
10			ジムグリ	○		○
11			アオダイショウ	○		○
12			シロマダラ	○	○	
13			ヒバカリ		○	
14			ヤマカガシ	○	○	○
15		クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○	○
合計	2目7科15種			13種	12種	13種

出典：6-15～6-17

表 6.4-20　天ヶ瀬ダム周辺における哺乳類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H7年度	H12年度	H17年度
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	○		
2		モグラ	ヒミズ	○	○	
3			コウベモグラ	○	○	○
－			Mogera属の一種	○	○	○
4	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ		○	○
－		－	コウモリ目(翼手目)の一種			○
5	サル	オナガザル	ニホンザル	○		○
6	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○	○
7	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○	○
8			ムササビ		○	○
9		ネズミ	スミスネズミ	○		
10			アカネズミ	○	○	○
11			ヒメネズミ	○	○	○
12			カヤネズミ	○	○	○
13		ヌートリア	ヌートリア			○
14	ネコ	イヌ	タヌキ	○	○	○
15			キツネ	○	○	○
16		イタチ	テン	○	○	○
17			チョウセンイタチ			○
－			Mustela属の一種	○	○	○
18	ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○	○
19		シカ	ホンドジカ	○	○	○
合計	7目12科19種			16種	15種	16種

出典：6-15～6-17

b. **渓流で繁殖する両生類の確認状況**

ヒダサンショウウオ及びタゴガエルは、平成 7 年度、平成 12 年度及び平成 17 年度の 3 回の調査全てで確認されていた(表 6.4-18)。また、平成 17 年度調査において、卵及び幼生の多くはダム湖へ流入する沢の周辺で確認されている(図 6.4-75)。

このことから、ダム湖周辺にヒダサンショウウオ及びタゴガエルの繁殖場として利用される渓流環境が維持されていると考えられる。



図 6.4-74　ヒダサンショウウオの幼生

出典：6-16

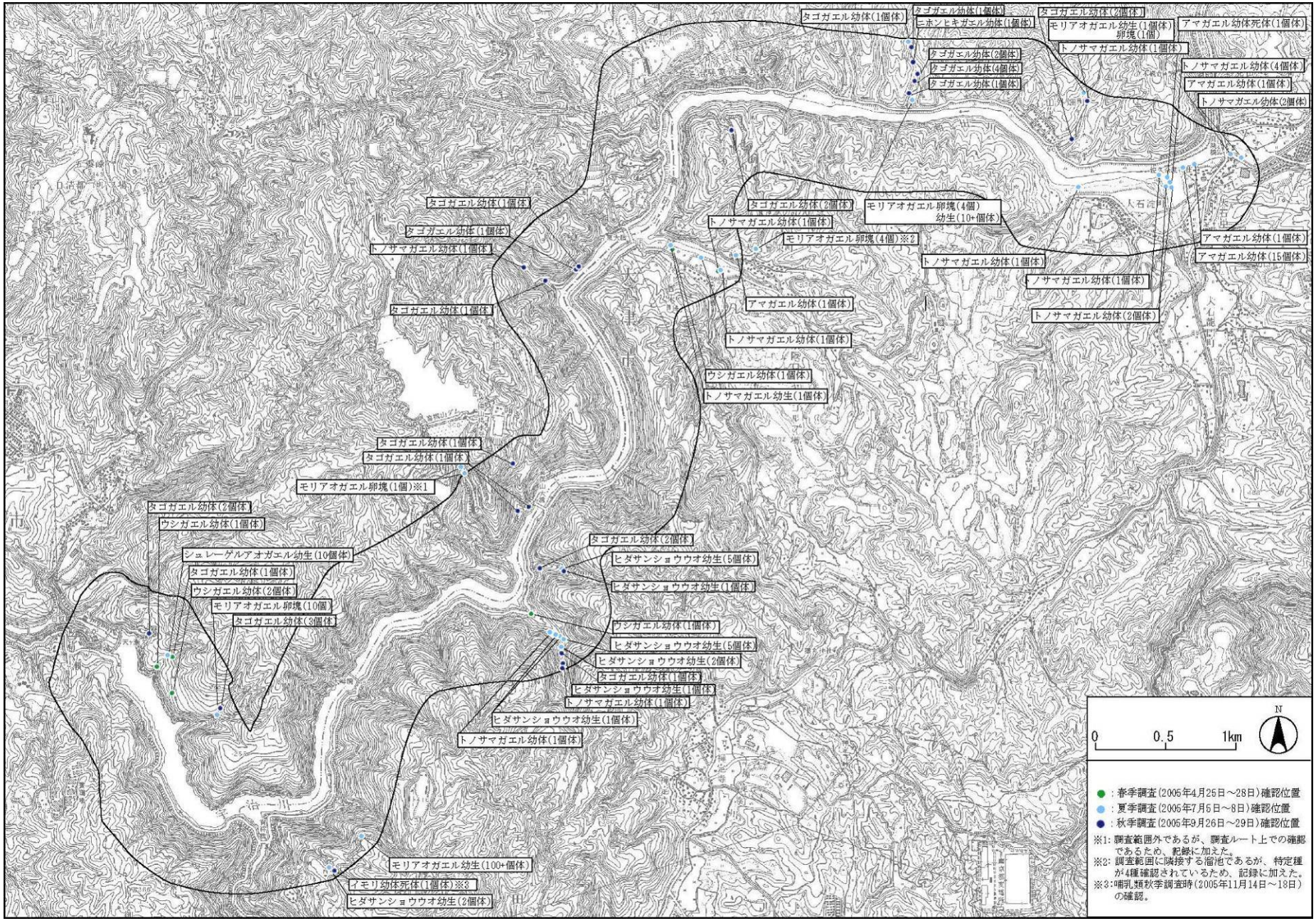


図 6.4-75　両生類の卵・幼生の確認位置(平成 17 年度調査)

出典：6-17

c. **哺乳類の外来種確認状況**

平成 17 年(2005 年)度調査において、それまで確認されていなかった外来種のヌートリア、チョウセンイタチが、ともに左岸側において確認された(表 6.4-20、図 6.4-77)。なお、ヌートリアは、平成 17 年(2005 年)度河川水辺の国勢調査で、夏季にヤナギタデーオオオナモミ群落で足跡が確認された(写真上)。また、チョウセンイタチは、冬季に確認されたものである(写真下)。

ヌートリアは、大型の草食性げっ歯類であり、堤防や土手に大きな坑道系を作るので、堤防の強度を弱める可能性がある。また、農作物に対する被害が大きく、水辺の植物に対する影響も大きいと考えられる(京都府 RDB)。

チョウセンイタチは、その分布拡大に伴い在来種のホンドイタチの分布が縮小している傾向があり、分布の動向など注目しておく必要がある(京都府 RDB)。



図 6.4-76　ヌートリア及びチョウセンイタチ確認状況

出典：6-17



図 6.4-77　ヌートリア及びチョウセンイタチ確認位置

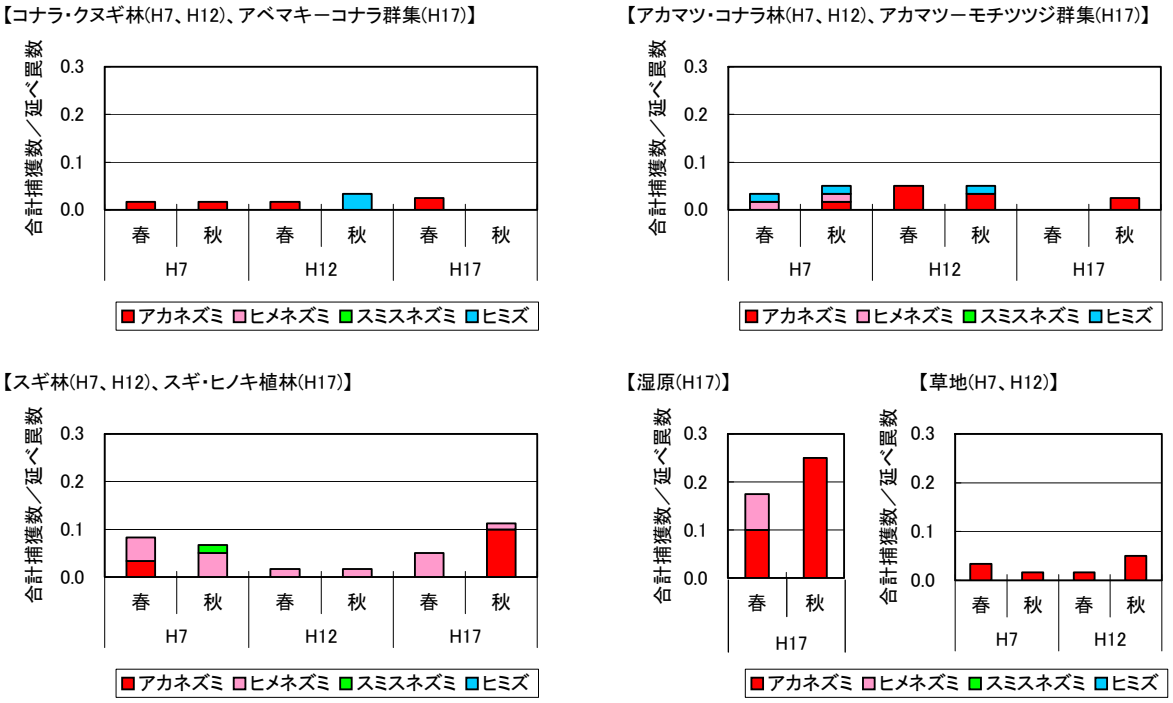
出典：6-17

d. **ネズミ類の生息状況の変化**

平成 7 年(1995 年)度、平成 12 年(2000 年)度、平成 17 年(2005 年)度の調査において、アカネズミ、ヒメネズミ、スミスネズミ、ジネズミ及びヒミズの 5 種が確認された。なお、調査努力量の違いの影響を受けないように、捕獲数を延べ罠数(設置罠数×設置日数)で除した値を用いて評価を行った。

平成 17 年(2005 年)度調査の湿原において高い捕獲数を示した以外は、全体的に捕獲数は少ない。アベマキーコナラ群集及び草地ではアカネズミが、スギ・ヒノキ植林ではヒメネズミが継続して同程度捕獲されている。アカマツーモチツツジ群集ではアカネズミは継続して確認されているが、ヒミズが平成 17 年度確認されていない。ただし、元々捕獲数が少ないため、生息状況に変化あったかどうかは不明である。

以上のことから、天ヶ瀬ダム湖周辺においては、全体的にこれらのネズミ類の生息環境は維持されていると考えられる。



※ 調査に用いたトラップは、平成 7 年度、平成 12 年度調査はヴィクター、平成 17 年度調査はシャーマントラップである。

※ 調査努力量の違いの影響を受けないように、“合計捕獲数／延べ罠数”(延べ罠数＝罠数×日数)の値を比較した。

図 6.4-78 主な植生におけるトラップ調査による哺乳類の確認状況

出典：6-15～6-17

表 6.4-21　トラップ調査による哺乳類の確認状況

調査年度	調査地点	設置環境	季節	アカネズミ	ヒメネズミ	スミスネズミ	ジネズミ	ヒミズ	合計	延べ罠数	捕獲数／延べ罠数
H7 (1995)	1	アカマツ･コナラ林	春	0	1	0	0	1	2	60	3.3%
			秋	1	1	0	0	1	3	60	5.0%
	2	コナラ･クヌギ林	春	1	0	0	0	0	1	60	1.7%
			秋	1	0	0	0	0	1	60	1.7%
	3	スギ林	春	2	3	0	0	0	5	60	8.3%
			秋	0	3	1	0	0	4	60	6.7%
	4	草地	春	2	0	0	0	0	2	60	3.3%
			秋	1	0	0	0	0	1	60	1.7%
	5	アラカシ･コナラ林	春	0	1	0	1	0	2	60	3.3%
			秋	0	0	0	0	0	0	60	0.0%
	6	ヒノキ林	春	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
			秋	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
H12 (2000)	1	アカマツ･コナラ林	春	3	0	0	0	0	3	60	5.0%
			秋	2	0	0	0	1	3	60	5.0%
	2	コナラ･クヌギ林	春	1	0	0	0	0	1	60	1.7%
			秋	0	0	0	0	2	2	60	3.3%
	3	スギ林	春	0	1	0	0	0	1	60	1.7%
			秋	0	1	0	0	0	1	60	1.7%
	4	草地	春	1	0	0	0	0	1	60	1.7%
			秋	3	0	0	0	0	3	60	5.0%
	5	アラカシ･コナラ林	春	0	0	0	0	0	0	60	0.0%
			秋	5	1	0	0	0	6	60	10.0%
	6	ヒノキ林	秋	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
	7	草地	春	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
H17 (2005)	ST-1	アベマキーコナラ群集	春	1	0	0	0	0	1	40	2.5%
			秋	0	0	0	0	0	0	40	0.0%
	ST-2	アカマツ -モチツツジ群集	春	0	0	0	0	0	0	40	0.0%
			秋	1	0	0	0	0	1	40	2.5%
	ST-3	スギ･ヒノキ植林	春	0	4	0	0	0	4	40	10.0%
			秋	1	0	0	0	0	1	40	2.5%
	ST-4	スギ･ヒノキ植林	春	0	0	0	0	0	0	40	0.0%
			秋	7	1	0	0	0	8	40	20.0%
	ST-5	湿原	春	4	3	0	0	0	7	40	17.5%
			秋	10	0	0	0	0	10	40	25.0%
	ST-6	ジャヤナギ ーアカメヤナギ群集	春	0	0	0	0	0	0	40	0.0%
			秋	1	0	0	0	0	1	40	2.5%
	ST-7	河畔	春	0	0	0	0	0	0	40	0.0%
			秋	1	0	0	0	0	1	40	2.5%
	KT-1	渓流	春	0	0	0	0	0	0	20	0.0%
			秋	0	0	0	0	0	0	20	0.0%
	KT-2	渓流	春	1	0	0	0	0	1	20	5.0%
			秋	0	0	0	0	0	0	20	0.0%

※平成7年度調査における調査地点1～5ではヴィクターを、調査地点6ではモグラトラップを用いた。
※平成12年度調査における調査地点1～5ではヴィクターを、調査地点6、7ではモグラトラップを用いた。
※平成17年度調査における調査地点ST1～7ではシャーマントラップを、調査地点KT-1、2ではカゴワナを用いた。
※調査努力量の違いの影響を受けないように、”合計捕獲数／延べ罠数”(延べ罠数＝罠数×日数)の値を比較した。

出典：6-15～6-17

4)陸上昆虫類等

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等の調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

a. チョウ類の生息状況

天ヶ瀬ダム周辺におけるチョウ類の確認状況について表 6.4-22に示す。3 回の調査における確認種数をみると、平成 7 年(1995 年)度調査で 8 科 51 種、平成 11 年(1999 年)度調査で 8 科 51 種、平成 16 年(2004 年)度調査で 8 科 54 種と、年度ごとの出現種をみると多少の違いはあるものの、ほぼ同程度の種数で推移している。次に、生息環境別の種数についてみると樹林性の種が最も多く確認されているとともに、樹林性・草原性の確認種数に大きな変化はみられていない(図 6.4-79)。

以上のことから、チョウ類の生息環境に大きな変化が無いことを示していると考えられる。

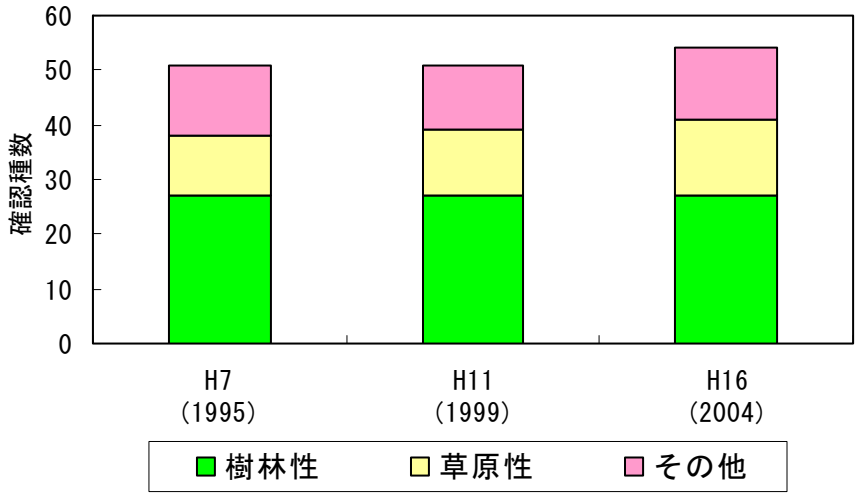


図 6.4-79　天ヶ瀬ダム周辺で確認されたチョウ類の確認状況の推移

出典：6-18～6-20

表 6.4-22　天ヶ瀬ダム周辺におけるチョウ類の確認状況

No.	主な生息環境	科名	種名	学名	調査年度		
					H7 (1995)	H11 (1999)	H16 (2004)
1	樹林性	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	*Daimio tethys*	●	●	●
2			ホソバセセリ	*Isoteinon lamprospilus lamprospilus*	●	●	●
3			ヒメキマダラセセリ	*Ochlodes ochraceus*		●	
4			キマダラセセリ	*Potanthus flavus*	●	●	●
5			コチャバネセセリ	*Thoressa varia*			●
6		マダラチョウ	アサギマダラ	*Parantica sita niphonica*	●	●	●
7		テングチョウ	テングチョウ	*Libythea celtis*	●	●	●
8		シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	*Antigius attilia attilia*	●	●	
9			コツバメ	*Callophrys ferrea*	●	●	●
10			ルリシジミ	*Celastrina argiolus ladonides*	●	●	●
11			ウラギンシジミ	*Curetis acuta paracuta*	●	●	●
12			アカシジミ	*Japonica lutea lutea*	●	●	●
13			ウラナミアカシジミ	*Japonica saepestriata*	●	●	
14			ムラサキシジミ	*Narathura japonica*	●	●	●
15			トラフシジミ	*Rapala arata*		●	●
16		タテハチョウ	ルリタテハ本土亜種	*Kaniska canace nojaponicum*	●	●	●
17		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	*Byasa alcinous*	●	●	●
18			アオスジアゲハ	*Graphium sarpedon nipponum*	●	●	●
19			カラスアゲハ	*Papilio bianor*	●		●
20			モンキアゲハ	*Papilio helenus nicconicolens*	●	●	●
21			ミヤマカラスアゲハ	*Papilio maackii*	●	●	
22			クロアゲハ	*Papilio protenor*	●	●	●
23		シロチョウ	キチョウ	*Eurema hecabe*	●	●	●
24			スジグロシロチョウ	*Pieris melete melete*	●	●	●
25		ジャノメチョウ	クロヒカゲ	*Lethe diana*	●	●	●
26			クロヒカゲモドキ	*Lethe marginalis*			●
27			ヒカゲチョウ	*Lethe sicelis*	●	●	●
28			クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*	●	●	●
29			コジャノメ	*Mycalesis francisca perdiccas*	●	●	●
30			ヒメジャノメ	*Mycalesis gotama fulginia*	●	●	●
31			サトキマダラヒカゲ	*Neope goschkevitschii*	●		●
樹林性種計					27	27	27
32	草原性	セセリチョウ	イチモンジセセリ	*Parnara guttata*	●	●	●
33			チャバネセセリ	*Pelopidas mathias oberthueri*	●	●	●
34		シジミチョウ	ツバメシジミ	*Everes argiades hellotia*	●	●	●
35			ウラナミシジミ	*Lampides boeticus*		●	●
36			ベニシジミ	*Lycaena phlaeas daimio*	●	●	●
37			ヤマトシジミ	*Pseudozizeeria maha argia*	●	●	●
38		タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	*Argyreus hyperbius hyperbius*	●	●	●
39			ヒメアカタテハ	*Cynthia cardui*			●
40			キタテハ	*Polygonia c-aureum c-aureum*	●	●	●
41		アゲハチョウ	キアゲハ	*Papilio machaon hippocrates*			●
42		シロチョウ	ツマキチョウ	*Anthocharis scolymus*	●	●	●
43			モンキチョウ	*Colias erate poliographus*	●	●	●
44			モンシロチョウ	*Pieris rapae crucivora*	●	●	●
45		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	*Minois dryas bipunctata*	●	●	●
草原性種計					11	12	14
46	その他※	セセリチョウ	ミヤマセセリ	*Erynnis montanus*		●	
47			ミヤマチャバネセセリ	*Pelopidas jansonis*		●	
48		セセリチョウ	オオチャバネセセリ	*Polytremis pellucida*	●		
49		タテハチョウ	コムラサキ	*Apatura metis*	●	●	●
50			サカハチチョウ	*Araschnia burejana strigosa*	●	●	●
51			ミドリヒョウモン	*Argynnis paphia tsushimana*	●		●
52			オオウラギンスジヒョウモン	*Argyronome ruslana lysippe*	●		
53			メスグロヒョウモン	*Damora sagana ilone*	●	●	●
54			ゴマダラチョウ	*Hestina japonica*		●	●
55			イチモンジチョウ	*Limenitis camilla*			●
56			アサマイチモンジ	*Limenitis glorifica*	●	●	
57			ホシミスジ	*Neptis pryeri*	●		
58			コミスジ	*Neptis sappho*	●	●	●
59			アカタテハ	*Vanessa indica*	●		●
60		アゲハチョウ	ナガサキアゲハ	*Papilio memnon*		●	●
61			ナミアゲハ	*Papilio xuthus*	●	●	●
62			ホソオアゲハ	*Sericinus montela*		●	
63		シロチョウ	エゾスジグロシロチョウ本州以南亜種	*Pieris napi nesis*			●
64		ジャノメチョウ	オオヒカゲ	*Ningula schrenckii*	●		●
65			ヒメウラナミジャノメ	*Ypthima argus*	●	●	●
その他計					13	12	13
合計					51	51	54

※その他には、樹林と草原の両方を利用するため、どちらか一方に区分できない種を含む。

出典：6-18～6-20

b. **ダム湖周辺の外来種**

平成 7 年(1995 年)度調査では 25 種、平成 11 年(1999 年)度調査では 17 種、平成 16 年(2004 年)度調査では 28 種の合計 50 種の外来種が確認された。このうちカンタン、アオマツムシ、モンシロチョウ、シバツトガ、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリの 6 種は 3 回の調査の全てで確認されており、当該地域に定着していると考えられる。また、平成 16 年(2004 年)度の調査で、最近の侵入とされるアルファルファタコゾウムシ(侵入年：1982 年※)やブタクサハムシ(侵入年：1996 年※)など 18 種が初めて確認されており、天ヶ瀬ダム湖周辺において新たな外来種が分布を広げていると考えられる。

※出典：外来種ハンドブック

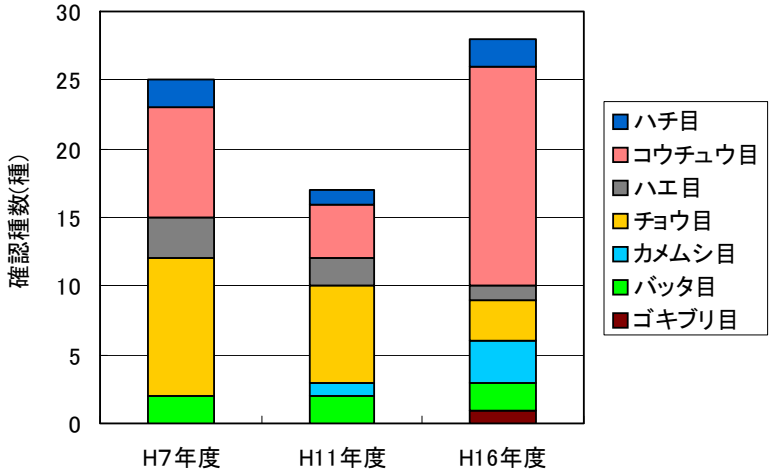


図 6.4-80　陸上昆虫類等の外来種確認種数の推移

出典：6-18～6-20





(2)ダムによる影響の検証

ダム湖周辺の生物の変化に対するダムによる影響の検証結果を表 6.4-23、図 6.4-82に示す。

なお、両生類、爬虫類、哺乳類及び陸上昆虫類等に関する検証結果は、参考として示している。

表 6.4-23　ダム湖周辺の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外によるの影響	検証結果	
生息状況の変化	植生(木本)	アカマツ－モチツツジ群集が減少傾向にある。	－	松食い虫の影響	松食い虫による松枯れの影響によってアカマツが枯死したことによると考えられる。	○
	植生(草本)	草本層の植生割合は年度による変動が大きい。アカマツ－モチツツジ群集において、外来種のメリケンカルカヤが平成 14 年度調査で初めて確認され、アベマキ－コナラ群集でフユイチゴが増加している。	微気象の変化 林縁の出現	外来種の侵入	同一コドラートにおいて群落組成調査が実施されていないため、変化の状況が比較できない。	？
	植物 (外来種)	アレチウリやオオキンケイギク等の特定外来生物も確認されている。外来種の全確認種に占める割合（帰化率）は概ね横ばいである。	林縁の出現	外来種の侵入	元々観用植物だったオオキンケイギクや、アレチウリ等が確認されており、周辺工事や人の利用の増加により侵入してきた可能性が考えられる。	● ○
	鳥類相	繁殖期については、確認個体数の割合に大きな変化はない。越冬期については、平成 15・18 年度には、平成 7・10 年度と比較して、アトリやイカルなどの冷温帯樹林帯（針葉樹林）の鳥の割合が高く、ホオジロやスズメなどの平地の人家周辺地帯の鳥の割合が低い。	微気象の変化 林縁の出現	－	越冬期にホオジロ、スズメ等が減少した理由は不明であるが、繁殖期の生息状況に大きな変化はみられていないことから、ダム湖周辺における陸鳥の生息環境は維持されていると考えられる。	－
	鳥類(猛禽類の生息状況)	ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、サシバが、経年的に確認されている。	広大な湖面 林縁の出現 微気象の変化	－	オオタカ以外は天ヶ瀬ダム周辺において繁殖している可能性は低いものの、これら高次消費者が生息できる環境が良好に維持されていると考えられる	－

※1 検証結果

●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合

○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合

△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合

―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合

？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類、爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類等の調査は実施していないため、参考として、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	哺乳類(ネズミ類)(参考)	平成 7、12、17 年度調査結果を比較すると、特に大きな変化は見られなかった。	林縁の出現 微気象の変化	―	天ヶ瀬ダム周辺の生息環境が維持されていると考えられる。	―
	陸上昆虫類相(チョウ類)(参考)	樹林性と草原性の種とも、出現状況は大きく変化していない。	広大な湖面 林縁の出現 微気象の変化	―	天ヶ瀬ダム周辺ではチョウ類の生息環境が維持されていると考えられる。	―
	陸上昆虫類相(外来種)(参考)	平成 7 年には 25 種、平成 11 年には 17 種、平成 16 年には 28 種、合計 50 種の外来種が確認されており、アオマツムシ、ラミーカミキリ等の 6 種は 3 回の調査の全てで出現しており、当該地域に定着していると考えられる。 また、平成 16 年度調査では、最近侵入とされるヘアルファルファタコゾウムシなどの 18 種が初めて確認されている。	林縁の出現	外来種の侵入	ダム湖周辺の人の利用の増加により、外来種も分布を広げたものと考えられる。	● ○
	両生類・爬虫類・哺乳類相(参考)	平成 7、12、17 年度調査において、大きな変化は見られなかった。	林縁の出現 微気象の変化	―	天ヶ瀬ダム周辺の生息環境が良好に維持されていると考えられる。	―
	渓流で繁殖する両生類(参考)	ヒダサンショウウオ等の卵及び幼生がダム湖へ流入する沢の周辺で確認されている。	林縁の出現 微気象の変化	―	天ヶ瀬ダム湖周辺の良好な渓流環境が維持されていると考えられる。	―
	哺乳類(外来種)(参考)	平成 17 年度調査において、天ヶ瀬ダム周辺ではじめて、外来種のヌートリア、チョウセンイタチの生息が確認された。	林縁の出現	人の利用の増加	侵入経路は不明である。	△

※1 検証結果
●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

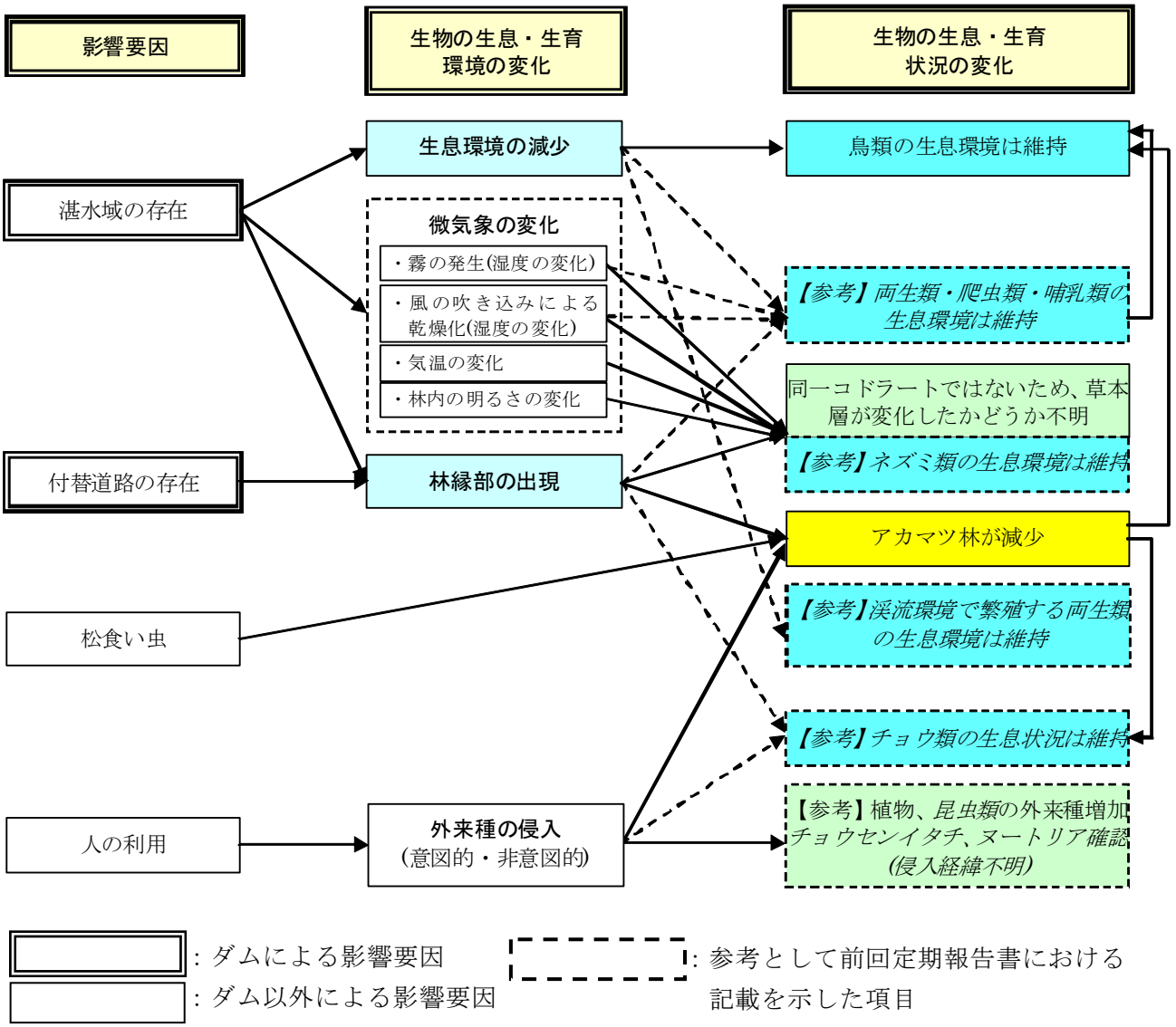


図 6.4-82　ダム湖周辺の生物の変化に対する影響の検証結果

※両生類、爬虫類、哺乳類及び陸上昆虫類等については、平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度において調査を実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

6.4.5連続性の観点からみた生物の生息状況の変化の検証

天ヶ瀬ダムにおいて連続性の分断が生じ、河川を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こす可能性がある。

そのためここでは、天ヶ瀬ダム湖の上下流において引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.4-83のように想定し、連続性の観点からダム湖周辺の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1)生物の生息・生育状況の変化の把握

・回遊性魚類の確認状況

(2)ダムによる影響の検証

天ヶ瀬ダムの生物の生息・生育状況の変化について、連続性の観点から検討し、ダムによる影響を検証した。

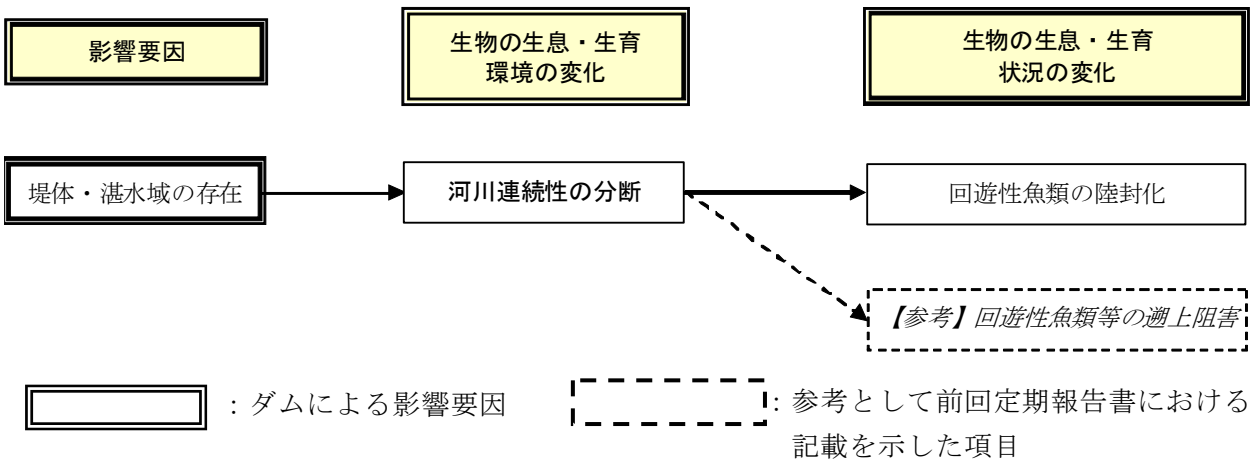


図 6.4-83　連続性の観点から想定される環境への影響要因と生物に与える影響

※回遊性魚類の遡上阻害については、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

(1)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)回遊性魚類の確認状況

a. 回遊性魚類の陸封化

天ヶ瀬ダムの上下流において連続性の分断が生じ、回遊性魚類の生息状況が変化する可能性がある。

そこで、ダム湖内及び流入河川における回遊魚の生息状況を整理した。ダム湖内では、ウナギ、アユ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ及びチチブの計 5 種が、流入河川ではアユ、ウツセミカジカ、ウキゴリ、トウヨシノボリ及びヌマチチブの計 5 種が確認されている。

確認された回遊魚のうち、ウキゴリ、トウヨシノボリ及びヌマチチブについては、

・ダム湖などに容易に陸封されることが知られていること

・天ヶ瀬ダムには魚道が設置されていないこと

・平成 2 年度以降、経年的に流入河川で確認されていること

・前回定期報告書で示されているように、平成 13 年(2001 年)度の調査において比較的小型の個体も確認されていること(図 6.4-84)

などから、天ヶ瀬ダムにおいても陸封されている可能性がある。

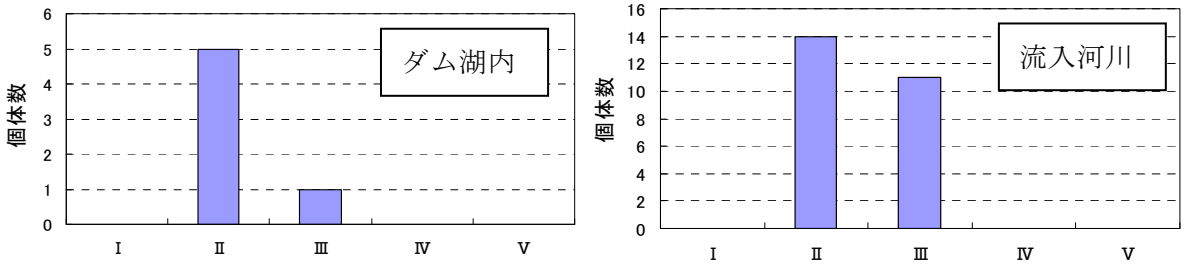
ただし、ヌマチチブは京都府及び滋賀県で国内外来種に指定され、「平成元年(1989 年)に発見されて、その後たちまち琵琶湖沿岸全域と流入河川の下流部に広がった」と言われており(出典：6-59)、天ヶ瀬ダムにおける確認種も、これらが流下し分布を広げた可能性がある。

ウナギ及びアユに関しては、ダム上流域において放流実績があることから、放流されたものが確認されている可能性がある。

表 6.4-24　天ヶ瀬ダム湖内及び流入河川における回遊魚確認状況

No.	目名	科名	種名	ダム湖内					流入河川				
				H2	H6	H8	H13	H19	H2	H6	H8	H13	H19
1	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ			●							
2	サケ目	アユ科	アユ		●	●		●		●	●	●	●
3	カサゴ目	カジカ科	ウツセミカジカ							●			
4	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ							●	●	●	●
5			トウヨシノボリ(型不明)		●	●	●	●		●	●	●	●
6			ヌマチチブ		●	●	●	●		●	●	●	●
7			チチブ	●									
種類数合計				1	3	4	2	3	0	5	4	4	4
				5					5				

出典：6-1～6-5、6-21～25



体長区分	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
体長	～2cm	2～5cm	5～10cm	10～20cm	20cm～

図 6.4-84　トウヨシノボリの確認個体の体長分布

(平成 13 年度調査：前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。)

出典：6-4

b. **回遊性魚類等の遡上阻害**

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、魚類の遡上・降下に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した調査結果を以下に示す。

(a)現地調査結果

「平成 17 年度天ヶ瀬ダム魚類等影響評価検討業務　報告書」における魚類等の現地調査結果を表 6.4-25に示す。モクズガニはダム上流域では確認されておらず、天ヶ瀬ダムにより遡上が阻害されている可能性がある。また、アユについては、ダムの上下流ともに確認されているが、ダム上流において放流されていることから、ダム上流域で確認された個体については、上流で放流されたものであると考えられる。

表 6.4-25　天ヶ瀬ダム上下流における魚類等調査結果

調査地点・時期 / 種類		天ヶ瀬ダム下流						貯水池流入河川					
		遡上方向			降下方向			遡上方向			降下方向		
		H16		H17	H16		H17	H16		H17	H16		H17
		夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	春
魚類	ウナギ※						1						
	カネヒラ				19								
	ハス				2								
	ムギツク								1	2			
	オイカワ	17	12		54	3		1					
	モツゴ						1						
	ビワヒガイ			1									
	カワムツ								1				
	カマツカ	14			5			1	1	1	1		
	コウライニゴイ				1								
	ニゴイ属の一種				1			2					
	スゴモロコ類	24			19			8			1		
	ビワコオオナマズ							1					
	ギギ								1	1			
	アユ※	1			2			1	37			8	
	ブルーギル	6			2							1	
	オオクチバス				6								
	ボラ				2								
	トウヨシノボリ※			4			5						
	カワヨシノボリ			5	12	4	3	3		5	1		3
	ヌマチチブ※				2		1						
	カジカ（大卵型）						1						
甲殻類	テナガエビ	16			5		1	54	1	9	5		1
	スジエビ												2
	モクズガニ※			1	2		4						
合計	個体数	78	12	12	134	7	17	71	42	19	8	9	6
	種　数	6	1	4	15	2	8	8	6	6	4	2	3

※回遊性の魚類・甲殻類

出典：6-35(2)

(b)魚類等の生息状況の変遷

○天ヶ瀬ダムの変遷

【大峰ダム】

大正 13 年に竣工した落差 30.6m のダムで、ダム右岸側に、切り欠きが交互についた延長約 190m の階段式魚道が設置されていた。

【天ヶ瀬ダム】

昭和 39 年に竣工した落差 73m のダムで、魚道は設置されていない。

○河川横断工作物による魚類等の生息状況の変化

河川横断工作物による魚類等の生息状況の変化について以下に示す。また、ウナギ、アユ等についての遡上・降下の概要を図 6.4-85に示す。天ヶ瀬ダム建設までは一部の魚類について生息環境の連続性が保たれていたが、天ヶ瀬ダムの建設によってそれらが分断され、遡上が困難になっている。

◆江戸時代～明治時代(大峰ダム建設前)

江戸期・明治時代以前には、ウナギ、ボラ等の回遊魚・海水魚が琵琶湖に生息していたとの文献がある。また、大峰ダムが建設される以前(江戸時代～明治時代)の宇治川の状況について、文献調査では、魚類等の遡上を阻害するような滝の存在を示す証拠は確認できなかった。これらのことから、大峰ダム建設前には、琵琶湖と淀川河口の間には魚類等の移動を阻害するような落差等はなく、魚類等は琵琶湖と大阪湾の間を遡上・降下していたと考えられる。

◆明治時代～昭和初期(大峰ダム建設後)

大正時代、昭和初期には、大峰ダム下流でボラ、スズキの海水魚、ウナギ、アユ等の回遊魚が確認されていたことから、河口から大峰ダムの間の縦断的な連続性はあったと考えられる。また、大峰ダムに設置されていた魚道は、アユ、ウナギが遡上していたとのヒアリング結果から、これより上流へも一部の魚類は遡上していたと考えられる。

◆現在(天ヶ瀬ダム建設後)

ウナギ、アユ等の回遊魚は、天ヶ瀬ダムが建設されてからは遡上を阻害され、現在は人為的に放流されたものを除く天然のものは天ヶ瀬ダムの下流のみで生息している。トウヨシノボリは天ヶ瀬ダムによって降下できなくなった個体が貯水池に陸封されており、海と河川を回遊する個体群と、貯水池と河川を回遊する個体群が上流と下流でそれぞれ生息している。

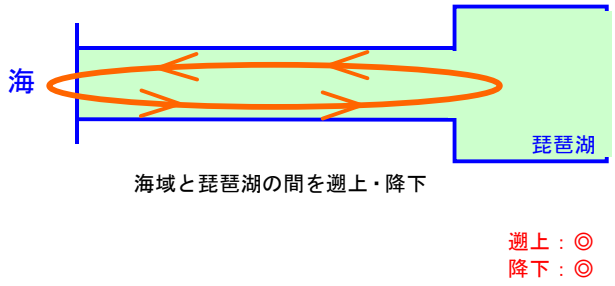
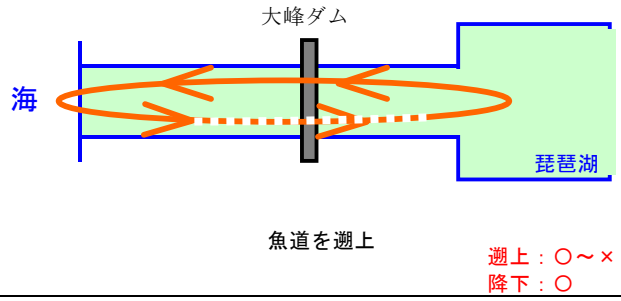
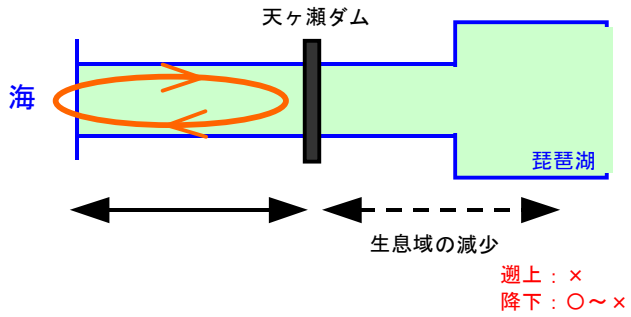
<table>
<tr>
<td>江戸時代～明治時代
（大峰ダム建設前）</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>大正～昭和時代
（大峰ダム建設後）</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>天ヶ瀬ダム建設以降</td>
<td>
</td>
</tr>
</table>

図 6.4-85　アユ等の魚類の遡上・降下の概要

出典：6-35(1)

(2)ダムによる影響の検証

連続性の観点からみた生物の変化に対するダムによる影響の検証結果を表 6.4-26、図 6.4-86に示す。

なお、回遊性魚類の遡上阻害に関する検証結果は、参考として示している。

表 6.4-26　連続性の観点からみた生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	回遊性魚類の陸封化	ダム湖内では、ウナギ、アユ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ及びチチブが、流入河川では、アユ、ウツセミカジカ、ウキゴリ、トウヨシノボリ及びヌマチチブが回遊魚として確認されている。	ダム上下流の分断	－	ウキゴリ、トウヨシノボリ及びヌマチチブに関しては ・ダム湖などに容易に陸封されることが知られていること ・天ヶ瀬ダムには魚道が設置されていないこと ・平成 2 年度以降、経年的に流入河川で確認されていること ・平成 13 年(2001 年)度の調査において比較的小型の個体も確認されていること などから、ダム湖の環境に適応し、陸封化したと考えられる。	●

※1 検証結果

●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、魚類の遡上・降下に関する調査は実施していないため、参考として、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

検討項目		生物の変化の状況	ダムによる影響	ダム以外による影響	検証結果	
生息状況の変化	回遊性魚類等の遡上阻害	ウナギ、アユ等の回遊魚の遡上が阻害されている。	ダム上下流の分断	－	回遊性魚類等の遡上が天ヶ瀬ダムによって阻害されている。	●

※1 検証結果

●：生物の生息・生育状況の変化がダムによると考えられる場合
○：生物の生息・生育状況の変化がダム以外によると考えられる場合
△：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
―：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

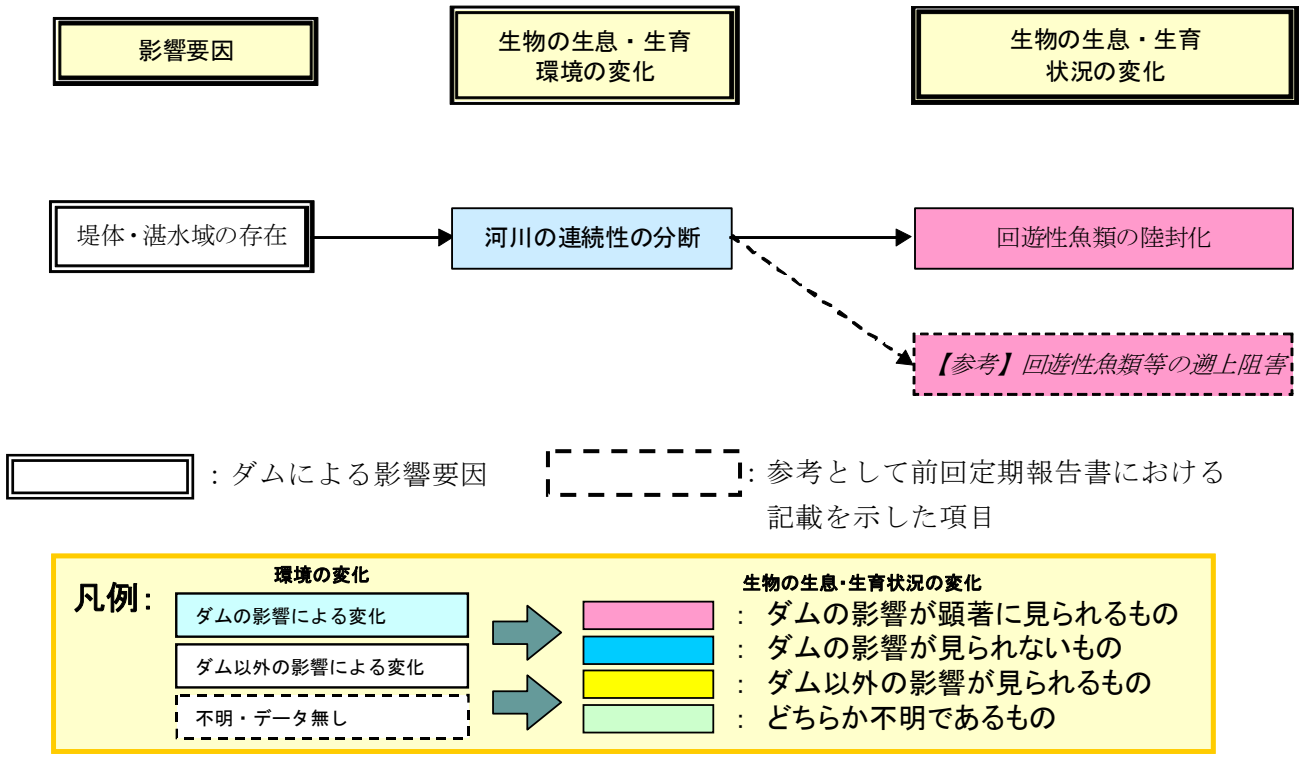


図 6.4-86　連続性の観点からみた生物の変化に対する影響の検証結果

※回遊性魚類の遡上阻害については、前回定期報告書に記載した調査結果を参考として示す。

6.4.6重要種の生息・生育状況の変化の検証

(1)変化状況の把握

重要種の生息・生育状況の変化を表 6.4-27～表 6.4-35に示す。

なお、両生類・爬虫類・哺乳類及び陸上昆虫類等については、参考として前回定期報告書の内容を記載している。

表 6.4-27(1)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
スナヤツメ	Ⅱ類 滋増大 京危惧	流入河川(信楽川)で春季と秋季に確認した。	河川の中流域で産卵し、ふ化した幼生は流れの緩やかな砂泥中で、有機物を食べて成長する。幼生はアンモシーテスと呼ばれ、目は皮下に埋もれている。4年目に変態し、砂礫底に産卵床を作り産卵し、死亡する。				●	●	H13に確認され、H19も引き続き確認されている。
ウナギ	不足	ダム湖内(瀬田川流入部)で春季に1個体確認した。	主として河川の中･下流域や河口域、湖にいるが、時には川の上流域、内湾などにも生息する。日中は石垣･土手の穴及び底の泥中などに潜み、夜間に摂餌活動を行う。			●			H8しか確認されていない。
コイ	地域 滋希少	主にダム湖内で確認した。	野生型は体形が細長く寸胴であり、養殖型(ヤマトゴイ)では体高が高い。 養殖型(ヤマトゴイ)が湖岸を中心とする沿岸帯に生息し、あまり沖合に移動しないのに対し、野生型では冬季には沖合の深みで越冬し、暖かくなると産卵のために大きな移動を行うことが知られている。	●	●	●	●	●	5回のいずれの調査においても確認されている。
ゲンゴロウブナ	ⅠB類 滋希少	ダム湖内(田原川流入部)で3個体確認した。	琵琶湖原産であるが、現在では養殖品種が各地へ放流され繁殖している。 産卵期以外は琵琶湖沖合の中層付近を遊泳し、主に植物プランクトンを食べている。 産卵期は3～5月で、大雨などの出水直後に大量の産卵が内湖やクリーク等のヨシ群落内で見られる。	●	●				H3・H6と確認されたがH8以降確認されていない。
ギンブナ	滋注目	ダム湖内及び流入河川で確認した。	周年、琵琶湖の沿岸や河川・沼等に生息し、藻類や底生動物などを食べている。 産卵期は4～6月。雄がいないことから、他のコイ科魚類の産卵に混じって産卵している可能性があり、異種精子により卵の発生が行われているものと考えられる。	●	●	●	●	●	H3に確認されてから、引き続き確認されている。

表 6.4-27(2)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
ニゴロブナ	ⅠB類 滋希少 京注目	減勢池内で確認した。	琵琶湖の固有亜種。 琵琶湖の底層に住み、産卵期には岸に接近する。動物プランクトンやユスリカ幼虫を捕食する。	●					H3しか確認されていない。
カネヒラ	滋増大 京危惧	ダム湖内及び流入河川で確認した。H19には下流河川でも確認した。	植物性を主とした雑食性で、9月中旬～11月下旬にイシガイ、タテボシ、セタイシガイなどの淡水二枚貝に産卵する。河川下流域に多い。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
シロヒレタビラ	ⅠB類 滋危惧 京危惧	ダム湖内(曽束大橋合流部)で春季に5個体確認した。	付着性藻類を主食とする雑食性魚で、4月下旬～7月にかけてタテボシ、セタイシガイ、ドブガイなどに産卵する。河川敷内の池や灌漑用水路に多い。		●				H6しか確認されていない。
ワタカ	ⅠB類 滋危惧 京注目	減勢池内で確認した。	琵琶湖・淀川水系の固有種。ワンドや水路に分布し、水草を主とする雑食性。	●					H3しか確認されていない。
ハス	Ⅱ類 滋希少 京注目	ダム湖内、流入河川で確認した。	琵琶湖・淀川水系と福井県三方湖に天然分布する。 日本産コイ科魚類の中では数少ない魚食性の魚であり、体長 18cm以上の成魚ではほぼ魚類専食となる。	●	●	●			H2、H6、H8と確認されていたが、H13以降は確認されていない。
ヌマムツ	滋分布 京準絶	主に流入河川で確認した。	雑食性で、6～8月に砂礫底の浅瀬で産卵する。 流れの緩やかな河川の下流域、平野部の灌漑用水や池沼などに生息する。		●	●	●		H6、H8、H13と確認されていたが、H19は確認されていない。
アブラハヤ	滋注目 京寸前	ダム湖内(田原川合流部)で確認した。	雑食性で、淵や平瀬の底層にいて、底生動物やその流下物、付着藻類などを食い、山間部に生息するものでは落下昆虫なども食う。 産卵期は一般に春から初夏にかけてで、産卵場は主として淵や平瀬の砂泥底または砂礫底である。		●	●			H6、H8と確認されていたが、H13以降は確認されていない。
タカハヤ	滋注目	流入河川(田原川)で秋季に1個体確認した。	河川の上流域から中流域、山あいの湖沼などに生息する。雑食性で、水生昆虫、落下昆虫、付着藻類、植物種子などを食う。					●	H19しか確認されていない。
モツゴ	滋希少	主に流入河川で確認した。	池沼、河川、用水路に生息し、特に泥底の淀みを好む。水質汚染や環境変化に強く、都市部の劣悪な水域環境にあっては、本種のみが生存する地域も少なくない。	●	●	●	●		H6、H8、H13と確認されていたが、H19は確認されていない。

表 6.4-27(3)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
ビワヒガイ	滋希少	主にダム湖内で確認した。	琵琶湖を中心に、瀬田川や琵琶湖流入河川にも分布。 産卵期は4～6月で、雌雄がペアとなってイシガイやドブガイなどの外套膜に直径4mm程度の大型の卵を産み付ける。 普段は水底近くを泳ぎ、水生昆虫や付着藻類などを食べる。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
ムギツク	滋希少	主に流入河川で確認した。	河川中・下流域やこれに連絡する灌漑用水路などに生息する。どちらかといえば底生で、岩の隙間や護岸のコンクリートブロックの間、沈水植物群の中などに棲む。 雑食性で、付着性の水生昆虫などを食べる。 産卵期は5～6月で、基質産卵型の営巣習性のある魚種に托卵する。 宿主として確認されているのは、オヤニラミ、ドンコ、ヌマチチブ、ギギ、モツゴである。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
ホンモロコ	ⅠA類 滋増大 京注目	ダム湖内、流入河川で確認した。	琵琶湖の固有種。 完全な湖沼型で、琵琶湖では水深5m以深の沖合中層を群泳している。3～7月に接岸して産卵する。 プランクトン動物を捕食する。	●	●				H2、H6と確認されていたが、H8以降は確認されていない。
ゼゼラ	滋希少 京危惧	ダム湖内、流入河川で確認した。	川の下流域、平野部の湖や池など、流れのほとんどない淀みの砂泥底に生息する。 泥表層の藻類やデトリタス、動物プランクトンなどを食す。 産卵期は4～7月で、ヨシやマコモの根に卵を産みつけ、オスが保護する。	●	●	●	●		H6、H8、H13と確認されていたが、H19は確認されていない。
コウライニゴイ	滋注目	ダム湖内、流入河川で確認した。	大きな河川の中・下流域や平野部に分布する。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
デメモロコ	Ⅱ類 滋注目 京注目	ダム湖内(田原川合流点)で春季に3個体確認した。	流れの緩やかな水域の泥底に多い。 産卵期は4～6月。雑食性。		●				H6しか確認されていない。

表 6.4-27(4)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
スゴモロコ	準滅	-	琵琶湖の水深 10m 前後の砂底や砂泥底の底近くを群泳する。産卵期は 5～6 月。卵は粘性のよわい沈性卵で、直接水底にばらまかれるらしい。	●					H2 しか確認されていない。
ドジョウ	滋注目	主に流入河川で確認した。	河川の流れの緩やかな泥底部、細流、浅い池沼、水田等にすむ。かつては水田と周辺の小水路が主たる生息域であった。 産卵期は春～夏。水田に遡上できる所では水田で産卵し、卵は泥上にばらまかれる。 泥底の中あるいは表面にすみ、泥中の有機物や底生生物を食べる。 冬は泥底に潜って冬眠する。腸で空気呼吸ができるので水中の酸素欠乏に強い。		●	●	●	●	H6 に確認されてから、H8、H13、H19 も引き続き確認されている。
アジメドジョウ	Ⅱ類 滋希少 京寸前	流入河川(信楽川)で H8 に 2 個体、H13 に 1 個体、H19 に 3 個体確認された。	石の表面につく珪藻などを主とした藻類食。11 月頃～4 月頃まで河床の伏流水内で越冬し、この期間に繁殖すると考えられている。主に河川上流域に生息し、平瀬の礫間や石の荒い場所を好む。			●	●	●	H8 に確認されてから、H13、H19も引き続き確認されている。
シマドジョウ	滋注目	流入河川で確認した。	河川の上流域下部から下流域上部にかけて、水がきれいで底生動物相が豊かな砂または砂礫底の流れのある場所で、時に砂中にもぐりながら、小動物やデトリタスを食べて生活している。 産卵期は 4 月下旬～6 月で小川の砂礫底の水生植物の茎や根に卵を産着させる。 冬季は砂中で越冬する。		●	●	●	●	H6 に確認されてから、H8、H13、H19 も引き続き確認されている。
スジシマドジョウ大型種	ⅠB類 滋危惧	主にダム湖内で確認した。	柳などの茂る岸に近い、水の撚れたところに多かった。産卵期は５～７月。増水時に河川敷にできる浅い水たまりに産卵する。雑食性。		●	●	●	●	H6 に確認されてから、H8、H13、H19 も引き続き確認されている。
ギギ	滋増大	主にダム湖内で確認した。	日中は石垣の間や水草地帯に潜み、夜間や増水時にエビ類や水生昆虫、小魚などを食べる。産卵期は 5～8 月で、雄が石の下やその隙間にナワバリを造って雌をさそって産卵する。	●	●	●	●	●	いずれの調査においても確認されている。

表 6.4-27(5)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
イワトコナマズ	準絶 滋増大	主にダム湖内で確認した。	琵琶湖、余呉湖及び瀬田川に分布。 岩場を主生息場とする。産卵期は5月上旬～7月中旬で、ふだんの生息地である岩場の水深2～3mまでの岸辺で､真夜中に産卵する。 小魚、エビ類、水生昆虫類を食べる。		●		●		H6、H13のみ確認されている。
ビワコオオナマズ	滋希少 京注目	主にダム湖内で確認した。	琵琶湖とそれから流出する瀬田川、宇治川、淀川に生息する。 フナやアユなどを捕食する。	●	●	●	●	●	5回のいずれの調査においても確認されている。
ナマズ	滋注目	流入河川でH6(大石川)とH13(瀬田川)に1個体ずつ､H19は目視観察で確認した。	ふだんは岸辺、あるいは内湖の水草地帯や石垣の中に潜み、夜間の泳ぎ出て小魚､エビ類、水生昆虫類を食べる。 産卵期は4月下旬～8月下旬で、降雨後の夜間に湖岸の水草地帯や水田、小溝などの一時的水域に入り込んで産卵する。		●		●	●	H6に確認されてから、H8に確認されなかったが、H13、H19も引き続き確認されている。
アカザ	Ⅱ類 滋希少 京危惧	流入河川(信楽川)でH6、H13に1個体ずつ確認した。	水の比較的きれいな川の中流から上流の瀬の石の下や間にすみ、石の隙間をかいくぐるようにして泳ぐことが多い。 夜間に活動することが多く、主に水生昆虫を食べる。		●		●		H6、H13のみ確認されている。
アユ	滋分布	ダム湖内、流入河川で確認した。	琵琶湖のアユは、流入河川でうまれたこどもは琵琶湖にくだり、冬の間は琵琶湖の中でプランクトン動物を食べて育つ。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
アマゴ	準絶 滋注目	H8に流入河川(信楽川)、H13にダム湖内(田原川合流点)で1個体ずつ確認した。	産卵は10～11月で雌雄がペアとなって砂礫底にすり鉢状の穴を掘って行う。稚魚は水生昆虫や陸からの落下昆虫を食べて成長する。			●	●		H8、H13と確認されていたが、H19は確認されていない。
メダカ	Ⅱ類 滋増大 京危惧	流入河川(大石川)で秋季に1個体確認した。	雑食性魚で、飼育下では終年産卵する。 河川敷内の流れの緩やかなたまりや池､水田、灌漑用水路に多い。				●		H13しか確認されていない。
ウツセミカジカ	ⅠB類 滋分布 京寸前	流入河川(大石川)で春季に1個体確認した。	琵琶湖北湖及びその流入河川の下流部に多く分布する。琵琶湖南湖には少ない。 2～4月に河川及び琵琶湖沿岸の石の下に雄が穴を掘って巣をかまえ、雌を迎え入れて石の底面に塊状に産卵させる。		●				H6しか確認されていない。

表 6.4-27(6)　重要種（魚類：天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2･3年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	変化の状況
オヤニラミ	Ⅱ類 京危惧	流入河川(大石川)で秋季に1個体確認した。	大河川の中流や下流の本流・支流に生息するが、川底がほとんど砂というような河相の貧弱な支流にはいない。流れのゆるやかな場所を好む。肉食性で、小型の水生昆虫など丸のみにできるものを食う。産卵期は4月下旬に始まり9月まで続くが、ほとんどの産卵は5月に集中する。					●	H19しか確認されていない
ドンコ	滋他重要	主に流入河川で確認した。	河川の上流域下部から下流域の淀みに生息する。農業用水路や池に生息する場合は地下水が湧く環境であることが多い。昼は石垣の間や岸辺の植物の根の下などに身をかくし、夜間に、生きた底生動物や魚類を食べる。 産卵期は4～7月。		●	●	●	●	H6に確認されてから、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
カワヨシノボリ	滋注目	主に流入河川で確認した。	河川の上流域の下部から中流域の上部の淵の周囲から平瀬にかけての流れの緩やかな所に生息し、付着藻類や小型の水生昆虫を食べる。 5～8月に石の下面に産卵。	●		●	●	●	H2に確認されてから、H6には確認されなかったが、H8、H13、H19も引き続き確認されている。
合計				9	26	22	24	19	

指指定区分
ＩＡ類　：環境省 RL 絶滅危惧ＩＡ類
ＩＢ類　：環境省 RL 絶滅危惧ＩＢ類
Ⅱ類　：環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類
準絶　：環境省 RL 準絶滅危惧
不足　：環境省 RL 情報不足
地域　：環境省 RL 絶滅のおそれのある地域個体群
滋危惧　：滋賀県 RDB 絶滅危惧種
滋増大　：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
滋希少　：滋賀県 RDB 希少種
滋注目　：滋賀県 RDB 要注目種
滋分布　：滋賀県 RDB 分布上重要種
滋他重要：その他重要種(全国及び近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)
京寸前　：京都府 RDB 絶滅寸前種
京危惧　：京都府 RDB 絶滅危惧種
京注目　：京都府 RDB 要注目種

出典：6-1～6-5

表 6.4-28(1)　重要種（魚類：隠元橋地点）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2年度	H6年度	H11年度	H16年度	H19年度	変化の状況
コイ	地域 滋希少	隠元橋付近で確認	野生型は体形が細長く寸胴であり、養殖型(ヤマトゴイ)では体高が高い。 養殖型(ヤマトゴイ)が湖岸を中心とする沿岸帯に生息し、あまり沖合に移動しないのに対し、野生型では冬季には沖合の深みで越冬し、暖かくなると産卵のために大きな移動を行うことが知られている。					●	H19しか確認されていない。
ギンブナ	滋注目		周年、琵琶湖の沿岸や河川・沼等に生息し、藻類や底生動物などを食べている。 産卵期は 4～6 月。雄がいないことから、他のコイ科魚類の産卵に混じって産卵している可能性があり、異種精子により卵の発生が行われているものと考えられる。		●		●	●	H6に確認されてから、H11に確認されなかったが、H16、H19も引き続き確認されている。
カネヒラ	滋増大 京危惧		植物性を主とした雑食性で、9月中旬～11月下旬にイシガイ、タテボシ、セタイシガイなどの淡水二枚貝に産卵する。河川下流域に多い。			●	●	●	H11に確認されてから、H16、H19も引き続き確認されている。
ハス	Ⅱ類 滋希少 京注目		琵琶湖･淀川水系と福井県三方湖に天然分布する。 日本産コイ科魚類の中では数少ない魚食性の魚であり、体長 18cm 以上の成魚ではほぼ魚類専食となる。	●	●	●	●	●	5回のいずれの調査においても確認されている。
モツゴ	滋希少		池沼、河川、用水路に生息し、特に泥底の淀みを好む。水質汚染や環境変化に強く、都市部の劣悪な水域環境にあっては、本種のみが生存する地域も少なくない。	●		●	●	●	H2に確認されてから、H6には確認されなかったが、H11、H16、H19も引き続き確認されている。
カワヒガイ	準絶 京危惧		川の中流から下流域やこれに連絡する灌漑用水路の、わずかに流れがある水深 1～3m程度の砂礫底を主な生息場所とし、岩・コンクリートブロックや沈水植物のすき間にひそむ。ユスリカ幼虫などの水生昆虫、小型巻貝、石面に付着する有機物や藻類を食う。 産卵期は 5～7 月で、最盛期は 5 月下旬～6 月上旬。卵はイシガイ、ササノハガイ、タガイなど淡水二枚貝の外套腔へ産み込まれるが、タナゴ類と異なり、産卵管は貝の入水管に挿入される。		●				H6しか確認されていない。

表 6.4-28(2)　重要種（魚類：隠元橋地点）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2年度	H6年度	H11年度	H16年度	H19年度	変化の状況
ビワヒガイ	滋希少	隠元橋付近で確認	琵琶湖を中心に、瀬田川や琵琶湖流入河川にも分布。 産卵期は 4～6 月で、雌雄がペアとなってイシガイやドブガイなどの外套膜に直径 4 mm 程度の大型の卵を産み付ける。 普段は水底近くを泳ぎ、水生昆虫や付着藻類などを食べる。		●				H6しか確認されていない。
コウライニゴイ	滋注目		平野部の湖、大きな河川の中・下流域から汽水域まで分布する。					●	H19しか確認されていない。
スジシマドジョウ中型種	Ⅱ類 京寸前		河川本流、中・下流の砂底に生息する。淵頭から上流に向かってできる、楔形の湾入部を好む。 産卵期は6月中旬～7月中旬。本流から支流を経て水田の近くまで遡上し、水田横の小溝などに産卵する。ふ化後、仔魚は稚魚になるまで一時的水域で過ごす。 雑食性。			●	●		H11、H16に確認されている。
ギギ	滋増大		昼間は石の下やヨシ場にひそみ、主に夜間に活動する。 雑食性であるが、主に底生動物や小魚を捕食する。 産卵期は5～8月で、石の下やそのすき間に産卵する。			●		●	H11、H19に確認されている。
ナマズ	滋注目		ふだんは岸辺、あるいは内湖の水草地帯や石垣の中に潜み、夜間の泳ぎ出て小魚、エビ類、水生昆虫類を食べる。 産卵期は 4 月下旬～8 月下旬で、降雨後の夜間に湖岸の水草地帯や水田、小溝などの一時的水域に入り込んで産卵する。			●	●	●	H11に確認されてから、H16、H19も引き続き確認されている。
アユ	滋分布		琵琶湖のアユは、流入河川でうまれたこどもは琵琶湖にくだり、冬の間は琵琶湖の中でプランクトン動物を食べて育つ。					●	H19しか確認されていない。
メダカ	Ⅱ類 滋増大 京危惧		雑食性魚で、飼育下では終年産卵する。 河川敷内の流れの緩やかなたまりや池、水田、灌漑用水路に多い。	●					H2しか確認されていない。

表 6.4-28(3)　重要種（魚類：隠元橋地点）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H2年度	H6年度	H11年度	H16年度	H19年度	変化の状況
ウツセミカジカ	ＩB類 滋分布 京寸前	隠元橋付近で確認	琵琶湖北湖及びその流入河川の下流部に多く分布する。琵琶湖南湖には少ない。 2～4 月に河川及び琵琶湖沿岸の石の下に雄が穴を掘って巣をかまえ、雌を迎え入れて石の底面に塊状に産卵させる。					●	H19しか確認されていない。
ドンコ	滋他重要		川の上流域下部から中流域の淵を中心に生息している。泥底よりは砂底や礫底を好む。 夜行性で動物食。 産卵期は5～7月で、大きな石の下等に産卵室をつくり、その天井に産みつける。				●		H16しか確認されていない。
カワヨシノボリ	滋注目		河川の上流域の下部から中流域の上部の淵の周囲から平瀬にかけての流れの緩やかな所に生息し、付着藻類や小型の水生昆虫を食べる。 5～8 月に石の下面に産卵。			●	●	●	H11に確認されてから、H16、H19も引き続き確認されている。
合計				3	4	7	8	11	

指定区分
Ⅱ類　　：環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類
準絶　　：環境省 RL 準絶滅危惧
地域　　：環境省 RL 絶滅のおそれのある地域個体群
滋増大　：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
滋希少　：滋賀県 RDB 希少種
滋注目　：滋賀県 RDB 要注目種
滋分布　：滋賀県 RDB 分布上重要種
滋他重要：その他重要種(全国及び近隣府県の状況から県内において注意が必要な種)
京寸前　：京都府 RDB 絶滅寸前種
京危惧　：京都府 RDB 絶滅危惧種
京注目　：京都府 RDB 要注目種

出典：6-21～6-25

表 6.4-29(1)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
タテヒダカワニナ	準絶滋分布	ダム湖内と流入河川で確認した。	琵琶湖固有種。湖周の比較的粗い砂礫底に生息し、淡水カイメンがあるようなところに多い。								●	●																H1、2のみ確認
ハベカワニナ	滋分布	ダム湖内で確認した。	琵琶湖固有種。砂礫底を好み、イボカワニナよりやや流水域で礫間の砂地にかたまっている。																	●								H10しか確認されていない。
イボカワニナ	準絶滋希少	ダム湖内で確認した。	琵琶湖固有種。砂、砂泥底に生息し、砂泥底の礫や杭に付着していることがある。																●								●	H9とH20しか確認されていない。
ナカセコカワニナ	Ⅰ類滋増大京危惧	流入河川で確認した。	琵琶湖固有種。流れの速いところで礫などに付着している。																		●					●		H11、16に確認されている。
ビワコミズシタダミ	準絶滋分布	下流河川で確認した。	琵琶湖固有種。湖内の水深2～80mまでの泥底に生息する。また北湖では礫湖岸にもわずかではあるが生息する。																●									H9しか確認されていない。

表 6.4-29(2)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
モノアラガイ	準絶	流入河川で確認した。	池沼や水田、川の淀みなどの水草や礫に付着している。ときには泥底に直接いることもある。産卵期にはゼラチン質に覆われた卵塊を水草や礫などの表面に産みつける。	●							●					●	●	●		●	●							H12以降確認されていない。
マルドブガイ	Ⅱ類 滋希少	ダム湖内で確認した。	琵琶湖固有種。砂泥底や泥底に生息し、比較的表層近くにいる。止水域を好む本種はバラタナゴの産卵母貝として最も適している。											●														H4しか確認されていない。
トンガリササノハガイ	準絶	ダム湖内で確認した。	各地の河川、池沼の流水域の砂泥底に生息する。						●			●			●												●	H6以降確認されていなかったが、H20に確認された。
タテボシガイ	滋分布	ダム湖内で確認した。	琵琶湖固有亜種。湖周の砂泥底、砂質泥底、砂底、砂礫底などに広く生息する。																		●		●		●	●			H11以降、4回確認されたが、H17,20は確認されていない。
マシジミ	準絶 滋希少	主にダム湖内で確認した。その他に流入河川、下流河川でも確認した。	河川や水田地帯の水路などの砂泥底、砂底、砂礫底などの軟底に生息する。				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			S60以降継続して確認されていたが、H20は確認されていない。

表 6.4-29(3)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
セタシジミ	Ⅱ類 滋希少 京危惧	主にダム湖内で確認した。その他に流入河川、下流河川でも確認した。	産卵期はほぼ周年。	●	●			●						●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●		H11以降は継続して確認されているが、H20は確認されていない。
ミドリビル	不足	下流河川で確認した。	琵琶湖水系固有種。底質は砂質のところに最も多く、砂礫、小礫、砂泥底にもみられるが、泥底にはみられない。		●						●																●	S58、H1、H20に確認されている。
イボビル	不足	流入河川、下流河川で確認した。	プランクトンや腐食質を水とともに吸い込んで、濾過して餌としている。			●										●						●			●		●		S59、H6、12、15、17に確認されている。
スクナビル	不足	下流河川で確認した。	雌雄異体。繁殖期は6～10月で、最盛期は6～8月である。															●										H8しか確認されていない。
アンナンデールヨコエビ	準絶 滋希少	流入河川、下流河川で確認した。	本州から九州にかけて分布し、池沼に生息する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				S57以降ほぼ継続して確認されていたが、H16以降は確認されていない。
ミナミヌマエビ	滋危惧	流入河川、下流河川で確認した。	北海道から本州にかけて分布し、池沼に生息する。																				●				●	●	H13、H17、H20のみ確認されている。

表 6.4-29(4)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
ヌマエビ	滋希少 京準絶	流入河川で確認した。	北海道から本州にかけて分布する。カエル及びサンショウウオの皮膚に外部寄生し、その血を吸う。						●																			S62しか確認されていない。
サワガニ	滋注目 京注目	流入河川、下流河川で確認した。	琵琶湖固有種。産卵期は秋で、冬～春にかけて稚エビが北湖全域に広がる。初夏～秋は北湖深底部ですごす。夏には日周垂直移動も行い、夜間に沖帯中層部まで浮上する。																								●	●	H17、H20しか確認されていない。
チノマダラカゲロウ	京注目	流入河川で確認した。	日本固有種。湖・池・沼や、流れの緩やかな河川の中流域に生息している。食性は雑食性で、付着藻類やデトライタスなどを食べる。																						●				H15しか確認されていない。
キイロサナエ	京準絶	流入河川で確認した。	池沼や川、水路などあらゆる水域にすむ。幼生はゾエアでふ化し、浮遊生活をおくる。産卵期は5～8月。ほぼ1年で成熟する。														●											●	H7、H20しか確認されていない。

表 6.4-29(5)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
メガネサナエ	準絶 滋増大	ダム湖内で確認した。	本州、四国、九州に分布する。純淡水産の種。冬季は岩の隙間、大きな石の下の穴などに潜って越冬する。きれいな川の指標種である。																							●			H16しか確認されていない。
メガネサナエ属の1種	準絶																										●		H20しか確認されていない。
キイロヤマトンボ	準絶 滋増大 京危惧	ダム湖内で確認した。	幼虫は河川下流域の流れが緩やかな場所に生息する。																								●		H20しか確認されていない。
フライソンアミメカワゲラ	準絶 滋注目	流入河川で確認した。	幼虫は平地～低山地の砂泥底の緩やかな流れに生息している。成虫は 5～7 月にみられる。												●	●						●								H5、6、12に確認されている。
イノプスヤマトビケラ	京注目	流入河川で確認した。	主に平地の湖や大きくて泥深い池沼とその流出入河川の出入部に生息するが、まったく池沼のない河川でもみられる。																								●		H17しか確認されていない。
カワムラナガレトビケラ	京注目	流入河川で確認した。	おもに丘陵地や低山地を流れる清流の周辺に生息し、幼虫はゆるやかな流れの砂底あるいは砂礫底の凹みにうずくまっている。																									●	H20しか確認されていない。

表 6.4-29(6)　重要種（底生動物）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H20年度	変化の状況
トランスクィラナガレトビケラ	京注目	流入河川で確認した。	河川の中・下流域に生息し、幼虫は流れの緩い瀬や平瀬で見つかる。3～4月に羽化する。																								●	H20しか確認されていない。
コカクツツトビケラ	京注目	流入河川、下流河川で確認した。	主に川の石礫の下に生息し、石粒で亀の甲状の巣をつくる。																					●			●		H14、H17しか確認されていない。
ハマダラナガレアブ	京準絶	流入河川で確認した。	幼虫は河川上流域に生息する。							●			●		●														S63、H3、5に確認されている。
ヨコミゾドロムシ	Ⅱ類	流入河川で確認した。	幼虫は河川上流域に生息し、幼虫時代は巣をつくらないが、蛹になるとき繭をつくる。																								●	H20しか確認されていない。
ゲンジボタル	滋郷土 京注目	流入河川で確認した。	幼虫は河川上流域である山地渓流に分布し、主に淵尻や岸辺近くの流れが緩やかな落葉が堆積した場所に生息する。											●													●	H4、20しか確認されていない。
瀬田川・宇治川の水生昆虫群集	滋保全	日本最大の湖であり地質学的に古い歴史をもつ琵琶湖から流出する瀬田川・宇治川などには、1960年代まで特有の種を含む多様な水生昆虫群集が知られていた。群集を構成する種の多くは、日本の他の地域では大きな河川の中・下流に生息する種である。																										–
合計				3	3	2	2	3	4	3	5	4	2	5	5	6	5	5	4	4	6	5	5	4	6	4	7	12	

指定区分
Ⅰ類　　：環境省 RL 絶滅危惧Ⅰ類
Ⅱ類　　：環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類
準絶　　：環境省 RL 準絶滅危惧
不足　　：環境省 RL 情報不足
滋危惧　：滋賀県 RDB 絶滅危惧種
滋増大　：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
滋希少　：滋賀県 RDB 希少種
滋注目　：滋賀県 RDB 要注目種
滋分布　：滋賀県 RDB 分布上重要種
滋保全　：滋賀県 RDB 保全すべき群集・群落、個体群
滋郷土　：滋賀県 RDB 郷土種
京危惧　：京都府 RDB 絶滅危惧種
京準絶　：京都府 RDB 準絶滅危惧種
京注目　：京都府 RDB 要注目種

出典：6-6、6-30

表 6.4-30(1)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-22年度	変化の状況
コヒロハハナヤスリ	滋希少 京危惧	H14は草地で、H21はアカマツ-モチツツジ群集内の林道上で確認した。	原野や湿地周辺に見られることが多い。多年草だが、地上部は秋から冬には枯れる。			●	●	H14に確認された個体は造成により消失したと考えられるが、H21に別の場所で確認された。
コハナヤスリ	近危惧C 京危惧	ダム湖周辺の造成地で、確認した。	コヒロハハナヤスリよりも人工的な環境（墓地や芝地）に出現しやすい。多年草だが、地上部は冬には枯れる。川原の砂地や、日当たりのよい草地などやや乾燥した砂質のところに生育する。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
ヤマドリゼンマイ	京注目	ダム湖周辺の湿地、コナラ林の林床で十数個体確認した。	山地の湿原にしばしば群生する夏緑性シダ。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ハコネシダ	滋希少 京危惧	ダム湖周辺のスギ植林林床の岩上、川沿いのコナラ林林床の岩上で確認した。	照葉樹の疎林の下で、あまり陰湿でない岩上や地上、他の植物が生育しにくい岩の隙間やオーバーハングに垂れ下がって生育することが多い。		●	●	●	H9に確認され、H14、H21も引き続き確認されている。
ミズワラビ	近準絶 京注目	ダム湖周辺の水田耕作地で確認した。	一年生の水生植物。水田や沼地の地中に根を下ろす。			●	●	H14確認地点はゲートボール場建設により消失したが、H21に近傍の水田耕作地で確認された。
シシラン	滋他重要	H21は田原川沿いの調査地区で確認した。	常緑の多年草で、大きな株になって岩の上や樹木の上に生育する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
アマクサシダ	京危惧	詳細な確認状況は不明である。	里山の山裾や路傍にある、常緑の多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
カミガモシダ	近危惧B 滋他重要 京準絶	ダム湖周辺のスギ植林の林床、コナラ林下の露岩地で確認した。	常緑性の小型多年草。渓谷沿いの岩上や斜面に生育することが多い。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イワトラノオ	滋希少	詳細な確認状況は不明である。	林内の岩上に生育する。			●	●	H14とH22に確認された。
イヌチャセンシダ	京注目	H21はダム湖周辺の谷筋で20個体確認した。	山地の岩上、まれに山麓や路傍の石垣にも生じる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
アオガネシダ	京寸前	ダム湖周辺の谷の岩上で約10個体確認した。	常緑性。山林中の岩上や樹幹に着生する。			●		H14しか確認されていない。
コバノカナワラビ	京注目	田原川沿い及び仙郷谷川沿いで確認した。	常緑性。やや乾燥した山地の林床に生じ、しばしば群生する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-30 (2)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
ヒロハヤブソテツ	滋希少 京危惧	スギ植林林床、瀬田川・田原川沿いで確認した。	沢筋の転石地などに見られ、高い湿度と半陰地を好む。常緑の多年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
カタイノデ	滋他重要	スギ-ヒノキ植林内で確認した。	山地のやや湿った林床に生育する。				●	H21しか確認されていない。
クリハラン	滋他重要	詳細な確認状況は不明である。	常緑性。暖地の林中や渓流沿いの陰湿な岩上や地上に群生する。		●	●		H9、H14と確認されていたが、H21は確認されていない。
ヤノネシダ	滋他重要 京準絶	ダム湖周辺の谷筋で群生しているのを確認した。	常緑性の多年草。照葉樹と夏緑樹がまじった林で、落葉層が発達している林床に生育し、根茎は環境に適応して林床や岩上をはい、また樹幹にもはい上がり、多様な葉をつけ生活する			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
アオネカズラ	近危惧C 滋危惧 京寸前	コナラ林下の大きな転石上で群生しているのを確認した。	低山地の樹幹や岩上に着生。夏に一時落葉する多年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
ビロウドシダ	京危惧	ダム湖周辺の露岩地で群生しているのを確認した。	常緑性。山中陰地の岩上やまれに樹幹に着生する。	●		●	●	H9は確認されなかったが、H14、H21と確認されている。
カワラハンノキ	滋他重要	詳細な確認状況は不明である。	落葉小高木。河原などに生育する。	●	●	●	●	H21に確認されなかったが、H22に確認された。
コバノチョウセンエノキ	近危惧C 滋希少	田原川沿いの調査地区で確認した。	落葉高木。山地のやや乾いた場所に生育する。				●	H21しか確認されていない。
イヌビワ	滋重要	詳細な確認状況は不明である。	落葉小高木。海岸や沿海の山地に自生する。		●	●		H9、H14と確認されていたが、H21は確認されていない。
タチハコベ	Ⅱ類 近危惧C 滋増大	曽束大橋下流の調査地区で確認した。	山地に生える 1 年草または越年草。				●	H21しか確認されていない。
コブシ	近危惧C 京準絶	ダム湖周辺のコナラ林で3m程度の低木1個体、林道付近の谷筋、コナラ林で幼樹1個体確認した。	落葉高木。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
マツブサ	京準絶	ダム湖周辺の林道脇で1個体確認した。	落葉の蔓性木本。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
ヘビノボラズ	近危惧C 京危惧	ダム湖周辺の湿原、林道の林床等で数～20個体を確認した。	湿地のほとりに生えるやや稀な落葉小低木。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ムベ	京準絶	ダム湖周辺のアラカシ林林縁で確認した。	蔓性の常緑木本。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ヤマシャクヤク	準絶 近危惧C 滋希少	ダム湖周辺のコナラ林林床で3個体確認した。	落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する多年草。			●		H14しか確認されていない。
トウカイコモウセンゴケ	近危惧C 京寸前	ダム湖周辺の湿地で、十数個体確認した。	湿地に生育する。		●			H9しか確認されていない。

表 6.4-30(3)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
オオチャルメルソウ	京危惧	谷筋で計50個体程度確認した。	湿った山林内にはえる多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
タコノアシ	準絶 近危惧C 滋他重要 京寸前	大石川河口、瀬田川左岸で確認した。	湿地性の多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ユキヤナギ	近準絶 京注目	大石川沿いで確認したが、逸出したものと考えられる。	庭や公園に良く植えられている。 野生で残っているのは川の急流沿いの岩壁の洪水時には冠水するような所である。				●	H21しか確認されていない。
フユザンショウ	京注目	ダム湖周辺のウツギ林で1個体、林縁で1個体確認した。	常緑のサンショウ属の低木。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ヒメミソハギ	近危惧C 滋他重要 京準絶	ダム湖周辺の水田で多数確認した。	水田の畔や平地の湿地などに生育する1年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
ミズマツバ	Ⅱ類 近危惧C 京危惧	ダム湖周辺の水田で多数確認した。	水田や湿地にはえる小さな1年草。			●		H14しか確認されていない。
ミズユキノシタ	京準絶	詳細な確認状況は不明である。	水辺にはえるやわらかい多年草。		●		●	H9とH22に確認された。
ドクゼリ	近危惧C 滋他重要 京準絶	大石湿性草原、瀬田川沿いで各1個体確認した。	水辺にはえる多年草。			●	●	H14確認地点では確認されなかったが、H21に近傍地点で確認された。
クロミノニシゴリ	近危惧A 京寸前	ダム湖周辺の湿原周辺、谷上部、溜池周辺で数～10個体程度確認した。	山間の湿地のほとりに生える落葉低木。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イチヤクソウ	京準絶	詳細な確認状況は不明である。	山野の林中にはえる常緑の多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14は確認されていない。
イチヤクソウ	京準絶	詳細な確認状況は不明である。	山野の林中にはえる常緑の多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14は確認されていない。
リンドウ	京注目	実などを確認した。	草地や山地にはえる多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14は確認されていない。
センブリ	京注目	花、実を確認した。	乾いた草原によく見られる。		●			H9しか確認されていない。
チョウジソウ	準絶 近危惧C 滋危惧 京絶滅	ダム湖周辺のキササゲ林の林床で40個体程度の群生を確認した。	暖温帯の河岸や原野などの湿った地域、ハンノキ林下、池沼の周辺などの草地に生育する夏緑性の多年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
コイケマ	滋注目	詳細な確認状況は不明である。	山の林縁や草地にはえる多年草つる植物。		●			H9しか確認されていない。
シタキソウ	近準絶 京絶滅	ダム湖周辺の河岸山道沿いで確認した。	海岸に近い山地内にはえる常緑のつる性植物。			●	●	H14確認地点では確認されなかったが、H21に近傍地点で確認された。

表 6.4-30(4)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
コカモメヅル	滋希少	ダム直下及び曽束川湿性草原で確認した。	草地や藪の中に生育するツル性の多年草。		●		●	H14は確認されなかったが、H21に再度確認されている。
カギカズラ	京危惧	ダム湖周辺のスギ植林林床、河岸山道沿いで確認した。	暖地の山地にはえる蔓生木本。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
コムラサキ	近危惧C 滋他重要	H21は曽束川下流左岸で1個体確認した。	暖温帯から亜熱帯の山麓や比較的自然度の高い湿生草地に見られる落葉低木。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
カリガネソウ	京準絶	ダム湖周辺の林道脇谷筋で5個体程度確認した。	山の谷沿いの草地にはえる多年草。	●	●	●		H14確認地点の谷筋は崩落しており、消失したと考えれらる。
クマツヅラ	滋希少 京準絶	花を確認した。	山野の道端に生える多年草。	●	●		●	H14は確認されなかったが、H21に再度確認された。
イガタツナミソウ	近準絶 滋注目	スギ-ヒノキ植林で確認した。	丘陵地の林内にはえる多年草。				●	H21しか確認されていない。
オオマルバノホロシ	近危惧C 滋他重要	ダム湖周辺のウキヤガラ－シロネ群落内、オギ群落内で確認した。	冷温帯、暖温帯の湖岸や河川敷の低湿地、湿原にはえるややつる性の多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
マルバノサワトウガラシ	Ⅱ類 近危惧C 滋希少 京寸前	H21はダム湖周辺の水田で数十個体を確認した。	湿地や水田に生える一年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
サワトウガラシ	京危惧	H21はダム湖周辺の水田で数個体を確認した。	沼や水田の湿地に生える一年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
コシオガマ	滋希少 京準絶	ダム湖周辺の林道脇の陽地で2個体確認した。	低山の日当たりのよい草地に生える半寄生の一年草。河川敷にも生育する。			●		H14しか確認されていない。
オオヒキヨモギ	Ⅱ類 近準絶 滋希少 京準絶	H21に曽束大橋下流の調査地区で確認した。	低地のやや乾いた草地に生える半寄生性の一年草。	●	●		●	H14は確認されなかったが、H21に再度確認された。
カワヂシャ	準絶 近準絶	大石湿性草原、田原川、瀬田川で確認した。	水辺や水田に生育する越年草。				●	H21しか確認されていない。
オギノツメ	滋増大	大石湿性草原、瀬田川で確認した。	湿地に生育する。				●	H21、H22に確認された。
ホザキノミミカキグサ	京準絶	ダム湖周辺の湿地で群生を確認した。	湧水のある貧栄養湿地に生育する。しばしばミミカキグサとともに生育する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-30(5)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
ムラサキミミカキグサ	準絶 近危惧C 滋他重要 京寸前	ダム湖周辺の湿地で群生を確認した。	丘陵地や低山地に散在する貧栄養湿地にモウセンゴケ類やホシクサ類、イシモチソウ、ミズギボウシなどとともに遷移初期～中期の湿地植生を形成している。主に泥質地に好んで生える。小型で食虫性の多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ナベナ	滋他重要 京準絶	ダム湖周辺のマント群落内で約30個体散生を確認した。	山地の草地にはえる粗大な越年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ヌマダイコン	滋注目	詳細な確認状況は不明である。	湿地や溝に生育する多年草。		●			H9しか確認されていない。
アワコガネギク	準絶	H21はダム湖周辺の県道3号線沿いの切土法面で20個体、田原川沿いで6個体を確認した。	山野の道端に生育している。	●		●	●	H9は確認されなかったが、H14以降は確認されている。
ノニガナ	滋希少 京寸前	H21は大石川及び大石湿性草原で確認した。	田んぼ道にはえる一年草。	●			●	H7に確認し、H9、H14と確認されなかったが、H21に再度確認された。
ネジレモ	滋重要	瀬田川の流水域に約1m^{2}の群生を確認した。	琵琶湖に生育する多年生の沈水植物。		●	●	●	H9に確認され、H14以降も引き続き確認されている。
コウガイモ	近危惧C 滋他重要 京危惧	詳細な確認状況は不明である。	湖沼、河川、水路などに生育する多年生の沈水植物。根生するリボン状の葉をもつ。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
ヒルムシロ	滋他重要	詳細な確認状況は不明である。	池沼、小川、水田などに生育する浮葉性多年草。		●		●	H9、H22に確認された。
イトトリゲモ	準絶 近危惧A 滋危惧 京寸前	ダム湖周辺の谷筋にできた小さな止水域に約1m^{2}の群生を確認した。	一年生の沈水植物。山間の水田(特に湿田)とその側溝、水のよく澄んだため池などに生育する。			●		H14しか確認されていない。
ニラ	近危惧A	詳細な確認状況は不明である。	多年草。	●				H7に確認し、H9、H14と確認されなかった。H21に再度確認されたが、明らかに栽培品の逸出であった。
コヤブラン	京注目	H21はコナラ林やシリブカガシ林の林床、湿性草原内のヤナギ林の林床、川沿い斜面林下で各1～2個体を確認した。	林下にはえる多年草。	●		●	●	H9は確認されなかったが、H14以降は確認されている。
ヒオウギ	滋他重要 京準絶	ダム湖周辺の林道の道端で1個体確認した。	日当たりのよい山野の草地などに生える多年草。			●		H14しか確認されていない。

表 6.4-30(6)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
ハナビゼキショウ	京準絶	H21は流入河川合流点付近の露岩の窪地に1個体を確認した。	湿地に生える多年草。	●			●	H7に確認し、H9、H14と確認されなかったが、H21に再度確認された。
ホシクサ	近危惧C 滋希少 京注目	ダム湖周辺の水田で2個体確認した。	水田や湿地、溜池に生育する一年生草本。			●		H14しか確認されていない。
ヒメコヌカグサ	準絶 近危惧C 滋他重要	ダム湖周辺の林道沿いで数個体を確認した。	山の水湿地に生える多年草。	●		●	●	H9は確認されなかったが、H14以降は確認されている。
ヌマカゼクサ	近危惧C 滋危惧 京寸前	流入河川の水際で帯状に群生を確認した。	ため池のふちなどのような湿地に生息する多年生植物。乾燥して水がすくなくなると生育できない。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
コゴメカゼクサ	近危惧A 滋増大	流入河川合流点付近の水際ほかで群生するのを確認した。	湿地や畦畔などに生える一年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
オオニワホコリ	京準絶	花を確認した。	日当たりがよい荒地、畑地などに多く生育する。	●				H7しか確認されていない。
ウシノシッペイ	京準絶	H21は瀬田川の岩上砂溜まりに帯状に群生しているのを確認したほか、曽束川左岸の高水敷の湿った草地に群生しているのを確認した。	低湿地に生育する多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ハイチゴザサ	京準絶	林道脇のハンノキ林の湿地等で確認した。	湿地に生育する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
エゾノサヤヌカグサ	滋希少 京危惧	花、実などを確認した。	水湿地に生育する多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
トウササクサ	滋他重要	詳細な確認状況は不明である。	林床や林内の林道沿いに生育する。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
ヌマガヤ	京寸前	ダム湖周辺の湿原やハンノキ林林床などで群生を確認した。	湿地にはえる大型多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
オオハンゲ	滋他重要 京準絶	田原川右岸の山道沿いや水の流れる谷境の岩場で確認した。	暖温帯における山地の林内に生育する。		●	●	●	H9に確認され、H14以降も引き続き確認されている。
エナシヒゴクサ	京寸前	川沿いで数十個体を確認した。	山地にはえる多年草。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
ヤマアゼスゲ	京準絶	ダム湖周辺の湿原付近で数個体確認した。	谷間の水辺などにはえる多年草。			●		H14しか確認されていない。
ヤガミスゲ	近危惧C 滋希少 京準絶	水際のまばらな草地で確認した。	河川敷や湿った草地などにはえる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-30(7)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
ミコシガヤ	近危惧C 滋危惧 京準絶	川沿いで数十個体を確認した。	県南部の川沿いの湿地や湖岸沿いの湿地や湿った草原に生える多年生草本。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ヤチカワズスゲ	京寸前	ダム湖周辺の湿原で十数個体確認した。	湿原や湿地にはえる多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
タカネマスクサ	滋他重要	田原川左岸の道沿いや右岸の河岸草地の2箇所で確認された。	森林または林縁の湿地や放棄水田に生える。		●		●	H9に確認し、H14は確認されなかったが、H21に再度確認された。
アオガヤツリ	京準絶	花を確認した。	ややわらかな1年草。	●				H7しか確認されていない。
ヒメガヤツリ	京危惧	実を確認した。	湿地にはえる1年草で叢生。		●			H9しか確認されていない。
シカクイ	京準絶	ダム湖周辺の湧水湿地で数十個体を確認した。	湿地にはえる。			●	●	H14に確認され、H21も引き続き確認されている。
イヌノハナヒゲ	京準絶	ダム湖周辺の湧水湿地で十数個体を確認した。	湿地にはえる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イトイヌノハナヒゲ	京寸前	ダム湖周辺の湿原でまばらに生育しているのを確認した。	平地や丘陵地の湿地にはえる多年草。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
コイヌノハナヒゲ	京寸前	花を確認した。	平地や丘陵地の湿地にはえる。	●				H7しか確認されていない。
コマツカサススキ	京危惧	花などを確認した。	日当たりのよい湿地や溜池の畔などにはえる多年草。	●	●			H7、H9と確認されていたが、H14以降は確認されていない。
ウキヤガラ	京準絶	低水敷、ヤナギ林がみられる中州の水路沿いに群生を確認した。	池沼の水辺、水湿地、休耕田などに群生する。泥質の浅い水中に生育し、冬季には枯れて水面に浮く。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
シラン	準絶 近危惧C 滋注目 京寸前	林道脇に約15個体を確認した。	湿原や湿った岩上などに生育する多年草。				●	H21のみ確認されている。
エビネ	準絶 滋他重要 京準絶	ダム湖周辺のスギ植林林床で約40個体確認した。	常緑の多年生草本。落葉広葉樹林などに多く見られるが、良く発達したスギ林などにも生育する。		●	●		H9、H14と確認されたが、H21は確認されなかった。
ナツエビネ	Ⅱ類 近危惧A 滋希少 京危惧	ダム湖周辺のケヤキ林の林床で確認した。	温帯林の林床にはえる常緑の多年生草本。			●	※	H14に確認された地点では確認できなかったが、近傍でエビネ属の一種（葉のみの確認で同定に至らず）を確認した。

表 6.4-30(8)　重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生育状況等	生態的特徴	H7年度	H9年度	H14年度	H21-H22年度	変化の状況
コクラン	京準絶	H21はダム湖周辺のシリブカガシ林林床で10個体を確認した。	常緑樹林の林床にはえる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
トキソウ	準絶 近危惧C 滋増大	ダム湖周辺の湿地で数個体確認した。	主に貧栄養の花崗岩質の湿地に生える。	●				H7しか確認されていない。
カヤラン	滋希少 京準絶	スギ枝に3個体を確認した。	常緑広葉樹の樹幹に着生する常緑の多年草。				●	H21、H22に確認された。

指定区分
IB類：環境省RL絶滅危惧IB類
Ⅱ類：環境省RL絶滅危惧Ⅱ類
準絶：環境省RL準絶滅危惧種
近危惧A：近畿RDB絶滅危惧A種
近危惧B：近畿RDB絶滅危惧B種
近危惧C：近畿RDB絶滅危惧C種
近準絶：近畿RDB準絶滅危惧種
滋絶滅：滋賀県RDB絶滅種
滋増大：滋賀県RDB絶滅危機増大種
滋希少：滋賀県RDB希少種
滋注目：滋賀県RDB要注目種
滋重要：滋賀県RDB分布上重要種
滋他重要：滋賀県RDBその他重要種
京絶滅：京都府RDB絶滅種
京寸前：京都府RDB絶滅寸前種
京危惧：京都府RDB絶滅危惧種
京準絶：京都府RDB準絶滅危惧種
京注目：京都府RDB要注目種

出典：6-7～6-10

表 6.4-31(1)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
カイツブリ	滋希少 京準絶	ダム湖内等を泳行していた。	池、湖沼、河川などに分布する。水生のヨシ群落中に浮巣をつくって営巣することが多い。水中の小魚やエビなどを採食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
カンムリカイツブリ	近準絶(繁) 滋希少	秋渡期に2個体、越冬期に1個体確認した。	主に淡水湖沼や大きな川に生息し、琵琶湖北部では100羽以上の群を見ることもある。 潜水して魚や水生生物を採って食べる。繁殖は4～9月にカイツブリ同様主にヨシ原内で大きな浮巣を作り行う。		●			H10しか確認されていない。
ササゴイ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	春渡期に1個体確認した。	河川の水際や浅瀬で小魚を採食することが多い。 街路樹や社寺林、河川敷のヤナギ林などに小さなコロニーをつくり繁殖する。		●			H10しか確認されていない。
オシドリ	不足 近準絶(繁) 滋希少 京危惧	ダム湖内で多数確認した。	平地から山地にかけての広葉樹が覆い被さるような薄暗い水辺を好む。 カシやシイなどのドングリを好んで採食するほか、水草やイネ科植物の種子、水生昆虫などを食べる。営巣は樹洞で行う。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
マガモ	近準絶(繁)	ダム湖内を泳行していた。	湖沼の水際の湿性草原に営巣し、付近の水上で餌をとる。 冬季は山間のダム湖、平地のため池や河川から海岸・内海に至るまで多様な水域に生息する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
トモエガモ	Ⅱ類 近準絶(冬) 滋希少 京準絶	水域で休息している個体を確認した。	主に関東地方以西で越冬し、大きな群れは少ないが、年によって数 100 羽の群れが見られることもある。湖沼や河川ですごす。 主に植物質を採食する。ドングリを好み、草の種子なども食べる。	●	●			H7、H10と確認されていたが、H15は確認されていない。
ヨシガモ	近準絶(冬) 滋希少	ダム湖内を泳行していた。	他のカモ類と一緒に水面に浮かんでいたり、泳ぎながら水面や水中で食物をとったりする。夕方、夜間、早朝などに水田や湿地で採食する。食物は、イネ科植物の実や水草など植物質が主である。		●	●	●	H10に確認され、H15、H18も引き続き確認されている。
ホオジロガモ	近準絶(冬) 滋希少	秋渡期に1個体確認した。	琵琶湖や大きな川の河口、池等に群れていることが多い。 盛んに潜って魚や水生昆虫、水草等を食べる。	●				H7しか確認されていない。
ミサゴ	準絶 近危惧(繁) 滋増大 京危惧	ダム湖上空を飛行、採餌を確認した。	海岸部に多いが、冬季、内陸部の河川や湖沼にも広く出現する。 停空飛翔した後、飛び込んで魚をとらえる。主食はスズキ、コイ、マス、フナ、ナマズなどの魚。海岸の孤立した岩の上や樹上で営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-31(2)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
ハチクマ	準絶 近危惧(繁) 滋増大 京危惧	飛行している姿を確認した。	南方で越冬し、日本へは3月から渡来しはじめるが、渡来数が増加するのは4～5月にかけてである。 地中のクロスズメバチの巣を掘り起こして捕食するほか、他のハチの巣やカエルなどを捕食することも多い。巣は森林内のアカマツ、カラマツ、モミなどの高木につくられる。		●	●	●	H10に確認され、H15、H18も引き続き確認されている。
オオタカ	国内 準絶 近準絶(繁) 滋増大 京危惧	飛行している姿を確認した。	繁殖期にはアカマツ林を営巣地とすることが多く、非繁殖期には、河川敷や都市の緑地などに広く出現する。 小中型の哺乳類や鳥類を捕食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ツミ	近準絶(繁) 滋希少 京危惧	春渡期に1個体確認した。	平地から山地の林に生息し、小鳥や昆虫を捕食する。 産卵は4月下旬～5月上旬で、針葉樹のほか、カシやコナラなどの広葉樹の地上15m前後の高い位置に営巣する。	●				H7しか確認されていない。
ハイタカ	準絶 近注目(繁) 滋希少 京準絶	飛行及び落葉広葉樹上で休息している姿を確認した。	営巣環境は山間部の広葉樹林やアカマツ林で、非繁殖期は林地に広く出現し、主に鳥類を捕食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ノスリ	近準絶(冬) 滋希少 京準絶	飛行及び落葉広葉樹上で休息している姿を確認した。	冬鳥として渡来する。 開けた場所（草地・伐採地・農耕地など）でハンティングを行い、ノネズミなどの小型哺乳類を空中から探索して捕食することが多い。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
サシバ	Ⅱ類 近危惧(繁) 滋希少 京危惧	飛行している姿を確認した。	丘陵地や低山帯の谷沿いに夏鳥として渡来する。 林縁部、水田畔、湿地、草地などで、ヘビ、トカゲ、カエル、ネズミ、昆虫などを捕食する。 主にアカマツ、スギなどの針葉樹に営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ハヤブサ	国内 Ⅱ類 近準絶(繁) 滋増大 京危惧	空中で採食している個体、飛行している個体を確認した。	海岸の崖などで営巣する。産卵期は3～4月。 春秋はタカ類の渡りルートでよく観察され、冬季は平地の開けた場所に生息することが多い。 主に小鳥を捕食する。	●	●			H7、H10と確認されていたが、H15は確認されていない。
ヤマドリ	滋重要 京準絶	繁殖期に1個体確認した。	草や木の葉、種子、昆虫、クモ類などを採食する。 地上にくぼみをつくり、枯れ葉を敷いた巣をつくる。	●				H7しか確認されていない。
コジュケイ	滋重要	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	降雪の少ない地方の平地から低山帯で、下やぶの繁った雑木林などに周年生息する。 4～7月に巣はやぶ蔭の地上に枯れ草を集めてつくる。 餌は雑食性で種子、草、昆虫類などを食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イカルチドリ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	水際の裸地で飛行・休息する姿を確認した。	開けた河川敷の砂礫地や中州、造成地などに生息し営巣する。 水生昆虫やミミズなどの小動物を採食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イソシギ	近危惧(繁) 滋希少 京準絶	水際の裸地で飛行・採食する姿を確認した。	海岸や湖岸、川岸で営巣する。 主として水生昆虫を採食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-31(3)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
タシギ	近準絶(冬) 滋希少	越冬期に2個体確認した。	湖岸や河川下流の砂浜、あるいは水田や休耕田の湿地で見られ、長い嘴を泥に突き刺して小動物等を食べる。 危険を感じるとじっと動かず、近づくと急に飛び立つ習性がある。		●			H10しか確認されていない。
アオバト	滋希少 京危惧	喜撰山大橋付近の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	丘陵地から山地の森林に生息し、主に樹上で果実を採食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ツツドリ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	ダム湖左岸の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	4月下旬に渡来し、低山帯の落葉広葉樹林や亜高山帯の針葉樹林に生息する。 昆虫を主食とし、鱗翅類の幼虫を好んで採食する。センダイムシクイ、ヤブサメ、キビタキなどに托卵する。		●	●		H10、H15と確認されたが、H18は確認されていない。
ホトトギス	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖周辺のスギ・ヒノキ植林及び落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	托卵習性があり、主な仮親はウグイスである為、低山から山地のササ藪のある林に生息する。餌は昆虫を主食として毛虫をよく食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
アオバズク	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	ダム湖流入部付近の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	夕方から夜にかけて昆虫（セミ、ガ、甲虫）などを採食する。樹洞で営巣し、一腹3～5卵を産む。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
フクロウ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	夜間、ネズミを採食する。樹洞で営巣し、一腹2～4卵を産み、メスが抱卵と育雛をする。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ヨタカ	Ⅱ類 近危惧(繁) 滋増大 京危惧	大石川流入部付近右岸の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	4月下旬から渡来し、夜に「キョキョキョキョキョ」と特徴的な鳴き声が聞かれるようになる。疎林、森林内の伐採地、農耕地内の残存林などに生息する。 夜行性で、主に飛びながら昆虫を捕らえる。6月に地上で産卵する。	●	●	●		H7、H10、H15と確認されていたが、H18は確認されていない。
ヒメアマツバメ	京危惧	ダム湖下流で、上空を飛翔する10個体を確認した。	コシアカツバメの古巣を利用して営巣する。営巣地近くの山の上、川や湖沼の上を飛んで昆虫を採食する。夏鳥。				●	H18に初めて確認されている。
ヤマセミ	近準絶(繁) 滋増大 京危惧	ダム湖岸沿いの水辺で飛行・休息する姿を確認した。	河川の山間部に生息し、冬季は市街地近くの河川でも観察されることがある。 川沿いの決まった枝に止まり、魚を見つけるとダイビングして捕らえる。崖に直径約10cm、深さ約1mの横穴を掘って営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-31(4)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
カワセミ	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖岸沿いの水辺で地鳴・採餌する姿を確認した。	平地から山地の川、池沼、湖辺などの水辺に生活し小魚の多いところを餌場としている。3～7cm くらいの魚を水辺に伸びた枝の上からダイビングで捕える。 水辺近くの崖､時にはかなり遠い所の崖に 50～100cm の横穴を掘って営巣する｡産卵は春から夏にかけて 4～7 個の卵を生む。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
アオゲラ	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	低山帯の落葉広葉樹林や針広混交林に多く棲み､木の幹に縦にとまって木をつついて､昆虫やその幼虫を食べる。 繁殖は 4～6 月に、主に枯れ木に深い穴を掘って行う。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
アカゲラ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内で飛行・採餌する姿を確認した。	木の幹にとまり昆虫を採食する。また、マツなど針葉樹の種子もよく食べる｡枯れかけた木の幹に穴を掘り、一腹 4～6 卵を産む。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
オオアカゲラ	近準絶(繁) 滋希少 京危惧	秋渡期に 1 個体確認した。	大木の特に枯れ木の多い自然林に生息する｡材中にいる節足動物を主な食物としており､特に大型甲虫の幼虫を多く採食するほか、果実も採食する。 森林の大木の高所に穴を掘って巣とする。		●		●	H10 に引き続き H18 も確認された。
コシアカツバメ	滋重要	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内等を飛行する姿を確認した。	ツバメより遅く渡来し､空中で昆虫を捕らえて食物とする｡ツバメと同様建造物に泥や枯れ草で巣を作るが､巣の形はとっくり状で入り口が狭い｡コンクリートのビルや橋など大きな建造物に集団で営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
イワツバメ	京準絶	大石川流入部付近を飛行する姿を確認した。	近畿地方ではコンクリートの橋の下の壁角を利用して営巣している例が多い｡泥で壺型の巣をつくる。	●		●	●	H10は確認されなかったが、H15、H18に再度確認されている。
ビンズイ	近注目(繁) 滋希少	ダム堤体右岸側のアカマツ林で地鳴を確認した。	繁殖期には山地の明るい林､林縁､木のまばらに生えた草原などに生息する｡冬季には平地や暖地の松林を好み､小群で林縁の地上を歩きながら種子などを食べている。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
タヒバリ	滋希少	H7 は春渡期に 1 個体、越冬期に 3 個体確認した。 H10 は越冬期に 1 個体確認した。	秋に渡来し、農耕地・河川・湖畔などの水辺や乾いた畑地など幅広い環境に適応し､地上を活発に歩きながら草の実や昆虫などを採餌する。	●	●			H7、H10と確認されていたが、H15以降は確認されていない。
サンショウクイ	Ⅱ類 近準絶(繁) 滋希少 京危惧	田原川流入部付近右岸、大石川流入部付近右岸の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	落葉広葉樹の高木､特にトチノキやホオノキが茂る環境に好んで営巣する｡樹林の上層部においてフライキャッチングで昆虫を捕らえる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-31(5)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
カワガラス	近準絶(繁) 滋希少	春渡期、越冬期にそれぞれ1個体確認した。	水辺から離れることはほとんどなく、水流、川にそって水面近くを上下している。水中に潜って水生昆虫を主な餌としている。川底を歩いたり水中を泳いだりできる。 営巣地は滝の裏側のくぼ地、岩のすき間、堰堤の水抜き穴で厳冬季から繁殖期に入る。		●		●	H15は確認されなかったが、再度H18に確認された。
ミソサザイ	近準絶(繁) 滋希少	主にダム湖右岸側のスギ・ヒノキ植林内等で地鳴・採餌を確認した。	山間部の渓谷、沢筋の落葉広葉樹林や亜高山針葉樹林に生息し、苔のある岩が重なる斜面、倒木の多い所で繁殖する。樹木の幹や根のすきまから甲虫などの昆虫類･クモなどを捕食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
カヤクグリ	近準絶(繁) 滋希少	喜撰山大橋付近左岸の落葉広葉樹林内で地鳴を確認した。	繁殖期は6～9月、雌がハイマツ、オオシラビソの低木の枝上に苔などを用いて椀型の巣を造る。 繁殖期は主に昆虫類を捕食、冬には種子を食べる。		●	●	●	H10に確認され、H15、H18も引き続き確認されている。
ルリビタキ	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内、スギ・ヒノキ植林内等でさえずり、地鳴、採餌等を確認した。	繁殖は亜高山帯の針葉樹林（5～8月）、主として林の下層で行動する。 下枝に止まって昆虫、クモなどを見つけるとすばやく下りて捕らえる。暗い環境を好むので、冬季に山麓や公園に来る場所は近くに暗い林があるような場所である。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
トラツグミ	近危惧(繁) 滋希少 京準絶	ダム湖上流の山林で、1個体のさえずりを確認した。	低山から深い山地で繁殖し、冬季は平地の公園などでも観察されることがある。昆虫、ミミズのほか、果実も食べる。				●	H18に初めて確認されている。
クロツグミ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	喜撰山大橋付近右岸の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	地上で昆虫やミミズを、樹上で果実などを採食する。メスが樹上に巣をつくり、一腹3～5卵を産む。			●		H15しか確認されていない。
ヤブサメ	滋希少	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内、スギ・ヒノキ植林内等でさえずりを確認した。	低山帯の落葉広葉樹林、針葉樹林に生息し、昆虫などを採餌する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
コヨシキリ	近準絶(繁) 滋希少	大石川流入部付近でさえずりを確認した。	湿地のヨシ原周辺や乾燥した草原などに生息し、6～7月の繁殖期にはヨシ原や草原で草の茎等にコップ型の巣を作り、4～6個産卵する。			●		H15しか確認されていない。
オオヨシキリ	近準絶(繁) 滋希少	大石川流入部付近でさえずりを確認した。	4月中旬に湖岸や内湖、河川のヨシ原に雄が先に渡来し、なわばりをかまえ、あとから来た雌と番になるが、一夫多妻制が知られている。 餌はヨシ原内で昆虫類を食べる。			●		H15しか確認されていない。
センダイムシクイ	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	日本には夏鳥として北海道から九州にかけての広葉樹林に渡来する。 低山帯の落葉広葉樹林に生息し、昆虫などを採餌する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-31(6)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
キビタキ	近準絶(繁) 滋希少	主に田原川合流点付近右岸の落葉広葉樹林内でさえずりを確認した。	日本には九州以北の広葉樹林に夏鳥として渡来する。 山麓から低山帯の広葉樹林や針葉樹の混交林に生息し、樹林の中枝に止まり飛翔昆虫を捕食する。 大木の樹洞や裂け目などに営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
オオルリ	近準絶(繁) 滋希少	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内、スギ・ヒノキ植林内でさえずりを確認した。	日本には九州以北の低山帯の樹林に夏鳥として渡来する。 山麓から低山帯の渓谷に面した森林に生息し、飛翔昆虫を捕食する。 崖の窪み等に営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
コサメビタキ	滋希少 京危惧	大峰橋付近を飛行する姿を確認した。	平地から山地の明るい落葉広葉樹林に渡来する。枝に止まって見張り、飛んでいる昆虫を見つけると追って採食する。			●		H15しか確認されていない。
サンコウチョウ	近準絶(繁) 滋希少 京準絶	大石川流入部付近右岸のスギ・ヒノキ植林内で採餌する姿を確認した。	薄暗く林床の開けた広葉樹林やスギ・ヒノキの植林地を好み、昆虫を空中で捕食する。樹木の枝の分岐部に巣をつくる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
コガラ	滋希少	ダム湖下流の1箇所で7個体を確認した。	夏緑広葉樹林の多い山岳地帯に生息・繁殖している。樹上で昆虫や種子を採餌し、貯食行動も行う。				●	H18に初めて確認されている。
ホオアカ	近準絶(繁) 滋希少	信楽川合流部付近の低草地を飛行する姿を確認した。	ホオジロ科では最も草の背の低い草原を好む。 越冬は水田の畦、水辺のヨシ原、河原などである。			●		H15しか確認されていない。
ミヤマホオジロ	近準絶(冬) 滋希少	秋渡期に5個体確認した。	越冬地では小群で生活し、平地から山地の雑木林、マツ林、竹林など明るい林縁で見られる。 イネ科、タデ科などの草の実、マツの種子などを拾って食べている。	●				H7しか確認されていない。
アオジ	近準絶(繁)	ダム湖周辺の落葉広葉樹林内、低木林、高草地等で地鳴、採餌等を確認した。	高原の草原から林縁にかけて営巣し、餌をとる。 冬季は平地から低山にかけての林内や林縁あるいは湖沼・河川・農耕地のヨシ原を含む草原に生息し、餌をとる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
クロジ	近準絶(繁) 滋希少 京危惧	ダム湖周辺のスギ・ヒノキ植林内で地鳴を確認した。	繁殖期はササの生えた亜高山針葉樹林や混交林で、冬季は山地の薄暗い林で過ごす。 繁殖期は昆虫、冬季は木や草の種子を主に地上で採食する。巣は地上1～2mの低木の中、ササの茎が密生する上に乗せるようにつくる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ベニマシコ	滋希少	主に曽束川流入部付近、大石川流入部付近左岸の低木林・高草地で地鳴を確認した。	冬鳥として広葉樹林や低木林や藪、草地、ヨシ原などにも生息する。 イネ科やタデ科などの植物の種子を食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認されている。
ウソ	滋希少	秋渡期に1個体確認した。	冬鳥として落葉広葉樹林や針広混交林などに生息する。 樹上性で小群で行動し、液果やカエデ類の乾果などの木の実や、木の芽、花芽なども食べる。	●			●	H18に再度確認された。

表 6.4-31(7)　重要種（鳥類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	変化の状況
シメ	滋希少	主に大石川流入部付近右岸の落葉広葉樹林内で飛行・休息している姿を確認した。	冬鳥として落葉広葉樹林や平地に生息する。 雑木林や公園の明るい林などで、カエデやシデ、ムクノキなどの木の実を食べる。	●		●		H10、H15と確認されたがH18は確認されていない。
コムクドリ	近準絶(通) 滋希少 京危惧	春渡期に１個体確認した。	湖岸や河川敷、公園や神社を含む、平地や丘陵地の明るい林に春と秋の渡りの時生息する。 餌はクモや昆虫類、木の実等を食べる。	●				H7しか確認されていない。
合計				44	45	44	42	

指定区分
- 国内：国内希少野生動植物種
- Ⅱ類：環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類
- 準絶：環境省 RL 準絶滅危惧
- 不足：環境省 RL 情報不足
- 近危惧：近畿 RDB 絶滅危惧種
- 近準絶：近畿 RDB 準絶滅危惧種
  （繁）、（冬）、（通）はそれぞれ近畿地方における希少性ランクを判定する際に対象となった繁殖個体群・越冬個体群・通過個体群を示す。
- 近要注目：近畿 RDB 要注目種
- 滋増大：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
- 滋希少：滋賀県 RDB 希少種
- 滋重要：滋賀県 RDB その他重要種
- 京危惧：京都府 RDB 絶滅危惧種
- 京準絶：京都府 RDB 絶滅危惧種

出典：6-11～6-14

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-32(1)　重要種（両生類）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H12年度	H17年度	変化の状況
ヒダサンショウウオ	準絶 滋希少 京準絶	ダム湖周辺の流入沢付近で幼生を確認した。	山地の林床に生息し、2～4月に、渓流の源流部で繁殖する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
アカハライモリ	準絶 滋注目 京注目	ダム湖周辺の各所で確認した。	低地から山地の水田や河川に生息し､4～6月に卵を1粒ずつ水草に産みつける。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニホンヒキガエル	滋希少 京準絶	ダム湖周辺のスギ・ヒノキ植林内で幼体を確認した。	本州西南部、四国、九州に自然分布し、京都府南部が全国的な分布限界になっている。 2～3 月に池などで繁殖し、オスは激しくメスを奪い合う。長い紐状の卵塊を産む。			●	H17に初めて確認されている。
タゴガエル	滋注目	ダム湖周辺の樹林内や湿地で確認した。	丘陵地から山地に見られ、3～5月に小渓流の縁にある岩の隙間や、湿地帯の地下にある伏流水中で繁殖する。 7 月頃変態して林床で生活し、昆虫、クモ、陸貝などを食べ、水中で冬眠する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニホンアカガエル	滋注目 京注目	林床で成体2個体確認した。	平地から丘陵地に生息し、2～4月に水田や湿地で繁殖する。こぶし大の卵塊を産む。		●		H12しか確認されていない。
トノサマガエル	滋注目 京注目	ダム湖周辺の各所で確認した。	平地、丘陵地に生息し､4～6月に水田、浅い池などで繁殖する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ナゴヤダルマガエル	ＩＢ類 滋増大 京寸前	ダムサイト周辺で鳴き声を確認した。	低地の湿地や水田、河川周辺に生息する。4～6月に2回にわたって産卵することが多い。卵を小さな塊に分けて水中の草などに産みつける。 成体や幼体は水辺から遠くには離れず、産卵場付近の草地や湿地などで生活し、昆虫やクモなどを捕食する。		●		H12しか確認されていない。

表 6.4-32(2)　重要種（両生類）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H12年度	H17年度	変化の状況
ツチガエル	滋注目 京注目	ダム湖周辺のスギ・ヒノキ植林内で成体を確認した。	5～9 月に水田や緩やかな流れで繁殖し、幼生のままで越冬することもある。		●	●	H12に確認され、H17も引き続き確認されている。
シュレーゲルアオガエル	滋注目 京注目	ダムサイト周辺で幼生を確認した。	3～5 月に水田の畦や湿地の地面にクリーム色の泡状卵塊を産む	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
モリアオガエル	滋注目	ダム湖周辺の樹林内や湿地で、成体、幼生、卵塊を確認した。	4～7 月に、300～800 個の卵を含む泡状の塊を池、沼、水田などの周辺の木の枝や草の根ぎわに産みつける。 成体は樹上で生活し、クモ、双翅類昆虫などを捕食する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
合計				6	9	8	

指定区分
ＩＢ類：環境省 RL 絶滅危惧ＩＢ類
準絶：環境省 RL 準絶滅危惧
滋増大：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
滋希少：滋賀県 RDB 希少種
滋注目：滋賀県 RDB 要注目種
京寸前：京都府 RDB 絶滅寸前種
京準絶：京都府 RDB 準絶滅危惧種
京注目：京都府 RDB 要注目種

出典：6-15～6-17

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、爬虫類に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-33　重要種（爬虫類）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H12年度	H17年度	変化の状況
クサガメ	京注目	曽束川・大石川流入部付近で確認した。	緩やかな河川や池沼周辺に生息し、5～7月に 1～3 回、4～11 卵を産む。雑食性。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニホンイシガメ	不足	曽束川・大石川流入部付近で確認した。	河川、池や水田に生息。5～7 月に産卵する。雑食性。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニホンスッポン	不足 滋注目 京注目	曽束川流入部付近で確認した。	用水路や河川の中・下流域に生息。4～5 月に交尾し、5～8 月に砂地に産卵する。	●		●	H12は確認されなかったが、H17に再度確認されている。
ニホントカゲ	滋注目 京注目	ダム湖周辺の林縁部などで確認した。	人家周辺でも見られ、4～5 月に繁殖し、メスは 6 卵を産んだ後ふ化まで世話する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
タカチホヘビ	滋注目 京注目	ダム湖左岸側のスギ・ヒノキ植林内で確認した。	半地中性でミミズが主食。夜行性。乾燥した環境ではあまり見られない。		●	●	H12に確認され、H17も引き続き確認されている。
シマヘビ	京注目	ダム湖周辺各所で確認した	平地から山地までの水田近辺に多く、カエルを主食とする。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ジムグリ	滋注目 京注目	曽束川流入部付近で確認した。	半地中性で小型哺乳類を食べる。山地性の傾向があり、比較的涼しい時に活動する。	●		●	H12は確認されなかったが、H17に再度確認されている。
アオダイショウ	京注目	ダム湖周辺各所で確認した	小型哺乳類と鳥類を主食とする。樹上性の傾向が強い。人家周辺にも現れる。	●		●	H12は確認されなかったが、H17に再度確認されている。
シロマダラ	滋注目 京注目	ダム湖左岸側の林道で確認した。	山地から平地の田畑周辺まで生息し、夜行性でトカゲやヘビなどを食べる。	●	●		H7、H12と確認されていたが、H17は確認されていない。
ヒバカリ	滋注目 京注目	大峰橋付近右岸側の林道で確認した。	薄明薄暮に活動し、水辺を好み、ミミズ、オタマジャクシ、カエルなどを食べる。		●		H12しか確認されていない。
ヤマカガシ	滋注目 京注目	ダム湖周辺のスギ・ヒノキ植林等で確認した。	平地から山地まで広く生息し、水田近辺に多い。カエルを主食とする。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニホンマムシ	滋注目 京注目	ダム湖周辺の崖や林縁部等で確認した。	カエルや小型哺乳類を主食とする。主に夜行性だが、日光浴する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
合計				10	9	10	

指定区分
　不足：環境省 RL 情報不足
　滋注目：滋賀県 RDB 要注目種
　京注目：京都府 RDB 要注目種

出典：6-15～6-17

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、哺乳類に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-34　重要種（哺乳類）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H12年度	H17年度	変化の状況
ニホンザル	滋注目 京注目	湖岸、曽束大橋を移動する個体や林縁部で糞を確認した。	10～150頭ほどの複オス複メス群をつくり、年間1～30km² の範囲を遊動して暮らす。雑食性で四季の変化に応じて葉、果実、樹皮、根、きのこ、昆虫などを採食する。	●		●	H12は確認されなかったが、H17に再度確認されている。 聞き取り調査により「宇治田原に群れがおり、宇治川沿いにたまに移動してくる」との情報が得られた。
ムササビ	滋希少 京準絶	スギ・ヒノキ植林で巣と糞、アベマキーコナラ群集等で糞を確認した。	低地から亜高山帯までの天然林及び発達した二次林に生息する。 夜間に樹間を滑空し、樹を移動しながら樹の芽・葉・花・種子などを食べ、日中は樹洞の巣などで休息する。		●	●	H12に確認され、H17も引き続き確認されている。
スミスネズミ	滋その他 京準絶	喜撰山大橋左岸側のスギ・ヒノキ植林内のトラップで1個体確認した。	ブナ・ミズナラなどの主に自然林に分布する。 植物の葉・茎などや種実なども食べる。	●			H7しか確認されていない。
カヤネズミ	滋希少 京準絶	流入河川の河畔等で巣球を確認した。	５～11 月頃、オギ、チガヤなどの高茎草本の葉で作った地上巣中で繁殖し、冬は地下で巣を作り生活する。昆虫や草本の種子などを食べる。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
タヌキ	滋郷土	ダム湖流入部付近など、ダム湖周辺で足跡、糞等を確認した。	郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息し、鳥類、ネズミ類などの小型動物、昆虫、野生果実類などを採食する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
キツネ	滋郷土	林縁部など、ダム湖周辺で糞等を確認した。	都市郊外から山岳地までさまざまな環境に生息するが、主には森林と畑地が混在する田園環境を好む。ネズミ類、鳥類、大型のコガネムシ類など主に小型動物を捕食しているが、コクワなどの果実類なども食べる。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
合計				5	4	5	

指定区分
滋希少：滋賀県 RDB 希少種
滋注目：滋賀県 RDB 要注目種
滋その他：滋賀県 RDB その他重要種
滋郷土：滋賀県 RDB 郷土種
京準絶：京都府 RDB 準絶滅危惧種
京注目：京都府 RDB 要注目種

出典：6-15～6-17

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-35(1)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
カネコトタテグモ	準絶 滋増大 京危惧	2 個体確認した。	乾燥した崖地に深さ10～20cmの横穴を掘り、入口に糸でつくった両開きの扉をつける。		●		H11しか確認されていない。
ゲホウグモ	滋希少	秋季の任意調査等で確認した。	昼は脚を縮めて枯れ枝の先端にとまっていることが多く、枯れ木と一体化しているようにみえて探しにくい。夜は、樹間に非常に細かいメッシュの垂直円網を張る。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。
オツネントンボ	京準絶	ダム湖周辺の草むらで確認した。	平地や丘陵地のアシなど抽水植物の生えた池沼に生息する。7～8月から新成虫が見られるが、未成熟成虫のまま越冬する。越冬後の成虫は発生地の池沼に飛来して、交尾、産卵する。			●	H16しか確認されていない。
ルリボシヤンマ	京準絶	ダム湖周辺を飛翔中の個体を確認した。	寒冷地の湿原や抽水植物が繁茂する泥炭質の小さな池沼などに生息する。成虫は7～9月頃にみられる。メスは単独で水際の植物の茎の組織内や湿った泥中に産卵する。			●	H16しか確認されていない。
オグマサナエ	Ⅱ類 滋希少	春季にアベマキーコナラ群集で確認した。	主に平地から丘陵地にかけての泥底のある古い池沼や、それにつながる緩流に見られることが多い。			●	H16しか確認されていない。
コノシメトンボ	滋希少	ダム湖周辺及び流入河川で飛翔中の個体を確認した。	幼虫は平地や丘陵地のどちらかといえば開放的なやや泥深い池沼に生息するらしく、成熟成虫はその付近で見つかる。未熟成虫は付近の林間に移り、人目につきにくい。6～7月に羽化し、成熟成虫は10月頃を中心に11月まで見られる。			●	H16しか確認されていない。
ミヤマアカネ	滋注目 京準絶	ダム湖周辺を飛翔中の個体を確認した。	丘陵地や低山地の水田や里山の緩やかで小さな流れのある場所が主な生息地。成虫は6月下旬頃～12月初旬頃まで見られる。未熟な個体は羽化した水域に近い草むらにいることが多いが、山頂などで見かけることもある。成熟したオスは水辺になわばりを作り、メスと交尾する。交尾後、雌雄は連結したまま岸辺に近い水面などで打水産卵をしたり、水際で打泥産卵を行う。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ツチゴキブリ	京注目	ダム湖周辺及び流入河川の石の下で確認した。	小型のゴキブリ類。体色は、全体淡褐色で、腹部周縁は黒色になる。前胸背周縁部は半透明。ウスヒラタゴキブリに似るが、腹部周縁の黒色紋、尾毛が太くて短い点で区別できる。			●	H16しか確認されていない。

表 6.4-35(2)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
ヒメカマキリ	京準絶	ダム湖周辺で成体及び卵鞘を確認した。	樹上性で、長方形（約5×12mm）の卵鞘を小枝などに産み付ける。熊本県での観察によると、幼虫越冬をした後4月頃に羽化、5月に産卵する。次世代成虫は初秋に出現し、産卵の後死滅。すなわち多化性の生活環を有するらしい。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ヒナカマキリ	京注目	ライトトラップ調査にて、1個体捕集した。	小型で敏捷性に富む。主に常緑樹の林床近くにすむが、枯葉と似た目立ちにくい色合いをしており、発見は容易でない。		●		H11しか確認されていない。
チョウセンカマキリ	京注目	ダム湖周辺の草むらで確認した。	草地や畑地、河川敷の草原など、明るい開けた環境を好み、都市部でも見られる。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
コバネササキリ	滋注目	秋季にヤナギタデーオオオナモミ群落で任意採集にて確認した。	水田や湿地周辺のイネ科草地にいるが、生息地は極限される			●	H16しか確認されていない。
ケラ	京注目	ダム湖周辺及び流入河川で確認した。	畑地、水田の畦等に生息。おそらく低地では普遍的に生息すると思われる。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
マツムシモドキ	京注目	ダム湖周辺の草むらで確認した。	低山地の二次林（樹上）に普通だが、樹上性のため採集例は多くない。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
カヤコオロギ	滋希少	ダム湖周辺の草むらで確認した。	乾いたイネ科草地にすみ、草の間を活発に動き回る。成虫は8～10月に現れる。近年減少したといわれる。			●	H16しか確認されていない。
クルマバッタ	京注目	湖岸や路傍の草むらで確認された。	安定した草原に生息。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。
ショウリョウバッタモドキ	京注目	ダム湖周辺の草むらで確認した。	体色は、緑白色。安定した草原に生息。			●	H16しか確認されていない。
ミカドフキバッタ	滋重要	数個体確認した。	比較的湿潤な広葉樹林の林縁（マント・ソデ群落）や林内の草本上に生息し、林床に草本の少ない人工林や林床の乾燥した森林にはほとんどいない。	●			H7しか確認されていない。
キンキフキバッタ	滋重要	ダム湖周辺の草むらで確認した。			●	●	H11に確認され、H16も引き続き確認されている。
ヤマトフキバッタ	滋重要	ダム湖周辺の草むらで確認した。		●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
Parapodisma属の一種	滋重要				●	●	H11に確認され、H16も引き続き確認されている。
セグロバッタ	京危惧	水田の畦で確認した。	体色は黒灰色～茶灰色で、黒褐色の斑紋がある。河川敷、丘陵地の疎らな草原。	●			H7しか確認されていない。
ハルゼミ	滋他重要	ダム湖周辺で鳴き声を確認した。	平地から丘陵地のアカマツ林などの乾燥した明るい林に生息し、成虫は4月中旬から6月末に現れる。鳴き声は晴天時に聞かれ、ゲージゲーシゲーシとゆっくりしたテンポで鳴く。1匹が鳴き出すと周囲の個体がそろって鳴くという、いわゆる合唱性を示す。			●	H16しか確認されていない。

表 6.4-35(3)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
フクロクヨコバイ	準絶 滋注目	1個体確認した。	広葉樹林の周辺及び林床に生育するススキに生息するが、個体数は少ない。		●		H11しか確認されていない。
ナカハラヨコバイ	不足	ダム湖周辺で確認した。	生態的な面はまったく分かっていないが、個体数は少ない。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
スナヨコバイ	準絶	1個体確認した。	海岸砂丘に生育するコウボウムギに生息する。	●			H7しか確認されていない。
ヤスマツアメンボ	滋他重要	夏季に湿原、河畔等における任意調査で確認した。	山地や湧水のある水温の安定した、樹木に囲まれた池沼や緩流に生息し、木陰に集まる。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
ナガミズムシ	準絶 滋注目	ダム湖周辺の水辺にいた個体を確認した。	池沼に生息する。			●	H16しか確認されていない。
オオコオイムシ	滋他重要	夏季に任意調査で確認した。	湿地や谷地にみられ、コオイムシより浅く閉鎖的な環境を好み、時に水が殆ど無い場所でも発見される。			●	H16しか確認されていない。
ヤマトセンブリ	不足	春季にスギ－ヒノキ植林等における任意調査で確認した。	湿地に生息する。成虫は4～5月に出現し、寿命は数日間。幼虫は水底で生活し、小動物を捕食する。			●	H16しか確認されていない。
マダラウスバカゲロウ	京準絶	ダム湖周辺で死体を確認した。	幼虫は非営巣性のアリジゴクで、ツノトンボ科幼虫に似ている。低山の崖地の基部や、樹木基部に堆積したシルトの表面下で餌を待ち伏せしている。		●	●	H11に確認され、H16も引き続き確認されている。
イノプスヤマトビケラ	京注目	H11に約500個体確認した。	渓流に広く分布し、最も普通のヤマトビケラ。体長5mm、開翅長14mm程度。近縁のGlossosoma altaicumより上流側に分布する傾向がある。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。
コカクツツトビケラ	京注目	ダム湖周辺のライトトラップで確認した。	日本のカクツツトビケラ科の中では、最も分布が広く個体数の多い種類である。体長5～6mm、開翅長20mm程度。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
ヒメセトトビケラ	京注目	ダム湖周辺の草むらで確認した。	本州と九州に分布し、国外では朝鮮半島からの記録がある。河川の中流から下流では比較的普通に見られる。体長4mm、開翅長13mm程度と、小型のヒゲナガトビケラである。			●	H16しか確認されていない。
クロツツトビケラ	京注目	ライトトラップで確認した。	本州の山地渓流には広く分布する。幼虫はシルクを分泌して作る光沢のある黒色。日本の渓流では普通種であるが、世界的に見ると特異な種類である。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。
コガタシマトビケラ	京注目	ダム湖周辺の草むらやダム湖周辺のライトトラップ等で確認した。	日本には本種を含めて3種が記載され、2種以上の未記載種があるが、この種が河川の最も下流側に生息する。幼虫で記載され、成虫がその後に記載された（Tsuda,1940）幼虫は長らく他の種と混同されて扱われてきた。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。

表 6.4-35(4)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
キブネシマトビケラ	京注目	ダム湖周辺のライトトラップで確認した。	山地性のシマトビケラである。タイプ産地は京都市の貴船川だけであるが、本州などの山地渓流には広く分布する。近似種があるので、種レベルの分類の確定にはタイプ産地の標本も含めて再検討が必要である。体長6mm、開翅長は16mm程度。幼虫との関係は明らかになっていない。			●	H16しか確認されていない。
ナカハラシマトビケラ	滋保全	ダム湖周辺のライトトラップで確認した。	どちらかといえば、河川の中流から下流に多い。			●	H16しか確認されていない。
オオシマトビケラ	滋保全	ダム湖周辺の草むらやライトトラップで確認した。	河川の中下流域に生息する。6～8月に羽化する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
オオミノガ	滋注目	秋季に林縁部における任意調査で確認した。	幼虫は極めて多食性で、多くの樹木の葉を食し、従来から果樹類・街路樹等の害虫として著名。			●	H16しか確認されていない。
アオイラガ	滋注目	夏季にアカマツーモチツツジ群集等におけるライトトラップで確認した。	従来から果樹類・街路樹等の害虫として著名な種で、また、幼虫は毒針を有するため衛生害虫としても有名。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
ウラナミアカシジミ	滋増大京準絶	ダム湖周辺のくぬぎ林で確認された。	年1化性で、成虫は平地では6月頃、山地でも7月初旬までには羽化する。幼虫の食樹は主にクヌギとアベマキなので、平地～低山地のクヌギを主体とした雑木林が主な生息地となる。成虫は夕方、クヌギなどの梢を活発に飛翔する。卵（卵内幼虫）で越冬する。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。
クロヒカゲモドキ	Ⅱ類滋重要京準絶	ダム湖周辺で夕方飛翔中の個体を確認した。	年1化性で、成虫は7月に羽化し、生き残りの個体は9月でも見られる。クヌギ、コナラ、ナラガシワなどからなる雑木林の林縁部などが主な生息地となっている。オスは夕方活発に活動する。食草はチガヤが知られているが、ススキなども利用していると考えられる。4～5齢幼虫で越冬する。			●	H16しか確認されていない。
オオヒカゲ	滋重要京準絶	ダム湖周辺の葉上に静止している個体を確認した。	雑木林や水田の周辺の湿地や草地などが主な発生地で、幼虫の食草は主にカヤツリグサ科のスゲ類である。年1化性で、成虫は6月下旬～8月頃に見られ、夕方活発に飛翔する。2～3齢幼虫で越冬する。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。

表 6.4-35(5)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
ウスタビガ	滋他重要	ダム湖周辺の樹上で繭を確認した。	本県では丘陵地に生息するが、1950年代頃までは平地にも多産した。成虫は晩秋11月に出現し、灯火に飛来する。幼虫はサクラ、ケヤキ、カエデをはじめ多くの落葉樹を食す。大津市瀬田のびわこ文化公園においては、植栽されたケヤキに発生がみられるが、生息密度は年によって変動が大きい。			●	H16しか確認されていない。
アミメキシタバ	滋増大	1個体確認した。	幼虫の寄主食物としてカシ類、クヌギが知られる。成虫出現期は7・8月で。		●		H11しか確認されていない。
コガタキシタバ	滋注目	1個体確認した。	主に丘陵地から山地の落葉広葉樹林に生息する。		●		H11しか確認されていない。
ミカドガガンボ	京注目	ダム湖周辺の湿った林床をふわふわ飛翔している個体を確認した。	幼虫は渓流近くの砂礫地にすむ。成虫も渓流沿いや林中に見られ、よく飛翔する。いずれの地域でも個体数はあまり多くはない。また林道の建設や河川の改修等によって生息域は狭まりつつある。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
トワダオオカ	京注目	ダム湖周辺の湿った林内で幹にとまっている個体を確認した。	成虫は林間を緩やかに飛翔し、オスは群飛するが、発見しにくい。メスは空中で卵を放出するという特異な産卵習性をもつ。メスも非吸血性である。幼虫は捕食性で、樹洞に生息するが、古タイヤの水たまりからも得られた記録がある。十分に生育した森林には広く分布している。			●	H16しか確認されていない。
アオメアブ	京注目	ダム湖周辺の葉上に静止している個体及び飛翔している個体を確認した。	幼虫、成虫ともに捕食性。双翅類では、草原における最大の種であり、草原が自然状態であればかなり普通に見られる。		●	●	H11に確認され、H16も引き続き確認されている。
オオイシアブ	京注目	ダム湖周辺の葉上に静止している個体を確認した。	幼虫、成虫ともに捕食性で、幼虫は太い朽ち木に生息し、成虫もしばしば朽木上に見られる。活動範囲は広く、各地の森林で発見されるが、個体数は極めて少ない。			●	H16しか確認されていない。
クロバネツリアブ	京注目	ダム湖周辺で飛翔中の個体を確認した。	生態は不明であるが寄生性と考えられる。現状での個体数は多い。			●	H16しか確認されていない。
ルリハナアブ	京準絶	1個体確認した。	詳しい生態は不明であるが、幼虫は水生で腐食物を食すると思われる。		●		H11しか確認されていない。
ハチモドキハナアブ	京準絶	ダム湖周辺の葉上に静止している個体を確認した。	成虫は樹液のしみでたクヌギに集まり、樹皮下に産卵する。幼虫の詳しい生態は不明。平地から丘陵にかけて分布する。			●	H16しか確認されていない。

表 6.4-35(6)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
コマバムツボシヒラタアブ	京注目	1個体確認した。	年数回発生し、成虫は夏季山地に見られ、晩秋に平地に降りて越冬し、春再び山へ移動するという、移動性の種と考えられている。		●		H11しか確認されていない。
アオバネホソクビゴミムシ	京注目	ダム湖周辺の石の下で確認した。	低地の湿地や河川敷にすむ種類のようである。			●	H16しか確認されていない。
オグラヒラタゴミムシ	京注目	ダム湖周辺の石の下で確認した。	暗褐色で金銅光沢があり、体下面、触角基部、前胸と上翅の縁部、脚は淡黄褐色。低地の湿地や草地に生息するようである。			●	H16しか確認されていない。
ヒメセボシヒラタゴミムシ	京注目	ダム湖周辺の石の下で確認した。	体は黒色で、前胸と上翅には虹色光沢がある。平地の湿地や河川敷に産する。		●	●	H11に確認され、H16も引き続き確認されている。
アオヘリアオゴミムシ	京注目	約20個体確認した。	河原・湿地に生息することが知られているほかは稀種のため報告を見ない。	●			H7しか確認されていない。
スナハラゴミムシ	準絶	夏季の任意調査で確認した。	本州、四国、九州に分布する。	●		●	H11は確認されなかったが、H16に再度確認されている。
ダイゴメクラチビゴミムシ	京寸前	ダム湖周辺の湿ったガレ場で確認した。	渓流沿いの地下浅層に生息するが、個体数は極めて少ない。			●	H16しか確認されていない。
キベリマメゲンゴロウ	滋希少	ダム湖周辺でライトトラップで確認。	良好な水質と自然な環境を保った、比較的大きな河川の中、下流域に生息する。	●			H7しか確認されていない。
ミズスマシ	京注目	ダム湖周辺の休耕田付近のため池で泳ぎ回っている個体を確認した。	水生甲虫。本科の甲虫は主として水面で活動し、そのため、空中を見る目と、水中を見る目、それぞれ1対ずつという不思議な体制を持っている。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ツマキレオナガミズスマシ	準絶	夏季の任意調査で確認した。	河川中流域の伏流水からの湧水があるところに生息する。		●		H11しか確認されていない。
ガムシ	京注目	ダム湖周辺の湿原で確認した。	幼虫、成虫ともに水生植物の多い池沼、水田、休耕田に生息する。幼虫は動物食、成虫は主に植物食。成虫は夜間灯火によく飛来する。生息地の嗜好範囲は広い。			●	H16しか確認されていない。
オオセンチコガネ	滋重要	ピットフォールトラップ、任意調査により確認した。	成虫・幼虫はシカやウシ等大型哺乳類の糞を食餌としている。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ホソマメコメツキ	京危惧	1個体確認した。	夏季、山地の潅木葉上で得られるが一般には少ない。		●		H11しか確認されていない。
ゲンジボタル	滋郷土 京注目	ダム湖周辺各所で、夜間光っている成虫を確認した。	カワニナを食するなど、観光養殖されるほどに生態はよく知られている。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ヘイケボタル	滋郷土 京注目	ダム湖周辺の夜間光っている成虫を確認した。	幼虫は水生である。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ヨツモンチビカッコウムシ	京危惧	任意調査で確認した。	不明だが、カワラタケなどのキノコから採れる。		●		H11しか確認されていない。

表 6.4-35(7)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
クロスジチャイロテントウ	京注目	ダム湖周辺で確認した。	生態は余りよくわかっていないが、アシ原に多い種である。京都市北山では路傍の草を掬って採れている			●	H16しか確認されていない。
マルツヤニジゴミムシダマシ	京注目	1個体確認した。	林内に生息。	●			H7しか確認されていない。
コメノゴミムシダマシ	京注目	1個体確認した。	貯穀害虫である。		●		H11しか確認されていない。
クスベニカミキリ	滋注目	夏季の任意調査で確認した。	5～6月に暖帯樹林帯に出現し、幼虫はクスノキ類に寄生する。クスノキの周囲をよく飛翔し、ノリウツギ、アカメガシワ等の花にも来集する。		●		H11しか確認されていない。
トウヨウホソアシナガバチ	滋希少	ダム湖周辺で確認した。	丘陵地から山地に生息し混生する。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
モンスズメバチ	滋他重要	ダム湖周辺で樹液に来ていた個体を確認した。	営巣場所は比較的大きな樹木の空洞が多く、人家の屋根裏などに造ることもある。閉鎖されて暗い空間を選ぶ。餌は大型の昆虫でセミ類を最も好む。			●	H16しか確認されていない。
オオスズメバチ	滋他重要	ダム湖周辺で飛翔中の個体を確認した。	雑木林のような多様性の高い環境を好む種。幼虫を育てるため、雑木林のような昆虫の豊富な環境を必要とする。営巣場所の多くは地下で、モグラ、ネズミなどの廃坑を利用することが多いが、時に、樹洞や屋根裏に造られる。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
ニッポンツヤバチ	京準絶	1個体確認した。	ドロバチモドキ類の中でも原始的とされる。希少種。地中に営巣し、ヨコバイ類を狩る。亜高山帯などのやや冷涼な場所で集団営巣することが知られている。	●			H7しか確認されていない。
トラマルハナバチ	京準絶	ダム湖周辺で訪花していた個体を確認した。	平地から低山に生息、他のマルハナバチと同じく、林床の地中にあるノネズミ類の坑道を利用して営巣する。メスは地中で越冬し、来春に単独で営巣を開始する。オスは秋に出現。	●	●	●	3回のいずれの調査においても確認されている。
クロマルハナバチ	滋増大京危惧	林縁部で確認した。	山地に分布。やや山地性のマルハナバチ。森林の地中のノネズミなどの穴に営巣する、社会性のハナバチ。4月下旬から11月初旬まで営巣し、それぞれの季節に開花する植物に依存している。	●	●		H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。

表 6.4-35(7)　重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	指定区分	生息状況等	生態的特徴	H7年度	H11年度	H16年度	変化の状況
アオスジハナバチ	京準絶	1個体確認した。	南西諸島には別亜種がいる。地中に営巣、かなり複雑な巣をつくるとされるが、詳細は不明。	●			H7しか確認されていない。
トモンハナバチ	京準絶	ダム湖周辺で訪花していた個体を確認した。	夏に、竹筒やヨシの筒に営巣する。ヨモギなどの綿毛を抱えて巣に戻り、それで育房を作る。ハキリバチの中ではやや特異な習性を持つ。ミソハギ、ニンジンボク、ネジバナを訪花する。			●	H16しか確認されていない。
合計				33	33	48	

指定区分
- Ⅰ類：環境省 RL 絶滅危惧Ⅰ類
- Ⅱ類：環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類
- 準絶：環境省 RL 準絶滅危惧
- 情報不足：環境省 RL 評価するだけの情報が不足している種
- 滋増大：滋賀県 RDB 絶滅危機増大種
- 滋希少：滋賀県 RDB 希少種
- 滋注目：滋賀県 RDB 要注目種
- 滋重要：滋賀県 RDB 分布上重要種
- 滋他重要：滋賀県 RDB その他重要種
- 滋保全：滋賀県 RDB 保全すべき群集・群落、個体群
- 滋郷土：滋賀県 RDB 郷土種
- 京寸前：京都府 RDB 絶滅寸前種
- 京危惧：京都府 RDB 絶滅危惧種
- 京準絶：京都府 RDB 準絶滅危惧種
- 京注目：京都府 RDB 要注目種

出典：6-18～6-20

(2)ダムによる影響の検証

重要種のうち、過去2回以上確認されているにもかかわらず、最新の現地調査において確認されておらず、生息・生育状況に変化があった可能性がある種を抽出し、ダムによる影響について整理した。

なお、両生類・爬虫類・哺乳類及び陸上昆虫類等については、参考として前回定期報告書の内容を記載している。

表 6.4-36　重要種（魚類）に関するダムによる影響の検証

種名	H2年度	H6年度	H8年度	H13年度	H19年度	ダムによる影響の検証
ハス	●	●	●			△:かつて産卵行動がみられた琵琶湖流入河川河口の砂底部の消失、外来性の魚食魚との競合などの影響（滋賀RDB）の可能性も考えられるが、影響要因は不明である。
ヌマムツ		●	●	●		△：雑食性で、6～8月に砂礫底の浅瀬で産卵する。流れの緩やかな河川の下流域、平野部の灌漑用水や池沼などに生息する。主に流入河川で確認したが、影響要因は不明である。
アブラハヤ		●	●			△：H6、8ともダム湖内で確認されていた。オオクチバスの捕食による影響も考えられるが、影響要因は不明である。
モツゴ	●	●	●	●		△：池沼、河川、用水路に生息し、特に泥底の淀みを好む。水質汚染や環境変化に強い種類であり、主に流入河川んで確認されていた。影響要因は不明である。
ホンモロコ	●	●				△：完全な湖沼型の生態を持ち、瀬田川下流の宇治川、琵琶湖疏水には流下個体が確認されている。宇治川での再生産は疑問視される。また、本来の生息地である琵琶湖では減少が著しいと言われている（京都RDB）が、生息状況の変化に対する影響要因は不明である。
ゼゼラ	●	●	●	●		△:川の下流域、平野部の湖や池など、流れのほとんどない淀みの砂泥底に生息する。泥表層の藻類やデトリタス、動物プランクトンなどを食す。ダム湖内、流入河川で確認されていた。影響要因は不明である。
イワトコナマズ		●		●		？:琵琶湖、余呉湖及び瀬田川に分布。岩場を主生息場とする。小魚、エビ類、水生昆虫類を食べる。主にダム湖内で確認した。断続的に確認されており、生息状況に変化があったかどうか不明である。
アカザ		●		●		？:水の比較的きれいな川の中流から上流の瀬の石の下や間にすみ、石の隙間をかいくぐるようにして泳ぐことが多い。流入河川(信楽川)でH6、13に1個体ずつ確認しただけであり、生息状況に変化があったかどうか不明である。
アマゴ			●	●		？:H8に流入河川(信楽川)、H13にダム湖内(田原川合流点)で1個体ずつ確認しただけであり、生息状況に変化があったかどうか不明である。
スジシマドジョウ中型種			●	●		？：下流河川の隠元橋地点において、H11に2個体、H16に1個体確認しただけであり、生息状況に変化があったかどうか不明である。

（凡例）ダムによる影響の検証結果
- ●：生物の生息･生育状況の変化がダムによる場合
- ○：生物の生息･生育状況の変化がダム以外による場合
- ×：生物の生息･生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
- △：生物の生息･生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ？：生物の生息･生育状況の変化が不明であった場合

表 6.4-37　重要種（底生動物）に関するダムによる影響の検証

種名	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20	ダムによる影響の検証
タテヒダカワニナ								●	●																	？：H1、2しか確認されておらず、生息･生育状況の変化は不明である。
モノアラガイ	●							●					●	●	●		●	●								△：ため池や川の淀みに生息している（環境省RDB）。H6～11は継続的に確認されているが、その他の期間はほとんど確認されず、変化要因については不明である。
タテボシガイ																		●		●		●	●			？：H11以降、断続的に確認されており、生息･生育状況の変化は不明である。
マシジミ				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		△：河川や水田地帯の水路などの砂泥底、砂底、砂礫底などの軟底に生息する。S60以降継続して確認されているが、H20は確認されていない。外来のタイワンシジミの増加も確認されており、変化の要因は不明である。
セタシジミ	●	●			●						●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●		？：琵琶湖水系固有種。H4以降は経年的に確認されているが、S62～H3のように確認されない期間もあることから、生息･生育状況の変化は不明である。
イボビル			●										●						●			●		●		？：S59以降の確認状況が断続的であることから、生息･生育状況の変化は不明である。
アナンデールヨコエビ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				△：主に琵琶湖北湖の深底部及び沿岸部に生息する種であるため（滋賀RDB）、琵琶湖から流下した個体が確認されたとも考えられるが、近年、外来種のフロリダマミズヨコエビの侵入も指摘されており、変化の要因は不明である。
フライソンアミメカワゲラ												●	●						●							？：H5、6、12のみの確認であることから、生息状況の変化は不明である。
コカクツツトビケラ																					●			●		？：H14、17のみの確認であることから生息状況の変化は不明である。
ハマダラナガレアブ							●			●		●														？：S63、H3、5のみの確認であることから、生息状況の変化は不明である。

（凡例）ダムによる影響の検証結果

●：生物の生息･生育状況の変化がダムによる場合
○：生物の生息･生育状況の変化がダム以外による場合
×：生物の生息･生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
△：生物の生息･生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
？：生物の生息･生育状況の変化が不明であった場合

表 6.4-38　重要種（植物）に関するダムによる影響の検証

種名	H7年度	H9年度	H14年度	H21年度	ダムによる影響の検証
コハナヤスリ	●	●			○：確認されたのが造成地であったため、改変等により消失した可能性がある。
アマクサシダ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
クリハラン		●	●		？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
イヌビワ		●	●		？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
イチヤクソウ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
イチヤクソウ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
リンドウ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
カリガネソウ	●	●	●		○：H14に確認された地点の谷筋が崩落しているため、消失したと考えられる。
オオマルバノホロシ	●	●			△：洪水時に流亡した可能性があるが、影響要因は不明である。
コウガイモ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
エゾノサヤヌカグサ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
トウササクサ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
コマツカササスキ	●	●			？：生育場所が記録されておらず、生育状況の変化が不明である。
エビネ		●	●		△：盗掘等の可能性もあるが、影響要因は不明である。

表 6.4-39　　重要種（鳥類）に関するダムによる影響の検証

種名	H7年度	H10年度	H15年度	H18年度	ダムによる影響の検証
トモエガモ	●	●			△：京都府内で比較的まとまった数が渡来する場所としては、喜撰山ダムと宇治川が知られているが、喜撰山ダムの越冬数は年々減少しているといわれている（京都RDB）。
ハヤブサ	●	●			？：留鳥として生息するが、繁殖しているつがいはごくわずかで、特定の場所で繁殖しているのみである。移動中または採餌中の個体を偶然確認できた可能性がある。
ツツドリ		●	●		？：H18は春季・秋季に調査が実施されていないため、確認されなかった可能性があり、生息状況に変化があったか不明である。
ヨタカ	●	●	●		？：H18は春季・秋季に調査が実施されていないため、確認されなかった可能性があり、生息状況に変化があったか不明である。
タヒバリ	●	●			△：秋に渡来し、農耕地・河川・湖畔などの水辺や乾いた畑地など幅広い環境に適応し、地上を活発に歩きながら草の実や昆虫などを採餌する。ダム周辺の農耕地等の環境に変化があった可能性も考えられるが、変化の状況は不明である。
シメ	●		●		？：冬鳥として渡来するが、年により変動があるため、生息状況に変化があったか不明である。

（凡例）ダムによる影響の検証結果
●：生物の生息･生育状況の変化がダムによる場合
○：生物の生息･生育状況の変化がダム以外による場合
×：生物の生息･生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
△：生物の生息･生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
？：生物の生息･生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、爬虫類に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-40　重要種（爬虫類）に関するダムによる影響の検証

（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	H7 年度	H12 年度	H17 年度	ダムによる影響の検証
シロマダラ	●	●		？：H7は草地で目撃、H12は路上で死体を確認したものである。元々、夜行性のため人目に触れる機会が少ないため、生息状況に変化があったどうか不明である。

（凡例）ダムによる影響の検証結果
●：生物の生息･生育状況の変化がダムによる場合
○：生物の生息･生育状況の変化がダム以外による場合
×：生物の生息･生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
△：生物の生息･生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
？：生物の生息･生育状況の変化が不明であった場合

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した検証結果を以下に示す。

表 6.4-41　重要種（陸上昆虫類等）に関するダムによる影響の検証

（参考：前回定期報告書記載内容）

種名	H7 年度	H11 年度	H16 年度	ダムによる影響の検証
ゲホウグモ	●	●		△：H7、H11と確認されていたが、H16は確認されていない。環境条件に変化があったかどうか不明であるため、変化の要因は不明である。
クルマバッタ	●	●		△：安定した草原に生息する（京都RDB）とされているが、安定した草地面積等の環境条件に変化があったかどうか不明であるため、変化の要因は不明である。
イノプスヤマトビケラ	●	●		×：渓流に広く分布する（京都RDB）とされており、H17底生動物調査で幼虫が確認されているため、環境の変化による影響はないと考えられる。
クロツツトビケラ	●	●		△：渓流に広く分布する（京都RDB）とされているが、天ヶ瀬ダム周辺の渓流環境に変化があったかどうか不明であるため、変化の要因は不明である。
ウラナミアカシジミ	●	●		△：幼虫の食樹は主にクヌギとアベマキなので、平地～低山地のクヌギを主体とした雑木林が主な生息地となる（京都RDB）とされている。天ヶ瀬ダム周辺においては食樹であるアベマキーコナラ群集は増加する傾向にあることから、変化の要因は不明である。
クロマルハナバチ	●	●		△：森林の地中のノネズミなどの穴に営巣する（京都RDB）とされているが、天ヶ瀬ダム周辺におけるノネズミの巣穴数等に変化があったかどうか不明であるため、変化の要因は不明である。

（凡例）ダムによる影響の検証結果
●：生物の生息･生育状況の変化がダムによる場合
○：生物の生息･生育状況の変化がダム以外による場合
×：生物の生息･生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
△：生物の生息･生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
？：生物の生息･生育状況の変化が不明であった場合

6.5生物の生息・生育状況の変化の評価

ダム及びダム以外の影響と生物の生息・生育状況の変化を検証し、影響要因が検証された場合に、評価の視点を定めて、評価を行い、今後の方針を検討した。

評価の視点は「第三次生物多様性国家戦略※」等を参考に、生物の生息・生育環境の保全の視点から設定した。

- 種の絶滅、地域個体群の消滅を回避する
- その川(地域)がもともと有していた多様な環境の保全・復元を図る
- 連続した環境を確保する
- その川(地域)らしい生物の生育・生息環境の保全・復元を図る
- 外来種対策によりその川(地域)の生物多様性を確保する

※平成 4 年(1992 年)のリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で調印された「生物の多様性に関する条約」を受け、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本方針と国のとるべき施策の方向を定めたものであり、平成 7 年(1995 年)に策定された後、全面的な見直しを行い平成 14 年に「新・生物多様性国家戦略」が、平成 19 年 11 月に「第三次生物多様性国家戦略」が策定された。

今後の方針については、ダム管理上の課題を解決するとともに、管理上の課題以外についても「天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン」を踏まえ、地域とダム管理者とが連携した取り組みを推進することを基本とした。

なお、両生類、爬虫類、哺乳類及び陸上昆虫類等に関する検証・評価結果は、参考として示している。

表 6.5-1(1)　生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針(ダム湖内)

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
魚類	・特定外来生物であるオオクチバス及びブルーギルが経年的に確認されており、また比較的小型の個体も確認されていることから、湖内で繁殖し定着しているものと考えられる。平成 19 年度には、オオクチバスが平成 13 年度よりもさらに増加している。	・外来種による影響が懸念されるため、生息状況を継続的に把握し、啓発・広報に努めるとともに、駆除対策の可能性について検討を行う。
底生動物	・平成 20 年度も引き続き、ダムサイト付近では、貧酸素状態にも強いイトミミズ目が、大峰橋付近ではシジミ類が優占的に生息している。	・止水域に特徴的な生物の出現であり、現状で問題はない。
植物	・ダム湖水位変動域は、冠水と干出が繰り返されるため、裸地化し、外来種が侵入しやすい環境となり、外来種が優占するようになった可能性がある。	・外来種による影響が懸念されるため、巡視や地域の方からの情報収集などの監視を継続する。 ・水位変動域の裸地化への対策について検討する。
鳥類	・平成 18 年度、オシドリはダム湖を越冬地として引き続き利用しているとともに、平成 15 年度以前と比較してカワウの確認割合が増加している。	・カワウについては、生息状況を継続的に把握する。

表 6.5-1(2)　生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針(流入河川)

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
魚類	・平成 19 年度も、平成 13 年度以前と同様にカワムツ、ヨシノボリ類など、淵のある流れの緩やかな中・上流河川に特徴的な魚類が多く生息しており、魚類相に大きな変化はみられていない。	・現状で問題はない。
底生動物	・平成 20 年度は、平成 17 年度と比較して、トビケラ目(ナカハラシマトビケラ等)が減少し、オヨギミミズ目のような泥質に生息する種が増加している。	・影響要因は不明である。

表 6.5-1(3)　生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針(下流河川)

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
魚類	・平成 19 年度もダム下流における魚類生息環境は平成 13 年度以前と大きく変化していないと考えられるが、特定外来生物であるオオクチバス、ブルーギルの確認数が多くなっており、ダム湖から流下あるいは放流の可能性がある。	・オオクチバスの影響が懸念されるため、今後も継続的に調査し、生息状況の把握に努める。 ・ダム湖内における外来種駆除対策の可能性について検討を行う。
底生動物	・平成 20 年度は、平成 17 年度と比較してカワヒバリガイの個体数割合が減少している。	・カワヒバリガイについては、在来種の生物環境への影響が懸念されるため、今後も継続的に調査を行い状況把握していく。 ・下流河川の砂礫環境を維持・向上させるため、引き続き、堆砂対策の検討を実施する。

表 6.5-1(4)　生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針(ダム湖周辺)

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
植物	・平成 22 年度は平成 14 年度と比較して、ダム湖周辺の森林におけるはアカマツーモチツツジ群集が減少しており、昭和 40～50 年代に猛威をふるった松食い虫による松枯れの影響が考えられる。 ・侵入経路は不明であるが、アレチウリ、オオキンケイギク等の外来植物が確認されている。	・自然現象であり、やむを得ない。 ・外来種による影響が懸念されるため、巡視や地域の方からの情報収集などの監視を継続するとともに、啓発・広報、緑化工事での配慮に努める
鳥類	・平成 18 年度は、平成 15 年度以前と比較してダム湖周辺の鳥類生息状況に大きな変化はみられていない。 ・猛禽類についても継続的に確認されており、猛禽類の生息環境が維持されていると考えられる	・現状で問題はない。 ・現状で問題はない。

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、両生類、爬虫類、哺乳類及び陸上昆虫類等に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した評価結果を以下に示す。

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
(参考) 両生類 爬虫類 哺乳類	(参考　前回定期報告書) ・ヒダサンショウウオ等の卵及び幼生がダム湖へ流入する沢の周辺で確認されており、良好な渓流環境が維持されている。 ・侵入経路は不明であるが、ヌートリア、チョウセンイタチの生息・生育が確認されている	(参考　前回定期報告書) ・現状で問題はない。 ・外来種による影響が懸念されるため、生息状況を継続的に把握するとともに、啓発・広報に努める。
(参考) 陸上昆虫類等	(参考　前回定期報告書) ・樹林性・草原性のチョウ類の確認種数に大きな変化がなく、天ヶ瀬ダム周辺のチョウ類の生息環境に大きな変化はないと考えられる。 ・最近侵入したアルファルファタコゾウムシやブタクサハムシ等、新たな外来種が分布を広げている。	(参考　前回定期報告書) ・現状で問題はない。 ・外来種による影響が懸念されるため、生息状況を継続的に把握するとともに、啓発・広報に努める。

表 6.5-1(5)　生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針(連続性)

生物項目	主な検証結果	評価と今後の方針
魚類	・平成 19 年度もトウヨシノボリ等の回遊性魚類がダム湖内で確認されており、引き続き陸封化されていると考えられる。 ・回遊性魚類等の遡上が天ヶ瀬ダムによって阻害されている。	・陸封化され、ダムでの生息は維持されている。 ・ダム下流での生息は維持されているが、生活史は分断されており、魚類の遡上・降下を促進する対策について検討する。

6.6まとめ

生物の生息・生育状況の変化の主な検証・評価と今後の方針をまとめて以下に示す。

【生物のまとめ】

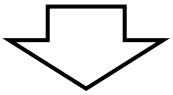
■ダム湖内、流入河川、下流河川とも、生物の生育・生息環境は維持されている。

■外来種の侵入による影響が懸念されるため、在来種の保全の視点から現状は好ましくない。

■回遊性の魚類については、アユ・ウナギ以外は、陸封化によりダム湖での生息は維持されており、ダム下流での生息も維持されている。

■ダム直下流においては、河床材料の変化（粗粒化）によって底生動物の生息環境が変化した可能性があり、河川環境の保全の観点から好ましくない。

■ダム湖水位変動域は、裸地化し、外来種が侵入しやすい環境となっている可能性がある。



【今後の方針】

■引き続き、河川水辺の国勢調査等において重要種、外来種等の生息・生育状況の把握に努める。

■外来種については、継続的な調査、監視に努める。また、その分布拡大や侵入の防止に配慮する。

■魚類の遡上・降下、下流への土砂移動、水位変動域の緑化対策等について、引き続き検討を行う。

6.7文献リスト

表 6.7-1(1)　使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月	箇所
河川水辺の国勢調査(ダム湖版)	6-1	平成2年度淀川水系河川水辺の国勢調査(天ヶ瀬ダム･魚介類)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成3年2月	魚類
		平成3年度天ヶ瀬ダム河川・水辺の国勢調査作業	淀川ダム統合管理事務所	平成3年11月	魚類
	6-2	平成6年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(魚介類)	淀川ダム統合管理事務所	平成6年	魚類、放流実績
	6-3	平成8年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(魚介類)	淀川ダム統合管理事務所	平成9年	魚類、放流実績
	6-4	平成 13 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(魚介類)	淀川ダム統合管理事務所	平成 14 年3月	魚類、放流実績
	6-5	平成 19 年天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(魚類)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 20 年3月	魚類
	6-6	平成20年天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(底生動物)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 21 年3月	底生動物
	6-7	平成7年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査業務植物調査編報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成8年	植物
	6-8	平成9年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(植物)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 10 年	植物
	6-9	平成 14 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(植物)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 15 年3月	植物
	6-10 (1)	平成21年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(植物)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 22 年3月	植物
	6-10 (2)	平成 22 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査総括資料作成業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 23 年2月	植物(ダム湖環境基図)
	6-11	平成7年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査業務鳥類調査編報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成8年	鳥類
	6-12	平成 10 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(鳥類)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 11 年	鳥類
	6-13	平成 15 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(鳥類)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 16 年3月	鳥類
	6-14	平成 18 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(鳥類他)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 19 年3月	鳥類
	6-15	平成7年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査業務両生類･爬虫類･哺乳類調査編報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成8年	両生類・爬虫類・哺乳類
	6-16	平成 12 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 13 年	両生類・爬虫類・哺乳類
	6-17	平成 17 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(哺乳類他)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 18 年3月	両生類・爬虫類・哺乳類
	6-18	平成7年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査業務陸上昆虫類等調査編報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成8年	陸上昆虫類等
	6-19	平成 11 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 12 年	陸上昆虫類等
	6-20	平成 16 年度天ヶ瀬ダム河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等)業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 17 年3月	陸上昆虫類等

表 6.7-1(2)　使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月	箇所
河川水辺の国勢調査（河川版）	6-21	平成 2 年度淀川魚介類調査業務報告書	淀川工事事務所		下流河川魚介類
	6-22	平成 7 年度 淀川水系(淀川・桂川・木津川)魚介類調査報告書	淀川工事事務所		下流河川魚介類、放流実績
	6-23	平成 11 年度淀川水系（淀川・宇治川・桂川・木津川）魚介類調査報告書　底生動物調査報告書	淀川工事事務所		下流河川魚類・底生動物、放流実績
	6-24	平成 16 年度淀川河川水辺の国勢調査(魚類・底生生物)業務報告書	淀川河川事務所	平成 17 年3月	下流河川魚類・底生動物、放流実績
	6-25	平成 19 年度 淀川河川水辺の国勢調査(魚類)業務 報告書	淀川河川事務所	平成 20 年3月	下流河川魚類
	6-26	平成 20 年度 淀川河川水辺の国勢調査(底生動物)業務 報告書	淀川河川事務所	平成 21 年3月	下流河川底生動物
	6-27	平成 7 年度　淀川河川水辺の国勢調査業務(陸上昆虫類等調査)報告書	淀川河川事務所	平成8年	ホタル
	6-28	平成 12 年度淀川河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等)業務	淀川河川事務所		ホタル
	6-29	平成 17 年度淀川河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等)業務報告書	淀川河川事務所	平成 18 年1月	ホタル
その他生物調査	6-30	天ヶ瀬ダム湖生物調査業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	昭和 57 ～ 平成 19年度	動植物プランクトン、底生動物（H17 年度まで)、付着生物
	6-31	天ヶ瀬ダム富栄養化調査検討業務	淀川ダム統合管理事務所	平成 21 年3月	植物プランクトン、付着生物
	6-32	天ヶ瀬ダム建設にともなう漁業補償のための生物調査報告	淀川ダム統合管理事務所	昭和 36 年8月	下流魚類
	6-33	天ヶ瀬ダムカワヒバリガイ調査	淀川ダム統合管理事務所	平成7年12月	その他調査－カワヒバリガイ
	6-34	平成 15 年度淀川大堰他魚類調査検討業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 16 年3月	回遊性魚類の確認状況
	6-35 (1)	平成 16 年度天ヶ瀬ダム魚類等遡上・降下影響評価に関する報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 17 年2月	魚道に関する検討
	6-35 (2)	平成 17 年度天ヶ瀬ダム魚類等影響評価検討業務　報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 18 年３月	
	6-36	平成 19 年度天ヶ瀬ダム湖岸緑化検討業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 20 年２月	湖岸緑化手法の検討
	6-37	天ヶ瀬ダム外来種対策調査業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 21 年３月	外来種対策
	6-38	天ケ瀬ダム上下流河床状況調査業務報告書	淀川ダム統合管理事務所	平成 22 年３月	河床状況と底生動物

表 6.7-1(3)　使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月	箇所
その他天ヶ瀬ダム等に関する資料	6-39	ダム管理年報	淀川ダム統合管理事務所	昭和 40～平成 21 年	各地点における水理量
	6-40	水質調査結果	淀川ダム統合管理事務所	昭和 51～平成 21年	各地点における水質
	6-41	天ヶ瀬ダム堆砂測量作業報告書	淀川ダム統合管理事務所	昭和 43～平成 20 年	堆砂実績
	6-42	淀川ダム統合管理事務所資料(航空写真)	淀川ダム統合管理事務所	昭和47、平成4、9年度	航空写真
	6-43	淀川ダム統合管理事務所資料(法面の種子吹きつけ)	淀川ダム統合管理事務所		下流河川植物
	6-44	宇治川河床材料工事報告書	淀川ダム統合管理事務所	昭和 39 年	下流河床材料
	6-45	河床材料整理報告書(淀川、木津川、宇治川)	淀川河川事務所	昭和 41 年3月	下流河床材料
	6-46	平成 15 年度淀川舟運航路確保検討業務　微細土砂モニタリング調査編資料	淀川河川事務所		下流河床材料
	6-47	河床変動調査	淀川ダム統合管理事務所	昭和 32、38、42、50、56、平成元、7、10、13 年度	河床変動
	6-48	ダム湖利用実態調査	淀川ダム統合管理事務所	平成 3～18 年（3 ヶ年毎）	ダム湖利用実態調査
	6-49	平成 18 年度堤防安定性検討業務報告書	淀川河川事務所	平成 19 年 3 月	下流河床材料

表 6.7-1(4)　使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月	箇所
出版物等	6-50	日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドリスト（第2次見直し）－	環境省	平成18年2月	重要種
	6-51	改訂・近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿2001	レッドデータブック近畿研究会	平成13年8月	重要種
	6-52	近畿地区・鳥類レッドデータブック	京都大学出版会	平成14年3月	重要種
	6-53	滋賀県で大切にすべき野生生物 平成17年版	滋賀県琵琶湖環境部自然保護課	平成18年3月	重要種、外来種
	6-54	京都府レッドデータブック 動物・植物編	京都府	平成14年2月	重要種、外来種
	6-55	大阪府における保護上重要な野生生物－大阪府レッドデータブック－	大阪府環境農林水産部緑の環境整備室	平成12年	重要種、外来種
	6-56	外来種ハンドブック(日本生態学会編)	地人書館	平成14年9月	外来種
	6-57	Aquatic insects of North America	R.W.MERRITT,K.W.CUMMINS	平成11年	底生動物摂食型・生活型等
	6-58	渓流生態砂防学	太田猛彦・高橋剛一郎	平成11年	底生動物摂食型・生活型等
	6-59	Ecology and classification of North American freshwater inbertebrates.Academic press	H.T.James,P.C.Alan	平成3年	底生動物摂食型・生活型等
	6-60	琉球列島の陸水生物	西島信	平成15年	底生動物摂食型・生活型等
	6-61	原色川虫図鑑	谷田一三監修	平成12年	底生動物
	6-62	日本産水生昆虫－科・属・種への検索	川合禎次他 編	平成17年	陸上昆虫類等
	6-63	山渓カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版	川那部浩哉他編・監修	平成元年	流水性止水性、プランクトン食魚類等
	6-64	自然観察シリーズ12〈生態編〉日本のチョウ	海野和男,青山潤三	昭和56年6月	チョウ類の生息環境
	6-65	原色日本野鳥生態図鑑＜陸鳥編＞	保育社	平成7年2月	鳥類
	6-66	原色日本野鳥生態図鑑＜水鳥編＞	保育社	平成7年3月	鳥類
	6-67	日本の野生植物　草本　Ⅰ　単子葉類	佐竹義輔他 編	昭和57年	植物
	6-68	日本の野生植物　シダ	岩槻邦男 編	平成4年	植物
	6-69	日本の野生植物　木本　Ⅱ	佐竹義輔他 編	平成元年	植物
	6-70	日本の哺乳類〔改訂版〕	阿部永 監修	平成17年	哺乳類
	6-71	川の生物図典	(財)リバーフロント整備センター編	平成8年	生態情報

6.8確認種リスト

底生動物、動植物プランクトン、付着生物、植物、陸上昆虫類等の確認種リストを以下に示す。

平成 18 年(2006 年)度～平成 21 年(2009 年)度においては、陸上昆虫類等に関する調査は実施していないため、前回定期報告書に記載した確認種リストを再掲した。

表　底生動物確認種リスト(1)

綱　名	目　名	科　名	種　名	学　名	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20
渦虫綱	順列目	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	Dugesia japonica		●	●			●	●			●	●				●			●	●	●	●	●	●	●	
			アメリカナミウズムシ	Girardia tigrina																								●	
		ヒラタウズムシ科	ヒラタウズムシ科	Planariidae sp.								●								●	●								
		ー	順列目	Seriata sp.															●										●
腹足綱	原始紐舌目	タニシ科	ヒメタニシ	Sinotaia quadrata histrica	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●					
			タニシ科	Viviparidae sp.																									
	盤足目	カワニナ科	タテヒダカワニナ	Biwamelania decipiens								●	●																
			ハベカワニナ	Biwamelania habei																	●								
			イボカワニナ	Biwamelania multigranosa																●									
			ナカセコカワニナ	Biwamelania nakasekoae																		●					●		
			カワニナ	Semisulcospira libertina							●	●			●	●	●	●				●		●	●	●	●	●	
			チリメンカワニナ	Semisulcospira reiniana						●			●					●		●			●		●	●	●	●	●	
			カワニナ科	Pleuroceridae sp.																									
	ミズシタダミ目	ミズシタダミ科	ビワコミズシタダミ	Biwakovalvata biwaensis																●									
	基眼目	モノアラガイ科	モノアラガイ	Radix auricularia japonica	●							●					●	●	●			●							
		サカマキガイ科	サカマキガイ	Physa acuta	●						●	●					●		●					●	●	●	●	●	●
		ヒラマキガイ科	ヒラマキガイ科	Planorbidae sp.																									
二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	カワヒバリガイ	Limnoperna fortunei													●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	イシガイ目	イシガイ科	マルドブガイ	Anodonta calipygos											●														
			Anodonta属	Anodonta sp						●																			
			トンガリササノハガイ	Lanceolaria grayana						●			●			●													
			タテボシガイ	Unio douglasiae biwae																		●		●		●	●		
			イシガイ	Unio douglasiae nipponensis					●				●		●			●		●	●				●				
			イシガイ科	Unionidae sp.																									
	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	Corbicula leana				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
			セタシジミ	Corbicula sandai	●	●			●						●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	
			Corbicula属	Corbicula sp.																									●
			シジミ科	Corbiculidae sp.																						●			
		マメシジミ科	Pisidium属	Pisidium sp.																		●							
ミミズ綱	ナガミミズ目	ナガミミズ科	ナガミミズ科	Haplotaxidae sp.																									●
	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	Lumbriculus属	Lumbriculus sp.			●													●									
			オヨギミミズ科	Lumbriculidae sp.																									●
	イトミミズ目	イトミミズ科	フクロイトミミズ	Bothrioneurum vejdovskyanum												●													
			Branchiodrilus属	Branchiodrilus sp.																									
			エラミミズ	Branchiura sowerbyi				●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
			Embolocephalus属	Embolocephalus sp.																●	●								
			フトゲユリミミズ	Limnodrilus grandisetosus															●	●	●	●	●	●	●	●			
			ユリミミズ	Limnodrilus hoffmeisteri												●	●	●	●			●	●	●			●	●	
			Limnodrilus属	Limnodrilus sp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
			Nais属	Nais sp.	●			●										●	●	●	●	●							●
			Ophidonais属	Ophidonais sp.																●									
			イトミミズ	Tubifex tubifex	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
			ミズミミズ亜科	Naidinae sp.																●									
			イトミミズ科	Tubificidae sp.																									●
		ビワミミズ科	ヤマトヒモミミズ	Biwadrilus bathybates	●	●	●				●	●	●		●				●		●	●							
		ー	ツリミミズ目	Lumbricida sp.																									
	ー	ー	ミミズ綱	Oligochaeta sp.		●	●		●																				
ヒル綱	吻蛭目	グロシフォニ科	ハバヒロビル	Alboglossiphonia lata	●																								
			ヒラタビル	Glossiphonia complanata								●													●	●			●	
			ミドリビル	Glossiphonia paludosa		●						●																	●
			ヌマビル	Helobdella stagnalis																									
			イボビル	Hemiclepsis japonica			●										●						●			●		●	
			アタマビル	Hemiclepsis marginata	●							●					●					●		●					●
			スクナビル	Torix orientalis															●										
			グロシフォニ科	Glossiphoniidae sp.	●	●		●		●	●					●					●	●	●				●		
	無吻蛭目	イシビル科	シマイシビル	Dina limeata					●							●												●	
			ナミイシビル	Erpobdella octoculata		●							●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			ビロウドイシビル	Erpobdella testacea		●																			●				
			イシビル科	Erpobdellidae sp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●									●
軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	Crangonyx floridanus																									
		キタヨコエビ科	アンナンデールヨコエビ	Jesogammarus annandalei	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
			キタヨコエビ科	Anisogammaridae sp.																									●
		ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ	Gammarus nipponensis							●	●	●	●	●	●	●			●				●		●	●	●	
		ー	ヨコエビ目	Amphipoda sp.																									●
	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	Asellus hilgendorfi hilgendorf	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ニセウオノエ科	エビノコバン	Tachea chinensis	●	●																							
	エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	Neocaridina denticulata																								●	
			ヌマエビ	Paratya compressa compressa						●																			
			ヌカエビ	Paratya compressa improvisa																									
			ヌマエビ科	Atyidae sp.																									
		テナガエビ科	テナガエビ	Macrobrachium nipponense	●					●	●	●	●	●	●	●			●		●			●		●		●	
			Macrobrachium属	Macrobrachium sp.																									
			スジエビ	Palaemon paucidens	●	●				●	●	●	●			●	●	●	●			●				●		●	
			テナガエビ科	Palaemonidae sp.											●														
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	Procambarus clarkii																									
		サワガニ科	サワガニ	Geothelphusa dehaani																									●
昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ	Ameletus costalis							●	●							●					●			●	●	
			ヒメフタオカゲロウ	Ameletus montanus															●										
			Ameletus属	Ameletus sp.																									●
		コカゲロウ科	ミツオミジカオフタバコカゲロウ	Acentrella gnom																									
			ミジカオフタバコカゲロウ	Acentrella sibirica							●	●		●															
			ヨシノコカゲロウ	Alainites yoshinensis																									●
			フタバコカゲロウ	Baetiella japonica						●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●				●	●	●	●
			サホコカゲロウ	Baetis sahoensis						●							●	●		●		●	●	●	●			●	
			フタモンコカゲロウ	Baetis taiwanensis																									●
			シロハラコカゲロウ	Baetis thermicus																●	●				●				●
			ヤマトコカゲロウ	Baetis yamatoensis													●			●									
			Jコカゲロウ	Baetis sp. J																									●
			Baetis属	Baetis sp.															●	●									●
			フタバカゲロウ	Cloeon dipterum																								●	
			Cloeon属	Cloeon sp.																									
			ウスイロフトヒゲコカゲロウ	Labiobaetis atrebatinus orientalis																●									
			トビイロコカゲロウ	Nigrobaetis chocoratus						●																			
			Dコカゲロウ	Nigrobaetis sp. D																									●
			Procloeon属	Procloeon sp.																									
			Eコカゲロウ	Tenuibaetis sp. E																			●						
			Hコカゲロウ	Tenuibaetis sp. H																●	●	●	●	●					●
			コカゲロウ科	Baetidae sp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ヒラタカゲロウ科	Cinygmula属	Cinygmula sp.																									●
			キブネタニガワカゲロウ	Ecdyonurus kibunensis																●									●
			クロタニガワカゲロウ	Ecdyonurus tobiironis													●												
			シロタニガワカゲロウ	Ecdyonurus yoshidae		●		●				●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●		●	●
			ＥＡタニガワカゲロウ	Ecdyonurus sp. EA													●												
			Ecdyonurus属	Ecdyonurus sp.																									●
			ウエノヒラタカゲロウ	Epeorus curvatulus							●		●	●	●		●			●	●				●			●	●
			ナミヒラタカゲロウ	Epeorus ikanonis							●	●					●	●		●									●
			エルモンヒラタカゲロウ	Epeorus latifolium							●	●	●	●			●	●		●	●		●		●			●	●
			ユミモンヒラタカゲロウ	Epeorus nipponicus																									
			Epeorus属	Epeorus sp.																									●
			Heptagenia属	Heptagenia sp.									●																
			Rhithrogena属	Rhithrogena sp.																									
			ヒラタカゲロウ科	Heptageniidae sp.																									
		チラカゲロウ科	チラカゲロウ	Isonychia japonica							●			●	●	●	●	●			●							●	●
		フタオカゲロウ科	オオフタオカゲロウ	Siphlonurus binotatus							●			●					●	●							●		
			Siphlonurus属	Siphlonurus sp.																									
		トビイロカゲロウ科	ヒメトビイロカゲロウ	Choroterpes altioculus												●	●	●					●	●			●		●
			トゲトビイロカゲロウ	Paraleptophlebia spinosa							●																		
			Paraleptophlebia属	Paraleptophlebia sp.																									●
			Thraulus属	Thraulus sp.																									
			トビイロカゲロウ科	Leptophlebiidae sp.																									●
		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	Ephemera japonica																									
			トウヨウモンカゲロウ	Ephemera orientalis													●							●					
			モンカゲロウ	Ephemera strigata								●	●					●					●				●		●
		カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	Potamanthus formosus	●	●		●		●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●			●		●
昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	Cincticostella elongatula						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									●
			クロマダラカゲロウ	Cincticostella nigra																	●				●				●
			Cincticostella属	Cincticostella sp.									●		●														●
			オオマダラカゲロウ	Drunella basalis								●		●						●	●							●	●
			ヨシノマダラカゲロウ	Drunella ishivamana																								●	
			コウノマダラカゲロウ	Drunella kohnoi																								●	
			フタマタマダラカゲロウ	Drunella sachalinensis														●											
			ミツトゲマダラカゲロウ	Drunella trispina																		●					●	●	
			Drunella属	Drunella sp.																									
			シリナガマダラカゲロウ	Ephacerella longicaudata						●	●	●								●	●					●	●		●
			ホソバマダラカゲロウ	Ephemerella atagosana												●	●			●									
			キタマダラカゲロウ	Ephemerella aurivillii												●				●									
			ツノマダラカゲロウ	Ephemerella cornuta																									●
			クシゲマダラカゲロウ	Ephemerella setigera										●	●	●	●					●	●	●	●	●	●		●
			Ephemerella属	Ephemerella sp.		●						●		●	●	●												●	●
			エラブタマダラカゲロウ	Torleya japonica	●								●							●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
			チノマダラカゲロウ	Uracanthella chinoi																							●		
			アカマダラカゲロウ	Uracanthella punctisetae	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ヒメシロカゲロウ科	Caenis属	Caenis sp.									●				●					●		●					
	トンボ目（蜻蛉目）	イトトンボ科	アオモンイトトンボ	Ischnura senegalensis																								●	
			クロイトトンボ	Paracercion calamorum																								●	
		モノサシトンボ科	モノサシトンボ	Copera annulata													●												
		カワトンボ科	ハグロトンボ	Calopteryx atrata							●						●			●								●	
			ミヤマカワトンボ	Calopteryx cornelia												●													
			Calopteryx属	Calopteryx sp.																									
			ニホンカワトンボ	Mnais costalis																									
			Mnais属	Mnais sp.																								●	
			カワトンボ科	Calopterygidae sp.																									
		ヤンマ科	コンボソヤンマ	Boyeria maclachlani																									
			ミルンヤンマ	Planaeschna milnei																									

表　底生動物確認種リスト(2)

綱　名	目　名	科　名	種　名	学　名	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20
		ヤンマ科	ヤンマ科	Aeschnidae sp.																									
		サナエトンボ科	ヤマサナエ	Asiagomphus melaenops		●									●		●	●						●				●	
			キイロサナエ	Asiagomphus pryeri														●											
			ダビドサナエ	Davidius nanus							●				●		●	●		●		●		●					
			ホンサナエ	Gomphus postocularis																									
			アオサナエ	Nihonogomphus viridis								●									●	●	●	●					
			オナガサナエ	Onychogomphus viridicostus			●	●		●							●						●	●	●			●	●
			コオニヤンマ	Sieboldius albardae							●	●			●			●		●	●	●		●		●		●	
			オジロサナエ	Stylogomphus suzukii																								●	
			メガネサナエ	Stylurus oculatus																							●		
			Stylurus属	Stylurus sp.																									
			タベサナエ	Trigomphus citimus tabei								●																	
			サナエトンボ科	Gomphidae sp.																									●
		オニヤンマ科	オニヤンマ	Anotogaster sieboldii																									
		エゾトンボ科	Epitheca属	Epitheca sp.																									
			コヤマトンボ	Macromia amphigena amphigena							●						●	●		●				●				●	
			キイロヤマトンボ	Macromia daimoji																									
		トンボ科	シオカラトンボ	Orthetrum albistylum speciosum										●	●			●								●		●	
			マイコアカネ	Sympetrum kunckeli													●												
		ー	トンボ目（蜻蛉目）	ODONATA sp.																									
	カワゲラ目（セキ翅目）	クロカワゲラ科	Capnia属	Capnia sp.																			●				●	●	
			クロカワゲラ科	Capniidae sp.															●	●							●		●
		ホソカワゲラ科	ホソカワゲラ科	Leuctridae sp.																		●							
		オナシカワゲラ科	Amphinemura属	Amphinemura sp.							●						●	●											●
			Nemoura属	Nemoura sp.						●			●				●							●	●	●	●	●	●
			オナシカワゲラ科	Nemouridae sp.															●										●
		シタカワゲラ科	シタカワゲラ科	Taeniopterygidae sp.												●	●										●		
		ミドリカワゲラ科	ヒメミドリカワゲラ	Haploperla japonica												●													
			ミドリカワゲラ科	Chloroperlidae sp.																				●					
		カワゲラ科	モンカワゲラ	Calineuria stigmatica							●																		●
			Gibosia属	Gibosia sp.																									
			カミムラカワゲラ	Kamimuria tibialis																								●	
			Kamimuria属	Kamimuria sp.																									●
			ヤマトフタツメカワゲラ	Neoperla niponensis								●					●							●	●		●	●	●
			Neoperla属	Neoperla sp.							●								●	●							●	●	●
			オオクラカケカワゲラ	Paragnetina tinctipennis																						●			
			カワゲラ科	Perlidae sp.																									●
		アミメカワゲラ科	Isoperla属	Isoperla sp.								●		●					●					●				●	
			フライソンアミメカワゲラ	Perlodes frisonanus												●	●						●						
			Perlodes属	Perlodes sp.																			●						
			ヒロバネアミメカワゲラ	Pseudomegarcys japonica												●													
			ヒメカワゲラ	Stavsolus japonicus								●	●													●	●		
			Stavsolus属	Stavsolus sp.																									●
			アミメカワゲラ科	Perlodidae sp.																	●		●						
	カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	アメンボ	Aquarius paludum paludum																								●	
			ヒメアメンボ	Gerris latiabdominis																								●	
			シマアメンボ	Metrocoris histrio																								●	
			アメンボ科	Gerridae sp.																									
		カタビロアメンボ科	ケシカタビロアメンボ	Microvelia douglasi																								●	
		ミズムシ科	Sigara属	Sigara sp.																									
		タイコウチ科	タイコウチ	Laccotrephes japonensis											●														
			ミズカマキリ	Ranatra chinensis													●												
		ナベブタムシ科	ナベブタムシ	Aphelocheirus vittatus							●																		
		マツモムシ科	マツモムシ	Notonecta triguttata																								●	
	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ	Protohermes grandis			●					●	●	●	●	●													●
	アミメカゲロウ目（脈	ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科	Osmylidae sp.																									
	トビケラ目（毛翅目）	ムネカクトビケラ科	ムネカクトビケラ	Econmus tenellus	●		●	●	●		●		●			●													
			Econmus属	Econmus sp.																									
		シマトビケラ科	ガロアシマトビケラ	Cheumatopsyche galloisi																									●
			ナミコガタシマトビケラ	Cheumatopsyche infascia																								●	
			Cheumatopsyche属	Cheumatopsyche sp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
			シロズシマトビケラ	Hydropsyche albicephala	●	●												●	●				●				●	●		
			イカリシマトビケラ	Hydropsyche ancorapuncta	●	●	●					●	●																	
			ギフシマトビケラ	Hydropsyche gifuana	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●												●
			ウルマーシマトビケラ	Hydropsyche orientalis	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			ナカハラシマトビケラ	Hydropsyche setensis	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●						●
			Hydropsyche属	Hydropsyche sp.	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●				●								●
			オオシマトビケラ	Macrostemum radiatum	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			エチゴシマトビケラ	Potamyia chinensis	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
			シマトビケラ科	Hydropsychidae sp.															●										
		カワトビケラ科	Chimarra属	Chimarra sp.																						●			
			Dolophilodes属	Dolophilodes sp.							●																	●	
		イワトビケラ科	スイドウトビケラ	Neureclipsis kyotoensis																		●							
			キソノイワトビケラ	Paranyctiophylax kisoensis												●	●		●										
			Plectrocnemia sp. PA	Plectrocnemia sp. PA												●		●											
			Plectrocnemia属	Plectrocnemia sp.	●											●	●												
			イワトビケラ科	Polycentropodidae sp.																●									
		クダトビケラ科	Psychomyia sp. PB	Psychomyia sp. PB			●																						
			Psychomyia属	Psychomyia sp.		●							●								●	●				●	●	●	●
			クダトビケラ科	Psychomyidae sp.																	●								
		ヒゲナガカワトビケラ科	ステゲナガカワトビケラ	Stenopsyche marmorata															●						●			●	●
			チャバネヒゲナガカワトビケラ	Stenopsyche sauteri																									
			Stenopsyche属	Stenopsyche sp.																									●
		ヤマトビケラ科	Agapetus属	Agapetus sp.																									●
			イノブスヤマトビケラ	Glossosoma ussuricum																								●	
			Glossosoma属	Glossosoma sp.													●												●
		カワリナガレトビケラ科	ツメナガナガレトビケラ	Apsilochorema sutshanum																									●
		ヒメトビケラ科	Hydroptila属	Hydroptila sp.															●	●			●	●				●	
		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ	Rhyacophila brevicephala											●		●						●		●				●
			カワムラナガレトビケラ	Rhyacophila kawamurae																									●
			キソナガレトビケラ	Rhyacophila kisoensis																									
			ムナグロナガレトビケラ	Rhyacophila nigrocephala										●	●	●	●			●		●					●	●	●
			トウダナガレトビケラ	Rhyacophila towadensis													●												
			トランスクィラナガレトビケラ	Rhyacophila transquilla																									●
			ヤマナカナガレトビケラ	Rhyacophila yamanakensis						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●			●	●
			Rhyacophila属	Rhyacophila sp.													●												
		コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ	Apatania aberrans																						●	●	●	
		カクスイトビケラ科	Micrasema属	Micrasema sp.																									
			カクスイトビケラ科	Brachycentridae sp.																									
		アシエダトビケラ科	Anisocentropus属	Anisocentropus sp.																									
昆虫綱	トビケラ目（毛翅目）	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	Goera japonica						●	●						●			●	●		●					●	●
		カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	Lepidostoma japonicum																						●		●	
			Lepidostoma属	Lepidostoma sp.																									●
		ヒゲナガトビケラ科	Ceraclea属	Ceraclea sp.									●																
			アオヒゲナガトビケラ	Mystacides azureus																								●	
			Mystacides属	Mystacides sp.																									●
			Setodes属	Setodes sp.																	●								
			ヒゲナガトビケラ科	Leptoceridae sp.																									
		エグリトビケラ科	Limnephilus属	Limnephilus sp.													●												
			Nothopsyche属	Nothopsyche sp.																									
			エグリトビケラ科	Limnephilidae sp.							●																		●
		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ	Molanna moesta												●													
		マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ	Phryganopsyche latipennis																		●							
			マルバネトビケラ科	Phryganopsychidae sp.																									
		ケトビケラ科	Gumaga orientalis	Gumaga orientalis							●		●	●	●	●		●						●		●	●	●	●
		ー	トビケラ目（毛翅目）	TRICHOPTERA sp.																									●
	チョウ目（鱗翅目）	ツトガ科	Potamomusa属	Potamomusa sp.																									●
			ツトガ科	Crambidae sp.																									
	ハエ目（双翅目）	ガガンボ科	Antocha bifida	Antocha bifida			●				●			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	
			ウスバガガンボ	Antocha spinifera																									●
			Antocha属	Antocha sp.	●	●	●	●				●									●								●
			Dicranota属	Dicranota sp.																									●
			Hexatoma属	Hexatoma sp.			●				●												●						
			Pedicia属	Pedicia sp.																									
			Scleroprocta属	Scleroprocta sp.																									
			Tipula属	Tipula sp.	●				●	●	●					●	●				●				●	●	●	●	●	
			ガガンボ科	Tipulidae sp.											●						●								
		アミカ科	Agathon属	Agathon sp.																									●
			アミカ科	Blephariceridae sp.													●												
		ヌカカ科	ヌカカ科	Ceratopogonidae sp.																●									●
		ユスリカ科	ダンダラヒメユスリカ	Ablabesmyia moniliformis																●				●					
			Ablabesmyia属	Ablabesmyia sp.																		●							
			Brillia属	Brillia sp.																					●	●	●		
			Camptocladius属	Camptocladius sp.																								●	
			Cardiocladius属	Cardiocladius sp.													●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●
			フチグロユスリカ	Chironomus circumdatus							●		●										●				●		●
			ホンセスジユスリカ	Chironomus nippodorsalis											●		●												
			オオユスリカ	Chironomus plumosus								●	●				●							●	●		●		
			セスジユスリカ	Chironomus yoshimatsui				●	●	●		●			●														
			Chironomus属	Chironomus sp.						●	●	●	●	●			●							●				●	
			Cladopelma属	Cladopelma sp.																									
			Cladotanytarsus属	Cladotanytarsus sp.																					●				●
			スギヤマヒラアシユスリカ	Clinotanypus sugiyamai																		●							
			Clinotanypus属	Clinotanypus sp.																					●				
			Conchapelopia属	Conchapelopia sp.																			●	●	●		●	●	●
			Cricotopus属	Cricotopus sp.													●	●	●		●		●	●	●			●	●
			Cryptochironomus属	Cryptochironomus sp.											●									●			●	●	●
			Demicryptochironomus属	Demicryptochironomus sp.																									●
			Diamesa属	Diamesa sp.														●			●							●	
			Einfeldia属	Einfeldia sp.	●		●						●								●								
			Epoicocladius属	Epoicocladius sp.																	●								
			Eukiefferiella属	Eukiefferiella sp.																	●						●	●	●
			Heterotrissocladius属	Heterotrissocladius sp.																	●								
			Lenzia属	Lenzia sp.			●			●																			

表　底生動物確認種リスト(3)

綱　名	目　名	科　名	種　名	学　名	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H20
			Micropsectra属	Micropsectra sp.																		●							
			Microtendipes属	Microtendipes sp.													●					●	●				●	●	●
			Neozavrelia属	Neozavrelia sp.																						●		●	
			Omisus属	Omisus sp.																								●	
			Orthocladius属	Orthocladius sp.													●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
			Pagastia属	Pagastia sp.																		●	●	●	●	●	●		
			Parachironomus属	Parachironomus sp.	●																								
			Paratendipes属	Paratendipes sp.			●										●					●	●	●		●		●	
			Paratrichocladius属	Paratrichocladius sp.																	●					●	●		
			Pentaneura属	Pentaneura sp.			●										●	●			●								
			Polypedilum属	Polypedilum sp.	●		●		●			●	●			●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			モンティウムユスリカ	Potthastia montium																									●
			Potthastia属	Potthastia sp.																				●					
			Procladius属	Procladius sp.												●	●			●				●			●		
			アカムシユスリカ	Propsilocerus akamusi														●					●	●		●	●		
			Rheocricotopus属	Rheocricotopus sp.																	●		●			●	●	●	
			Rheotanytarsus属	Rheotanytarsus sp.																●			●						
			Robackia属	Robackia sp.																							●		
			Sergentia属	Sergentia sp.	●				●																				
			Stenochironomus属	Stenochironomus sp.																		●	●						
			Stictochironomus属	Stictochironomus sp.			●					●			●		●				●	●		●		●	●		●
			Syndiamesa属	Syndiamesa sp.												●	●												
			Synorthocladius属	Synorthocladius sp.																						●			
			Tanytarsus属	Tanytarsus sp.													●							●		●	●	●	●
			Thienemanniella属	Thienemanniella sp.																●			●	●				●	
			Tvetenia属	Tvetenia sp.																						●		●	
			ユスリカ亜科	Chironominae sp.										●	●													●	
			ユスリカ科	Chironomidae sp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●										
		ホソカ科	ニッポンホソカ	Dixa nipponica																								●	
		ブユ科	キアシツメトゲブユ	Simulium bidentatum																●									
			アシマダラブユ	Simulium japonicum																		●						●	
			ゴスジシラキブユ	Simulium quinquestriatum																●									
			Simulium属	Simulium sp.						●				●			●			●				●	●				●	●
			ブユ科	Simuliidae sp.																									
		ナガレアブ科	ハマダラナガレアブ	Atherix ibis							●			●		●													
			サツマモンナガレアブ	Suragina satsumana							●																		
			ナガレアブ科	Athericidae sp.																									
		ミズアブ科	ミズアブ科	Stratiomyidae sp.																									
		アブ科	アブ科	Tabanidae sp.					●							●													
		アシナガバエ科	アシナガバエ科	Dolichopodidae sp.																									
		オドリバエ科	オドリバエ科	Empididae sp.																									●
		ミギワバエ科	ミギワバエ科	Ephydridae sp.																									
		ー	ハエ目（双翅目）	DIPTERA sp.																									
	コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	Cybister属	Cybister sp.														●											
		ミズスマシ科	ミズスマシ科	Gyrinidae sp.																									
		ガムシ科	マルガムシ	Hydrocassis lacustris																									
			ガムシ科	Hydrophilidae sp.																									
		ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	Leptelmis gracilis																									
			ミゾツヤドロムシ	Zaitzevia rivalis																									●
			ヒメツヤドロムシ	Zaitzeviaria brevis																									
			ホソヒメツヤドロムシ	Zaitzeviaria gotoi																									
			Zaitzeviaria属	Zaitzeviaria sp.																									
			ヒメドロムシ亜科	Elminae sp.																				●					
			ヒメドロムシ科	Elmidae sp.																●									●
		ナガドロムシ科	Heterocerus属	Heterocerus sp.						●																			
		ヒラタドロムシ科	Ectopria属	Ectopria sp.																									
			Eubrianax属	Eubrianax sp.																									●
			Malacopsephenoides属	Malacopsephenoides sp.																									
			ヒラタドロムシ	Mataeopsephus japonicus				●																		●		●	
			Mataeopsephus属	Mataeopsephus sp.																									
		ホタル科	ゲンジボタル	Luciola cruciata											●														●
			Luciola属	Luciola sp.																									

表　植物プランクトン確認種リスト(4)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
1	藍藻	Dactylococcopsis rhaphidioides					
2		Dactylococcopsis rupestris					
3		Dactylococcopsis fascicularis		●			●
4		Dactylococcopsis sp.					
5		Microcystis aeruginosa	●	●	●	●	
6		Microcystis incerta					
7		Microcystis wesenbergii	●	●	●	●	
8		Microcystis sp.					
9		Aphanocapsa elachista	●	●	●	●	●
10		Aphanocapsa elachista var. planktonica					
11		Aphanocapsa delicatissima					
12		Aphanocapsa sp.	●				
13		Aphanothece nidulans					
14		Aphanothece clathrata	●				
15		Aphanothece sp.					
16		Chroococcus dispersus	●		●	●	●
17		Chroococcus minutus					●
18		Chroococcus limneticus	●	●	●		●
19		Chroococcus sp.					
20		Coelosphaerium kutzinganum					
21		Coelosphaerium sp.					
22		Merismopedia elegans				●	
23		Merismopedia tenuissima					
24		Merismopedia glaucum					
25		Merismopedia punctata					
26		Merismopedia sp.					
27		Gomphosphaeria sp.					
28		Myxosarcina spectabilis					
29		Anabaenopsis sp.					
30		Aphanizomenon flos-aquae		●		●	●
31		Aphanizomenon sp.		●			
32		Anabaena macrospora var. crassa					
33		Anabaena macrospora	●			●	
34		Anabaena spiroides	●	●	●	●	
35		Anabaena spiroides var. crassa					
36		Anabaena spiroides var. spiroides					
37		Anabaena circinalis					
38		Anabaena flos-aquae			●	●	
39		Anabaena affinis	●	●	●		
40		Anabaena sp.					
41		Raphidiopsis sp.					
42		Homoeothrix varians					
43		Homoeothrix janthina					
44		Calothrix sp.			●		
45		Oscillatoria tenuis	●	●			
46		Oscillatoria kawamurae				●	
47		Oscillatoria agardhii					
48		Oscillatoria limosa					
49		Cyclochaete spongilla					
50		Oscillatoria sp.			●	●	
51		Phormidium tenue		●			
52		Pseudanabaena mucicola				●	
53		Phormidium autumnale					
54		Phormidium retzii					●
55		Phormidium sp.					
56		Lyngbya limnetica					
57		Lyngbya aerugineo-coerula	●	●			
58		Lyngbya sp.					
59	珪藻	Melosira varians	●	●	●	●	
60		Aulacoseira granulata	●	●	●	●	●
61		Aulacoseira granulata var.angustissima	●	●		●	
62		Aulacoseira granulata var.angustissima f.spiralis	●	●	●	●	●
63		Aulacoseira italica	●	●		●	●
64		Melosira italica var. tenuissima					
65		Aulacoseira distans	●	●	●	●	●
66		Melosira distans var. alpigena					
67		Melosira solida	●				
68		Melosira sp.					

表　植物プランクトン確認種リスト(5)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
69		Cyclotella meneghiniana	●	●	●	●	●
70		Cyclotella comta					
71	(珪藻)	Cyclotella radiosa					●
72		Cyclotella melosiroides					●
73		Cyclotella stelligera	●	●	●	●	●
74		Cyclotella glomerata	●	●	●	●	●
75		Cyclotella asterocostata					
76		Cyclotella sp.					
77		Skeletonema subsalsum	●	●		●	
78		Stephanodiscus carconensis	●		●	●	●
79		Stephanodiscus carconensis v.pusilla					
80		Stephanodiscus sp.					
81		Stephanodiscus spp.					
82		Urosolenia longiseta		●	●		
83		Rhizosolenia sp.			●		
84		Acanthoceros zachariasi		●	●		
85		Attheya sp.					
86		Hydrosera triquetra					
87		Tabellaria fenestrata					
88		Tabellaria sp.					
89		Diatoma vulgare	●	●	●	●	●
90		Diatoma hiemalis					
91		Diatoma sp.					
92		Fragilaria crotonensis	●	●	●	●	●
93		Fragilaria capucina	●	●	●		●
94		Fragilaria construens					
95		Fragilaria tenera					
96		Fragilaria sp.					
97		Asterionella formosa	●	●	●	●	●
98		Asterionella gracillima					
99		Asterionella sp.					
100		Synedra ulna	●	●	●	●	●
101		Synedra ulna var. oxyrhynchus		●		●	●
102		Synedra ulna var. ramesi					
103		Synedra acus	●	●	●	●	●
104		Synedra rumpens					
105		Synedra rumpens var. familiaris					
106		Synedra actinastroides					
107		Synedra sp.					
108		Synedra spp.					
109		Ceratoneis arcus					
110		Eunotia sp.					
111		Eunotia lunaris					
112		Achnanthes lanceolata					
113		Achnanthes japonica					
114		Achnanthes sp.					
115		Achnanthes spp.					
116		Cocconeis placentula	●	●	●	●	●
117		Cocconeis placentula var. lineata					
118		Cocconeis placentula var. euglypta					
119		Cocconeis sp.					
120		Gyrosigma acuminatum	●				
121		Gyrosigma sp.	●	●	●	●	
122		Rhoicosphenia curvata	●				
123		Stauroneis phoenicenteron					
124		Stauroneis sp.		●			
125		Frustulia sp.		●			
126		Diploneis ovalis					
127		Diploneis sp.					
128		Navicula pupula	●	●			●
129		Navicula gregaria					
130		Navicula mutica	●		●	●	
131		Navicula mutica var.ventricosa					
132		Navicula lanceolata					
133		Navicula cinctaeformis	●				
134		Navicula cryptocephala					
135		Navicula rhynchocephala					
136		Navicula viridula					

表　植物プランクトン確認種リスト(6)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
137		Navicula viridula var. slesvicensis					
138		Navicula radiosa	●	●	●	●	●
139		Navicula exigua					
140		Navicula sp.		●	●	●	
141	(珪藻)	Navicula spp.					
142		Pinnularia gibba					
143		Pinnularia sp.					
144		Amphora ovalis					
145		Amphora sp.					
146		Cymbella minuta	●	●	●	●	
147		Cymbella turgida					
148		Cymbella turgidula	●	●	●	●	
149		Cymbella turgidula var. nipponica					
150		Cymbella affinis					
151		Cymbella tumida	●				
152		Cymbella aspera	●			●	
153		Cymbella ventricosa		●	●	●	
154		Cymbella sp.		●	●		
155		Cymbella spp.					
156		Gomphonema acuminatum					
157		Gomphonema parvulum					
158		Gomphonema angustatum					
159		Gomphonema helveticum	●	●	●		
160		Gomphonema olivaceum					
161		Gomphonema tetrastigmatum	●	●	●	●	
162		Gomphonema clevei					
163		Gomphonema sp.				●	
164		Gomphonema spp.					
165		Bacillaria paradoxa					
166		Nitzschia holsatica		●	●		●
167		Nitzschia acicularis	●	●	●	●	●
168		Nitzschia palea	●				
169		Nitzschia linearis	●				
170		Nitzschia dissipata					
171		Nitzschia amphibia	●				
172		Nitzschia frustulum					
173		Nitzschia frustulum var. perpusilla					
174		Nitzschia agnita					
175		Nitzschia gracilis					
176		Nitzschia clausii					
177		Nitzschia obtusa					
178		Nitzschia filiformis					
179		Nitzschia vermicularis					
180		Nitzschia sp.		●	●	●	
181		Nitzschia spp.					
182		Cymatopleura solea					
183		Cymatopleura sp.					
184		Surirella robusta					
185		Surirella angusta					
186		Surirella minuta	●				
187		Surirella ovata var. pinnata					
188		Surirella linearis					
189		Surirella tenera					
190		Surirella sp.		●	●		
191		Surirella spp.					
192	黄色鞭毛藻	Chromulina sp.					
193		Ochromonas sp.					
194		Uroglena americana			●	●	
195		Uroglena sp.					
196		Stelexmonas sp.					
197		Dinobryon bavaricum	●	●	●		
198		Dinobryon divergens	●	●	●	●	
199		Dinobryon cylindricum				●	
200		Dinobryon sertularum		●			●
201		Dinobryon sp.					
202		Mallomonas akrokomos					
203		Mallomonas tonsurata	●	●	●	●	
204		Mallomonas fastigata	●	●	●	●	●

表　植物プランクトン確認種リスト(7)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
205		Mallomonas sp.					
206		Mallomonas spp.					
207		Synura uvella	●	●	●	●	●
208		Synura sp.					
209	渦鞭毛藻	Peridinium volzii			●	●	
210		Peridinium elpatiewskyi			●		
211	(渦鞭毛藻)	Peridinium bipes				●	
212		Peridinium bipes f.occultatum		●			
213		Peridinium pygmaeum					
214		Peridinium penardii			●		
215		Peridinium sp.	●	●			
216		Glenodinium pulvisculus					
217		Glenodinium sp.					
218		Gymnodinium helveticum	●	●			●
219		Gymnodinium fuscum					
220		Gymnodinium sp.					
221		Ceratium hirundinellum	●	●	●	●	
222	クリプト藻	Cryptomonas ovata	●	●	●	●	●
223		Cryptomonas sp.			●		
224		Cryptomonas spp.					
225		Rhodomonas sp.	●	●	●	●	●
226		Euglena acus					
227		Euglena sp.					
228		Phacus sp.					
229		Trachelomonas sp.				●	
230		Trachelomonas spp.					
231	緑藻	Chlamydomonas sp.	●		●		
232		Chlamydomonas spp.					
233		Pteromonas aculeata					
234		Carteria peterhofiensis	●				
235		Carteria globulosa			●		●
236		Carteria sp.					
237		Gonium pectorale					
238		Pandorina morum		●			
239		Eudorina elegans	●	●	●	●	●
240		Eudorina unicocca					
241		Volvox aureus	●	●	●	●	
242		Sphaerocystis schroeteri	●	●	●	●	●
243		Gloeocystis gigas			●		●
244		Gloeocystis versiculosa					
245		Gloeocystis sp.					
246		Asterococcus sp.					
247		Elakatothrix gelatinosa		●	●	●	●
248		Elakatothrix sp.					
249		Tetraspora lacustris	●			●	
250		Microspora willeana					●
251		Microspora sp.					
252		Cladophora glomerata			●	●	
253		Stigeoclonium lubricum					
254		Stigeoclonium sp.					
255		Geminella sp.					
256		Ulothrix zonata	●				
257		Stichococcus bacillaris					
258		Hormidium subtile	●		●		
259		Hormidium sp.	●	●			
260		Planktosphaeria gelatinosa	●				
261		Planktosphaeria sp.					
262		Golenkinia radiata	●				
263		Golenkinia sp.					
264		Golenkinia spp.					
265		Micractinium pusillum					
266		Micractinium bornheimiensis					
267		Dictyosphaerium pulchellum	●	●	●	●	
268		Kirchneriella lunaris					
269		Kirchneriella contorta		●	●		
270		Kirchneriella sp.					
271		Quadrigula chodatii					
272		Quadrigula lacustris					

表　植物プランクトン確認種リスト(8)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
273		Quadrigula pfitzeri					
274		Quadrigula sp.					
275		Selenastrum gracile					
276		Selenastrum westii					
277		Selenastrum sp.					
278		Tetraedron regulare					
279		Tetraedron hastatum var. platinum					
280		Tetraedron minimum					
281	(緑藻)	Tetraedron staurogeniaeforme					
282		Tetraedron gracile					
283		Tetraedron planctonicum					
284		Tetraedron limneticum					
285		Tetraedron sp.					
286		Westella botryoides					
287		Treubaria setigerum					
288		Treubaria sp.					
289		Oocystis parva		●	●		●
290		Oocystis borgei					
291		Oocystis submarina					
292		Oocystis lacustris					
293		Oocystis solitaria					
294		Oocystis sp.					
295		Oocystis spp.					
296		Monoraphidium griffithii					
297		Chodatella citriformis					
298		Chodatella quadriseta					
299		Chodatella droescheri					
300		Chodatella subsalsa					
301		Chodatella sp.					
302		Closteriopsis longissima					
303		Koliella elongata					
304		Ankistrodesmus falcatus	●	●	●	●	●
305		Ankistrodesmus falcatus v. mirabilis		●			
306		Ankistrodesmus gracilis					
307		Schroederia setigera	●				●
308		Schroederia ancora					
309		Pediastrum duplex		●	●	●	
310		Pediastrum biwae	●	●		●	
311		Pediastrum biwae var. triangulatum					
312		Pediastrum simplex			●		
313		Pediastrum simplex var. duodenarium					
314		Pediastrum tetras	●		●		
315		Pediastrum boryanum		●			
316		Coelastrum reticulatum					
317		Coelastrum cambricum	●	●	●	●	●
318		Coelastrum microporum					
319		Coelastrum sphaericum		●	●	●	
320		Crucigenia quadrata					
321		Crucigenia curcifera					
322		Crucigenia tetrapedia					
323		Crucigenia rectangularis					
324		Crucigenia lauterbornii					
325		Crucigenia sp.					
326		Tetrastrum heterocanthum					
327		Actinastrum hantzschii	●	●	●	●	
328		Actinastrum hantzschii var. fluviatile					
329		Scenedesmus ecornis	●	●	●	●	●
330		Scenedesmus perforatus	●				
331		Scenedesmus quadricauda	●	●	●	●	●
332		Scenedesmus denticulatus					
333		Scenedesmus circumfusus					
334		Scenedesmus acuminatus					
335		Scenedesmus abundance					
336		Scenedesmus acutus	●				
337		Scenedesmus armatus					
338		Scenedesmus incrassatulus					
339		Scenedesmus opoliensis					
340		Scenedesmus sp.					

表　植物プランクトン確認種リスト(9)

No.	綱名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
341		Scenedesmus spp.					
342		Oedogonium sp.					
343		Mougeotia sp.		●	●	●	
344		Mougeotia spp.					
345		Spirogyra sp.		●	●		
346		Spirogyra spp.					
347		Closterium aciculare		●			
348		Closterium aciculare var.subpronum	●	●	●	●	●
349		Closterium aceroson					
350		Closterium dianae	●				
351	(緑藻)	Closterium gracile	●		●	●	
352		Closterium acutum var. variabile					
353		Closterium sp.	●			●	
354		Closterium spp					
355		Cosmarium botrytis		●	●	●	
356		Cosmarium sublatere-undatum					
357		Cosmarium sp.				●	
358		Xanthidium fasciculatum					
359		Xanthidium hastiferum					
360		Xanthidium sp.					
361		Euastrum sp					
362		Staurastrum dorsidentiferum var.ornatum	●	●	●	●	●
363		Staurastrum sebaldi					
364		Staurastrum sebaldi var. productum					
365		Staurastrum limneticum					
366		Staurastrum pingue					
367		Staurastrum tohopekaligense					
368		Staurastrum arctiscon	●	●	●	●	●
369		Staurastrum asterias					
370		Staurastrum arcuatum					
371		Staurastrum submanfeldtii					
372		Staurastrum gracile					
373		Staurastrum longispinum var. bidentatum					
374		Staurastrum sp.					
375		Spondylosium moniliforme	●	●	●	●	
376		Spondylosium sp.					
377		Cosmocladium constrictum	●	●	●		
378		Cosmocladium sp.					
種類数			89	88	85	78	50

表　動物プランクトン確認種リスト(10)

No.	門和名	綱和名	和名	学名	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)
1	肉質鞭毛虫門	葉状根足虫綱	ナベカムリ	Arcella vulgaris	●	●	●		
2			イケツボカムリ	Difflugia limnetica	●	●			
3			トゲツボカムリ	Difflugia corona	●		●	●	
4			トゲフセツボカムリ	Centropyxis aculeata		●			
5		真正太陽虫綱	タイヨウチュウ	Actinophrys sp.					●
6			オオタイヨウチュウ	Actinosphaerium sp.			●		
7	繊毛虫門	キネトフラグミノフォーラ綱	コマガタゾウリムシ	Didinium sp.					●
8			トコフリヤ	Tokophrya sp.			●		
9		少膜綱	エダワカレツリガネムシ	Carchesium sp.	●				
10			エピスティリス	Epistylis plicatilis		●		●	
11			エピスティリス	Epistylis sp.	●	●			
12		多膜綱	ストロンビディウム	Strombidium viride				●	
13			フデツツカラムシ	Tintinnidium fluviatile		●	●	●	●
14			ツボコムシ	Tintinnidium cylindrata	●	●			
15			ツボコムシ	Tintinnidium sp.	●	●			
16			スナカラムシ	Tintinnopsis cratera	●	●	●	●	●
17	輪形動物門	単生殖巣綱	ミドリワムシ	Ascomorpha [Chromogaster] ovalis	●				
18			フクロワムシ	Asplanchna priodonta		●	●	●	
19			フクロワムシ	Asplanchna sp.	●	●			
20			コカタツボワムシ	Brachionus angularis	●				
21			コカタツボワムシ	Brachionus angularis angularis		●		●	
22			ツボワムシ	Brachionus calyciflorus	●	●			
23			ウシロヅノツボワムシ	Brachionus forficula			●		
24			カドツボワムシ	Brachionus quadridentatus		●			
25			ミドリワムシ	Chromogaster ovalis		●	●		●
26			ハナビワムシ	Collotheca sp.		●			
27			マルチビワムシ	Colurella obtusa					●
28			チビワムシ	Colurella sp.	●	●			
29			テマリワムシモドキ	Conochiloides sp.		●		●	
30			ツノテマリワムシ	Conochilus unicornis	●	●	●	●	●
31			ディウレラ ポロセルス	Diurella porcellus			●	●	
32			ディウレラ スティラータ	Diurella stylata		●	●	●	●
33			ハオリワムシ	Euchlanis dilatata	●	●			
34			ユーチラニス パルバ	Euchlanis parva			●		
35			ナガミツウデワムシ	Filinia longiseta	●				
36			ナガミツウデワムシ	Filinia longiseta longiseta		●	●	●	
37			ミジンコワムシ	Hexarthra mira			●	●	●
38			トゲナガワムシ	Kellicottia longispina	●	●	●	●	
39			カメノコウワムシ	Keratella cochlearis f.macracantha		●	●	●	●
40			カメノコウワムシ	Keratella cochlearis f.micracantha		●	●	●	●
41			カメノコウワムシ	Keratella cochlearis f.tecta		●	●	●	
42			カメノコウワムシ	Keratella cochlearis v. micracantha	●				
43			カメノコウワムシ	Keratella cochlearis var. tecta	●				
44			コシブトカメノコウワムシ	Keratella quadrata	●				
45			コシブトカメノコウワムシ	Keratella quadrata quadrata		●	●	●	
46			コシボソカメノコウワムシ	Keratella valga	●				
47			コシボソカメノコウワムシ	Keratella valga valga		●			
48			ツキガタワムシ	Lecane luna	●	●	●	●	
49			タマゴガタエナガワムシ	Monostyla bulla			●		
50			ツキガタエナガワムシ	Monostyla lunaris		●	●	●	●
51			エナガワムシ	Monostyla sp.	●	●			
52			オケワムシ	Platyias patulus				●	
53			オケワムシ	Platyias quadricornis	●				
54			スジワムシ	Ploesoma truncatum	●	●	●	●	
55			ヒロハネウデワムシ	Polyarthra euryptera			●		
56			ハネウデワムシ	Polyarthra trigla vulgaris		●	●	●	●
57			ハネウデワムシ	Polyarthra vulgaris	●				
58			アワワムシ	Pompholyx complanata		●	●	●	
59			アワワムシ	Pompholyx sulcata	●	●			
60			ドロワムシ	Synchaeta sp.	●	●			
61			ドロワムシ	Synchaeta stylata		●	●	●	●
62			ヒラタワムシ	Testudinella patina	●			●	
63			フタスジネズミワムシ	Trichocerca bicristata		●			
64			ネズミワムシ	Trichocerca capucina	●	●	●	●	●
65			ツメナガネズミワムシ	Trichocerca cylindrica	●	●			
66			ネコゼネズミワムシ	Trichocerca rattus					●
67		ヒルガタワムシ綱	ロタリア	Rotaria rotatoria		●	●		●
68			ベニヒルガタワムシ	Philodina roseola	●	●	●		
69	節足動物門	顎脚綱	カラノイダ	Calanoida sp.		●	●	●	
70			コペポーダ	copepoda sp.		●	●	●	●
71			コペポディド（カラノイダ）	copepodid (Calanoida)	●				
72			コペポディド（キクロポイダ）	copepodid (Cyclopoida)	●				
73			キクロポイダ	Cyclopoida sp.		●	●	●	
74			ケンミジンコ	Cyclops strenuus	●	●	●	●	
75			ヤマトヒゲナガケンミジンコ	Eodiaptomus japonicus	●	●	●	●	●
76			ノープリウス	nauplius	●				
77		葉脚綱	モンシカクミジンコ	Alona guttata	●	●		●	
78			ニセゾウミジンコ	Bosmina fatalis	●	●			
79			ゾウミジンコ	Bosmina longirostris	●	●	●	●	●
80			ゾウミジンコモドキ	Bosminopsis deitersi	●	●	●		
81			ネコゼミジンコ	Ceriodaphnia quadrangula			●		
82			ネコゼミジンコ	Ceriodaphnia sp.	●	●			
83			ナガマルミジンコ	Chydorus gibbus	●			●	
84			マルミジンコ	Chydorus sphaericus	●	●	●	●	
85			カブトミジンコ	Daphnia galeata		●	●	●	
86			ダフニア ヒアリナ	Daphnia hyalina	●	●		●	
87			ハリナガミジンコ	Daphnia longispina	●				
88			ミジンコ	Daphnia pulex	●				
89			オナガミジンコ	Diaphanosoma brachyurum	●	●	●	●	
90			ノロ	Leptodora kindtii				●	
種類数					48	56	42	40	20

表　付着生物確認種リスト(11)

No.	門和名	綱和名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
1	細菌		Sphaerotilus natans				●	
2	藍色植物門	藍藻綱	Lyngbya aerugineo-coerula	●	●		●	
3			Aphanocapsa elachista				●	
4			Anabaena affinis	●	●		●	●
5			Phormidium tenue	●	●			●
6			Chroococcus dispersus					●
7			Chroococcus limneticus		●			●
8			Calothrix sp.			●		
9			Oscillatoria agardhii				●	
10	不等毛植物門	珪藻綱	Melosira varians	●	●	●	●	●
11			Aulacoseira granulata	●	●	●	●	●
12			Aulacoseira granulata var.angustissima	●				
13			Aulacoseira granulata var.angustissima f.spiralis	●	●		●	●
14			Aulacoseira italica	●	●			
15			Aulacoseira distans	●		●	●	
16			Cyclotella meneghiniana	●	●	●	●	●
17			Cyclotella stelligera	●		●	●	●
18			Cyclotella spp.					●
19			Skeletonema subsalsum				●	
20			Stephanodiscus carconensis	●		●		●
21			Diatoma vulgare	●	●	●	●	●
22			Fragilaria crotonensis	●	●	●	●	
23			Fragilaria capucina				●	
24			Asterionella formosa	●	●	●	●	●
25			Synedra ulna	●	●	●	●	●
26			Synedra ulna var. oxyrhynchus				●	●
27			Synedra acus	●	●	●	●	●
28			Cocconeis placentula	●	●	●	●	●
29			Gyrosigma acuminatum	●				
30			Gyrosigma sp.	●	●	●	●	●
31			Rhoicosphenia curvata	●				
32			Navicula pupula	●			●	
33			Navicula gregaria				●	
34			Navicula minima				●	
35			Navicula mutica	●		●	●	●
36			Navicula cryptocephala					●
37			Navicula viridula				●	
38			Navicula cinctaeformis	●			●	
39			Navicula rhynchocephala				●	
40			Navicula radiosa	●			●	●
41			Navicula sp.		●			●
42			Cymbella minuta	●	●	●	●	
43			Cymbella tumida	●			●	
44			Cymbella ventricosa			●	●	
45			Cymbella aspera	●				●
46			Cymbella turgidula	●	●	●	●	●
47			Cymbella sp.	●	●			
48			Gomphonema angustatum				●	
49			Gomphonema helveticum	●			●	●
50			Gomphonema tetrastigmatum	●	●	●	●	
51			Bacillaria paradoxa				●	
52			Nitzschia holsatica		●		●	●
53			Nitzschia acicularis	●	●	●	●	
54			Nitzschia frustulum var. perpusilla				●	
55			Nitzschia palea	●			●	
56			Nitzschia amphibia	●			●	
57			Nitzschia sp.		●			●
58			Surirella minuta	●			●	
59			Surirella sp.		●	●		
60	クリプト植物門	クリプト藻綱	Cryptomonas ovata		●	●		
61			Cryptomonas sp.			●		
62			Rhodomonas sp.		●			
63	緑色植物門	緑藻鋼	Pandorina morum		●			
64			Hormidium sp.		●			
65			Eudorina elegans		●		●	
66			Pediastrum duplex		●			
67			Coelastrum cambricum		●			
68			Coelastrum sphaericum		●			
69			Scenedesmus ecornis				●	
70			Mougeotia sp.		●	●	●	●
71			Spirogyra sp.1				●	
72			Ulothrix zonata	●				
73			Pediastrum biwae	●			●	
74			Spirogyra sp.		●	●	●	
75			Scenedesmus quadricauda	●	●			●
76			Cosmarium botrytis		●	●	●	
77			Staurastrum arctiscon					●
78			Staurastrum dorsidentiferum var.ornatum		●		●	
79			Chlamydomonas sp.			●		
80			Cladophora glomerata			●	●	
81			Volvox aureus				●	
82			Stigeoclonium tenue				●	

表　付着生物確認種リスト(12)

No.	門和名	綱和名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
83			Stigeoclonium lubricum				●	

表　付着生物確認種リスト(13)

No.	門和名	綱和名	学名	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)
84	肉質鞭毛虫門	葉状根足虫綱	Difflugia corona		●			
85	繊毛虫門	多膜鋼	Tintinnopsis cratera	●	●		●	
86			Tintinnopsis sp.		●			
87			Tintinnidium fluviatile				●	●
88		少膜綱	Carchesium sp.		●	●		●
89			Vorticella sp.	●			●	●
90			Paramecium sp.			●		
91			Epistylis sp.				●	
92	海綿動物門	普通海綿綱	Spongillidae			●		
93	輪形動物門	単生殖巣綱	Synchaeta stylata		●			
94			Diurella stylata		●		●	
95			Keratella cochlearis f.cochlearis		●			
96			Colurella uncinata					●
97			Colurella colurus				●	●
98			Colurella obtusa	●				
99			Colurella sp.				●	
100			Monostyla lunaris	●	●	●	●	
101			Monostyla sp.				●	
102			Lecane spp.		●			●
103			Monostyla bulla		●			
104			Conochilus unicornis			●		
105			Euchlanis dilatata					●
106		ヒルガタワムシ綱	Rotaria rotatoria	●		●	●	●
107	軟体動物門	二枚貝綱	Limnoperna sp. (veliger)	●				
108	節足動物門	顎脚綱	copepoda sp.				●	
109		葉脚綱	Bosmina longirostris		●			
110			Alona guttata		●			
111			Chydorus sphaericus			●		
種類数				45	50	35	66	38

表　植物確認種リスト（1）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
1	ヒカゲノカズラ	ミズスギ	Lycopodium cernuum	●	●	●	
2		ヒカゲノカズラ	Lycopodium clavatum	●	●	●	●
3		トウゲシバ	Lycopodium serratum		●	●	●
4		ヒロハノトウゲシバ	Lycopodium serratum var.intermedium	●		●	
5	イワヒバ	ヒメクラマゴケ	Selaginella heterostachys				●
6		カタヒバ	Selaginella involvens	●			
7		クラマゴケ	Selaginella remotifolia	●	●	●	●
8		コンテリクラマゴケ	Selaginella uncinata			●	
9	トクサ	スギナ	Equisetum arvense	●	●	●	●
10		イヌドクサ	Equisetum ramosissimum	●	●		
11	ハナヤスリ	オオハナワラビ	Botrychium japonicum			●	
12		フユノハナワラビ	Botrychium ternatum	●		●	
13		コヒロハハナヤスリ	Ophioglossum petiolatum			●	●
14		コハナヤスリ	Ophioglossum thermale var.nipponicum	●	●		
15	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	Osmunda cinnamomea var.fokiensis	●	●	●	●
16		ゼンマイ	Osmunda japonica	●	●	●	●
17	キジノオシダ	オオキジノオ	Plagiogyria euphlebia	●		●	●
18		キジノオシダ	Plagiogyria japonica	●	●	●	●
19		ヤマソテツ	Plagiogyria matsumureana			●	
20	ウラジロ	コシダ	Dicranopteris linearis	●	●	●	●
21		ウラジロ	Gleichenia japonica	●	●	●	●
22	フサシダ	カニクサ	Lygodium japonicum	●	●	●	●
23	コケシノブ	ウチワゴケ	Crepidomanes minutum	●		●	●
24		コウヤコケシノブ	Hymenophyllum barbatum	●		●	●
25		ハイホラゴケ	Crepidomanes birmanicum			●	
26		ホソバコケシノブ	Hymenophyllum polyanthos			●	
27	コバノイシカグマ	イヌシダ	Dennstaedtia hirsuta	●	●	●	●
28		コバノイシカグマ	Dennstaedtia scabra	●	●	●	●
29		イワヒメワラビ	Hypolepis punctata	●	●	●	●
30		フモトシダ	Microlepia marginata	●	●	●	●
31		ワラビ	Pteridium aquilinum var.latiusculum	●	●	●	●
32	ホングウシダ	ホラシノブ	Sphenomeris chinensis	●	●	●	●
33	シノブ	シノブ	Davallia mariesii	●	●	●	●
34	ミズワラビ	ホウライシダ	Adiantum capillusveneris				●
35		ハコネシダ	Adiantum monochlamys		●	●	●
36		クジャクシダ	Adiantum pedatum	●	●	●	
37		ミズワラビ	Ceratopteris thalictroides			●	●
38		イヌイワガネソウ	Coniogramme x fauriei			●	
39		イワガネゼンマイ	Coniogramme intermedia	●	●	●	●
40		イワガネソウ	Coniogramme japonica	●	●	●	●
41		タチシノブ	Onychium japonicum	●	●	●	●
42	シシラン	シシラン	Vittaria flexuosa	●	●	●	●
43	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	Pteris cretica	●	●	●	●
44		アマクサシダ	Pteris dispar	●	●		
45		オオバノハチジョウシダ	Pteris excelsa		●	●	●
46		イノモトソウ	Pteris multifida	●	●	●	●
47	チャセンシダ	トラノオシダ	Asplenium incisum	●	●	●	●
48		ヌリトラノオ	Asplenium normale	●	●	●	●
49		カミガモシダ	Asplenium oligophlebium	●	●	●	●
50		コバノヒノキシダ	Asplenium sarelii	●	●	●	●
51		コタニワタリ	Asplenium scolopendrium			●	
52		イワトラノオ	Asplenium tenuicaule			●	●
53		チャセンシダ	Asplenium trichomanes	●	●	●	●
54		イヌチャセンシダ	Asplenium tripteropus	●	●	●	●
55		アオガネシダ	Asplenium wilfordii			●	
56	シシガシラ	シシガシラ	Struthiopteris niponica	●	●	●	●
57	オシダ	オオカナワラビ	Arachniodes amabilis	●	●	●	●
58		ホソバカナワラビ	Arachniodes aristata	●	●	●	●
59		テンリュウカナワラビ	Arachniodes x kurosawae			●	
60		ナンゴクナライシダ	Arachniodes miqueliana	●	●	●	●
61		シノブカグマ	Arachniodes mutica	●			
62		ハカタシダ	Arachniodes simplicior	●	●	●	●
63		オニカナワラビ	Arachniodes simplicior var.major	●	●	●	●
64		コバノカナワラビ	Arachniodes sporadosora	●	●	●	●
65		リョウメンシダ	Arachniodes standishii	●	●	●	●
66		キヨスミヒメワラビ	Ctenitis maximowicziana	●	●	●	
67		オニヤブソテツ	Cyrtomium falcatum	●	●		●
68		ヤブソテツ	Cyrtomium fortunei	●	●	●	●
69		ヤマヤブソテツ	Cyrtomium fortunei var.clivicola	●	●	●	●
70		ヒロハヤブソテツ	Cyrtomium macrophyllum			●	●
71		サイゴクベニシダ	Dryopteris championii	●	●	●	●
72		ベニシダ	Dryopteris erythrosora	●	●	●	●
73		トウゴクシダ	Dryopteris nipponensis	●	●	●	●
74		マルバベニシダ	Dryopteris fuscipes			●	
75		オオベニシダ	Dryopteris hondoensis	●	●	●	●
76		ギフベニシダ	Dryopteris kinkiensis			●	
77		クマワラビ	Dryopteris lacera	●	●	●	●
78		アイノコクマワラビ	Dryopteris x mituii			●	
79		ミヤマイタチシダ	Dryopteris sabaei			●	
80		オクマワラビ	Dryopteris uniformis	●	●	●	●
81		オオイタチシダ	Dryopteris varia var.hikonensis	●	●	●	●
82		ヒメイタチシダ	Dryopteris varia var.sacrosancta	●	●	●	
83		ヤマイタチシダ	Dryopteris varia var.setosa	●	●	●	●
84		ドウリョウイノデ	Polystichum x anceps			●	●
85		アイアスカイノデ	Polystichum longifrons			●	●
86		カタイノデ	Polystichum makinoi				●
87		ツヤナシイノデ	Polystichum ovatopaleaceum			●	
88		イノデ	Polystichum polyblepharum	●	●	●	●

表　植物確認種リスト（2）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
89	オシダ	サイゴクイノデ	Polystichum pseudomakinoi	●	●	●	●
90		イノデモドキ	Polystichum tagawanum		●	●	●
91		ジュウモンジシダ	Polystichum tripteron	●	●	●	●
92		ヒメカナワラビ	Polystichum tsussimense	●	●	●	●
93		オオキヨスミシダ	Polystichum tsussimense var.mayebarae		●	●	
94	ヒメシダ	ホシダ	Thelypteris acuminata			●	●
95		ゲジゲジシダ	Thelypteris decursivepinnata	●	●	●	●
96		ミゾシダ	Stegnogramma pozoi ssp.mollissima	●	●	●	●
97		イブキシダ	Thelypteris esquirolii var.glabrata	●	●	●	●
98		ハシゴシダ	Thelypteris glanduligera	●		●	●
99		コハシゴシダ	Thelypteris glanduligera var.elatior			●	●
100		ハリガネワラビ	Thelypteris japonica	●	●	●	●
101		ヤワラシダ	Thelypteris laxa	●	●	●	●
102		ヒメシダ	Thelypteris palustris	●	●	●	●
103		ヒメワラビ	Thelypteris torresiana var.calvata	●	●	●	●
104		ミドリヒメワラビ	Thelypteris viridifrons	●	●	●	●
105	メシダ	ウスヒメワラビ	Acystopteris japonica	●		●	●
106		カラクサイヌワラビ	Athyrium clivicola			●	
107		サトメシダ	Athyrium deltoidofrons	●	●	●	●
108		ホソバイヌワラビ	Athyrium iseanum	●	●	●	●
109		ヌリワラビ	Athyrium mesosorum		●	●	
110		イヌワラビ	Athyrium niponicum	●	●	●	
111		タニイヌワラビ	Athyrium otophorum		●	●	
112		ヤマイヌワラビ	Athyrium vidalii	●	●	●	
113		ヒロハイヌワラビ	Athyrium wardii	●	●	●	
114		ヘビノネゴザ	Athyrium yokoscense			●	
115		シケチシダ	Cornopteris decurrentialata	●	●	●	●
116		ホソバシケシダ	Deparia conilii			●	●
117		シケシダ	Deparia japonica	●	●	●	●
118		オオヒメワラビ	Deparia okuboana	●	●	●	
119		キヨタキシダ	Diplazium squamigerum	●	●	●	
120		ヘラシダ	Diplazium subsinuatum			●	
121		ノコギリシダ	Diplazium wichurae	●	●	●	●
122		イヌガンソク	Matteuccia orientalis	●	●	●	
123		コウヤワラビ	Onoclea sensibilis var.interrupta	●	●	●	●
124	ウラボシ	ミツデウラボシ	Crypsinus hastatus			●	●
125		マメヅタ	Lemmaphyllum microphyllum	●	●	●	●
126		ノキシノブ	Lepisorus thunbergianus	●	●	●	●
127		クリハラン	Neocheiropteris ensata		●	●	
128		ヤノネシダ	Neocheiropteris subhastata			●	●
129		アオネカズラ	Polypodium niponicum			●	●
130		ビロウドシダ	Pyrrosia linearifolia	●		●	●
131		ヒトツバ	Pyrrosia lingua	●	●	●	●
132	イチョウ	イチョウ	Ginkgo biloba		●	●	
133	マツ	モミ	Abies firma	●	●	●	●
134		アカマツ	Pinus densiflora	●	●	●	●
135		クロマツ	Pinus thunbergii		●		●
136	スギ	スギ	Cryptomeria japonica	●	●	●	●
137		メタセコイヤ	Metasequoia glyptostroboides			●	●
138	ヒノキ	ヒノキ	Chamaecyparis obtusa	●	●	●	●
139		サワラ	Chamaecyparis pisifera			●	
140		ネズ	Juniperus rigida	●	●	●	●
141	マキ	イヌマキ	Podocarpus macrophyllus		●	●	
142	イヌガヤ	イヌガヤ	Cephalotaxus harringtonia	●	●	●	●
143	イチイ	カヤ	Torreya nucifera	●	●	●	●
144	ヤマモモ	ヤマモモ	Myrica rubra		●	●	●
145	クルミ	オニグルミ	Juglans ailanthifolia	●	●	●	●
146	ヤナギ	ヤマナラシ	Populus sieboldii	●	●	●	
147		シダレヤナギ	Salix babylonica var.lavalle				●
148		アカメヤナギ	Salix chaenomeloides	●	●	●	●
149		ジャヤナギ	Salix eriocarpa			●	●
150		カワヤナギ	Salix gilgiana			●	
151		ネコヤナギ	Salix gracilistyla	●	●	●	●
152		イヌコリヤナギ	Salix integra	●	●	●	
153		キヌヤナギ	Salix kinuyanagi				●
154		オオタチヤナギ	Salix pierotii				●
155		タチヤナギ	Salix subfragilis	●	●	●	●
156	カバノキ	ハンノキ	Alnus japonica	●	●	●	●
157		ヒメヤシャブシ	Alnus pendula	●	●	●	
158		カワラハンノキ	Alnus serrulatoides	●	●	●	●
159		オオバヤシャブシ	Alnus sieboldiana	●	●	●	●
160		アカシデ	Carpinus laxiflora	●	●	●	
161		イヌシデ	Carpinus tschonoskii	●	●		
162	ブナ	クリ	Castanea crenata	●	●	●	●
163		ツブラジイ	Castanopsis cuspidata	●	●	●	●
164		マテバシイ	Lithocarpus edulis		●	●	●
165		シリブカガシ	Lithocarpus glabra	●	●	●	●
166		クヌギ	Quercus acutissima	●	●	●	●
167		アラカシ	Quercus glauca	●	●	●	●
168		シラカシ	Quercus myrsinaefolia	●	●	●	●
169		ウラジロガシ	Quercus salicina	●	●	●	●
170		コナラ	Quercus serrata	●	●	●	●
171		ツクバネガシ	Quercus sessilifolia			●	●
172		アベマキ	Quercus variabilis		●	●	●
173	ニレ	ムクノキ	Aphananthe aspera	●	●	●	●
174		コバノチョウセンエノキ	Celtis biondii				●
175		エノキ	Celtis sinensis var.japonica	●	●	●	●
176		アキニレ	Ulmus parvifolia	●	●	●	●

表　植物確認種リスト（3）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
177	ニレ	ケヤキ	Zelkova serrata	●	●	●	●
178	クワ	ヒメコウゾ	Broussonetia kazinoki				●
179		コウゾ	Broussonetia kazinoki x papyrifera	●	●	●	
180		クワクサ	Fatoua villosa	●	●	●	●
181		イチジク	Ficus carica		●	●	
182		イヌビワ	Ficus erecta		●	●	
183		イタビカズラ	Ficus oxyphylla	●	●	●	●
184		カナムグラ	Humulus japonicus	●	●	●	●
185		トウグワ	Morus alba	●	●	●	●
186		ヤマグワ	Morus australis	●	●	●	●
187	イラクサ	ヤブマオ	Boehmeria japonica var.longispica	●	●	●	●
188		カラムシ	Boehmeria nivea var.concolor	●	●	●	●
189		ナンバンカラムシ	Boehmeria nivea var.tenacissima			●	
190		メヤブマオ	Boehmeria platanifolia	●	●	●	●
191		ナガバヤブマオ	Boehmeria sieboldiana	●	●	●	●
192		コアカソ	Boehmeria spicata	●	●	●	●
193		アカソ	Boehmeria silvestrii	●	●	●	●
194		ムカゴイラクサ	Laportea bulbifera	●	●	●	●
195		カテンソウ	Nanocnide japonica	●	●	●	●
196		サンショウソウ	Pellionia minima	●	●	●	●
197		ミズ	Pilea hamaoi	●	●	●	●
198		ヤマミズ	Pilea japonica	●		●	●
199		コミヤマミズ	Pilea notata			●	
200		アオミズ	Pilea pumila	●	●	●	●
201		イラクサ	Urtica thunbergiana	●	●	●	●
202	ピャクダン	カナビキソウ	Thesium chinense	●	●	●	
203	タデ	ミズヒキ	Antenoron filiforme	●	●	●	●
204		シンミズヒキ	Antenoron neofiliforme			●	●
205		ナガバノヤノネグサ	Persicaria breviochreata		●	●	●
206		ヒメツルソバ	Persicaria capitata				●
207		サクラタデ	Persicaria conspicua	●	●		●
208		ヤナギタデ	Persicaria hydropiper	●	●	●	●
209		シロバナサクラタデ	Persicaria japonica	●	●	●	
210		オオイヌタデ	Persicaria lapathifolia	●	●	●	●
211		イヌタデ	Persicaria longiseta	●	●	●	●
212		オオネバリタデ	Persicaria makinoi		●		
213		ヤノネグサ	Persicaria nipponensis	●	●	●	●
214		イシミカワ	Persicaria perfoliata		●	●	●
215		ハナタデ	Persicaria posumbu	●	●	●	●
216		ボントクタデ	Persicaria pubescens	●	●	●	●
217		ママコノシリヌグイ	Persicaria senticosa	●	●	●	●
218		アキノウナギツカミ	Persicaria sieboldii	●	●	●	●
219		ミゾソバ	Persicaria thunbergii	●	●	●	●
220		ハルタデ	Persicaria vulgaris	●		●	
221		ハイミチヤナギ	Polygonum arenastrum			●	
222		ミチヤナギ	Polygonum aviculare		●	●	●
223		イタドリ	Reynoutria japonica	●	●	●	●
224		スイバ	Rumex acetosa	●	●	●	●
225		ヒメスイバ	Rumex acetosella	●	●	●	
226		アレチギシギシ	Rumex conglomeratus	●	●	●	●
227		ナガバギシギシ	Rumex crispus			●	●
228		ギシギシ	Rumex japonicus	●	●	●	●
229		エゾノギシギシ	Rumex obtusifolius	●	●	●	●
230	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	Phytolacca americana	●	●	●	●
231		ヤマゴボウ	Phytolacca esculenta			●	
232	オシロイバナ	オシロイバナ	Mirabilis jalapa	●	●	●	
233	ザクロソウ	ザクロソウ	Mollugo pentaphylla	●	●	●	●
234		クルマバザクロソウ	Mollugo verticillata	●	●		●
235	スベリヒユ	スベリヒユ	Portulaca oleracea	●	●	●	●
236	ナデシコ	ノミノツヅリ	Arenaria serpyllifolia			●	●
237		オランダミミナグサ	Cerastium glomeratum	●	●	●	●
238		ミミナグサ	Cerastium holosteoides var.angustifolium	●		●	●
239		ナンバンハコベ	Cucubalus baccifer var.japonicus	●	●	●	
240		カワラナデシコ	Dianthus superbus var.longicalycinus		●		
241		タチハコベ	Moehringia trinervia				●
242		ツメクサ	Sagina japonica	●	●	●	●
243		ムシトリナデシコ	Silene armeria	●	●	●	●
244		ホザキマンテマ	Silene dichotoma			●	
245		シロバナマンテマ	Silene gallica				●
246		ノミノフスマ	Stellaria alsine var.undulata	●	●	●	●
247		ウシハコベ	Stellaria aquatica	●	●	●	●
248		サワハコベ	Stellaria diversiflora	●	●	●	●
249		コハコベ	Stellaria media	●	●	●	●
250		ミドリハコベ	Stellaria neglecta	●	●	●	●
251		ミヤマハコベ	Stellaria sessiliflora			●	●
252	アカザ	シロザ	Chenopodium album	●	●	●	●
253		アリタソウ	Chenopodium ambrosioides	●		●	
254		ケアリタソウ	Chenopodium ambrosioides var.pubescens	●	●	●	●
255		コアカザ	Chenopodium ficifolium			●	
256	ヒユ	ヒカゲイノコズチ	Achyranthes bidentata var.japonica	●	●	●	●
257		ヒナタイノコズチ	Achyranthes bidentata var.tomentosa	●	●	●	●
258		ホソバツルノゲイトウ	Alternanthera nodiflora	●	●	●	●
259		ツルノゲイトウ	Alternanthera sessilis			●	●
260		イヌビユ	Amaranthus lividus		●	●	
261		ホソアオゲイトウ	Amaranthus hybridus	●	●		●
262		アオゲイトウ	Amaranthus retroflexus			●	
263		ホナガイヌビユ	Amaranthus viridis	●	●	●	
264		ノゲイトウ	Celosia argentea	●	●	●	●

表　植物確認種リスト（4）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
265	ヒユ	ケイトウ	Celosia cristata	●	●		●
266	モクレン	ホオノキ	Magnolia hypoleuca	●	●	●	●
267		コブシ	Magnolia praecocissima	●	●	●	●
268		タムシバ	Magnolia salicifolia	●	●		
269	マツブサ	サネカズラ	Kadsura japonica	●	●	●	●
270		マツブサ	Schisandra repanda			●	●
271	シキミ	シキミ	Illicium anisatum	●	●	●	●
272	クスノキ	カゴノキ	Actinodaphne lancifolia	●	●	●	●
273		クスノキ	Cinnamomum camphora	●	●	●	●
274		ヤブニッケイ	Cinnamomum japonicum	●	●	●	●
275		カナクギノキ	Lindera erythrocarpa	●	●	●	●
276		ヤマコウバシ	Lindera glauca	●	●	●	●
277		クロモジ	Lindera umbellata	●	●	●	●
278		ヒメクロモジ	Lindera umbellata var.lancea				●
279		ホソバタブ	Machilus japonica	●	●	●	●
280		タブノキ	Machilus thunbergii			●	●
281		イヌガシ	Neolitsea aciculata	●	●	●	●
282		シロダモ	Neolitsea sericea	●	●	●	●
283		アブラチャン	Parabenzoin praecox	●	●	●	●
284		シロモジ	Parabenzoin trilobum		●		
285	キンポウゲ	ヒメウズ	Aquilegia adoxoides	●	●	●	●
286		ボタンヅル	Clematis apiifolia	●	●	●	●
287		センニンソウ	Clematis terniflora	●	●	●	●
288		ケキツネノボタン	Ranunculus cantoniensis	●	●	●	●
289		ウマノアシガタ	Ranunculus japonicus	●	●	●	●
290		キツネノボタン	Ranunculus silerifolius	●	●	●	●
291		アキカラマツ	Thalictrum minus var.hypoleucum	●	●	●	
292	メギ	ヘビノボラズ	Berberis sieboldii	●	●	●	●
293		メギ	Berberis thunbergii	●	●	●	
294		ヒイラギナンテン	Mahonia japonica	●	●	●	
295		ナンテン	Nandina domestica	●	●	●	●
296	アケビ	アケビ	Akebia quinata	●	●	●	●
297		ミツバアケビ	Akebia trifoliata	●	●	●	●
298		ゴヨウアケビ	Akebia x pentaphylla			●	
299		ムベ	Stauntonia hexaphylla	●	●	●	●
300	ツヅラフジ	アオツヅラフジ	Cocculus orbiculatus	●	●	●	●
301	マツモ	マツモ	Ceratophyllum demersum	●	●	●	●
302	ドクダミ	ドクダミ	Houttuynia cordata	●	●	●	●
303		ハンゲショウ	Saururus chinensis	●	●	●	●
304	センリョウ	ヒトリシズカ	Chloranthus japonicus	●	●	●	●
305		フタリシズカ	Chloranthus serratus	●	●	●	
306	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	Aristolochia debilis	●	●	●	
307		ミヤコアオイ	Heterotropa aspera	●	●	●	●
308	ボタン	ヤマシャクヤク	Paeonia japonica			●	
309	マタタビ	サルナシ	Actinidia arguta		●	●	
310		マタタビ	Actinidia polygama	●	●	●	●
311	ツバキ	ヤブツバキ	Camellia japonica	●	●	●	●
312		サカキ	Cleyera japonica	●	●	●	●
313		ヒサカキ	Eurya japonica	●	●	●	●
314		チャノキ	Camellia sinensis	●	●	●	●
315	オトギリソウ	オトギリソウ	Hypericum erectum	●	●	●	●
316		ヒメオトギリ	Hypericum japonicum	●		●	
317		コケオトギリ	Hypericum laxum	●	●	●	●
318		サワオトギリ	Hypericum pseudopetiolatum			●	●
319	モウセンゴケ	モウセンゴケ	Drosera rotundifolia	●	●	●	●
320		トウカイコモウセンゴケ	Drosera tokaiensis		●		
321	ケシ	クサノオウ	Chelidonium majus var.asiaticum	●	●	●	●
322		ムラサキケマン	Corydalis incisa	●	●	●	●
323		フウロケマン	Corydalis pallida			●	
324		ミヤマキケマン	Corydalis pallida var.tenuis	●			
		キケマン属の一種	Corydalis sp.			○	
325		タケニグサ	Macleaya cordata	●	●	●	●
326		ナガミヒナゲシ	Papaver dubium		●	●	
327	アブラナ	スズシロソウ	Arabis flagellosa	●	●	●	●
328		ヤマハタザオ	Arabis hirsuta			●	
329		セイヨウカラシナ	Brassica juncea	●	●	●	●
330		ナズナ	Capsella bursapastoris	●	●	●	●
331		タネツケバナ	Cardamine flexuosa	●	●	●	●
332		ジャニンジン	Cardamine impatiens	●		●	●
333		オオバタネツケバナ	Cardamine scutata	●	●	●	●
334		ワサビ	Eutrema japonica			●	
335		マメグンバイナズナ	Lepidium virginicum	●	●	●	●
336		オランダガラシ	Nasturtium officinale		●	●	●
337		イヌガラシ	Rorippa indica	●	●	●	●
338		スカシタゴボウ	Rorippa islandica	●	●	●	●
339		グンバイナズナ	Thlaspi arvense			●	
340	マンサク	モミジバフウ	*Liquidambar styraciflua*			●	
341	ベンケイソウ	コモチマンネングサ	Sedum bulbiferum	●	●	●	●
342		メキシコマンネングサ	Sedum mexicanum			●	
343		ツルマンネングサ	Sedum sarmentosum			●	
344		ヒメレンゲ	Sedum subtile			●	
345	ユキノシタ	チダケサシ	Astilbe microphylla			●	
346		ネコノメソウ	Chrysosplenium grayanum				●
347		ヤマネコノメソウ	Chrysosplenium japonicum	●	●	●	●
348		タチネコノメソウ	Chrysosplenium tosaense			●	●
349		ウツギ	Deutzia crenata	●	●	●	●
350		ウラジロウツギ	Deutzia maximowicziana	●		●	●
351		コアジサイ	Hydrangea hirta	●	●	●	
352		ヤマアジサイ	Hydrangea macrophylla var.acuminata	●	●	●	

表　植物確認種リスト（5）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
353	ユキノシタ	ノリウツギ	Hydrangea paniculata	●	●	●	●
354		ガクウツギ	Hydrangea scandens			●	
355		チャルメルソウ	Mitella furusei var.subramosa		●	●	●
356		オオチャルメルソウ	Mitella japonica	●	●	●	●
357		タコノアシ	Penthorum chinense	●	●	●	●
358		ヤブサンザシ	Ribes fasciculatum	●	●	●	●
359		ユキノシタ	Saxifraga stolonifera	●	●	●	●
360		イワガラミ	Schizophragma hydrangeoides		●	●	●
361	バラ	キンミズヒキ	Agrimonia japonica	●	●	●	●
362		ヒメキンミズヒキ	Agrimonia nipponica	●		●	
363		ザイフリボク	Amelanchier asiatica	●	●	●	
364		ヘビイチゴ	Duchesnea chrysantha	●	●	●	●
365		ヤブヘビイチゴ	Duchesnea indica	●	●	●	●
366		ビワ	Eriobotrya japonica	●	●	●	●
367		ダイコンソウ	Geum japonicum	●	●	●	●
368		ヤマブキ	Kerria japonica	●	●	●	●
369		カナメモチ	Photinia glabra	●	●	●	●
370		ヒメヘビイチゴ	Potentilla centigrana			●	
371		キジムシロ	Potentilla fragarioides var.major			●	
372		ミツバツチグリ	Potentilla freyniana			●	●
373		オヘビイチゴ	Potentilla sundaica var.robusta	●	●	●	●
374		カマツカ	Pourthiaea villosa var.laevis	●	●	●	●
375		ケカマツカ	Pourthiaea villosa var.zollingeri			●	●
376		イヌザクラ	Prunus buergeriana			●	●
377		ウワミズザクラ	Prunus grayana	●	●	●	●
378		ヤマザクラ	Prunus jamasakura	●	●	●	●
379		リンボク	Prunus spinulosa	●	●	●	●
380		カスミザクラ	Prunus verecunda	●	●	●	●
381		ソメイヨシノ	Prunus x yedoensis				●
382		シャリンバイ	Rhaphiolepis umbellata				●
383		ノイバラ	Rosa multiflora	●	●	●	●
384		ミヤコイバラ	Rosa paniculigera	●	●	●	●
385		フユイチゴ	Rubus buergeri	●	●	●	●
386		ビロードイチゴ	Rubus corchorifolius	●	●	●	●
387		クマイチゴ	Rubus crataegifolius	●	●	●	●
388		ミヤマフユイチゴ	Rubus hakonensis	●	●	●	●
389		クサイチゴ	Rubus hirsutus	●	●	●	●
390		ニガイチゴ	Rubus microphyllus	●	●	●	●
391		ナガバモミジイチゴ	Rubus palmatus	●	●	●	●
392		ナワシロイチゴ	Rubus parvifolius	●	●	●	●
393		エビガライチゴ	Rubus phoenicolasius	●		●	
394		コジキイチゴ	Rubus sumatranus	●	●	●	●
395		ウラジロノキ	Sorbus japonica	●	●	●	●
396		ユキヤナギ	Spiraea thunbergii				●
397		コゴメウツギ	Stephanandra incisa	●			
398	マメ	クサネム	Aeschynomene indica	●	●	●	●
399		ネムノキ	Albizia julibrissin	●	●	●	●
400		イタチハギ	Amorpha fruticosa	●	●	●	●
401		ヤブマメ	Amphicarpaea edgeworthii var.japonica	●	●	●	●
402		ホドイモ	Apios fortunei			●	
403		ゲンゲ	Astragalus sinicus	●	●	●	
404		ジャケツイバラ	Caesalpinia decapetala var.japonica	●	●	●	●
405		カワラケツメイ	Cassia mimosoides ssp.nomame	●	●	●	●
406		アレチヌスビトハギ	Desmodium paniculatum	●	●	●	●
407		ケヤブハギ	Desmodium podocarpum ssp.fallax			●	
408		ヌスビトハギ	Desmodium podocarpum ssp.oxyphyllum	●	●	●	●
409		ヤブハギ	Desmodium podocarpum ssp.oxyphyllum var.mandshuricum	●		●	
410		ノササゲ	Dumasia truncata	●	●	●	●
411		ノアズキ	Dunbaria villosa			●	
412		ツルマメ	Glycine max ssp.soja	●	●	●	●
413		トウコマツナギ	Indigofera bungeana				●
414		コマツナギ	Indigofera pseudotinctoria	●	●	●	●
415		マルバヤハズソウ	Kummerowia stipulacea		●	●	●
416		ヤハズソウ	Kummerowia striata	●	●	●	●
417		ヤマハギ	Lespedeza bicolor		●	●	
418		キハギ	Lespedeza buergeri				●
419		メドハギ	Lespedeza cuneata	●	●	●	●
420		ハイメドハギ	Lespedeza cuneata var.serpens				●
421		マルバハギ	Lespedeza cyrtobotrya			●	
422		ネコハギ	Lespedeza pilosa	●	●	●	●
423		ビッチュウヤマハギ	Lespedeza thunbergii var.albiflora f.angustifolia		●		
424		ミヤコグサ	Lotus corniculatus var.japonicus			●	●
425		ハネミイヌエンジュ	Maackia floribunda	●	●	●	●
426		コメツブウマゴヤシ	Medicago lupulina			●	
427		ナツフジ	Millettia japonica	●	●	●	●
428		クズ	Pueraria lobata	●	●	●	●
429		オオバタンキリマメ	Rhynchosia acuminatifolia	●	●		●
430		タンキリマメ	Rhynchosia volubilis	●	●	●	
431		ハリエンジュ	Robinia pseudoacacia		●	●	●
432		クララ	Sophora flavescens	●	●	●	●
433		コメツブツメクサ	Trifolium dubium	●	●	●	●
434		タチオランダゲンゲ	Trifolium hybridum	●	●		
435		ムラサキツメクサ	Trifolium pratense	●	●	●	●
436		シロツメクサ	Trifolium repens	●	●	●	●
437		ヤハズエンドウ	Vicia angustifolia	●	●	●	●
438		スズメノエンドウ	Vicia hirsuta	●	●		●
439		カスマグサ	Vicia tetrasperma	●	●	●	
440		ヤブツルアズキ	Vigna angularis var.nipponensis	●	●	●	●
441		フジ	Wisteria floribunda	●	●	●	●
442	カタバミ	イモカタバミ	Oxalis articulata			●	●
443		カタバミ	Oxalis corniculata	●	●	●	●

表　植物確認種リスト（6）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
444	カタバミ	アカカタバミ	Oxalis corniculata f.rubrifolia	●	●	●	●
445		ウスアカカタバミ	Oxalis corniculata f.tropaeoloides				●
446		ムラサキカタバミ	Oxalis corymbosa	●	●	●	●
447		オッタチカタバミ	Oxalis stricta	●	●	●	●
448	フウロソウ	アメリカフウロ	Geranium carolinianum	●	●	●	●
449		ゲンノショウコ	Geranium thunbergii	●	●	●	●
450	アマ	キバナノマツバニンジン	Linum virginianum			●	
451	トウダイグサ	エノキグサ	Acalypha australis	●	●	●	●
452		ビロードエノキグサ	Acalypha australis f.velutina			●	●
453		アブラギリ	Aleurites cordata		●		●
454		ハイニシキソウ	Euphorbia chamaesyce				●
455		オオニシキソウ	Euphorbia maculata	●	●	●	●
456		ニシキソウ	Euphorbia pseudochamaesyce				●
457		コニシキソウ	Euphorbia supina	●	●	●	●
458		アカメガシワ	Mallotus japonicus	●	●	●	●
459		ヤマアイ	Mercurialis leiocarpa	●	●	●	●
460		コバンノキ	Phyllanthus flexuosus	●	●	●	
461		ヒメミカンソウ	Phyllanthus matsumurae		●	●	●
462		コミカンソウ	Phyllanthus urinaria			●	
463		シラキ	Sapium japonicum	●	●	●	
464		ナンキンハゼ	Sapium sebiferum	●	●	●	●
465	ミカン	マツカゼソウ	Boenninghausenia japonica	●	●	●	●
466		コクサギ	Orixa japonica			●	●
467		カラタチ	Poncirus trifoliata	●	●		
468		ミヤマシキミ	Skimmia japonica		●		
469		カラスザンショウ	Zanthoxylum ailanthoides	●	●	●	●
470		フユザンショウ	Zanthoxylum armatum var.subtrifoliatum	●	●	●	●
471		サンショウ	Zanthoxylum piperitum	●	●	●	●
472		イヌザンショウ	Zanthoxylum schinifolium	●	●	●	●
473	ニガキ	シンジュ	Ailanthus altissima			●	
474		ニガキ	Picrasma quassioides	●	●	●	●
475	センダン	センダン	Melia azedarach	●	●	●	●
476	ヒメハギ	ヒメハギ	Polygala japonica	●	●	●	●
477	ウルシ	ツタウルシ	Rhus ambigua		●		●
478		ヌルデ	Rhus javanica var.chinensis	●	●	●	●
479		ハゼノキ	Rhus succedanea	●	●	●	●
480		ヤマハゼ	Rhus sylvestris	●	●	●	●
481		ヤマウルシ	Rhus trichocarpa	●	●	●	●
482	カエデ	トウカエデ	*Acer buergerianum*			●	
483		チドリノキ	Acer carpinifolium	●	●	●	
484		ウリカエデ	Acer crataegifolium	●	●	●	
485		イロハモミジ	Acer palmatum	●	●	●	●
486		ウリハダカエデ	Acer rufinerve	●	●	●	●
487	ムクロジ	ムクロジ	Sapindus mukorossi	●	●	●	●
488	トチノキ	トチノキ	Aesculus turbinata				●
489	アワブキ	アワブキ	Meliosma myriantha	●	●	●	●
490	ツリフネソウ	ツリフネソウ	Impatiens textori	●	●	●	●
491	モチノキ	ナナミノキ	Ilex chinensis	●	●	●	●
492		イヌツゲ	Ilex crenata	●	●	●	●
493		アオハダ	Ilex macropoda	●	●	●	●
494		ソヨゴ	Ilex pedunculosa	●	●	●	●
495		クロガネモチ	Ilex rotunda				●
496		ウメモドキ	Ilex serrata	●	●	●	●
497	ニシキギ	ツルウメモドキ	Celastrus orbiculatus	●	●	●	●
498		オニツルウメモドキ	Celastrus orbiculatus var.papillosus			●	●
499		コマユミ	Euonymus alatus f.ciliatodentatus	●	●	●	●
500		ツルマサキ	Euonymus fortunei var.radicans	●	●	●	
501		マサキ	Euonymus japonicus			●	
502		ツリバナ	Euonymus oxyphyllus			●	
503		マユミ	Euonymus sieboldianus	●	●	●	●
504	ミツバウツギ	ゴンズイ	Euscaphis japonica	●	●	●	●
505	ツゲ	フッキソウ	Pachysandra terminalis	●			
506	クロウメモドキ	クマヤナギ	Berchemia racemosa			●	●
507		イソノキ	Frangula crenata	●	●	●	●
508		ケケンポナシ	Hovenia trichocarpa			●	
509		クロウメモドキ	Rhamnus japonica var.decipiens			●	
510	ブドウ	ノブドウ	Ampelopsis glandulosa var.heterophylla	●	●	●	●
511		キレハノブドウ	Ampelopsis glandulosa var.heterophylla f.citrulloides			●	●
512		ヤブガラシ	Cayratia japonica	●	●	●	●
513		ツタ	Parthenocissus tricuspidata	●	●	●	●
514		エビヅル	Vitis ficifolia var.lobata	●	●	●	●
515		サンカクヅル	Vitis flexuosa	●	●	●	●
516		アマヅル	Vitis saccharifera	●		●	●
517	シナノキ	カラスノゴマ	Corchoropsis tomentosa	●	●	●	●
518	アオイ	イチビ	Abutilon theophrasti				●
519	アオギリ	アオギリ	Firmiana simplex		●		
520	ジンチョウゲ	ガンピ	Diplomorpha sikokiana			●	
521	グミ	ツルグミ	Elaeagnus glabra	●	●	●	●
522		トウグミ	Elaeagnus multiflora var.hortensis		●	●	
523		ナワシログミ	Elaeagnus pungens	●	●	●	●
524		アキグミ	Elaeagnus umbellata				●
525	スミレ	タチツボスミレ	Viola grypoceras	●	●	●	●
526		コタチツボスミレ	Viola grypoceras var.exilis			●	
527		アオイスミレ	Viola hondoensis			●	●
528		コスミレ	Viola japonica			●	●
529		マルバスミレ	Viola keiskei	●			
530		スミレ	Viola mandshurica	●	●	●	●
531		ナガバタチツボスミレ	Viola ovatooblonga	●		●	●
532		フモトスミレ	Viola pumilio				●

表　植物確認種リスト（7）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
533	スミレ	ツボスミレ	Viola verecunda	●	●	●	●
534		ヒメアギスミレ	Viola verecunda var.subaequiloba		●	●	●
535		シハイスミレ	Viola violacea	●	●	●	●
536	キブシ	キブシ	Stachyurus praecox	●	●	●	●
537	ミゾハコベ	ミゾハコベ	Elatine triandra var.pedicellata			●	●
538	シュウカイドウ	シュウカイドウ	Begonia evansiana			●	
539	ウリ	ゴキヅル	Actinostemma lobatum		●	●	●
540		アマチャヅル	Gynostemma pentaphyllum	●	●	●	●
541		スズメウリ	Melothria japonica	●	●	●	●
542		アレチウリ	Sicyos angulatus	●	●	●	●
543		カラスウリ	Trichosanthes cucumeroides	●	●	●	●
544		キカラスウリ	Trichosanthes kirilowii var.japonica			●	
545	ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	Ammannia coccinea	●	●	●	
546		ヒメミソハギ	Ammannia multiflora			●	●
547		ミソハギ	Lythrum anceps		●	●	●
548		キカシグサ	Rotala indica var.uliginosa			●	●
549		ミズマツバ	Rotala pusilla			●	
550	ヒシ	ヒシ	Trapa japonica	●	●		●
551	アカバナ	ミズタマソウ	Circaea mollis	●	●	●	●
552		アカバナ	Epilobium pyrricholophum		●		
553		アメリカミズキンバイ	Ludwigia decurrens	●	●	●	●
554		チョウジタデ	Ludwigia epilobioides	●	●	●	●
555		ミズユキノシタ	Ludwigia ovalis		●		●
556		メマツヨイグサ	Oenothera biennis	●	●	●	●
557		オオマツヨイグサ	Oenothera erythrosepala			●	
558		ユウゲショウ	Oenothera rosea				●
559		ヒルザキツキミソウ	Oenothera speciosa			●	
560	アリノトウグサ	アリノトウグサ	Haloragis micrantha	●	●	●	●
561		オオフサモ	Myriophyllum brasiliense	●	●	●	●
562	ミズキ	アオキ	Aucuba japonica	●	●	●	●
563		アメリカヤマボウシ	Benthamidia florida				●
564		ミズキ	Cornus controversa			●	●
565		クマノミズキ	Cornus macrophylla	●	●	●	●
566		ハナイカダ	Helwingia japonica			●	
567	ウコギ	ウラゲウコギ	Acanthopanax nikaianus		●		
568		オカウコギ	Acanthopanax nipponicus	●		●	●
569		コシアブラ	Acanthopanax sciadophylloides	●	●	●	●
570		ヤマウコギ	Acanthopanax spinosus			●	
571		ウド	Aralia cordata	●	●	●	●
572		タラノキ	Aralia elata	●	●	●	●
573		メダラ	Aralia elata var.subinermis			●	
574		カクレミノ	Dendropanax trifidus			●	
575		タカノツメ	Evodiopanax innovans	●	●	●	●
576		ヤツデ	Fatsia japonica		●	●	●
577		キヅタ	Hedera rhombea	●	●	●	●
578	セリ	シシウド	Angelica pubescens	●			
579		ツボクサ	Centella asiatica			●	●
580		セントウソウ	Chamaele decumbens			●	●
581		ドクゼリ	Cicuta virosa			●	●
582		ミツバ	Cryptotaenia japonica	●	●	●	●
583		オオバチドメ	Hydrocotyle javanica	●	●	●	●
584		ノチドメ	Hydrocotyle maritima	●	●	●	●
585		オオチドメ	Hydrocotyle ramiflora				●
586		チドメグサ	Hydrocotyle sibthorpioides	●	●	●	●
587		ヒメチドメ	Hydrocotyle yabei			●	●
588		セリ	Oenanthe javanica	●	●	●	●
589		ヤブニンジン	Osmorhiza aristata	●	●	●	●
590		ウマノミツバ	Sanicula chinensis	●	●	●	
591		ヤブジラミ	Torilis japonica	●	●	●	●
592		オヤブジラミ	Torilis scabra	●	●	●	●
593	リョウブ	リョウブ	Clethra barbinervis	●	●	●	●
594	イチヤクソウ	ギンリョウソウ	Monotropastrum humile	●		●	
595		イチヤクソウ	Pyrola japonica	●	●		
596	ツツジ	イワナシ	Epigaea asiatica	●	●	●	●
597		ネジキ	Lyonia ovalifolia var.elliptica	●	●	●	●
598		アセビ	Pieris japonica	●	●	●	●
599		モチツツジ	Rhododendron macrosepalum	●	●	●	●
600		ヤマツツジ	Rhododendron obtusum var.kaempferi	●	●	●	●
601		コバノミツバツツジ	Rhododendron reticulatum	●	●	●	●
602		ヒラドツツジ	Rhododendron cv.Hirado				●
603		シャシャンボ	Vaccinium bracteatum	●	●	●	●
604		ウスノキ	Vaccinium hirtum	●	●	●	●
605		アクシバ	Vaccinium japonicum	●	●	●	●
606		ケアクシバ	Vaccinium japonicum var.ciliare			●	
607		ナツハゼ	Vaccinium oldhamii	●	●	●	●
608		スノキ	Vaccinium smallii var.versicolor	●	●	●	●
609	ヤブコウジ	マンリョウ	Ardisia crenata	●	●	●	
610		ヤブコウジ	Ardisia japonica	●	●	●	●
611		イズセンリョウ	Maesa japonica	●	●	●	●
612	サクラソウ	ミヤマタゴボウ	Lysimachia acroadenia	●	●	●	●
613		オカトラノオ	Lysimachia clethroides		●	●	
614		ヌマトラノオ	Lysimachia fortunei	●	●	●	●
615		コナスビ	Lysimachia japonica f.subsessilis	●	●	●	●
616	カキノキ	リュウキュウマメガキ	Diospyros japonica	●	●	●	●
617		カキノキ	Diospyros kaki	●	●	●	●
618	エゴノキ	エゴノキ	Styrax japonica	●	●	●	●
619	ハイノキ	サワフタギ	Symplocos sawafutagi	●	●	●	●
620		タンナサワフタギ	Symplocos coreana	●	●	●	●
621		シロバイ	Symplocos lancifolia			●	

表　植物確認種リスト（8）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
622	ハイノキ	クロミノニシゴリ	Symplocos paniculata	●	●	●	●
623		クロバイ	Symplocos prunifolia	●	●	●	●
624	モクセイ	マルバアオダモ	Fraxinus sieboldiana	●	●	●	
625		ネズミモチ	Ligustrum japonicum	●	●	●	●
626		トウネズミモチ	Ligustrum lucidum		●	●	
627		イボタノキ	Ligustrum obtusifolium	●	●	●	●
628		ヒイラギ	Osmanthus heterophyllus	●	●	●	●
629	リンドウ	リンドウ	Gentiana scabra var.buergeri	●	●		
630		アケボノソウ	Swertia bimaculata	●	●	●	●
631		センブリ	Swertia japonica		●		
632		ツルリンドウ	Tripterospermum japonicum	●	●	●	●
633	キョウチクトウ	チョウジソウ	Amsonia elliptica			●	●
634		キョウチクトウ	Nerium indicum		●		
635		テイカカズラ	Trachelospermum asiaticum f.intermedium	●	●	●	●
636		ツルニチニチソウ	Vinca major	●	●	●	●
637	ガガイモ	コイケマ	Cynanchum wilfordii		●		
638		ガガイモ	Metaplexis japonica	●	●	●	●
639		シタキソウ	Stephanotis lutchuensis var.japonica			●	●
640		オオカモメヅル	Tylophora aristolochioides		●	●	
641		コカモメヅル	Tylophora floribunda		●		●
642	アカネ	アリドオシ	Damnacanthus indicus				●
643		オオアリドオシ	Damnacanthus indicus ssp.major		●	●	●
644		オオフタバムグラ	Diodia teres			●	●
645		メリケンムグラ	Diodia virginiana			●	●
646		ヒメヨツバムグラ	Galium gracilens	●		●	●
647		キクムグラ	Galium kikumugura	●	●	●	●
648		ヤマムグラ	Galium pogonanthum	●	●	●	●
649		ヤエムグラ	Galium spurium var.echinospermon	●	●	●	●
650		ヨツバムグラ	Galium trachyspermum	●	●	●	●
651		ホソバノヨツバムグラ	Galium trifidum var.brevipedunculatum	●		●	●
652		カワラマツバ	Galium verum var.asiaticum f.nikkoense	●			
653		クチナシ	Gardenia jasminoides		●	●	
654		ハシカグサ	Hedyotis lindleyana var.hirsuta	●	●	●	●
655		ツルアリドオシ	Mitchella undulata	●	●	●	●
656		ヘクソカズラ	Paederia scandens	●	●	●	●
657		アカネ	Rubia argyi	●	●	●	●
658		カギカズラ	Uncaria rhynchophylla			●	●
659	ヒルガオ	コヒルガオ	Calystegia hederacea		●	●	●
660		ヒルガオ	Calystegia japonica			●	●
661		ネナシカズラ	Cuscuta japonica			●	●
662		アメリカネナシカズラ	Cuscuta pentagona	●	●	●	●
663		マルバルコウ	Ipomoea coccinea	●	●	●	●
664		アメリカアサガオ	Ipomoea hederacea			●	●
665		マメアサガオ	Ipomoea lacunosa	●	●	●	●
666		アサガオ	Ipomoea nil			●	
667		ホシアサガオ	Ipomoea triloba		●		●
		ヒルガオ科の一種	Convolvulaceae sp.			○	
668	ムラサキ	ハナイバナ	Bothriospermum tenellum	●	●	●	●
669		オニルリソウ	Cynoglossum asperrimum		●	●	
670		ノハラムラサキ	Myosotis arvensis	●		●	
671		ミズタビラコ	Trigonotis brevipes	●	●	●	●
672		キュウリグサ	Trigonotis peduncularis	●	●	●	●
673	クマツヅラ	コムラサキ	Callicarpa dichotoma	●	●	●	●
674		ムラサキシキブ	Callicarpa japonica	●	●	●	●
675		ヤブムラサキ	Callicarpa mollis	●	●	●	●
676		カリガネソウ	Caryopteris divaricata	●	●	●	
677		クサギ	Clerodendrum trichotomum	●	●	●	●
678		ヤナギハナガサ	Verbena bonariensis			●	●
679		アレチハナガサ	Verbena brasiliensis		●	●	●
680		クマツヅラ	Verbena officinalis	●	●		●
681	アワゴケ	アワゴケ	Callitriche japonica			●	●
682	シソ	カワミドリ	Agastache rugosa	●	●	●	
683		キランソウ	Ajuga decumbens	●	●	●	●
684		クルマバナ	Clinopodium chinense var.parviflorum		●		
685		トウバナ	Clinopodium gracile	●	●	●	●
686		イヌトウバナ	Clinopodium micranthum	●	●	●	●
687		ヤマトウバナ	Clinopodium multicaule	●		●	
688		ナギナタコウジュ	Elsholtzia ciliata	●	●	●	
689		カキドオシ	Glechoma hederacea var.grandis	●	●	●	●
690		ホトケノザ	Lamium amplexicaule	●	●	●	●
691		オドリコソウ	Lamium barbatum	●	●	●	●
692		ヒメオドリコソウ	Lamium purpureum	●	●	●	
693		メハジキ	Leonurus japonicus	●	●	●	●
694		ミカエリソウ	Leucosceptrum stellipilum	●	●	●	●
695		シロネ	Lycopus lucidus	●	●	●	●
696		ヒメシロネ	Lycopus maackianus			●	
697		ヒメサルダヒコ	Lycopus ramosissimus	●	●	●	
698		コシロネ	Lycopus ramosissimus var.japonicus	●	●		●
699		ヨウシュハッカ	Mentha arvensis				●
700		ハッカ	Mentha arvensis var.piperascens	●	●	●	●
701		ヒメジソ	Mosla dianthera	●	●	●	●
702		ヒカゲヒメジソ	Mosla hirta	●			●
703		イヌコウジュ	Mosla punctulata	●	●	●	●
704		エゴマ	Perilla frutescens			●	●
705		シソ	Perilla frutescens var.acuta	●	●	●	●
706		レモンエゴマ	Perilla frutescens var.citriodora	●	●	●	●
707		ヒメセンナリホオズキ	Physalis pubescens				●
708		ハナトラノオ	Physostegia virginiana		●		●
709		ウツボグサ	Prunella vulgaris ssp.asiatica			●	

表　植物確認種リスト（9）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
710	シソ	ヤマハッカ	Rabdosia inflexa			●	
711		ヒキオコシ	Rabdosia japonica	●		●	●
712		アキチョウジ	Rabdosia longituba			●	
713		アキノタムラソウ	Salvia japonica	●	●	●	
714		オカタツナミソウ	Scutellaria brachyspica				●
715		タツナミソウ	Scutellaria indica		●	●	
716		イガタツナミソウ	Scutellaria kurokawae				●
717		ホナガタツナミソウ	Scutellaria maekawae				●
718		イヌゴマ	Stachys riederi var.intermedia	●	●	●	●
719		ツルニガクサ	Teucrium viscidum var.miquelianum	●	●	●	
720	ナス	クコ	Lycium chinense		●	●	
721		ヒロハフウリンホオズキ	Physalis angulata			●	●
722		アメリカイヌホオズキ	Solanum americanum	●		●	●
723		ワルナスビ	Solanum carolinense		●	●	●
724		ヤマホロシ	Solanum japonense	●		●	
725		ヒヨドリジョウゴ	Solanum lyratum	●	●	●	●
726		オオマルバノホロシ	Solanum megacarpum	●	●		
727		イヌホオズキ	Solanum nigrum	●	●	●	●
728		タマサンゴ	Solanum pseudocapsicum			●	
729		ハダカホオズキ	Tubocapsicum anomalum	●	●	●	
730	ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	Deinostema adenocaulum			●	●
731		サワトウガラシ	Deinostema violaceum			●	●
732		マツバウンラン	Linaria canadensis	●	●	●	●
733		ヒメアメリカアゼナ	Lindernia anagallidea	●	●	●	
734		スズメノトウガラシ	Lindernia antipoda				●
735		ヒロハスズメノトウガラシ	Lindernia antipoda var.verbenifolia			●	
736		ウリクサ	Lindernia crustacea			●	●
737		アメリカアゼナ	Lindernia dubia	●	●	●	●
738		アゼトウガラシ	Lindernia micrantha	●	●	●	●
739		アゼナ	Lindernia procumbens		●	●	●
740		タケトアゼナ	Lindernia dubia			●	
741		ムラサキサギゴケ	Mazus miquelii	●	●	●	●
742		サギゴケ	Mazus miquelii f.albiflorus				●
743		トキワハゼ	Mazus pumilus	●	●	●	●
744		ミゾホオズキ	Mimulus nepalensis			●	
745		コシオガマ	Phtheirospermum japonicum			●	
746		オオヒキヨモギ	Siphonostegia laeta	●	●		●
747		ハナウリクサ	Torenia fournieri				●
748		オオカワヂシャ	Veronica anagallisaquatica	●	●		●
749		タチイヌノフグリ	Veronica arvensis	●	●	●	●
750		ムシクサ	Veronica peregrina	●	●	●	●
751		オオイヌノフグリ	Veronica persica	●	●	●	●
752		カワヂシャ	Veronica undulata				●
753	ノウゼンカズラ	キササゲ	Catalpa ovata	●	●	●	●
754		キリ	Paulownia tomentosa	●	●	●	
755	キツネノマゴ	オギノツメ	Hygrophila salicifolia				●
756		キツネノマゴ	Justicia procumbens	●	●	●	●
757		ハグロソウ	Peristrophe japonica var.subrotunda	●	●	●	●
758	イワタバコ	イワタバコ	Conandron ramondioides	●	●	●	
759	タヌキモ	ミミカキグサ	Utricularia bifida	●	●	●	●
760		ホザキノミミカキグサ	Utricularia caerulea	●	●	●	●
761		ムラサキミミカキグサ	Utricularia uliginosa	●	●	●	●
762	ハエドクソウ	ハエドクソウ	Phryma leptostachya var.asiatica	●	●	●	
763	オオバコ	オオバコ	Plantago asiatica	●	●	●	●
764		ヘラオオバコ	Plantago lanceolata		●	●	
765		タチオオバコ	Plantago virginica			●	●
766	スイカズラ	コツクバネウツギ	Abelia serrata	●	●	●	
767		ツクバネウツギ	Abelia spathulata	●	●	●	
768		オオツクバネウツギ	Abelia tetrasepala			●	
769		ヤマウグイスカグラ	Lonicera gracilipes	●	●	●	●
770		ウグイスカグラ	Lonicera gracilipes var.glabra	●		●	
771		ミヤマウグイスカグラ	Lonicera gracilipes var.glandulosa			●	
772		スイカズラ	Lonicera japonica	●	●	●	●
773		ニワトコ	Sambucus racemosa ssp.sieboldiana	●	●	●	●
774		ガマズミ	Viburnum dilatatum	●	●	●	●
775		コバノガマズミ	Viburnum erosum var.punctatum	●	●	●	●
776		ヤブデマリ	Viburnum plicatum var.tomentosum	●	●	●	●
777		ゴマギ	Viburnum sieboldii	●	●	●	●
778		ミヤマガマズミ	Viburnum wrightii	●	●	●	
779		タニウツギ	Weigela hortensis		●		●
780	オミナエシ	オトコエシ	Patrinia villosa	●	●	●	●
781		ツルカノコソウ	Valeriana flaccidissima			●	
782		ノヂシャ	Valerianella olitoria	●	●	●	●
783	マツムシソウ	ナベナ	Dipsacus japonicus	●	●	●	●
784	キキョウ	ツリガネニンジン	Adenophora triphylla var.japonica	●	●		
785		ホタルブクロ	Campanula punctata	●	●	●	●
786		ツルニンジン	Codonopsis lanceolata	●	●	●	●
787		ミゾカクシ	Lobelia chinensis	●	●	●	●
788		タニギキョウ	Peracarpa carnosa var.circaeoides	●	●	●	●
789		キキョウソウ	Specularia perfoliata	●	●	●	●
790		ヒナギキョウ	Wahlenbergia marginata			●	
791	キク	セイヨウノコギリソウ	Achillea millefolium		●		
792		ヌマダイコン	Adenostemma lavenia		●		
793		ブタクサ	Ambrosia artemisiifolia var.elatior	●	●	●	●
794		クソニンジン	Artemisia annua				●
795		カワラヨモギ	Artemisia capillaris		●		
796		ヨモギ	Artemisia indica var.maximowiczii	●	●	●	●
797		オトコヨモギ	Artemisia japonica		●	●	
798		イヌヨモギ	Artemisia keiskeana			●	
799		イナカギク	Aster ageratoides ssp.amplexifolius	●	●	●	

表　植物確認種リスト（10）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
800	キク	シロヨメナ	Aster ageratoides ssp.leiophyllus	●	●		
801		ノコンギク	Aster ageratoides ssp.ovatus	●	●	●	●
802		シラヤマギク	Aster scaber	●	●	●	
803		ヒロハホウキギク	Aster subulatus var.ligulatus	●	●	●	●
804		ホウキギク	Aster subulatus var.sandwicensis		●	●	●
805		コバノセンダングサ	Bidens bipinnata	●	●	●	
806		センダングサ	Bidens biternata	●		●	●
807		アメリカセンダングサ	Bidens frondosa	●	●	●	●
808		コセンダングサ	Bidens pilosa	●	●	●	●
809		ヤブタバコ	Carpesium abrotanoides	●	●	●	
810		コヤブタバコ	Carpesium cernuum			●	
811		ガンクビソウ	Carpesium divaricatum			●	
812		サジガンクビソウ	Carpesium glossophyllum	●	●	●	
813		トキンソウ	Centipeda minima	●	●	●	●
814		ノアザミ	Cirsium japonicum	●	●	●	●
815		アズマヤマアザミ	Cirsium microspicatum				●
816		ヨシノアザミ	Cirsium nipponicum var.yoshinoi			●	●
817		アメリカオニアザミ	Cirsium vulgare			●	
818		アレチノギク	Conyza bonariensis	●		●	
819		オオアレチノギク	Conyza sumatrensis	●	●	●	●
820		オオキンケイギク	Coreopsis lanceolata		●	●	
821		コスモス	Cosmos bipinnatus			●	●
822		ベニバナボロギク	Crassocephalum crepidioides	●	●	●	●
823		アワコガネギク	Dendranthema boreale	●		●	●
824		リュウノウギク	Dendranthema japonicum		●		
825		アメリカタカサブロウ	Eclipta alba			●	●
826		タカサブロウ	Eclipta prostrata	●	●	●	●
827		ダンドボロギク	Erechtites hieracifolia	●	●	●	●
828		ヒメムカシヨモギ	Erigeron canadensis	●	●	●	●
829		ハルジオン	Erigeron philadelphicus	●	●	●	●
830		ヒヨドリバナ	Eupatorium chinense var.oppositifolium	●	●	●	●
831		サワヒヨドリ	Eupatorium lindleyanum	●	●	●	
832		ハキダメギク	Galinsoga ciliata	●	●	●	
833		ハハコグサ	Gnaphalium affine	●	●	●	●
834		タチチチコグサ	Gnaphalium calviceps	●	●	●	
835		チチコグサ	Gnaphalium japonicum	●	●	●	●
836		チチコグサモドキ	Gnaphalium pensylvanicum	●	●	●	●
837		ウスベニチチコグサ	Gnaphalium purpureum	●	●	●	
838		ウラジロチチコグサ	Gnaphalium spicatum			●	●
839		キクイモ	Helianthus tuberosus		●	●	●
840		キツネアザミ	Hemistepta lyrata	●	●	●	●
841		ブタナ	Hypochoeris radicata	●		●	●
842		オオヂシバリ	Ixeris debilis	●	●	●	
843		ニガナ	Ixeris dentata	●	●	●	●
844		ハナニガナ	Ixeris dentata var.albiflora f.amplifolia			●	
845		ノニガナ	Ixeris polycephala	●			●
846		イワニガナ	Ixeris stolonifera	●	●	●	●
847		ユウガギク	Kalimeris pinnatifida			●	
848		ヨメナ	Kalimeris yomena	●	●	●	●
849		アキノノゲシ	Lactuca indica	●	●	●	●
850		ホソバアキノノゲシ	Lactuca indica f.indivisa	●	●	●	
851		トゲチシャ	Lactuca scariola			●	●
852		ムラサキニガナ	Lactuca sororia	●	●	●	●
853		ケムラサキニガナ	Lactuca sororia var.pilipes	●			
854		コオニタビラコ	Lapsana apogonoides	●	●	●	
855		ヤブタビラコ	Lapsana humilis	●		●	●
856		コウヤボウキ	Pertya scandens	●	●	●	●
857		フキ	Petasites japonicus	●	●	●	●
858		コウゾリナ	Picris hieracioides var.glabrescens	●	●	●	●
859		シュウブンソウ	Rhynchospermum verticillatum	●	●	●	●
860		サワギク	Senecio nikoensis			●	
861		ノボロギク	Senecio vulgaris	●	●	●	
862		コメナモミ	Siegesbeckia orientalis ssp.glabrescens			●	
863		メナモミ	Siegesbeckia orientalis ssp.pubescens	●	●	●	●
864		セイタカアワダチソウ	Solidago altissima	●	●	●	●
865		オオアワダチソウ	Solidago gigantea var.leiophylla			●	
866		アキノキリンソウ	Solidago virgaurea var.asiatica		●	●	
867		オニノゲシ	Sonchus asper	●	●	●	●
868		ノゲシ	Sonchus oleraceus	●	●	●	●
869		ヒメジョオン	Stenactis annuus	●	●	●	●
870		カンサイタンポポ	Taraxacum japonicum	●		●	●
871		アカミタンポポ	Taraxacum laevigatum	●	●	●	
872		セイヨウタンポポ	Taraxacum officinale	●	●	●	●
873		オオオナモミ	Xanthium occidentale	●	●	●	●
874		ヤクシソウ	Youngia denticulata	●	●	●	●
875		オニタビラコ	Youngia japonica	●	●	●	●
876	オモダカ	ヘラオモダカ	Alisma canaliculatum		●		●
877		ウリカワ	Sagittaria pygmaea		●	●	
878		オモダカ	Sagittaria trifolia		●	●	
879	トチカガミ	オオカナダモ	Egeria densa	●	●	●	●
880		コカナダモ	Elodea nuttallii	●	●	●	●
881		クロモ	Hydrilla verticillata	●		●	●
882		ネジレモ	Vallisneria biwaensis		●	●	●
883		コウガイモ	Vallisneria denseserrulata	●	●		
884	ヒルムシロ	エビモ	Potamogeton crispus	●	●	●	●
885		ヒルムシロ	Potamogeton distinctus		●		●
886		センニンモ	Potamogeton maackianus			●	●
887		ササバモ	Potamogeton malaianus			●	●
888		ホソバミズヒキモ	Potamogeton octandrus	●			

表　植物確認種リスト（11）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
889	ヒルムシロ	ヤナギモ	Potamogeton oxyphyllus	●			●
890	イバラモ	イトトリゲモ	Najas japonica			●	
891	ユリ	ノギラン	Aletris luteoviridis	●	●	●	
892		ノビル	Allium grayi	●	●	●	●
893		ニラ	Allium tuberosum	●			●
894		ハラン	Aspidistra elatior		●	●	●
895		ホウチャクソウ	Disporum sessile		●	●	
896		チゴユリ	Disporum smilacinum	●	●	●	
897		ショウジョウバカマ	Heloniopsis orientalis	●	●	●	●
898		ヤブカンゾウ	Hemerocallis fulva var.kwanso	●	●	●	●
899		オオバギボウシ	Hosta montana				●
900		コバギボウシ	Hosta sieboldii f.lancifolia				●
901		ウバユリ	Lilium cordatum	●	●	●	●
902		ササユリ	Lilium japonicum	●	●	●	
903		ヒメヤブラン	Liriope minor	●	●	●	●
904		ヤブラン	Liriope muscari	●	●	●	●
905		コヤブラン	Liriope spicata	●		●	●
906		ジャノヒゲ	Ophiopogon japonicus	●	●	●	●
907		ナガバジャノヒゲ	Ophiopogon ohwii	●	●	●	●
908		オオバジャノヒゲ	Ophiopogon planiscapus				●
909		ナルコユリ	Polygonatum falcatum	●	●	●	
910		キチジョウソウ	Reineckea carnea	●	●	●	
911		オモト	Rohdea japonica	●	●	●	●
912		ツルボ	Scilla scilloides	●		●	
913		サルマメ	Smilax biflora var.trinervula	●	●	●	
914		サルトリイバラ	Smilax china	●	●	●	●
915		タチシオデ	Smilax nipponica				●
916		シオデ	Smilax riparia var.ussuriensis	●	●	●	●
917		ヤマジノホトトギス	Tricyrtis affinis		●		
918	ヒガンバナ	ヒガンバナ	Lycoris radiata	●	●	●	●
919		キツネノカミソリ	Lycoris sanguinea		●		
920		タマスダレ	Zephyranthes candida	●	●		
921	ヤマノイモ	ナガイモ	Dioscorea batatas				●
922		ニガカシュウ	Dioscorea bulbifera		●	●	●
923		タチドコロ	Dioscorea gracillima				●
924		ヤマノイモ	Dioscorea japonica	●	●	●	●
925		カエデドコロ	Dioscorea quinqueloba	●	●	●	●
926		キクバドコロ	Dioscorea septemloba				●
927		ヒメドコロ	Dioscorea tenuipes	●	●	●	●
928		オニドコロ	Dioscorea tokoro	●	●	●	●
929	ミズアオイ	ホテイアオイ	Eichhornia crassipes				●
930		コナギ	Monochoria vaginalis var.plantaginea	●	●	●	●
931	アヤメ	ヒオウギ	Belamcanda chinensis			●	
932		シャガ	Iris japonica	●	●	●	●
933		キショウブ	Iris pseudacorus	●	●	●	●
934		ニワゼキショウ	Sisyrinchium atlanticum	●	●	●	●
935		オオニワゼキショウ	Sisyrinchium sp.			●	
936		ヒメヒオウギズイセン	Tritonia crocosmaeflora		●	●	●
937	イグサ	ハナビゼキショウ	Juncus alatus	●			●
938		イ	Juncus effusus var.decipiens	●	●	●	●
939		コウガイゼキショウ	Juncus leschenaultii	●	●	●	●
940		アオコウガイゼキショウ	Juncus papillosus	●	●	●	
941		ホソイ	Juncus setchuensis var.effusoides	●	●	●	●
942		クサイ	Juncus tenuis	●	●	●	●
943		コゴメイ	Juncus sp.				●
944		スズメノヤリ	Luzula capitata	●	●	●	●
945		ヤマスズメノヒエ	Luzula multiflora	●	●	●	●
946		ヌカボシソウ	Luzula plumosa var.macrocarpa	●	●	●	●
947	ツユクサ	ツユクサ	Commelina communis	●	●	●	●
948		イボクサ	Murdannia keisak	●	●	●	●
949		ヤブミョウガ	Pollia japonica	●	●	●	
950		ノハカタカラクサ	Tradescantia flumiensis			●	●
951		ムラサキツユクサ	Tradescantia reflexa			●	
952	ホシクサ	ホシクサ	Eriocaulon cinereum			●	
953		イトイヌノヒゲ	Eriocaulon decemflorum var.nipponicum	●			●
954		イヌノヒゲ	Eriocaulon miquelianum				●
955		ヒロハイヌノヒゲ	Eriocaulon robustius		●		
956		シロイヌノヒゲ	Eriocaulon sikokianum	●	●	●	
957	イネ	アオカモジグサ	Agropyron racemiferum	●	●	●	●
958		タチカモジグサ	Agropyron racemiferum var.japonense			●	
959		カモジグサ	Agropyron tsukushiense var.transiens	●	●	●	●
960		コヌカグサ	Agrostis alba	●	●	●	●
961		ヤマヌカボ	Agrostis clavata	●		●	●
962		ヌカボ	Agrostis clavata ssp.matsumurae	●	●	●	●
963		ヒメコヌカグサ	Agrostis nipponensis	●		●	●
964		ヌカススキ	Aira caryophyllea			●	
965		ハナヌカススキ	Aira elegans	●	●	●	●
966		スズメノテッポウ	Alopecurus aequalis var.amurensis	●	●	●	●
967		メリケンカルカヤ	Andropogon virginicus	●	●	●	●
968		コブナグサ	Arthraxon hispidus	●	●	●	●
969		トダシバ	Arundinella hirta	●	●	●	●
970		ウスゲトダシバ	Arundinella hirta var.ciliata		●		
971		カラスムギ	Avena fatua	●	●	●	
972		ミノゴメ	Beckmannia syzigachne	●	●	●	●
973		ヤマカモジグサ	Brachypodium sylvaticum			●	●
974		コバンソウ	Briza maxima	●	●	●	●
975		ヒメコバンソウ	Briza minor	●	●	●	●
976		ヤクナガイヌムギ	Bromus carinatus			●	
977		イヌムギ	Bromus catharticus	●	●	●	●
978		スズメノチャヒキ	Bromus japonicus	●	●	●	
979		キツネガヤ	Bromus pauciflorus	●	●	●	

表　植物確認種リスト（12）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
980	イネ	ノガリヤス	Calamagrostis arundinacea var.brachytricha	●	●	●	●
981		ジュズダマ	Coix lacrymajobi	●	●	●	●
982		ギョウギシバ	Cynodon dactylon		●	●	●
983		カモガヤ	Dactylis glomerata	●	●	●	●
984		ニコゲヌカキビ	Dichanthelium acuminatum		●		
985		メヒシバ	Digitaria ciliaris	●	●	●	●
986		コメヒシバ	Digitaria radicosa	●	●	●	●
987		アキメヒシバ	Digitaria violascens	●	●	●	●
988		カリマタガヤ	Dimeria ornithopoda var.tenera		●	●	
989		アブラススキ	Eccoilopus cotulifer	●	●	●	
990		イヌビエ	Echinochloa crusgalli	●	●	●	●
991		ケイヌビエ	Echinochloa crusgalli var.echinata			●	●
992		タイヌビエ	Echinochloa crusgalli var.oryzicola			●	
993		オヒシバ	Eleusine indica	●	●	●	●
994		ヌマカゼクサ	Eragrostis aquatica	●	●	●	●
995		シナダレスズメガヤ	Eragrostis curvula	●	●	●	●
996		カゼクサ	Eragrostis ferruginea	●	●	●	●
997		コゴメカゼクサ	Eragrostis japonica			●	●
998		ニワホコリ	Eragrostis multicaulis	●	●	●	●
999		オオニワホコリ	Eragrostis multispicula	●			
1000		オニウシノケグサ	Festuca arundinacea	●	●	●	●
1001		アオウシノケグサ	Festuca ovina var.coreana			●	
1002		トボシガラ	Festuca parvigluma	●	●	●	●
1003		ヒロハノウシノケグサ	Festuca pratensis			●	●
1004		ドジョウツナギ	Glyceria ischyroneura	●		●	●
1005		ウシノシッペイ	Hemarthria sibirica	●	●	●	●
1006		チガヤ	Imperata cylindrica var.koenigii	●	●	●	●
1007		チゴザサ	Isachne globosa	●	●	●	●
1008		ハイチゴザサ	Isachne nipponensis	●	●	●	●
1009		エゾノサヤヌカグサ	Leersia oryzoides	●	●		
1010		サヤヌカグサ	Leersia sayanuka	●	●	●	●
1011		ネズミホソムギ	Lolium x hybridum	●	●	●	
1012		ネズミムギ	Lolium multiflorum			●	●
1013		ホソムギ	Lolium perenne			●	
1014		ドクムギ	Lolium temulentum			●	
1015		ササクサ	Lophatherum gracile	●	●	●	●
1016		トウササクサ	Lophatherum sinense	●	●		
1017		コメガヤ	Melica nutans	●	●	●	●
1018		ササガヤ	Microstegium japonicum	●	●	●	●
1019		ミヤマササガヤ	Microstegium nudum	●			
1020		ヒメアシボソ	Microstegium vimineum	●	●	●	●
1021		アシボソ	Microstegium vimineum var.polystachyum	●	●	●	●
1022		オギ	Miscanthus sacchariflorus	●	●	●	●
1023		ススキ	Miscanthus sinensis	●	●	●	●
1024		ヌマガヤ	Moliniopsis japonica	●	●	●	●
1025		ネズミガヤ	Muhlenbergia japonica		●	●	
1026		ケチヂミザサ	Oplismenus undulatifolius			●	●
1027		コチヂミザサ	Oplismenus undulatifolius var.japonicus	●	●	●	●
1028		ヌカキビ	Panicum bisulcatum	●	●	●	●
1029		オオクサキビ	Panicum dichotomiflorum	●	●	●	●
1030		シマスズメノヒエ	Paspalum dilatatum	●	●	●	●
1031		キシュウスズメノヒエ	Paspalum distichum	●	●	●	●
1032		チクゴスズメノヒエ	Paspalum distichum var.indutum		●	●	●
1033		アメリカスズメノヒエ	Paspalum notatum	●	●	●	
1034		スズメノヒエ	Paspalum thunbergii	●	●	●	●
1035		タチスズメノヒエ	Paspalum urvillei		●	●	●
1036		チカラシバ	Pennisetum alopecuroides f.purpurascens	●	●	●	●
1037		クサヨシ	Phalaris arundinacea	●	●	●	●
1038		ヨシ	Phragmites australis	●	●	●	●
1039		ツルヨシ	Phragmites japonica	●	●	●	●
1040		セイタカヨシ	Phragmites karka	●	●	●	●
1041		マダケ	Phyllostachys bambusoides	●	●	●	●
1042		ハチク	Phyllostachys nigra var.henonis			●	●
1043		モウソウチク	Phyllostachys pubescens	●	●	●	●
1044		ネザサ	Pleioblastus chino var.viridis	●	●	●	●
1045		ケネザサ	Pleioblastus shibuyanus f.pubescens			●	●
1046		メダケ	Pleioblastus simonii	●	●	●	●
1047		ミゾイチゴツナギ	Poa acroleuca	●	●	●	●
1048		スズメノカタビラ	Poa annua	●	●	●	●
1049		オオイチゴツナギ	Poa nipponica			●	
1050		ナガハグサ	Poa pratensis			●	●
1051		イチゴツナギ	Poa sphondylodes	●		●	●
1052		オオスズメノカタビラ	Poa trivialis	●	●	●	●
1053		ヒエガエリ	Polypogon fugax		●	●	●
1054		ヤダケ	Pseudosasa japonica	●	●	●	
1055		ハイヌメリ	Sacciolepis indica			●	●
1056		ヌメリグサ	Sacciolepis indica var.oryzetorum	●	●	●	●
1057		ミヤコザサ	Sasa nipponica			●	
1058		イブキザサ	Sasa tsuboiana			●	
1059		クマザサ	Sasa veitchii			●	
1060		アキノエノコログサ	Setaria faberi	●	●	●	●
1061		コツブキンエノコロ	Setaria pallidefusca			●	●
1062		キンエノコロ	Setaria pumilla	●	●	●	●
1063		オオエノコロ	Setaria x pycnocoma			●	●
1064		エノコログサ	Setaria viridis	●	●	●	●
1065		ムラサキエノコロ	Setaria viridis f.misera			●	
1066		オカメザサ	Shibataea kumasasa	●	●		●
1067		ネズミノオ	Sporobolus fertilis	●	●	●	●

表　植物確認種リスト（13）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
1068	イネ	ムラサキネズミノオ	Sporobolus fertilis var.purpureosuffusus			●	
1069		カニツリグサ	Trisetum bifidum	●	●	●	●
1070		ナギナタガヤ	Vulpia myuros	●	●	●	●
1071		ムラサキナギナタガヤ	Vulpia octoflora	●		●	
1072		マコモ	Zizania latifolia			●	
1073		シバ	Zoysia japonica	●	●	●	●
		イネ科の一種	Gramineae sp.			○	
1074	ヤシ	シュロ	Trachycarpus fortunei	●	●	●	●
1075	サトイモ	ショウブ	Acorus calamus		●		
1076		セキショウ	Acorus gramineus	●	●	●	●
1077		キシダマムシグサ	Arisaema kishidae			●	
1078		マムシグサ(広義)	Arisaema serratum		●	●	
1079		ウラシマソウ	Arisaema thunbergii ssp.urashima	●		●	
1080		ムロウテンナンショウ	Arisaema yamatense			●	
		テンナンショウ属の一種	Arisaema sp.				●
1081		カラスビシャク	Pinellia ternata		●	●	
1082		オオハンゲ	Pinellia tripartita		●	●	●
1083	ウキクサ	アオウキクサ	Lemna aoukikusa			●	
1084		ウキクサ	Spirodela polyrhiza		●	●	●
1085	ガマ	ヒメガマ	Typha angustifolia			●	
1086		ガマ	Typha latifolia	●	●	●	●
1087	カヤツリグサ	エナシヒゴクサ	Carex aphanolepis			●	●
1088		クロカワズスゲ	Carex arenicola			●	
1089		マツバスゲ	Carex biwensis	●		●	
1090		アオスゲ	Carex leucochlora	●	●	●	●
1091		ミヤマシラスゲ	Carex confertiflora		●	●	●
1092		ヒメカンスゲ	Carex conica			●	
1093		ナルコスゲ	Carex curvicollis			●	
1094		アゼナルコ	Carex dimorpholepis	●	●	●	●
1095		カサスゲ	Carex dispalata		●	●	
1096		シラスゲ	Carex doniana	●	●	●	●
1097		ヤマテキリスゲ	Carex flabellata			●	
1098		オクノカンスゲ	Carex foliosissima				●
1099		マスクサ	Carex gibba	●	●	●	●
1100		ヤマアゼスゲ	Carex heterolepis			●	
1101		ジュズスゲ	Carex ischnostachya	●	●	●	●
1102		ヒゴクサ	Carex japonica			●	●
1103		ヒカゲスゲ	Carex lanceolata			●	
1104		ナキリスゲ	Carex lenta	●	●	●	●
1105		ヤガミスゲ	Carex maackii	●	●	●	●
1106		ゴウソ	Carex maximowiczii	●	●	●	
1107		ヒメシラスゲ	Carex mollicula			●	
1108		カンスゲ	Carex morrowii				●
1109		ミヤマカンスゲ	Carex multifolia			●	
1110		ミコシガヤ	Carex neurocarpa	●	●	●	●
1111		ヤチカワズスゲ	Carex omiana	●	●	●	●
1112		オタルスゲ	Carex otaruensis	●		●	
1113		コジュズスゲ	Carex parciflora var.macroglossa			●	
1114		タカネマスクサ	Carex planata		●		●
1115		クサスゲ	Carex rugata			●	
1116		アズマナルコ	Carex shimidzensis			●	
1117		ニシノホンモンジスゲ	Carex stenostachys			●	●
1118		アゼスゲ	Carex thunbergii	●	●	●	●
1119		ヤワラスゲ	Carex transversa			●	●
1120		モエギスゲ	Carex tristachya	●		●	
1121		アイダクグ	Cyperus brevifolius	●	●	●	●
1122		ヒメクグ	Cyperus brevifolius var.leiolepis	●	●	●	●
1123		クグガヤツリ	Cyperus compressus	●	●		
1124		イヌクグ	Cyperus cyperoides			●	
1125		タマガヤツリ	Cyperus difformis	●	●	●	●
1126		メリケンガヤツリ	Cyperus eragrostis	●	●	●	●
1127		ヒナガヤツリ	Cyperus flaccidus	●	●	●	●
1128		アゼガヤツリ	Cyperus globosus	●	●	●	●
1129		コアゼガヤツリ	Cyperus haspan	●	●	●	●
1130		コゴメガヤツリ	Cyperus iria	●	●	●	●
1131		カヤツリグサ	Cyperus microiria	●	●	●	●
1132		アオガヤツリ	Cyperus nipponicus	●			
1133		キンガヤツリ	Cyperus odoratus	●			●
1134		ウシクグ	Cyperus orthostachyus	●	●	●	
1135		ハマスゲ	Cyperus rotundus	●	●	●	
1136		カワラスガナ	Cyperus sanguinolentus	●	●	●	●
1137		ヒメガヤツリ	Cyperus tenuispica		●		
1138		マツバイ	Eleocharis acicularis var.longiseta			●	
1139		ハリイ	Eleocharis congesta ssp.japonica		●	●	●
1140		シカクイ	Eleocharis wichurae			●	●
1141		ヒメヒラテンツキ	Fimbristylis autumnalis		●		
1142		テンツキ	Fimbristylis dichotoma	●	●	●	●
1143		クロテンツキ	Fimbristylis diphylloides	●		●	●
1144		ヒデリコ	Fimbristylis miliacea	●	●	●	●
1145		ヤマイ	Fimbristylis subbispicata	●	●	●	
1146		メアゼテンツキ	Fimbristylis velata		●		
1147		ヒンジガヤツリ	Lipocarpha microcephala	●			●
1148		イヌノハナヒゲ	Rhynchospora chinensis	●	●	●	●
1149		イトイヌノハナヒゲ	Rhynchospora faberi	●	●	●	●
1150		コイヌノハナヒゲ	Rhynchospora fujiiana	●			●
1151		コマツカサススキ	Scirpus fuirenoides	●	●		
1152		ホタルイ	Scirpus juncoides		●	●	●
1153		イヌホタルイ	Scirpus juncoides		●	●	●
1154		カンガレイ	Scirpus triangulatus			●	●

表　植物確認種リスト（14）

No.	科　名	種　名	学名	H7年度	H9年度	H14年度	H21～22年度
1155	カヤツリグサ	サンカクイ	Scirpus triqueter	●	●	●	●
1156		アブラガヤ	Scirpus wichurae	●	●	●	●
1157		ウキヤガラ	Scirpus yagara	●	●	●	●
1158	ショウガ	ミョウガ	Zingiber mioga		●	●	●
1159	ラン	シラン	Bletilla striata				●
1160		エビネ	Calanthe discolor		●	●	
1161		ナツエビネ	Calanthe reflexa			●	
		エビネ属の一種	Calanthe sp.				●
1162		サイハイラン	Cremastra appendiculata			●	
1163		シュンラン	Cymbidium goeringii	●	●	●	●
1164		カキラン	Epipactis thunbergii	●	●	●	
1165		ミヤマウズラ	Goodyera schlechtendaliana				●
1166		コクラン	Liparis nervosa	●	●	●	●
1167		オオバノトンボソウ	Platanthera minor	●	●	●	●
1168		トキソウ	Pogonia japonica	●			
1169		カヤラン	Sarcochilus japonicus				●
1170		ネジバナ	Spiranthes sinensis var.amoena	●	●	●	●
計				786	826	1020	843

表 陸上昆虫類等確認種リスト(1)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1	クモ	クモ	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	Antrodiaetus roretzi		○	
2			ジグモ	ジグモ	Atypus karschi	○		○
3			トタテグモ	トタテグモ科の一種	Ctenizidae sp.			○
4			ハグモ	ネコハグモ	Dictyna felis		○	○
5				ヒナハグモ	Dictyna foliicola			○
				ハグモ科の一種	Dictynidae sp.			○
6			ウズグモ	ウズグモ	Octonoba varians	○		○
7				オウギグモ	Hyptiotes affinis	○	○	○
8				マネキグモ	Miagrammopes orientalis	○	○	○
9				トウキョウウズグモ	Octonoba sinensis		○	
10				カタハリウズグモ	Octonoba sybotides		○	○
11			マシラグモ	ヨコフマシラグモ	Leptoneta striata	○		
				Leptoneta属の一種	Leptoneta sp.	○	○	○
				マシラグモ科の一種	Leptonetidae gen. sp.	○	○	
12			タマゴグモ	ダニグモ	Gamasomorpha cataphracta			○
13				ナルトミダニグモ	Ischnothyreus narutomii	○	○	
14			ユウレイグモ	ユウレイグモ	Pholcus crypticolens	○	○	
15			エンマグモ	ミヤグモ	Ariadna lateralis			○
16			タナグモ	クサグモ	Agelena limbata	○	○	
17				コクサグモ	Agelena opulenta	○	○	○
				Agelena属の一種	Agelena sp.			○
18				コタナグモ	Cicurina japonica	○		
19				ヤマヤチグモ	Coelotes corasides	○		○
20				フタバヤチグモ	Coelotes hamamurai			○
21				シモフリヤチグモ	Iwogumoa insidiosa	○		○
22				ヒメシモフリヤチグモ	Iwogumoa interuna	○		
23				メガネヤチグモ	Coelotes luctuosus	○		
24				ヒメヤマヤチグモ	Coelotes michikoae	○		○
25				カメンヤチグモ	Coelotes personatus	○	○	
26				デベソヤチグモ	Coelotes tumidivulva			○
27				カミガタヤチグモ	Coelotes yaginumai	○	○	○
28				ヨドヤチグモ	Coelotes yodoensis	○	○	○
				Coelotes属の一種	Coelotes sp.	○	○	○
29				ザラナミハグモ	Cybaeus communis			○
30				カチドキナミハグモ	Cybaeus nipponicus	○		○
				Cybaeus属の一種	Cybaeus sp.		○	○
				タナグモ科の一種	Agelenidae gen. sp.	○	○	○
31			コガネグモ	ハツリグモ	Acusilas coccineus		○	
32				キザハシオニグモ	Araneus abscissus	○		○
33				ナカムラオニグモ	Araneus cornutus			○
34				ヌサオニグモ	Araneus ejusmodi		○	○
35				ヤミイロオニグモ	Araneus fuscocoloratus	○	○	
36				イシサワオニグモ	Araneus ishisawai		○	
37				ビジョオニグモ	Araneus mitificus		○	
38				アオオニグモ	Araneus pentagrammicus		○	○
39				マルヅメオニグモ	Araneus semilunaris	○	○	○
40				ヤマオニグモ	Araneus uyemurai	○		○
41				オニグモ	Araneus ventricosus	○		○
42				カラオニグモ	Araneus tsurusakii			○
43				ハラビロミドリオニグモ	Araneus viridiventris			○
44				マメオニグモ	Araneus nojimai	○	○	
				Araneus属の一種	Araneus sp.		○	○
45				ムツボシオニグモ	Araniella yaginumai	○	○	○
46				コガネグモ	Argiope amoena		○	
47				チュウガタコガネグモ	Argiope boesenbergi	○	○	○
48				ナガコガネグモ	Argiope bruennichii	○	○	○
49				コガタコガネグモ	Argiope minuta	○	○	○
				Argiope属の一種	Argiope sp.		○	○
50				ヤマトカナエグモ	Chorizopes nipponicus		○	○
51				ギンメッキゴミグモ	Cyclosa argenteoalba		○	○
52				カラスゴミグモ	Cyclosa atrata		○	
53				ギンナガゴミグモ	Cyclosa ginnaga		○	○
54				シマゴミグモ	Cyclosa omonaga			○
55				キジロゴミグモ	Cyclosa laticauda			○
56				ヤマゴミグモ	Cyclosa monticola		○	
57				ゴミグモ	Cyclosa octotuberculata		○	○
58				ヨツデゴミグモ	Cyclosa sedeculata	○	○	○
59				トリノフンダマシ	Cyrtarachne bufo		○	
60				シロオビトリノフンダマシ	Cyrtarachne nagasakiensis		○	
61				クロトリノフンダマシ	Cyrtarachne nigra		○	
62				アカイロトリノフンダマシ	Cyrtarachne yunoharuensis		○	○
63				トガリオニグモ	Eriovixia pseudocentrodes	○	○	○
64				ヨツボシショウジョウグモ	Hypsosinga pygmaea	○	○	
65				シロスジショウジョウグモ	Hypsosinga sanguinea			○
66				コガネグモダマシ	Larinia argiopiformis	○	○	○
67				ドヨウオニグモ	Neoscona adianta		○	
68				ワキグロサツマノミダマシ	Neoscona mellotteei	○	○	
69				コゲチャオニグモ	Neoscona punctigera	○		
70				ヤマシロオニグモ	Neoscona scylla	○	○	○
71				サツマノミダマシ	Neoscona scylloides		○	○
72				ヘリジロオニグモ	Neoscona subpullata	○	○	○
73				ゲホウグモ	Poltys illepidus	○	○	
74				ズグロオニグモ	Yaginumia sia	○		○
75				サガオニグモ	Eriophora sagana	○	○	○
76				カラフトオニグモ	Eriophora sachalinensis	○	○	○
				コガネグモ科の一種	Araneidae gen. sp.		○	○
77			ハタケグモ	ハタケグモ	Hahnia corticicola			○
78				ヤマハタケグモ	Neoantistea quelpartensis	○		
79			サラグモ	クロケシグモ	Agyneta nigra	○		
80				コサラグモ	Aprifrontalia mascula	○		
81				Arcuphantes属の一種	Arcuphantes sp.		○	○
82				ザラアカムネグモ	Asperthorax communis	○		○
83				テナガグモ	Bathyphantes orientis	○		○
84				タテヤマテナガグモ	Bathyphantes tateyamaensis			○
85				マルサラグモ	Centromerus sylvaticus	○		
86				ハラジロムナキグモ	Diplocephaloides saganus	○	○	○
87				デーニッツサラグモ	Doenitzius periculus	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(2)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
88			サラグモ	ナニワナンキングモ	Eperigone naniwaense	○		
89				ノコギリヒザグモ	Erigone prominens	○	○	○
90				ハナサラグモ	Floronia exornata	○		
91				ニセアカムネグモ	Gnathonarium exsiccatum	○	○	
92				ヤマトケズネグモ	Gonatium japonicum		○	
93				ズキンヌカグモ	Gongylidioides cucullatus	○		
94				クロナンキングモ	Hylyphantes graminicola	○	○	○
95				アシヨレグモ	Weintrauboa contortipes	○		
96				クボミケシグモ	Lepthyphantes concavus	○		
97				ツリサラグモ	Neolinyphia japonica			○
				Linyphia属の一種	Linyphia sp.		○	○
98				コブケシグモ	Nippononeta nodosa			○
99				ツノケシグモ	Nippononeta projecta	○	○	○
100				ホソテゴマグモ	Pseudomicrargus acuitegulatus	○		
101				チビアカサラグモ	Nematogmus sanguinolentus	○	○	○
102				ズダカサラグモ	Nematogmus stylitus		○	
103				ハンモックサラグモ	Neriene angulifera	○		
104				クスミサラグモ	Neolinyphia fusca		○	○
105				ムネグロサラグモ	Neolinyphia nigripectoris			○
106				ヤガスリサラグモ	Neriene albolimbata		○	
107				イマダテテングヌカグモ	Oia imadatei	○	○	
108				スソグロサラグモ	Ostearius melanopygius		○	
109				ナラヌカグモ	Parhypomma naraensis		○	
110				アシナガサラグモ	Prolinyphia longipedella	○	○	○
111				シロブチサラグモ	Prolinyphia radiata			○
112				アリマネグモ	Solenysa mellottei	○	○	○
113				ヨツボシサラグモ	Strandella quadrimaculata	○		
114				ヒメヨツボシサラグモ	Strandella yaginumai	○		
115				ヌカグモ	Oedothorax bipunctis		○	○
116				ユノハマサラグモ	Turinyphia yunohamensis	○	○	○
117				セスジアカムネグモ	Ummeliata insecticeps	○	○	○
118				オオサカアカムネグモ	Ummeliata osakaensis		○	○
119				トウキョウアカムネグモ	Ummeliata tokyoensis			○
120				テングヌカグモ	Paikiniana mira	○		
121				コテングヌカグモ	Paikiniana vulgaris			○
				Walckenaeria属の一種	Walckenaeria sp.	○		
				サラグモ科の一種	Linyphiidae gen. sp.	○	○	○
122			コモリグモ	カガリビコモリグモ	Arctosa depectinata	○		
123				エビチャコモリグモ	Arctosa ebicha		○	○
124				ヒノマルコモリグモ	Arctosa japonica		○	○
125				カワベコモリグモ	Arctosa kawabe	○	○	
126				クロココモリグモ	Arctosa subamylacea			○
127				ハラクロコモリグモ	Lycosa coelestis	○		
128				ウヅキコモリグモ	Pardosa astrigera	○	○	○
129				ヤマハリゲコモリグモ	Pardosa brevivulva	○	○	○
130				ハリゲコモリグモ	Pardosa laura	○	○	○
131				キクヅキコモリグモ	Pardosa pseudoannulata	○	○	○
132				キシベコモリグモ	Pardosa yaginumai	○		
133				クラークコモリグモ	Pirata clercki	○	○	
134				ミナミコモリグモ	Pirata meridionalis	○	○	
135				カイゾクコモリグモ	Pirata piraticus	○		
136				イモコモリグモ	Pirata piratoides	○		○
137				チビコモリグモ	Pirata procurvus	○	○	○
138				キバラコモリグモ	Pirata subpiraticus	○	○	○
139				コガタコモリグモ	Pirata tanakai	○		
140				ナミコモリグモ	Pirata yaginumai	○		○
				Pirata属の一種	Pirata sp.		○	○
				コモリグモ科の一種	Lycosidae gen. sp.	○	○	○
141			センショウグモ	センショウグモ	Ero japonica	○	○	○
142				ハラビロセンショウグモ	Mimetus japonicus	○	○	○
143				オオセンショウグモ	Mimetus testaceus		○	○
				Mimetus属の一種	Mimetus sp.	○		
144			コツブグモ	ナンブコツブグモ	Mysmenella jobi		○	
145			ホラヒメグモ	チビホラヒメグモ	Nesticella mogera		○	○
146			ササグモ	クリチャササグモ	Oxyopes badius	○	○	
147				ササグモ	Oxyopes sertatus	○	○	○
148			キシダグモ	シノビグモ	Shinobius orientalis	○		
149				スジブトハシリグモ	Dolomedes pallitarsis	○		
150				スジアカハシリグモ	Dolomedes saganus	○		○
151				イオウイロハシリグモ	Dolomedes sulfureus	○	○	○
				Dolomedes属の一種	Dolomedes sp.		○	○
152				アズマキシダグモ	Pisaura lama	○	○	○
				キシダグモ科の一種	Pisauridae gen. sp.			○
153			アシナガグモ	ヨツボシヒメアシナガグモ	Dyschiriognatha quadrimaculata		○	
154				ヒメアシナガグモ	Dyschiriognatha tenera		○	○
155				チュウガタシロカネグモ	Leucauge blanda	○	○	
156				チビシロカネグモ	Leucauge crucinota	○		
157				オオシロカネグモ	Leucauge magnifica	○	○	○
158				コシロカネグモ	Leucauge subblanda	○		
159				キララシロカネグモ	Leucauge subgemmea	○	○	○
				Leucauge属の一種	Leucauge sp.		○	○
160				キンヨウグモ	Menosira ornata		○	○
161				ヤマジドヨウグモ	Meta reticuloides			○
162				タニマノドヨウグモ	Metleucauge kompirensis			○
163				メガネドヨウグモ	Metleucauge yunohamensis			○
164				ジョロウグモ	Nephila clavata	○	○	○
165				トガリアシナガグモ	Tetragnatha caudicula	○	○	○
166				キヌアシナガグモ	Tetragnatha lauta			○
167				ヤサガタアシナガグモ	Tetragnatha maxillosa	○	○	○
168				ミドリアシナガグモ	Tetragnatha pinicola	○		○
169				アシナガグモ	Tetragnatha praedonia	○	○	○
170				シナノアシナガグモ	Tetragnatha shinanoensis		○	
171				ウロコアシナガグモ	Tetragnatha squamata	○	○	○
172				シコクアシナガグモ	Tetragnatha vermiformis	○	○	○
173				エゾアシナガグモ	Tetragnatha yesoensis		○	○
				Tetragnatha属の一種	Tetragnatha sp.	○	○	○
				アシナガグモ科の一種	Tetragnathidae gen. sp.	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(3)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
174			ヒメグモ	ツリガネヒメグモ	Achaearanea angulithorax	○	○	○
175				カグヤヒメグモ	Achaearanea culicivola	○	○	○
176				ヒメグモ	Achaearanea japonica		○	○
177				コンピラヒメグモ	Achaearanea kompirensis		○	
178				キヨヒメグモ	Achaearanea oculiprominentis		○	
179				オオヒメグモ	Achaearanea tepidariorum	○		○
				Achaearanea属の一種	Achaearanea sp.		○	○
180				アシブトヒメグモ	Anelosimus crassipes		○	○
181				シロカネイソウロウグモ	Argyrodes bonadea		○	
182				トビジロイソウロウグモ	Argyrodes cylindratus		○	○
183				オナガグモ	Ariamnes cylindrogaster	○	○	○
184				チリイソウロウグモ	Argyrodes kumadai		○	
185				フタオイソウロウグモ	Argyrodes fur		○	
186				ヤリグモ	Rhomphaea sagana	○	○	○
187				オダカグモ	Chrysso argyrodiformis		○	○
188				ホシミドリヒメグモ	Chrysso foliata		○	○
189				ギボシヒメグモ	Chrysso albipes		○	
190				コガネヒメグモ	Chrysso scintillans	○		
191				サヤヒメグモ	Coleosoma blandum	○	○	○
192				チクニサヤヒメグモ	Coleosoma margaritum	○		
193				ヤホシサヤヒメグモ	Coleosoma octomaculatum	○	○	
194				ヨロイヒメグモ	Comaroma maculosum	○	○	○
195				ボカシミジングモ	Yaginumena castrata			○
196				キベリミジングモ	Trigonobothrys flavomarginatus	○	○	
197				カニミジングモ	Trigonobothrys mustelinus	○	○	○
198				シモフリミジングモ	Dipoena punctisparsa	○		
199				カレハヒメグモ	Enoplognatha abrupta	○		○
200				ヒシガタグモ	Episinus affinis	○	○	○
201				ムラクモヒシガタグモ	Episinus nubilus	○	○	○
				Episinus属の一種	Episinus sp.		○	
202				ハラダカツクネグモ	Phoroncidia altiventris			○
203				ツクネグモ	Phoroncidia pilula		○	○
204				ハンゲツオスナキグモ	Steatoda cingulata	○		○
205				ナナホシヒメグモ	Steatoda erigoniformis			○
206				スネグロオチバヒメグモ	Stemmops nipponicus	○	○	○
207				サトヒメグモ	Keijia mneon			○
208				バラギヒメグモ	Takayus chikunii		○	○
209				ヒロハヒメグモ	Takayus latifolius			○
210				ムネグロヒメグモ	Theridion pinastri	○		
211				ムナボシヒメグモ	Keijia sterninotata		○	○
212				コケヒメグモ	Takayus subadultus			○
213				ハイイロヒメグモ	Paidiscura subpallens	○		
214				ユノハマヒメグモ	Takayus yunohamensis	○		○
				Theridion属の一種	Theridion sp.		○	
				ヒメグモ科の一種	Theridiidae gen. sp.	○	○	○
215			カラカラグモ	ヤマジグモ	Ogulnius pullus	○		
216				カラカラグモ	Theridiosoma epeiroides	○	○	
217				ナルコグモ	Wendilgarda sp.	○		
				カラカラグモ科の一種	Theridiosomatidae gen. sp.		○	
218			イヅツグモ	イヅツグモ	Anyphaena pugil		○	○
219			フクログモ	アシナガコマチグモ	Cheiracanthium eutittha			○
220				ヤサコマチグモ	Cheiracanthium unicum		○	
				Chiracanthium属の一種	Chiracanthium sp.		○	○
221				コフクログモ	Clubiona corrugata	○		
222				イナフクログモ	Clubiona inaensis			○
223				ヤマトフクログモ	Clubiona japonica	○		○
224				ハマキフクログモ	Clubiona japonicola		○	○
225				ヒメフクログモ	Clubiona kurilensis	○		
226				マイコフクログモ	Clubiona rostrata	○		
227				ムナアカフクログモ	Clubiona vigil	○	○	○
				Clubiona属の一種	Clubiona sp.		○	○
228				イタチグモ	Itatsina praticola	○	○	○
229				オトヒメグモ	Orthobula crucifera	○	○	
230				コムラウラシマグモ	Phrurolithus komurai	○	○	○
231				ウラシマグモ	Phrurolithus nipponicus	○	○	
232				ヤバネウラシマグモ	Phrurolithus pennatus			○
				Phrurolithus属の一種	Phrurolithus sp.	○	○	
233				ネコグモ	Trachelas japonicus	○	○	○
				フクログモ科の一種	Clubionidae gen. sp.	○	○	
234			シボグモ	シボグモ	Anahita fauna	○	○	○
				シボグモ科の一種	Ctenidae gen. sp.		○	
235			ワシグモ	トラフワシグモ	Drassodes serratidens	○		
236				エビチャヨリメケムリグモ	Drassyllus sanmenensis	○	○	○
237				メキリグモ	Gnaphosa kompirensis	○	○	
238				クロチャケムリグモ	Zelotes asiaticus	○		○
239				マエトビケムリグモ	Sernokorba pallidipatellis			○
				ワシグモ科の一種	Gnaphosidae gen. sp.	○	○	○
240			アシダカグモ	ツユグモ	Micrommata virescens	○	○	
241				コアシダカグモ	Sinopoda forcipata	○	○	○
242				カマスグモ	Thelcticopis severa			○
				アシダカグモ科の一種	Heteropodidae gen. sp.	○	○	
243			エビグモ	コガネエビグモ	Philodromus aureolus	○	○	
244				キンイロエビグモ	Philodromus auricomus	○	○	○
245				シロエビグモ	Philodromus cespitum	○		
246				キエビグモ	Philodromus flavidus		○	○
247				アサヒエビグモ	Philodromus subaureolus	○		○
				Philodromus属の一種	Philodromus sp.		○	○
248				シャコグモ	Tibellus tenellus	○	○	○
				エビグモ科の一種	Philodromidae gen. sp.	○	○	
249			ハエトリグモ	ヤマジハエトリ	Aelurillus festivus			○
250				ネコハエトリ	Carrhotus xanthogramma	○	○	○
251				マミジロハエトリ	Evarcha albaria	○	○	○
252				アシブトハエトリ	Evarcha crassipes		○	○
253				マミクロハエトリ	Evarcha fasciata			○
				Evarcha属の一種	Evarcha sp.		○	
254				ウデブトハエトリ	Harmochirus insulanus		○	○
255				キレワハエトリ	Sibianor pullus	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(4)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
256			ハエトリグモ	ジャバラハエトリ	Helicius yaginumai		○	○
				Helicius属の一種	Helicius sp.		○	
257				チビクロハエトリ	Heliophanus aeneus	○		
258				オオハエトリ	Marpissa dybowskii		○	○
259				ヨダンハエトリ	Marpissa pulla		○	○
				Marpissa属の一種	Marpissa sp.		○	○
260				ヤハズハエトリ	Mendoza elongata	○	○	○
261				オスクロハエトリ	Mendoza canestrinii		○	○
262				ヤサアリグモ	Myrmarachne inermichelis	○	○	
263				アリグモ	Myrmarachne japonica	○	○	○
264				クワガタアリグモ	Myrmarachne kuwagata			○
				Myrmarachne属の一種	Myrmarachne sp.			○
265				ネオンハエトリ	Neon reticulatus		○	
266				チャイロアサヒハエトリ	Phintella abnormis	○	○	○
267				マガネアサヒハエトリ	Phintella arenicolor	○		
268				キアシハエトリ	Phintella bifurcilinea		○	○
269				メガネアサヒハエトリ	Phintella linea	○		
270				メスジロハエトリ	Phintella versicolor		○	○
				Phintella属の一種	Phintella sp.		○	○
271				デーニッツハエトリ	Plexippoides doenitzi	○	○	○
272				チャスジハエトリ	Plexippus paykulli			○
273				ミスジハエトリ	Plexippus setipes			○
274				イナズマハエトリ	Pseudicius vulpes			○
275				カラスハエトリ	Rhene atrata		○	○
276				ヒメカラスハエトリ	Rhene albigera			○
277				アオオビハエトリ	Siler cupreus	○	○	○
278				シラホシコゲチャハエトリ	Sitticus penicillatus	○		
279				アメイロハエトリ	Synagelides agoriformis	○		○
280				ウススジハエトリ	Yaginumaella striatipes	○		○
281				ムツバハエトリ	Yaginumanis sexdentatus		○	○
				ハエトリグモ科の一種	Salticidae gen. sp.	○	○	○
282			カニグモ	キハダカニグモ	Bassaniana decorata			○
283				コハナグモ	Diaea subdola	○	○	○
284				アシナガカニグモ	Heriaeus mellottei	○	○	○
285				アマギエビスグモ	Lysiteles coronatus	○	○	○
286				クマダハナグモ	Misumenops kumadai	○	○	○
287				ハナグモ	Misumenops tricuspidatus	○	○	○
288				ワカバグモ	Oxytate striatipes	○	○	○
289				カトウツケオグモ	Phrynarachne katoi			○
290				ガザミグモ	Pistius undulatus	○		○
291				アズチグモ	Thomisus labefactus		○	○
292				トラフカニグモ	Tmarus piger	○	○	○
293				セマルトラフカニグモ	Tmarus rimosus	○	○	○
294				ホンクロボシカニグモ	Xysticus atrimaculatus	○		
295				ヤミイロカニグモ	Xysticus croceus	○	○	○
296				アズマカニグモ	Xysticus insulicola	○	○	
297				オオヤミイロカニグモ	Xysticus saganus			○
				Xysticus属の一種	Xysticus sp.	○	○	○
				カニグモ科の一種	Thomisidae gen. sp.			○
298			シボグモモドキ	シボグモモドキ科の一種	Zoridae gen. sp.		○	
299	昆虫	トビムシ	ヒメトビムシ	ヒメトビムシ	Hypogastrura communis	○		
				ヒメトビムシ科の一種	Hypogastruridae gen. sp.		○	○
300			イボトビムシ	ベニイボトビムシ	Achorutes roseus	○		
301				ヤスマツイボトビムシ	Ceratrimeria yasumatsui	○		
302				オオアオイボトビムシ	Morulina gigantea	○	○	
				イボトビムシ科の一種	Neanuridae gen. sp.		○	
303			シロトビムシ	クロトビムシモドキ	Lophognathella choreutes	○		
				シロトビムシ科の一種	Onychiuridae gen. sp.		○	○
304			ミズトビムシ	ミズトビムシ科の一種	Poduridae gen. sp.	○		
305			ムラサキトビムシ	ムラサキトビムシ科の一種	Neogastruridae gen. sp.			○
306			アヤトビムシ	シマツノトビムシ	Entomobrya japonica	○	○	
				アヤトビムシ科の一種	Entomobryidae gen. sp.	○	○	○
307			ツチトビムシ	ミズフシトビムシ	Isotoma pinnata	○		
308				ニセフシトビムシ	Isotomurus palustris	○	○	
				ツチトビムシ科の一種	Isotomidae gen. sp.		○	○
309			ヒゲナガトビムシ	トウアヒゲナガトビムシ	Salina celebensis	○		
310				アヤヒゲナガトビムシ	Salina speciosa	○		
				ヒゲナガトビムシ科の一種	Paronellidae gen. sp.	○		
311			トゲトビムシ	ヒメヒゲトビムシ	Tomocerus minutus	○		
312				ヒメトゲトビムシ	Tomocerus varius	○		
				トゲトビムシ科の一種	Tomoceridae gen. sp.		○	○
313			マルトビムシ	キボシマルトビムシ	Bourletiella hortensis	○		
314				ミズマルトビムシ	Sminthurides aquaticus	○		
315				キマルトビムシ	Sminthurus viridis	○	○	
316				マルトビムシ亜科の一種	Sminthurinae gen. sp.		○	
				マルトビムシ科の一種	Sminthuridae gen. sp.	○	○	○
317		コムシ	ハサミコムシ	ハサミコムシ	Japyx japonica			○
				Japyx属の一種	Japyx sp.		○	○
				ハサミコムシ科の一種	Japygidae gen. sp.		○	○
318		イシノミ	イシノミ	Pedetontinus属の一種	Pedetontinus sp.		○	
319				イシノミ	Pedetontus nipponicus	○		○
				Pedetontus属の一種	Pedetontus sp.		○	
				イシノミ科の一種	Machilidae gen. sp.	○		
320		シミ	シミ	シミ科の一種	Lepismatidae gen. sp.	○		
321		カゲロウ	コカゲロウ	コカゲロウ科の一種	Baetidae gen. sp.	○	○	
322			ガガンボカゲロウ	ガガンボカゲロウ	Dipteromimus tipuliformis	○		
323			フタオカゲロウ	ナミフタオカゲロウ	Siphlonurus sanukensis		○	
324			ヒラタカゲロウ	チャイロミヤマタニガワカゲロウ	Cinygmula adusta	○		
325				エルモンヒラタカゲロウ	Epeorus latifolium			○
326				タテヤマヒメヒラタカゲロウ	Rhithrogena tateyamana	○		
				ヒラタカゲロウ科の一種	Heptageniidae gen. sp.	○		
327			チラカゲロウ	チラカゲロウ	Isonychia japonica			○
328			トビイロカゲロウ	ヒメトビイロカゲロウ	Choroterpes altioculus	○		
329			モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	Ephemera japonica	○		○
330				トウヨウモンカゲロウ	Ephemera orientalis		○	○
331				モンカゲロウ	Ephemera strigata	○	○	○
332			カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	Potamanthus formosus	○	○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(5)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
333			マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ	Cincticostella nigra	○		
				マダラカゲロウ科の一種	Ephemerellidae gen. sp.	○	○	
334		トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	Indolestes peregrinus		○	○
335				アオイトトンボ	Lestes sponsa	○	○	
336				オオアオイトトンボ	Lestes temporalis		○	○
337				オツネントンボ	Sympecma paedisca			○
338			イトトンボ	ホソミイトトンボ	Aciagrion migratum			○
339				セスジイトトンボ	Paracercion hieroglyphicum	○		
340				キイトトンボ	Ceriagrion melanurum	○		
341				アジアイトトンボ	Ischnura asiatica	○		○
342				アオモンイトトンボ	Ischnura senegalensis			○
343			モノサシトンボ	モノサシトンボ	Copera annulata	○	○	○
344			カワトンボ	ハグロトンボ	Calopteryx atrata		○	○
345				ミヤマカワトンボ	Calopteryx cornelia	○	○	○
346				アオハダトンボ	Calopteryx japonica			○
347				アサヒナカワトンボ	Mnais pruinosa	○	○	○
348			ムカシトンボ	ムカシトンボ	Epiophlebia superstes	○	○	○
349			ヤンマ	ルリボシヤンマ	Aeshna juncea			○
350				オオルリボシヤンマ	Aeshna nigroflava			○
351				クロスジギンヤンマ	Anax nigrofasciatus nigrofasciatus	○		○
352				ギンヤンマ	Anax parthenope julius			○
353				カトリヤンマ	Gynacantha japonica			○
354				サラサヤンマ	Oligoaeschna pryeri			○
355				ミルンヤンマ	Planaeschna milnei			○
356				ヤブヤンマ	Polycanthagyna melanictera	○		○
357			サナエトンボ	ヤマサナエ	Asiagomphus melaenops			○
358				クロサナエ	Davidius fujiama			○
359				ダビドサナエ	Davidius nanus			○
360				ホンサナエ	Gomphus postocularis	○	○	○
361				アオサナエ	Nihonogomphus viridis			○
362				オナガサナエ	Onychogomphus viridicostus			○
363				コオニヤンマ	Sieboldius albardae	○	○	○
364				ウチワヤンマ	Sinictinogomphus clavatus			○
365				タベサナエ	Trigomphus citimus tabei			○
366				コサナエ	Trigomphus melampus			○
367				オグマサナエ	Trigomphus ogumai			○
368			オニヤンマ	オニヤンマ	Anotogaster sieboldii	○	○	○
369			エゾトンボ	オオヤマトンボ	Epophthalmia elegans			○
370				コヤマトンボ	Macromia amphigena amphigena			○
371				タカネトンボ	Somatochlora uchidai	○	○	○
372			トンボ	ショウジョウトンボ	Crocothemis servilia mariannae		○	
373				ハラビロトンボ	Lyriothemis pachygastra	○		○
374				シオカラトンボ	Orthetrum albistylum speciosum	○	○	○
375				シオヤトンボ	Orthetrum japonicum japonicum		○	○
376				オオシオカラトンボ	Orthetrum triangulare melania	○	○	○
377				ウスバキトンボ	Pantala flavescens	○	○	○
378				コシアキトンボ	Pseudothemis zonata	○		○
379				チョウトンボ	Rhyothemis fuliginosa			○
380				コノシメトンボ	Sympetrum baccha matutinum			○
381				ナツアカネ	Sympetrum darwinianum	○	○	○
382				マユタテアカネ	Sympetrum eroticum eroticum	○	○	○
383				アキアカネ	Sympetrum frequens	○	○	○
384				ノシメトンボ	Sympetrum infuscatum	○	○	○
385				マイコアカネ	Sympetrum kunckeli	○	○	
386				ヒメアカネ	Sympetrum parvulum		○	○
387				ミヤマアカネ	Sympetrum pedemontanum elatum	○	○	○
388				リスアカネ	Sympetrum risi risi			○
389		ゴキブリ	ヒメクロゴキブリ	ヒメクロゴキブリ	Chorisoneura nigra	○		○
390			オオゴキブリ	オオゴキブリ	Panesthia angustipennis spadica			○
391			ゴキブリ	クロゴキブリ	Periplaneta fuliginosa			○
				ゴキブリ科の一種	Blattidae gen. sp.	○	○	
392			チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	Blattella nipponica	○	○	○
393				ツチゴキブリ	Margattea kumamotonis kumamotonis			○
				チャバネゴキブリ科の一種	Blattellidae gen. sp.	○	○	○
			―	ゴキブリ目の一種	Blattaria fam. gen. sp.	○		
394		カマキリ	ヒメカマキリ	ヒメカマキリ	Acromantis japonica	○	○	○
395			カマキリ	ヒナカマキリ	Amantis nawai		○	
396				ハラビロカマキリ	Hierodula patellifera		○	○
397				コカマキリ	Statilia maculata	○	○	○
398				チョウセンカマキリ	Tenodera angustipennis	○		○
399				オオカマキリ	Tenodera aridifolia	○	○	○
				Tenodera属の一種	Tenodera sp.			○
				カマキリ科の一種	Mantidae gen. sp.	○	○	
400		シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	Reticulitermes speratus	○	○	○
401		ハサミムシ	クロハサミムシ	ミジンハサミムシ	Labia minor			○
402			マルムネハサミムシ	ハマベハサミムシ	Anisolabis maritima	○		○
403				コヒゲジロハサミムシ	Euborellia annulipes		○	
404				キアシハサミムシ	Euborellia plebeja			○
405				ヒゲジロハサミムシ	Gonolabis marginalis		○	○
406			クギヌキハサミムシ	エゾハサミムシ	Eparchus yezoensis		○	○
407			オオハサミムシ	オオハサミムシ	Labidura riparia		○	○
408		カワゲラ	クロカワゲラ	ヒメクロカワゲラ	Capnia flebilis	○		
409				ヤスマツクロカワゲラ	Capnia yasumatsui	○	○	
410			ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科の一種	Chloroperlidae gen. sp.	○	○	
411			ハラジロオナシカワゲラ	ヤマハラジロオナシカワゲラ	Leuctra higashiyamae		○	
412			オナシカワゲラ	アサカワオナシカワゲラ	Nemoura longicercia	○	○	
				オナシカワゲラ科の一種	Nemouridae gen. sp.		○	○
413			カワゲラ	カミムラカワゲラ	Kamimuria tibialis	○		
414				ヤマトカワゲラ	Niponiella limbatella	○		
415				ヒメオオヤマカワゲラ	Oyamia seminigra		○	
				カワゲラ科の一種	Perlidae gen. sp.	○		○
416			アミメカワゲラ	アイズクサカワゲラ	Isoperla aizuana	○	○	
417				スズキクサカワゲラ	Isoperla suzukii	○		
418				コグサヒメカワゲラ	Ostrovus mitsukonis		○	
419			ミジカオカワゲラ	イマニシタカワゲラ	Mesyatsia imanishii	○		
420				コオノシタカワゲラ	Obipteryx yugawae	○		
			―	カワゲラ目の一種	Plecoptera fam. gen. sp.	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(6)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
421		バッタ	コロギス	ハネナシコロギス	Nippancistroger testaceus		○	○
422				コロギス	Prosopogryllacris japonica			○
423			カマドウマ	Anoplophilus属の一種	Anoplophilus sp.		○	
424				Atachycines属の一種	Atachycines sp.		○	
425				マダラカマドウマ	Diestrammena japonica	○	○	○
426				ハヤシウマ	Diestrammena sp.			○
				Diestrammena属の一種	Diestrammena sp.		○	○
427				ヒメキマダラウマ	Neotachycines furukawai			○
428				Paratachycines属の一種	Paratachycines sp.			○
429				クラズミウマ	Tachycines asynamorus	○		
				カマドウマ科の一種	Rhaphidophoridae gen. sp.	○	○	
430			キリギリス	コバネヒメギス	Metrioptera bonneti			○
431				ウスイロササキリ	Conocephalus chinensis	○	○	○
432				オナガササキリ	Conocephalus gladiatus		○	○
433				コバネササキリ	Conocephalus japonicus			○
434				ホシササキリ	Conocephalus maculatus		○	○
435				ササキリ	Conocephalus melas		○	○
436				セスジツユムシ	Ducetia japonica	○	○	○
437				ヒメギス	Eobiana engelhardti subtropica	○		○
438				クビキリギス	Euconocephalus varius	○	○	○
439				ニシキリギリス	Gampsocleis buergeri	○	○	○
440				ハタケノウマオイ	Hexacentrus japonicus	○	○	
				Hexacentrus属の一種	Hexacentrus sp.			○
441				サトクダマキモドキ	Holochlora japonica	○	○	○
442				ヤマクダマキモドキ	Holochlora longifissa		○	○
443				ヒメツユムシ	Leptoteratura albicorne			○
444				クツワムシ	Mecopoda niponensis	○	○	○
445				ツユムシ	Phaneroptera falcata	○	○	○
446				アシグロツユムシ	Phaneroptera nigroantennata	○	○	○
447				カヤキリ	Pseudorhynchus japonicus		○	
448				クサキリ	Ruspolia lineosa	○		○
				Ruspolia属の一種	Ruspolia sp.			○
449				ホソクビツユムシ	Shirakisotima japonica			○
450				ヤブキリ	Tettigonia orientalis orientalis	○	○	○
451				ササキリモドキ	Xiphidiopsis suzukii		○	○
				キリギリス科の一種	Tettigoniidae gen. sp.	○	○	○
452			ケラ	ケラ	Gryllotalpa orientalis	○	○	○
453			コオロギ	キンヒバリ	Natula matsuurai			○
				Anaxipha属の一種	Anaxipha sp.		○	○
454				マツムシモドキ	Aphonoides japonicus	○	○	○
455				マダラスズ	Dianemobius fascipes	○		○
456				ヒゲシロスズ	Polionemobius flavoantennalis	○	○	○
457				シバスズ	Polionemobius mikado	○	○	○
458				カヤコオロギ	Euscyrtus japonicus			○
459				スズムシ	Meloimorpha japonica			○
460				ヤマトヒバリ	Homoeoxipha lycoides		○	○
461				ハラオカメコオロギ	Loxoblemmus campester	○	○	○
462				ミツカドコオロギ	Loxoblemmus doenitzi	○	○	○
463				モリオカメコオロギ	Loxoblemmus sylvestris			○
				Loxoblemmus属の一種	Loxoblemmus sp.			○
464				クマコオロギ	Mitius minor			○
465				カンタン	Oecanthus longicauda	○	○	○
				Oecanthus属の一種	Oecanthus sp.		○	○
466				クサヒバリ	Svistella bifasciata	○	○	○
467				ヒメスズ	Pteronemobius nigrescens		○	○
468				エゾスズ	Pteronemobius yezoensis			○
469				ヤチスズ	Pteronemobius ohmachii		○	○
470				クマスズムシ	Scleropterus coriaceus	○	○	○
471				エンマコオロギ	Teleogryllus emma	○		○
472				クロヒバリモドキ	Trigonidium cicindeloides		○	
473				キアシヒバリモドキ	Trigonidium japonicum			○
474				アオマツムシ	Truljalia hibinonis		○	○
475				クチナガコオロギ	Velarifictorus aspersus		○	
476				ツヅレサセコオロギ	Velarifictorus mikado	○	○	○
477				コガタコオロギ	Velarifictorus ornatus			○
478				タンボコオロギ	Modicogryllus siamensis		○	○
479				マツムシ	Xenogryllus marmoratus marmoratus			○
				コオロギ科の一種	Gryllidae gen. sp.	○	○	○
480			カネタタキ	カネタタキ	Ornebius kanetataki	○	○	○
481			バッタ	ショウリョウバッタ	Acrida cinerea	○	○	○
482				マダラバッタ	Aiolopus tamulus			○
483				ヒナバッタ	Chorthippus biguttulus maritimus	○		
484				ヒロバネヒナバッタ	Megaulacobothrus latipennis	○	○	○
485				クルマバッタ	Gastrimargus marmoratus	○	○	
486				ショウリョウバッタモドキ	Gonista bicolor			○
487				トノサマバッタ	Locusta migratoria	○	○	○
488				ナキイナゴ	Mongolotettix japonicus japonicus	○		
489				クルマバッタモドキ	Oedaleus infernalis	○	○	○
490				ハネナガフキバッタ	Ognevia longipennis	○		
491				コイナゴ	Oxya hyla intricata		○	
492				ハネナガイナゴ	Oxya japonica	○		
493				コバネイナゴ	Oxya yezoensis	○	○	○
				Oxya属の一種	Oxya sp.		○	○
494				ダイリフキバッタ	Callopodisma dairisama	○		
495				キイフキバッタ	Parapodisma hiurai	○		
496				ミカドフキバッタ	Parapodisma mikado	○		
497				キンキフキバッタ	Parapodisma sabastris		○	○
498				ヤマトフキバッタ	Parapodisma setouchiensis	○		○
				Parapodisma属の一種	Parapodisma sp.		○	○
499				ツチイナゴ	Patanga japonica	○	○	○
500				サッポロフキバッタ	Podisma sapporensis	○		
501				セグロイナゴ	Shirakiacris shirakii	○		
502				ツマグロバッタ	Stethophyma magister	○	○	○
503				イボバッタ	Trilophidia annulata japonica	○		○
				バッタ科の一種	Acrididae gen. sp.	○	○	○
504			オンブバッタ	オンブバッタ	Atractomorpha lata	○	○	○
505			ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	Criotettix japonicus	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(7)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
506			ヒシバッタ	ニセハネナガヒシバッタ	Ergatettix dorsifer			○
507				ハネナガヒシバッタ	Euparatettix insularis	○		○
508				コバネヒシバッタ	Formosatettix larvatus	○	○	
509				ノセヒシバッタ	Alulatettix fornicatus			○
510				ハラヒシバッタ	Tetrix japonica	○	○	○
511				ヤセヒシバッタ	Tetrix macilenta		○	○
512				ヒメヒシバッタ	Tetrix minor		○	○
513				モリヒシバッタ	Tetrix sp.		○	○
				Tetrix属の一種	Tetrix sp.		○	○
				ヒシバッタ科の一種	Tetrigidae gen. sp.	○	○	
514			ノミバッタ	ノミバッタ	Xya japonica			○
			―	バッタ目の一種	Orthoptera fam. gen. sp.	○		
515		ガロアムシ	ガロアムシ	Galloisiana属の一種	Galloisiana sp.			○
516		ナナフシ	ナナフシ	ナナフシ	Baculum irregulariterdentatum	○		○
517				トゲナナフシ	Neohirasea japonica			○
518				ナナフシ	Baculum irregulariterdentatum	○		
519				エダナナフシ	Phraortes illepidus	○	○	○
				ナナフシ科の一種	Phasmatidae gen. sp.		○	
520		チャタテムシ	コチャタテ	コチャタテ科の一種	Trogiidae gen. sp.		○	
521			ケブカチャタテ	ウスペニチャタテ	Amphipsocus rubrostigma			○
522			ケチャタテ	キモンケチャタテ	Caecilius oyamai	○	○	
				ケチャタテ科の一種	Caeciliidae gen. sp.		○	
523			ホソチャタテ	ハグルマチャタテ	Matsumuraiella rapiopicta	○		
524				ホソチャタテ	Stenopsocus aphidiformis		○	
525			スカシチャタテ	スカシチャタテ	Hemipsocus chloroticus		○	
				スカシチャタテ科の一種	Hemipsocidae gen. sp.		○	
526			ヒメチャタテ	ヒメチャタテ	Lachesilla pedicularia		○	
				ヒメチャタテ科の一種	Lachesillidae gen. sp.		○	
527			マドチャタテ	クリイロチャタテ	Ectopsocopsis cryptomeriae	○		
528				ヒメマドチャタテ	Peripsocus quercicola	○	○	
529			ニセケチャタテ	ニセケチャタテ	Pseudocaecilius solocipennis	○	○	
				ニセケチャタテ科の一種	Pseudocaeciliidae gen. sp.		○	
530			チャタテ	カバイロチャタテ	Metylophorus nebulosus			○
531				ヒメムツモンチャタテ	Trichadenotecnum sexpunctellum		○	
				チャタテ科の一種	Psocidae gen. sp.		○	○
532		カメムシ	コガシラウンカ	アカフコガシラウンカ	Deferunda rubrostigma			○
533				ナワコガシラウンカ	Rhotala nawae		○	
534				スジコガシラウンカ	Rhotala vittata	○	○	○
535			ヒシウンカ	オビカワウンカ	Andes harimaensis	○		
536				ヤナギカワウンカモドキ	Andes marmoratiformis	○		
537				ヤナギカワウンカ	Andes marmoratus	○		○
538				キガシラヒシウンカ	Kuvera flaviceps	○	○	
				Kuvera属の一種	Kuvera sp.			○
539				ヨモギヒシウンカ	Oecleopsis artemisiae		○	○
540				Oliarus属の一種	Oliarus sp.			○
541				ヒシウンカ	Pentastiridius apicalis	○		○
542				ヨスジヒシウンカ	Reptalus quadricinctus		○	○
543				Trirhacus属の一種	Trirhacus sp.			○
				ヒシウンカ科の一種	Cixiidae gen. sp.	○		
544			ウンカ	ゴマフウンカ	Cemus nigropunctatus		○	
545				タケウンカ	Epeurysa nawaii		○	
546				フタスジオオウンカ	Epunka bilineata		○	
547				クロスジオオウンカ	Euides speciosa		○	
548				タテゴトウンカ	Falcotya lyraeformis		○	
549				クワヤマウンカ	Kakuna kuwayamai	○	○	
550				ヒメトビウンカ	Laodelphax striatella	○	○	○
551				ハコネホソウンカ	Sogata hakonensis	○	○	
552				セジロウンカ	Sogatella furcifera	○		
553				ハリマナガウンカ	Stenocranus harimensis			○
554				タマガワナガウンカ	Stenocranus tamagawanus		○	○
555				ヤスマツナガウンカ	Stenocranus yasumatsui			○
556				コブウンカ	Tropidocephala brunneipennis	○	○	○
557				カヤウンカ	Yanunka miscanthi		○	
				ウンカ科の一種	Delphacidae gen. sp.	○	○	○
558			ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	Diostrombus politus			○
559				クロフハネナガウンカ	Mysidioides sapporoensis	○		
560				マダラハネナガウンカ	Pamendanga matsumurae			○
561				アカメガシワハネビロウンカ	Vekunta malloti		○	○
562				シリアカハネナガウンカ	zoraida horishana			○
563			テングスケバ	テングスケバ	Dictyophara patruelis			○
564				ツマグロスケバ	Orthopagus lunulifer		○	○
565			アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	Geisha distinctissima	○	○	○
566				トビイロハゴロモ	Mimophantia maritima	○	○	○
567			マルウンカ	マルウンカ	Gergithus variabilis		○	○
568				キボシマルウンカ	Ishiharanus iguchii	○	○	○
569				クサビウンカ	Sarima amagisana			○
570			シマウンカ	シマウンカ	Nisia nervosa		○	
571			ハゴロモ	ベッコウハゴロモ	Orosanga japonicus	○	○	○
572				アミガサハゴロモ	Pochazia albomaculata	○	○	○
573			グンバイウンカ	ミドリグンバイウンカ	Kallitaxila sinica			○
574				トビイログンバイウンカ	Ommatissus lofuensis	○		
				グンバイウンカ科の一種	Tropiduchidae gen. sp.	○	○	
575			セミ	チッチゼミ	Cicadetta radiator			○
576				クマゼミ	Cryptotympana facialis			○
577				アブラゼミ	Graptopsaltria nigrofuscata		○	○
578				ツクツクボウシ	Meimuna opalifera	○	○	○
579				ミンミンゼミ	Oncotympana maculaticollis		○	○
580				ニイニイゼミ	Platypleura kaempferi		○	○
581				ヒグラシ	Tanna japonensis japonensis		○	○
582				ハルゼミ	Terpnosia vacua		※	○
583			ツノゼミ	マルツノゼミ	Gargara genistae	○	○	
584				オビマルツノゼミ	Gargara katoi			○
585				トビイロツノゼミ	Machaerotypus sibiricus	○	○	○
586			アワフキムシ	マツアワフキ	Aphrophora flavipes		○	○
587				シロオビアワフキ	Aphrophora intermedia	○	○	○
588				モンキアワフキ	Aphrophora major	○	○	○
589				ハマベアワフキ	Aphrophora maritima	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(8)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
590			アワフキムシ	マエキアワフキ	Aphrophora pectoralis	○	○	
591				ホシアワフキ	Aphrophora stictica	○	○	○
592				オオアワフキ	Aphropsis galloisi		○	
593				マダラアワフキ	Awafukia nawae		○	○
594				オカダアワフキ	Lepyronia okadae		○	○
595				コミヤマアワフキ	Peuceptyelus indentatus			○
596				ミヤマアワフキ	Peuceptyelus nigroscutellatus		○	○
				アワフキムシ科の一種	Aphrophoridae gen. sp.	○	○	
597			コガシラアワフキ	コガシラアワフキ	Eoscarta assimilis	○	○	○
598			トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ	Hindoloides bipunctatus	○	○	○
599			ヨコバイ	カシヒメヨコバイ	Aguriahana quercus	○	○	
600				シロズヒメヨコバイ	Aguriahana triangularis	○		
601				アカヒメヨコバイ	Alebroides rubicunda			○
602				トバヨコバイ	Alobaldia tobae	○	○	○
603				モジヨコバイ	Amimenus mojiensis	○	○	
604				カンキツヒメヨコバイ	Apheliona ferruginea	○	○	○
605				フタテンヒメヨコバイ	Arboridia apicalis	○	○	
606				スズキヒメヨコバイ	Arboridia suzukii		○	
607				クサビヨコバイ	Athysanopsis salicis	○	○	○
608				ミドリカスリヨコバイ	Balclutha incisa		○	○
609				カスリヨコバイ	Balclutha punctata	○		
610				ウスバミドリヨコバイ	Balclutha viridis	○		
611				タケナガヨコバイ	Bambusana bambusae		○	
612				ヒメアオズキンヨコバイ	Batracomorphus diminutus	○		
613				アオズキンヨコバイ	Batracomorphus mundus	○		○
614				ホシアオズキンヨコバイ	Batracomorphus stigmaticus		○	○
615				ツマグロオオヨコバイ	Bothrogonia ferruginea	○	○	○
616				オオヨコバイ	Cicadella viridis	○	○	○
617				マダラヒメヨコバイ	Diomma pulchra	○		
618				オオトガリヨコバイ	Doratulina grandis	○		
619				トガリヨコバイ	Doratulina producta	○		
620				ブチミャクヨコバイ	Drabescus nigrifemoratus			○
621				ウスブチミャクヨコバイ	Drabescus pallidus	○	○	
622				ミドリヒメヨコバイ	Edwardsiana flavescens	○	○	○
623				バラヒメヨコバイ	Edwardsiana rosae	○	○	
624				ミドリヨコバイ	Elymana sulphurella	○		
625				ヒイロヒメヨコバイ	Empoa punicea		○	
626				ヨツモンヒメヨコバイ	Empoascanara limbata	○	○	○
627				ヨモギヒメヨコバイ	Eupteryx minusculus	○	○	
628				シロヒメヨコバイ	Eurhadina betularia		○	○
629				キスジカンムリヨコバイ	Evacanthus interruptus	○		
630				クロミャクイチモンジヨコバイ	Exitianus indicus		○	
631				フタスジトガリヨコバイ	Futasujinus candidus		○	
632				フクロクヨコバイ	Glossocratus fukuroki		○	
633				ウスイロヒロヨコバイ	Handianus ogikubonis		○	
634				サジヨコバイ	Hecalus prasinus	○		○
635				ヒシモンヨコバイ	Hishimonus sellatus	○	○	○
636				ヒトツメヒメヨコバイ	Ishiharella polyphemus	○	○	
637				シダヨコバイ	Japanagallia pteridis		○	○
638				ミスジトガリヨコバイ	Japananus hyalinus	○		
639				マエジロオオヨコバイ	Kolla atramentaria	○	○	○
640				ミドリヒロヨコバイ	Laburrus similis	○	○	
641				ミミズク	Ledra auditura	○	○	○
642				コミミズク	Ledropsis discolor	○	○	○
643				ホシコミミズク	Ledropsis wakabae		○	
644				ホシヒメヨコバイ	Limassolla multipunctata	○	○	○
645				ヒシヨコバイ	Macrosteles cyane		○	
646				フタテンヨコバイ	Macrosteles fasciifrons	○		
647				ヨツテンヨコバイ	Macrosteles quadrimaculatus	○	○	
648				ムツテンヨコバイ	Macrosteles sexnotatus		○	
				Macrosteles属の一種	Macrosteles sp.			○
649				ナカハラヨコバイ	Nakaharanus nakaharae	○		○
650				オビヒメヨコバイ	Naratettix zonatus		○	○
651				ツマグロヨコバイ	Nephotettix cincticeps	○	○	○
652				ホソサジヨコバイ	Nirvana pallida		○	
				Nirvana属の一種	Nirvana sp.		○	
653				キマダラヒロヨコバイ	Scleroracus flavopictus		○	
654				リンゴマダラヨコバイ	Orientus ishidae		○	○
655				ミナミマダラヨコバイ	Orosius orientalis	○	○	
656				Pagaronia属の一種	Pagaronia sp.			○
657				Parabolopona属の一種	Parabolopona sp.		○	
658				アカシヒメヨコバイ	Paracyba akashiensis	○	○	○
659				モモグロヨコバイ	Paralaevicephalus nigrifemoratus	○	○	○
660				シロミャクイチモンジヨコバイ	Paramesodes albinervosus	○		
661				クロヒラタヨコバイ	Penthimia nitida	○	○	○
662				ヒトツメヨコバイ	Phlogotettix cyclops	○	○	○
663				クロサジヨコバイ	Planaphrodes nigricans	○	○	
664				シマサジヨコバイ	Planaphrodes sahlbergi	○		○
665				ズキンヨコバイ	Podulmorinus vitticollis			○
666				シロズキンヨコバイ	Populicerus ishiyamae	○		○
667				スナヨコバイ	Psammotettix maritimus	○		
668				イネマダラヨコバイ	Recilia oryzae	○	○	○
669				サツマヨコバイ	Satsumanus satsumae		○	
670				シロセスジヨコバイ	Scaphoideus albovittatus	○	○	○
671				シラホシスカシヨコバイ	Scaphoideus festivus	○	○	○
672				イネヒラタヨコバイ	Stroggylocephalus agrestis			○
673				オサヨコバイ	Tartessus ferrugineus		○	○
674				チマダラヒメヨコバイ	Tautoneura mori		○	
675				キイロヒメヨコバイ	Thaia orizivora	○	○	
676				ムツテンヒメヨコバイ	Linnavuoriana sexpunctata	○	○	
				Typhlocyba属の一種	Typhlocyba sp.		○	
677				イグチホシヨコバイ	Xestocephalus iguchii	○	○	
678				ホシヨコバイ	Xestocephalus japonicus	○		○
679				ヤマトヨコバイ	Yamatotettix flavovittatus		○	
				ヨコバイ科の一種	Cicadellidae gen. sp.	○	○	○
680			キジラミ	クワキジラミ	Anomoneura mori	○	○	
681				オビキジラミ	Aphalara fasciata		○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(9)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
682			キジラミ	イタドリマダラキジラミ	Aphalara itadori	○	○	○
683				ヨモギキジラミ	Craspedolepta artemisiae		○	
684				ネグロキジラミ	Petalolyma bicolor		○	
685				ベニキジラミ	Psylla coccinea		○	○
686				イナズマキジラミ	Psylla fulguraris		○	
687				カエデキジラミ	Psylla japonica			○
688				トベラキジラミ	Psylla tobirae		○	
689				ヒゲブトトガリキジラミ	Stenopsylla nigricornis	○		
				キジラミ科の一種	Psyllidae gen. sp.	○	○	○
690			アブラムシ	ヨメナアミナシヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon asteris		○	
691				ニワトコヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon magnoliae	○	○	
692				ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon nipponicum	○	○	
693				エンドウヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon pisum		○	
694				ジャガイモヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon solani	○	○	
695				アザミキイロヒゲナガアブラムシ	Acyrthosiphon vandenboshi	○		
696				ユキヤナギアブラムシ	Aphis citricola	○		
697				マメアブラムシ	Aphis craccivora craccivora		○	
698				キョウチクトウアブラムシ	Aphis nerii		○	
699				タデクギケアブラムシ	Capitophorus javanicus	○		
700				カンショワタムシ	Ceratovacuna lanigera	○		
701				ネズミサシオオアブラムシ	Cinara juniperi		○	
702				マツオオアブラムシ	Cinara piniformosana	○		
703				モモコフキアブラムシ	Hyalopterus pruni	○		
704				ゴンズイフクレアブラムシ	Indomegoura indica		○	
705				クリオオアブラムシ	Lachnus tropicalis	○		
706				ニセダイコンアブラムシ	Lipaphis erysimi	○		
707				イタドリオナシアブラムシ	Macchiatiella itadori		○	
708				クワヤマヒメヒゲナガアブラムシ	Macrosiphoniella kuwayamai		○	
709				キクヒメヒゲナガアブラムシ	Macrosiphoniella sanborni		○	
710				ヨメナヒゲナガアブラムシ	Macrosiphoniella yomenae		○	
711				アオヒメヒゲナガアブラムシ	Macrosiphoniella yomogifoliae	○		
712				ヨモギコブアブラムシ	Micraphis artemisiae	○		
713				モモアカアブラムシ	Myzus persicae	○		
714				イヌシデクロマダラアブラムシ	Neochromaphis carpinicola	○		
715				ヤノイスアブラムシ	Neothoracaphis yanonis		○	
716				ホップイボアブラムシ	Phorodon japonensis	○		
717				ヌルデノオオミミフシアブラムシ	Schlechtendalia chinensis			○
718				クスオナガアブラムシ	Sinomegoura citricola	○		
719				ムギヒゲナガアブラムシ	Sitobion akebiae	○	○	
720				イバラヒゲナガアブラムシ	Sitobion ibarae	○	○	
721				タケヒゲマダラアブラムシ	Takecallis arundicolens		○	
722				ササキコブアブラムシ	Tuberocephalus sasakii		○	
723				タイワンヒゲナガアブラムシ	Uroleucon formosanum	○		
724				トウキョウカマガタアブラムシ	Yamatocallis tokyoensis		○	
				アブラムシ科の一種	Aphididae gen. sp.	○	○	
725			ムクゲカメムシ	カワラムクゲカメムシ	Cryptostemma japonicum			○
726			サシガメ	ヨコヅナサシガメ	Agriosphodrus dohrni		○	○
727				ハネナシサシガメ	Coranus dilatatus	○		
728				アカサシガメ	Cydnocoris russatus		○	○
729				マダラカモドキサシガメ	Empicoris rubromaculatus		○	
730				ヒゲナガサシガメ	Endochus stalianus			○
731				クビグロアカサシガメ	Haematoloecha delibuta		○	
732				アカシマサシガメ	Haematoloecha nigrorufa		○	
733				オオトビサシガメ	Isyndus obscurus			○
734				アシアカクロバサシガメ	Labidocoris pectoralis		○	
735				トビイロサシガメ	Oncocephalus assimilis			○
736				モモブトトビイロサシガメ	Oncocephalus femoratus			○
737				オオトビイロサシガメ	Oncocephalus philippinus	○	○	
738				クロサシガメ	Peirates cinctiventris		○	○
739				クロモンサシガメ	Peirates turpis			○
740				トゲサシガメ	Polididus armatissimus		○	
741				ホソサシガメ	Pygolampis bidentata	○		○
742				クビアカサシガメ	Reduvius humeralis	○		
743				シマサシガメ	Sphedanolestes impressicollis	○	○	○
744				ヤニサシガメ	Velinus nodipes	○	○	○
				サシガメ科の一種	Reduviidae gen. sp.		○	
745			グンバイムシ	マルグンバイ	Acalypta sauteri			○
746				ウチワグンバイ	Cantacader lethierryi	○	○	○
747				アワダチソウグンバイ	Corythucha marmorata			○
748				ヤブガラシグンバイ	Cysteochila chiniana			○
749				コアカソグンバイ	Cysteochila fieberi		○	○
750				ヘクソカズラグンバイ	Dulinius conchatus			○
751				ヤナギグンバイ	Metasalis populi			○
752				ナシグンバイ	Stephanitis nashi	○	○	○
753				ツツジグンバイ	Stephanitis pyrioides	○		
754				トサカグンバイ	Stephanitis takeyai		○	○
755				ヒメグンバイ	Uhlerites debilis			○
756				クルミグンバイ	Uhlerites latiorus			○
757				クチナガグンバイ	Xynotingis hoytona		○	
758			ヒラタカメムシ	クロヒラタカメムシ	Brachyrhynchus taiwanicus	○		
759				イボヒラタカメムシ	Usingerida verrucigera		○	○
				ヒラタカメムシ科の一種	Aradidae gen. sp.		○	
760			ハナカメムシ	ヤサハナカメムシ	Amphiareus obscuriceps	○	○	○
761				チビクロハナカメムシ	Anthocoris chibi		○	
762				クロハナカメムシ	Anthocoris japonicus			○
763				キタダルマハナカメムシ	Bilia esakii		○	
764				ケシハナカメムシ	Cardiastethus pygmaeus pygmaeus		○	
765				ナミヒメハナカメムシ	Orius sauteri	○	○	○
766				ユミアシハナカメムシ	Physopleurella armata	○		
				ハナカメムシ科の一種	Anthocoridae gen. sp.		○	○
767			カスミカメムシ	ウスモンカスミカメ	Adelphocoris demissus			○
768				ブチヒゲクロカスミカメ	Adelphocoris triannulatus	○	○	○
769				ヒゲナガカスミカメ	Adelphocorisella lespedezae			○
770				マツノヒゲボソカスミカメ	Alloeotomus simplus		○	
771				フタモンアカカスミカメ	Apolygus hilaris	○	○	
772				コアオカスミカメ	Apolygus lucorum			○
773				クロバカスミカメ	Apolygus nigritulus			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(10)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
774			カスミカメムシ	モモアカハギカスミカメ	Apolygus roseofemoralis		○	
775				ツマグロアオカスミカメ	Apolygus spinolae			○
776				ツマグロハギカスミカメ	Apolygus subpulchellus	○	○	○
				Apolygus属の一種	Apolygus sp.			○
777				クビワシダカスミカメ	Bryocoris gracilis			○
778				ミドリチビトビカスミカメ	Campylomma lividicornis	○		
779				ヒメセダカカスミカメ	Charagochilus angusticollis		○	
780				ヒメセダカカスミカメ	Charagochilus angusticollis		○	○
781				ホシチビカスミカメ	Compsidolon salicellum			○
782				ガマカスミカメ	Coridromius bufo			○
783				アカホシカスミカメ	Creontiades coloripes			○
784				マダラカスミカメ	Cyphodemidea saundersi	○	○	○
785				モンキクロカスミカメ	Deraeocoris ater	○	○	○
786				ウスバツヤカスミカメ	Deraeocoris castaneae			○
787				カワヤナギツヤカスミカメ	Deraeocoris claspericapilatus			○
788				シロテンツヤカスミカメ	Deraeocoris pulchellus		○	
789				ケブカキベリナガカスミカメ	Dryophilocoris miyamotoi			○
790				オオクロトビカスミカメ	Ectmetopterus micantulus		○	○
791				ウスイロホソカスミカメ	Europiella miyamotoi	○	○	
792				メンガタカスミカメ	Eurystylus coelestialium	○	○	○
793				ハギメンガタカスミカメ	Eurystylus luteus			○
794				モンキハシリカスミカメ	Hallodapus fenestratus	○	○	
795				キュウシュウハシリカスミカメ	Hallodapus kyushuensis			○
796				クロトビカスミカメ	Halticus insularis		○	
797				シオジツヤマルカスミカメ	Apolygus fraxinicola		○	
798				フタモンウスキカスミカメ	Neolygus honshuensis	○	○	
				Lygocoris属の一種	Lygocoris sp.			○
799				ハナグロミドリカスミカメ	Lygus nigronasutus	○	○	
800				マキバカスミカメ	Lygus rugulipennis		○	
801				ズアカシダカスミカメ	Monalocoris filicis		○	○
802				ミイロカスミカメ	Neomegacoelum vitreum			○
803				タバコカスミカメ	Nesidiocoris tenuis	○	○	
804				クロマルカスミカメ	Orthocephalus funestus			○
805				モンキマキバカスミカメ	Orthops scutellatus	○	○	
806				テンサイカスミカメ	Orthotylus flavosparsus	○		
807				クロスジヤナギカスミカメ	Orthotylus pallens	○	○	
808				マツトビカスミカメ	Phoenicocoris kyushuensis			○
809				ヒョウタンカスミカメ	Pilophorus setulosus	○		○
810				クロヒョウタンカスミカメ	Pilophorus typicus		○	
811				アシマダラクロカスミカメ	Polymerus pekinensis		○	
812				オオクロセダカカスミカメ	Proboscidocoris varicornis		○	○
813				カシワトビカスミカメ	Psallus tonnaichanus	○	○	
814				フタトゲムギカスミカメ	Stenodema calcarata			○
815				アカスジカスミカメ	Stenotus rubrovittatus	○	○	○
816				グンバイカスミカメ	Stethoconus japonicus			○
817				ウスモンミドリカスミカメ	Taylorilygus apicalis	○	○	
818				イネホソミドリカスミカメ	Trigonotylus caelestialium	○		○
				カスミカメムシ科の一種	Miridae gen. sp.	○	○	○
819			マキバサシガメ	アカマキバサシガメ	Gorpis brevilineatus	○	○	○
820				ベニモンマキバサシガメ	Gorpis japonicus		○	
821				ハラビロマキバサシガメ	Himacerus apterus	○		
822				コバネマキバサシガメ	Nabis apicalis	○	○	○
823				ハネナガマキバサシガメ	Nabis stenoferus	○	○	○
				マキバサシガメ科の一種	Nabidae gen. sp.	○	○	
824			オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ	Physopelta cincticollis	○	○	○
825				オオホシカメムシ	Physopelta gutta	○	○	○
				オオホシカメムシ科の一種	Largidae gen. sp.	○		
826			ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	Pyrrhocoris sibiricus	○	○	○
827				クロホシカメムシ	Pyrrhocoris sinuaticollis		○	○
828			ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	Leptocorisa chinensis	○	○	○
829				ヒメクモヘリカメムシ	Paraplesius unicolor			○
830				ホソヘリカメムシ	Riptortus clavatus	○	○	○
831			ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	Acanthocoris sordidus	○	○	○
832				オオクモヘリカメムシ	Anacanthocoris striicornis	○	○	○
833				ホソハリカメムシ	Cletus punctiger	○	○	○
834				ハリカメムシ	Cletus schmidti	○	○	○
835				ハラビロヘリカメムシ	Homoeocerus dilatatus	○	○	
836				ホシハラビロヘリカメムシ	Homoeocerus unipunctatus	○	○	○
				Homoeocerus属の一種	Homoeocerus sp.		○	
837				オオツマキヘリカメムシ	Hygia lativentris	○	○	○
838				ツマキヘリカメムシ	Hygia opaca	○	○	○
839				オオヘリカメムシ	Molipteryx fuliginosa	○	○	
				ヘリカメムシ科の一種	Coreidae gen. sp.	○	○	
840			ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	Liorhyssus hyalinus	○		○
841				アカヒメヘリカメムシ	Rhopalus maculatus	○	○	○
842				ケブカヒメヘリカメムシ	Rhopalus sapporensis			○
843				ブチヒゲヒメヘリカメムシ	Stictopleurus minutus	○	○	○
				ヒメヘリカメムシ科の一種	Rhopalidae gen. sp.		○	
844			イトカメムシ	ヒメイトカメムシ	Metacanthus pulchellus		○	○
845				イトカメムシ	Yemma exilis	○	○	○
846			ナガカメムシ	セスジナガカメムシ	Arocatus melanostoma		○	○
847				ウスイロナガカメムシ	Bryanellocoris orientalis			○
848				ヒョウタンナガカメムシ	Caridops albomarginatus			○
849				ヒメヒラタナガカメムシ	Cymus obliquus			○
850				ヒメコバネナガカメムシ	Dimorphopterus bicoloripes	○		○
851				ニッポンコバネナガカメムシ	Dimorphopterus japonicus			○
852				コバネナガカメムシ	Dimorphopterus pallipes		○	○
853				ヒメネジロツヤナガカメムシ	Diniella pallipes		○	
854				マツヒラタナガカメムシ	Gastrodes grossipes japonicus			○
855				ヒメオオメナガカメムシ	Geocoris proteus		○	○
856				サビヒョウタンナガカメムシ	Horridipamera inconspicua			○
857				ブチヒラタナガカメムシ	Kleidocerys nubilus	○		
858				ウスイロヒラタナガカメムシ	Kleidocerys resedae	○		
859				ホソコバネナガカメムシ	Macropes obnubilus	○	○	○
860				オオモンシロナガカメムシ	Metochus abbreviatus	○	○	○
861				オオチャイロナガカメムシ	Neolethaeus assamensis		○	○
862				チャイロナガカメムシ	Neolethaeus dallasi	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(11)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
863			ナガカメムシ	ヒサゴナガカメムシ	Neomizaldus lewisi	○		
864				ホソメダカナガカメムシ	Ninomimus flavipes		○	○
865				エチゴヒメナガカメムシ	Nysius expressus	○	○	
866				ヒメナガカメムシ	Nysius plebeius	○	○	○
867				ヒラタヒョウタンナガカメムシ	Pachybrachius luridus	○	○	○
868				サビナガカメムシ	Pachybrachius rusticus	○	○	
869				ヒゲナガカメムシ	Pachygrontha antennata	○		○
870				クロスジヒゲナガカメムシ	Pachygrontha similis		○	○
871				モンシロナガカメムシ	Panaorus albomaculatus		○	○
872				シロヘリナガカメムシ	Panaorus japonicus		○	○
873				チャモンナガカメムシ	Paradieuches dissimilis			○
874				ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	Paraeucosmetus pallicornis	○		
875				キベリヒョウタンナガカメムシ	Paraparomius lateralis	○	○	○
876				オオメナガカメムシ	Piocoris varius	○	○	○
877				チャイロホソナガカメムシ	Prosomoeus brunneus	○		
878				ムラサキナガカメムシ	Pylorgus colon			○
879				ウスグロシロヘリナガカメムシ	Rhyparochromus angustatus		○	
880				イチゴチビナガカメムシ	Stigmatonotum geniculatum			○
881				コバネヒョウタンナガカメムシ	Togo hemipterus	○	○	○
882				ヒメジュウジナガカメムシ	Tropidothorax sinensis			○
				ナガカメムシ科の一種	Lygaeidae gen. sp.	○	○	○
883			メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	Chauliops fallax	○	○	○
884			ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	Acanthosoma denticaudum	○		○
885				ヒメハサミツノカメムシ	Acanthosoma forficula			○
886				ハサミツノカメムシ	Acanthosoma labiduroides			○
887				アオモンツノカメムシ	Dichobothrium nubilum		○	○
888				エサキモンキツノカメムシ	Sastragala esakii		○	○
889				モンキツノカメムシ	Sastragala scutellata		○	○
890			ツチカメムシ	ミツボシツチカメムシ	Adomerus triguttulus	○	○	○
891				ヨコヅナツチカメムシ	Adrisa magna		○	○
892				チビツヤツチカメムシ	Chilocoris confusus		○	
893				ヒメツヤツチカメムシ	Chilocoris sp.		○	
894				ヒメツチカメムシ	Fromundus pygmaeus	○	○	○
895				コツチカメムシ	Macroscytus fraterculus	○		
896				ツチカメムシ	Macroscytus japonensis	○	○	○
897				マルツチカメムシ	Microporus nigritus	○		○
				ツチカメムシ科の一種	Cydnidae gen. sp.	○		
898			ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	Megymenum gracilicorne			○
899			カメムシ	シロヘリカメムシ	Aenaria lewisi	○	○	○
900				ウシカメムシ	Alcimocoris japonensis		○	○
901				トゲカメムシ	Carbula humerigera	○	○	○
902				ブチヒゲカメムシ	Dolycoris baccarum	○		
903				ハナダカカメムシ	Dybowskyia reticulata	○		
904				シモフリクチブトカメムシ	Eocanthecona japonicola			○
905				ナガメ	Eurydema rugosum	○	○	○
906				トゲシラホシカメムシ	Eysarcoris aeneus			○
907				ムラサキシラホシカメムシ	Eysarcoris annamita	○	○	○
908				マルシラホシカメムシ	Eysarcoris guttiger	○	○	○
909				シラホシカメムシ	Eysarcoris ventralis	○	○	○
910				ツヤアオカメムシ	Glaucias subpunctatus		○	○
911				エビイロカメムシ	Gonopsis affinis			○
912				クサギカメムシ	Halyomorpha halys	○	○	○
913				ヨツボシカメムシ	Homalogonia obtusa			○
914				イネカメムシ	Lagynotomus elongatus			○
915				ナカボシカメムシ	Menida musiva			○
916				スコットカメムシ	Menida scotti	○		
917				ツマジロカメムシ	Menida violacea	○	○	○
918				アオクサカメムシ	Nezara antennata		○	○
919				アシアカカメムシ	Pentatoma rufipes		○	
920				クチブトカメムシ	Picromerus lewisi		○	
921				イチモンジカメムシ	Piezodorus hybneri	○	○	○
922				チャバネアオカメムシ	Plautia crossota stali	○	○	○
923				オオクロカメムシ	Scotinophara horvathi			○
924				クロカメムシ	Scotinophara lurida	○		○
925				タマカメムシ	Sepontiella aenea		○	○
				カメムシ科の一種	Pentatomidae gen. sp.	○	○	
926			マルカメムシ	ヒメマルカメムシ	Coptosoma biguttulum	○		○
927				タデマルカメムシ	Coptosoma parvipictum			○
928				マルカメムシ	Megacopta punctatissima	○	○	○
929			キンカメムシ	チャイロカメムシ	Eurygaster testudinaria		○	○
930				アカスジキンカメムシ	Poecilocoris lewisi			○
931			クヌギカメムシ	ヘラクヌギカメムシ	Urostylis annulicornis			○
932				クヌギカメムシ	Urostylis westwoodii	○		
933			アメンボ	オオアメンボ	Aquarius elongatus		○	○
934				アメンボ	Aquarius paludum paludum			○
935				コセアカアメンボ	Macrogerris gracilicornis			○
936				ヤスマツアメンボ	Macrogerris insularis	○		○
937				ヒメアメンボ	Gerris latiabdominis	○	○	○
938				シマアメンボ	Metrocoris histrio		○	○
939			イトアメンボ	ヒメイトアメンボ	Hydrometra procera			○
940			ミズカメムシ	ミズカメムシ科の一種	Mesoveliidae gen. sp.		○	
941			カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ	Microvelia douglasi			○
942				マダラケシカタビロアメンボ	Microvelia reticulata	○		
				Microvelia属の一種	Microvelia sp.			○
943			ミズギワカメムシ	ウスイロミズギワカメムシ	Saldula pallipes			○
				Saldula属の一種	Saldula sp.			○
944			ミズムシ	ナガミズムシ	Hesperocorixa mandshurica			○
945				コチビミズムシ	Micronecta guttata		○	
946				チビミズムシ	Micronecta sedula	○		
947				コミズムシ	Sigara substriata	○	○	○
948			メミズムシ	メミズムシ	Ochterus marginatus			○
949			コオイムシ	オオコオイムシ	Appasus major			○
950			タイコウチ	タイコウチ	Laccotrephes japonensis			○
951			ナベブタムシ	ナベブタムシ	Aphelocheirus vittatus			○
952			マツモムシ	コマツモムシ	Anisops ogasawarensis			○
953				マツモムシ	Notonecta triguttata	○	○	○
			―	カメムシ目の一種	Hemiptera fam. gen. sp.	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(12)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
954		アザミウマ	アザミウマ	ヒゲブトアザミウマ	Chirothrips manicatus	○		
				アザミウマ科の一種	Thripidae gen. sp.		○	
955			クダアザミウマ	イネクダアザミウマ	Haplothrips aculeatus		○	
956				シイマルクダアザミウマ	Litotetothrips pasaniae		○	
				クダアザミウマ科の一種	Phlaeothripidae gen. sp.		○	
957		アミメカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	Protohermes grandis	○		○
958			センブリ	ヤマトセンブリ	Sialis japonica			○
959				ナカハラセンブリ	Sialis nakaharai		○	
960			ラクダムシ	ラクダムシ	Inocellia japonica			○
961			ヒロバカゲロウ	スカシヒロバカゲロウ	Osmylus hyalinatus	○		
962				キマダラヒロバカゲロウ	Spilosmylus flavicornis		○	
963				ヤマトヒロバカゲロウ	Spilosmylus tuberculatus			○
				ヒロバカゲロウ科の一種	Osmylidae gen. sp.		○	
964			カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ	Mantispa japonica japonica		○	
965			ミズカゲロウ	ミズカゲロウ	Sisyra nikkoana	○	○	
				ミズカゲロウ科の一種	Sisyridae gen. sp.	○		
966			クサカゲロウ	ヨツボシクサカゲロウ	Chrysopa septempunctata		○	
967				ニッポンクサカゲロウ	Chrysoperla carnea	○	○	○
968				アカスジクサカゲロウ	Chrysoperla furcifera			○
969				アミメカゲロウ	Nacaura matsumurae	○	○	○
970				イツホシアカマダラクサカゲロウ	Pseudomallada cognatellus			○
971				フタモンクサカゲロウ	Pseudomallada formosanus			○
972				ヨツボシアカマダラクサカゲロウ	Pseudomallada parabolus			○
				クサカゲロウ科の一種	Chrysopidae gen. sp.	○		
973			ヒメカゲロウ	ヤマトヒメカゲロウ	Hemerobius japonicus	○	○	○
974				クロヒゲヒメカゲロウ	Hemerobius nigricornis		○	
				Hemerobius属の一種	Hemerobius sp.			○
975				コチャバネヒメカゲロウ	Micromus angulatus			○
976				アシマダラヒメカゲロウ	Micromus calidus			○
977				チャバネヒメカゲロウ	Micromus numerosus		○	○
978				ミドリヒメカゲロウ	Notiobiella subolivacea			○
979				ニセヒメカゲロウ	Paramicromus dissimilis		○	
				ヒメカゲロウ科の一種	Hemerobiidae gen. sp.	○	○	
980			ツノトンボ	ツノトンボ	Hybris subjacens		○	○
981				オオツノトンボ	Protidricerus japonicus			○
982			ウスバカゲロウ	マダラウスバカゲロウ	Dendroleon pupillaris		○	○
983				ホシウスバカゲロウ	Glenuroides japonicus			○
984				ウスバカゲロウ	Hagenomyia micans	○	○	○
985				コウスバカゲロウ	Myrmeleon formicarius			○
			―	アミメカゲロウ目の一種	Neuroptera fam. gen. sp.	○		
986		シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	Panorpa japonica	○	○	○
987				ホソマダラシリアゲ	Panorpa multifasciaria	○	○	○
988				マルバネシリアゲ	Panorpa nipponensis		○	
989				ブライヤシリアゲ	Panorpa pryeri	○	○	
			―	シリアゲムシ目の一種	Mecoptera fam. gen. sp.	○		
990		トビケラ	カワトビケラ	Dolophilodes属の一種	Dolophilodes sp.			○
991			イワトビケラ	イワトビケラ科の一種	Polycentropodidae gen. sp.			○
992			クダトビケラ	Psychomyia属の一種	Psychomyia sp.			○
993			ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	Stenopsyche marmorata	○	○	○
994			ヤマトビケラ	Agapetus属の一種	Agapetus sp.			○
995				イノブスヤマトビケラ	Glossosoma ussuricum	○	○	
				Glossosoma属の一種	Glossosoma sp.			○
				ヤマトビケラ科の一種	Glossosomatidae gen. sp.		○	
996			ヒメトビケラ	Hydroptila属の一種	Hydroptila sp.			○
				ヒメトビケラ科の一種	Hydroptilidae gen. sp.	○	○	
997			ナガレトビケラ	レゼイナガレトビケラ	Rhyacophila lezeyi	○		
				Rhyacophila属の一種	Rhyacophila sp.		○	○
				ナガレトビケラ科の一種	Rhyacophilidae gen. sp.	○	○	
998			コエグリトビケラ	ヒラタコエグリトビケラ	Apatania aberrans	○		
999			カクスイトビケラ	マルツツトビケラ	Micrasema quadriloba	○	○	
				Micrasema属の一種	Micrasema sp.		○	○
				カクスイトビケラ科の一種	Brachycentridae gen. sp.	○	○	
1000			アシエダトビケラ	コバントビケラ	Anisocentropus kawamurai	○		○
				Anisocentropus属の一種	Anisocentropus sp.			○
				アシエダトビケラ科の一種	Calamoceratidae gen. sp.		○	
1001			ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	Goera japonica	○	○	○
				Goera属の一種	Goera sp.		○	
1002			カクツツトビケラ	コカクツツトビケラ	Lepidostoma japonicum	○		○
				Goerodes属の一種	Goerodes sp.			○
1003			ヒゲナガトビケラ	Ceraclea属の一種	Ceraclea sp.			○
1004				アオヒゲナガトビケラ	Mystacides azureus	○		○
1005				ゴマダラヒゲナガトビケラ	Oecetis nigropunctata	○	○	
				Oecetis属の一種	Oecetis sp.			○
1006				Setodes属の一種	Setodes sp.			○
1007				ヤマモトセンカイトビケラ	Triaenodes yamamotoi	○		
1008				ヒメセトトビケラ	Trichosetodes japonicus			○
				ヒゲナガトビケラ科の一種	Leptoceridae gen. sp.	○	○	
1009			エグリトビケラ	ウスバキトビケラ	Limnephilus correptus	○		
1010				エグリトビケラ	Nemotaulius admorsus	○		
				エグリトビケラ科の一種	Limnephilidae gen. sp.	○		
1011			ホソバトビケラ	ホソバトビケラ	Molanna moesta	○	○	○
1012			フトヒゲトビケラ	ヨツメトビケラ	Perissoneura paradoxa		○	
1013			トビケラ	ムラサキトビケラ	Eubasilissa regina	○		
1014				アミメトビケラ	Oligotricha fluvipes			○
				トビケラ科の一種	Phryganeidae gen. sp.	○	○	
1015			マルバネトビケラ	マルバネトビケラ	Phryganopsyche latipennis		○	○
1016			ケトビケラ	グマガトビケラ	Gumaga okinawaensis	○	○	○
1017			クロツツトビケラ	クロツツトビケラ	Uenoa tokunagai	○	○	
				Uenoa属の一種	Uenoa sp.		○	
1018			シマトビケラ	コガタシマトビケラ	Cheumatopsyche brevilineata	○	○	○
				Cheumatopsyche属の一種	Cheumatopsyche sp.			○
1019				キマダラシマトビケラ	Diplectrona japonica	○		○
1020				キブネミヤマシマトビケラ	Diplectrona kibuneana			○
1021				シロズシマトビケラ	Hydropsyche albicephala	○		
1022				イカリシマトビケラ	Hydropsyche ancorapunctata	○		
1023				ウルマーシマトビケラ	Hydropsyche orientalis	○	○	○
1024				セリーシマトビケラ	Hydropsyche selysi			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(13)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1025			シマトビケラ	ナカハラシマトビケラ	Hydropsyche setensis			○
				Hydropsyche属の一種	Hydropsyche sp.		○	○
1026				オオシマトビケラ	Macrostemum radiatum	○	○	○
1027				エチゴシマトビケラ	Potamyia chinensis			○
				シマトビケラ科の一種	Hydropsychidae gen. sp.	○	○	
1028		チョウ	コウモリガ	コウモリガ	Endoclyta excrescens	○		
1029				キマダラコウモリ	Endoclyta sinensis	○		
1030				シロテンコウモリ	Palpifer sexnotata	○		
1031			ムモンハモグリガ	バラクロハモグリガ	Tischeria angusticollella	○		
1032				キイチゴクロハモグリガ	Tischeria heinemanni	○		
				ムモンハモグリガ科の一種	Tischeriidae gen. sp.		○	
1033			ツヤコガ	ブドウツヤコガ	Antispila ampelopsia	○		
1034				キンモンツヤコガ	Antispila hikosana	○		
				ツヤコガ科の一種	Heliozelidae sp.		○	
1035			ヒゲナガガ	ウスキヒゲナガ	Nematopogon distincta	○		
1036				クロハネシロヒゲナガ	Nemophora albiantennella	○	○	○
1037				ホソオビヒゲナガ	Nemophora aurifera	○		○
1038				ツマモンヒゲナガ	Nemophora ochsenheimerella		○	
1039				キオビクロヒゲナガ	Nemophora umbripennis		○	
1040				ワカヤマヒゲナガ	Nemophora wakayamensis		○	
1041			マガリガ	ケブカヒゲナガ	Adela praepilosa	○		○
				Adela属の一種	Adela sp.			○
				マガリガ科の一種	Incurvariidae gen. sp.		○	
1042			ホソガ	クルミホソガ	Acrocercops transecta	○		
1043				ホシボシホソガ	Callisto multimaculata	○	○	
1044				モミジハマキホソガ	Caloptilia acericola		○	
1045				ヤナギコハマキホソガ	Caloptilia chrysolampra	○		
1046				フタモンハマキホソガ	Caloptilia geminata		○	
1047				カズラハマキホソガ	Caloptilia kadsurae	○		
1048				マダラハマキホソガ	Caloptilia pulverea	○		
1049				ヌルデハマキホソガ	Caloptilia recitata	○		
1050				マツブサハマキホソガ	Caloptilia schisandrae		○	
1051				チャノハマキホソガ	Caloptilia theivora		○	
1052				ヨモギホソガ	Leucospilapteryx omissella	○		
1053				キソキンモンホソガ	Phyllonorycter kisoensis	○		
1054				ミツオビキンモンホソガ	Phyllonorycter tritorrhecta	○		
1055				ホソガ亜科の一種	Gracillariinae gen. sp.		○	
				ホソガ科の一種	Gracillariidae gen. sp.		○	○
1056			ハモグリガ	ヒルガオハモグリガ	Bedellia somnulentella	○		
1057				ヒサカキハモグリガ	Lyonetia euryella	○		
1058				ツツジハモグリガ	Lyonetia ledi	○		
				ハモグリガ科の一種	Lyonetiidae gen. sp.	○	○	
1059			コハモグリガ	ミカンコハモグリ	Phyllocnistis citrella		○	
1060				ヤナギコハモグリ	Phyllocnistis saligna		○	
				コハモグリガ科の一種	Phyllocnistidae gen. sp.		○	
1061			ミノガ	ネグロミノガ	Acanthopsyche nigraplaga			○
1062				アキノヒメミノガ	Bacotia sakabei	○		
1063				キタクロミノガ	Canephora pungelerii	○		
1064				チャミノガ	Eumeta minuscula			○
1065				オオミノガ	Eumeta variegata			○
1066				ニトベミノガ	Mahasena aurea			○
				ミノガ科の一種	Psychidae gen. sp.	○		
1067			ヒロズコガ	ナガバヒロズコガ	Cephitinea colonella	○		
1068				デコボコヒロズコガ	Dasyses barbata	○		
1069				クロスジツマオレガ	Decadarchis atririvis	○		
1070				ウスモンツマオレガ	Decadarchis sphenoschista	○		
1071				マエモンヒロズコガ	Dinica endochrysa	○	○	
1072				マダラマルハヒロズコガ	Hypophrictis conspersa			○
1073				アトモンヒロズコガ	Morophaga bucephala	○		
1074				コクガ	Nemapogon granellus	○		
1075				ウスグロイガ	Niditinea baryspilas	○		
1076				クロスジイガ	Niditinea striolella	○		
1077				クロエリメンコガ	Opogona nipponica	○		
1078				モトキメンコガ	Opogona thiadelta	○		
1079				ウスバヒロズコガ	Psychoides phaedrospora	○		
1080				イガ	Tinea translucens	○		
1081				コイガ	Tineola bisselliella	○		
1082				ツマオレガ亜科の一種	Erechthiinae gen. sp.		○	
				ヒロズコガ科の一種	Tineidae gen. sp.		○	○
1083			ネマルハキバガ	シロジネマルハキバガ	Hypatopa montivaga	○		
1084			ツツミノガ	ヨモギハナツツミノガ	Coleophora artemisicolella	○		
1085				アカザハナツツミノガ	Coleophora chenopodii	○		
1086				キクツツミノガ	Coleophora kurokoi	○		
1087				アカザフシガ	Coleophora serinipennella	○		
1088				リンゴツツミノガ	Coleophora serratella	○		
1089				アオビユツツミノガ	Coleophora versurella	○	○	
1090				ヨモギツツミノガ	Coleophora yomogiella	○		
				ツツミノガ科の一種	Coleophoridae gen. sp.		○	
1091			カザリバガ	マダラトガリホソガ	Anatrachyntis japonica	○		
1092				ツマキトガリホソガ	Labdia citracma	○		
1093				ベニモントガリホソガ	Labdia semicoccinea	○		
1094				ガマトガリホソガ	Limnaecia phragmitella	○		
1095				タテスジトガリホソガ	Pyroderces sarcogypsa	○	○	
1096				ギンスジトガリホソガ	Stagmotophora niphostica	○		
				カザリバガ科の一種	Cosmopterigidae gen. sp.		○	
1097			クサモグリガ	スイカズラモグリガ	Swezeyula lonicerae	○		
1098			キバガ	サクラキバガ	Anacampsis anisogramma	○	○	
1099				ミドリチビキバガ	Aristotelia citrocosma	○		
1100				ムクロジキバガ	Bagdadia sapindivora	○		
1101				ウスヅマスジキバガ	Brachmia japonicella	○		
1102				カバイロキバガ	Carbatina picrocarpa	○	○	
1103				ハイイロチビキバガ	Dentrophila petrinopis	○		
1104				コフサキバガ	Dichomeris acuminata	○		
1105				モンフサキバガ	Dichomeris harmonias	○	○	
1106				フジフサキバガ	Dichomeris oceanis	○	○	
1107				ウスボシフサキバガ	Dichomeris quercicola	○	○	
1108				ムモンフサキバガ	Dichomeris tostella			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(14)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1109			キバガ	クロクモシロキバガ	Ethmiopsis tegulifera	○		
1110				オオフサキバガ	Gaesa atomogypsa	○		
1111				ソバカスキバガ	Gelechia acanthopis	○	○	
1112				クロマダラコキバガ	Gnorimoschema aganocarpa	○		
1113				イモキバガ	Helcystogramma triannulella	○		
1114				ムツモンアカザキバガ	Microsetia sexguttella	○		
1115				ワタアカミムシガ	Pectinophora gossypiella	○		
1116				ジャガイモキバガ	Phthorimaea operculella	○	○	
1117				カギツマシマキバガ	Polyhymno obliquata	○		
1118				ヤマモモキバガ	Polyhymno pancratiastis	○		
1119				スジウスキキバガ	Polyhymno pontifera	○		
1120				クルミシントメキバガ	Polyhymno trapezoidella	○		
1121				バクガ	Sitotroga cerealella	○	○	
1122				イブキチビキバガ	Stenolechia bathrodyas	○		
1123				アカマツチビキバガ	Stenolechia kodamai		○	
1124				ナラクロオビキバガ	Telphusa incognitella	○	○	
1125				オドリキバガ	Tricyanaula hoplocrates		○	
1126				ウスグロキバガ	Uliaria rasilella	○	○	
				キバガ科の一種	Gelechiidae gen. sp.	○	○	○
1127			ヒゲナガキバガ	クロカクバネヒゲナガキバガ	Athymoris martialis	○		
1128				キベリハイヒゲナガキバガ	Homaloxestis myeloxesta	○		
1129				カクバネヒゲナガキバガ	Lecitholaxa thiodora	○		
1130				フタクロボシキバガ	Scythropiodes issikii	○		
1131				ゴマフシロキバガ	Scythropiodes leucostola	○		○
1132				ムモンヒロバキバガ	Scythropiodes lividula			○
1133			マルハキバガ	ネズミエグリヒラタマルハキバガ	Acria ceramitis	○		
1134				ヤマウコギヒラタマルハキバガ	Agonopterix encentra	○		
				Agonopterix属の一種	Agonopterix sp.			○
1135				ヒマラヤスギキバガ	Autosticha kyotoensis	○	○	
1136				ミツボシキバガ	Autosticha modicella	○	○	
1137				ウスムジヒゲナガマルハキバガ	Carcirca homomorpha	○	○	
1138				ホソバキホリマルハキバガ	Casmara agronoma		○	
1139				ホソオビキマルハキバガ	Cryptolechia malacobyrsa			○
1140				モトグロヒラタマルハキバガ	Depressaria petronoma	○		
1141				シロズヒラタマルハキバガ	Eutorna polismatica	○		○
1142				クロマイコモドキ	Lamprystica igneola		○	
1143				コクマルハキバガ	Martyringa xeraula		○	
1144				スジモンキマルハキバガ	Periacma delegata	○		
1145				ギンモンカバマルハキバガ	Promalactis fezonica	○		○
1146				マルハキバガ亜科の一種	Oecophorinae gen. sp.		○	
				マルハキバガ科の一種	Oecophoridae gen. sp.		○	○
1147			ニセマイコガ	カタアカマイコガ	Stathmopoda haematosema	○		
1148				カキノヘタムシガ	Stathmopoda masinissa		○	
1149				モトキマイコガ	Stathmopoda moriutiella	○		
1150			ニジュウシトリバガ	ヤマトニジュウシトリバ	Alucita japonica	○	○	
1151				ニジュウシトリバ	Alucita spilodesma		○	
1152			シンクイガ	モモノヒメシンクイ	Carposina sasakii		○	
1153				シロモンクロシンクイ	Commatarcha palaeosema		○	
1154				コブシロシンクイ	Meridarchis excisa	○		
1155			アトヒゲコガ	ヨモギハモグリコガ	Digitivalva artemisiella	○		
1156			メムシガ	カタキンメムシガ	Argyresthia angusta	○		
1157				モチツツジメムシガ	Argyresthia beta	○		
1158				ヒノキハモグリガ	Argyresthia chamaecypariae	○	○	
1159			メムシガ	クロモンメムシガ	Argyresthia communana	○		
1160				ツツジメムシガ	Argyresthia tutuzicolella	○		
				メムシガ科の一種	Argyresthiidae gen. sp.	○	○	
1161			ナガヒゲガ	ナガヒゲガ科の一種	Amphitheridae gen. sp.		○	
1162			ホソハマキモドキガ	コホソハマキモドキ	Glyphipterix alpha	○		
				ホソハマキモドキガ科の一種	Glyphiperigidae gen. sp.		○	○
1163			スガ	シロズキヌスガ	Kessleria pseudosericella	○		
1164				ヒロバコナガ	Leuroperna sera	○		
1165				ツヤギンバネスガ	Niphonympha vera	○		
1166				コナガ	Plutella xylostella			○
1167				サンゴジュニセスガ	Prays lambda	○		
1168				シャシャンボツバメスガ	Saridoscelis sphenias	○	○	
1169				マンネングサヒメスガ	Swammerdamia sedella		○	
1170				モトキスガ	Yponomeuta bipunctellus	○		
1171				ニシキギスガ	Yponomeuta kanaiellus		○	
1172				ベンケイソウスガ	Yponomeuta vigintipunctatus		○	
1173				ツマグロハイスガ	Yponomeuta yanagawanus	○		
1174				オオキクチブサガ	Ypsolopha blandellus	○		
1175				ウスイロクチブサガ	Ypsolopha parenthesellus			○
1176				スガ亜科の一種	Yponomeutinae gen. sp.		○	
				スガ科の一種	Yponomeutidae gen. sp.	○	○	
1177			ハマキモドキガ	コウゾハマキモドキ	Choreutis hyligenes			○
1178			スカシバガ	モモブトスカシバ	Macroscelesia japona	○		
1179				ヒメアトスカシバ	Nokona pernix			○
1180				コスカシバ	Synanthedon hector			○
1181				ムナブトヒメスカシバ	Trichocerota constricta			○
				スカシバガ科の一種	Sesiidae gen. sp.	○		
1182			ボクトウガ	オオボクトウ	Cossus cossus orientalis			○
1183				ボクトウガ	Cossus jezoensis			○
1184			ハマキガ	ニセヤナギハマキ	Acleris albiscapulana		○	
1185				モトキハマキ	Acleris fuscotogata	○	○	
1186				マエモンシロハマキ	Acleris lacordairana	○		
1187				チャモンシロハマキ	Acleris placata	○		
1188				ニレハマキ	Acleris ulmicola	○		
1189				チャノコカクモンハマキ	Adoxophyes honmai	○	○	○
1190				リンゴコカクモンハマキ	Adoxophyes orana fasciata	○		
1191				ツマキハイイロヒメハマキ	Antichlidas holocnista	○		
1192				グミウスツマヒメハマキ	Apotomis lacteifascies	○		
1193				ホソアトキハマキ	Archips breviplicanus	○		
1194				オオアトキハマキ	Archips ingentanus	○		
1195				マツアトキハマキ	Archips oporanus		○	○
1196				タテスジハマキ	Archips pulcher		○	
1197				ウスアトキハマキ	Archips semistrctus	○		
1198				イッシキヒメハマキ	Aterpia issikii	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(15)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1199			ハマキガ	イグサヒメハマキ	Bactra furfurana	○		
1200				フタモントガリバヒメハマキ	Bactra hostilis	○		
1201				アカスジキイロハマキ	Clepsis pallidana	○		
1202				ウスモンハマキ	Clepsis rurinana	○		
1203				Cochylidia属の一種	Cochylidia sp.		○	
1204				ヘリオビヒメハマキ	Cryptaspasma marginifasciata			○
1205				クロサンカクモンヒメハマキ	Cryptaspasma trigonana			○
				Cryptaspasma属の一種	Cryptaspasma sp.			○
1206				ヨツメヒメハマキ	Cydia danilevskyi	○		
1207				クリミガ	Cydia kurokoi	○		
1208				オクヘリホシヒメハマキ	Dichrorampha okui	○		
1209				トビモンコハマキ	Diplocalyptis congruentana	○		○
1210				カンコヒメハマキ	Dudua ptarmicopa	○	○	
1211				コナミスジキヒメハマキ	Tetramoera flammeata	○		
1212				クロマダラシンムシガ	Endothenia nigricostana	○		
1213				コクロヒメハマキ	Endothenia remigera	○	○	
1214				ヨモギネムシガ	Epiblema foenella	○	○	○
1215				スギヒメハマキ	Epiblema sugii			○
1216				ムモンツチイロヒメハマキ	Epinotia bushiensis	○		
1217				ニレマダラヒメハマキ	Epinotia signatana		○	
1218				シロズスソモンヒメハマキ	Eucosma aemulana	○		○
1219				ニセモンシロスソモンヒメハマキ	Eucosma campoliliana	○	○	
1220				アザミスソモンヒメハマキ	Eucosma cana	○		
1221				ヤマモモヒメハマキ	Eudemis gyrotis		○	
1222				ツマオビセンモンホソハマキ	Eugnosta ussuriana	○		
1223				ブドウホソハマキ	Eupoecilia ambiguella	○		
1224				アカオビホソハマキ	Eupoecilia kobeana		○	○
1225				ホシオビハマキ	Geogepa stenochorda	○		
1226				トビモンハマキ	Gnorismoneura mesotoma	○		
1227				リンゴコシンクイ	Grapholita inopinata	○		
1228				ナシヒメシンクイ	Grapholita molesta	○		
1229				グミオオウスツマヒメハマキ	Hedya auricristana	○	○	
1230				カタシロムラサキヒメハマキ	Hedya iophaea	○		
1231				ツマキクロヒメハマキ	Hendecaneura cervina	○		
1232				ヒカゲヒメハマキ	Hikagehamakia albiguttata			○
1233				チャハマキ	Homona magnanima	○	○	○
1234				ツヅリモンハマキ	Homonopsis foederatana	○		
1235				アトボシハマキ	Hoshinoa longicellana	○		
1236				コシロアシヒメハマキ	Hystrichosolus spathanum	○		
1237				マメシンクイガ	Leguminivora glycinivorella	○		
1238				ホソバチビヒメハマキ	Lobesia aeolopa		○	
1239				スイカズラホソバヒメハマキ	Lobesia coccophaga	○	○	
1240				センダンヒメハマキ	Loboschiza koenigana	○		○
1241				コケキオビヒメハマキ	Celypha aurofasciana		○	
1242				ヒロバキハマキ	Lumaria minuta	○		
1243				ニセマメサヤヒメハマキ	Matsumuraeses falcana	○		
1244				ニセアズキサヤヒメハマキ	Matsumuraeses ussuriensis	○		
1245				クロテンマメサヤヒメハマキ	Matsumuraeses vicina	○		
1246				チャモンササナミキヒメハマキ	Neoanathamna cerinus	○		
1247				コホソスジハマキ	Neocalyptis angustilineata	○		
1248				フタモンコハマキ	Neocalyptis liratana	○		
1249				ウスシロモンヒメハマキ	Notocelia autolitha	○		
1250				クローバヒメハマキ	Olethreutes doubledayana		○	
1251				クリオビキヒメハマキ	Olethreutes obovata		○	
1252				コクリオビクロヒメハマキ	Olethreutes orthocosma	○	○	
1253				ウストビハマキ	Pandemis chlorograpta	○		
1254				アカトビハマキ	Pandemis cinnamomeana	○		
1255				スジトビハマキ	Pandemis dumetana	○		
1256				トビハマキ	Pandemis heparana	○		
1257				ツマベニヒメハマキ	Phaecasiophora roseana			○
1258				ツマグロコホソハマキ	Phalonidia aliena	○		
1259				セジロホソハマキ	Phtheochroa pistrinana	○	○	
1260				ヨモギオオホソハマキ	Phtheochroides clandestina	○		
1261				コホソハマキ	Gynnidomorpha vectisana	○		
1262				アカマツハナムシガ	Piniphila bifasciana	○		
1263				ヒロバクロヒメハマキ	Proschistis marmaropa		○	
1264				イチゴツツヒメハマキ	Pseudacroclita hapalaspis	○		
1265				ニセヒロバキハマキ	Minutargyrotoza calvicaput	○		
1266				オオハイジロハマキ	Pseudeulia asinana			○
1267				キカギヒメハマキ	Rhopalovalva pulchra	○		○
1268				ヤマツツジマダラヒメハマキ	Rhopobota kaempferiana	○		
1269				モチツツジマダラヒメハマキ	Rhopobota macrosepalpus	○		
1270				カドオビヒメハマキ	Rhopobota sp.	○	○	
1271				ニセマツアカヒメハマキ	Rhyacionia pinivorana		○	
1272				ヤナギササナミヒメハマキ	Saliciphaga acharis	○		
1273				オオヤナギササナミヒメハマキ	Saliciphaga caesia			○
1274				テングハマキ	Sparganothis pilleriana	○	○	
1275				ギンボシトビハマキ	Spatalistis christophana	○		
1276				カシワギンオビヒメハマキ	Strophedra nitidana	○	○	
1277				ハマキガ亜科の一種	Tortricinae gen. sp.		○	
1278				ヒメハマキガ亜科の一種	Olethreutinae gen. sp.		○	
				ハマキガ科の一種	Tortricidae gen. sp.	○	○	○
1279			イラガ	ムラサキイラガ	Austrapoda dentata	○		○
1280				ウストビイラガ	Ceratonema sericea		○	
1281				テングイラガ	Microleon longipalpis	○		○
1282				イラガ	Monema flavescens	○	○	
1283				ナシイラガ	Narosoideus flavidorsalis	○	○	
1284				ヒロズイラガ	Naryciodes posticalis	○	○	
1285				クロスジイラガ	Natada takemurai	○		○
1286				アオイラガ	Parasa consocia	○		○
1287				クロシタアオイラガ	Parasa sinica	○	○	
1288				タイワンイラガ	Phlossa conjuncta	○	○	○
1289				アカイラガ	Phrixolepia sericea	○	○	
1290			マダラガ	コガタクロマダラ	Inouela exiguitata		○	
1291				ウスバツバメガ	Elcysma westwoodii	○	○	○
1292				シロシタホタルガ	Neochalcosia remota	○		
1293				ホタルガ	Pidorus atratus	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(16)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1294			セセリチョウ	ダイミョウセセリ	Daimio tethys	○	○	○
1295				ミヤマセセリ	Erynnis montanus		○	
1296				ホソバセセリ	Isoteinon lamprospilus lamprospilus	○	○	○
1297				ヒメキマダラセセリ	Ochlodes ochraceus		○	
1298				イチモンジセセリ	Parnara guttata guttata	○	○	○
1299				ミヤマチャバネセセリ	Pelopidas jansonis		○	
1300				チャバネセセリ	Pelopidas mathias oberthueri	○	○	○
1301				オオチャバネセセリ	Polytremis pellucida pellucida	○		
1302				キマダラセセリ	Potanthus flavus flavus	○	○	○
1303				コチャバネセセリ	Thoressa varia			○
1304			マダラチョウ	アサギマダラ	Parantica sita niphonica	○	○	○
1305			テングチョウ	テングチョウ	Libythea celtis	○	○	○
1306			シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	Antigius attilia attilia	○	○	
1307				コツバメ	Callophrys ferrea	○	○	○
1308				ルリシジミ	Celastrina argiolus ladonides	○	○	○
1309				ウラギンシジミ	Curetis acuta paracuta	○	○	○
1310				ツバメシジミ	Everes argiades hellotia	○	○	○
1311				アカシジミ	Japonica lutea lutea	○	○	○
1312				ウラナミアカシジミ	Japonica saepestriata saepestriata	○	○	
1313				ウラナミシジミ	Lampides boeticus		○	○
1314				ベニシジミ	Lycaena phlaeas daimio	○	○	○
1315				ムラサキシジミ	Narathura japonica	○	○	○
1316				ヤマトシジミ本土亜種	Pseudozizeeria maha argia	○	○	○
1317				トラフシジミ	Rapala arata		○	○
1318			タテハチョウ	コムラサキ	Apatura metis substituta	○	○	○
1319				サカハチチョウ	Araschnia burejana strigosa	○	○	○
1320				ミドリヒョウモン	Argynnis paphia tsushimana	○		○
1321				ツマグロヒョウモン	Argyreus hyperbius hyperbius	○	○	○
1322				オオウラギンスジヒョウモン	Argyronome ruslana lysippe	○		
1323				ヒメアカタテハ	Cynthia cardui			○
1324				メスグロヒョウモン	Damora sagana ilone	○	○	○
1325				ゴマダラチョウ	Hestina japonica		○	○
1326				ルリタテハ本土亜種	Kaniska canace nojaponicum	○	○	○
1327				イチモンジチョウ	Ladoga camilla japonica			○
1328				アサマイチモンジ	Ladoga glorifica	○	○	
1329				ホシミスジ	Neptis pryeri pryeri	○		
1330				コミスジ	Neptis sappho intermedia	○	○	○
1331				キタテハ	Polygonia c-aureum c-aureum	○	○	○
1332				アカタテハ	Vanessa indica	○		○
1333			アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	Byasa alcinous	○	○	○
1334				アオスジアゲハ	Graphium sarpedon nipponum	○	○	○
1335				カラスアゲハ	Papilio bianor	○		○
1336				モンキアゲハ	Papilio helenus nicconicolens	○	○	○
1337				ミヤマカラスアゲハ	Papilio maackii	○	○	
1338				キアゲハ	Papilio machaon hippocrates			○
1339				ナガサキアゲハ	Papilio memnon thunbergii		○	○
1340				クロアゲハ	Papilio protenor	○	○	○
1341				ナミアゲハ	Papilio xuthus	○	○	○
1342				ホソオチョウ	Sericinus montela		○	
1343			シロチョウ	ツマキチョウ	Anthocharis scolymus	○	○	○
1344				モンキチョウ	Colias erate poliographus	○	○	○
1345				キチョウ	Eurema hecabe	○	○	○
1346				スジグロシロチョウ	Pieris melete melete	○	○	○
1347				エゾスジグロシロチョウ本州以南亜種	Pieris napi japonica			○
1348				モンシロチョウ	Pieris rapae crucivora	○	○	○
1349			ジャノメチョウ	クロヒカゲ	Lethe diana	○	○	○
1350				クロヒカゲモドキ	Lethe marginalis			○
1351				ヒカゲチョウ	Lethe sicelis	○	○	○
1352				クロコノマチョウ	Melanitis phedima oitensis	○	○	○
1353				ジャノメチョウ	Minois dryas bipunctata	○	○	○
1354				コジャノメ	Mycalesis francisca perdiccas	○	○	○
1355				ヒメジャノメ	Mycalesis gotama fulginia	○	○	○
1356				サトキマダラヒカゲ	Neope goschkevitschii	○		○
1357				オオヒカゲ	Ninguta schrenckii	○		○
1358				ヒメウラナミジャノメ	Ypthima argus	○	○	○
1359			トリバガ	ナカノホソトリバ	Fuscoptilia emarginata	○		
1360				ヨモギトリバ	Hellinsia hirosakianus	○		
1361				エゾギクトリバ	Platyptilia farfarella			○
1362				フジマメトリバ	Sphenarches anisodactylus	○		
1363				ホソトリバガ亜科の一種	Platyptilinae gen. sp.		○	
				トリバガ科の一種	Pterophoridae gen. sp.		○	○
1364			ツトガ	クロウスムラサキノメイガ	Agrotera posticalis			○
1365				キボシノメイガ	Analthes insignis	○		
1366				ハラナガキマダラノメイガ	Analthes maculalis		○	
1367				シロヒトモンノメイガ	Analthes semitritalis			○
1368				ヒメトガリノメイガ	Anania verbascalis		○	○
1369				ツトガ	Ancylolomia japonica	○	○	
1370				シロモンノメイガ	Bocchoris inspersalis	○	○	○
1371			ツトガ	アカウスグロノメイガ	Bradina angustalis pryeri	○		○
1372				モンウスグロノメイガ	Bradina geminalis	○	○	○
1373				サツマツトガ	Calamotropha okanoi	○		
1374				ヘリアカキンノメイガ	Carminibotys carminalis iwawakisana		○	○
1375				ナカオビチビツトガ	Catoptria persephone	○		
1376				ニカメイガ	Chilo suppressalis	○		
1377				テンスジツトガ	Chrysoteuchia distinctella	○		
1378				カギバノメイガ	Circobotys nycterina		○	
1379				コブノメイガ	Cnaphalocrocis medinalis	○	○	
1380				モモノゴマダラノメイガ	Conogethes punctiferalis	○		
1381				マツノゴマダラノメイガ	Conogethes pinicolalis	○		
1382				クロスカシトガリノメイガ	Cotachena alysoni		○	
1383				スカシトガリノメイガ	Cotachena pubescens		○	○
1384				シロスジツトガ	Crambus argyrophorus	○		
1385				シロアヤヒメノメイガ	Diasemia reticularis	○		
1386				シロテンノメイガ	Diathrausta brevifascialis		○	
1387				マエシロモンノメイガ	Diathraustodes amoenialis	○		
1388				エグリノメイガ	Diplopseustis perieresalis	○		○
1389				ソトキマダラミズメイガ	Elophila nigralbalis	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(17)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1390			ツトガ	ヒメマダラミズメイガ	Elophila turbata	○		
1391				スジボソヤマメイガ	Eudonia microdontalis	○	○	
1392				アヤナミノメイガ	Eurrhyparodes accessalis	○	○	○
1393				ナニセノメイガ	Evergestis forficalis	○		
1394				ヘリジロカラスニセノメイガ	Evergestis holophaealis	○		
1395				クロスジツトガ	Flavocrambus striatellus	○		
1396				シロエグリツトガ	Glaucocharis exsectella	○	○	○
1397				ミヤマエグリツトガ	Glaucocharis vermeeri	○	○	
1398				クワノメイガ	Glyphodes pyloalis	○		
1399				ヨツボシノメイガ	Talanga quadrimaculalis	○		
1400				クロズノメイガ	Goniorhynchus exemplaris	○		
1401				ウスオビクロノメイガ	Herpetogramma fuscescens	○	○	
1402				クロオビクロノメイガ	Herpetogramma licarsisalis	○		○
1403				モンキクロノメイガ	Herpetogramma luctuosalis zelleri	○	○	○
1404				コキモンウスグロノメイガ	Herpetogramma pseudomagna	○	○	
1405				マエキノメイガ	Herpetogramma rudis			○
1406				ケナガチビクロノメイガ	Herpetogramma stultalis	○	○	
1407				ミツテンノメイガ	Mabra charonialis	○	○	○
1408				マメノメイガ	Maruca vitrata	○	○	○
1409				ハイイロホソバノメイガ	Dolicharthria bruguieralis	○		
1410				キンバネヤマメイガ	Micraglossa aureata	○		
1411				チビツトガ	Microchilo inouei	○	○	
1412				ウスオビキノメイガ	Microstega jessica		○	
1413				エグリミズメイガ	Musotima dryopterisivora			○
1414				スジマガリノメイガ	Mutuuraia terrealis	○		
1415				シロテンキノメイガ	Nacoleia commixta	○	○	○
1416				サツマキノメイガ	Nacoleia satsumalis	○	○	○
1417				ネモンノメイガ	Nacoleia tampiusalis		○	○
1418				ホシオビホソノメイガ	Nomis albopedalis		○	
1419				アトモンミズメイガ	Nymphicula saigusai	○		○
1420				マエウスキノメイガ	Omiodes indicatus			○
1421				クロミスジノメイガ	Omiodes similis		○	
1422				シロアシクロノメイガ	Omiodes tristrialis		○	
1423				アワノメイガ	Ostrinia furnacalis	○		○
1424				ヨスジノメイガ	Pagyda quadrilineata	○	○	
1425				ヒメシロノメイガ	Palpita inusitata	○	○	
1426				マエアカスカシノメイガ	Palpita nigropunctalis	○	○	○
1427				シバツトガ	Parapediasia teterrella	○	○	○
1428				ゼニガサミズメイガ	Paracymoriza prodigalis	○	○	○
1429				モンキノメイガ	Pelena sericea	○	○	
1430				クビシロノメイガ	Piletocera aegimiusalis	○	○	○
1431				コガタシロモンノメイガ	Piletocera sodalis		○	○
1432				クロスジキンノメイガ	Pleuroptya balteata	○	○	○
1433				ホソミスジノメイガ	Pleuroptya chlorophanta		○	
1434				コヨツメノメイガ	Pleuroptya inferior		○	
1435				ウスイロキンノメイガ	Pleuroptya punctimarginalis		○	
1436				ヨツメノメイガ	Pleuroptya quadrimaculalis	○		
1437				ウコンノメイガ	Pleuroptya ruralis	○		
1438				ミカエリソウノメイガ	Pronomis delicatalis	○	○	○
1439				ホソスジツトガ	Pseudargyria interruptella			○
1440				モンスカシキノメイガ	Pseudebulea fentoni	○	○	
1441				マエキツトガ	Pseudocatharylla simplex	○		
1442				クロオビノメイガ	Pycnarmon pantherata			○
1443				トモンノメイガ	Pyrausta limbata	○		
1444				カクモンノメイガ	Rehimena surusalis		○	
1445				ナカキノメイガ	Sameodes aptalis usitatus	○		
1446				ニセムモンシロオオメイガ	Scirpophaga xanthopygata	○		
1447				キササゲノメイガ	Sinomphisa plagialis			○
1448				シロオビノメイガ	Spoladea recurvalis	○	○	○
1449				クロヘリノメイガ	Syllepte fuscomarginalis		○	
1450				ホソオビツチイロノメイガ	Syllepte pallidinotalis	○		○
1451				クロスジノメイガ	Tyspanodes striata	○		
1452				クロモンキノメイガ	Udea testacea			○
1453				オオモンシロルリノメイガ	Uresiphita dissipatalis		○	○
1454				モンシロルリノメイガ	Uresiphita tricolor	○	○	○
1455				ツトガ亜科の一種	Crambinae gen. sp.		○	
1456				ノメイガ亜科の一種	Phraustinae gen. sp.	○		
1457			メイガ	ウスグロツヅリガ	Achroia innotata	○		
1458				コメシマメイガ	Aglossa dimidiata		○	
1459				フタテンツヅリガ	Aphomia sapozhnikovi	○	○	
1460				オオツヅリガ	Melissoblaptes zelleri	○	○	○
1461				マルバスジマダラメイガ	Apomyelois striatella	○		
1462				チビマエジロホソマダラメイガ	Assara hoeneella	○		
1463				フタシロテンホソマダラメイガ	Assara korbi			○
1464				ウスアカムラサキマダラメイガ	Calguia defigualis	○	○	○
1465				ウスアカネマダラメイガ	Ceroprepes patriciella	○		
1466				ナシモンクロマダラメイガ	Conobathra bellulella		○	
1467				ウスアカマダラメイガ	Acrobasis encaustella	○	○	
1468				オオアカオビマダラメイガ	Acrobasis frankella	○		
1469				カラマツマダラメイガ	Cryptoblabes loxiella	○		
1470				オオマエジロホソメイガ	Emmalocera gensanalis		○	○
1471				マエジロホソメイガ	Emmalocera venosella	○		
1472				ウスオビトガリメイガ	Endotricha consocia		○	
1473				キモントガリメイガ	Endotricha kuznetzovi	○		
1474				キベリトガリメイガ	Endotricha minialis		○	○
1475				ウスベニトガリメイガ	Endotricha olivacealis	○	○	○
1476				チャマダラメイガ	Ephestia elutella	○		
1477				スジコナマダラメイガ	Ephestia kuehniella		○	
1478				ハスジフトメイガ	Epilepia dentata			○
1479				ナシハマキマダラメイガ	Etiella loides sejunctellus	○	○	○
1480				フタモンマダラメイガ	Euzophera batangensis	○		○
1481				シロマダラメイガ	Euzopherodes oberleae		○	
1482				アカシマメイガ	Herculia pelasgalis		○	○
1483				マツムラマダラメイガ	Homoeosoma matsumurellum	○	○	
1484				ウスモンマルバシマメイガ	Hypsopygia kawabei	○		
1485				モモイロシマメイガ	Hypsopygia mauritialis	○		
1486				トビイロシマメイガ	Hypsopygia regina	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(18)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1487			メイガ	ヒトホシホソメイガ	Hypsotropa solipunctella	○		
1488				クスノチビマダラメイガ	Indomalayia flabellifera	○		
1489				アカフツヅリガ	Lamoria glaucalis	○		
1490				キイフトメイガ	Lepidogma kiiensis	○		○
1491				ナカムラサキフトメイガ	Lista ficki			○
1492				シロスジクロマダラメイガ	Metriostola infausta	○		
1493				ナカアカスジマダラメイガ	Nephopterix bicolorella	○		
1494				ヤマトマダラメイガ	Nephopterix intercisella			○
1495				サンカクマダラメイガ	Nyctegretis triangulella	○	○	
1496				アカマダラメイガ	Oncocera semirubella	○	○	○
1497				ナカトビフトメイガ	Orthaga achatina			○
1498				クロモンフトメイガ	Orthaga euadrusalis			○
1499				アオフトメイガ	Orthaga olivacea			○
1500				フタスジシマメイガ	Orthopygia glaucinalis	○		○
1501				ツマキシマメイガ	Orthopygia placens			○
1502				キンボシシマメイガ	Orybina regalis	○	○	
1503				ツヅリガ	Paralipsa gularis	○		
1504				トビスジマダラメイガ	Patagoniodes nipponellus	○	○	
1505				ヒトテンクロマダラメイガ	Pempelia maculata	○		
1506				マエジロホソマダラメイガ	Phycitodes subcretacellus	○	○	○
1507				ナカキチビマダラメイガ	Pseudocadra cuprotaeniella	○	○	
1508				モモノハマキマダラメイガ	Psorosa taishanella	○		
1509				アカグロマダラメイガ	Pyla manifestella	○		
1510				ギンモンシマメイガ	Pyralis regalis	○		
1511				ニイシマホソメイガ	Rhinaphe neesimella	○		
1512				オオフトメイガ	Salma amica			○
1513				トビマダラメイガ	Samaria ardentella	○		
1514				ハラウスキマダラメイガ	Sandrabatis crassiella	○		
1515				トビイロフタスジシマメイガ	Stemmatophora valida	○	○	○
1516				マエモンシマメイガ	Tegulifera bicoloralis	○	○	○
1517				ナカアオフトメイガ	Teliphasa elegans			○
1518				ソトベニフトメイガ	Termioptycha inimica		○	
1519				クロフトメイガ	Termioptycha nigrescens			○
1520				キイロツヅリガ	Tirathaba irrufatella		○	
1521				コフタグロマダラメイガ	Trachycera pseudodichromella	○		
1522				ミドリフトメイガ	Trichotophysa jucundalis			○
1523				ツヅリガ亜科の一種	Galleriinae gen. sp.		○	
1524				フトメイガ亜科の一種	Epipaschiinae gen. sp.	○		
1525				シマメイガ亜科の一種	Pyralinae gen. sp.	○		
1526				マダラメイガ亜科の一種	Phycitinae gen. sp.	○	○	
				メイガ科の一種	Pyralidae gen. sp.	○	○	○
1527			マドガ	スギタニマドガ	Rhodoneura sugitanii		○	
1528				マダラマドガ	Rhodoneura vittula	○		
1529				アカジママドガ	Striglina cancellata	○	○	○
1530				アミメマドガ	Striglina suzukii			○
1531				マドガ	Thyris usitata	○		○
1532			カギバガ	マエキカギバ	Agnidra scabiosa scabiosa		○	○
1533				ヒトツメカギバ	Auzata superba	○		
1534				ギンモンカギバ	Callidrepana patrana		○	
1535				フタテンシロカギバ	Ditrigona virgo	○	○	○
1536				オビカギバ	Drepana curvatula		○	
1537				スカシカギバ	Macrauzata maxima		○	
1538				ウスギヌカギバ	Macrocilix mysticata watsoni	○	○	○
1539				ヤマトカギバ	Nordstromia japonica	○	○	○
1540				アシベニカギバ	Oreta pulchripes	○	○	○
1541				クロスジカギバ	Oreta turpis	○		
1542				ヒメハイイロカギバ	Pseudalbara parvula		○	
1543				ウコンカギバ	Tridrepana crocea	○		○
1544			トガリバガ	オオアヤトガリバ	Habrosyne fraterna japonica	○		○
1545				ホソトガリバ	Tethea octogesima			○
1546				モントガリバ	Thyatira batis japonica		○	
1547			アゲハモドキガ	アゲハモドキ	Epicopeia hainesii hainesii	○		○
1548				キンモンガ	Psychostrophia melanargia	○	○	○
1549			フタオガ	クロホシフタオ	Dysaethria moza			○
1550			シャクガ	スグリシロエダシャク	Abraxas grossulariata conspurata		○	
1551				ヒトスジマダラエダシャク	Abraxas latifasciata	○		
1552				ユウマダラエダシャク	Abraxas miranda miranda	○		
1553				ヒメマダラエダシャク	Abraxas niphonibia			○
1554				コガタイチモジエダシャク	Agaraeus parvus distans	○		
1555				チズモンアオシャク	Agathia carissima			○
1556				アシブトチズモンアオシャク	Agathia visenda curvifiniens	○	○	
1557				ナカウスエダシャク	Alcis angulifera	○		○
1558				マルバトビスジエダシャク	Anaboarmia aechmeessa		○	
1559				ゴマダラシロエダシャク	Antipercnia albinigrata		○	○
1560				クロクモエダシャク	Apocleora rimosa	○		○
1561				ヒョウモンエダシャク	Arichanna gaschkevitchii gaschkevitchii	○	○	○
1562				キシタエダシャク	Arichanna melanaria fraterna	○	○	
1563				ヨモギエダシャク	Ascotis selenaria cretacea	○		○
1564				キマダラシロナミシャク	Asthena octomacularia		○	
1565				オオヨスジアカエダシャク	Astygisa chlororphnodes		○	○
1566				キエダシャク	Auaxa sulphurea	○		
1567				コスジシロエダシャク	Cabera purus	○		
1568				ヤマトエダシャク	Peratostega deletaria	○		○
1569				ギンスジエダシャク	Chariaspilates formosaria	○		
1570				ホソバハラアカアオシャク	Chlorissa anadema	○		
1571				ウスハラアカアオシャク	Chlorissa inornata		○	
1572				コウスアオシャク	Chlorissa obliterata	○		
1573				ソトシロオビナミシャク	Chloroclystis excisa	○		
1574				マダラアオナミシャク	Chloroclystis hypopyrrha	○		
1575				クロスジアオナミシャク	Chloroclystis v-ata		○	○
1576				ヒメシロフアオシャク	Eucyclodes infracta			○
1577				フトスジエダシャク	Cleora repulsaria		○	
1578				ヘリジロヨツメアオシャク	Comibaena amoenaria			○
1579				ギンスジアオシャク	Comibaena argentataria	○	○	
1580				ヨツモンマエジロアオシャク	Comibaena procumbaria	○		○
1581				アカホシヒメアオシャク	Comostola rubripunctata	○		
1582				コヨツメアオシャク	Comostola subtiliaria nympha	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(19)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1583			シャクガ	ウコンエダシャク	Corymica pryeri	○		
1584				ツマキエダシャク	Crypsicometa incertaria	○	○	○
1585				セブトエダシャク	Cusiala stipitaria stipitaria	○		
1586				マツオオエダシャク	Deileptenia ribeata	○	○	
1587				ハスオビエダシャク	Descoreba simplex	○	○	
1588				クロフシロエダシャク	Dilophodes elegans	○	○	○
1589				ウスアオシャク	Dindica virescens	○	○	○
1590				ナミスジコアオシャク	Idiochlora ussuriaria	○		
1591				ヒロオビエダシャク	Duliophyle agitata	○		
1592				オオハガタナミシャク	Ecliptopera umbrosaria	○	○	○
1593				シロズエダシャク	Ecpetelia albifrontaria		○	
1594				アカエダシャク	Ectephrina semilutea pruinosaria	○		
1595				ウストビスジエダシャク	Ectropis aigneri	○		
1596				フトフタオビエダシャク	Ectropis crepuscularia	○	○	○
1597				オオトビスジエダシャク	Ectropis excellens	○	○	○
1598				ウスジロエダシャク	Ectropis obliqua	○		
1599				チャマダラエダシャク	Amblychia insueta	○		
1600				ツマキリエダシャク	Endropiodes abjictus	○	○	○
1601				モミジツマキリエダシャク	Endropiodes indictinaria	○	○	
1602				ヘリスジナミシャク	Eschatarchia lineata		○	
1603				ウスオビヒメエダシャク	Euchristophia cumulata			○
1604				ウストビモンナミシャク	Eulithis ledereri inurbana			○
1605				ハコベナミシャク	Euphyia cineraria	○	○	
1606				クロテンカバナミシャク	Eupithecia emanata			○
1607				クロテンヤスジカバナミシャク	Eupithecia interpunctaria	○		○
1608				フタモンカバナミシャク	Eupithecia repentina		○	
1609				ナカオビカバナミシャク	Eupithecia subbreviata	○		
1610				ハラキカバナミシャク	Eupithecia tabidaria		○	
				Eupithecia属の一種	Eupithecia sp.			○
1611				ミヤマアミメナミシャク	Eustroma aerosum	○	○	
1612				ハガタナミシャク	Eustroma melancholicum		○	
1613				セスジナミシャク	Evecliptopera illitata	○	○	○
1614				エグリエダシャク	Fascellina chromataria	○	○	○
1615				キマダラオオナミシャク	Gandaritis fixseni	○	○	○
1616				キバラエダシャク	Garaeus specular mactans			○
1617				ツバメアオシャク	Maxates ambigua		○	
1618				ヒロバツバメアオシャク	Maxates illiturata	○		
1619				ヒメツバメアオシャク	Maxates protrusa	○	○	
1620				カギシロスジアオシャク	Geometra dieckmanni			○
1621				フタテンオエダシャク	Chiasmia defixaria		○	○
1622				ウスオエダシャク	Chiasmia hebesata		○	
1623				シャンハイオエダシャク	Macaria shanghaisaria			○
1624				ウスキオエダシャク	Oxymacaria normata	○		○
1625				ヘリクロテンアオシャク	Hemistola dijuncta	○		
1626				コシロスジアオシャク	Hemistola veneta	○	○	
1627				ナミガタエダシャク	Heterarmia charon			○
1628				ウラベニエダシャク	Heterolocha aristonaria	○	○	○
1629				サザナミオビエダシャク	Heterostegane hyriaria		○	○
1630				シロシタトビイロナミシャク	Heterothera postalbida			○
1631				クロスジハイイロエダシャク	Hirasa paupera	○		
1632				ウラキトガリエダシャク	Hypephyra terrosa pryeraria	○	○	○
1633				ナカシロオビエダシャク	Hypomecis definita	○	○	
1634				オオバナミガタエダシャク	Hypomecis lunifera	○	○	
1635				ウスバミスジエダシャク	Hypomecis punctinalis conferenda			○
1636				ハミスジエダシャク	Hypomecis roboraria displicens	○	○	
1637				ヨスジキヒメシャク	Idaea auricruda		○	○
1638				ウスキヒメシャク	Idaea biselata	○		
1639				ウスモンキヒメシャク	Idaea denudaria	○		
1640				モンウスキヒメシャク	Idaea effusaria		○	
1641				オオウスモンキヒメシャク	Idaea imbecilla	○		○
1642				キオビベニヒメシャク	Idaea impexa	○		○
1643				ベニヒメシャク	Idaea muricata	○		
1644				チビキヒメシャク	Idaea neovalida	○	○	
1645				キヒメシャク	Idaea nudaria infuscaris	○		
1646				ホソスジキヒメシャク	Idaea remissa		○	
1647				サクライキヒメシャク	Idaea sakuraii	○		
1648				ウスクロテンヒメシャク	Idaea salutaria	○		
1649				ミジンキヒメシャク	Idaea trisetata	○	○	
1650				モンキキナミシャク	Idiotephria amelia	○	○	
1651				ナカモンキナミシャク	Idiotephria evanescens	○		
1652				チャノウンモンエダシャク	Jankowskia fuscaria fuscaria	○		
1653				コガタヒメアオシャク	Jodis angulata	○		
1654				ウスミズアオシャク	Jodis argutaria		○	
1655				オオナミガタアオシャク	Jodis dentifascia	○		
1656				マルモンヒメアオシャク	Jodis praerupta	○		
1657				スカシエダシャク	Krananda semihyalina	○	○	○
1658				セグロナミシャク	Laciniodes unistirpis	○		○
1659				フタオビシロエダシャク	Lamprocabera candidaria		○	
1660				アトクロナミシャク	Lampropteryx minna	○		
1661				フタホシシロエダシャク	Lomographa bimaculata subnotata	○	○	○
1662				オオフタスジシロエダシャク	Lomographa claripennis			○
1663				クロズウスキエダシャク	Lomographa simplicior	○		
1664				ウスフタスジシロエダシャク	Lomographa subspersata			○
1665				バラシロエダシャク	Lomographa temerata			○
1666				ナカジロナミシャク	Melanthia procellata inquinata	○		
1667				ウスクモエダシャク	Menophra senilis	○	○	○
1668				フタモンクロナミシャク	Microcalcarifera obscura	○	○	○
1669				シタクモエダシャク	Microcalicha sordida	○	○	○
1670				シロホソスジナミシャク	Microlygris multistriata clasis	○	○	
1671				ヒメカギバアオシャク	Mixochlora vittata prasina		○	
1672				チビムジアオシャク	Mujiaoshakua plana	○		
1673				クロミスジシロエダシャク	Myrteta angelica			○
1674				ナミスジシロエダシャク	Orthocabera tinagmaria tinagmaria		○	○
1675				キマエアオシャク	Neohipparchus vallata			○
1676				シロオビコバネナミシャク	Neopachrophilla albida		○	
1677				ウチムラサキヒメエダシャク	Ninodes splendens	○	○	○
1678				マエキトビエダシャク	Nothomiza formosa	○	○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(20)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1679			シャクガ	エグリヅマエダシャク	Odontopera arida arida	○	○	○
1680				コヨツメエダシャク	Ophthalmitis irorataria	○	○	○
1681				シロモンウスチャヒメシャク	Organopoda carnearia		○	
1682				シロツバメエダシャク	Ourapteryx maculicaudaria	○	○	
1683				ウスキツバメエダシャク	Ourapteryx nivea	○	○	○
1684				ヒロバウスアオエダシャク	Paradarisa chloauges kurosawai			○
1685				シナトビスジエダシャク	Paradarisa consonaria			○
1686				オオゴマダラエダシャク	Parapercnis giraffata			○
1687				ツマキリウスキエダシャク	Pareclipsis gracilis	○	○	○
1688				ウラモンアカエダシャク	Parepione grata			○
1689				クロフヒメエダシャク	Peratophyga hyalinata grata		○	
1690				ネグロウスベニナミシャク	Photoscotosia atrostrigata			○
1691				リンゴツノエダシャク	Phthonosema tendinosaria	○		○
1692				ナカキエダシャク	Plagodis dolabraria			○
1693				コナフキエダシャク	Plagodis pulveraria japonica			○
1694				マエキオエダシャク	Plesiomorpha flaviceps	○	○	○
1695				モンオビオエダシャク	Plesiomorpha punctilinearia		○	
1696				クロフオオシロエダシャク	Pogonopygia nigralbata	○		○
1697				クロスジオオシロヒメシャク	Problepsis diazoma		○	
1698				ニセオレクギエダシャク	Protoboarmia faustinata	○		
1699				オレクギエダシャク	Protoboarmia simpliciaria		○	○
1700				クロテントビイロナミシャク	Pseudocollix kawamurai	○		
1701				フタナミトビヒメシャク	Pylargosceles steganioides	○	○	○
1702				ホシミスジエダシャク	Racotis boarmiaria japonica	○	○	○
1703				ナミスジエダシャク	Racotis petrosa			○
1704				フタヤマエダシャク	Rikiosatoa grisea	○		
1705				フタマエホシエダシャク	Achrosis paupera			○
1706				クロテンシロヒメシャク	Scopula apicipunctata	○		
1707				キスジシロヒメシャク	Scopula asthena	○		
1708				ミスジハイイロヒメシャク	Scopula cineraria	○		
1709				ウスキトガリヒメシャク	Scopula confusa	○		
1710				ギンバネヒメシャク	Scopula epiorrhoe	○		○
1711				ヤスジマルバヒメシャク	Scopula floslactata claudata	○	○	
1712				ウスキクロテンヒメシャク	Scopula ignobilis	○		○
1713				ハイイロヒメシャク	Scopula impersonata macescens			○
1714				サツマヒメシャク	Scopula insolata satsumaria	○		
1715				チビシロヒメシャク	Scopula kawabei	○		
1716				モントビヒメシャク	Scopula modicaria	○		
1717				マエキヒメシャク	Scopula nigropunctata imbella	○		○
1718				ナミスジチビヒメシャク	Scopula personata	○	○	
1719				ナガサキヒメシャク	Scopula plumbearia	○		
1720				ウスサカハチヒメシャク	Scopula semignobilis	○		
1721				キナミシロヒメシャク	Scopula superior	○	○	
1722				ビロードナミシャク	Sibatania mactata		○	
1723				ウンモンオオシロヒメシャク	Somatina indicataria morata	○	○	
1724				ハグルマエダシャク	Synegia hadassa hadassa	○	○	○
1725				スジハグルマエダシャク	Synegia limitatoides		○	○
1726				キマダラツバメエダシャク	Thinopteryx crocoptera striolata		○	○
1727				フトベニスジヒメシャク	Timandra apicirosea	○	○	
1728				コベニスジヒメシャク	Timandra comptaria	○		
1729				ウスベニスジヒメシャク	Timandra dichela	○	○	
1730				ハネナガコバネナミシャク	Trichopteryx polycommata anna		○	
1731				ホソバナミシャク	Tyloptera bella bella	○		
1732				シロスジオオエダシャク	Xandrames latiferaria latiferaria		○	
1733				フタトビスジナミシャク	Xanthorhoe hortensiaria	○	○	
1734				ツマグロナミシャク	Xanthorhoe muscicapata		○	
1735				ヨスジナミシャク	Xanthorhoe quadrifasciata ignobilis	○		
1736				フトジマナミシャク	Xanthorhoe saturata	○		
1737				モンシロツマキリエダシャク	Xerodes albonotarius nesiotis	○	○	○
1738				ミスジツマキリエダシャク	Xerodes rufescentaria	○	○	○
1739				アオシャク亜科の一種	Geometrinae gen. sp.		○	
1740				ヒメシャク亜科の一種	Sterrhinae gen. sp.	○		
				シャクガ科の一種	Geometridae gen. sp.	○	○	○
1741			ツバメガ	ギンツバメ	Acropteris iphiata	○	○	○
1742			イカリモンガ	イカリモンガ	Pterodecta felderi	○	○	○
1743			カイコガ	クワコ	Bombyx mandarina			○
1744			オビガ	オビガ	Apha aequalis	○	○	○
1745			カレハガ	タケカレハ	Euthrix albomaculata	○		○
1746				ヨシカレハ	Euthrix potatoria	○		
1747				カレハガ	Gastropacha orientalis			○
1748				クヌギカレハ	Kunugia undans			○
1749			ヤママユガ	オオミズアオ	Actias artemis		○	○
1750				エゾヨツメ	Aglia japonica microtau	○	○	
1751				ヤママユ	Antheraea yamamai yamamai	○		
1752				ウスタビガ	Rhodinia fugax fugax			○
1753				シンジュサン	Samia pryeri			○
1754			スズメガ	ハネナガブドウスズメ	Acosmeryx naga			○
1755				アジアホソバスズメ	Ambulyx sericeipennis tobii			○
1756				ホシヒメホウジャク	Neogurelca himachala	○	○	○
1757				ウンモンスズメ	Callambulyx tatarinovii gabyae	○	○	
1758				トビイロスズメ	Clanis bilineata tsingtauica	○		○
1759				ヒメクロホウジャク	Macroglossum bombylans	○		
1760				ホシホウジャク	Macroglossum pyrrhosticta	○	○	○
1761				モモスズメ	Marumba gaschkewitschii echephron	○	○	○
1762				クチバスズメ	Marumba sperchius	○		○
1763			シャチホコガ	セグロシャチホコ	Clostera anastomosis	○		
1764				ホソバネグロシャチホコ	Disparia variegata sordida			○
1765				コトビモンシャチホコ	Drymonia japonica		○	○
1766				ホソバシャチホコ	Fentonia ocypete	○	○	○
1767				ツマジロシャチホコ	Hexafrenum leucodera	○		
1768				タカオシャチホコ	Hiradonta takaonis		○	○
1769				プライヤエグリシャチホコ	Lophontosia pryeri	○		
1770				クロシタシャチホコ	Mesophalera sigmata	○	○	
1771				ナカスジシャチホコ	Nerice bipartita		○	
1772				シノノメシャチホコ	Peridea elzet		○	
1773				ナカキシャチホコ	Peridea gigantea	○		
1774				モンクロシャチホコ	Phalera flavescens	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(21)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1775			シャチホコガ	スズキシャチホコ	Pheosiopsis cinerea	○		
1776				ウグイスシャチホコ	Pheosiopsis olivacea	○		
1777				オオエグリシャチホコ	Pterostoma gigantina	○	○	○
1778				スジエグリシャチホコ	Ptilodon hoegei		○	
1779				クロエグリシャチホコ	Ptilodon okanoi	○	○	
1780				セダカシャチホコ	Rabtala cristata			○
1781				クビワシャチホコ	Shaka atrovittatus	○	○	
1782				シャチホコガ	Stauropus fagi persimilis	○	○	
1783				オオアオシャチホコ	Syntypistis cyanea cyanea	○	○	
1784				アオシャチホコ	Syntypistis japonica	○	○	○
1785				アオバシャチホコ	Zeranga permagna		○	
				シャチホコガ科の一種	Notodontidae gen. sp.		○	
1786			ヒトリガ	カノコガ	Amata fortunei	○		
1787				ハガタベニコケガ	Barsine aberrans aberrans	○		
1788				スジベニコケガ	Barsine striata striata	○		○
1789				マエグロホソバ	Conilepia nigricosta	○	○	○
1790				アカスジシロコケガ	Cyana hamata hamata	○		○
1791				キベリチビコケガ	Diduga flavicostata	○		
1792				キシタホソバ	Eilema vetusta aegrota	○	○	○
1793				ヒメキホソバ	Eilema cribrata		○	○
1794				ムジホソバ	Eilema deplana pavescens	○		
1795				ヤネホソバ	Eilema fuscodorsalis	○		
1796				キマエホソバ	Eilema japonica japonica	○	○	○
1797				ニセキマエホソバ	Eilema nankingica			○
1798				クロテンハイイロコケガ	Eugoa grisea	○	○	
1799				ヨツボシホソバ	Lithosia quadra	○	○	
1800				ウスクロスジチビコケガ	Stictane obscura	○		
1801				オオベニヘリコケガ	Melanaema venata venata	○		○
1802				ハガタキコケガ	Miltochrista calamina	○		
1803				ベニヘリコケガ	Miltochrista miniata	○		○
1804				スカシコケガ	Nudaria ranruna			○
1805				ホシオビコケガ	Aemene altaica	○		○
1806				チャオビチビコケガ	Philenora latifasciata	○		○
1807				ホシベニシタヒトリ	Rhyparioides amurensis nipponensis			○
1808				ウスバフタホシコケガ	Nudaria bipuncta	○		
1809				ウスグロコケガ	Siccia obscura	○		
1810				フトスジモンヒトリ	Spilarctia obliquizonata		○	○
1811				キハラゴマダラヒトリ	Spilosoma lubricipeda	○		
1812				アカハラゴマダラヒトリ	Spilosoma punctaria			○
1813				クロスジチビコケガ	Stictane rectilinea	○		○
1814				ゴマダラキコケガ	Stigmatophora leacrita		○	
1815				モンクロベニコケガ	Stigmatophora rhodophila	○		
1816			ドクガ	スカシドクガ	Arctornis kumatai	○		
1817				スギドクガ	Calliteara argentata		○	○
1818				アカヒゲドクガ	Calliteara lunulata			○
1819				ゴマフリドクガ	Somena pulverea	○	○	○
1820				ドクガ	Artaxa subflava			○
1821				ブドウドクガ	Ilema eurydice	○		
1822				マイマイガ	Lymantria dispar japonica		○	
1823				カシワマイマイ	Lymantria mathura aurosa		○	○
1824				ヒメシロモンドクガ	Orgyia thyellina	○		○
1825				ウチジロマイマイ	Parocneria furva	○		
1826				ニワトコドクガ	Topomesoides jonasii	○		
				ドクガ科の一種	Lymantriidae gen. sp.		○	
1827			ヤガ	オオマダラウワバ	Abrostola major	○		
1828				イラクサマダラウワバ	Abrostola triplasia	○		
1829				フタイロコヤガ	Acontia bicolora	○	○	○
1830				フジロアツバ	Adrapsa notigera	○		○
1831				シラナミクロアツバ	Adrapsa simplex	○	○	
1832				アケビコノハ	Adris tyrannus		○	
1833				ナカジロシタバ	Aedia leucomelas			○
1834				タマナヤガ	Agrotis ipsilon		○	
1835				カブラヤガ	Agrotis segetum	○		○
1836				オオウスヅマカラスヨトウ	Amphipyra erebina			○
1837				カラスヨトウ	Amphipyra livida corvina	○		○
1838				オオシマカラスヨトウ	Amphipyra monolitha surnia	○	○	○
1839				シマカラスヨトウ	Amphipyra pyramidea	○	○	
1840				サビイロコヤガ	Amyna stellata	○		
1841				クロテンカバアツバ	Anachrostis nigripunctalis	○		
1842				カバマダラヨトウ	Anapamea cuneatoides	○		○
1843				オオアカキリバ	Anomis commoda	○		
1844				ヒメナミグルマアツバ	Antatha misae	○		
1845				チャイロカドモンヨトウ	Apamea sodalis		○	
1846				マダラホソコヤガ	Araeopteron fragmenta	○		
1847				フクラスズメ	Arcte coerula	○	○	○
1848				ギンボシリンガ	Ariolica argentea			○
1849				エチゴハガタヨトウ	Asidemia inexpecta inexpecta	○		
1850				シロテンウスグロヨトウ	Athetis albisignata			○
1851				クロテンヨトウ	Athetis cinerascens			○
1852				テンウスイロヨトウ	Athetis dissimilis	○	○	
1853				ヒメウスグロヨトウ	Athetis lapidea			○
1854				シロモンオビヨトウ	Athetis lineosa	○	○	
1855				ヒメサビスジヨトウ	Athetis stellata	○		○
1856				クロハナコヤガ	Aventiola pusilla	○		○
1857				オオトウウスグロクチバ	Avitta fasciosa			○
1858				モクメヨトウ	Axylia putris	○		
1859				シロスジアツバ	Bertula spacoalis	○	○	○
1860				コウンモンクチバ	Blasticorhinus ussuriensis	○	○	○
1861				ホシムラサキアツバ	Bomolocha nigrobasalis	○	○	
1862				ウスヅマアツバ	Bomolocha perspicua			○
1863				ヤマガタアツバ	Bomolocha stygiana	○	○	○
1864				シラクモアツバ	Bomolocha zilla		○	
1865				イチモジキノコヨトウ	Bryophila granitalis	○		○
1866				ウスアオモンコヤガ	Bryophilina mollicula	○		○
1867				ヒメツマキリヨトウ	Callopistria duplicans		○	
1868				キスジツマキリヨトウ	Callopistria japonibia		○	
1869				マダラツマキリヨトウ	Callopistria repleta			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(22)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1870			ヤガ	オオエグリバ	Calyptra gruesa	○	○	○
1871				キタエグリバ	Calyptra hokkaida	○		
1872				ハイイロコヤガ	Mataeomera obliquisigna	○		
1873				オニベニシタバ	Catocala dula			○
1874				アミメキシタバ	Catocala hyperconnexa		○	
1875				キシタバ	Catocala patala			○
1876				コガタキシタバ	Catocala praegnax esther		○	
1877				ネスジキノカワガ	Characoma ruficirra			○
1878				イチジクキンウワバ	Chrysodeixis eriosoma			○
1879				ハナオイアツバ	Cidariplura galadiata	○		○
1880				ミドリリンガ	Clethrophora distincta	○		
1881				オオホシミミヨトウ	Condica illecta			○
1882				テンスジキリガ	Conistra fletcheri	○		
1883				ミヤマオビキリガ	Conistra grisescens	○	○	
1884				カバイロシマコヤガ	Corgatha argillacea	○	○	○
1885				フタスジシマコヤガ	Corgatha marumoi	○		
1886				シマフコヤガ	Corgatha nitens	○		○
1887				ツマベニシマコヤガ	Corgatha obsoleta	○		
1888				ベニシマコヤガ	Corgatha pygmaea			○
1889				オオトウアツバ	Panilla petrina	○		
1890				シマキリガ	Cosmia achatina	○		
1891				ニレキリガ	Cosmia affinis	○		○
1892				ミヤマキリガ	Cosmia unicolor	○		
1893				キノコヨトウ	Cryphia mitsuhashi	○		○
1894				エゾギクキンウワバ	Ctenoplusia albostriata	○	○	
1895				ハガタクチバ	Daddala lucilla		○	○
1896				リョクモンオオキンウワバ	Diachrysia coreae	○		
1897				オオバコヤガ	Diarsia canescens	○		○
1898				コウスチャヤガ	Diarsia deparca	○		○
1899				アカフヤガ	Diarsia pacifica	○		○
1900				ウスイロアカフヤガ	Diarsia ruficauda	○		○
1901				ウスヅマクチバ	Dinumma deponens		○	
1902				ムラサキアツバ	Diomea cremata	○		
1903				クロモクメヨトウ	Dypterygia caliginosa	○	○	
1904				モンオビヒメヨトウ	Dysmilichia gemella	○		
1905				アカマエアオリンガ	Earias pudicana			○
1906				ベニモンアオリンガ	Earias roseifera		○	
1907				オオシラホシアツバ	Edessena hamada	○	○	
1908				ケンモンキリガ	Egira saxea		○	○
1909				キスジコヤガ	Enispa lutefascialis	○		
1910				モンシロムラサキクチバ	Ercheia niveostrigata	○		○
1911				モンムラサキクチバ	Ercheia umbrosa	○	○	○
1912				オオトモエ	Erebus ephesperis			○
1913				アカテンクチバ	Erygia apicalis		○	
1914				セアカキンウワバ	Erythroplusia pyropia			○
1915				ギンスジキンウワバ	Erythroplusia rutilifrons		○	
1916				ウスミミモンキリガ	Eupsilia contractra	○		
1917				フサヤガ	Eutelia geyeri		○	○
1918				ムギヤガ	Euxoa karschi	○		
1919				ウスグロヤガ	Euxoa sibirica	○		
1920				フタスジエグリアツバ	Gonepatica opalina			○
1921				プライヤキリバ	Goniocraspidum pryeri	○		
1922				ナカグロクチバ	Grammodes geometrica			○
1923				フタキボシアツバ	Gynaephila maculifera	○		
1924				ハナマガリアツバ	Hadennia incongruens	○		
1925				ヒメハナマガリアツバ	Hadennia nakatanii	○		
1926				ソトウスアツバ	Hadennia obliqua	○		
1927				フタテンヒメヨトウ	Hadjina biguttula	○	○	○
1928				ナカジロアツバ	Harita belinda	○		
1929				ウスキミスジアツバ	Herminia arenosa	○	○	○
1930				フシキアツバ	Herminia dolosa	○		
1931				クロスジアツバ	Herminia grisealis	○	○	○
1932				シラナミアツバ	Herminia innocens	○		
1933				トビスジアツバ	Herminia tarsicrinalis		○	
1934				オオシラナミアツバ	Hipoepa fractalis	○	○	○
1935				シロエグリコヤガ	Holocryptis ussuriensis	○	○	
1936				ニジオビベニアツバ	Homodes vivida			○
1937				ソトウスグロアツバ	Hydrillodes lentalis	○	○	○
1938				ヒロオビウスグロアツバ	Hydrillodes morosa	○	○	○
1939				クロキシタアツバ	Hypena amica	○	○	
1940				キシタアツバ	Hypena claripennis	○		
1941				トビモンアツバ	Hypena indicatalis	○	○	○
1942				ウスチャモンアツバ	Hypena innocuoides	○	○	
1943				オオトビモンアツバ	Hypena occata	○		
1944				コテングアツバ	Hypena pulverulenta			○
1945				ナミテンアツバ	Hypena strigatus			○
1946				タイワンキシタアツバ	Hypena trigonalis	○	○	○
1947				ミツボシアツバ	Hypena tristalis	○		
1948				ヒロバチビトガリアツバ	Hypenomorpha calamina	○		
1949				チビトガリアツバ	Hypenomorpha falcipennis	○		
1950				モンキコヤガ	Hyperstrotia flavipuncta	○	○	○
1951				シロテンクチバ	Hypersypnoides astrigera	○	○	
1952				オオシロテンクチバ	Hypersypnoides submarginata	○	○	
1953				シロホシクロアツバ	Idia curvipalpis	○	○	
1954				Jodia属の一種	Jodia sp.			○
1955				キモンコヤガ	Koyaga numisma	○		
1956				ルリモンクチバ	Lacera procellosa		○	○
1957				ムクゲコノハ	Lagoptera juno			○
1958				アマミキヨトウ	Mythimna inouei	○		
1959				キマダラアツバ	Lophomilia polybapta			○
1960				アミメケンモン	Lophonycta confusa	○	○	○
1961				チビアツバ	Luceria fletcheri	○		
1962				クビグロクチバ	Lygephila maxima	○	○	
1963				ギンモンシロウワバ	Macdunnoughia purissima	○		
1964				カマフリンガ	Macrochthonia fervens	○		
1965				ネジロコヤガ	Maliattha chalcogramma	○	○	
1966				ヒメネジロコヤガ	Maliattha signifera	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(23)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
1967			ヤガ	ヨトウガ	Mamestra brassicae			○
1968				シャクドウクチバ	Mecodina nubiferalis	○		○
1969				ホシミミヨトウ	Mesapamea concinnata	○		
1970				シロスジトモエ	Metopta rectifasciata	○	○	○
1971				ウスクモチビアツバ	Micreremites japonica	○		
1972				ウラモンチビアツバ	Micreremites pyraloides	○		
1973				スジモンアツバ	Microxyla confusa		○	○
1974				ウスオビチビアツバ	Mimachrostia fasciata	○		
1975				ニセウンモンクチバ	Mocis ancilla			○
1976				オオウンモンクチバ	Mocis undata		○	○
1977				アオバセダカヨトウ	Mormo muscivirens	○		
1978				フサキバアツバ	Mosopia sordida	○	○	○
1979				アトジロキヨトウ	Mythimna compta		○	○
1980				カバフクロテンキヨトウ	Mythimna salebrosa		○	
1981				マメチャイロキヨトウ	Mythimna stolida	○	○	
1982				フタオビコヤガ	Naranga aenescens	○		
1983				フタテンチビアツバ	Neachrostia bipuncta	○	○	
1984				マエモンコヤガ	Neustrotia japonica	○	○	
1985				エゾコヤガ	Neustrotia noloides	○		
1986				チャオビヨトウ	Niphonyx segregata	○	○	
1987				ヒゲブトクロアツバ	Nodaria tristis	○		○
1988				クロスジシロコブガ	Nola taeniata			○
1989				ミスジコブガ	Nola trilinea	○		
				Nola属の一種	Nola sp.			○
1990				コマバシロキノカワガ	Nolathripa lactaria	○		
1991				マエシロモンキノカワガ	Nycteola costalis	○	○	
1992				セアカヨトウ	Oligia fodinae	○		
1993				ウスモモイロアツバ	Olulis ayumiae	○	○	
1994				アカエグリバ	Oraesia excavata	○	○	○
1995				ノコメセダカヨトウ	Orthogonia sera	○		
1996				カギモンキリガ	Orthosia nigromaculata	○	○	
1997				ヒメクルマコヤガ	Oruza divisa			○
1998				モンシロクルマコヤガ	Oruza glaucotorna			○
1999				ヨシノクルマコヤガ	Oruza yoshinoensis	○	○	
2000				ホシコヤガ	Ozarba punctigera	○	○	
2001				マエモンツマキリアツバ	Pangrapta costinotata		○	
2002				リンゴツマキリアツバ	Pangrapta obscurata			○
2003				シロツマキリアツバ	Pangrapta porphyrea		○	
2004				ウンモンツマキリアツバ	Pangrapta perturbans	○	○	○
2005				ホソナミアツバ	Paracolax fentoni	○	○	
2006				キボシアツバ	Paragabara flavomacula	○		
2007				ウスグロセニジモンアツバ	Paragona inchoata	○		
2008				モクメクチバ	Perinaenia accipiter			○
2009				テンモンシマコヤガ	Sophta ruficeps	○		
2010				シロモンフサヤガ	Phalga clarirena	○	○	
2011				マダラエグリバ	Plusiodonta casta	○	○	○
2012				ツマモンコブガ	Poecilonola pulchella			○
2013				シロマダラコヤガ	Protodeltote distinguenda	○		
2014				シロフコヤガ	Protodeltote pygarga	○		○
2015				フタスジヨトウ	Protomiselia bilinea			○
2016				ウスオビヤガ	Pyrrhia bifasciata		○	
2017				クロチャマダラキリガ	Rhynchaglaea fuscipennis		○	
2018				アヤナミアツバ	Zekelita plusioides	○		
2019				ソトジロコブガ	Manoba fasciatus			○
2020				ヨシノコブガ	Manoba melancholica	○		
2021				シロフチビコブガ	Manoba microphasma	○		
2022				イナズマコブガ	Rhynchopalpus triangulalis	○		
2023				マエシロモンアツバ	Rivula curvifera	○	○	
2024				フタテンアツバ	Rivula inconspicua	○		
2025				タケアツバ	Rivula leucanioides	○		
2026				テンクロアツバ	Rivula sericealis		○	
2027				シロシタヨトウ	Sarcopolia illoba		○	○
2028				ソトウスベニアツバ	Sarcopteron fasciata			○
2029				クロスジヒメアツバ	Schrankia costaestrigalis		○	○
2030				ハスオビヒメアツバ	Schrankia separatalis	○		
2031				カバイロウスキヨトウ	Sesamia confusa	○		
2032				イネヨトウ	Sesamia inferens	○		
2033				テンオビヨトウ	Sesamia turpis		○	
2034				オオアカマエアツバ	Simplicia niphona	○	○	○
2035				アカマエアツバ	Simplicia rectalis	○		
2036				ニセアカマエアツバ	Simplicia xanthoma	○		
				Simplicia属の一種	Simplicia sp.		○	
2037				ネグロアツバ	Sinarella punctalis	○		
2038				ヒメクロアツバ	Sinarella rotundipennis	○		
2039				ウスイロカバスジヤガ	Sineugraphe bipartita	○	○	
2040				カバスジヤガ	Sineugraphe exusta			○
2041				オオカバスジヤガ	Sineugraphe oceanica	○		
2042				ハグルマトモエ	Spirama helicina			○
2043				オスグロトモエ	Spirama retorta			○
2044				スジキリヨトウ	Spodoptera depravata	○	○	○
2045				シロイチモジヨトウ	Spodoptera exigua		○	
2046				ハスモンヨトウ	Spodoptera litura			○
2047				ムモンキイロアツバ	Stenhypena nigripuncta	○	○	
2048				ウスアオキノコヨトウ	Stenoloba clara			○
2049				シロスジキノコヨトウ	Stenoloba jankowskii			○
2050				クロシラフクチバ	Sypnoides fumosa	○		○
2051				シラフクチバ	Sypnoides picta	○		
2052				キクキンウワバ	Thysanoplusia intermixta		○	○
2053				シロスジアオヨトウ	Trachea atriplicis gunama	○		○
2054				ニセキバラケンモン	Trichosea ainu			○
2055				ナシケンモン	Viminia rumicis	○		
2056				シロモンヤガ	Xestia cnigrum		○	○
2057				キシタミドリヤガ	Xestia efflorescens	○		
2058				ハイイロキシタヤガ	Xestia semiherbida decrata	○		○
2059				マエキヤガ	Xestia stupenda	○	○	○
2060				ハネナガモクメキリガ	Xylena nihonica		○	
2061				クロスジキリガ	Xylopolia bella bella	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(24)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2062			ヤガ	ウスグロアツバ	Zanclognatha fumosa	○		
2063				ツマオビアツバ	Zanclognatha griselda	○	○	
2064				ウスイロアツバ	Zanclognatha lilacina	○		
2065				コブヒゲアツバ	Zanclognatha lunalis	○	○	
2066				コウスグロアツバ	Zanclognatha perfractralis	○		
2067				ヒメコブヒゲアツバ	Zanclognatha tarsipennalis	○		○
2068				ツマテンコブヒゲアツバ	Zanclognatha triplex	○		
2069				チョウセンコウスグロアツバ	Zanclognatha umbrosalis	○		
2070				ウラジロアツバ	Zanclognatha violacealis	○	○	
				Zanclognatha属の一種	Zanclognatha sp.			○
2071				アツバ亜科の一種	Hypeninae gen. sp.	○	○	
				ヤガ科の一種	Noctuidae gen. sp.	○	○	○
			―	チョウ目の一種	Lepidoptera fam. gen. sp.	○	○	
2072		ハエ	ガガンボ	ミカドガガンボ	Ctenacroscelis mikado	○		○
2073				ヒメクシヒゲガガンボ	Ctenophora angustistyla		○	
2074				ネグロクシヒゲガガンボ	Ctenophora fumibasis			○
2075				ベッコウガガンボ	Ctenophora pictipennis fasciata	○		○
				Ctenophora属の一種	Ctenophora sp.			○
2076				シリブトガガンボ	Cylindrotoma joponica	○	○	
2077				オトヒメガガンボ	Dicranota dicranotoides	○	○	
2078				ホソシリブトガガンボ	Diogma glabrata megacauda		○	
2079				ユウレイガガンボ	Dolichopeza albitibia	○		
2080				オオユウレイガガンボ	Dolichopeza candidipes	○		
2081				ヒメクチナガガガンボ	Elephantomyia dietziana dietziana			○
2082				ホシヒメガガンボ	Erioptera asiatica		○	
2083				コマダラヒメガガンボ	Erioptera asymmetrica	○	○	
2084				イツモンヒメガガンボ	Erioptera elegantula	○	○	
2085				ミスジガガンボ	Gymnastes flavitibia flavitibia	○	○	○
2086				クチバシガガンボ	Helius tenuirostris	○	○	
2087				Hexatoma属の一種	Hexatoma sp.			○
2088				カスリヒメガガンボ	Limnophila japonica		○	
2089				コモンヒメガガンボ	Limonia basispina	○	○	
2090				マダラクロヒメガガンボ	Limonia lecontei			○
2091				ホソバネヒメガガンボ	Limonia longipennis	○		
2092				ウスナミガタガガンボ	Limonia nohirai			○
2093				セアカヒメガガンボ	Limonia pulchra	○		○
2094				ウスキバネヒメガガンボ	Limonia tanakai		○	
2095				ナミガタガガンボ	Limonia undulata			○
2096				ツマジロヒメガガンボ	Limonia unisetosa unisetosa	○	○	
2097				ヒメシリブトガガンボ	Liogma brevipecten		○	
2098				ヒゲシリブトガガンボ	Liogma serraticornis		○	
2099				エゾホソガガンボ	Nephrotoma cornicina	○	○	
2100				シリグロホソガガンボ	Nephrotoma nigricauda		○	
2101				キイロホソガガンボ	Nephrotoma virgata	○	○	
				Nephrotoma属の一種	Nephrotoma sp.			○
2102				ウスキシマヘリガガンボ	Nipponomyia kuwanai	○		
2103				ヒメハスオビガガンボ	Pedicia gaudens	○		
2104				ホソヒメガガンボ	Pseudolimnophila inconcussa	○	○	
2105				キリウジガガンボ	Tipula aino	○	○	○
2106				マダラガガンボ	Tipula coquilleti	○	○	○
2107				キアシガガンボ	Tipula flavocostalis			○
2108				イマニシガガンボ	Tipula imanishii	○	○	
2109				ヒメキリウジガガンボ	Tipula latemarginata		○	
2110				ヘリグロガガンボ	Tipula nigrocostata	○		
2111				ニッポンガガンボ	Tipula nipponensis	○		
2112				マドガガンボ	Tipula nova		○	○
2113				クロキリウジガガンボ	Tipula patagiata	○	○	
2114				ヤチガガンボ	Tipula serricauda	○	○	
2115				マエキガガンボ	Tipula yamata		○	
				Tipula属の一種	Tipula sp.			○
2116				クワナシリブトガガンボ	Triogma kuwanai kuwanai	○		
2117				ヒメガガンボ亜科の一種	Limoiinae gen. sp.	○	○	
				ガガンボ科の一種	Tipulidae gen. sp.	○	○	○
2118			ガガンボダマシ	ウスモンガガンボダマシ	Trichocera maculipennis	○		
2119				サカグチガガンボダマシ	Trichocera sakaguchii	○		
				ガガンボダマシ科の一種	Trichoceridae gen. sp.			○
2120			アミカモドキ	アミカモドキ科の一種	Deutrerophlebiidae gen. sp.	○		
2121			チョウバエ	セベリンチョウバエ	Psychoda severini	○		
				チョウバエ科の一種	Psychodidae gen. sp.	○	○	○
2122			コシボソガガンボ	エサキヒメコシボソガガンボ	Bittacomorphella esakii			○
				コシボソガガンボ科の一種	Ptychopteridae gen. sp.		○	
2123			ヌカカ	ケヌカカ	Atrichopogon dorsalis	○	○	
2124				アマミヌカカ	Culicoides amamiensis	○	○	
2125				ニワトリヌカカ	Culicoides arakawae	○	○	
2126				マツゲヌカカ	Culicoides comosioculatus		○	
2127				アキヤマヌカカ	Culicoides dendrophilus	○		
2128				シガヌカカ	Culicoides sigaensis	○		
2129				カザリツヤヌカカ	Dasyhelea dufouri	○		
2130				タンボツヤヌカカ	Dasyhelea scutellata	○	○	
2131				シロフケブカヌカカ	Forcipomyia albiradialis	○		
2132				モリヌカカ	Forcipomyia longiradialis	○		
2133				モンヌカカ	Forcipomyia metatarsis	○		
2134				フトモモムシヒキヌカカ	Palpomyia distincta	○	○	
2135				カザリマスガタヌカカ	Stilobezzia notata	○		
				ヌカカ科の一種	Ceratopogonidae gen. sp.	○	○	○
2136			ケヨソイカ	アカケヨソイカ	Chaoborus crystallinus			○
2137			ユスリカ	ダンダラヒメユスリカ	Ablabesmyia moniliformis	○	○	○
2138				ニッポンケブカユスリカ	Brillia japonica	○	○	○
2139				Camptocladius属の一種	Camptocladius sp.			○
2140				ヒシモンユスリカ	Chironomus flaviplumus			○
2141				ホンセスジユスリカ	Chironomus nippodorsalis			○
2142				ヤマトユスリカ	Chironomus nipponensis			○
2143				オオユスリカ	Chironomus plumosus	○		
2144				セスジユスリカ	Chironomus yoshimatsui	○	○	
2145				セスジヒラアシユスリカ	Clinotanypus decempunctatus	○		
2146				ヤマトヒメユスリカ	Conchapelopia japonica	○	○	
2147				セボシヒメユスリカ	Conchapelopia quatuormaculata	○	○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(25)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2148			ユスリカ	フタスジツヤユスリカ	Cricotopus bicinctus			○
2149				ミツオビツヤユスリカ	Cricotopus trifasciatus		○	
				Cricotopus属の一種	Cricotopus sp.			○
2150				シロスジカマガタユスリカ	Cryptochironomus albofasciatus			○
2151				クロユスリカ	Einfeldia dissidens		○	
2152				ハイイロユスリカ	Glyptotendipes tokunagai			○
2153				クロタニユスリカ	Heptagyia nigra		○	
2154				Ionthosmittia otujitertia	Ionthosmittia otujitertia			○
2155				ヒカゲユスリカ	Kiefferulus umbraticola			○
2156				Limnophyes属の一種	Limnophyes sp.			○
2157				Microtendipes属の一種	Microtendipes sp.			○
2158				モンヌマユスリカ	Natarsia tokunagai		○	
2159				カニエリユスリカ	Orthocladius kanii	○	○	
				Orthocladius属の一種	Orthocladius sp.			○
2160				シロアシユスリカ	Paratendipes albimanus	○	○	
2161				Pentaneura属の一種	Pentaneura sp.		○	
2162				アサカワハモンユスリカ	Polypedilum asakawaense			○
2163				フトオケバネユスリカ	Polypedilum convexum			○
2164				キミドリハモンユスリカ	Polypedilum convictum			○
2165				ミヤコムモンユスリカ	Polypedilum kyotoense			○
2166				ハマダラハモンユスリカ	Polypedilum masudai			○
2167				ウスモンユスリカ	Polypedilum nubeculosum	○	○	
2168				オオケバネユスリカ	Polypedilum sordens			○
2169				ヒロオビハモンユスリカ	Polypedilum unifascium			○
				Polypedilum属の一種	Polypedilum sp.			○
2170				ニッポンカユスリカ	Procladius nipponicus	○	○	
2171				ヤハズカユスリカ	Procladius sagittalis			○
2172				アカムシユスリカ	Propsilocerus akamusi	○		
2173				ウスギヌヒメユスリカ	Rheopelopia joganflava	○	○	
2174				カクスナガレユスリカ	Rheotanytarsus pentapodus	○		
2175				ビロウドエリユスリカ	Smittia aterrima			○
2176				チビクロユスリカ	Smittia pratora	○	○	
2177				ハスムグリユスリカ	Stenochironomus nelumbus	○	○	
2178				アキヅキユスリカ	Stictochironomus akizukii		○	○
2179				カスリモンユスリカ	Tanypus formosanus	○	○	
2180				ミゾチビユスリカ	Neozavrelia bicolioculus	○	○	
2181				オオヤマヒゲユスリカ	Tanytarsus oyamai			○
				Tanytarsus属の一種	Tanytarsus sp.			○
				ユスリカ科の一種	Chironomidae gen. sp.	○	○	○
2182			カ	トウゴウヤブカ	Aedes togoi	○		
				Aedes属の一種	Aedes sp.			○
2183				トラフカクイカ	Culex halifaxii	○		
2184				コガタクロウスカ	Culex hayashii	○		
2185				アカイエカ	Culex pipiens pallens	○		
				Culex属の一種	Culex sp.			○
2186				トワダオオカ	Toxorhynchites towadensis			○
				カ科の一種	Culicidae gen. sp.	○	○	
2187			ブユ	Simulium属の一種	Simulium sp.			○
				ブユ科の一種	Simuliidae gen. sp.	○	○	
2188			カバエ	Sylvicola属の一種	Sylvicola sp.			○
2189			ケバエ	チビアシボソケバエ	Bibio amputonervis		○	
2190				キスネアシボソケバエ	Bibio aneuretus	○	○	
2191				クロアシボソケバエ	Bibio holomaurus	○	○	
2192				ニセアシブトケバエ	Bibio pseudoclavipes	○	○	
2193				メスアカケバエ	Bibio rufiventris		○	
2194				メスアカアシボソケバエ	Bibio simulans	○	○	○
2195				ハグロケバエ	Bibio tenebrosus	○	○	○
				Bibio属の一種	Bibio sp.			○
2196				ヒメセアカケバエ	Penthetria japonica			○
2197				クロトゲナシケバエ	Plecia adiastola		○	
				ケバエ科の一種	Bibionidae gen. sp.	○	○	
2198			タマバエ	キクタマバエ	Diarthonomyia hypogaea	○	○	
				タマバエ科の一種	Cecidomyiidae gen. sp.	○	○	○
2199			ニセケバエ	ニセケバエ科の一種	Scatopsidae gen. sp.		○	
2200			ツノキノコバエ	ツノキノコバエ科の一種	Keroplatidae gen. sp.	○		
2201			カモドキ	カモドキ科の一種	Lygistorrhinidae gen. sp.	○		
2202			キノコバエ	スジヒトエダキノコバエ	Acnemia braueri	○		
2203				ナミトモナガキノコバエ	Allodiopsis domestica	○	○	
2204				キアシフタマタキノコバエ	Boletina plana	○	○	
2205				ヒメホソキノコバエ	Bolitophila cinera	○		
2206				ナミホソキノコバエ	Bolitophila disjuncta	○	○	
2207				Dziedzickia属の一種	Dziedzickia sp.	○		
2208				クロヒラモモキノコバエ	Epicypta aterrima	○	○	
2209				ニセコシボソキノコバエ	Eudicrana affinis	○		
2210				キムネトンボキノコバエ	Exechia festiva	○	○	
2211				ミカドシギキノコバエ	Gnoriste mikado		○	
2212				ハラボシヒゲタケカ	Macrocera abdominalis	○		
2213				キアシヒゲタケカ	Macrocera vittata	○		
2214				トビモンナミキノコバエ	Mycetophila dististylata		○	
2215				イグチナミキノコバエ	Mycetophila fungorum	○	○	
2216				ナカモンナミキノコバエ	Mycetophila lineola	○	○	
2217			キノコバエ	コバラナミキノコバエ	Mycetophila unicolor	○	○	
2218				トゲアシキノコバエ	Mycomya cinerascens	○	○	
2219				ケブカマドキノコバエ	Mycomya ornata		○	
2220				キベリマドキノコバエ	Mycomya trilineata		○	
2221				ヴィンネルツアナキノコバエ	Mycomya winnertzi	○	○	
				Mycomya属の一種	Mycomya sp.	○		
2222				オオトゲアシキノコバエ	Mycomyia fasciata		○	
2223				ケアシコンボウキノコバエ	Neuratelia femorata		○	
2224				チビカギキノコバエ	Phronia flavicollis	○	○	
2225				ハラスジケズメカ	Symmerus brevicornis	○		
2226				クロネコゼキノコバエ	zygpmyia pictipennis	○		
				キノコバエ科の一種	Mycetophilidae gen. sp.	○	○	○
2227			クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一種	Sciaridae gen. sp.	○	○	○
2228			コガシラアブ	セダカコガシラアブ	Oligoneura nigroaenea	○	○	
				Oligoneura属の一種	Oligoneura sp.			○
2229			ナガレアブ	ナガレアブ科の一種	Athericidae gen. sp.			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(26)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2230			シギアブ	Chrysopilus属の一種	Chrysopilus sp.			○
2231				フタモンキイロシギアブ	Rhagio itoi		○	
				Rhagio属の一種	Rhagio sp.			○
				シギアブ科の一種	Rhagionidae gen. sp.		○	
2232			ミズアブ	エゾホソルリミズアブ	Actina jezoensis	○	○	
				Actina属の一種	Actina sp.			○
2233				キバラトゲナシミズアブ	Allognosta japonica	○	○	○
2234				トゲナシミズアブ	Allognosta vagans			○
2235				ネグロミズアブ	Craspedometopon frontale			○
2236				クロツヤミズアブ	Evaza japonica		○	
2237				アメリカミズアブ	Hermetia illucens	○		
2238				ハラキンミズアブ	Microchrysa flaviventris	○	○	
2239				ヒメルリミズアブ	Ptecticus matsumurae	○		
2240				コウカアブ	Ptecticus tenebrifer	○	○	○
2241				ハキナガミズアブ	Rhaphiocerina hakiensis			○
2242				ルリミズアブ	Sargus niphonensis	○		○
				ミズアブ科の一種	Stratiomyidae gen. sp.	○	○	
2243			アブ	ホルバートアブ	Atylotus horvathi			○
2244				クロキンメアブ	Chrysops japonicus		○	○
2245				キンイロアブ	Hirosia sapporoensis			○
2246				ニセアカウシアブ	Tabanus chrysurinus			○
2247				アカウシアブ	Tabanus chrysurus			○
2248				キスジアブ	Tabanus fulvimedioides			○
2249				ヤマトアブ	Tabanus rufidens			○
2250				シロフアブ	Tabanus trigeminus			○
2251				ウシアブ	Tabanus trigonus	○		○
				Tabanus属の一種	Tabanus sp.			○
				アブ科の一種	Tabanidae gen. sp.		○	
2252			キアブモドキ	キアブモドキ科の一種	Xylomyidae gen. sp.		○	
2253			ムシヒキアブ	イッシキイシアブ	Choerades isshikii	○		
2254				ヒメキンイシアブ	Choerades japonicus		○	○
2255				アオメアブ	Cophinopoda chinensis		○	○
2256				オオイシアブ	Laphria mitsukurii			○
2257				チャイロオオイシアブ	Laphria rufa		○	
2258				ミノモホソムシヒキ	Leptogaster minomoensis			○
2259				サッポロアシナガムシヒキ	Molobratia sapporoensis	○		
2260				ナミマガリケムシヒキ	Neoitamus angusticornis	○	○	○
2261				シロズヒメムシヒキ	Philonicus albiceps	○		○
2262				シオヤアブ	Promachus yesonicus	○	○	○
2263				サキグロムシヒキ	Trichomachimus scutellaris	○		○
				ムシヒキアブ科の一種	Asilidae gen. sp.			○
2264			ツリアブ	コウヤツリアブ	Anthrax aygulus			○
2265				ホシツリアブ	Anthrax distigma	○		○
2266				ビロウドツリアブ	Bombylius major	○	○	○
2267				クロバネツリアブ	Ligyra tantalus			○
2268				ニトベハラボソツリアブ	Systropus nitobei	○	○	○
2269				スズキハラボソツリアブ	Systropus suzukii		○	○
2270				スキバツリアブ	Villa limbata			○
2271			マドアブ	キアシマドギワアブ	Paromphrale glabrifrons		○	
				マドアブ科の一種	Scenopinidae gen. sp.		○	
2272			アシナガバエ	アシナガキンバエ	Dolichopus nitidus	○	○	○
2273				マダラアシナガバエ	Mesorhaga nebulosus	○	○	○
				アシナガバエ科の一種	Dolichopodidae gen. sp.		○	○
2274			オドリバエ	セグロクチナシオドリバエ	Brachystoma pleurale		○	
2275				ルリハアラオドリバエ	Empis cyaneiventris		○	
2276				シラフオドリバエ	Empis cylindracea		○	
2277				イトウマルバネオドリバエ	Empis itoiana		○	
2278				キュウシュウケズネオドリバエ	Empis kyushuensis	○		
2279				ギンバネオドリバエ	Empis latro	○		
				Empis属の一種	Empis sp.		○	
2280				スカシチビオドリバエ	Euthyneura aerea		○	
2281				メスジロナガレオドリバエ	Hilara leucogyne		○	
2282				カマキリナガレオドリバエ	Hilara mantis		○	
2283				スジブトナガレオドリバエ	Hilara pachyneura		○	
2284				モモブトセダカオドリバエ	Hybos japonicus		○	
2285				イミャクオドリバエ	Rhamphomyia brunneostriata		○	
2286				イトウホソオドリバエ	Rhamphomyia itoi		○	
2287				クロバネホソオドリバエ	Rhamphomyia retortus	○	○	
2288				アカメセダカオドリバエ	Syneches grandis		○	
2289				クロツヤチビオドリバエ	Trichina fumipennis	○	○	
2290				ケミャクシブキオドリバエ	Trichoclinocera fuscipennis		○	
				オドリバエ科の一種	Empididae gen. sp.		○	○
2291			ヤリバエ	ハコネヤリバエ	Lonchoptera hakonensis		○	
				ヤリバエ科の一種	Lonchopteridae gen. sp.			○
2292			アタマアブ	ツマグロキアタマアブ	Eudorylas mutillatus		○	
				アタマアブ科の一種	Pipunculidae gen. sp.	○	○	○
2293			ハナアブ	ツマグロコシボソハナアブ	Allobaccha apicalis	○	○	
2294				オオマメヒラタアブ	Allograpta javana		○	○
2295				ホソジマヒラタアブ	Asarkina erictorum formosae	○		
2296				ナガヒラタアブ	Asarkina porcina			○
2297				マダラコシボソハナアブ	Baccha maculata	○	○	○
2298				クロヒラタアブ	Betasyrphus serarius	○	○	○
2299				ハシグロクロハナアブ	Cheilosia abbreviata		○	
2300				ヤマクロヒラタアブ	Cheilosia luteipes	○	○	
				Cheilosia属の一種	Cheilosia sp.			○
2301				Chrysogaster属の一種	Chrysogaster sp.			○
2302				ヤマトヒゲナガハナアブ	Chrysotoxum festivum	○		
2303				オオヒゲナガハナアブ	Chrysotoxum grande	○		
2304				ヨコジマオオヒラタアブ	Dideoides latus	○	○	
2305				ホソヒラタアブ	Episyrphus balteatus	○	○	○
2306				キゴシハナアブ	Eristalinus quinquestriatus		○	○
2307				ホシメハナアブ	Eristalinus tarsalis			○
2308				ルリハナアブ	Pseudoeristalinus viridis		○	
2309				シマハナアブ	Eristalis cerealis	○	○	○
2310				ナミハナアブ	Eristalis tenax	○		○
2311				イイダハイジマハナアブ	Eumerus iidai		○	
2312				マドヒラタアブ	Eumerus japonicus	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(27)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2313			ハナアブ	ハイジマハナアブ	Eumerus strigatus	○		
2314				ナミホシヒラタアブ	Eupeodes bucculatus	○		○
2315				アシブトハナアブ	Helophilus virgatus	○	○	○
2316				スイセンハナアブ	Merodon equestris			○
2317				ホソツヤヒラタアブ	Melanostoma mellinum	○	○	
2318				ホシツヤヒラタアブ	Melanostoma scalare	○	○	○
2319				カクホシツヤヒラタアブ	Melanostoma transversum			○
				Melanostoma属の一種	Melanostoma sp.			○
2320				カオグロオビホソヒラタアブ	Meliscaeva omogensis		○	
2321				シマアシブトハナアブ	Mesembrius flaviceps		○	○
2322				アイノオビヒラタアブ	Epistrophe aino			○
2323				エゾコヒラタアブ	Metasyrphus corollae			○
2324				アリスアブ	Microdon japonicus			○
2325				ハチモドキハナアブ	Monoceromyia pleuralis			○
2326				シママメヒラタアブ	Paragus fasciatus	○	○	○
2327				キアシマメヒラタアブ	Paragus haemorrhous		○	○
2328				ジョウザンマメヒラタアブ	Paragus jozanus		○	
2329				ノヒラマメヒラタアブ	Paragus quadrifasciatus	○		
2330				ニセキアシマメヒラタアブ	Paragus tibialis		○	
2331				クチグロヒラタアブ	Parasyrphus aeneostoma			○
2332				オオハナアブ	Phytomia zonata	○	○	○
2333				マキゲヒラアシヒラタアブ	Platycheirus ambiguus		○	
2334				コマバムツホシヒラタアブ	Scaeva komabensis		○	
2335				ナガヒメヒラタアブ	Sphaerophoria cylindrica	○	○	
2336				ミナミヒメヒラタアブ	Sphaerophoria indiana		○	
2337				ホソヒメヒラタアブ	Sphaerophoria macrogaster			○
2338				ヒメヒラタアブ	Sphaerophoria menthastri	○		
2339				キタヒメヒラタアブ	Sphaerophoria philanthus	○	○	○
2340				スズキナガハナアブ	Spilomyia suzukii	○		
2341				モモブトチビハナアブ	Syritta pipiens			○
2342				オオフタホシヒラタアブ	Syrphus ribesii	○	○	
2343				ケヒラタアブ	Syrphus torvus		○	
2344				ベッコウハナアブ	Volucella jeddona			○
2345				ニトベベッコウハナアブ	Volucella linearis	○		
2346				クロベッコウハナアブ	Volucella nigricans			○
2347				シロスジベッコウハナアブ	Volucella pellucens tabanoides	○	○	
2348				キベリヒラタアブ	Xanthogramma sapporense			○
2349				ミヤマルリイロハラナガハナアブ	Xylota coquilletti			○
				Xylota属の一種	Xylota sp.			○
				ハナアブ科の一種	Syrphidae gen. sp.	○		
2350			ノミバエ	オオキモンノミバエ	Megaselia spiracularis	○	○	
				ノミバエ科の一種	Phoridae gen. sp.	○	○	○
2351			ヒラタアシバエ	ヒラタアシバエ	Plesioclythia argyrogyna	○	○	
2352			ハモグリバエ	イネハモグリバエ	Agromyza oryzae		○	
2353				フジハモグリバエ	Agromyza wistariae	○		
2354				ヤノハモグリバエ	Agromyza yanonis	○	○	
2355				ヨモギハモグリバエ	Calycomyza artemisiae	○	○	
2356				Cerodontha bimaculata	Cerodontha bimaculata	○		
2357				Cerodontha caricivora	Cerodontha caricivora	○		
2358				ムギキイロハモグリバエ	Cerodontha denticornis denticornis	○	○	
2359				ムギキベリハモグリバエ	Cerodontha lateralis		○	
2360				イハモグリバエ	Cerodontha luctuosa	○	○	
2361				オカザキハモグリバエ	Cerodontha okazakii	○	○	
2362				フジタマモグリバエ	Hexomyza websteri		○	
2363				ヘビイチゴハモグリバエ	Japanagromyza duchesneae	○	○	
2364				ネギハモグリバエ	Liriomyza chinensis		○	
2365				カトウハモグリバエ	Liriomyza katoi	○	○	
2366				スミレハモグリバエ	Liriomyza takakoae	○		
2367				ヨモギクキモグリバエ	Melanagromyza artemisiae	○	○	
2368				タンポポハモグリバエ	Melanagromyza pulicaria	○	○	
2369				ヨメナクロハモグリバエ	Nemorimyza posticata	○	○	
2370				ヨメナスジハモグリバエ	Ophiomyia maura	○	○	
2371				ヤナギハモグリバエ	Paraphytomyza populi	○		
2372				トガリハモグリバエ	Phytobia geniculata	○	○	
2373				ヒヨドリバナハモグリバエ	Phytomyza eupatorii	○		
2374				ナモグリバエ	Phytomyza horticola	○		
2375				ニッポンキクハモグリバエ	Phytomyza japonica	○		
2376				センニンソウハモグリバエ	Phytomyza paniculatae		○	
2377				ヤブジラミハモグリバエ	Phytomyza tordylii		○	
2378				エゴノキハモグリバエ	Tropicomyia styricicola	○		
2379				クチナガハモグリバエ	Tylomyza madizina	○	○	
				ハモグリバエ科の一種	Agromyzidae gen. sp.	○	○	○
2380			ニセミギワバエ	ニセミギワバエ	Procanace cressoni	○		
2381			アブラコバエ	アブラコバエ科の一種	Chamaemyiidae gen. sp.	○		
2382			キモグリバエ	イネキモグリバエ	Chlorops oryzae		○	
2383				ムギキモグリバエ	Meromyza nigriventris		○	
				キモグリバエ科の一種	Chloropidae gen. sp.		○	○
2384			クチキバエ	クチキバエ科の一種	Clusiidae gen. sp.		○	
2385			メバエ	マダラメバエ	Myopa buccata		○	
				メバエ科の一種	Conoppidae gen. sp.			○
2386			ヒゲブトコバエ	クロメマトイ	Cryptochetum nipponense		○	○
2387			ホソショウジョウバエ	モンホソショウジョウバエ	Diastata vagans		○	
2388			ショウジョウバエ	マダラメマトイ	Amiota okadai	○	○	
2389				アシグロハシリショウジョウバエ	Chymomyza atrimana	○		
2390				ヒメホシショウジョウバエ	Drosophila angularis	○	○	
2391				カオジロショウジョウバエ	Drosophila auraria	○		
2392				フタスジショウジョウバエ	Drosophila bifasciata	○		
2393				フタオビショウジョウバエ	Drosophila bizonata	○	○	
2394				ヒョウモンショウジョウバエ	Drosophila busckii	○	○	
2395				クロツヤショウジョウバエ	Drosophila coracina	○	○	
2396				オオショウジョウバエ	Drosophila immigrans	○	○	
2397				キハダショウジョウバエ	Drosophila lutescens	○	○	
2398				キイロショウジョウバエ	Drosophila melanogaster	○	○	
2399				ススバネショウジョウバエ	Drosophila subtilis	○		
2400				オウトウショウジョウバエ	Drosophila suzukii	○	○	
2401				カクホシショウジョウバエ	Drosophila unispina		○	
2402				クロショウジョウバエ	Drosophila virilis	○	○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(28)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
			ショウジョウバエ	Drosophila属の一種	Drosophila sp.			○
2403				モンコガネショウジョウバエ	Leucophenga maculata		○	
2404				カザリコガネショウジョウバエ	Leucophenga ornata	○	○	
2405				オトヒメショウジョウバエ	Microdrosophila purpurata	○	○	
2406				クロキノコショウジョウバエ	Mycodrosophila gratiosa	○	○	
2407				コフキヒメショウジョウバエ	Scaptomyza pallida	○	○	
2408				ツヤカブトショウジョウバエ	Stegana nigrifrons	○	○	○
				ショウジョウバエ科の一種	Drosophilidae gen. sp.	○	○	○
2409			ベッコウバエ	ベッコウバエ	Dryomyza formosa			○
2410			ミギワバエ	Brachydeutera longipes	Brachydeutera longipes	○		○
				ミギワバエ科の一種	Ephydridae gen. sp.		○	○
2411			トゲハネバエ	センチトゲハネバエ	Orbellia tokyoensis		○	
				トゲハネバエ科の一種	Heleomyzidae gen. sp.			○
2412			シマバエ	シモフリシマバエ	Homoneura euaresta	○	○	○
2413				キイロシマバエ	Homoneura extera		○	
2414				ヒラヤマシマバエ	Homoneura hirayamae	○		○
2415				Homoneura unguiculata	Homoneura unguiculata	○		
2416				ヤブクロシマバエ	Minettia longipennis	○	○	○
2417				Steganopsis属の一種	Steganopsis sp.	○		
				シマバエ科の一種	Lauxaniidae gen. sp.	○	○	○
2418			クロツヤバエ	ヤマトクロツヤバエ	Lonchaea sylvatica	○	○	
2419			フトモモホソバエ	クロフトモモホソバエ	Texara compressa			○
				フトモモホソバエ科の一種	Megamerinidae gen. sp.	○		
2420			マルズヤセバエ	マルズヤセバエ科の一種	Micropezidae gen. sp.	○		
2421			ナガズヤセバエ	ホシアシナガヤセバエ	Stypocladius appendiculatus			○
2422			トゲアシモグリバエ	トゲアシモグリバエ科の一種	Odiniidae gen. sp.	○		
2423			デガシラバエ	フトハチモドキバエ	Adapsila fusca			○
2424				ミツモンハチモドキバエ	Paradapsilia trinotata	○	○	○
				デガシラバエ科の一種	Pyrgotidae gen. sp.	○		
2425			ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	Sepedon aenescens	○		○
				ヤチバエ科の一種	Sciomyzidae gen. sp.		○	
2426			ツヤホソバエ	ヒトテンツヤホソバエ	Sepsis monostigma		○	○
				ツヤホソバエ科の一種	Sepsidae gen. sp.		○	
2427			ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科の一種	Sphaeroceridae gen. sp.		○	○
2428			ミバエ	ゴモンハマダラミバエ	Acidia japonica	○		
2429				ミズタマケブカミバエ	Aliniana longipennis		○	
2430				チャイロハススジハマダラミバエ	Anomoia vulgaris			○
2431				ヒラヤマアミメケブカミバエ	Campiglossa hirayamae		○	○
2432				ノゲシケブカミバエ	Ensina sonchi	○		
2433				アケビハマダラミバエ	Matsumuracidia kagoshimensis		○	
2434				ヨモギマルフシミバエ	Oedaspis japonica	○		
2435				オグルマケブカミバエ	Orotava senecionis		○	
2436				イッシキハマダラミバエ	Ortalotrypeta isshikii	○		
2437				ハルササハマダラミバエ	Paragastrozona japonica		○	
2438				タケウチキゴシハマダラミバエ	Paramyiolia takeuchii		○	
2439				フキハマダラミバエ	Prionimera japonica		○	
2440				ネッタイヒメクロミバエ	Spathulina acroleuca	○		
2441				ミスジハマダラミバエ	Trypeta artemisicola	○		
2442				アザミオナガミバエ	Urophora sachalinensis	○		
2443				ミスジミバエ	Zeugodacus scutellatus		○	
				ミバエ科の一種	Tephritidae gen. sp.		○	○
2444			ハナバエ	クロオビハナバエ	Anthomyia illocata		○	
2445				ハコベハナバエ	Delia echinata	○	○	
2446				タネバエ	Delia platura		○	
2447				アカザモグリハナバエ	Pegomya exilis		○	
				ハナバエ科の一種	Anthomyiidae gen. sp.	○	○	○
2448			クロバエ	ケブカクロバエ	Aldrichina grahami			○
2449				オオクロバエ	Calliphora nigribarbis	○	○	○
2450				ホホグロオビキンバエ	Chrysomya pinguis			○
2451				キンバエ	Lucilia caesar	○	○	○
2452				ミドリキンバエ	Lucilia illustris	○	○	
2453				スネアカキンバエ	Lucilia porphyrina			○
2454				エゾクロバエ	Onesia hokkaidensis		○	
2455				ツマグロキンバエ	Stomorhina obsoleta		○	○
				クロバエ科の一種	Calliphoridae gen. sp.	○	○	○
2456			ヒメイエバエ	ヒメイエバエ	Fannia canicularis	○	○	
2457			イエバエ	ヤマトハナゲバエ	Dichaetomyia japonica			○
2458				モモエグリイエバエ	Hydrotaea dentipes		○	
2459				ヒメクロバエ	Hydrotaea ignava	○	○	
2460				セジロイエバエ	Morellia asetosa			○
2461				イエバエ	Musca domestica	○	○	
2462				セアカクロバエ	Muscina levida			○
2463				オオイエバエ	Muscina stabulans	○		
2464				ウスホシマキバイエバエ	Myospila meditabunda			○
2465				ミドリイエバエ	Neomyia timorensis			○
2466				ヘリグロハナレメイエバエ	Orchisia costata		○	
2467				ササグロトゲアシイエバエ	Phaonia bambusa	○	○	
2468				オオクロイエバエ	Polietes nigrolimbatus	○		○
2469				サシバエ	Stomoxys calcitrans	○		
2470				インドサシバエ	Stomoxys indicus	○		
				イエバエ科の一種	Muscidae gen. sp.	○	○	○
2471			ニクバエ	ヤマトカスミニクバエ	Blaesoxipha japonensis		○	
2472				ホンシュウホソニクバエ	Goniophyto honshuensis		○	
2473				シリグロニクバエ	Helicophagella melanura		○	○
2474				センチニクバエ	Boettcherisca peregrina			○
				Sarcophaga属の一種	Sarcophaga sp.			○
				ニクバエ科の一種	Sarcophagidae gen. sp.	○	○	
2475			フンバエ	ヒメフンバエ	Scathophaga stercoraria		○	
2476			ヤドリバエ	チビハマキヤドリバエ	Actia crassicornis	○	○	
				Actia属の一種	Actia sp.			○
2477				カイコノウジバエ	Blepharipa zebina			○
2478				ノコギリハリバエ	Compsilura concinnata		○	○
2479				ブランコヤドリバエ	Exorista japonica		○	○
2480				ルリハリバエ	Gymnochaeta viridis			○
2481				マルボシヒラタヤドリバエ	Gymnosoma rotundata	○	○	○
2482				クロツヤハリバエ	Pales townsendi		○	
2483				クチナガハリバエ	Prosena siberita	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(29)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2484			ヤドリバエ	マダラヤドリバエ	Sturmia bella	○	○	○
2485				ヨコジマオオハリバエ	Tachina jakovlevi	○	○	
2486				セスジハリバエ	Tachina nupta	○	○	○
2487				トガリハリバエ	Thecocarcelia thrix	○		○
2488				シロオビハリバエ	Trigonospila transvittata		○	
2489				ヒラタハナバエ亜科の一種	Phasiinae gen. sp.		○	
				ヤドリバエ科の一種	Tachinidae gen. sp.	○	○	○
2490			シラミバエ	ヒメシカシラミバエ	Lipoptena fortisetosa			○
				シラミバエ科の一種	Hippoboscidae gen. sp.	○		
			―	ハエ目の一種	Diptera fam. gen. sp.	○		
2491		コウチュウ	ホソクビゴミムシ	アオバネホソクビゴミムシ	Brachinus aeneicostis			○
2492				ヒメホソクビゴミムシ	Brachinus incomptus			○
2493				オオホソクビゴミムシ	Brachinus scotomedes	○	○	○
2494				コホソクビゴミムシ	Brachinus stenoderus			○
2495				ミイデラゴミムシ	Pheropsophus jessoensis			○
2496			オサムシ	キイロチビゴモクムシ	Acupalpus inornatus	○	○	○
2497				トゲアトキリゴミムシ	Aephnidius adelioides			○
2498				アオグロヒラタゴミムシ	Agonum chalcomum			○
2499				タンゴヒラタゴミムシ	Agonum leucopus	○		○
2500				オグラヒラタゴミムシ	Agonum ogurae			○
2501				ヒメセボシヒラタゴミムシ	Agonum suavissimum		○	○
2502				マルガタゴミムシ	Amara chalcites	○	○	○
2503				コアオマルガタゴミムシ	Amara chalcophaea	○	○	
2504				ニセマルガタゴミムシ	Amara congrua	○	○	○
2505				イグチマルガタゴミムシ	Amara macros			○
2506				ツヤマルガタゴミムシ	Amara obscuripes	○	○	
2507				タナカツヤハネゴミムシ	Harpalomimetes orbicollis			○
2508				ホシボシゴミムシ	Anisodactylus punctatipennis			○
2509				オオホシボシゴミムシ	Anisodactylus sadoensis			○
2510				ゴミムシ	Anisodactylus signatus	○	○	○
2511				ヒメゴミムシ	Anisodactylus tricuspidatus tricuspidatus	○		○
2512				キベリゴモクムシ	Anoplogenius cyanescens	○	○	○
2513				ムネミゾチビゴモクムシ	Anthracus horni			○
2514				フタモンクビナガゴミムシ	Archicolliuris bimaculata nipponica	○	○	○
2515				クロズカタキバゴミムシ	Badister nigriceps	○	○	○
2516				ヨツモンカタキバゴミムシ	Badister pictus	○		
2517				オオヒラタミズギワゴミムシ	Bembidion altaicum	○		
2518				オオフタモンミズギワゴミムシ	Bembidion bandotaro	○		
2519				アオミズギワゴミムシ	Bembidion chloreum	○	○	○
2520				ウスモンミズギワゴミムシ	Bembidion cnemidotum	○		○
2521				マルミズギワゴミムシ	Bembidion eurygonum	○		○
2522				ガロアミズギワゴミムシ	Bembidion galloisi	○		
2523				オオアオミズギワゴミムシ	Bembidion lissonotum	○		
2524				ヨツボシミズギワゴミムシ	Bembidion morawitzi	○		○
2525				アトモンミズギワゴミムシ	Bembidion niloticum batesi	○	○	○
2526				クロミズギワゴミムシ	Bembidion oxyglymma	○		
2527				ヒメスジミズギワゴミムシ	Bembidion pliculatum			○
2528				ヒラタアオミズギワゴミムシ	Bembidion pseudolucillum		○	○
2529				フタモンミズギワゴミムシ	Bembidion semilunium			○
2530				ドウイロミズギワゴミムシ	Bembidion stenoderum	○		
2531				キアシルリミズギワゴミムシ	Bembidion trajectum	○		○
2532				オオズヒメゴモクムシ	Bradycellus grandiceps			○
2533				アカクビヒメゴモクムシ	Bradycellus laeticolor			○
2534				チビヒメゴモクムシ	Bradycellus subditus			○
2535				キガシラアオアトキリゴミムシ	Calleida lepida	○		○
2536				アオアトキリゴミムシ	Calleida onoha	○		
2537				オオオサムシ	Ohomopterus dehaanii dehaanii	○	○	○
2538				ヒメオサムシ	Ohomopterus japonicus japonicus	○		
2539				ヤコンオサムシ	Ohomopterus yaconinus yaconinus	○		
2540				ヤマトオサムシ	Ohomopterus yamato yamato			○
2541				ヒメキベリアオゴミムシ	Chlaenius inops		○	○
2542				ニセコガシラアオゴミムシ	Chlaenius kurosawai			○
2543				オオアトボシアオゴミムシ	Chlaenius micans			○
2544				アトボシアオゴミムシ	Chlaenius naeviger	○	○	○
2545				アオゴミムシ	Chlaenius pallipes		○	○
2546				キボシアオゴミムシ	Chlaenius posticalis	○		○
2547				アオヘリアオゴミムシ	Chlaenius praefectus	○		
2548				ムナビロアトボシアオゴミムシ	Chlaenius tetragonoderus			○
2549				コガシラアオゴミムシ	Chlaenius variicornis	○		○
2550				アトワアオゴミムシ	Chlaenius virgulifer	○		○
2551				ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	Clivina castanea	○		
2552				ヒメヒョウタンゴミムシ	Clivina niponensis			○
2553				チビモリヒラタゴミムシ	Colpodes aurelius aurelius	○	○	
2554				オオアオモリヒラタゴミムシ	Colpodes buchanani	○	○	○
2555				ヤセモリヒラタゴミムシ	Colpodes elainus elainus		○	
2556				ハコネモリヒラタゴミムシ	Colpodes hakonus hakonus			○
2557				ハラアカモリヒラタゴミムシ	Colpodes japonicus	○		○
2558				チャイロホソヒラタゴミムシ	Colpodes kyushuensis hondonus		○	○
2559				コハラアカモリヒラタゴミムシ	Colpodes lampros			○
2560				イクビモリヒラタゴミムシ	Colpodes modestior	○		○
2561				コキノココゴミムシ	Coptodera japonica	○	○	○
2562				ハギキノココゴミムシ	Coptodera subapicalis			○
2563				マイマイカブリ	Damaster blaptoides blaptoides	○	○	○
2564				ミズギワアトキリゴミムシ	Demetrias marginicollis			○
2565				ルリヒラタゴミムシ	Dicranoncus femoralis	○	○	○
2566				スナハラゴミムシ	Diplocheila elongata	○		○
2567				オオスナハラゴミムシ	Diplocheila zeelandica			○
2568				ニッポンヨツボシゴミムシ	Dischissus japonicus			○
2569				ヤセアトキリゴミムシ	Dolichoctis luctuosus			○
2570				コヨツボシアトキリゴミムシ	Dolichoctis striatus striatus	○	○	○
2571				セアカヒラタゴミムシ	Dolichus halensis			○
2572				ベーツホソアトキリゴミムシ	Dromius batesi			○
2573				ホソアトキリゴミムシ	Dromius prolixus	○	○	○
2574				イクビホソアトキリゴミムシ	Dromius quadraticollis	○	○	
2575				アオヘリホソゴミムシ	Drypta japonica	○	○	○
2576				ムネアカチビヒョウタンゴミムシ	Dyschirius batesi			○
				Dyschirius属の一種	Dyschirius sp.			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(30)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2577			オサムシ	セダカコミズギワゴミムシ	Elaphropus nipponicus			○
2578				オオキベリアオゴミムシ	Epomis nigricans			○
2579				クビボソゴミムシ	Galerita orientalis		○	○
2580				オオクビボソゴミムシ	Galeritella japonica	○	○	
2581				スジアオゴミムシ	Haplochlaenius costiger	○	○	○
2582				マルガタゴモクムシ	Harpalus bungii			○
2583				トゲアシゴモクムシ	Harpalus calceatus		○	
2584				オオゴモクムシ	Harpalus capito		○	
2585				オオズケゴモクムシ	Harpalus eous	○	○	○
2586				ケウスゴモクムシ	Harpalus griseus		○	○
2587				ヒメケゴモクムシ	Harpalus jureceki	○	○	○
2588				クロゴモクムシ	Harpalus niigatanus			○
2589				ニセケゴモクムシ	Harpalus pseudophonoides	○		○
2590				ウスアカクロゴモクムシ	Harpalus sinicus	○	○	○
2591				アカアシマルガタゴモクムシ	Harpalus tinctulus	○		○
2592				コゴモクムシ	Harpalus tridens	○	○	○
2593				ケゴモクムシ	Harpalus vicarius	○	○	○
				Harpalus属の一種	Harpalus sp.			○
2594				ヤマトトックリゴミムシ	Lachnocrepis japonica			○
2595				トックリゴミムシ	Lachnocrepis prolixa	○		○
2596				キクビアオアトキリゴミムシ	Lachnolebia cribricollis	○		○
2597				フタホシアトキリゴミムシ	Lebia bifenestrata	○	○	○
2598				ホシハネビロアトキリゴミムシ	Lebia calycophora	○	○	
2599				ハネビロアトキリゴミムシ	Lebia duplex		○	○
2600				アトグロジュウジアトキリゴミムシ	Lebia idae		○	
2601				ジュウジアトキリゴミムシ	Lebia retrofasciata	○		○
2602				コルリアトキリゴミムシ	Lebia viridis			○
2603				ヤホシゴミムシ	Lebidia octoguttata			○
2604				オオクロナガオサムシ	Leptocarabus kumagaii		○	○
2605				クロナガオサムシ	Leptocarabus procerulus procerulus	○		
2606				オオゴミムシ	Lesticus magnus		○	
2607				ノグチアオゴミムシ	Lithochlaenius noguchii	○		○
2608				マルクビゴミムシ	Nebria chinensis chinensis			○
2609				チャバネクビナガゴミムシ	Odacantha aegrota	○	○	○
2610				オオトックリゴミムシ	Oodes vicarius	○		○
2611				キアシクロゴモクムシ	Ophonus tschiliensis			○
2612				メダカアトキリゴミムシ	Orionella lewisii	○	○	○
2613				クビナガゴモクムシ	Oxycentrus argutoroides		○	
2614				ヨツボシゴミムシ	Panagaeus japonicus			○
2615				クロオビコミズギワゴミムシ	Paratachys fasciatus uenoi		○	
2616				ウスイロコミズギワゴミムシ	Paratachys pallescens	○		○
2617				ウスオビコミズギワゴミムシ	Paratachys sericans	○		○
2618				トカラコミズギワゴミムシ	Paratachys troglophilus			○
2619				ヒラタアトキリゴミムシ	Parena cavipennis	○		
2620				オオヨツアナアトキリゴミムシ	Parena perforata	○		
2621				ミツアナアトキリゴミムシ	Parena tripunctata		○	
2622				キアシヌレチゴミムシ	Archipatrobus flavipes	○		○
2623				カドツブゴミムシ	Pentagonica angulosa	○		
2624				ダイミョウツブゴミムシ	Pentagonica daimaiella		○	○
2625				クロズホナシゴミムシ	Perigona nigriceps	○		○
2626				ホソチビゴミムシ	Perileptus japonicus	○		○
2627				ツヤホソチビゴミムシ	Perileptus naraensis	○		○
2628				キイロアトキリゴミムシ	Philorhizus optimus	○		
2629				フタホシスジバネゴミムシ	Planetes puncticeps	○	○	○
2630				カラカネゴモクムシ	Platymetopus flavilabris		○	
2631				オオヒラタゴミムシ	Platynus magnus	○	○	○
2632				コヒラタゴミムシ	Platynus protensus	○	○	
2633				チビミズギワゴミムシ	Polyderis microscopicus	○		
2634				ホソヒラタゴミムシ	Pristosia aeneola			○
2635				ヤマトホソナガゴミムシ	Pterostichus basipunctatus			○
2636				タカハシナガゴミムシ	Pterostichus bisetosus bisetosus			○
2637				ニッコウナガゴミムシ	Pterostichus defossus	○		
2638				トックリナガゴミムシ	Pterostichus haptoderoides japanensis	○		
2639				コホソナガゴミムシ	Pterostichus longinquus			○
2640				コガシラナガゴミムシ	Pterostichus microcephalus	○	○	○
2641				ノグチナガゴミムシ	Pterostichus noguchii	○		
2642				アトマルナガゴミムシ	Pterostichus orientalis jessoensis	○		
2643				キンナガゴミムシ	Pterostichus planicollis	○		○
2644				オオクロナガゴミムシ	Pterostichus prolongatus	○		
2645				キイオオナガゴミムシ	Pterostichus pseudopachinus			○
2646				ヒメホソナガゴミムシ	Pterostichus rotundangulus	○		
2647				アシミゾナガゴミムシ	Pterostichus sulcitarsis			○
2648				ウエノオオナガゴミムシ	Pterostichus uenoi uenoi	○		
2649				ヨリトモナガゴミムシ	Pterostichus yoritomus	○	○	○
				Pterostichus属の一種	Pterostichus sp.			○
2650				ケブカヒラタゴミムシ	Rupa japonica japonica		○	○
2651				ナガマメゴモクムシ	Stenolophus agonoides	○		○
2652				ミドリマメゴモクムシ	Stenolophus difficilis	○		
2653				マメゴモクムシ	Stenolophus fulvicornis			○
2654				ツヤマメゴモクムシ	Stenolophus iridicolor	○	○	○
2655				ムネアカマメゴモクムシ	Stenolophus propinquus		○	○
2656				イツホシマメゴモクムシ	Stenolophus quinquepustulatus			○
				Stenolophus属の一種	Stenolophus sp.			○
2657				ホソキバナガゴミムシ	Stomis japonicus			○
2658				マルガタツヤヒラタゴミムシ	Synuchus arcuaticollis	○	○	○
2659				キアシツヤヒラタゴミムシ	Synuchus callitheres callitheres	○		
2660				ヒメクロツヤヒラタゴミムシ	Synuchus congruus	○		
2661				クロツヤヒラタゴミムシ	Synuchus cycloderus	○		○
2662				ヒメツヤヒラタゴミムシ	Synuchus dulcigradus	○		○
2663				コクロツヤヒラタゴミムシ	Synuchus melantho		○	
2664				オオクロツヤヒラタゴミムシ	Synuchus nitidus	○	○	○
2665				ヒメミヤマツヤヒラタゴミムシ	Synuchus tristis		○	
2666				キイロマルコミズギワゴミムシ	Elaphropus latissimus			○
2667				クロチビカワゴミムシ	Tachyta nana			○
2668				ヒラタコミズギワゴミムシ	Tachyura exarata	○	○	○
2669				クリイロコミズギワゴミムシ	Tachyura fumicata	○		○
2670				ウスモンコミズギワゴミムシ	Tachyura fuscicauda			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(31)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2671			オサムシ	ヨツモンコミズギワゴミムシ	Tachyura laetifica	○	○	○
2672				ダイゴメクラチビゴミムシ	Trechiama rotundipennis			○
2673				ヒラタキイロチビゴミムシ	Trechus ephippiatus	○	○	○
2674				ヒメツヤゴモクムシ	Trichotichnus congruus	○		○
2675				チャバネクビアカツヤゴモクムシ	Trichotichnus kantoonus		○	
2676				クビアカツヤゴモクムシ	Trichotichnus longitarsis	○		○
2677				チビツヤゴモクムシ	Trichotichnus nanus			○
2678				ナガツヤゴモクムシ	Trichotichnus pacificatorius	○		
2679				ムラサキオオゴミムシ	Trigonognatha coreana		○	
				オサムシ科の一種	Carabidae gen. sp.		○	
2680			ハンミョウ	ハンミョウ	Cicindela japonica	○	○	○
2681				エリザハンミョウ	Cylindera elisae elisae			○
2682				ニワハンミョウ	Cicindela japana	○	○	○
2683			ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	Agabus japonicus			○
2684				ホソクロマメゲンゴロウ	Platambus optatus			○
2685				セスジゲンゴロウ	Copelatus japonicus			○
2686				ホソセスジゲンゴロウ	Copelatus weymarni	○	○	○
2687				ハイイロゲンゴロウ	Eretes griseus			○
2688				コシマゲンゴロウ	Hydaticus grammicus	○	○	
2689				チビゲンゴロウ	Hydroglyphus japonicus	○		○
2690				キベリマメゲンゴロウ	Platambus fimbriatus	○		
2691				モンキマメゲンゴロウ	Platambus pictipennis	○		
2692				オオヒメゲンゴロウ	Rhantus erraticus			○
2693				ヒメゲンゴロウ	Rhantus suturalis	○		○
2694			ミズスマシ	ミズスマシ	Gyrinus japonicus	○	○	○
2695				ツマキレオナガミズスマシ	Orectochilus agilis		○	
2696			コガシラミズムシ	コガシラミズムシ	Peltodytes intermedius			○
2697			コツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	Noterus japonicus			○
2698			ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	Tenomerga mucida			○
2699			ダルマガムシ	ミヤタケダルマガムシ	Hydraena miyatakei			○
2700			ガムシ	タマガムシ	Amphiops mater mater			○
2701				トゲバゴマフガムシ	Berosus lewisius	○		
2702				ゴマフガムシ	Berosus punctipennis	○		○
2703				セスジケシガムシ	Cercyon aequalis	○		
2704				アカケシガムシ	Cercyon olibrus	○	○	
2705				ケシガムシ	Cercyon ustus	○		
				Cercyon属の一種	Cercyon sp.		○	○
2706				セマルガムシ	Coelostoma stultum	○		○
2707				セマルケシガムシ	Cryptopleurum subtile	○	○	
2708				キベリヒラタガムシ	Enochrus japonicus	○	○	○
2709				キイロヒラタガムシ	Enochrus simulans	○	○	○
2710				ルイスヒラタガムシ	Helochares pallens	○		
2711				スジヒラタガムシ	Helochares nipponicus			○
2712				ガムシ	Hydrophilus acuminatus			○
2713				シジミガムシ	Laccobius bedeli	○		○
2714				セマルマグソガムシ	Magasternum gibbulum	○		
2715				ホソケシガムシ	Paroosternum sorex			○
2716				マグソガムシ	Pachysternum haemorrhoum	○		○
2717				コウセンマルケシガムシ	Peratogonus reversus	○		○
2718				ヒメガムシ	Sternolophus rufipes	○	○	○
2719				マルガムシ亜科の一種	Hydroboiinae gen. sp.		○	
2720			エンマムシ	ツブエンマムシ	Anapleus semen	○		○
2721				ツヤマルエンマムシ	Atholus pirithous	○		
2722				クロチビエンマムシ	Carcinops pumilio	○		
2723				オオマルマメエンマムシ	Gnathoncus nannetensis	○		○
2724				ヤマトエンマムシ	Hister japonicus	○		
2725				ヒメツヤエンマムシ	Hister simplicisternus	○		
2726				オオヒラタエンマムシ	Hololepta amurensis			○
2727				コエンマムシ	Margarinotus niponicus	○	○	○
2728				ヒメエンマムシ	Margarinotus weymarni	○		
2729				エンマムシ	Merohister jekeli			○
2730				キノコアカマルエンマムシ	Notodoma fungorum			○
2731				コセスジエンマムシ	Onthophilus niponensis		○	
2732				オオナガエンマムシ	Platysoma lewisi	○		
2733				ニセドウガネエンマムシ	Saprinus niponicus	○		
2734				ドウガネエンマムシ	Saprinus planiusculus	○		
2735			タマキノコムシ	マルムネマルタマキノコムシ	Agathidium crassicorne			○
2736				ツヤマルタマキノコムシ	Agathidium sublaevigatum	○		
				Agathidium属の一種	Agathidium sp.		○	○
2737				Catops属の一種	Catops sp.			○
2738				オチバヒメタマキノコムシ	Dermatohomoeus terrena	○		○
2739				Leiodes属の一種	Leiodes sp.			○
2740				ウスイロヒメタマキノコムシ	Pseudcolenis hilleri		○	
2741				オオヒメタマキノコムシ	Pseudoliodes latus		○	
2742				チャイロヒメタマキノコムシ	Pseudoliodes strigosulus	○	○	○
2743				チビタマキノコムシ	Zeadolopus japonicus	○	○	
				タマキノコムシ科の一種	Leiodidae gen. sp.		○	○
2744			アリヅカムシ	ハケスネアリヅカムシ	Batriscenaulax modestus		○	○
2745				ホソハラクボアリヅカムシ	Batriscenellus fragilis	○		
2746				アナバラアリヅカムシ	Batriscenellus similis	○		○
2747				アナズアリヅカムシ	Batrisceniola dissimilis	○	○	
2748				エグリチイロアリヅカムシ	Batristilbus politus	○		
2749				ヤマトオノヒゲアリヅカムシ	Bryaxis japonicus		○	
2750			アリヅカムシ	コヤマトヒゲブトアリヅカムシ	Diartiger fossulatus fossulatus	○		○
2751				ヤマオオトゲアリヅカムシ	Lasinus monticola		○	
2752				マメアリヅカムシ	Morana discedens	○		
2753				オオズアリヅカムシ	Nipponobythus latifrons		○	
2754				ナガオチバアリヅカムシ	Philoscotus longulus		○	
2755				マルムネアリヅカムシ	Triomicrus protervus	○		
2756				ナミエンマアリヅカムシ	Trissemus alienus		○	
2757				ヒゲブトアリヅカムシ亜科の一種	Clavigerinae gen. sp.		○	
				アリヅカムシ科の一種	Pselaphidae gen. sp.	○	○	○
2758			デオキノコムシ	ホソスジデオキノコムシ	Ascaphium tibiale			○
2759				カメノコデオキノコムシ	Cyparium mikado		○	
2760				ツブデオキノコムシ	Pseudobironium lewisi	○		○
2761				エグリデオキノコムシ	Scaphidium emarginatum	○		○
2762				ヤマトデオキノコムシ	Scaphidium japonum		○	○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(32)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2763			デオキノコムシ	ヘリアカデオキノコムシ	Scaphidium reitteri			○
2764				ツマキケシデオキノコムシ	Scaphisoma haemorrhoidale		○	
				Scaphisoma属の一種	Scaphisoma sp.			○
2765				トビイロホソケシデオキノコムシ	Scaphobaeocera japonica		○	
2766				ヤマトホソケシデオキノコムシ	Toxidium aberrans		○	
2767			コケムシ	シリブトヒメコケムシ	Euconnus fustiger	○	○	
				コケムシ科の一種	Scydmaenidae gen. sp.			○
2768			シデムシ	オオヒラタシデムシ	Eusilpha japonica			○
2769				オオモモブトシデムシ	Necrodes asiaticus			○
2770				モモブトシデムシ	Necrodes nigricornis			○
2771				クロシデムシ	Nicrophorus concolor	○		
2772				マエモンシデムシ	Nicrophorus maculifrons		○	
2773				ヨツボシモンシデムシ	Nicrophorus quadripunctatus	○	○	○
2774			ハネカクシ	クロニセトガリハネカクシ	Achenomorphus lithocharoides		○	
2775				オオアカバハネカクシ	Agelosus carinatus carinatus			○
2776				コクロヒゲブトハネカクシ	Aleochara parens			○
2777				ウスアカヒゲブトハネカクシ	Aleochara puberula	○		
				Aleochara属の一種	Aleochara sp.			○
2778				ムネビロハネカクシ	Algon grandicollis		○	○
2779				ツヤケシブチヒゲハネカクシ	Anisolinus elegans		○	○
2780				セスジハネカクシ	Anotylus cognatus		○	
2781				イブシセスジハネカクシ	Anotylus funebris			○
2782				チビクロセスジハネカクシ	Anotylus latiusculus	○	○	
2783				ルイスセスジハネカクシ	Anotylus lewisius			○
2784				シワバネセスジハネカクシ	Anotylus mimulus			○
2785				トビイロセスジハネカクシ	Anotylus vicinus		○	○
				Anotylus属の一種	Anotylus sp.			○
2786				ヒメシリグロハネカクシ	Astenus brevipes	○		
2787				ヤマトシリグロハネカクシ	Astenus chloroticus		○	○
2788				キアシシリグロハネカクシ	Astenus latifrons	○		
2789				オオシリグロハネカクシ	Astenus suffusus		○	○
2790				ズグロアカチビハネカクシ	Atheta weisei	○	○	○
2791				アカチャキノコハネカクシ	Parabolitobius prolongatus		○	○
2792				チビニセユミセミゾハネカクシ	Carpelimus exiguus	○		
2793				ニセユミセミゾハネカクシ	Carpelimus vagus	○	○	○
2794				ハネスジキノコハネカクシ	Carphacis striatus	○		
2795				ムナクボヒラナガハネカクシ	Coenonica lewisia		○	
2796				アカバキノカワハネカクシ	Coprophilus adachii			○
2797				オオハネカクシ	Creophilus maxillosus			○
2798				コガシラホソハネカクシ	Diochus japonicus		○	○
2799				オオマルズハネカクシ	Domene crassicornis	○	○	○
2800				コマルズハネカクシ	Domene curtipennis	○		
2801				クロヒメホソハネカクシ	Erichsonius kobensis		○	
2802				キイロハナムグリハネカクシ	Eusphalerum parallelum	○	○	
2803				ハナムグリハネカクシ	Eusphalerum pollens			○
2804				ウスチャセミゾハネカクシ	Myrmecocephalus japonicus		○	
2805				ヒラタホソコガシラハネカクシ	Gabrius subdepressus	○		
2806				ツヤヒラタキノコハネカクシ	Gyrophaena laevior	○	○	
2807				ヤマトヒラタキノコハネカクシ	Gyrophaena niponensis	○		
2808				ツマグロアカバハネカクシ	Hesperus tiro	○	○	○
2809				ヤマトヒラタアリヤドリ	Homoeusa japonica	○		
2810				アカバナガハネカクシ	Lathrobium dignum	○		
2811				アカバチビナガハネカクシ	Lathrobium kobense	○		
2812				キアシナガハネカクシ	Lathrobium pallipes	○		○
2813				ツマグロナガハネカクシ	Lathrobium unicolor	○	○	○
2814				キイロフタミゾハネカクシ	Leptusa sharpi	○	○	
2815				ネアカヨツメハネカクシ	Lesteva plagiata			○
2816				クロズトガリハネカクシ	Lithocharis nigriceps	○	○	○
2817				ネアカトガリハネカクシ	Medon lewisius		○	
2818				ヨコモントガリハネカクシ	Medon submaculatus		○	
2819				ミゾトガリハネカクシ	Medon sulcifrons	○		
2820				セマルハバビロハネカクシ	Megarthrus convexus	○		
2821				ヤマトイクビハネカクシ	Ischnosoma discoidale	○		
2822				フタスジイクビハネカクシ	Ischnosoma duplicatum			○
2823				エビイロマルムネハネカクシ	Myllaena japonica		○	
2824				ヒメアバタコバネハネカクシ	Nazeris optatus		○	
2825				アバタコバネハネカクシ	Nazeris wollastoni wollastoni			○
2826				ツヤケシキバネチビハネカクシ	Nehemitropia milu	○		
2827				アカバヒメホソハネカクシ	Neobisnius pumilus	○	○	○
2828				ツマアカナガエハネカクシ	Ochthephilum kurosai	○		
2829				クロナガエハネカクシ	Ochthephilum densipenne	○		○
2830				アカバナガエハネカクシ	Ochthephilum pectorale	○		○
2831				ナミヨコセミゾハネカクシ	Ochthephilus vulgaris			○
2832				ヒメクロハネカクシ	Platydracus brachycerus			○
2833				キンバネハネカクシ	Ocypus gloriosus			○
2834				チビドウガネハネカクシ	Ocypus parvulus			○
2835				カクムネヨツメハネカクシ	Olophrum vicinum			○
2836				セミゾヨツメハネカクシ	Omalium japonicum	○		
2837				サビハネカクシ	Ontholestes gracilis	○	○	○
2838				フトツツハネカクシ	Osorius angustulus		○	
2839				ツノフトツツハネカクシ	Osorius taurus	○		
2840				ウスアカバホソハネカクシ	Othius medius medius	○		
2841				アカバホソハネカクシ	Othius rufipennis			○
2842				アカセスジハネカクシ	Oxytelus incisus	○		
2843				ヒメアカセスジハネカクシ	Oxytelus migrator	○		
2844				アオバアリガタハネカクシ	Paederus fuscipes	○		○
2845				ドウバネコガシラハネカクシ	Philonthus cunctator	○	○	
2846				ヒラタカクコガシラハネカクシ	Philonthus depressipennis	○		
2847				チャバネコガシラハネカクシ	Philonthus gastralis	○		○
2848				チャイロコガシラハネカクシ	Bisnius germanus	○		
2849				クロコガシラハネカクシ	Philonthus japonicus	○		
2850				フタイロコガシラハネカクシ	Philonthus kobensis	○		
2851				ヒゲナガコガシラハネカクシ	Philonthus longicornis	○	○	
2852				アカヒラタコガシラハネカクシ	Philonthus macrocephalus	○		
2853				キアシチビコガシラハネカクシ	Philonthus numata	○		○
2854				カクコガシラハネカクシ	Philonthus rectangulus			○
2855				キヌコガシラハネカクシ	Philonthus sublucanus		○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(33)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2856			ハネカクシ	ヘリアカバコガシラハネカクシ	Philonthus solidus			○
2857				ヒメホソコガシラハネカクシ	Philonthus wuesthoffi	○		○
				Philonthus属の一種	Philonthus sp.			○
2858				ヒラタヨツメハネカクシ	Phloeostiba plana	○		○
2859				ミイロチビハネカクシ	Phymatura oligotinula	○		
2860				ルイスクビブトハネカクシ	Pinophilus lewisius			○
2861				アカバクビブトハネカクシ	Pinophilus rufipennis		○	○
2862				アカバハネカクシ	Platydracus brevicornis	○		○
2863				トビムシハネカクシ	Platyola paradoxa		○	
2864				チビハバビロハネカクシ	Proteinus crassicornis		○	
2865				ナミツヤムネハネカクシ	Quedius simulans	○		
2866				キバネクビボソハネカクシ	Rugilus ceylanensis	○		
2867				クビボソハネカクシ	Rugilus rufescens	○		○
2868				アカセミゾハネカクシ	Autalia rufula	○		○
2869				チビクビボソハネカクシ	Scopaeus virilis	○	○	
2870				クロヒゲヒメキノコハネカクシ	Sepedophilus armatus	○	○	
2871				ムクゲヒメキノコハネカクシ	Sepedophilus germanus			○
2872				ヒメキノコハネカクシ	Sepedophilus tibialis	○		
2873				ヒゲブトチビハネカクシ	Silusa lanuginosa	○		
2874				ツヤケシシワチビハネカクシ	Silusa rugosa	○	○	○
2875				ホソフタホシメダカハネカクシ	Stenus alienus			○
2876				スジグロメダカハネカクシ	Stenus anthracinus	○		
2877				アシマダラメダカハネカクシ	Stenus cicideloides			○
2878				ツヤホソメダカハネカクシ	Stenus currax	○	○	
2879				コクロメダカハネカクシ	Stenus melanarius vercundus		○	
2880				トビイロメダカハネカクシ	Stenus rufescens	○	○	
				Stenus属の一種	Stenus sp.			○
2881				ヤマトマルクビハネカクシ	Tachinus japonicus		○	○
2882				キベリマルクビハネカクシ	Tachinus mimulus	○	○	
2883				クロズマルクビハネカクシ	Tachinus nigriceps			○
2884				クロツヤマルクビハネカクシ	Tachinus punctiventris			○
				Tachinus属の一種	Tachinus sp.			○
2885				クロズシリホソハネカクシ	Tachyporus celatus	○	○	
2886				キベリシリホソハネカクシ	Tachyporus orthogrammus		○	
2887				セビロチビハネカクシ	Thamiaraea diffinis		○	
2888				アカアシユミセミゾハネカクシ	Thinodromus deceptor	○		○
2889				ヤマトニセユミセミゾハネカクシ	Thinodromus japonicus			○
2890				ユミセミゾハネカクシ	Thinodromus sericatus	○	○	○
2891				ヒゲアカアリツカハネカクシ	Thiasophila oxypodina		○	
2892				ツヤケシアバタハネカクシ	Tympanophorus hayashidai		○	
2893				ナミクシヒゲハネカクシ	Velleius dilatatus			○
2894				シロヒゲアリノスハネカクシ	Zyras particornis			○
2895				クビアカアリノスハネカクシ	Zyras pictus	○	○	
				Zyras属の一種	Zyras sp.			○
				ハネカクシ科の一種	Staphylinidae gen. sp.	○	○	○
2896			マルハナノミ	ウスチャチビマルハナノミ	Cyphon sasagawai	○	○	
2897				アカチャチビマルハナノミ	Cyphon japonicola	○		○
2898				ホソチビマルハナノミ	Cyphon sanno		○	
				Cyphon属の一種	Cyphon sp.			○
2899				コクロマルハナノミ	Elodes inornata		○	
				Elodes属の一種	Elodes sp.			○
2900				Sacodes属の一種	Sacodes sp.			○
2901				トビイロマルハナノミ	Scirtes japonicus	○	○	○
2902				ヒメマルハナノミ	Scirtes sobrinus	○		
2903			センチコガネ	オオセンチコガネ	Phelotrupes auratus auratus	○	○	○
2904				センチコガネ	Phelotrupes laevistriatus	○	○	○
2905			クワガタムシ	ネブトクワガタ	Aegus laevicollis			○
2906				コクワガタ	Dorcus rectus rectus		○	○
2907				ミヤマクワガタ	Lucanus maculifemoratus maculifemoratus	○		○
2908				スジクワガタ	Dorcus binervis binervis		○	○
2909				ノコギリクワガタ	Prosopocoilus inclinatus inclinatus			○
2910			コガネムシ	コイチャコガネ	Adoretus tenuimaculatus	○	○	○
2911				カブトムシ	Trypoxylus dichotomus septentrionalis	○		○
2912				アオドウガネ	Anomala albopilosa albopilosa			○
2913				ドウガネブイブイ	Anomala cuprea	○	○	○
2914				サクラコガネ	Anomala daimiana	○	○	○
2915				ヤマトアオドウガネ	Anomala japonica	○		
2916				ツヤコガネ	Anomala lucens	○		
2917				ハンノヒメコガネ	Anomala multistriata	○		○
2918				ヒメコガネ	Anomala rufocuprea	○	○	○
2919				ヒメコマグソコガネ	Aphodius botulus	○		
2920				クロオビマグソコガネ	Aphodius unifasciatus		○	
2921				セマダラコガネ	Blitopertha orientalis	○	○	○
2922				ヒメコエンマコガネ	Caccobius brevis	○		
2923				ゴホンダイコクコガネ	Copris acutidens		○	○
2924				ヒメアシナガコガネ	Ectinohoplia obducta		○	
2925				ハナムグリ	Eucetonia pilifera	○	○	
2926				アオハナムグリ	Cetonia roelofsi roelofsi	○	○	○
2927				クロハナムグリ	Glycyphana fulvistemma			○
2928				ナガチャコガネ	Heptophylla picea	○	○	○
2929				クロコガネ	Holotrichia kiotonensis		○	○
2930				オオクロコガネ	Holotrichia parallela	○		○
2931				コクロコガネ	Holotrichia picea		○	
2932				ヒメトラハナムグリ	Lasiotrichius succinctus	○		
2933				アカビロウドコガネ	Maladera castanea	○	○	○
2934				ビロウドコガネ	Maladera japonica japonica	○	○	
2935				ヒメビロウドコガネ	Maladera orientalis	○	○	
2936				マルガタビロウドコガネ	Maladera secreta		○	○
2937				オオコフキコガネ	Melolontha frater frater		○	○
2938				コフキコガネ	Melolontha japonica	○		○
2939				オオスジコガネ	Anomala costata		○	○
2940				ヒメスジコガネ	Mimela flavilabris	○	○	○
2941				コガネムシ	Mimela splendens	○		○
2942				スジコガネ	Anomala testaceipes	○		○
2943				クリイロコガネ	Miridiba castanea	○		○
2944				ヒラタハナムグリ	Nipponovalgus angusticollis angusticollis		○	○
2945				クロマルエンマコガネ	Onthophagus ater	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(34)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
2946			コガネムシ	コブマルエンマコガネ	Onthophagus atripennis	○	○	○
2947				フトカドエンマコガネ	Onthophagus fodiens			○
2948				ツヤエンマコガネ	Onthophagus nitidus			○
2949				オキナワコアオハナムグリ	Oxycetonia forticula	○		
2950				コアオハナムグリ	Gametis jucunda	○	○	○
2951				マメダルマコガネ	Panelus parvulus	○	○	○
2952				ウスチャコガネ	Phyllopertha diversa	○		○
2953				アオウスチャコガネ	Phyllopertha intermixta	○		
2954				キスジコガネ	Phyllopertha irregularis			○
2955				マメコガネ	Popillia japonica	○	○	○
2956				キョウトアオハナムグリ	Protaetia lenzi	○		
2957				シロテンハナムグリ	Protaetia orientalis submarmorea	○	○	○
2958				カナブン	Pseudotorynorrhina japonica		○	○
2959				セスジカクマグソコガネ	Rhyparus azumai azumai			○
2960				クロツツマグソコガネ	Saprosites japonicus			○
2961				Sericania属の一種	Sericania sp.			○
2962			マルトゲムシ	シラフチビマルトゲムシ	Simplocaria bicolor	○	○	○
2963			ヒメドロムシ	キスジミゾドロムシ	Ordobrevia foveicollis	○		○
2964				イブシアシナガドロムシ	Stenelmis nipponica			○
2965				アシナガミゾドロムシ	Stenelmis vulgaris	○	○	○
2966				ツヤドロムシ	Zaitzevia nitida			○
2967			ナガドロムシ	タテスジナガドロムシ	Heterocerus fenestratus	○		
2968			チビドロムシ	オオメホソチビドロムシ	Cephalobyrrhus japonicus			○
2969				チビドロムシ	Limnichus lewisi			○
2970			ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナノミ	Ectopria opaca opaca			○
2971				チビマルヒゲナガハナノミ	Macroeubria lewisi			○
2972				ヒラタドロムシ	Mataeopsephus japonicus			○
2973				マスダチビヒラタドロムシ	Psephenoides japonicus			○
2974			ナガハナノミ	エダヒゲナガハナノミ	Epilichas flabellatus flabellatus	○	○	○
2975				クロツヤヒゲナガハナノミ	Epilichas monticola			○
2976				コヒゲナガハナノミ	Ptilodactyla ramae			○
2977			タマムシ	シラホシナガタマムシ	Agrilus decoloratus alazon	○		○
2978				クロナガタマムシ	Agrilus cyaneoniger cyaneoniger			○
2979				ヒシモンナガタマムシ	Agrilus discalis	○	○	
2980				ロニノナガタマムシ	Agrilus nicolanus	○		
2981				アオグロナガタマムシ	Agrilus viridiobscurus	○	○	
2982				ヤナギナガタマムシ	Agrilus salicivola	○		
				Agrilus属の一種	Agrilus sp.			○
2983				ヒメヒラタタマムシ	Anthaxia proteus	○		
2984				ウバタマムシ	Chalcophora japonica japonica			○
2985				ヤマトタマムシ	Chrysochroa fulgidissima		○	○
2986				ヒメヒラタチビタマムシ	Habroloma atronitidum			○
2987				ヒラタチビタマムシ	Habroloma subbicorne			○
2988				ナガヒラタチビタマムシ	Habroloma yuasai			○
2989				ムネアカチビナカボソタマムシ	Nalanda rutilicollis rutilicollis			○
2990				マスダクロホシタマムシ	Ovalisia vivata			○
2991				クズノチビタマムシ	Trachys auricollis	○	○	○
2992				コウゾチビタマムシ	Trachys broussonetiae			○
2993				ドウイロチビタマムシ	Trachys cupricolor		○	
2994				マルガタチビタマムシ	Trachys inedita		○	
2995				ヤナギチビタマムシ	Trachys minuta salicis	○		○
2996				マメチビタマムシ	Trachys reitteri			○
2997				ソーンダーズチビタマムシ	Trachys saundersi	○		○
2998				ズミチビタマムシ	Trachys toringoi		○	
2999				アカガネチビタマムシ	Trachys tsushimae			○
3000				ダンダラチビタマムシ	Trachys variolaris	○		○
				Trachys属の一種	Trachys sp.			○
3001			コメツキムシ	シモフリコメツキ	Actenicerus pruinosus			○
3002				シロオビチビサビキコリ	Adelocera difficilis		○	○
3003				マダラチビコメツキ	Prodrasterius agnatus	○		○
3004				サビキコリ	Agrypnus binodulus binodulus	○	○	○
3005				ホソサビキコリ	Agrypnus fuliginosus	○		
3006				ヒメサビキコリ	Agrypnus scrofa scrofa			○
3007				ヒメクロコメツキ	Ampedus carbunculus		○	○
3008				アカハラクロコメツキ	Ampedus hypogastricus hypogastricus	○		○
3009				クリイロアシブトコメツキ	Podeonius castaneus		○	
3010				ドウガネヒラタコメツキ	Corymbitodes gratus	○	○	○
3011				ニホンベニコメツキ	Denticollis nipponensis nipponensis	○		○
3012				キバネホソコメツキ	Dolerosomus gracilis	○	○	○
3013				ヨツキボシコメツキ	Ectinoides insignitus insignitus	○		
3014				オオナガコメツキ	Nipponoelater sieboldi sieboldi	○		○
3015				クロカネコメツキ	Limoniscus atricolor		○	
3016				ハネアカカネコメツキ	Limoniscus rufipennis		○	
3017				キバネクチボソコメツキ	Glyphonyx bicolor bicolor		○	
3018				チャイロコメツキ	Haterumelater bicarinatus bicarinatus	○		
3019				ホソツヤケシコメツキ	Hayekpenthes pallidus	○	○	○
3020				メダカツヤハダコメツキ	Medakathous jactatus jactatus	○		○
3021				クロツヤハダコメツキ	Hemicrepidius secessus secessus	○	○	
3022				キアシヒメカネコメツキ	Kibunea approximans		○	
3023				ムラサキヒメカネコメツキ	Kibunea eximia			○
3024				キンムネヒメカネコメツキ	Kibunea ignicollis	○		
3025				クロツヤクシコメツキ	Melanotus annosus	○	○	○
3026				コガタクシコメツキ	Melanotus erythropygus erythropygus		○	
3027				クシコメツキ	Melanotus legatus legatus	○	○	○
3028				チャバネクシコメツキ	Melanotus seniculus		○	
3029				ナガチャクシコメツキ	Melanotus spernendus spernendus		○	
3030				ヨツモンミズギワコメツキ	Fleutiauxellus quadrillum			○
3031				クロツヤミズギワコメツキ	Oedostethus telluris			○
3032				ウバタマコメツキ	Cryptalaus berus			○
3033				オオウバタマコメツキ	Cryptalaus yamato		○	
3034				ヒゲコメツキ	Pectocera hige hige	○		
3035				アカアシハナコメツキ	Dicronychus adjutor adjutor		○	
3036				ヒメホソキコメツキ	Agaripenthes helvolus	○		
3037				カタモンチビコメツキ	Zorochros humeralis humeralis		○	○
3038				クチブトコメツキ	Silesis musculus musculus	○		○
3039				オオツヤハダコメツキ	Stenagostus umbratilis	○	○	○
3040				オオクシヒゲコメツキ	Tetrigus lewisi			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(35)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
			コメツキムシ	Tetrigus属の一種	Tetrigus sp.			○
3041				ミドリヒメコメツキ	Vuilletus viridis	○	○	○
3042				ヘリムネマメコメツキ	Yukoana carinicollis		○	○
3043				ホソマメコメツキ	Yukoana terukoe		○	
				コメツキムシ科の一種	Elateridae gen. sp.	○	○	○
3044			コメツキダマシ	ニホンヒメゾコメツキダマシ	Dromaeolus nipponensis			○
3045				コチャイロコメツキダマシ	Fornax nipponicus	○		○
3046				オオチャイロコメツキダマシ	Fornax victor	○		
3047				オニコメツキダマシ	Hylochares harmandi		○	
				コメツキダマシ科の一種	Eucnemidae gen. sp.		○	
3048			ヒゲブトコメツキ	ナガヒゲブトコメツキ	Aulonothroscus longulus			○
3049				ミカドヒゲブトコメツキ	Trixagus mikado mikado	○		
3050			ジョウカイボン	ムネアカクロジョウカイ	Lycocerus adusticollis		○	
3051				ウスチャジョウカイ	Lycocerus insulsus insulsus	○	○	○
3052				クビアカジョウカイ	Lycocerus oedemeroides		○	
3053				ホソニセヒメジョウカイ	Lycocerus okuyugawaranus			○
3054				ジョウカイボン	Lycocerus suturellus suturellus	○	○	○
3055				セボシジョウカイ	Lycocerus vitellinus	○	○	○
3056				フタイロジョウカイ	Cantharis lewisi	○		
3057				コクロヒメジョウカイ	Micropodabrus viaticus		○	
3058				ホソチビジョウカイ	Malthodes furcatopygus		○	
3059				ムネミゾクロチビジョウカイ	Malthodes sulcicollis		○	○
3060				ヒメジョウカイ	Lycocerus japonicus	○	○	○
3061				クビボソジョウカイ	Hatchiana heydeni	○		
3062				ミヤマクビボソジョウカイ	Asiopodabrus lictorius	○	○	
3063				ヒメクビボソジョウカイ	Asiopodabrus macilentus		○	
3064				クロヒメクビボソジョウカイ	Asiopodabrus malthinoides malthinoides	○	○	
3065				ウスイロクビボソジョウカイ	Asiopodabrus temporalis		○	
				Podabrus属の一種	Podabrus sp.		○	○
3066				エグリマメジョウカイ	Podosilis omissa		○	
3067				マルムネジョウカイ	Prothemus ciusianus		○	
3068				クロヒメジョウカイ	Rhagonycha latiuscula	○		
3069				クリイロジョウカイ	Stenothemus badius		○	○
3070				アオジョウカイ	Themus cyanipennis			○
				ジョウカイボン科の一種	Cantharidae gen. sp.	○		
3071			ホタル	ムネクリイロボタル	Cyphonocerus ruficollis			○
3072				オバボタル	Lucidina biplagiata	○	○	○
3073				ゲンジボタル	Luciola cruciata	○	○	○
3074				ヘイケボタル	Luciola lateralis	○	○	○
3075				クロマドボタル	Pyrocoelia fumosa	○	○	
				ホタル科の一種	Lampyridae gen. sp.		○	
3076			ベニボタル	アカミスジヒシベニボタル	Laterialis oculata			○
3077				ミスジヒシベニボタル	Benibotarus spinicoxis			○
3078				カタアカベニボタル	Conderis rufohumeralis			○
3079				ヒシベニボタル	Dictyoptera gorhami		○	
3080				ネアカヒシベニボタル	Dictyoptera speciosa		○	
3081				アカスジヒシベニボタル	Dictyoptera velata	○		○
3082				カタアカハナボタル	Eropterus nothus		○	○
3083				ムネアカテングベニボタル	Konoplatycis otome			○
3084				コクロハナボタル	Libnetis granicollis		○	○
3085				ベニボタル	Lycostomus modestus		○	
3086				ヒメベニボタル	Lyponia delicatula	○	○	
3087				コガタカクムネベニボタル	Lyponia nigroscutellaris nigroscutellaris		○	
3088				カクムネベニボタル	Lyponia quadricollis	○	○	○
3089				クシヒゲベニボタル	Macrolycus flabellatus		○	
3090				ホソベニボタル	Mesolycus atrorufus	○	○	○
3091				クロハナボタル	Plateros coracinus	○		○
				Plateros属の一種	Plateros sp.			○
3092				クロアミメボタル	Xylobanus niger		○	
				ベニボタル科の一種	Lycidae gen. sp.			○
3093			ホタルモドキ	Drilonius属の一種	Drilonius sp.			○
3094			カツオブシムシ	カドマルカツオブシムシ	Dermestes haemorrhoidalis			○
3095				ベニモンチビカツオブシムシ	Orphinus japonicus			○
3096				ヨツモンチビカツオブシムシ	Orphinus quadrimaculatus			○
3097				チビケカツオブシムシ	Trinodes rufescens		○	○
3098			ヒメトゲムシ	クロヒメトゲムシ	Nosodendron coenosum		○	
3099			シバンムシ	オオホコリタケシバンムシ	Caenocara tsuchiguri			○
3100				Ernobius属の一種	Ernobius sp.			○
3101				フルホンシバンムシ	Gastrallus immarginatus			○
3102				タバコシバンムシ	Lasioderma serricorne			○
3103				Oligomerus属の一種	Oligomerus sp.			○
3104				オオナガシバンムシ	Priobium cylindricum		○	
3105				ガロアクシヒゲツツシバンムシ	Ptilinus galloisi		○	
3106			カッコウムシ	ホソカッコウムシ	Cladiscus obeliscus			○
3107				ヨツモンチビカッコウムシ	Isoclerus pictus		○	
3108				クロダンダラカッコウムシ	Stigmatium nakanei	○		
3109				ツマグロツツカッコウムシ	Tenerus hilleri			○
3110				キムネツツカッコウムシ	Tenerus maculicollis		○	○
3111				イガラシカッコウムシ	Tillus igarashii	○		
3112			ジョウカイモドキ	コアオジョウカイモドキ	Anhomodactylus eximius		○	
3113				ホソヒメジョウカイモドキ	Attalus elongatulus		○	
3114				クロアオケシジョウカイモドキ	Dasytes japonicus		○	○
3115				ケシジョウカイモドキ	Dasytes vulgaris		○	
3116				クギヌキヒメジョウカイモドキ	Ebaeus oblongulus	○	○	○
3117				ヒロオビジョウカイモドキ	Intybia historio		○	○
3118				キアシオビジョウカイモドキ	Intybia pellegrini pellegrini		○	○
3119				ツマキアオジョウカイモドキ	Malachius prolongatus	○	○	○
3120				ヒメジョウカイモドキ	Nepachys japonicus	○		○
3121			コクヌスト	チビコクヌスト	Latolaeva japonica		○	
3122			ムクゲキスイムシ	アカグロムクゲキスイ	Biphyllus lewisi			○
3123				ハスモンムクゲキスイ	Biphyllus rufopictus	○	○	
3124			キスイモドキ	キスイモドキ	Byturus affinis	○	○	
3125				ズグロキスイモドキ	Byturus atricollis	○	○	○
3126			カクホソカタムシ	アメイロカクホソカタムシ	Philothermus pubens		○	
3127			ツツキノコムシ	ツヤツツキノコムシ	Octotemnus laminifrons			○
				ツツキノコムシ科の一種	Ciidae gen. sp.	○		○
3128			テントウムシ	カメノコテントウ	Aiolocaria hexaspilota			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(36)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3129			テントウムシ	シロトホシテントウ	Calvia decemguttata	○	○	○
3130				ムーアシロホシテントウ	Calvia muiri	○	○	○
3131				シロジュウシホシテントウ	Calvia quatuordecimguttata	○	○	○
3132				シロジュウゴホシテントウ	Calvia quindecimguttata		○	○
3133				ヒメアカホシテントウ	Chilocorus kuwanae	○	○	○
3134				ナナホシテントウ	Coccinella septempunctata	○	○	○
3135				マクガタテントウ	Coccinula crotchi		○	○
3136				フタモンクロテントウ	Cryptogonus orbiculus		○	○
3137				トホシテントウ	Epilachna admirabilis	○		○
3138				オオニジュウヤホシテントウ	Henosepilachna vigintioctomaculata			○
3139				ニジュウヤホシテントウ	Henosepilachna vigintioctopunctata			○
3140				ナミテントウ	Harmonia axyridis	○	○	○
3141				ジュウサンホシテントウ	Hippodamia tredecimpunctata timberlakei			○
3142				ツマフタホシテントウ	Hyperaspis asiatica	○		
3143				フタホシテントウ	Hyperaspis japonica		○	○
3144				キイロテントウ	Illeis koebelei koebelei		○	○
3145				ダンダラテントウ	Menochilus sexmaculatus			○
3146				クロスジチャイロテントウ	Micraspis kiotoensis			○
3147				ウスキホシテントウ	Oenopia hirayamai			○
3148				ヨツボシテントウ	Phymatosternus lewisii			○
3149				ヒメカメノコテントウ	Propylea japonica	○	○	○
3150				ハレヤヒメテントウ	Pseudoscymnus hareja		○	○
3151				オオヒメテントウ	Pseudoscymnus pilicrepus		○	
3152				クビアカヒメテントウ	Pseudoscymnus sylvaticus		○	
3153				アカイロテントウ	Rodolia concolor	○		
3154				ベニヘリテントウ	Rodolia limbata	○		○
3155				ババヒメテントウ	Scymnus babai			○
3156				オニヒメテントウ	Scymnus giganteus			○
3157				クロヘリヒメテントウ	Scymnus hoffmanni		○	○
3158				クロヒメテントウ	Scymnus japonicus	○	○	○
3159				カワムラヒメテントウ	Scymnus kawamurai			○
3160				コクロヒメテントウ	Scymnus posticalis	○	○	○
3161				タカバヤシヒメテントウ	Scymnus takabayashii		○	
				Scymnus属の一種	Scymnus sp.			○
3162				クロツヤテントウ	Serangium japonicum			○
3163				クロテントウ	Telsimia nigra	○	○	
3164				シロホシテントウ	Vibidia duodecimguttata		○	○
3165			ミジンムシ	チャイロミジンムシ	Alloparmulus rugosus		○	
3166				ナカグロミジンムシ	Arthrolips lewisii			○
3167				ムクゲミジンムシ	Sericoderus lateralis	○		
3168			キスイムシ	ケナガセマルキスイ	Atomaria horridula			○
3169				キイロセマルキスイ	Atomaria lewisi	○		
3170				ヨツモンキスイ	Cryptophagus callosipennis			○
3171				ヒゲブトキスイ	Cryptophagus latangulus		○	
3172				マルガタキスイ	Curelius japonicus	○	○	
3173				クロノコムネキスイ	Henoticus japonicus		○	
3174			ヒラタムシ	Uleiota属の一種	Uleiota sp.			○
3175				ヒレルチビヒラタムシ	Xylolestes hilleri			○
3176				セマルチビヒラタムシ	Xylolestes laevior		○	
3177			ミジンムシダマシ	クロミジンムシダマシ	Aphanocephalus hemisphericus	○	○	○
3178			テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	Ancylopus pictus asiaticus	○	○	○
3179				オオダナエテントウダマシ	Danae denticornis		○	
3180				トウヨウダナエテントウダマシ	Danae orientalis	○	○	
3181				カタベニケブカテントウダマシ	Ectomychus basalis			○
3182				クロモンケブカテントウダマシ	Ectomychus musculus			○
3183				ルリテントウダマシ	Endomychus gorhami gorhami			○
3184				ホソツヤヒメマキムシ	Holoparamecus depressus		○	
3185				クリバネツヤテントウダマシ	Lycoperdina castaneipennis	○		
3186				キボシテントウダマシ	Mycetina amabilis	○		
3187				イカリモンテントウダマシ	Mycetina ancoriger			○
3188				キイロテントウダマシ	Saula japonica	○	○	○
3189			オオキノコムシ	カタモンオオキノコムシ	Aulacochilus japonicus	○		○
3190				ルリオオキノコムシ	Aulacochilus sibiricus			○
3191				ヒメオビオオキノコムシ	Episcapha fortunei			○
3192				ミヤマオビオオキノコムシ	Episcapha gorhami			○
3193				カタボシエグリオオキノコムシ	Megalodacne bellula			○
3194				クロハバビロオオキノコムシ	Neotriplax atrata			○
3195				アカハバビロオオキノコムシ	Neotriplax lewisii			○
3196				ツヤヒメオオキノコムシ	Setelia scitula	○		○
3197				カタモンチビオオキノコムシ	Spondotriplax horioi			○
3198				フタホシチビオオキノコムシ	Triplax devia			○
3199				シベリアチビオオキノコムシ	Triplax sibirica connectens			○
3200				ヒシモンチビオオキノコムシ	Tritoma discalis			○
3201				ミツボシチビオオキノコムシ	Tritoma maculifrons			○
3202				クロチビオオキノコムシ	Tritoma niponensis		○	○
3203			オオキスイムシ	ヨツボシオオキスイ	Helota gemmata		○	○
3204			コメツキモドキ	キムネヒメコメツキモドキ	Anadastus atriceps		○	○
3205				ツマグロヒメコメツキモドキ	Anadastus praeustus	○	○	
3206				キイロムクゲオオキノコ	Cryptophilus cryptophagoides		○	
3207				ルイスコメツキモドキ	Languriomorpha lewisi	○	○	○
3208				ナラコメツキモドキ	Languriomorpha nara			○
3209				ケシコメツキモドキ	Microlanguria jansoni		○	○
3210				ケナガマルキスイ	Toramus glisonothoides		○	
3211			ヒメマキムシ	オビケシマキムシ	Corticaria fasciata		○	
3212				ウスチャケシマキムシ	Cortinicara gibbosa	○	○	
3213				ヒラムネヒメマキムシ	Enicmus histrio	○		
3214				ヤマトケシマキムシ	Melanophthalma japonica		○	
3215				ムナボソヒメマキムシ	Stephostethus angusticollis		○	
3216			ケシキスイ	ドウイロムクゲケシキスイ	Aethina aeneipennis			○
3217				クロモンムクゲケシキスイ	Aethina flavicollis		○	
3218				クロモンムクゲケシキスイ	Aethina flavicollis			○
3219				ナガコゲチャケシキスイ	Amphicrossus lewisi	○		○
3220				コクロチビハナケシキスイ	Brachypterus urticae		○	
3221				クロハナケシキスイ	Carpophilus chalybeus	○	○	
3222				クリイロデオキスイ	Carpophilus marginellus			○
3223				ルイスコオニケシキスイ	Cryptarcha lewisi			○
3224				マルマルケシキスイ	Cyllodes semiglobosus		○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(37)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3225			ケシキスイ	カクアシヒラタケシキスイ	Epuraea bergeri	○		
3226				アシマガリヒラタケシキスイ	Epuraea curvipes	○		
3227				セグロヒラタケシキスイ	Epuraea densepunctata	○		
3228				ヘリアカヒラタケシキスイ	Epuraea hisamatsui		○	
3229				ウスモンアカヒラタケシキスイ	Epuraea kyushuensis	○	○	
3230				ナミヒラタケシキスイ	Epuraea pellax	○		
3231				セアカヒメヒラタケシキスイ	Epuraea submicrurula			○
3232				マメヒラタケシキスイ	Haptoncurina paulula	○	○	
3233				ツヤチビヒラタケシキスイ	Haptoncus concolor			○
3234				モンチビヒラタケシキスイ	Haptoncus ocularis	○		○
3235				キイロチビハナケシキスイ	Heterhelus japonicus		○	
3236				コクロヒラタケシキスイ	Ipidia sibirica	○	○	○
3237				クロヒラタケシキスイ	Ipidia variolosa	○		○
3238				ニセアカマダラケシキスイ	Lasiodactylus borealis	○		
3239				アカマダラケシキスイ	Lasiodactylus pictus	○		○
3240				コヨツボシケシキスイ	Librodor ipsoides			○
3241				ヨツボシケシキスイ	Librodor japonicus	○		○
3242				ツツオニケシキスイ	Librodor subcylindricus	○		
3243				キムネチビケシキスイ	Meligethes denticulatus honshuensis		○	
3244				ドウイロチビケシキスイ	Meligethes haroldi	○		
3245				キベリチビケシキスイ	Meligethes violaceus			○
3246				キボシヒラタケシキスイ	Omosita colon		○	
3247				ヘリグロヒラタケシキスイ	Omosita discoidea		○	
3248				キノコヒラタケシキスイ	Physoronia explanata			○
3249				ホコリタケケシキスイ	Pocadiodes japonicus			○
3250				ウスオビカクケシキスイ	Pocadites dilatimanus			○
3251				クロキマダラケシキスイ	Soronia lewisi		○	
3252				マルキマダラケシキスイ	Stelidota multiguttata	○	○	○
3253				カタベニデオキスイ	Urophorus humeralis	○		
3254				チビケシキスイ亜科の一種	Meligethinae gen. sp.	○		
				ケシキスイ科の一種	Nitidulidae gen. sp.	○	○	○
3255			ミジンムシモドキ	ミジンムシモドキ	Phaenocephalus castaneus		○	
3256			ヒメハナムシ	ベニモンアシナガヒメハナムシ	Heterolitus coronatus	○	○	○
3257				キイロアシナガヒメハナムシ	Heterolitus nipponicus		○	
3258				アシナガヒメハナムシ	Heterolitus thoracicus		○	
3259				フタホシヒメハナムシ	Merobrachys bimaculatus	○		○
3260				トビイロヒメハナムシ	Olibrus consanguineus		○	
3261				アカボシチビヒメハナムシ	Stilbus bipustulatus			○
3262				チビヒメハナムシ	Stilbus pumilus		○	
				ヒメハナムシ科の一種	Phalacridae gen. sp.			○
3263			ネスイムシ	コバケデオネスイ	Mimemodes japonus			○
3264				トビイロデオネスイ	Monotoma picipes			○
3265			ホソヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	Psammoecus triguttatus	○		○
3266				ホソヒラタキスイ	Silvanoprus inermis	○		
3267				ミツカドコナヒラタムシ	Silvanoprus scuticollis	○		
3268				フタトゲホソヒラタムシ	Silvanus bidentatus			○
3269				ヒメフタトゲホソヒラタムシ	Silvanus lewisi			○
3270			ニセクビボソムシ	アカバニセクビボソムシ	Aderus rubrivestis	○		
3271				マダラニセクビボソムシ	Phytobaenus amabilis scapularis			○
3272				アシマガリニセクビボソムシ	Pseudolotelus distortus			○
3273				ヤマトニセクビボソムシ	Pseudolotelus japonicus	○		
3274			クチキムシ	オオクチキムシ	Allecula fuliginosa	○	○	○
3275				クチキムシ	Allecula melanaria	○	○	○
3276				ホソクロクチキムシ	Allecula noctivaga			○
3277				ウスイロクチキムシ	Allecula simiola	○	○	○
3278				ホソアカクチキムシ	Allecula tenuis		○	
3279				クリイロクチキムシ	Borboresthes acicularis	○	○	○
3280				トビイロクチキムシ	Borboresthes cruralis		○	
3281			アリモドキ	クロチビアリモドキ	Anthicomorphus niponicus niponicus	○	○	
3282				クロホソアリモドキ	Anthicus baicalicus	○		
3283				アカホソアリモドキ	Stricticomus fugiens	○	○	○
3284				ツヤチビホソアリモドキ	Anthicus laevipennis	○		○
3285				コクロホソアリモドキ	Anthicus pilosus		○	
3286				セマルツヤアリモドキ	Derarimus clavipes	○	○	
3287				ホソクビアリモドキ	Formicomus braminus coiffaiti	○	○	○
3288				キアシクビボソムシ	Macratria japonica		○	○
3289				アカクビボソムシ	Macratria serialis	○	○	○
3290				ヨツボシホソアリモドキ	Stricticomus valgipes	○	○	○
3291				クロホシホソアリモドキ	Sapintus litorosus			○
3292				アカモンホソアリモドキ	Sapintus marseuli			○
3293			ホソカタムシ	ヒメナガセスジホソカタムシ	Bitoma niponia			○
3294				ノコギリホソカタムシ	Endophloeus serratus			○
3295				ヒサゴホソカタムシ	Glyphocryptus brevicollis			○
3296				ツヤナガヒラタホソカタムシ	Pycnomerus vilis	○		○
3297			ハムシダマシ	アオハムシダマシ	Arthromacra decora	○		○
3298				ニセハムシダマシ	Lagria nigricollis	○	○	
3299				ハムシダマシ	Lagria rufipennis	○		○
3300				アラメヒゲブトゴミムシダマシ	Luprops cribrifrons			○
3301				ヒゲブトゴミムシダマシ	Luprops orientalis	○		○
3302				ナガハムシダマシ	Macrolagria rufobrunnea	○	○	○
3303			ナガクチキムシ	オオメホソナガクチキ	Anisoxya ocularis		○	○
3304				アオバナガクチキ	Melandrya gloriosa			○
3305				フタモンヒメナガクチキ	Microtonus dimidiatus		○	○
3306				キスジナガクチキ	Mikadonius gracilis	○		
3307				アヤモンニセハナノミ	Orchesia elegantula			○
3308				アカオビニセハナノミ	Orchesia imitans			○
3309				カバイロニセハナノミ	Orchesia ocularis			○
3310				オオクロホソナガクチキ	Phloeotrya bellicosa			○
3311				キイロホソナガクチキ	Serropalpus barbatus	○		○
3312				ミヤケヒメナガクチキ	Symphora miyakei miyakei		○	
				ナガクチキムシ科の一種	Melandryidae gen. sp.	○		
3313			ツチハンミョウ	Meloe属の一種	Meloe sp.			○
3314			ハナノミ	ナミアカヒメハナノミ	Falsomordellina luteoloides	○		
3315				カタビロヒメハナノミ	Falsomordellistena auromaculata	○		
3316				ハナノヒメハナノミ	Falsomordellistena hananoi		○	
3317				チャイロヒメハナノミ	Glipostenoda rosseola	○		
3318				ミツオホシハナノミ	Hoshihananomia mitsuoi			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(38)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3319			ハナノミ	トゲナシヒメハナノミ	Mordellina atrofusca	○		
3320				チャオビヒメハナノミ	Mordellina brunneotincta		○	○
3321				マエアカヒメハナノミ	Mordellina callichroa		○	
3322				カグヤヒメハナノミ	Mordellina kaguyahime		○	
3323				ヤマモトヒメハナノミ	Mordellina yamamotoi		○	
3324				クロヒメハナノミ	Mordellistena comes	○	○	
3325				セグロヒメハナノミ	Mordellistena fuscosuturalis	○		
3326				シロウズクロヒメハナノミ	Mordellistena shirozui	○		
				Mordellistena属の一種	Mordellistena sp.	○		
3327				アワヒメハナノミ	Pseudotolida awana	○		
				ハナノミ科の一種	Mordellidae gen. sp.		○	○
3328			コキノコムシ	コモンヒメコキノコムシ	Litargus japonicus			○
3329				キュウシュウヒメコキノコムシ	Litargus kyushuensis			○
3330				ヒゲブトコキノコムシ	Mycetophagus antennatus			○
3331				チャイロコキノコムシ	Typhaea stercorea	○		
3332			カミキリモドキ	ハネアカカミキリモドキ	Indasclera brunneipennis		○	
3333				アオグロカミキリモドキ	Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea		○	
3334				モモブトカミキリモドキ	Oedemera lucidicollis lucidicollis	○	○	○
3335				キアシカミキリモドキ	Oedemera manicata		○	○
3336				キイロカミキリモドキ	Nacerdes hilleri hilleri	○	○	○
3337				カトウカミキリモドキ	Nacerdes katoi	○		
3338				キバネカミキリモドキ	Nacerdes luteipennis	○	○	○
3339				アオカミキリモドキ	Nacerdes waterhousei	○	○	○
3340			アカハネムシ	オニアカハネムシ	Pseudopyrochroa japonica		○	○
3341				ムナビロアカハネムシ	Pseudopyrochroa laticollis	○	○	
3342				アカハネムシ	Pseudopyrochroa vestiflua			○
3343			チビキカワムシ	クリイロチビキカワムシ	Lissodema dentatum			○
3344				ツヤチビキカワムシ	Lissodema laevipenne			○
3345			ハナノミダマシ	ホソフナガタハナノミ	Pentaria elongata	○		
3346			ゴミムシダマシ	マルツヤニジゴミムシダマシ	Tetraphyllus scatebrae	○		
3347				ガイマイゴミムシダマシ	Alphitobius diaperinus	○		○
3348				ヒメゴミムシダマシ	Alphitobius laevigatus	○		
3349				ナガニジゴミムシダマシ	Ceropria induta			○
3350				ホソナガニジゴミムシダマシ	Ceropria striata			○
3351				ヒメツノゴミムシダマシ	Cryphaeus duellicus			○
3352				ニセクロホシテントウゴミムシダマシ	Derispia japonicola			○
3353				クロホシテントウゴミムシダマシ	Derispia maculipennis		○	
3354				クビカクシゴミムシダマシ	Dicraeosis bacillus			○
3355				コマルキマワリ	Elixota curva		○	○
3356				ルリゴミムシダマシ	Encyalesthus violaceipennis			○
3357				ズビロキマワリモドキ	Gnesis helopioides helopioides	○	○	○
3358				ヤマトスナゴミムシダマシ	Gonocephalum coenosum	○		
3359				コスナゴミムシダマシ	Gonocephalum coriaceum	○	○	○
3360				ヒメスナゴミムシダマシ	Gonocephalum persimile	○		
3361				カクスナゴミムシダマシ	Gonocephalum recticolle	○		
3362				ホソスナゴミムシダマシ	Gonocephalum sexuale	○	○	
3363				ヒメカクスナゴミムシダマシ	Gonocephalum terminale	○	○	
3364				スジコガシラゴミムシダマシ	Heterotarsus carinula	○		○
3365				コツヤホソゴミムシダマシ	Menephilus lucens			○
3366				クロルリゴミムシダマシ	Metaclisa atrocyanea		○	○
3367				ヒメホソハマベゴミムシダマシ	Micropedinus pallidipennis			○
3368				ツヤヒサゴゴミムシダマシ	Misolampidius okumurai		○	
3369				カブトゴミムシダマシ	Parabolitophagus felix			○
3370				ヒゴキノココミムシダマシ	Platydema higonium			○
3371				マルツヤキノココミムシダマシ	Platydema kurama			○
3372				アオツヤキノココミムシダマシ	Platydema maruseuli			○
3373				クロツヤキノココミムシダマシ	Platydema nigroaeneum			○
3374				ツノボソキノココミムシダマシ	Platydema recticorne		○	
3375				ベニモンキノココミムシダマシ	Platydema subfascia subfascia		○	○
3376				ヒメキマワリ	Plesiophthalmus laevicollis	○		
3377				キマワリ	Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus	○	○	○
3378				ユミアシゴミムシダマシ	Promethis valgipes		○	○
3379				ホソモンツヤゴミムシダマシ	Scaphidema pictipenne			○
3380				ユミアシオオゴミムシダマシ	Setenis valgipes			○
3381				ルリツヤヒメキマワリモドキ	Simalura coerulea			○
3382				ウスイロゴミムシダマシ	Strongylium brevicorne	○		
3383				セスジナガキマワリ	Strongylium cultellatum			○
3384				ヒメマルムネゴミムシダマシ	Tarpela elegantula		○	
3385				コメノゴミムシダマシ	Tenebrio obscurus		○	
3386				ニジゴミムシダマシ	Tetraphyllus lunuliger lunuliger			○
3387				ミツノゴミムシダマシ	Toxicum tricornutum			○
3388				ヒラタコクヌストモドキ	Tribolium confusum	○		
3389				モトヨツコブゴミムシダマシ	Uloma bonzica	○	○	○
3390				ミナミエグリゴミムシダマシ	Uloma excisa nanseiensis			○
3391				ヨツコブゴミムシダマシ	Uloma latimanus	○		
3392				オオエグリゴミムシダマシ	Uloma lewisi		○	
3393				エグリゴミムシダマシ	Uloma marseuli marseuli	○	○	○
				ゴミムシダマシ科の一種	Tenebrionidae gen. sp.		○	
3394			キノコムシダマシ	マダラキノコムシダマシ	Abstrulia japonica			○
3395			カミキリムシ	ビロウドカミキリ	Acalolepta fraudatrix fraudatrix	○	○	○
3396				チャイロヒゲビロウドカミキリ	Acalolepta kusamai	○		
3397				ニセビロウドカミキリ	Acalolepta sejuncta sejuncta		○	
3398				ヒゲナガモモブトカミキリ	Acanthocinus orientalis			○
3399				キマダラカミキリ	Aeolesthes chrysothrix			○
3400				チャバネクロツツカミキリ	Anaesthetis confossicollis		○	
3401				ゴマダラカミキリ	Anoplophora malasiaca	○	○	○
3402				クワカミキリ	Apriona japonica	○	○	
3403				サビカミキリ	Arhopalus coreanus			○
3404				キクスイモドキカミキリ	Asaperda rufipes rufipes			○
3405				マルクビヒラタカミキリ	Asemum amurense		○	
3406				コブスジサビカミキリ	Atimura japonica			○
3407				ヒメスギカミキリ	Callidiellum rufipenne	○		○
3408				ヨコヤマヒメカミキリ	Ceresium holophaeum	○		
3409				エグリトラカミキリ	Chlorophorus japonicus	○	○	○
3410				ハスオビヒゲナガカミキリ	Cleptometopus bimaculatus			○
3411				シラケトラカミキリ	Clytus melaenus			○
3412				アカハナカミキリ	Corymbia succedanea	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(39)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3413			カミキリムシ	キイロトラカミキリ	Grammographus notabilis notabilis		○	○
3414				トゲヒゲトラカミキリ	Demonax transilis	○	○	○
3415				ホタルカミキリ	Dere thoracica		○	○
3416				ヒナルリハナカミキリ	Dinoptera minuta		○	○
3417				ニイジマチビカミキリ	Egesina bifasciana bifasciana			○
3418				ヨツキボシカミキリ	Epiglenea comes	○		○
3419				ヤツメカミキリ	Eutetrapha ocelota			○
3420				クモガタケシカミキリ	Exocentrus fasciolatus			○
3421				ガロアケシカミキリ	Exocentrus galloisi			○
3422				アトモンマルケシカミキリ	Exocentrus lineatus			○
3423				シラホシカミキリ	Glenea relicta relicta	○		○
3424				ミヤマホソハナカミキリ	Idiostrangalia contracta	○		
3425				キバネニセハムシハナカミキリ	Lemula decipiens		○	○
3426				カタキハナカミキリ	Pedostrangalia femoralis	○		
3427				ツマグロハナカミキリ	Leptura modicenotata			○
3428				ヨツスジハナカミキリ	Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata	○	○	○
3429				オオヨツスジハナカミキリ	Bellamira regalis			○
3430				ミヤマカミキリ	Massicus raddei			○
3431				ウスバカミキリ	Megopis sinica sinica			○
3432				ナガゴマフカミキリ	Mesosa longipennis		○	○
3433				ゴマフカミキリ	Mesosa japonica			○
3434				ヒシカミキリ	Microlera ptinoides		○	○
3435				マツノマダラカミキリ	Monochamus alternatus endai			○
3436				ヒメヒゲナガカミキリ	Monochamus subfasciatus subfasciatus		○	
3437				ヘリグロリンゴカミキリ	Nupserha marginella	○	○	○
3438				リンゴカミキリ	Oberea japonica			○
3439				ニセリンゴカミキリ	Oberea mixta	○	○	
3440				ラミーカミキリ	Paraglenea fortunei	○	○	○
3441				キクスイカミキリ	Phytoecia rufiventris			○
3442				チャイロヒメハナカミキリ	Pidonia aegrota aegrota		○	○
3443				ノコギリカミキリ	Prionus insularis insularis	○	○	○
3444				ニセノコギリカミキリ	Prionus sejunctus	○		
3445				キボシカミキリ	Psacothea hilaris hilaris			○
3446				トガリシロオビサビカミキリ	Pterolophia caudata caudata	○		○
3447				アトモンサビカミキリ	Pterolophia granulata	○	○	○
3448				ナカジロサビカミキリ	Pterolophia jugosa jugosa	○		
3449				ヒメナガサビカミキリ	Pterolophia leiopodina	○		○
3450				アトジロサビカミキリ	Pterolophia zonata	○		○
3451				ヘリグロベニカミキリ	Purpuricenus spectabilis	○	○	○
3452				ベニカミキリ	Purpuricenus temminckii	○		
3453				クスベニカミキリ	Pyrestes nipponicus		○	
3454				ヒメクロトラカミキリ	Rhaphuma diminuta diminuta	○	○	○
3455				セミスジコブヒゲカミキリ	Rhodopina lewisii lewisii		○	○
3456				フタオビアラゲカミキリ	Arhopaloscelis bifasciatus			○
3457				ヒトオビアラゲカミキリ	Rhopaloscelis unifasciatus	○	○	○
3458				ケシカミキリ	Sciades tonsus			○
3459				クロカミキリ	Spondylis buprestoides	○		○
3460				トワダムモンメダカカミキリ	Stenhomalus lighti		○	
3461				コウヤホソハナカミキリ	Strangalia koyaensis			○
3462				キボシチビカミキリ	Sybra flavomaculata		○	
3463				クリチビカミキリ	Sybra kuri		○	
3464				ヤハズカミキリ	Uraecha bimaculata bimaculata			○
				カミキリムシ科の一種	Cerambycidae gen. sp.		○	
3465			ハムシ	アカガネサルハムシ	Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii	○		
3466				キクビアオハムシ	Agelasa nigriceps			○
3467				ハンノキハムシ	Agelastica coerulea	○		
3468				ヒメカミナリハムシ	Altica caerulescens	○		○
3469				アザミカミナリハムシ	Altica cirsicola		○	
3470				カミナリハムシ	Altica cyanea			○
3471				スジカミナリハムシ	Altica latericosta		○	
3472				アカバナカミナリハムシ	Altica oleracea		○	
3473				コカミナリハムシ	Altica viridicyanea			○
3474				キイロツブノミハムシ	Aphthona foudrasi		○	
3475				ツブノミハムシ	Aphthona perminuta	○	○	○
3476				サメハダツブノミハムシ	Aphthona strigosa	○	○	○
3477				ホソルリトビハムシ	Aphthonaltica angustata	○	○	
3478				オオキイロマルノミハムシ	Argopus balyi	○		○
3479				オオアカマルノミハムシ	Argopus clypeatus			○
3480				アカイロマルノミハムシ	Argopus punctipennis	○	○	○
3481				ムナグロツヤハムシ	Arthrotus niger	○	○	○
3482				カクムネトビハムシ	Neocrepidodera laevicollis	○		
3483				ウリハムシモドキ	Atrachya menetriesi	○	○	○
3484				ウリハムシ	Aulacophora indica	○	○	○
3485				クロウリハムシ	Aulacophora nigripennis nigripennis	○	○	○
3486				アオバネサルハムシ	Basilepta fulvipes	○	○	○
3487				ムナゲクロサルハムシ	Basilepta hirticollis	○	○	○
3488				ハネナシトビハムシ	Batophila acutangula			○
3489				ネムノキマメゾウムシ	Bruchidius terrenus		○	
3490				シリアカマメゾウムシ	Bruchidius urbanus		○	
3491				チャバラマメゾウムシ	Callosobruchus ademptus			○
3492				ハラグロヒメハムシ	Calomicrus cyaneus	○		○
3493				ヒメジンガサハムシ	Cassida fuscorufa	○		
3494				カメノコハムシ	Cassida nebulosa	○		○
3495				ヒメカメノコハムシ	Cassida piperata	○	○	○
3496				セモンジンガサハムシ	Cassida versicolor		○	○
3497				コガタカメノコハムシ	Cassida vespertina			○
3498				テンサイトビハムシ	Chaetocnema concinna			○
3499				ヒメドウガネトビハムシ	Chaetocnema concinnicollis		○	
3500				キイチゴトビハムシ	Chaetocnema discreta	○	○	○
3501				クサイチゴトビハムシ	Chaetocnema granulosa		○	
3502				ヒサゴトビハムシ	Chaetocnema ingenua	○		
3503				アオバドウガネトビハムシ	Chaetocnema koreana		○	
3504				ムシクソハムシ	Chlamisus spilotus			○
3505				オオサルハムシ	Chrysochus chinensis			○
3506				ヨモギハムシ	Chrysolina aurichalcea	○	○	○
3507				ヤナギハムシ	Chrysomela vigintipunctata			○
3508				サクラサルハムシ	Cleoporus variabilis		○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(40)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3509			ハムシ	ムネミゾヒメツツハムシ	Coenobius sulcicollis			○
3510				ミドリトビハムシ	Crepidodera japonica	○		○
3511				アオバミドリトビハムシ	Crepidodera pluta	○	○	
3512				バラルリツツハムシ	Cryptocephalus approximatus	○	○	○
3513				チビルリツツハムシ	Cryptocephalus confusus	○		
3514				ヨツモンクロツツハムシ	Cryptocephalus nobilis			○
3515				カシワツツハムシ	Cryptocephalus scitulus		○	○
3516				クロボシツツハムシ	Cryptocephalus signaticeps	○	○	○
3517				ヒメキベリトゲハムシ	Dactylispa angulosa		○	○
3518				ヒゴトゲハムシ	Dactylispa higoniae			○
3519				キベリトゲハムシ	Dactylispa masonii	○		○
3520				カタビロトゲハムシ	Dactylispa subquadrata		○	
3521				フタモンアラゲサルハムシ	Demotina bipunctata		○	
3522				チビカサハラハムシ	Demotina decorata		○	
3523				マダラアラゲサルハムシ	Demotina fasciculata	○	○	○
3524				カサハラハムシ	Demotina modesta			○
3525				キバラヒメハムシ	Exosoma flaviventre	○		○
3526				クワハムシ	Fleutiauxia armata	○	○	○
3527				イチゴハムシ	Galerucella grisescens	○	○	○
3528				ジュンサイハムシ	Galerucella nipponensis			○
3529				イタドリハムシ	Gallerucida bifasciata	○	○	○
3530				クルミハムシ	Gastrolina depressa		○	
3531				コガタルリハムシ	Gastrophysa atrocyanea	○		
3532				ヤツボシハムシ	Gonioctena nigroplagiata		○	○
3533				フジハムシ	Gonioctena rubripennis	○	○	○
3534				ヨツキボシハムシ	Hamushia eburata	○		
3535				クロオビカサハラハムシ	Hyperaxis fasciata		○	○
3536				クロセスジハムシ	Japonitata nigrita		○	
3537				ルリクビボソハムシ	Lema cirsicola	○		
3538				キバラルリクビボソハムシ	Lema concinnipennis		○	
3539				トゲアシクビボソハムシ	Lema coronata			○
3540				トホシクビボソハムシ	Lema decempunctata	○		
3541				キオビクビボソハムシ	Lema delicatula		○	
3542				アカクビボソハムシ	Lema diversa	○	○	○
3543				ヤマイモハムシ	Lema honorata	○	○	○
3544				ホソクビナガハムシ	Lilioceris parvicollis	○		
3545				キイロクビナガハムシ	Lilioceris rugata		○	○
3546				アカクビナガハムシ	Lilioceris subpolita			○
3547				セスジトビハムシ	Lipromela minutissima	○		
3548				サシゲトビハムシ	Lipromima minuta		○	○
3549				ルリバネナガハムシ	Liroetis coeruleipennis			○
3550				ズグロアラメハムシ	Lochmaea capreae			○
3551				クロボシトビハムシ	Longitarsus bimaculatus		○	○
3552				イヌノフグリトビハムシ	Longitarsus holsaticus	○	○	
3553				オオバコトビハムシ	Longitarsus scutellaris	○	○	○
3554				ヨモギトビハムシ	Longitarsus succineus	○	○	
3555				クビアカトビハムシ	Luperomorpha pryeri		○	○
3556				キアシノミハムシ	Luperomorpha tenebrosa			○
3557				クロウスバハムシ	Luperus moorii		○	
3558				セスジケブカサルハムシ	Lypesthes kiiensis	○		
3559				フタスジヒメハムシ	Medythia nigrobilineata			○
3560				セマルトビハムシ	Minota nigropicea			○
3561				ホタルハムシ	Monolepta dichroa		○	○
3562				アオバアシナガハムシ	Monolepta fulvicollis	○		
3563				キイロクワハムシ	Monolepta pallidula	○	○	○
3564				イチモンジハムシ	Morphosphaera japonica		○	
3565				アオガネヒメサルハムシ	Nodina chalcosoma			○
3566				ルリマルノミハムシ	Nonarthra cyanea	○	○	○
3567				コマルノミハムシ	Nonarthra tibialis			○
3568				ルリチビカミナリハムシ	Ogloblinia berberii			○
3569				ドウガネツヤハムシ	Oomorphoides cupreatus	○	○	○
3570				ヒメツヤハムシ	Oomorphus japanus	○		○
3571				ブタクサハムシ	Ophraella communa			○
3572				キアシクビボソハムシ	Oulema tristis			○
3573				Pachybrachis属の一種	Pachybrachis sp.			○
3574				ヒメキバネサルハムシ	Pagria signata	○	○	○
3575				アトボシハムシ	Paridea angulicollis	○	○	○
3576				ヨツボシハムシ	Paridea quadriplagiata	○	○	○
3577				ダイコンサルハムシ	Phaedon brassicae	○	○	
3578				タマアシトビハムシ	Philopona vibex	○	○	
3579				チャバネツヤハムシ	Phygasia fulvipennis			○
3580				チュウジョウキスジノミハムシ	Phyllotreta chujoe			○
3581				ヤナギルリハムシ	Plagiodera versicolora			○
3582				アカソハムシ	Potaninia cyrtonoides	○		
3583				フタホシオオノミハムシ	Pseudodera xanthospila			○
3584				ナスナガスネトビハムシ	Psylliodes angusticollis			○
3585				ルリナガスネトビハムシ	Psylliodes brettinghami		○	○
3586				ナトビハムシ	Psylliodes punctifrons		○	○
3587				エグリバケブカハムシ	Pyrrhalta esakii			○
3588				サンゴジュハムシ	Pyrrhalta humeralis			○
3589				ハシバミハムシ	Pyrrhalta lineola		○	
3590				ニレハムシ	Pyrrhalta maculicollis		○	○
3591				アカタデハムシ	Pyrrhalta semifulva			○
3592				カエデハムシ	Pyrrhalta seminigra	○		
3593				ドウガネサルハムシ	Scelodonta lewisii	○	○	○
3594				キイロナガツツハムシ	Smaragdina nipponensis	○		○
3595				ムナキルリハムシ	Smaragdina semiaurantiaca	○	○	○
3596				シリアカタマノミハムシ	Sphaeroderma abdominale		○	
3597				アカバネタマノミハムシ	Sphaeroderma nigricolle			○
3598				キイロタマノミハムシ	Sphaeroderma unicolor		○	○
3599				ルリウスバハムシ	Stenoluperus cyaneus			○
3600				ヒゲナガウスバハムシ	Stenoluperus nipponensis	○		
3601				クロバヒゲナガハムシ	Taumacera tibialis		○	
3602				イチモンジカメノコハムシ	Thlaspida cribrosa	○	○	○
3603				ルイスジンガサハムシ	Thlaspida lewisii	○		
3604				トビサルハムシ	Trichochrysea japana	○		○
3605				キカサハラハムシ	Xanthonia placida	○	○	

表 陸上昆虫類等確認種リスト(41)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3606			ハムシ	ムナグロナガハムシ	Zeugophora bicolor		○	
3607				アラハダトビハムシ	Zipangia lewisi	○		
3608				チビカミナリハムシ	Zipanginia picipes		○	
3609			ヒゲナガゾウムシ	Araecerus属の一種	Araecerus sp.			○
3610				スネアカヒゲナガゾウムシ	Autotropis distinguenda	○	○	○
3611				ゴマノミヒゲナガゾウムシ	Choragus cissoides		○	
3612				キノコヒゲナガゾウムシ	Euparius oculatus oculatus			○
3613				ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	Ozotomerus japonicus	○		○
3614				シリジロメナガヒゲナガゾウムシ	Phaulimia confinis		○	○
3615				シロヒゲナガゾウムシ	Platystomos sellatus			○
3616				クロフヒゲナガゾウムシ	Tropideres roelofsi			○
3617				キアシチビヒゲナガゾウムシ	Uncifer pectoralis		○	
3618				ウスグロチビヒゲナガゾウムシ	Uncifer truncatus	○		
				Uncifer属の一種	Uncifer sp.			○
3619				ナガフトヒゲナガゾウムシ	Xylinada striatifrons			○
				ヒゲナガゾウムシ科の一種	Anthribidae gen. sp.			○
3620			ホソクチゾウムシ	マメホソクチゾウムシ	Pseudopiezotrachelus collaris	○	○	○
3621				キヒゲホソクチゾウムシ	Eutrichapion ervi		○	
3622				ケブカホソクチゾウムシ	Sergiola griseopubescens			○
3623				ヒレルホソクチゾウムシ	Sergiola hilleri		○	○
3624				アカクチホソクチゾウムシ	Microconapion pallidirostre		○	○
3625				ヒゲナガホソクチゾウムシ	Pseudopirapion placidum		○	○
3626				ギシギシホソクチゾウムシ	Perapion violaceum			○
				Apion属の一種	Apion sp.			○
3627				モンチビゾウムシ	Nanophyes pallipes		○	
3628			オトシブミ	ウスモンオトシブミ	Apoderus balteatus		○	○
3629				ヒメクロオトシブミ	Apoderus erythrogaster	○	○	○
3630				ブドウハマキチョッキリ	Bycticus lacunipennis	○	○	
3631				モンケシツブチョッキリ	Auletobius submaculatus		○	
3632				クロケシツブチョッキリ	Auletobius uniformis	○	○	○
3633				ファウストハマキチョッキリ	Bycticus fausti	○		○
3634				サメハダハマキチョッキリ	Bycticus rugosus			○
3635				イタヤハマキチョッキリ	Bycticus venustus			○
3636				エゴツルクビオトシブミ	Cycnotrachelus roelofsi			○
3637				ルリイクビチョッキリ	Deporaus mannerheimi			○
3638				チビイクビチョッキリ	Deporaus minimus			○
3639				コナライクビチョッキリ	Deporaus unicolor	○		○
3640				ホソチョッキリ	Eugnamptus aurifrons	○		○
3641				ナラルリオトシブミ	Euops konoi			○
3642				ハギルリオトシブミ	Euops lespedezae lespedezae	○		
3643				ルリオトシブミ	Euops punctatostriatus	○		
3644				カシルリオトシブミ	Euops splendidus	○	○	○
3645				リュイスアシナガオトシブミ	Henicolabus lewisii		○	
3646				オオケブカチョッキリ	Haplorhynchites amabilis	○		○
3647				ヒメケブカチョッキリ	Involvulus pilosus	○		○
3648				ハイイロチョッキリ	Cyllorhynchites ursulus			○
3649				アカクビナガオトシブミ	Centrocorynus nigricollis			○
3650				ヒゲナガオトシブミ	Paracycnotrachelus longicornis	○	○	
3651				アシナガオトシブミ	Phialodes rufipennis	○		○
3652				ヒメコブオトシブミ	Phymatapoderus pavens	○	○	○
				オトシブミ科の一種	Attelabidae gen. sp.	○		
3653			ゾウムシ	ウスモンカレキゾウムシ	Acicnemis palliata		○	
3654				ナカスジカレキゾウムシ	Acicnemis suturalis	○		
3655				トゲアシゾウムシ	Anosimus decoratus			○
3656				イチゴハナゾウムシ	Anthonomus bisignifer	○		○
3657				ホソヒメカタゾウムシ	Asphalmus japonicus	○	○	○
3658				クワヒメゾウムシ	Moreobaris deplanata		○	
3659				エゾヒメゾウムシ	Baris ezoana			○
3660				タテスジアカヒメゾウムシ	Moreobaris rubricata			○
3661				チビメナガゾウムシ	Calomycterus setarius		○	
3662				ツツクチカクシゾウムシ	Cechania eremita		○	
3663				ツヤチビヒメゾウムシ	Centrinopsis nitens		○	○
3664				ダイコンサルゾウムシ	Ceutorhynchus albosuturalis		○	○
3665				アササルゾウムシ	Ceutorhynchus rubripes		○	
3666				カナムグラサルゾウムシ	Cardipennis shaowuensis			○
				Ceutorhynchus属の一種	Ceutorhynchus sp.			○
3667				クロタマゾウムシ	Cionus helleri			○
3668				ハスジゾウムシ	Cleonis japonica japonica	○		
3669				チャイロアカサルゾウムシ	Coeliodinus brunneus	○	○	
3670				オビアカサルゾウムシ	Coeliodes nakanoensis		○	
3671				マダラクチカクシゾウムシ	Cryptorhynchus electus	○		
3672				ハスジクチカクシゾウムシ	Cryptorhynchus fasciculatus	○		
3673				ツバキシギゾウムシ	Curculio camelliae		○	○
3674				コナラシギゾウムシ	Curculio dentipes	○		
3675				チャバネセダカシギゾウムシ	Curculio fulvipennis		○	
3676				ジュウジチビシギゾウムシ	Archarius pictus		○	
3677				レロフチビシギゾウムシ	Archarius roelofsi			○
3678				クリシギゾウムシ	Curculio sikkimensis		○	○
				Curculio属の一種	Curculio sp.			○
3679				クリイロクチブトゾウムシ	Cyrtepistomus castaneus			○
3680				エトロフイネゾウモドキ	Dorytomus etorofuensis		○	
3681				クリアナアキゾウムシ	Pimelocerus exsculptus			○
3682				リンゴアナアキゾウムシ	Pimelocerus shikokuensis		○	
3683				マダラアシゾウムシ	Ectatorhinus adamsii	○		
3684				クワゾウムシ	Episomus mundus	○		
3685				シロコブゾウムシ	Episomus turritus	○		
3686				コフキゾウムシ	Eugnathus distinctus	○	○	
3687				アシナガオニゾウムシ	Gasterocercus longipes	○	○	
3688				チャバネキクイゾウムシ	Kojimazo lewisi		○	○
3689				タデトゲサルゾウムシ	Homorosoma asperum	○		○
3690				カナムグラトゲサルゾウムシ	Homorosoma chinense			○
3691				マツアナアキゾウムシ	Hylobius haroldi	○	○	○
3692				ハコベタコゾウムシ	Hypera basalis		○	
3693				ツメクサタコゾウムシ	Hypera nigrirostris		○	
3694				アルファルファタコゾウムシ	Hypera postica			○
3695				コブノコギリゾウムシ	Ixalma dentipes			○
3696				イネミズゾウムシ	Lissorhoptrus oryzophilus	○		○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(42)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3697			ゾウムシ	ヤサイゾウムシ	Listroderes costirostris			○
3698				ハスジカツオゾウムシ	Lixus acutipennis	○		○
3699				ミヤマヒシガタクモゾウムシ	Lobotrachelus minor		○	
3700				ウスアオクチブトゾウムシ	Myllocerus elegantulus		○	
3701				オオクチブトゾウムシ	Myllocerus variabilis		○	○
3702				マツオオキクイゾウムシ	Macrorhyncolus crassiusculus	○		○
3703				チビクロツツキクイゾウムシ	Magdalis ruficornis		○	
3704				アラムネクチカクシゾウムシ	Monaulax rugicollis			○
3705				ツツジトゲムネサルゾウムシ	Mecysmoderes fulvus		○	○
3706				ホホジロアシナガゾウムシ	Merus erro			○
3707				キスジアシナガゾウムシ	Merus flavosignatus			○
3708				カシアシナガゾウムシ	Merus piceus	○		○
3709				オジロアシナガゾウムシ	Ornatalcides trifidus	○	○	○
3710				コヒラセクモゾウムシ	Metialma pusilla			○
				Metialma属の一種	Metialma sp.			○
3711				ケナガサルゾウムシ	Trichocoeliodes excavatus	○		
3712				ケブカクチブトゾウムシ	Myllocerus fumosus		○	
3713				カシワクチブトゾウムシ	Myllocerus griseus	○	○	○
3714				クロホシクチブトゾウムシ	Myllocerus nigromaculatus			○
				Myllocerus属の一種	Myllocerus sp.			○
3715				チビヒョウタンゾウムシ	Myosides seriehispidus	○	○	
				Myosides属の一種	Myosides sp.			○
3716				クロコブゾウムシ	Niphades variegatus			○
3717				チビアナアキゾウムシ	Nipponiphades foveolatus	○		
3718				タカオマルクチカクシゾウムシ	Orochlesis takaosanus			○
3719				Otibazo属の一種	Otibazo sp.		○	
3720				オオミスジマルゾウムシ	Phaeopholus major	○		
3721				Phillobius属の一種	Phillobius sp.			○
3722				ワシバナヒメキクイゾウムシ	Phloeophagosoma curvirostre		○	○
3723				ツノクモゾウムシ	Phylaitis maculiventris		○	
3724				コヒゲボソゾウムシ	Phyllobius brevitarsis		○	
3725				ヒラズネヒゲボソゾウムシ	Phyllobius intrusus		○	
3726				ウスイロヒゲボソゾウムシ	Phyllobius mundus		○	
3727				クチブトヒゲボソゾウムシ	Phyllobius polydrusoides		○	
				Phyllobius属の一種	Phyllobius sp.	○		○
3728				オオキボシゾウムシ	Pissodes galloisi	○		
3729				スグリゾウムシ	Pseudocneorhinus bifasciatus			○
3730				カキゾウムシ	Pseudocneorhinus obesus		○	
3731				アカナガクチカクシゾウムシ	Rhadinomerus annulipes	○		○
3732				マツアラハダクチカクシゾウムシ	Rhadinopus confinis	○		
3733				アラハダクチカクシゾウムシ	Rhadinopus sulcatostriatus	○		○
3734				アカアシクチブトサルゾウムシ	Rhinoncus cribricollis			○
3735				ギシギシクチブトサルゾウムシ	Rhinoncus jakovlevi		○	
3736				タデノクチブトサルゾウムシ	Rhinoncus sibiricus		○	○
3737				カシワノミゾウムシ	Orchestes japonicus	○		○
3738				マダラノミゾウムシ	Orchestes nomizo		○	
3739				ムネスジノミゾウムシ	Orchestes amurensis			○
3740				ウスモンノミゾウムシ	Orchestes variegatus			○
				Rhynchaenus属の一種	Rhynchaenus sp.	○		
3741				チュウジョウアナアキゾウムシ	Seleuca chujoi chujoi			○
3742				マツノシラホシゾウムシ	Shirahoshizo insidiosus			○
3743				コマツノシラホシゾウムシ	Shirahoshizo pini		○	
3744				ニセマツノシラホシゾウムシ	Shirahoshizo rufescens	○		○
3745				Simulatacalles属の一種	Simulatacalles sp.			○
3746				クロツブゾウムシ	Sphinxis koikei		○	
3747				イタヤクチブトキクイゾウムシ	Stenoscelis aceri		○	
3748				コブハナゾウムシ	Anthonomus dorsalis		○	
3749				コウノヒメクモゾウムシ	Telephae konoi		○	
3750				イコマケシツチゾウムシ	Trachyphloeosoma advena		○	
3751				ケシツチゾウムシ	Trachyphloeosoma setosum		○	
3752				アキヨシチビツチゾウムシ	Trachyphilus troglodytes		○	
3753				クロツヤサルゾウムシ	Wagnerinus costatus	○	○	
3754				アルマンサルゾウムシ	Wagnerinus harmandi		○	
3755				カレキゾウムシ亜科の一種	Acicnemidinae gen. sp.		○	
				ゾウムシ科の一種	Curculionidae gen. sp.	○	○	○
3756			オサゾウムシ	ササコクゾウムシ	Diocalandra sasa	○		
3757				オオゾウムシ	Sipalinus gigas	○	○	○
3758				シバオサゾウムシ	Sphenophorus venatus vestitus			○
3759			キクイムシ	シラカシノキクイムシ	Acanthotomicus spinosus		○	
3760				キイロコキクイムシ	Cryphalus fulvus		○	
3761				アトマルキクイムシ	Dryocoetes rugicollis	○		
3762				トドマツアトマルキクイムシ	Dryocoetes striatus		○	
3763				ウスイロキクイムシ	Hylurgops palliatus	○		
3764				ヒバノコキクイムシ	Phloeosinus lewisi		○	
3765				ヒノキノキクイムシ	Phloeosinus rudis	○		
3766				トウヒノヒメキクイムシ	Pityophthorus jucundus	○		
3767				クリノミキクイムシ	Poecilips cardamomi	○		
3768				ケブカキクイムシ	Poecilips nubilus	○		
3769				トドマツノキクイムシ	Polygraphus proximus		○	
3770				ミカドキクイムシ	Scolytoplatypus mikado			○
3771				マツノコキクイムシ	Tomicus minor	○		
3772				ツヤナシキクイムシ	Xyleborus adumbratus	○		
3773				クワノキクイムシ	Xyleborus atratus		○	
3774				アカガシノキクイムシ	Xyleborus concisus	○		
3775				シイノホソキクイムシ	Xyleborus defensus		○	
3776				カドヤマキクイムシ	Xyleborus kadoyamensis		○	
3777				アカクビキクイムシ	Xyleborus rubricollis	○	○	
3778				ハンノスジキクイムシ	Xyleborus seriatus	○		
3779				トドマツオオキクイムシ	Xyleborus validus	○	○	
3780				サクキクイムシ	Xylosandrus crassiusculus		○	
3781				ハンノキキクイムシ	Xylosandrus germanus	○	○	
				キクイムシ科の一種	Scolytidae gen. sp.	○	○	○
			―	コウチュウ目の一種	Coleoptera fam. gen. sp.	○		
3782		ハチ	ミフシハバチ	アカスジチュウレンジ	Arge nigrinodosa		○	○
3783				チュウレンジバチ	Arge pagana	○	○	○
3784				ルリチュウレンジ	Arge similis	○		○
3785			コンボウハバチ	アカガネコンボウハバチ	Abia iridescens			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(43)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3786			コンボウハバチ	ホシアシブトハバチ	Agenocimbex jucunda	○		
3787				シマコンボウハバチ	Praia ussuriensis	○		
3788			マツハバチ	マツノキハバチ	Neodiprion sertifera		○	
3789			ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ	Stiricorsia tosensis	○		
3790			キバチ	ニホンキバチ	Urocerus japonicus			○
3791			ハバチ	ハグロハバチ	Allantus luctifer	○		○
3792				サクラセグロハバチ	Allantus nakabusensis		○	
3793				メスグロシダハバチ	Alphostromboceros konowi		○	
3794				ワラビハバチ	Aneugmeus kiotonis			○
3795				セグロカブラハバチ	Athalia infumata	○	○	○
3796				ニホンカブラハバチ	Athalia japonica	○	○	○
3797				カブラハバチ	Athalia rosae ruficornis			○
3798				クシヒゲハバチ	Cladius pectinicornis	○	○	
3799				フジコシジロハバチ	Corymbas fujisana			○
3800				フトコシジロハバチ	Corymbas nipponica		○	○
3801				オスグロハバチ	Dolerus similis japonicus			○
3802				スギナハバチ	Dolerus subfasciatus		○	
3803				コガシラハバチ	Empronus obsoletus	○		
3804				イハバチ	Eutomostethus apicalis	○	○	
3805				ハンノハムグリハバチ	Fenusa dohrni		○	
3806				アカネハバチ	Hemibeleses nigriceps		○	
3807				クロムネハバチ	Lagidina irritans			○
3808				カタアカスギナハバチ	Loderus genucinctus insulicola			○
3809				コマルクロハバチ	Macrophya crassuliformis		○	○
3810				クロハバチ	Macrophya ignava	○	○	○
3811				マライセクロハバチ	Macrophya malaisei malaisei		○	
3812				フトクロハバチ	Macrophya obesa		○	
3813				ローベルクロハバチ	Macrophya rohweri			○
				Macrophya属の一種	Macrophya sp.	○		
3814				チャイロハバチ	Nesotaxonus flavescens	○		
3815				ルイスアカマルハバチ	Nesotomostethus lewisii		○	
3816				キムネシマハバチ	Pachyprotasis antennata		○	
3817				フキシマハバチ	Pachyprotasis fukii		○	
3818				クロイロシマハバチ	Pachyprotasis rapae		○	
3819				セリシマハバチ	Pachyprotasis serii		○	
				Pachyprotasis属の一種	Pachyprotasis sp.			○
3820				イワガラミハバチ	Perineura pictipennis		○	
3821				ヒゲナガマルハバチ	Phymatoceropsis japonica		○	
3822				ミネヤナギタマハバチ	Pontania biridgmanii	○		
3823				ヘビイチゴハバチ	Priophorus nigricans		○	
3824				トムソンハムグリハバチ	Profenusa thomsoni		○	○
3825				オオコシアカハバチ	Siobla ferox			○
3826				サクツクリハバチ	Stauronematus compressicornis		○	
3827				ゼンマイハバチ	Strongylogaster osmundae	○	○	
3828				ナガゼンマイハバチ	Strongylogaster secunda		○	
3829				ダイズハバチ	Takeuchiella pentagona		○	
3830				ツマジロクロハバチ	Taxonus minomensis	○	○	
3831				モンクロキハバチ	Taxonus nigromaculatus	○		
3832				ヒゲジロコシアカハバチ	Tenthredo dentina		○	
3833				ヤマブキハバチ	Tenthredo fukaii		○	
3834				キコシホソハバチ	Tenthredo mortivaga		○	○
3835				オオツマグロハバチ	Tenthredo providens	○		
3836				ビビダハバチ	Tenthredo eduardi			○
				Tenthredo属の一種	Tenthredo sp.			○
3837				ヤチダモハバチ	Tomostethus nigritus		○	○
				ハバチ科の一種	Tenthredinidae gen. sp.	○	○	○
3838			コマユバチ	サクラスカシサムライコマユバチ	Apanteles conopiae		○	
3839				モモクロサムライコマユバチ	Apanteles conspersae	○	○	
3840				オビカレハサムライコマユバチ	Apanteles gastropachae	○	○	
3841				アオムシサムライコマユバチ	Apanteles glomeratus	○	○	
3842				クワノメイガサムライコマユバチ	Apanteles kurosawai	○	○	
3843				ブランコサムライコマユバチ	Apanteles liparidis	○		
3844				モモスズメサムライコマユバチ	Apanteles miyoshii		○	
3845				ヨトウサムライコマユバチ	Apanteles tibialis	○		
3846				キタカミキリコマユバチ	Atanycolus initiator		○	
3847				マツムラベッコウコマユバチ	Braunsia matsumurai			○
3848				ムナカタコウラコマユバチ	Chelonus munakatae	○	○	
3849				ヒメコウラコマユバチ	Chelonus pectinophorae	○	○	
3850				ワタノメイガコウラコマユバチ	Chelonus tabonus	○	○	
3851				クロヒゲアカコマユバチ	Cremnops atricornis	○		
3852				アメイロコンボウコマユバチ	Homolobus annulicornis	○		
3853				ヒゲナガコマユバチ	Macrocentrus linearis	○	○	
3854				クロヒゲナガコマユバチ	Macrocentrus marginator	○	○	
3855				サラサヒトリハラボソコマユバチ	Meteorus camptolomae	○	○	
3856				ハルカワハラボソコマユバチ	Microctonus vittatae		○	
3857				クロオオサムライコマユバチ	Microgaster globatus		○	
3858				アオモリコマユバチ	Microgaster russatus	○	○	
3859				タテハオオサムライコマユバチ	Microgaster tibialis		○	
3860				ヨトウオオサムライコマユバチ	Microplitis mediator	○	○	
3861				ヒメキイロコウラコマユバチ	Phanerotoma planifrons	○	○	
3862				ハバチキバラコマユバチ	Proterops nigripennis	○		
3863				カモドキバチ	Rogas japonicus		○	
3864				ムナグロハラボソコマユバチ	Streblocera nigrithoracica	○		
3865				モモブトソノコマユバチ	Wroughtonia ruspator	○		
3866				オオアメイロコンボウコマユバチ	Xiphozele compressiventris	○	○	
				コマユバチ科の一種	Braconidae gen. sp.	○	○	○
3867			ヒメバチ	チビフシオナガヒメバチ	Acropimpla pictipes	○	○	
3868				キアシオナガトガリヒメバチ	Acroricnus ambulator ambulator	○		
3869				イヨヒメバチ	Amblyjoppa proteus satanas		○	
3870				ハラボソトガリヒメバチ	Apachia tenuiabdominalis		○	
3871				シロモンヒラタヒメバチ	Coccygomimus alboannulatus	○		
3872				チビキアシヒラタヒメバチ	Coccygomimus nipponicus	○	○	
3873				コンボウケンヒメバチ	Coleocentrus incertus	○		
3874				クロモンアメバチ	Dicamptus nigropictus	○		
3875				ムラサキウスアメバチ	Dictyonotus purpurascens			○
3876				クロヒラタアブヤドリバチ	Diplazon tibiatorius		○	
3877				アソハネナシヒメバチ	Gelis asozanus	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(44)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3878			ヒメバチ	コンボウアメバチ	Habronyx insidiator	○		
3879				カラフトコンボウアメバチ	Heteropelma amictum	○		
3880				シロスジヒラタアブヤドリバチ	Homotropus tarsatorius		○	
3881				サキマダラヒメバチ	Ichneumon tibialis	○		
3882				マツケムシヒラタヒメバチ	Itoplectis alternans spectabilis	○	○	
3883				アオムシヒラタヒメバチ	Itoplectis naranyae		○	○
3884				オオホシオナガバチ	Megarhyssa praecellens			○
3885				キオビコシブトヒメバチ	Metopius browni		○	
3886				マダラホソトガリヒメバチ	Nematopodius oblongs	○	○	
3887				セアカヒメバチ	Neotypus iwatensis	○	○	
3888				ヨトウアメバチモドキ	Netelia ocellaris	○	○	
3889				ホシクロトガリヒメバチ	Nippocryptus vittatorius		○	
3890				タカオウスグロアメバチ	Ophion takaozanus		○	
3891				クロヒゲアオヒメバチ	Platylabus nigricornis	○		
3892				ツマグロケンヒメバチ	Spilopteron apicalis		○	
3893				マダラオオアメバチ	Stauropoctonus bombycivorus variegatus	○		
3894				シラホシオナガバチ	Sychnostigma japonicum	○		
3895				チャイロツヤヒラタヒメバチ	Theronia atalantae gestator	○		
3896				アシブトクロトガリヒメバチ	Torbda uchidai	○		
3897				ミノオキイロヒラタヒメバチ	Xanthopimpla clavata			○
				ヒメバチ科の一種	Ichneumonidae gen. sp.	○	○	○
3898			ハラビロクロバチ	クワコナカイガラクロバチ	Allotropa burrelli	○		
3899			シリボソクロバチ	ワタナベシリボソクロバチ	Nothoserphus afissae		○	
				シリボソクロバチ科の一種	Proctotrupidae gen. sp.		○	
3900			タマゴクロバチ	マツケムシクロタマゴバチ	Telenomus dendrolimi		○	
3901				ズイムシクロタマゴバチ	Telenomus dignus	○		
3902				ギフクロタマゴバチ	Telenomus gifuensis	○		
3903				ミツクリクロタマゴバチ	Trissolcus mitsukurii	○	○	
				タマゴクロバチ科の一種	Scelionidae gen. sp.	○	○	
3904			ツヤコバチ	ワタムシヤドリコバチ	Aphelinus mali	○		
3905				タケシロマルクロムネツヤコバチ	Coccobius odonaspidis	○		
				ツヤコバチ科の一種	Aphelinidae gen. sp.	○	○	
3906			アシブトコバチ	アシアカツヤアシブトコバチ	Antrocephalus dividens		○	
3907				チビツヤアシブトコバチ	Antrocephalus japonicus		○	
3908				キアシブトコバチ	Brachymeria lasus	○	○	○
3909				ハネジロアシブトコバチ	Epitranus albipennis	○	○	
				アシブトコバチ科の一種	Chalcididae gen. sp.		○	
3910			トビコバチ	ヒメタマカイガラトビコバチ	Aenasioidea tenuicornis	○		
3911				タケシロオカイガラトビコバチ	Anagyrus antoninae		○	
3912				ルビーアカヤドリトビコバチ	Anicetus beneficus	○		
3913				アクレルダクトビコバチ	Boucekiella depressa		○	
3914				ルリコナカイガラトビコバチ	Clausenia purpurea	○	○	
3915				ヒゲトビコバチ	Encyrtus lecaniorum		○	
3916				ヒラタカイガラキイロトビコバチ	Microterys flavus		○	
3917				ミカンワタカイガラトビコバチ	Microterys ishiii		○	
				トビコバチ科の一種	Encyrtidae gen. sp.	○	○	
3918			アリヤドリコバチ	アリヤドリコバチ科の一種	Eucharitidae gen. sp.		○	
3919			ヒメコバチ	オジマコバチ	Cirrospilus pictus	○		
3920				フカイウスマユヒメコバチ	Euplectrus fukaii		○	
3921				アナバチクロヒラタコバチ	Melittobia clavicornis	○		
				ヒメコバチ科の一種	Eulophidae gen. sp.		○	
3922			ナガコバチ	マツケムシハネミジカタマゴバチ	Anastatus gastropachae	○	○	
				ナガコバチ科の一種	Eupelmidae gen. sp.		○	
3923			カタビロコバチ	マダケコバチ	Gahaniola phyllostachitis		○	
				カタビロコバチ科の一種	Eurytomidae gen. sp.		○	
3924			コガネコバチ	キョウソヤドリコバチ	Nasonia vitripennis	○		
3925				ヒラタアブコガネコバチ	Pachyneuron formosum	○		
3926				アオムシコバチ	Pteromalus puparum	○		
				コガネコバチ科の一種	Pteromalidae gen. sp.	○	○	
3927			オナガコバチ	オナガコバチ科の一種	Torymidae gen. sp.		○	
3928			コバチ上科	コバチ上科の一種	Chalcidoidae gen. sp.		○	
3929			タマバチ	タマバチ科の一種	Cynipidae gen. sp.		○	
3930			ヒラタタマバチ	ヒラタタマバチ科の一種	Ibalidae gen. sp.		○	
3931			アリガタバチ	ハマキアリガタバチ	Goniozus japonicus			○
3932				コメツキアリガタバチ	Pristocera japonica			○
3933			セイボウ	リンネセイボウ	Chrysis ignita			○
3934				ミドリセイボウ	Praestochrysis lusca			○
3935			アリ	ノコギリハリアリ	Amblyopone silvestrii	○		
3936				アシナガアリ	Aphaenogaster famelica	○	○	○
3937				ヤマトアシナガアリ	Aphaenogaster japonica	○	○	○
3938				オオハリアリ	Pachycondyla chinensis	○	○	○
3939				アメイロオオアリ	Camponotus devestivus	○		
3940				イトウオオアリ	Camponotus itoi		○	
3941				クロオオアリ	Camponotus japonicus	○	○	○
3942				クサオオアリ	Camponotus keihitoi	○		
3943				ミカドオオアリ	Camponotus kiusiuensis	○	○	○
3944				ナワヨツボシオオアリ	Camponotus nawai	○	○	○
3945				ケブカツヤオオアリ	Camponotus nipponensis	○	○	○
3946				ヒラズオオアリ	Camponotus nipponicus		○	○
3947				ムネアカオオアリ	Camponotus obscuripes	○	○	○
3948				ヨツボシオオアリ	Camponotus quadrinotatus	○	○	○
3949				ウメマツオオアリ	Camponotus vitiosus	○	○	○
3950				ヤマヨツボシオオアリ	Camponotus yamaokai	○		
				Camponotus属の一種	Camponotus sp.		○	
3951				ツヤシリアゲアリ	Crematogaster nawai	○	○	
3952				ハリブトシリアゲアリ	Crematogaster matsumurai	○	○	○
3953				クボミシリアゲアリ	Crematogaster vagula		○	
3954				キイロシリアゲアリ	Crematogaster osakensis	○	○	○
3955				テラニシシリアゲアリ	Crematogaster teranishii	○	○	○
				Crematogaster属の一種	Crematogaster sp.		○	
3956				トゲズネハリアリ	Cryptopone sauteri			○
3957				ハヤシクロヤマアリ	Formica hayashi	○	○	○
3958				クロヤマアリ	Formica japonica	○	○	○
3959				シベリアカタアリ	Dolichoderus sibiricus	○	○	○
3960				ニセハリアリ	Hypoponera sauteri			○
3961				ルリアリ	Ochetellus glaber	○	○	○
3962				クロクサアリ	Lasius nipponensis	○		

表 陸上昆虫類等確認種リスト(45)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
3963			アリ	ハヤシケアリ	Lasius hayashi	○		
3964				ヒゲナガアメイロケアリ	Lasius meridionalis	○		
3965				トビイロケアリ	Lasius japonicus	○	○	○
3966				クサアリモドキ	Lasius spathepus		○	○
3967				アメイロケアリ	Lasius umbratus	○	○	○
				Lasius属の一種	Lasius sp.		○	
3968				ムネボソアリ	Temnothorax congruus		○	○
3969				ハリナガムネボソアリ	Temnothorax spinosior		○	○
3970				ハヤシムネボソアリ	Temnothorax makora		○	
3971				ミゾガシラアリ	Lordomyrma azumai	○		
3972				ヒメアリ	Monomorium intrudens	○	○	○
3973				カドフシアリ	Myrmecina nipponica	○	○	○
3974				シワクシケアリ	Myrmica kotokui		○	
3975				アメイロアリ	Paratrechina flavipes	○	○	○
3976				サクラアリ	Paratrechina sakurae		○	○
3977				ヒラタウロコアリ	Pyramica canina		○	○
3978				アズマオオズアリ	Pheidole fervida	○	○	○
3979				オオズアリ	Pheidole noda	○	○	○
3980				サムライアリ	Polyergus samurai	○		○
3981				トゲアリ	Polyrhachis lamellidens	○		
3982				チクシトゲアリ	Polyrhachis moesta	○	○	○
3983				ヒメハリアリ	Ponera japonica	○	○	
3984				テラニシハリアリ	Ponera scabra			○
3985				アミメアリ	Pristomyrmex pungens	○	○	○
3986				イトウカギバラアリ	Proceratium itoi			○
3987				ワタセカギバラアリ	Proceratium watasei			○
3988				モリシタカギバラアリ	Proceratium morisitai		○	
3989				イガウロコアリ	Pyramica benten		○	○
3990				トフシアリ	Solenopsis japonica			○
3991				ハヤシナガアリ	Stenamma owstoni	○		○
3992				ウロコアリ	Strumigenys lewisi	○	○	○
3993				ヒラフシアリ	Technomyrmex gibbosus	○		○
3994				オオシワアリ	Tetramorium bicarinatum			○
3995				トビイロシワアリ	Tetramorium tsushimae	○	○	○
3996				ケブカハリアリ	Pachycondyla pilosior		○	
3997				ウメマツアリ	Vollenhovia emeryi	○	○	○
3998				ハリアリ亜科の一種	Ponerinae gen. sp.		○	
3999				フタフシアリ亜科の一種	Myrmicinae gen. sp.		○	
4000				ヤマアリ亜科の一種	Formicinae gen. sp.		○	
				アリ科の一種	Formicidae gen. sp.	○	○	
4001			ドロバチ	オオフタオビドロバチ本土亜種	Anterhynchium flavomarginatum micado	○	○	○
4002				キボシトックリバチ	Eumenes fraterculus			○
4003				ミカドトックリバチ	Eumenes micado	○		○
4004				ムモントックリバチ	Eumenes rubronotatus rubronotatus			○
4005				サムライトックリバチ	Eumenes samuray		○	
4006				ミカドドロバチ	Euodynerus nipanicus nipanicus		○	
4007				オオカバフドロバチ	Orancistrocerus drewseni drewseni	○	○	○
4008				スズバチ	Oreumenes decoratus	○	○	○
4009				ナミカバフドロバチ	Pararrhynchium ornatum		○	○
4010				フカイオオドロバチ	Rhynchium quinquecinctum fukaii	○		
4011				キオビチビドロバチ	Stenodynerus frauenfeldi			○
4012			スズメバチ	ムモンホソアシナガバチ	Parapolybia indica indica	○		○
4013				ヒメホソアシナガバチ	Parapolybia varia	○	○	○
4014				フタモンアシナガバチ	Polistes chinensis antennalis	○	○	○
4015				セグロアシナガバチ	Polistes jokahamae jokahamae	○	○	○
4016				ヤマトアシナガバチ	Polistes japonicus japonicus	○	○	
4017				キボシアシナガバチ	Polistes nipponensis	○	○	○
4018				キアシナガバチ	Polistes rothneyi iwatai	○	○	○
4019				コアシナガバチ	Polistes snelleni	○		○
4020				コガタスズメバチ	Vespa analis			○
4021				モンスズメバチ	Vespa crabro			○
4022				オオスズメバチ	Vespa mandarinia	○	○	○
4023				キイロスズメバチ	Vespa simillima	○	○	○
4024				ヒメスズメバチ	Vespa ducalis	○	○	○
4025				クロスズメバチ	Vespula flaviceps			○
4026			ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ	Anoplius samariensis	○		○
4027				ヒラカタベッコウ	Aporus japonicus			○
4028				ベッコウバチ	Cyphononyx dorsalis			○
4029				オオシロフベッコウ	Episyron arrogans			○
4030				クモリトゲアシベッコウ	Priocnemis japonica			○
				Priocnemis属の一種	Priocnemis sp.			○
				ベッコウバチ科の一種	Pompilidae gen. sp.	○		○
4031			アリバチ	ヤマトアリバチモドキ	Myrmosa nigrofasciata	○	○	○
4032				ヒトホシアリバチ	Smicromyrme rufipes		○	
4033				トゲムネアリバチ	Bischoffitilla ardescens	○		○
4034				フタホシアリバチ	Neotrogaspidia pustulata	○		
				アリバチ科の一種	Mutillidae gen. sp.	○		
4035			コツチバチ	ツヤアリバチ	Methocha japonica	○		
4036				サキスジコツチバチ	Tiphia brevilineata	○		
				Tiphia属の一種	Tiphia sp.			○
				コツチバチ科の一種	Tiphiidae gen. sp.	○	○	
4037			ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ	Campsomeriella annulata annulata	○	○	○
4038				キンケハラナガツチバチ	Megacampsomeris prismatica		○	○
4039				ハラナガツチバチ	Campsomeris schulthessi	○	○	
4040				アカスジツチバチ	Scolia fascinata fascinata	○	○	○
4041				キオビツチバチ	Scolia oculata		○	○
4042			アナバチ	ニッポンツヤアナバチ	Alysson cameroni	○		
4043				サトジガバチ	Ammophila sabulosa nipponica	○		○
4044				Cerceris属の一種	Cerceris sp.			○
4045				ヤマトルリジガバチ	Chalybion japonicum	○	○	○
4046				ナミギングチ	Ectemnius continuus	○		
4047				ミカドジガバチ	Hoplammophila aemulans	○		○
4048				ヒメドロバチモドキ	Nysson trimaculatus japonicus		○	
4049				Pemphredon属の一種	Pemphredon sp.			○
4050				ツヤクモカリバチ	Pison punctifrons		○	
4051				カオキンヨコバイバチ	Psen aurifrons	○		
				Psen属の一種	Psen sp.			○

表 陸上昆虫類等確認種リスト(46)

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	H7年度	H11年度	H16年度
4052			アナバチ	アメリカジガバチ	Sceliphron caementarium			○
4053				ニッポンモンキジガバチ	Sceliphron deforme nipponicum			○
4054				ヤマトジガバチ	Trypoxylon frigidum yamatonis			○
4055				ナミジガバチモドキ	Trypoxylon petiolatum			○
				アナバチ科の一種	Sphecidae gen. sp.	○		
4056			ヒメハナバチ	アブラナマメヒメハナバチ	Andrena semirugosa brassicae	○	○	
4057				ヤヨイヒメハナバチ	Andrena hebes		○	
4058				キバナヒメハナバチ	Andrena knuthi		○	
				Andrena属の一種	Andrena sp.			○
4059				チビヒメハナバチ	Panurginus crawfordi		○	
				ヒメハナバチ科の一種	Andrenidae gen. sp.	○		
4060			コシブトハナバチ	ケブカハナバチ	Anthophora pilipes villosula	○		
4061				キオビツヤハナバチ	Ceratina flavipes			○
4062				ヤマトツヤハナバチ	Ceratina japonica	○	○	○
			コシブトハナバチ	Ceratina属の一種	Ceratina sp.			○
4063				シロスジヒゲナガハナバチ	Eucera spurcatipes	○	○	○
4064				ヒゲナガキマダラハナバチ	Nomada hakonensis		○	
4065				ダイミョウキマダラハナバチ	Nomada japonica	○	○	
4066				ニッポンキマダラハナバチ	Nomada nipponica	○		
4067				ナシモンキマダラハナバチ	Nomada pyrifera		○	
4068				コキマダラハナバチ	Nomada sheppardana okubira	○		
				Nomada属の一種	Nomada sp.			○
4069				ニッポンヒゲナガハナバチ	Eucera nipponensis	○	○	○
4070				クマバチ	Xylocopa appendiculata	○	○	○
4071			ミツバチ	ニホンミツバチ	Apis cerana japonica	○	○	○
4072				セイヨウミツバチ	Apis mellifera		○	○
4073				コマルハナバチ	Bombus ardens ardens	○	○	○
4074				トラマルハナバチ	Bombus diversus diversus	○	○	○
4075				オオマルハナバチ	Bombus hypocrita hypocrita			○
4076				クロマルハナバチ	Bombus ignitus	○	○	
				Bombus属の一種	Bombus sp.	○		
				ミツバチ科の一種	Apidae gen. sp.	○		
4077			ムカシハナバチ	アシブトムカシハナバチ	Colletes patellatus	○		○
4078				Hylaeus属の一種	Hylaeus sp.			○
4079			コハナバチ	アカガネコハナバチ	Halictus aerarius	○	○	○
4080				ホクダイコハナバチ	Lasioglossum duplex		○	○
4081				ハラナガツヤコハナバチ	Lasioglossum laeviventre	○	○	
4082				サビイロカタコハナバチ	Lasioglossum mutilum			○
4083				フタモンカタコハナバチ	Lasioglossum scitulum		○	
				Lasioglossum属の一種	Lasioglossum sp.			○
4084				コガタシロスジハナバチ	Nomia fruhstorferi	○		
4085				アオスジハナバチ	Nomia punctulata	○		
				コハナバチ科の一種	Halictidae gen. sp.	○		
4086			ハキリバチ	トモンハナバチ	Anthidium septemspinosum			○
4087				オオハキリバチ	Megachile sculpturalis		○	○
4088				ヒメハキリバチ	Megachile spissula	○		
4089				バラハキリバチ	Megachile nipponica nipponica			○
4090				ツルガハキリバチ	Megachile tsurugensis	○		
4091				ツツハナバチ	Osmia taurus			○
				ハキリバチ科の一種	Megachilidae gen. sp.	○		
出現種数			クモ綱	1目 31科 298種		179	183	199
			昆虫綱	24目402科3793種		2105	1889	2024
			合計	25目433科4091種		2284	2072	2223

※補足調査でのみ確認された種